

第4章 分析

本報告で扱った林中原Ⅱ遺跡61区・62区出土縄文時代遺物に対して、下記の自然科学分析を行った。

1. 出土黒曜石の産地分析
2. レプリカ法における土器種実圧痕の同定
3. 61区・62区出土縄文時代焼骨の分析

である。ここでは、その分析目的を述べておきたい。

1. 出土黒曜石の産地分析

林中原Ⅱ遺跡の発掘調査では、縄文時代遺構より多量の黒曜石を石材とした石器製品や剥片類が出土している。

従来、当地域の縄文時代遺跡で出土した黒曜石は信州一和田峠系とされてきた（群埋文2002）。ただしこの分析後、年数を経ており、その後黒曜石の産地に関するデータ量も増加し、また蛍光X線顕微鏡など周辺機器も格段の進歩を見ている。最近では産地の細分化や時期毎の傾向も把握されており新たな分析視点が試みられている。

分析は菅頭明日香氏（青山学院大学）、建石 徹氏（文化庁）、大工原豊氏（國學院大学）、二宮修治氏（東京学芸大学）に依頼した。分析資料は、林中原Ⅱ遺跡出土資料152点と長野原一本松遺跡出土資料8点である。主に中期後半の遺構出土資料を中心にしたが、一部後期初頭の遺構も混じる。また既報告の林中原Ⅱ51区2住と51区14住の異形石器や鉤状石器（群埋文2016）、長野原一本松95区12住出土の原石8点（群埋文2013）を加えた。また、分析資料の林中原Ⅱ61区40住出土原石や2号竪穴出土異形石器は弥生時代中期前半に帰属する遺構出土である。第3分冊において出土状態等を吟味し、帰属時期を明らかにしたい。そのため注意を要する。

分析の結果、星ヶ塔産が130点と圧倒しており、中期後半～後期初頭の関東地方の他遺跡と同様の結果が追認できた。また、原石の在り方から、星ヶ塔産黒曜石が吾妻川流域の各遺跡を経て、平野部の各遺跡に伝播されたものと推定された。

2. レプリカ法における土器種実圧痕の同定

近年の縄文時代調査研究では、中期集落においては、ダイズの存在が明白になってきている。おそらく栽培種としての大粒のダイズが発見されてきている。その多くが、土器の胎土に圧痕として残された痕跡資料であり、この圧痕資料を採取するために、レプリカ法を使用した

分析が行われている。各遺跡の分析では、ダイズ以外にもエゴマ、アズキなどの雑穀種子類の他、昆虫の圧痕も見つかっている。

林中原Ⅱ遺跡の整理作業において、61区・62区出土土器を対象に、シリコンを用いて土器の種実圧痕のレプリカを採取した。採取にあたっては、当事業団職員洞口正史氏の指導を元に、整理補助員数名があたり、50点以上のレプリカを採取した。また、61区・62区出土土器の他上ノ平Ⅰ遺跡（群埋文2017）出土土器から20点余り、三平Ⅰ遺跡出土土器から9点を選出した。

この80点以上のレプリカの分析・同定を株式会社パレオ・ラボ（佐々木由香氏、米田恭子氏、バンダリ スタルシャン氏）に委託し、23点の同定可能なレプリカが抽出され、同定、写真撮影が行われた。

その結果、上ノ平Ⅰ遺跡からは中期中葉末の土器からアズキ亜属やマメ科、中期末葉～後期初頭の土器からダイズ属の種子圧痕が確認された。林中原Ⅱ遺跡は、中期中葉の土器片からアズキ亜属、中期中葉末からダイズ属、中期後葉のダイズ属、アズキ亜属、エゴマなど、後期初頭はアカメガシワとアズキ亜属など、総計14点の種実圧痕が確認された。尚、三平Ⅰ遺跡の圧痕は種実ではなく、同定不能であった。

抽出同定できた資料はやや少ないが、林中原Ⅱ遺跡における中期後葉のダイズ圧痕は、栽培型と思われる大きさであった。

3. 61区・62区出土縄文時代焼骨の分析

前冊で報告した51区と52区では、加曽利EⅠ式古段階に比定される土坑から焼けた人骨が出土した。この事例から、集落中央の土坑群の一部が墓域として供された状況が示唆された。一方本書で扱う61区と62区では、土坑出土の焼骨が少なく、まとまった出土を示す例は61区14号土坑のみである。今回の分析では、この14号土坑を中心に住居跡出土の焼骨を併せて、榑崎修一郎氏（生物考古学研究所）に同定依頼を行った。

その結果、今回分析依頼した焼骨すべてが、人骨ではなく獣骨―カモシカの骨としての可能性が示唆された。61・62区では墓域は形成されていなかったと思われる。

第1節 林中原Ⅱ遺跡および長野原一本松遺跡出土黒曜石資料の産地分析

1. はじめに

群馬県吾妻郡長野原町林中原Ⅱ遺跡より出土した黒曜石資料について、蛍光X線分析を用いた産地分析を実施したので、その方法と得られた結果を報告する。比較資料として、同町長野原一本松遺跡より出土した黒曜石資料の産地分析も実施した。

2. 資料（試料）

産地分析に供した資料は、林中原Ⅱ遺跡より出土した黒曜石資料152点と長野原一本松遺跡より出土した黒曜石資料8点である。

林中原Ⅱ遺跡の各資料の出土遺構、器種等を表2、長野原一本松遺跡の各資料については表3に示した。林中原Ⅱ遺跡出土資料の帰属時期は、加曾利E2式期1点、加曾利E3式期116点、加曾利E4式期3点、加曾利E4～称名寺式期4点、称名寺式期2点、堀之内式期1点、縄文中期後半～後期前半11点である。弥生時代中期前半に帰属する遺構からの出土ではあるが、加曾利E3式期の所産と考えられる61区40号住出土資料13点及び同区2号竪穴出土資料1点については、上記116点とは別に扱う。長野原一本松遺跡出土資料の帰属時期は加曾利E2式～E3式（古）期（95-12号住出土）である。

3. 産地分析の方法

産地分析に用いる各元素の測定には、エネルギー分散型蛍光X線分析（非破壊法）を用いた。測定条件を以下に示す。

分析装置：セイコーインスツルメント製エネルギー分散型蛍光X線分析装置SEA-5120E、線源ターゲット：モリブデン（Mo）管球、電圧：45kV、X線照射径：φ1.8mm、測定雰囲気：大気、測定時間：180秒、定量分析の計算法：FP法、標準試料：なし

黒曜石の主成分元素であるケイ素（Si）、チタン（Ti）、アルミニウム（Al）、鉄（Fe）、マグネシウム（Mg）、カルシウム（Ca）、ナトリウム（Na）、カリウム（K）の8元素のうち、Fe、Ca、Kの3元素は、黒曜石の産地間の識別・分類に特に有効であり、産地分析の指標元素となる。筆

者らはこれら3元素と、これらと挙動に相関性のある微量成分元素であるマンガン（Mn）、ストロンチウム（Sr）、ルビジウム（Rb）を加えた6元素による検討が東日本の黒曜石の産地分析に有効であることを示してきた。本分析においても、この6元素の測定をおこなった。

測定に際しては機器に備えられたCCDカメラの画像観察により、X線照射範囲（分析範囲）をなるべく平滑かつ（原礫面等でない）新鮮な面とすることを心がけた。

産地分析のための基準資料として、関東地方周辺の代表的な黒曜石産地である栃木県高原山、長野県小深沢・男女倉・星ヶ塔・麦草峠、神奈川県畑宿、静岡県上多賀・柏峠、東京都神津島（恩馳島）、新潟県板山、山形県月山の各産地黒曜石を使用した。産地黒曜石の分析値（代表値）を表4に示した（註1）。

産地分析は、先の6元素の測定の結果をもとに、最遠距離法によるクラスター分析を実施し、分析資料（1点ずつ）と産地資料群の併合距離を検討し、産地資料と分析資料の類似性（非類似性）を検討した。クラスター分析には、IBM社製SPSS Statistics 24を用いた。

4. 産地分析の結果と考察

表5に林中原Ⅱ遺跡出土資料、表6に長野原一本松遺跡出土資料の6元素組成（岩石学の慣例に従い酸化物の形で表記）を示した。また、個々の分析資料と産地資料群の分析値をクラスター分析した結果、最も類似性の高い（非類似性の低い）産地資料との併合距離（以下、産地資料との併合距離をいう）とその産地も表5、6に示した。産地資料との併合距離が比較的小さく（0.5未満）、個々の分析値にも矛盾がないものはこれを推定産地とした。産地資料との併合距離が比較的大きい（0.5以上）ものは、KとCaの相関、RbとSrの相関、Feの濃度等を検討し、矛盾ないものは「？」を付して推定産地とした。

本分析により得られた林中原Ⅱ遺跡出土黒曜石資料の産地構成は、星ヶ塔産130点、小深沢産9点、男女倉産4点、麦草峠産1点、不明8点であった（？を付したものを含む、以下同様）。

時期別の内訳は以下の通り。加曾利E2式期は小深沢産1点。加曾利E3式期は星ヶ塔産101点、小深沢5点、男女倉産4点、不明6点。加曾利E4式期は星ヶ塔2点、麦草峠産1点。加曾利E4式～称名寺式期は星ヶ塔3点、小深沢

第4章 分析

1点。称名寺式期は星ヶ塔1点、小深沢1点。堀之内式期は星ヶ塔産1点。縄文中期後半～後期前半は星ヶ塔産10点、不明1点。弥生時代遺構ではあるが、黒曜石資料の帰属時期は加曾利E3式期と考えられる61区40号住出土資料（原石10点・石核3点）と同区2号竪穴出土資料（異形石器1点）は、星ヶ塔産12点、小深沢1点、不明1点。これらの資料を加えれば、加曾利E3式期は128点中、星ヶ塔産111点（86.7%）、小深沢産6点（4.7%）、男女倉産4点（3.1%）、不明7点（5.5%）となる。

また、比較のために分析を行った長野原一本松遺跡出土の黒曜石一括出土資料（加曾利E2式期・原石8点）の産地構成は、星ヶ塔産8点であった。

加曾利E3式期～称名寺式期に星ヶ塔産（諏訪産）黒曜石が卓越する傾向は、関東周辺の各地で認められており（藁科・東村 1987、日本考古学協会2011年度栃木大会実行委員会編 2011）、林中原Ⅱ遺跡、長野原一本松遺跡における当該期の産地構成はこの傾向とよく調和する。吾妻川流域においてもこの傾向は確認されており、近接する長野原町坪井遺跡（中期後葉）では、今回の分析結果と非常に近い分析結果が報告されている（小林 2000）。

中期後葉の時期は、群馬県西南部（碓氷川・鎭川流域）や中央の平野部では、黒曜石の出土量は非常に少ない。これに対し、吾妻川流域では多量の黒曜石が出土しており、吾妻川ルートで星ヶ塔産（諏訪産）を主体とする黒曜石が群馬地域へ流入していたと推定した（大工原 2011）。今回の分析結果もこれを追認するものである。

林中原Ⅱ遺跡13点（450.3g）、長野原一本松遺跡8点（826.6g）の黒曜石原石・石核一括出土例は、不明の1点を除く残りすべてが星ヶ塔産であることが判明したが、群馬地域ではこの2例のみである。これらは流通過程で保管のために形成されたデポの可能性が高く、これも吾妻川ルートが主たる流通ルートであったことを間接的に示すものである。なお、当期の黒曜石一括出土事例は、長野・山梨地域において多数存在していることが明らかにされている（長崎 1984、奈良・保坂 1993、村松 2012）。しかし、産地分析が行われた事例はほとんどないので、今回の分析成果は大きいと言えよう。

また、精緻な両面加工が施された特徴的な凹基無茎鏃（仮称林中原型）は13点存在するが、産地構成は星ヶ塔

産11点、小深沢産2点であり、全体の分析結果に比べ、小深沢産がやや多い傾向が認められる。分析資料数が少ないので、さらにデータを蓄積して再検討する必要がある。

謝辞

本分析を進めるにあたり、群馬県埋蔵文化財調査事業団の山口逸弘氏、麻生敏隆氏に多大なご協力を頂きました。記して御礼申し上げます。

註(1) 本分析は、従来の筆者らの分析条件（例えば、建石・三浦・村上・井上・朴・津村・二宮2011）と異なるため、各産地黒曜石の分析値（代表値）も新たな条件で測定し直したものを使用した。

引用文献

- 大工原 豊 2007「黒曜石交易システム」『縄文時代の考古学6』同成社
- 大工原 豊 2011「縄文時代における黒曜石の利用と展開—北関東の様相を中心として—」『一般社団法人日本考古学協会2011年度栃木大会研究発表資料集』日本考古学協会2011年度栃木大会実行委員会
- 小林克次 2000「黒曜石石器の原産地推定」『坪井遺跡Ⅱ』群馬県吾妻郡長野原町教育委員会
- 建石徹・三浦麻衣子・村上夏希・井上優子・朴嘉瑛・津村宏臣・二宮修治 2011「栃木県・群馬県内諸遺跡出土黒曜石の産地分析—旧石器時代・縄文時代資料を中心として—」『一般社団法人日本考古学協会2011年度栃木大会研究発表資料集』日本考古学協会2011年度栃木大会実行委員会
- 長崎元廣 1984「縄文の黒曜石貯蔵例と交易」『中部高地の考古学Ⅲ』長野県考古学会
- 奈良泰史・保坂康夫 1994「黒曜石原石格納の土器と黒曜石について」『山梨県考古学協会誌』6 山梨県考古学協会
- 日本考古学協会2011年度栃木大会実行委員会編 2011「石器時代における石材利用の地域相—黒曜石を中心として—」『一般社団法人日本考古学協会2011年度栃木大会研究発表資料集』日本考古学協会2011年度栃木大会実行委員会
- 村松佳幸 2012「山梨県における黒曜石デポについて」『山梨県考古学協会誌』21 山梨県考古学協会
- 藁科哲男・東村武信 1987「留原遺跡出土の黒曜石製遺物の石材産地分析」『留原』都道32号線留原遺跡調査会

表2 林中原Ⅱ遺跡 黒曜石産地分析試料

分析No.	遺構名	出土位置	番号	器種	形態	時期	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考	実測図
1	62区2住	覆土	37	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	17.0	10.5	2.7	0.41		○
2	62区2住	覆土	35	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	11.2	10.8	3.3	0.32	先端・片脚欠損	○
3	62区2住	覆土	40	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	14.4	11.2	2.9	0.42		○
4	62区2住	覆土	39	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	11.9	11.5	2.7	0.25	両脚欠損	○
5	62区2住	炉址	36	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	12.0	12.4	2.6	0.28	片脚残存	○
6	62区2住	覆土	42	石錐	摘み無	加曽利E3	22.0	6.5	5.7	0.78		○
7	62区2住	覆土	52	RFA		加曽利E3	13.4	8.8	4.1	0.33	石鏃未成品?	
8	62区2住	覆土	53	RFA		加曽利E3	21.5	17.5	4.7	1.39		
9	62区2住	覆土	54	RFA		加曽利E3	23.8	17.8	7.1	2.68		
10	62区2住	覆土	55	楔形石器		加曽利E3	19.9	13.8	7.7	1.79		
11	62区2住	覆土	56	RFA		加曽利E3	23.5	15.5	8.2	2.44		
12	62区9住	覆土	123	石鏃未成品	凹基無茎	加曽利E3	23.4	17.8	5.0	1.44	片脚欠損	
13	62区9住	覆土	92	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	17.6	17.5	3.7	0.75		○
14	62区9住	覆土	91	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	21.7	11.9	3.3	0.53		○
15	62区9住	覆土	124	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	11.3	15.3	3.2	0.47	先端欠損	
16	62区9住	覆土	125	石鏃未成品	凹基無茎	加曽利E3	19.7	21.1	5.2	1.33	片脚欠損	
17	62区9住	覆土	126	石鏃未成品	凹基無茎	加曽利E3	11.0	15.0	3.6	0.63	先端・片脚欠損	
18	62区9住	覆土	93	石鏃未成品		加曽利E3	25.4	17.6	8.2	2.74		○
19	62区9住	覆土	95	石鏃未成品	凹基無茎	加曽利E3	23.8	14.3	4.2	1.21	両脚欠損	○
20	62区9住	覆土	127	石鏃未成品	凹基無茎	加曽利E3	19.1	16.0	4.3	0.93	片脚欠損	
21	62区9住	覆土	128	石鏃未成品		加曽利E3	27.0	16.8	5.4	2.03		
22	62区9住	覆土	96	石錐	摘み無	加曽利E3	19.5	8.8	5.2	0.48	未成品?	○
23	62区9住	覆土	150	楔形石器		加曽利E3	23.6	14.7	8.6	2.54		
24	62区9住	覆土	151	RFA		加曽利E3	23.5	12.5	6.4	1.52	ガジリ?	
25	62区9住	覆土	98	石核A		加曽利E3	21.2	18.9	10.6	3.76		○
26	62区9住	覆土	152	石鏃未成品		加曽利E3	12.2	7.5	3.0	0.24		
27	62区9住	覆土	153	石鏃未成品		加曽利E3	13.3	9.5	2.6	0.31		
28	62区9住	覆土	154	RFA		加曽利E3	27.0	11.3	8.5	2.32	ガジリ?	
29	62区9住	覆土	155	スクレイパーA	Ⅲ	加曽利E3	27.1	10.7	5.4	1.14		
30	62区9住	覆土	156	スクレイパーA	Ⅲ	加曽利E3	37.5	15.5	8.3	3.46		
31	62区9住	覆土	157	FLA		加曽利E3	10.0	18.0	5.2	0.91		
32	62区14住	覆土	21	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	21.5	15.1	4.7	1.15	片脚欠損	○
33	62区14住	覆土	22	石鏃未成品	凹基無茎	加曽利E3	23.1	19.5	4.9	1.98	先端・片脚欠損・林中原型	○
34	62区14住	覆土	32	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	13.8	18.8	2.9	0.74	先端欠損・林中原型	
35	62区14住	覆土	33	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	16.1	11.2	2.5	0.43	両脚欠損	
36	62区14住	覆土	23	石錐	摘み無	加曽利E3	21.3	6.6	4.4	0.6	先端欠損	○
37	62区14住	覆土	24	楔形石器		加曽利E3	21.2	15.4	6.4	2.25		○
38	62区19住	覆土	35	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	21.7	12.9	2.7	0.51		○
39	62区19住	覆土	34	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	16.1	12.2	2.8	0.4	片脚欠損	○
40	62区19住	覆土	52	石鏃		加曽利E3	14.3	12.0	2.4	0.28	基部	
41	62区19住	覆土	53	石鏃		加曽利E3	15.6	13.0	2.8	0.39	基部	
42	62区19住	覆土	36	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	23.0	16.1	3.1	0.84	即縁部・林中原型	○
43	62区19住	覆土	37	石錐	摘み無	加曽利E3	16.9	6.3	3.7	0.28	基部欠損	○
44	62区19住	覆土	64	スクレイパーA	Ia	加曽利E3	49.3	22.2	6.9	6.65		
45	62区19住	覆土	60	石核A		加曽利E3	24.1	20.4	10.1	4.3		
46	62区19住	覆土	39	スクレイパーA	Ia	加曽利E3	35.3	12.6	3.2	1.34		○
47	61区9住	覆土	82	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	18.9	12.4	2.7	0.48		○
48	61区9住	覆土	81	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	17.3	15.9	3.4	0.63		○
49	61区9住	覆土	120	スクレイパーA	Ia	加曽利E3	18.2	11.8	5.2	1.05		
50	61区9住	覆土	121	スクレイパーA	Ia	加曽利E3	27.4	11.0	7.0	1.16		
51	61区9住	覆土	122	石鏃未成品	平基無茎	加曽利E3	10.9	10.9	2.9	0.29	極小石鏃	
52	61区9住	覆土	123	楔形石器		加曽利E3	13.4	8.8	5.1	0.73		
53	61区9住	覆土	124	RFA		加曽利E3	20.8	17.4	6.0	1.66		
54	61区9住	覆土	125	スクレイパーA	Ⅲ	加曽利E3	26.2	17.4	8.0	3.24		
55	61区9住	覆土	79	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	16.9	11.6	2.8	0.35		○
56	61区9住	覆土	80	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	18.1	13.7	3.1	0.54		○
57	61区9住	覆土	103	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	20.4	12.6	3.4	0.56	片脚欠損	
58	61区9住	覆土	104	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	12.9	16.6	2.2	0.42	先端欠損	
59	61区9住	覆土	105	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	11.1	12.6	2.9	0.34	先端欠損	○
60	61区9住	覆土	106	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	17.1	14.1	3.7	0.67		
61	61区9住	覆土	107	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	16.8	13.2	3.0	0.53	片脚欠損	
62	61区9住	覆土	84	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	21.4	19.9	4.2	1.35	先端欠損	
63	61区9住	覆土	109	石鏃	凹基無茎	加曽利E3	9.1	16.1	2.6	0.24	先端欠損	
64	61区9住	覆土	110	石鏃未成品	凹基無茎	加曽利E3	12.3	15.8	4.2	0.75		
65	61区9住	覆土	85	石鏃未成品		加曽利E3	24.8	19.4	7.9	3.41		
66	61区9住	覆土	111	石鏃未成品	凹基無茎	加曽利E3	26.1	15.7	5.7	2.09		○
67	61区9住	覆土	116	石鏃未成品		加曽利E3	18.9	18.9	3.8	1.1		
68	61区9住	覆土	112	石鏃未成品	凹基無茎	加曽利E3	19.2	21.3	2.6	1.08	林中原型	
69	61区9住	覆土	113	石鏃未成品		加曽利E3	15.3	13.7	4.9	0.85		

第4章 分析

分析No.	遺構名	出土位置	番号	器種	形態	時期	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考	実測図
70	61区9住	覆土	114	石鏃未成品		加曽利E3	17.6	13.1	6.7	1.07		
71	61区9住	覆土	115	石鏃		加曽利E3	9.6	7.0	2.3	0.1	先端部残存	
72	61区9住	覆土	87	石鏃	摘み無	加曽利E3	24.9	8.3	5.2	0.64		○
73	61区9住	覆土	117	石鏃	摘み無	加曽利E3	18.0	7.3	4.0	0.55	基部欠損	
74	61区9住	覆土	86	石鏃	摘み無	加曽利E3	17.3	7.7	4.8	0.56		○
75	61区12住	覆土	69	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	19.9	15.0	4.1	0.96		
76	61区12住	覆土	88	RFA		加曽利E3	18.1	9.9	6.1	0.79		
77	61区12住	覆土	56	スクレイパーA	Ia	加曽利E3	14.3	20.7	2.9	0.79		○
78	61区12住	覆土	57	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	19.6	14.7	2.5	0.55		
79	61区12住	覆土	71	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	11.3	17.8	3.0	0.49		
80	61区12住	覆土	72	石鏃未成品	凹基無莖	加曽利E3	14.7	13.0	4.3	0.77		
81	61区12住	覆土	73	石鏃未成品		加曽利E3	18.7	15.4	3.5	0.87		
82	61区12住	覆土	74	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	15.7	13.2	2.7	0.48	先端・片脚欠損・林中原型	
83	61区12住	覆土	58	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	18.3	15.1	2.9	0.62	先端・片脚欠損・林中原型	○
84	61区12住	覆土	75	石鏃未成品	凹基無莖	加曽利E3	20.3	18.9	3.9	1.36	先端欠損・林中原型	
85	61区12住	覆土	76	石鏃未成品		加曽利E3	15.0	17.4	3.6	0.86	先端・基部欠損・林中原型	
86	61区12住	覆土	77	石鏃未成品		加曽利E3	18.7	17.8	6.7	2.11		
87	61区12住	覆土	60	石鏃未成品		加曽利E3	19.8	17.2	6.7	1.88		○
88	61区12住	覆土	78	石鏃未成品		加曽利E3	14.2	10.3	1.7	0.25	半分欠損	
89	61区12住	覆土	61	石鏃	摘み無	加曽利E3	20.9	10.2	5.3	1.05		○
90	61区12住	覆土	62	石鏃	摘み無	加曽利E3	21.4	5.8	3.3	0.36		○
91	61区12住	覆土	85	スクレイパーA	Ia	加曽利E3	17.2	18.2	3.8	1.11	石鏃ブランク	
92	61区32住	S-9	79	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	18.3	12.7	3.1	0.69		○
93	61区32住	S-10	82	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	29.3	22.9	4.0	1.34	大形・優品	○
94	61区32住	覆土	111	FLA		加曽利E3	48.5	18.0	9.7	5.6	ガジリ	
95	61区32住	覆土	112	RFA		加曽利E3	24.5	15.7	4.7	1.17		
96	61区32住	覆土	108	石核A		加曽利E3	22.9	18.1	7.1	2.64		
97	61区32住	覆土	109	石鏃	摘み無	加曽利E3	15.8	7.8	4.9	0.4		
98	61区32住	覆土	110	FLA		加曽利E3	12.0	10.3	2.1	0.19		
99	61区32住	覆土	78	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	15.5	11.6	3.7	0.51		○
100	61区32住	覆土	99	石鏃未成品	凹基無莖	加曽利E3	20.5	11.4	3.1	0.57		
101	61区32住	覆土	100	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	10.9	17.1	2.8	0.46	先端欠損	
102	61区32住	覆土	101	石鏃未成品		加曽利E3	17.3	16.2	2.8	0.74	基部欠損	
103	61区32住	覆土	102	石鏃未成品		加曽利E3	12.6	13.4	2.2	0.38	基部欠損	
104	61区32住	覆土	81	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	19.3	15.6	2.8	0.82	先端・片脚欠損	○
105	61区32住	覆土	83	石鏃未成品		加曽利E3	23.5	20.4	9.0	2.88		○
106	61区32住	覆土	103	石核A		加曽利E3	20.4	22.6	7.1	2.82		
107	61区32住	覆土	106	FLA		加曽利E3	18.5	16.4	5.2	1.36	両極剥片	
108	61区26住	覆土	17	石鏃		加曽利E4	15.3	10.1	3.0	0.33	先端部残存	
109	61区26住	覆土	13	スクレイパーA	Ia	加曽利E4	14.7	15.7	5.0	1.07		○
110	61区26住	覆土	16	FLA		加曽利E4	18.0	18.1	6.0	2.08		
111	61区30住	覆土	25	石鏃	凹基無莖	加曽利E4～称名寺	25.8	20.1	2.9	1.03	林中原型	○
112	61区30住	覆土	24	石鏃		加曽利E4～称名寺	14.3	10.1	3.4	0.36	基部欠損	
113	61区30住	覆土	25	石鏃		加曽利E4～称名寺	18.7	13.6	2.6	0.54	基部欠損	
114	61区30住	覆土	26	石鏃	平基無莖	加曽利E4～称名寺	14.2	9.0	2.3	0.26	基部欠損	
115	61区1住	Pit-5	14	スクレイパーA	Ia	加曽利E3	22.3	16.0	6.7	2.05	石鏃ブランク?	○
116	61区2住	掘り方	51	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	26.5	15.9	3.2	0.83	片脚欠損・林中原型	○
117	61区11住	覆土	14	スクレイパーA	Ia	称名寺	21.3	21.3	4.5	1.67	石鏃ブランク?	○
118	61区22住	覆土	23	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	21.7	16.1	3.3	0.82		○
119	61区24住	覆土	37	石鏃	凹基無莖	称名寺(加曽利E1・E3)	23.2	14.4	2.6	0.67		○
120	61区28住	覆土	6	スクレイパーA	Ia	加曽利E3	11.7	17.7	3.1	0.79	石鏃未成品?	○
121	61区34住	覆土	7	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	22.5	16.2	3.3	0.76		○
122	61区38住	覆土	7	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	24.2	16.7	3.3	0.87		○
123	61区39住	覆土	22	石鏃	凹基無莖	加曽利E3	24.1	16.9	3.2	1.14	林中原型	○
124	61区45住	覆土	9	石鏃未成品	平基無莖	加曽利E3	19.4	20.3	4.2	1.54	林中原型	○
125	61区1列石	T-7	51	石鏃未成品	平基無莖	堀之内(中期を多く含む)	21.0	19.7	3.6	1.52	林中原型	○
126	61区2タテ			異形石器		加曽利E3(弥生中期前半)	40.9	17.8	6.4	3.02	被熱	○
127	62区遺構外	B-7	97	鉤状石器		中期後半～後期前半	27.9	25.9	11.0	4.58		○
128	51区2住	覆土	15-17	異形石器		加曽利E3	30.9	21.9	5.2	1.98	既報告(第17図)	○
129	51区14住	覆土	67-19	鉤状石器		加曽利E2(郷土)	65.9	29.1	10.9	12.65	既報告(第167図)	○
130	61区遺構外	S9	138	原石A	角礫・漆黒	加曽利E3(弥生中期前半)	40.8	48.6	34.8	68.35	40住	○
131	61区遺構外	S9	139	原石A	角礫・漆黒	加曽利E3(弥生中期前半)	36.3	46.0	27.4	33.23	40住	○
132	61区遺構外	S9	140	原石A	角礫・漆黒	加曽利E3(弥生中期前半)	37.9	41.6	30.5	40.63	40住	○
133	61区遺構外	S9	141	原石A	角礫・漆黒	加曽利E3(弥生中期前半)	32.2	65.8	18.4	30.49	40住	○
134	61区遺構外	S9	142	石核A		加曽利E3(弥生中期前半)	19.2	35.0	18.8	10.64	40住	○
135	61区遺構外	S9	143	石核A		加曽利E3(弥生中期前半)	17.1	22.7	20.1	6.34	40住	○
136	61区遺構外	覆土	144	原石A	角礫・漆黒	加曽利E3(弥生中期前半)	37.4	49.0	24.6	47.9	40住	○
137	61区遺構外	覆土	145	原石A	角礫・漆黒	加曽利E3(弥生中期前半)	40.7	53.4	26.0	48.65	40住	○
138	61区遺構外	覆土	146	原石A	角礫・漆黒	加曽利E3(弥生中期前半)	30.3	45.4	29.3	40.15	40住	○

分析No.	遺構名	出土位置	番号	器種	形態	時期	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考	実測図
139	61区遺構外	覆土	147	原石A	角礫・漆黒	加曽利E3(弥生中期前半)	26.3	49.2	27.1	36.54	40住	○
140	61区遺構外	覆土	148	原石A	角礫・漆黒	加曽利E3(弥生中期前半)	31.6	51.3	26.6	43.16	40住	○
141	61区遺構外	覆土	149	原石A	角礫・漆黒	加曽利E3(弥生中期前半)	28.7	68.6	17.7	32.53	40住	○
142	61区遺構外	覆土	150	石核A		加曽利E3(弥生中期前半)	25.6	39.8	13.9	11.73	40住	○
143	61区遺構外	W-7	137	原石A	角礫・漆黒	中期後半～後期前半	32.0	45.4	19.1	34.23		○
144	61区遺構外	X-6	136	原石A	角礫・漆黒	中期後半～後期前半	43.4	46.7	23.6	37.55		○
145	62区8住	覆土	29	石核A		中期後半～後期前半	32.1	36.0	13.1	16.52		○
146	62区10住	覆土	20	石核A		中期後半～後期前半	34.6	41.7	16.8	20.25		○
147	62区15住	S-15	61	原石A	角礫・漆黒	中期後半～後期前半	41.4	48.9	31.0	53.58		○
148	62区2掘立	覆土	15	原石A	角礫・漆黒	中期後半～後期前半	34.1	46.1	29.5	42.8	33坑	○
149	62区2掘立	覆土	16	原石A	角礫・漆黒	中期後半～後期前半	50.0	32.1	17.7	28.1	33坑	○
150	62区2掘立	覆土	17	原石A	角礫・漆黒	中期後半～後期前半	52.4	29.4	20.3	24.02	33坑	○
151	62区遺構外	B-4	99	原石A	角礫・漆黒	中期後半～後期前半	29.7	46.3	14.8	20.05		○
152	62区遺構外	F-5	98	石核A		中期後半～後期前半	26.4	42.8	16.7	12.63		○

表3 長野原一本松遺跡 黒曜石産地分析試料(比較検用)

分析No.	遺構名	出土位置	番号	器種	形態	時期	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考	実測図
1	95-12住	P-5上層	S-18	原石A	角礫・漆黒	加曽利E2～E3古	66.1	57.1	29.2	99.3	報告書99図43	○
2	95-12住	P-5上層	S-19	原石A	角礫・漆黒	加曽利E2～E3古	72.0	69.6	35.3	162.16	報告書99図37	○
3	95-12住	P-5上層	S-20	原石A	角礫・漆黒	加曽利E2～E3古	70.1	53.8	17.7	80.76	報告書99図42	○
4	95-12住	P-5上層	S-21	原石A	角礫・漆黒	加曽利E2～E3古	101.4	42.3	23.0	87.73	報告書99図41	○
5	95-12住	P-5上層	S-22	原石A	角礫・漆黒	加曽利E2～E3古	88.7	52.5	23.9	95.46	報告書99図39	○
6	95-12住	P-5上層	S-23	原石A	角礫・漆黒	加曽利E2～E3古	81.8	41.8	22.6	104.92	報告書99図38	○
7	95-12住	P-5上層	S-24	原石A	角礫・漆黒	加曽利E2～E3古	71.8	40.6	26.6	80.78	報告書99図40	○
8	95-12住	P-5上層	S-25	原石A	角礫・漆黒	加曽利E2～E3古	87.3	38.8	29.2	115.48	報告書99図36	○

表4 関東地方周辺の主な産地黒曜石の6元素(6元素の酸化物の総和を100としたときの百分率)

都県	産地	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb ₂ O	K ₂ O
長野	高原山	2.2	45.8	0.7	22.3	0.7	28.4
	小深沢	4.5	26.0	0.1	14.1	2.1	53.3
	星ヶ塔	3.6	25.3	0.3	13.9	1.1	55.8
	男女倉	3.1	29.8	0.5	16.3	1.0	49.2
	麦草峠	2.3	31.4	0.9	18.0	0.7	46.7
神奈川	畑宿	3.2	59.0	1.1	24.6	0.1	12.1
	上多賀	2.7	50.3	1.1	26.2	0.2	19.5
静岡	柏峠	2.3	48.1	0.8	24.4	0.4	24.0
	板山	3.6	26.7	0.4	18.5	1.2	49.7
新潟	月山	5.0	28.2	0.7	17.6	0.9	47.7
東京	神津島	3.8	32.7	0.6	20.6	0.6	41.6

第4章 分析

表5 林中原Ⅱ遺跡出土黒曜石資料の産地分析結果（6元素の酸化物の総和を100としたときの百分率）

分析No.	遺構	番号	器種	時期	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb2O	K2O	産地	併合距離	備考
1	62区2号住	37	石鏃	加曽利E3新	3.2	25.4	0.2	14.6	1.1	55.4	星ヶ塔	0.321	
2	62区2号住	35	石鏃	加曽利E3新	2.9	24.7	0.2	13.1	1.0	58.1	星ヶ塔?	0.828	先端・片脚欠損
3	62区2号住	40	石鏃	加曽利E3新	3.9	25.3	0.4	14.9	1.1	54.5	星ヶ塔	0.214	
4	62区2号住	39	石鏃	加曽利E3新	3.2	24.5	0.2	14.1	1.0	57.0	星ヶ塔	0.354	両脚欠損
5	62区2号住	36	石鏃	加曽利E3新	3.4	25.7	0.3	14.9	1.2	54.6	星ヶ塔	0.179	片脚残存
6	62区2号住	42	石鏃	加曽利E3新	3.5	25.3	0.4	15.9	1.1	53.9	星ヶ塔	0.314	
7	62区2号住	52	R F	加曽利E3新	3.4	24.6	0.4	15.8	1.0	54.8	星ヶ塔	0.389	石鏃未成品?
8	62区2号住	53	R F	加曽利E3新	3.6	24.9	0.4	15.3	1.2	54.7	星ヶ塔	0.204	
9	62区2号住	54	R F	加曽利E3新	3.4	25.9	0.2	14.0	1.2	55.4	星ヶ塔	0.180	
10	62区2号住	55	R F	加曽利E3新	3.5	24.7	0.4	14.3	1.0	56.2	星ヶ塔	0.095	
11	62区2号住	56	R F	加曽利E3新	3.2	24.6	0.3	15.1	1.1	55.8	星ヶ塔	0.358	
12	62区9号住	123	石鏃	加曽利E3	3.8	23.9	0.3	14.1	1.0	56.8	星ヶ塔	0.096	片脚欠損
13	62区9号住	92	石鏃	加曽利E3	3.3	25.6	0.3	15.5	1.2	54.2	星ヶ塔	0.313	
14	62区9号住	91	石鏃	加曽利E3	4.0	25.2	0.4	13.6	1.1	55.7	星ヶ塔	0.224	
15	62区9号住	124	石鏃	加曽利E3	3.6	25.6	0.3	14.3	1.2	55.0	星ヶ塔	0.055	先端欠損
16	62区9号住	125	石鏃	加曽利E3	3.4	25.5	0.3	14.1	1.0	55.8	星ヶ塔	0.147	片脚欠損
17	62区9号住	126	石鏃	加曽利E3	3.3	24.8	0.3	16.0	1.1	54.5	星ヶ塔	0.397	先端・片脚欠損
18	62区9号住	93	石鏃	加曽利E3	3.9	25.6	0.3	14.4	1.1	54.9	星ヶ塔	0.086	
19	62区9号住	95	石鏃	加曽利E3	3.1	30.8	0.5	16.0	1.0	48.7	男女倉	0.035	両脚欠損
20	62区9号住	127	石鏃	加曽利E3	4.9	26.3	0.1	14.1	2.0	52.7	小深沢	0.136	片脚欠損
21	62区9号住	128	石鏃	加曽利E3	3.2	24.9	0.4	15.8	1.1	54.6	不明		
22	62区9号住	96	石鏃	加曽利E3	3.3	25.1	0.3	16.5	1.0	53.8	不明		未成品?
23	62区9号住	150	R F	加曽利E3	3.9	24.2	0.3	14.4	1.1	56.1	星ヶ塔	0.086	
24	62区9号住	151	R F	加曽利E3	3.8	25.4	0.4	13.1	1.1	56.2	星ヶ塔	0.153	ガジリ?
25	62区9号住	98	R F (楔?)	加曽利E3	3.3	24.8	0.3	14.7	1.1	55.8	星ヶ塔	0.181	
26	62区9号住	152	R F	加曽利E3	3.0	25.3	0.2	15.1	1.0	55.4	星ヶ塔?	0.658	
27	62区9号住	153	R F	加曽利E3	4.0	24.5	0.2	15.5	1.1	54.7	星ヶ塔	0.375	
28	62区9号住	154	R F	加曽利E3	3.9	25.7	0.4	13.4	1.1	55.6	星ヶ塔	0.118	ガジリ?
29	62区9号住	155	R F	加曽利E3	3.8	25.4	0.2	14.7	1.1	54.9	星ヶ塔	0.125	
30	62区9号住	156	R F	加曽利E3	4.1	26.2	0.0	13.2	2.2	54.4	小深沢	0.244	
31	62区9号住	157	R F	加曽利E3	3.7	24.1	0.3	14.3	1.1	56.4	星ヶ塔	0.035	
32	62区14号住	21	石鏃	加曽利E3	3.6	24.9	0.3	14.8	1.1	55.3	星ヶ塔	0.052	片脚欠損
33	62区14号住	22	石鏃	加曽利E3	4.6	25.7	0.0	13.7	2.1	53.9	小深沢	0.043	先端・片脚欠損・林中原型
34	62区14号住	32	石鏃	加曽利E3	3.0	21.8	0.3	13.9	0.9	60.1	星ヶ塔?	0.732	先端欠損・林中原型
35	62区14号住	33	石鏃	加曽利E3	3.7	23.4	0.4	15.6	1.1	55.9	星ヶ塔	0.234	両脚欠損
36	62区14号住	23	石鏃	加曽利E3	3.3	23.3	0.3	12.1	1.0	59.9	星ヶ塔	0.410	先端欠損
37	62区14号住	24	石鏃未製品	加曽利E3	3.5	25.5	0.3	15.1	1.0	54.7	星ヶ塔	0.159	
38	62区19号住	35	石鏃	加曽利E3	3.0	24.8	0.2	15.6	1.2	55.2	星ヶ塔?	0.833	
39	62区19号住	34	石鏃	加曽利E3	3.7	25.3	0.3	15.1	1.1	54.6	星ヶ塔	0.090	片脚欠損
40	62区19号住	52	石鏃	加曽利E3	3.6	26.0	0.3	14.3	1.1	54.8	星ヶ塔	0.028	基部
41	62区19号住	53	石鏃	加曽利E3	3.4	26.5	0.3	12.1	1.0	56.7	星ヶ塔	0.246	基部
42	62区19号住	36	石鏃	加曽利E3	3.6	24.7	0.4	14.0	1.1	56.2	星ヶ塔	0.126	即縁部・林中原型
43	62区19号住	37	石鏃	加曽利E3	3.7	25.7	0.3	14.3	1.2	54.8	星ヶ塔	0.063	基部欠損
44	62区19号住	64	U F	加曽利E3	3.5	23.5	0.4	15.9	1.1	55.6	星ヶ塔	0.285	
45	62区19号住	60	R F	加曽利E3	3.4	24.5	0.3	13.4	1.1	57.4	星ヶ塔	0.100	
46	62区19号住	39	スクレイパー	加曽利E3	3.4	25.7	0.2	13.5	1.2	56.0	星ヶ塔	0.249	
47	61区9号住	82	石鏃	加曽利E3	3.6	25.3	0.3	15.2	1.2	54.4	星ヶ塔	0.167	
48	61区9号住	81	石鏃	加曽利E3	3.6	25.7	0.3	13.2	1.1	56.2	星ヶ塔	0.046	
49	61区9号住	120	R F	加曽利E3	3.6	24.5	0.3	14.2	1.2	56.2	星ヶ塔	0.057	
50	61区9号住	121	R F	加曽利E3	3.6	25.2	0.3	14.9	1.1	55.0	星ヶ塔	0.075	
51	61区9号住	122	R F	加曽利E3	3.8	27.7	0.3	14.4	1.1	52.7	星ヶ塔	0.128	極小石鏃
52	61区9号住	123	R F	加曽利E3	3.3	22.8	0.2	12.9	1.0	59.8	星ヶ塔	0.462	
53	61区9号住	124	R F	加曽利E3	3.4	24.0	0.3	18.2	0.9	53.2	不明		
54	61区9号住	125	R F	加曽利E3	2.9	20.8	0.4	12.2	1.0	62.8	星ヶ塔?	3.556	
55	61区9号住	79	石鏃	加曽利E3	3.8	26.0	0.3	15.3	1.1	53.6	星ヶ塔	0.163	
56	61区9号住	80	石鏃	加曽利E3	3.6	24.8	0.4	14.9	1.1	55.2	星ヶ塔	0.153	
57	61区9号住	103	石鏃	加曽利E3	3.5	25.2	0.3	15.3	1.1	54.5	星ヶ塔	0.138	片脚欠損
58	61区9号住	104	石鏃	加曽利E3	3.7	23.6	0.2	13.4	1.0	58.1	星ヶ塔	0.276	先端欠損
59	61区9号住	105	石鏃	加曽利E3	3.8	22.4	0.0	12.8	1.8	59.3	小深沢	1.201	先端欠損
60	61区9号住	106	石鏃	加曽利E3	4.0	26.2	0.3	14.5	1.2	53.9	星ヶ塔	0.224	
61	61区9号住	107	石鏃	加曽利E3	3.4	25.1	0.4	16.5	1.1	53.5	不明		片脚欠損
62	61区9号住	84	石鏃	加曽利E3	3.7	24.7	0.3	14.4	1.1	55.8	星ヶ塔	0.028	先端欠損
63	61区9号住	109	石鏃	加曽利E3	3.6	25.2	0.3	15.1	1.0	54.9	星ヶ塔	0.165	先端欠損
64	61区9号住	110	石鏃	加曽利E3	3.6	25.0	0.3	15.8	1.1	54.4	星ヶ塔	0.221	
65	61区9号住	85	石鏃	加曽利E3	3.5	24.7	0.3	14.9	1.1	55.4	星ヶ塔	0.072	
66	61区9号住	111	石鏃	加曽利E3	3.3	30.8	0.5	15.6	1.2	48.6	男女倉	0.138	
67	61区9号住	116	石鏃未製品	加曽利E3	3.8	25.0	0.3	15.0	1.1	54.9	星ヶ塔	0.106	
68	61区9号住	112	石鏃	加曽利E3	4.0	25.1	0.3	15.0	1.1	54.6	星ヶ塔	0.216	林中原型

第1節 林中原Ⅱ遺跡および長野原一本松遺跡

出土黒曜石資料の産地分析

分析No.	遺構	番号	器種	時期	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb2O	K2O	産地	併合距離	備考
69	61区9号住	113	石鏃	加曽利E3	4.0	26.6	0.2	15.4	1.1	52.7	星ヶ塔	0.342	
70	61区9号住	114	石鏃	加曽利E3	4.0	25.4	0.3	16.9	1.1	52.3	不明		
71	61区9号住	115	石鏃	加曽利E3	3.7	24.9	0.3	15.8	1.1	54.2	星ヶ塔	0.223	先端部残存
72	61区9号住	87	石鏃	加曽利E3	3.6	24.8	0.3	15.7	1.0	54.5	星ヶ塔	0.206	
73	61区9号住	117	石鏃	加曽利E3	3.3	23.8	0.3	16.1	1.1	55.4	星ヶ塔	0.420	基部欠損
74	61区9号住	86	石鏃	加曽利E3	3.4	24.6	0.2	15.9	1.0	54.8	星ヶ塔	0.364	
75	61区12号住	69	石鏃	加曽利E3	3.3	25.0	0.2	14.9	1.1	55.5	星ヶ塔	0.213	
76	61区12号住	88	R F	加曽利E3	3.6	25.4	0.3	14.2	1.1	55.5	星ヶ塔	0.014	
77	61区12号住	56	石鏃	加曽利E3	3.4	25.3	0.2	14.3	1.0	55.8	星ヶ塔	0.146	
78	61区12号住	57	石鏃未製品	加曽利E3	3.9	24.5	0.3	15.3	1.0	55.0	星ヶ塔	0.264	
79	61区12号住	71	石鏃	加曽利E3	2.9	26.6	0.4	13.3	1.3	55.5	星ヶ塔?	0.819	
80	61区12号住	72	石鏃	加曽利E3	4.0	25.5	0.3	14.2	1.1	54.9	星ヶ塔	0.200	
81	61区12号住	73	石鏃	加曽利E3	3.6	24.5	0.3	15.0	1.0	55.6	星ヶ塔	0.079	
82	61区12号住	74	石鏃	加曽利E3	3.7	25.1	0.4	14.3	1.1	55.5	星ヶ塔	0.037	先端・片脚欠損・林中原型
83	61区12号住	58	石鏃	加曽利E3	3.9	25.4	0.3	13.5	1.1	55.8	星ヶ塔	0.110	先端・片脚欠損・林中原型
84	61区12号住	75	石鏃	加曽利E3	2.6	25.6	0.3	16.1	1.1	54.5	星ヶ塔?	1.965	先端欠損・林中原型
85	61区12号住	76	石鏃	加曽利E3	4.0	25.6	0.3	14.9	1.1	54.2	星ヶ塔	0.214	先端・基部欠損・林中原型
86	61区12号住	77	石鏃	加曽利E3	3.5	25.5	0.3	15.1	1.1	54.6	星ヶ塔	0.142	
87	61区12号住	60	石鏃未製品	加曽利E3	3.7	25.3	0.4	14.5	1.2	55.0	星ヶ塔	0.105	
88	61区12号住	78	石鏃	加曽利E3	3.3	28.7	0.2	15.1	1.3	51.4	星ヶ塔?	0.644	半分欠損
89	61区12号住	61	石鏃	加曽利E3	3.7	24.7	0.3	15.2	1.0	55.0	星ヶ塔	0.136	
90	61区12号住	62	石鏃	加曽利E3	3.6	24.4	0.2	16.2	1.1	54.5	星ヶ塔	0.333	
91	61区12号住	85	スクレイパー	加曽利E3	3.8	26.5	0.3	14.2	1.1	54.2	星ヶ塔	0.071	石鏃ブランク
92	61区32号住	79	石鏃	加曽利E3	3.4	25.0	0.3	15.8	1.0	54.5	星ヶ塔	0.362	
93	61区32号住	82	石鏃	加曽利E3	3.8	26.9	0.3	14.3	1.1	53.7	星ヶ塔	0.084	大形・優品
94	61区32号住	111	U F	加曽利E3	4.0	26.4	0.3	13.2	1.1	55.1	星ヶ塔	0.184	ガジリ
95	61区32号住	112	U F	加曽利E3	3.9	25.6	0.4	14.4	1.1	54.7	星ヶ塔	0.130	
96	61区32号住	108	R F	加曽利E3	3.3	29.2	0.5	16.9	1.2	48.9	男女倉	0.166	
97	61区32号住	109	R F	加曽利E3	3.2	25.0	0.2	14.3	1.1	56.2	星ヶ塔	0.352	
98	61区32号住	110	R F	加曽利E3	4.0	24.5	0.2	14.6	1.1	55.5	星ヶ塔	0.345	
99	61区32号住	78	石鏃	加曽利E3	3.3	25.9	0.3	15.2	1.1	54.2	星ヶ塔	0.243	
100	61区32号住	99	石鏃	加曽利E3	3.3	24.5	0.3	16.7	1.1	54.1	不明		
101	61区32号住	100	石鏃	加曽利E3	3.9	25.6	0.4	14.5	1.2	54.5	星ヶ塔	0.170	先端欠損
102	61区32号住	101	石鏃	加曽利E3	3.2	24.8	0.3	14.2	1.2	56.3	星ヶ塔	0.247	基部欠損
103	61区32号住	102	石鏃	加曽利E3	3.1	30.2	0.2	14.4	1.5	50.7	星ヶ塔?	1.204	基部欠損
104	61区32号住	81	石鏃	加曽利E3	3.7	25.5	0.3	15.2	1.1	54.2	星ヶ塔	0.118	先端・片脚欠損
105	61区32号住	83	石鏃	加曽利E3	3.7	25.0	0.3	15.3	1.1	54.6	星ヶ塔	0.138	
106	61区32号住	103	石鏃	加曽利E3	2.6	30.4	0.5	16.3	1.0	49.2	男女倉	0.341	
107	61区32号住	106	スクレイパー	加曽利E3	3.5	24.6	0.3	14.8	1.0	55.9	星ヶ塔	0.117	両極剥片
108	61区26号住	17	R F	加曽利E4	3.7	24.6	0.3	15.3	1.2	55.0	星ヶ塔	0.121	先端部残存
109	61区26号住	13	スクレイパー	加曽利E4	3.8	25.5	0.2	13.5	1.1	56.0	星ヶ塔	0.065	
110	61区26号住	16	スクレイパー	加曽利E4	2.3	33.7	1.0	18.9	0.7	43.4	麦草峠	0.242	
111	61区30号住	25	石鏃	加曽利E4～称名寺	4.4	25.0	0.0	14.5	2.0	54.1	小深沢	0.052	林中原型
112	61区30号住	24	石鏃	加曽利E4～称名寺	2.4	25.5	0.2	15.5	1.1	55.3	星ヶ塔?	2.538	基部欠損
113	61区30号住	25	石鏃	加曽利E4～称名寺	3.6	24.9	0.4	14.3	1.1	55.7	星ヶ塔	0.088	基部欠損
114	61区30号住	26	石鏃	加曽利E4～称名寺	3.8	24.7	0.3	14.6	1.1	55.4	星ヶ塔	0.067	基部欠損
115	61区1号住	14	スクレイパー	加曽利E3	3.5	25.7	0.3	14.5	1.2	54.8	星ヶ塔	0.052	石鏃ブランク?
116	61区2号住	51	石鏃	加曽利E3	3.5	24.9	0.4	14.8	1.1	55.4	星ヶ塔	0.088	片脚欠損・林中原型
117	61区11号住	14	石鏃未製品	称名寺	3.5	25.0	0.2	14.9	1.1	55.3	星ヶ塔	0.113	石鏃ブランク?
118	61区22号住	23	石鏃	加曽利E3	3.2	25.7	0.3	15.3	1.1	54.3	星ヶ塔	0.329	
119	61区24号住	37	石鏃	称名寺	4.5	25.8	0.0	14.4	2.2	53.1	小深沢	0.064	
120	61区28号住	6	石鏃	加曽利E3	4.1	25.9	0.0	13.2	2.0	54.7	小深沢	0.315	石鏃未成品?
121	61区34号住	7	石鏃	加曽利E3	3.3	25.5	0.3	14.0	1.1	55.9	星ヶ塔	0.135	
122	61区38号住	7	石鏃	加曽利E3	3.9	26.3	0.3	14.6	1.1	53.7	星ヶ塔	0.167	
123	61区39号住	22	石鏃	加曽利E3	3.6	25.7	0.2	13.1	1.1	56.2	星ヶ塔	0.087	林中原型
124	61区45号住	9	石鏃未製品	加曽利E3	3.5	25.0	0.2	15.3	1.3	54.7	星ヶ塔	0.257	林中原型
125	61区1列	51	石鏃	堀之内	3.7	24.8	0.3	16.5	1.1	53.7	星ヶ塔	0.402	林中原型
126	61区2タテ		異形石器	弥生遺構(加E3)	4.6	25.6	0.0	14.4	2.2	53.2	小深沢	0.046	被熱
127	62区遺構外	97	鉤状石器	中期後半～後期前半	3.2	24.6	0.3	17.0	1.2	53.7	不明		
128	51区2号住	15-17	異形石器	加曽利E3	3.4	24.9	0.3	14.8	1.0	55.6	星ヶ塔	0.138	既報告(第17図)
129	51区14号住	67-19	鉤状石器	加曽利E2	4.4	26.3	0.0	13.7	2.0	53.6	小深沢	0.031	既報告(第167図)
130	61区遺構外	138	原石A	弥生遺構(加E3)	3.2	24.7	0.3	17.9	1.1	52.8	不明		
131	61区遺構外	139	原石A	弥生遺構(加E3)	3.8	25.8	0.3	13.4	1.1	55.5	星ヶ塔	0.067	40住
132	61区遺構外	140	原石A	弥生遺構(加E3)	3.7	24.7	0.5	15.2	1.1	54.9	星ヶ塔	0.363	40住
133	61区遺構外	141	原石A	弥生遺構(加E3)	3.7	26.4	0.2	14.3	1.1	54.4	星ヶ塔	0.085	40住
134	61区遺構外	142	石核A	弥生遺構(加E3)	3.7	25.6	0.3	13.3	1.0	56.1	星ヶ塔	0.054	40住
135	61区遺構外	143	石核A	弥生遺構(加E3)	3.3	24.8	0.3	15.4	1.0	55.3	星ヶ塔	0.318	40住
136	61区遺構外	144	原石A	弥生遺構(加E3)	3.4	26.1	0.3	14.3	1.1	54.9	星ヶ塔	0.101	40住
137	61区遺構外	145	原石A	弥生遺構(加E3)	3.6	25.3	0.3	14.2	1.0	55.6	星ヶ塔	0.050	40住

第4章 分析

分析No.	遺構	番号	器種	時期	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb2O	K2O	産地	併合距離	備考
138	61区遺構外	146	原石A	弥生遺構(加E3)	3.5	25.4	0.4	14.0	1.1	55.7	星ヶ塔	0.040	40住
139	61区遺構外	147	原石A	弥生遺構(加E3)	3.8	27.2	0.3	13.1	1.1	54.5	星ヶ塔	0.113	40住
140	61区遺構外	148	原石A	弥生遺構(加E3)	3.7	25.7	0.3	15.1	1.0	54.3	星ヶ塔	0.102	40住
141	61区遺構外	149	原石A	弥生遺構(加E3)	3.5	26.5	0.3	14.2	1.2	54.3	星ヶ塔	0.091	40住
142	61区遺構外	150	石核A	弥生遺構(加E3)	3.3	25.1	0.3	14.2	1.1	56.0	星ヶ塔	0.132	40住
143	61区遺構外	137	原石A	中期後半～後期前半	3.5	26.4	0.3	13.3	1.3	55.1	星ヶ塔	0.245	
144	61区遺構外	136	原石A	中期後半～後期前半	3.7	25.0	0.3	14.6	1.1	55.4	星ヶ塔	0.047	
145	62区8号住	29	石核A	中期後半～後期前半	3.0	20.9	0.3	12.7	0.9	62.2	星ヶ塔?	1.013	
146	62区10号住	20	石核A	中期後半～後期前半	3.8	24.2	0.3	14.4	1.1	56.3	星ヶ塔	0.055	
147	62区15号住	61	原石A	中期後半～後期前半	3.4	25.4	0.3	14.6	1.2	55.2	星ヶ塔	0.141	
148	62区2掘立	15	原石A	中期後半～後期前半	3.8	24.5	0.4	15.3	1.2	54.8	星ヶ塔	0.277	33坑
149	62区2掘立	16	原石A	中期後半～後期前半	3.5	25.0	0.3	15.3	1.0	55.0	星ヶ塔	0.169	33坑
150	62区2掘立	17	原石A	中期後半～後期前半	3.6	24.6	0.3	13.7	1.1	56.8	星ヶ塔	0.017	33坑
151	62区遺構外	99	原石A	中期後半～後期前半	3.8	25.1	0.4	13.9	1.0	55.9	星ヶ塔	0.172	
152	62区遺構外	98	石核A	中期後半～後期前半	3.2	22.7	0.3	13.1	1.0	59.7	星ヶ塔	0.450	

表6 長野原一本松遺跡出土黒曜石資料の産地分析結果(6元素の酸化物の総和を100としたときの百分率)

分析No.	遺構	番号	器種	時期	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb ₂ O	K ₂ O	産地	併合距離	備考
1	95-12住	S-18	原石A	加曽利E2～E3古	3.4	25.9	0.3	13.8	1.1	55.5	星ヶ塔	0.052	報告書99図43
2	95-12住	S-19	原石A	加曽利E2～E3古	3.6	24.5	0.2	15.0	1.1	55.6	星ヶ塔	0.132	報告書99図37
3	95-12住	S-20	原石A	加曽利E2～E3古	3.8	24.8	0.3	14.6	1.1	55.4	星ヶ塔	0.092	報告書99図42
4	95-12住	S-21	原石A	加曽利E2～E3古	3.2	24.5	0.3	14.4	1.1	56.4	星ヶ塔	0.244	報告書99図41
5	95-12住	S-22	原石A	加曽利E2～E3古	3.4	25.2	0.4	14.9	1.1	55.1	星ヶ塔	0.183	報告書99図39
6	95-12住	S-23	原石A	加曽利E2～E3古	3.6	24.7	0.3	15.3	1.1	54.9	星ヶ塔	0.126	報告書99図38
7	95-12住	S-24	原石A	加曽利E2～E3古	3.7	25.2	0.3	14.1	1.2	55.6	星ヶ塔	0.049	報告書99図40
8	95-12住	S-25	原石A	加曽利E2～E3古	3.7	24.7	0.3	14.4	1.0	55.9	星ヶ塔	0.043	報告書99図36



写真1 林中原Ⅱ遺跡の分析資料(1) 縮尺: 2/3





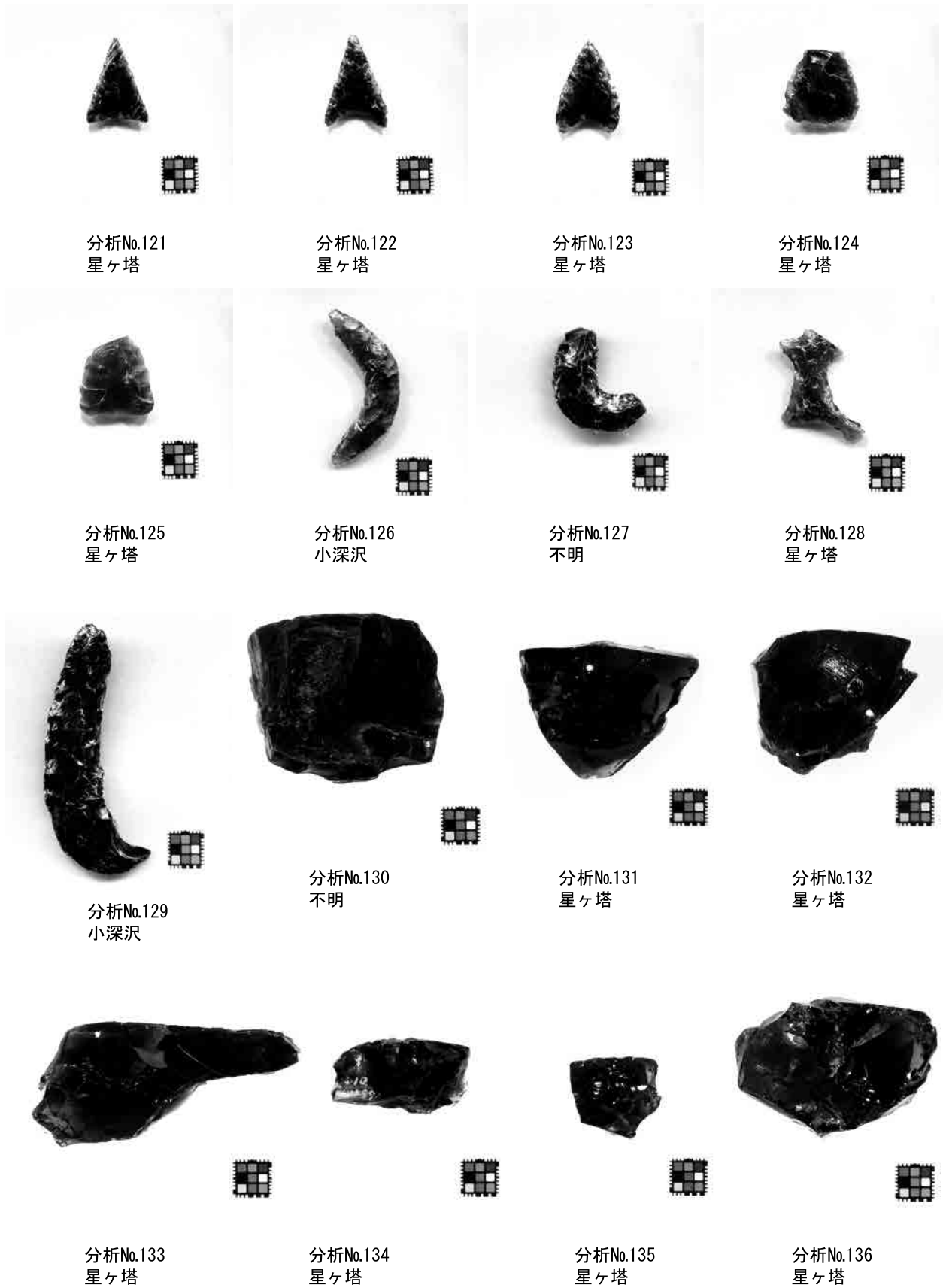
写真3 林中原Ⅱ遺跡の分析資料(3) 縮尺: 2/3





写真5 林中原Ⅱ遺跡の分析資料(5) 縮尺: 2/3







分析No.137
星ヶ塔



分析No.138
星ヶ塔



分析No.139
星ヶ塔



分析No.140
星ヶ塔



分析No.141
星ヶ塔



分析No.142
星ヶ塔



分析No.143
星ヶ塔



分析No.144
星ヶ塔



分析No.145
星ヶ塔？



分析No.146
星ヶ塔



分析No.147
星ヶ塔



分析No.148
星ヶ塔



分析No.149
星ヶ塔



分析No.150
星ヶ塔



分析No.151
星ヶ塔



分析No.152
星ヶ塔

写真8 林中原Ⅱ遺跡の分析資料(8) 縮尺: 2/3



分析No.1
星ヶ塔



分析No.2
星ヶ塔



分析No.3
星ヶ塔



分析No.4
星ヶ塔



分析No.5
星ヶ塔



分析No.6
星ヶ塔



分析No.7
星ヶ塔



分析No.8
星ヶ塔

第2節 レプリカ法による土器種実圧痕の同定

1. はじめに

群馬県長野原町に所在する上ノ平Ⅰ遺跡と三平Ⅰ遺跡、林中原Ⅱ遺跡は、縄文時代や古代を中心とした集落跡である。遺跡からは、表面もしくは断面に種実の圧痕と思われる痕跡を有する土器が確認された。ここでは、レプリカ法によって採取された種実圧痕のレプリカの同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、シリコンを用いて採取された種実圧痕のレプリカ84点である。資料の抽出およびレプリカの作成は、群馬県埋蔵文化財調査事業団によって行われた。土器の時期は、縄文時代（前期初頭、中期前半？、中期中葉～後期初頭）、弥生時代（中期前半？）、平安時代（9世紀末）である。

同定方法は、はじめに実体顕微鏡下でレプリカを観察・同定し、種実ないし植物の圧痕かどうかの判断を行った（1次同定）。84点中50点がなんらかの種実の圧痕と同定された。次に、不明以上の同定ができた資料について、走査型電子顕微鏡（超深度マルチアングルレンズVHX-D500/D510）で観察および写真撮影を行い、同定した（2次同定）。同定は、走査型電子顕微鏡写真を参考にし、レプリカを実体顕微鏡で観察して行った。また、圧痕レプリカの大きさをデジタルノギスで小数点第2位まで計測した。マメ科の種子のレプリカについては、那須ほか（2015）に基づいて簡易楕円体体積を求めた。土器およびレプリカは、群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

3. 結果

以下では、遺跡ごとにレプリカの同定結果を記載する（表7）。

[上ノ平Ⅰ遺跡]

21点を検討したところ、縄文時代の18点では、草本植物のダイズ属種子2点と、ササゲ属アズキ亜属種子2点、マメ科種子1点の、計5点が同定された。このほかの13点は、種実ではない同定不能（うち1点は礫）であった。弥生時代の2点で

は、アワ有ふ果1点が同定され、もう1点は同定不能であった。平安時代ではイネ粉1点が同定された。

[三平Ⅰ遺跡]

縄文時代の土器に残る圧痕9点を検討したところ、種実ではない同定不能が7点、礫が2点であった。

[林中原Ⅱ遺跡]

54点を検討したところ、縄文時代の53点では、木本植物のアカメガシワ種子1点と、草本植物のダイズ属種子2点、ダイズ属？種子1点、ササゲ属アズキ亜属種子7点、エゴマ果実1点、エゴマ？果実1点の、計13点が同定された。このほかに、科以上の詳細な同定ができなかった不明A種実1点、不明木材3点、不明虫えい1点が得られた。同定可能な識別点が残存していない同定不能種実は6点得られた。このほかは、種実ではない同定不能が29点（うち3点は礫）であった。土師器の1点は同定不能であった。

以下に、分類群ごとに記載を行い、同定の根拠とする。

(1) アカメガシワ *Mallotus japonicus* (L.f.) Müll. Arg. 種子 トウダイグサ科（圧痕No.41）

基部がやや平たい球形。Y字形の小さな着点があり、表面には隆線状突起が密生する。

(2) イネ *Oryza sativa* L. 粉 イネ科（圧痕No.21）

上面観が楕円形で、側面観は長楕円形。2条の稜があり、表面には四角形の網目状の隆線と隆線上の顆粒状突起が規則正しくならぶ。果柄側は残存していない。先端はレプリカでは採取されていない。

表7 上ノ平Ⅰ/三平Ⅰ/林中原Ⅱ遺跡出土土器圧痕資料の同定結果

分類群	部位	上ノ平Ⅰ			三平Ⅰ	林中原Ⅱ		合計
		縄文	弥生	平安	縄文	縄文	土師器	
アカメガシワ	種子					1		1
イネ	粉			1				1
アワ	有ふ果		1					1
ダイズ属	種子	2				2		4
ダイズ属？	種子					1		1
ササゲ属アズキ亜属	種子	2				7		9
マメ科	種子	1						1
エゴマ	果実					1		1
エゴマ？	果実					1		1
不明A	種実					1		1
不明	木材					3		3
	虫えい					1		1
同定不能	種実					6		6
同定不能		12	1		7	26	1	47
礫		1			2	3		6
合計		18	2	1	9	53	1	84

(3) アワ *Setaria italica* P.Beauv. 有ふ果 イネ科
(圧痕No.19)

紡錘形。内穎と外穎に独立した微細な乳頭突起がある。
エノコログサの乳頭突起は独立せず畝状になる。アワの
場合、外穎の乳頭突起は直径8-15 μm で小さく、その基
部が畝状に盛り上がることはない。一方、エノコログサ
属の場合は乳頭突起の直径が15-20 μm で大きい場合が多
く、その基部は畝状に盛り上がる。

(4) ダイズ属 *Glycine* spp. 種子 マメ科 (圧痕
No.10, 14, 35, 51, 40)

上面観は扁平に近い楕円形、側面観は臍側がやや直線
的で中央がわずかに窪む楕円形～長楕円形。No.10には、
片側側面の中央部に、小畑ほか(2007)に示されたダイ
ズ属の特徴である中央の縦溝(hilar groove)と、その
周囲の隆線(rim-aril)がみえる。圧痕No.35, 51の臍
は楕円形で長いが、縦溝は観察できない。圧痕No.14は
背面が見えており、臍が圧痕外のため観察できない。圧
痕No.40は臍が観察できないが、全体の形状から判断し
てダイズ属の可能性が高いため、ダイズ属?とした。

(5) ササゲ属アズキ亜属 *Vigna* subgenus *Ceratotropis*
spp. 種子 マメ科 (圧痕No.1, 5, 31, 45, 53, 56, 78,
79, 80)

上面観は方形に近い円形、側面観は方形に近い楕円
形。圧痕No.5と56, 78, 79には、小畑ほか(2007)や小
畑(2008)に示されたアズキ亜属の特徴である長楕円形
の臍があり、内部の厚膜(Epithilum)が残存する。背側
にはやや稜がある。他は臍の形状が不明瞭である。圧痕
No.45は半割りの状態である。

(6) マメ科 Fabaceae sp. 種子 (圧痕No.12)

上面観・側面観は方形に近い楕円形。片側側面が平坦
なため、マメ科と判断した。臍は残存していない。

(7) エゴマ *Perilla frutescens* (L.) Britton var.
frutescens 果実 シソ科 (圧痕No.59, 48)

いびつな球形。端部はくちばし状にやや突出し、圧痕
No.59には円形の着点があるが、圧痕No.48は不明瞭。表
面には、不規則で多角形の低い網目状隆線がある。網目
部分の周囲はわずかに凹む。長さが2.0mmを超えるため、
エゴマと同定した。臍と網目が不明瞭な圧痕No.48はエ
ゴマ?とした。

(8) 不明A Unknown A 種実 (圧痕No.84)

上面観は楕円形、側面観は倒卵形で下端部がやや尖る。
下端では円形の臍が片側に寄るが、明瞭ではない。表面
は平滑か。

(9) 不明 Unknown 木材 (圧痕No.70, 77, 82)

長軸方向に繊維方向があり、不規則な割れがみられる
個体(圧痕No.70と82)と、丸木か条線の可能性がある
個体(圧痕No.77)がある。

(10) 不明 Unknown 虫えい (圧痕No.83)

楕円形で、中央に小さな突起がある。

(11) 同定不能 Unidentified 種実 (圧痕No.42, 44,
55, 63, 67, 71)

明瞭な臍や着点は観察されないものの、形状や表面の
構造から種実の可能性のある一群を同定不能種実とし
た。

4. 考察

土器にみられた圧痕のレプリカを同定したところ、84
点のうち、20点は科以上の詳細な同定ができた。

以下では、何らかの種実に同定できた上ノ平I遺跡と
林中原II遺跡の圧痕について、遺跡ごとに時期別の考察
を行う(表8)。

[上ノ平I遺跡]

今回検討した縄文時代の土器では、中期中葉末の土器
からアズキ亜属2点とマメ科1点、中期末葉～後期初頭
の土器からダイズ属2点の、計5点の種子圧痕が確認さ
れた。

那須ほか(2015)では、現生の野生種のツルマメおよ
び栽培種のダイズの種子を乾燥・炭化・未成熟の状態
で計測して簡易楕円体体積を比較した結果、40 mm^3 以下は野
生型、70 mm^3 以上は栽培型、40～70 mm^3 の間は栽培種と野
生種の両方のサイズが重なるため、栽培種と野生種の中
間型とみなしている。今回確認された中期末葉～後期初
頭のダイズ属(圧痕No.14)は、長さは不明であるが、
残存部の簡易楕円体体積は123.1 mm^3 以上で、栽培型と推
定される。もう1点のダイズ属(圧痕No.10)は、幅と
厚さがほとんど残っていないため、簡易楕円体体積は求
められなかったが、長さは6.37mmで、野生種のツルマメ
よりは大型の個体であった。さらに那須ほか(2015)は、
現生のヤブツルアズキとアズキの種子を同様に比較し
て、簡易楕円体体積が30 mm^3 以下は野生型、60～70 mm^3 以

第4章 分析

上は栽培型、栽培種と野生種のサイズが重なる中間の大きさの種子は栽培種と野生種の中間型とみなしている。圧痕No.1と5のアズキ亜属の厚さは不明であるが、残存部の簡易楕円体体積は18.9mm³以上と20.8mm³以上であった。完形個体なら厚さは幅と同程度の大きさと推定されるため、野生型もしくは中間型と推定される。

弥生時代中期前半?の土器からは畑作物のアワが1点、平安時代(9世紀末)の土器からは水田作物のイネが1点得られた。アワは有ふ果、イネは舂のため、土器作りの場およびその周辺に殻付きの状態が存在していた可能性がある。

[林中原II遺跡]

今回検討した縄文時代の土器では、中期中葉のアズキ亜属が1点、中期中葉末のダイズ属が1点、中期後葉のダイズ属とダイズ属?が各1点、アズキ亜属が5点、エゴマとエゴマ?が各1点、不明A種実が1点の計10点、後期初頭のアカメガシワとアズキ亜属が各1点の、総計14点の種実圧痕が確認された。

中期中葉末のダイズ属(圧痕No.51)の厚さは不明であるが、残存部の簡易楕円体体積は28.5mm³以上で野生型以上であった。長さは6.54mmであり、野生のツルマメよりも大型の個体であった。中期後葉のダイズ属(圧痕No.35)は幅と厚さが不明であるが、残存部の簡易楕円体体積は146.5mm³以上で栽培型であった。同様にダイズ属?(圧痕No.40)は厚さが不明であるが、残存部の簡易楕円体体積は131.9mm³以上で栽培型であった。

中期中葉のアズキ亜属(圧痕No.56)の簡易楕円体体積は9.6mm³で、野生型であった。中期後葉のアズキ亜属の5点は、うち2点の厚さが不明で、完形個体の簡易楕円体体積は50.3mm³の中間型が1点(圧痕No.79)、他の完形個体2点(圧痕No.78とNo.80)は野生型であった。ただし、この3点の圧痕は同一土器から見出された。厚さが不明である2点は、中間型以上と野生型以上であったが、長さは6.41mmと5.37mmで、完形個体で中間型の個体の長さよりも大きかった。

中期後葉のエゴマは長さ2.22mm、幅1.96mm、エゴマ?は長さ2.59mm、幅2.38mmで、いずれも2.0mm以上の長さ

表8 上ノ平I/林中原II遺跡出土土器圧痕資料の同定結果(同定不能種実以上に同定された試料、単位mm、簡易楕円体体積はmm³、数値の括弧は残存値)

圧痕No.	土器No.	遺跡名	圧痕細別No.	時代	時期	器種	部位	面	同定結果	備考	SEM	長さ	幅	厚さ	臍長	臍幅	簡易楕円体体積
1	1	上ノ平I	1	縄文	中期中葉末	深鉢	口縁	内	ササゲ属アズキ亜属種子		●	4.29	3.09	(2.73)	-	-	18.9
5	5	上ノ平I	1	縄文	(中期中葉末)	深鉢	胴上位	外	ササゲ属アズキ亜属種子		●	4.32	3.40	(2.70)	2.53	0.67	20.8
10	9	上ノ平I	1	縄文	中期末葉~後期初頭	深鉢	胴上位	断	ダイズ属種子		●	6.37	(2.53)	(1.55)	3.37	0.87	
12	11	上ノ平I	1	縄文	中期中葉末	深鉢	口縁	外	マメ科種子		●	5.03	3.47	(1.42)	-	-	
14	13	上ノ平I	1	縄文	中期末葉~後期初頭	深鉢	胴	断	ダイズ属種子		●	(8.28)	6.20	4.58	-	-	123.1
19	18	上ノ平I	1	弥生	中期前半か	甕	胴	外	アワ有ふ果		●	1.57	1.52				
21	20	上ノ平I	1	平安	9世紀末	甕	口縁	外	イネ舂		●	(5.62)	3.74				
31	30	林中原II	1	縄文	中期後葉	深鉢	胴部	外	ササゲ属アズキ亜属種子		●	6.41	4.13	(3.35)	-	-	46.4
35	34	林中原II	1	縄文	中期後葉	浅鉢	口縁	断	ダイズ属種子		●	10.47	(5.40)	(4.95)	(3.60)	1.27	146.5
40	39	林中原II	1	縄文	中期後葉	深鉢	胴	内	ダイズ属種子?		●	11.08	5.11	(4.45)	-	-	131.9
41	40	林中原II	1	縄文	後期初頭	深鉢	胴部	内	アカメガシワ種子		●	3.80	3.38				
42	41	林中原II	1	縄文		深鉢	胴	断	同定不能種実		●						
44	43	林中原II	1	縄文	中期後葉	深鉢	口縁	外	同定不能種実		●	5.54	2.79				
45	44	林中原II	1	縄文	中期後葉	深鉢	胴部	内	ササゲ属アズキ亜属種子	半割り	●	5.37	3.69	(1.36)	-	-	14.1
48	47	林中原II	1	縄文	中期後葉	深鉢	口縁	外	エゴマ果実?		●	2.59	2.38				
51	50	林中原II	1	縄文	中期中葉末	深鉢	口縁	内	ダイズ属種子		●	6.54	5.01	(1.66)	3.88	0.97	28.5
53	52	林中原II	1	縄文	後期初頭	深鉢	胴上部	断	ササゲ属アズキ亜属種子		●	(4.22)	3.00	(2.96)	-	-	19.6
55	54	林中原II	1	縄文		深鉢	口縁	外	同定不能種実		●						
56	55	林中原II	1	縄文	中期中葉	浅鉢	口縁	外	ササゲ属アズキ亜属種子		●	4.33	2.18	1.94	1.72	0.57	9.6
59	58	林中原II	1	縄文	中期後葉	深鉢	底部	外	エゴマ果実		●	2.22	1.96				
63	60	林中原II	1	縄文		深鉢	胴部	断	同定不能種実		●	(6.53)	6.75	5.02	-	-	115.9
67		林中原II	3	縄文		深鉢	胴部	表	同定不能種実		●						
70	62	林中原II	6	縄文		深鉢	胴部	裏	不明木材		●						
71		林中原II	7	縄文		深鉢	胴部	裏	同定不能種実		●						
77	66	林中原II	3	縄文		深鉢	胴部	表	不明木材	条線の可能性有	●						
78		林中原II	1	縄文	中期後葉	深鉢	胴部	表	ササゲ属アズキ亜属種子		●	4.69	3.17	3.08	2.60	0.33	24.0
79	67	林中原II	2	縄文	中期後葉	深鉢	胴部	表	ササゲ属アズキ亜属種子		●	6.02	3.90	4.09	2.01	0.82	50.3
80		林中原II	3	縄文	中期後葉	深鉢	胴部	表	ササゲ属アズキ亜属種子		●	4.35	3.11	3.28	-	-	23.2
82	69	林中原II	1	縄文		深鉢	口縁	外	不明木材		●						
83	70	林中原II	1	縄文	前期初頭	深鉢	胴部	裏	不明虫えい		●	4.30	3.60				
84	71	林中原II	1	縄文	中期後葉	深鉢	口縁	内	不明A種実		●	3.54	2.46				

であった。シソ属の検討は、笠原（1981）や松谷（1988）、百原・小林（2009）などで行われ、現生資料の比較から、長さ2.0mm以上の大きさの果実はエゴマである可能性が高いとされている。2点ともに、大きさから栽培植物のエゴマと考えられる。

後期初頭のアズキ亜属（圧痕No.56）の簡易楕円体体積は、長さと同さが不明でも19.6mm³以上で、野生型以上であった。また、アカメガシワは食用にはならないが、陽樹の落葉高木であるため、明るい場所に生育していると推定される。果実が結実して落下した種子がすぐに粘土内に混ざり込んだとすれば、結実する中秋から晩秋の頃に混ざったと考えられる。

今回同定できた種実のダイズ属とアズキ亜属、エゴマは、いずれも食用植物であり、これらが土器作りの場やその周辺に存在した可能性を示す。また、ダイズは関東・中部地方で縄文時代中期頃に野生種から栽培種へと栽培化された状況が分かっている（小畑，2011）。

出土点数が少ないため傾向をつかむには至らないが、今回確認された縄文時代中期後葉のダイズ属の圧痕1点は、栽培型の大きさであった。少なくとも縄文時代中期後葉のこの地に、栽培型のダイズが存在した可能性がある。

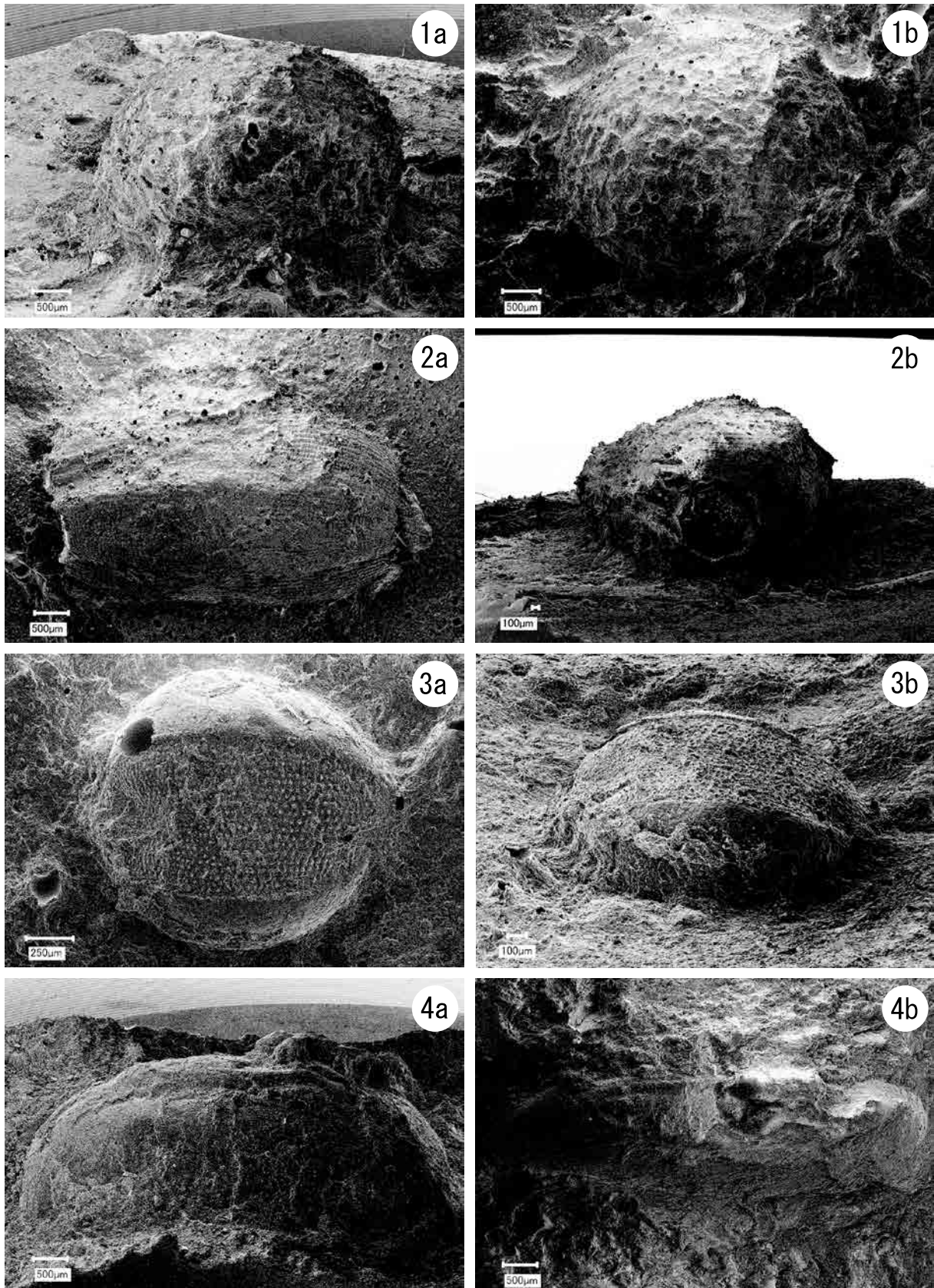
引用文献

- 笠原安夫（1981）鳥浜貝塚の植物種実の検出とエゴマ・シソ種実・タール状塊について。「鳥浜貝塚-縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査2-」65-87，福井県教育委員会。
- 松谷暁子（1988）電子顕微鏡でみる縄文時代の栽培植物。「畑作文化の誕生 縄文農耕論へのアプローチ」：91-117，日本放送出版協会。
- 百原 新・小林真生子（2009）シソ属 *Perilla*、イヌコウジュ属 *Mosla* の果実形態と識別方法。文部科学省基盤研究（A）「レプリカ・セム法による極東地域先史時代の植物栽培化過程の実証的研究」の2008年度報告
- 那須浩郎・会田 進・佐々木由香・中沢道彦・山田武文・興石 甫（2015）炭化種実資料からみた長野県諏訪地方における縄文時代中期のマメの利用。資源環境と人類，5：37-52，明治大学黒耀石研究センター。
- 小畑弘己（2008）マメ科種子同定法。小畑弘己編「極東先史古代の穀物3」：225-252，熊本大学。
- 小畑弘己（2011）東北アジア古民族植物学と縄文農耕。同成社。
- 小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子（2007）土器圧痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培。植生史研究，15-2，97-114。

第4章 分析

表9 上ノ平Ⅰ/三平Ⅰ/林中原Ⅱ遺跡出土土器圧痕資料の同定結果 (単位mm、数値の括弧は残存値)

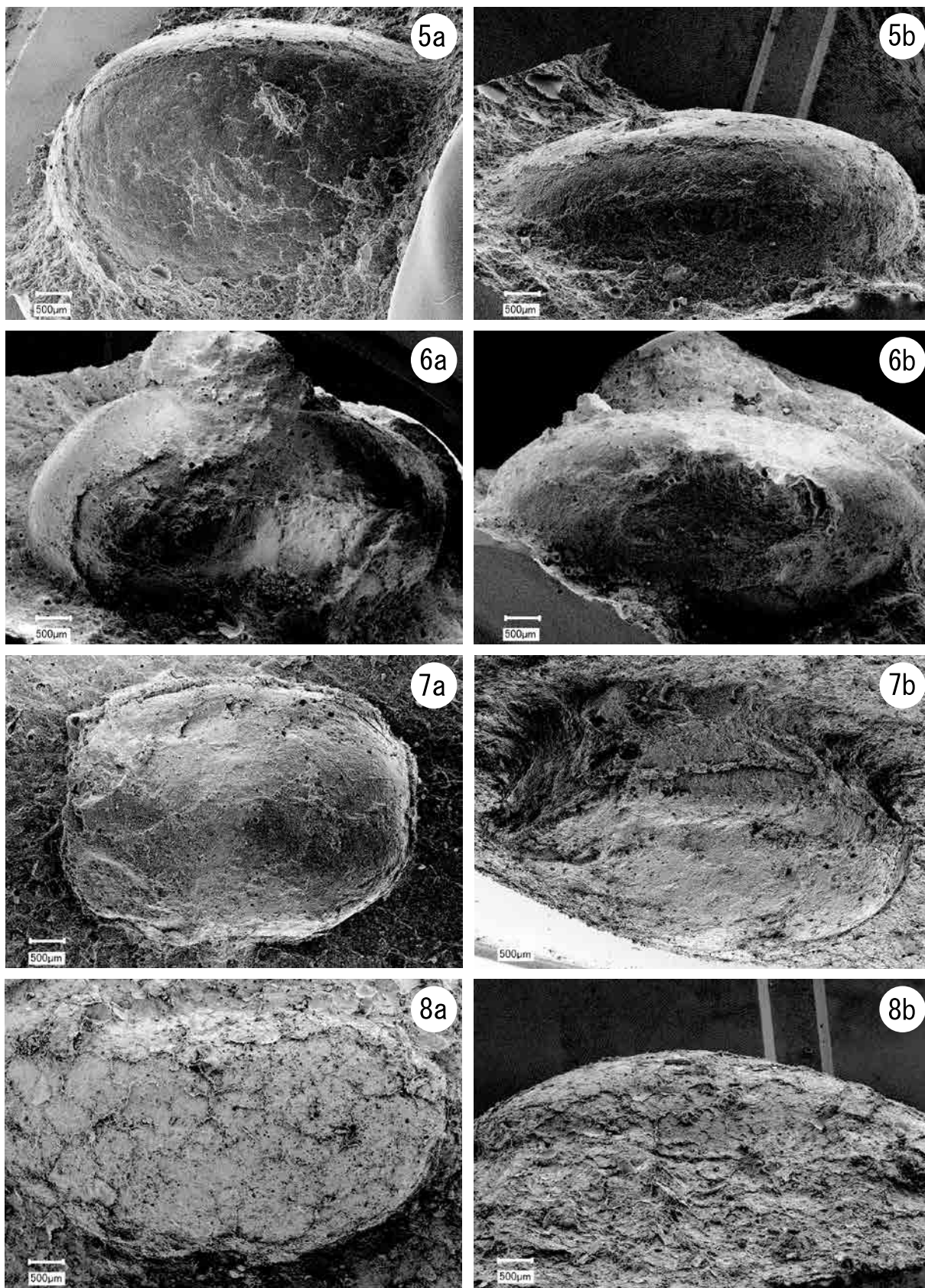
圧痕 No.	土器 No.	遺跡名	圧痕 細別 No.	区	遺構/グリッド	遺物番号	時代	細分	器種	部位	面	同定結果	備考	SEM	長さ	幅	厚さ
1	1	上ノ平Ⅰ	1	63	19号住居		縄文	中期中葉末	深鉢	口縁	内	ササゲ属アズキ亜属種子		●	4.29	3.09	(2.73)
2	2	上ノ平Ⅰ	1	62	33号住居	4	縄文		深鉢	胴	断	同定不能					
3	3	上ノ平Ⅰ	1	61	34号住居		縄文		浅鉢	口縁	断	同定不能					
4	4	上ノ平Ⅰ	1	63	H-9		縄文	中期中葉	深鉢	口縁	内	同定不能		●			
5	5	上ノ平Ⅰ	1	63	D-9		縄文	(中期中葉末)	深鉢	胴上位	外	ササゲ属アズキ亜属種子		●	4.32	3.40	(2.70)
6	6	上ノ平Ⅰ	1	63	C/D-4 (111号土坑)		縄文	前期初頭	深鉢	胴部	内	同定不能					
7	7	上ノ平Ⅰ	2	63	C/D-4 (111号土坑)		縄文	前期初頭	深鉢	胴部	内	同定不能					
8	7	上ノ平Ⅰ	1	62	T-20 (9号住居)		縄文		深鉢	胴	内	同定不能					
9	8	上ノ平Ⅰ	1	61	51号土坑		縄文		深鉢	胴	断	同定不能					
10	9	上ノ平Ⅰ	1	63	B-7		縄文	中期末葉～後期初頭	深鉢	胴上位	断	ダイズ属種子		●	6.37	(2.53)	(1.55)
11	10	上ノ平Ⅰ	1	63	C-6		縄文		深鉢	口縁	内	同定不能					
12	11	上ノ平Ⅰ	1	63	C-8		縄文	中期中葉末	深鉢	口縁	外	マメ科種子		●	5.03	3.47	(1.42)
13	12	上ノ平Ⅰ	1	63	D-7		縄文		深鉢	胴上位	断	礫					
14	13	上ノ平Ⅰ	1	63	G-3		縄文	中期末葉～後期初頭	深鉢	胴	断	ダイズ属種子		●	(8.28)	6.20	4.58
15	14	上ノ平Ⅰ	1	63	P-5		縄文		深鉢	口縁	外	同定不能					
16	15	上ノ平Ⅰ	1	89	K-13		縄文		深鉢	胴	外	同定不能		●			
17	16	上ノ平Ⅰ	1	89	R-12		縄文		深鉢	胴	外	同定不能					
18	17	上ノ平Ⅰ	1	89	1面		縄文		深鉢	胴	外	同定不能					
19	18	上ノ平Ⅰ	1	63	56号ピット	2	弥生	中期前半か	甕	胴	外	アワ有る果		●	1.57	1.52	
20	19	上ノ平Ⅰ	1	61	22号住居		弥生	中期前半か	甕	胴	外	同定不能					
21	20	上ノ平Ⅰ	1	63	17号住居	4	平安	9世紀末	甕	口縁	外	イネ籾		●	(5.62)	3.74	
22	21	三平Ⅰ	1	89	38号ピット	20005	縄文		浅鉢	底部	断	同定不能					
23	22	三平Ⅰ	1			20030	縄文		深鉢	胴	断	同定不能		●			
24	23	三平Ⅰ	1			20049	縄文		深鉢	胴	断	同定不能					
25	24	三平Ⅰ	1			20062	縄文		深鉢	胴上部	断	同定不能					
26	25	三平Ⅰ	1			20115	縄文		深鉢	胴	内	同定不能					
27	26	三平Ⅰ	1			20145	縄文		深鉢	胴	内～断	礫					
28	27	三平Ⅰ	1			非掲載1	縄文		深鉢	胴	内～断	礫					
29	28	三平Ⅰ	1			非掲載2	縄文		深鉢	胴	内～断	同定不能					
30	29	三平Ⅰ	1			非掲載3	縄文		深鉢	口縁	内	同定不能					
31	30	林中原Ⅱ	1	62	02号住居	44	縄文	中期後葉	深鉢	胴部	外	ササゲ属アズキ亜属種子		●	6.41	4.13	(3.35)
32	31	林中原Ⅱ	1	62	06号住居	19	縄文		深鉢	胴部	外	同定不能		●			
33	32	林中原Ⅱ	1	62	06号住居		縄文	中期後葉	深鉢	胴部	内	同定不能		●			
34	33	林中原Ⅱ	1	61	08号住居		縄文		深鉢	胴部	外	同定不能		●			
35	34	林中原Ⅱ	1	61	09号住居	14	縄文	中期後葉	浅鉢	口縁	断	ダイズ属種子		●	10.47	(5.40)	(4.95)
36	35	林中原Ⅱ	1	62	09号住居	112	縄文		浅鉢	口縁	断	同定不能	Rep不明				
37	36	林中原Ⅱ	1	62	09号住居	330	縄文		深鉢	胴部	外	同定不能					
38	37	林中原Ⅱ	1	62	09号住居		縄文		深鉢	底部/胴下端	外	同定不能		●			
39	38	林中原Ⅱ	1	61	09号住居		縄文		深鉢	胴部	断	礫					
40	39	林中原Ⅱ	1	62	10号住居		縄文	中期後葉	深鉢	胴	内	ダイズ属種子?		●	11.08	5.11	(4.45)
41	40	林中原Ⅱ	1	61	11号住居		縄文	後期初頭	深鉢	胴部	内	アカメガシワ種子		●	3.80	3.38	
42	41	林中原Ⅱ	1	62	12号住居	154	縄文		深鉢	胴	断	同定不能種実		●			
43	42	林中原Ⅱ	1	62	16号住居		縄文		深鉢	胴部	内	同定不能		●			
44	43	林中原Ⅱ	1	62	17号住居	23	縄文	中期後葉	深鉢	口縁	外	同定不能種実		●	5.54	2.79	
45	44	林中原Ⅱ	1	61	23号住居		縄文	中期後葉	深鉢	胴部	内	ササゲ属アズキ亜属種子	半割り	●	5.37	3.69	(1.36)
46	45	林中原Ⅱ	1	61	23号住居	69	縄文		深鉢	頸部	断	礫					
47	46	林中原Ⅱ	1	61	24号住居	27	縄文		深鉢	口縁	断	同定不能		●			
48	47	林中原Ⅱ	1	61	29号住居	42	縄文	中期後葉	深鉢	口縁	外	エゴマ果実?		●	2.59	2.38	
49	48	林中原Ⅱ	1	61	32号住居	207	縄文	中期後葉	深鉢	口縁	外	同定不能		●	3.12	3.37	
50	49	林中原Ⅱ	1	61	35号住居	29	縄文		深鉢	口縁	内	同定不能		●			
51	50	林中原Ⅱ	1	61	43号住居	28	縄文	中期中葉末	深鉢	口縁	内	ダイズ属種子		●	6.54	5.01	(1.66)
52	51	林中原Ⅱ	1	61	03号竪穴		縄文		深鉢	胴上部	断	同定不能					
53	52	林中原Ⅱ	1	61	03号竪穴		縄文	後期初頭	深鉢	胴上部	断	ササゲ属アズキ亜属種子		●	(4.22)	3.00	(2.96)
54	53	林中原Ⅱ	1	61	1号石列	458	縄文		深鉢	胴部	断	同定不能		●			
55	54	林中原Ⅱ	1	62	C-6		縄文		深鉢	口縁	外	同定不能種実		●			
56	55	林中原Ⅱ	1	62	D-5		縄文	中期中葉	浅鉢	口縁	外	ササゲ属アズキ亜属種子		●	4.33	2.18	1.94
57	56	林中原Ⅱ	1	61	S-10		土師器		小型甕	胴下部	外	同定不能					
58	57	林中原Ⅱ	1	62	E-7		縄文		深鉢	胴部	内	同定不能		●			
59	58	林中原Ⅱ	1	61	S-11		縄文	中期後葉	深鉢	底部	外	エゴマ果実		●	2.22	1.96	
60		林中原Ⅱ	1	61	X-6		縄文		深鉢	口縁	外	同定不能		●			
61	59	林中原Ⅱ	2	61	X-6		縄文		深鉢	口縁	外	同定不能		●			
62		林中原Ⅱ	3	61	X-6		縄文		深鉢	口縁	外	同定不能		●			
63	60	林中原Ⅱ	1	不明	不明		縄文		深鉢	胴部	断	同定不能種実		●	(6.53)	6.75	5.02
64	61	林中原Ⅱ	1	61	3・4住	34	縄文		深鉢	胴部	断	同定不能		●			
65		林中原Ⅱ	1	61	4タテ	1	縄文		深鉢	胴部	表	同定不能					
66		林中原Ⅱ	2	61	4タテ	1	縄文		深鉢	胴部	表	礫					
67		林中原Ⅱ	3	61	4タテ	1	縄文		深鉢	胴部	表	同定不能種実		●			
68		林中原Ⅱ	4	61	4タテ	1	縄文		深鉢	胴部	表	同定不能					
69		林中原Ⅱ	5	61	4タテ	1	縄文		深鉢	胴部	表	同定不能		●			
70		林中原Ⅱ	6	61	4タテ	1	縄文		深鉢	胴部	裏	不明木材		●			
71		林中原Ⅱ	7	61	4タテ	1	縄文		深鉢	胴部	裏	同定不能種実		●			
72		林中原Ⅱ	8	61	4タテ	1	縄文		深鉢	胴部	裏	同定不能		●			
73		林中原Ⅱ	1	61	9住	14	縄文		深鉢	胴部	表	同定不能					
74	63	林中原Ⅱ	2	61	9住	14	縄文		深鉢	胴部	表	同定不能					
75	64	林中原Ⅱ	1	61	32住	51	縄文		深鉢	口縁	表	同定不能		●			
76	65	林中原Ⅱ	1	62	9住	66	縄文		深鉢	胴部	断	同定不能					
77	66	林中原Ⅱ	3	62	12住	4	縄文		深鉢	胴部	表	不明木材	条線の可能性有	●			
78		林中原Ⅱ	1	62	14住	20	縄文	中期後葉	深鉢	胴部	表	ササゲ属アズキ亜属種子		●	4.69	3.17	3.08
79	67	林中原Ⅱ	2	62	14住	20	縄文	中期後葉	深鉢	胴部	表	ササゲ属アズキ亜属種子		●	6.02	3.90	4.09
80		林中原Ⅱ	3	62	14住	20	縄文	中期後葉	深鉢	胴部	表	ササゲ属アズキ亜属種子		●	4.35	3.11	3.28
81	68	林中原Ⅱ	1	62	16住	8	縄文		深鉢	胴部	断	同定不能					
82	69	林中原Ⅱ	1	62	19住	13	縄文		深鉢	口縁	外	不明木材		●			
83	70	林中原Ⅱ	1	62	21土坑	0	縄文	前期初頭	深鉢	胴部	裏	不明虫えい		●	4.30	3.60	
84	71	林中原Ⅱ	1	62	外	5	縄文	中期後葉	深鉢	口縁	内	不明A種実		●	3.54	2.46	



図版1 上ノ平Ⅰ / 三平Ⅰ / 林中原Ⅱ遺跡出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真(1)

1. アカメガシワ種子(圧痕No. 41)、2. イネ粃(圧痕No. 21)、3. アワ有ふ果(圧痕No. 19)、4. ダイズ属種子(圧痕No. 10)

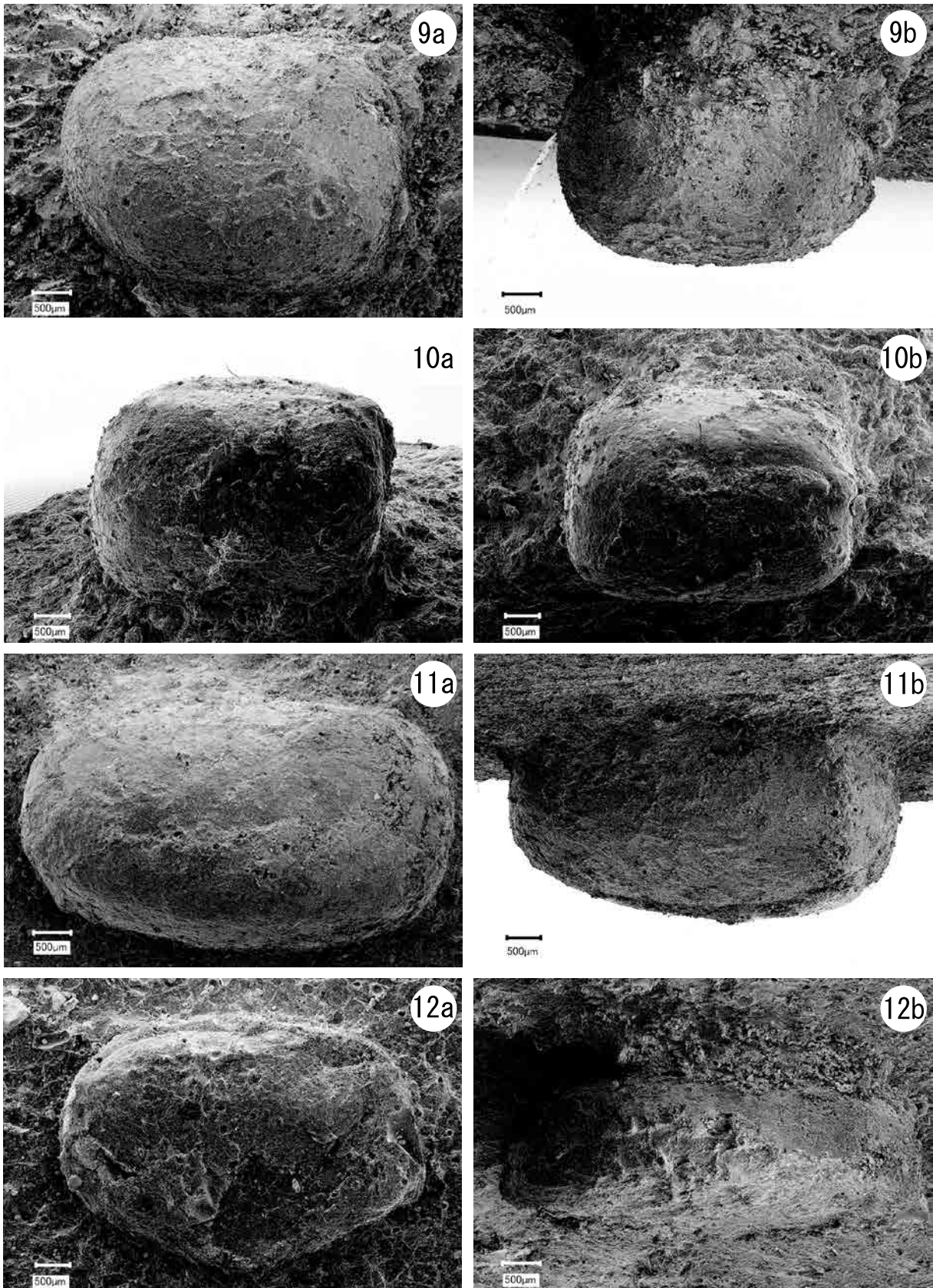
a: 側面観、b: 上面観



図版2 上ノ平Ⅰ / 三平Ⅰ / 林中原Ⅱ遺跡出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真(2)

5. ダイズ属種子(圧痕 No. 14)、6. ダイズ属種子(圧痕 No. 35)、7. ダイズ属種子(圧痕 No. 51)、8. ダイズ属種子?
(圧痕 No. 40)

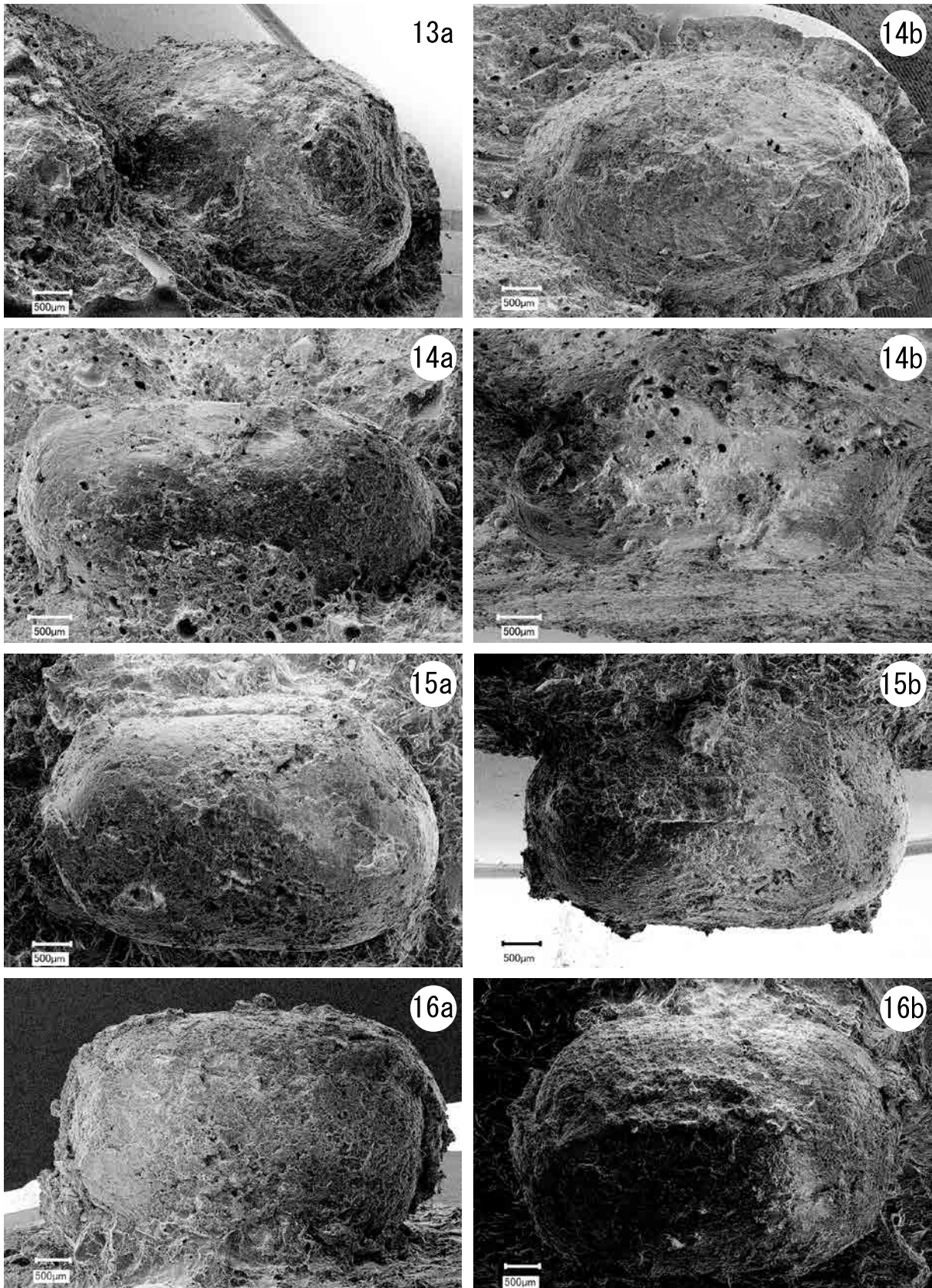
a: 側面観、b: 上面観



図版3 上ノ平Ⅰ / 三平Ⅰ / 林中原Ⅱ遺跡出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真(3)

9. ササゲ属アズキ亜属種子(圧痕No.1)、10. ササゲ属アズキ亜属種子(圧痕No.5)、11. ササゲ属アズキ亜属種子(圧痕No.31)、12. ササゲ属アズキ亜属種子(圧痕No.45)

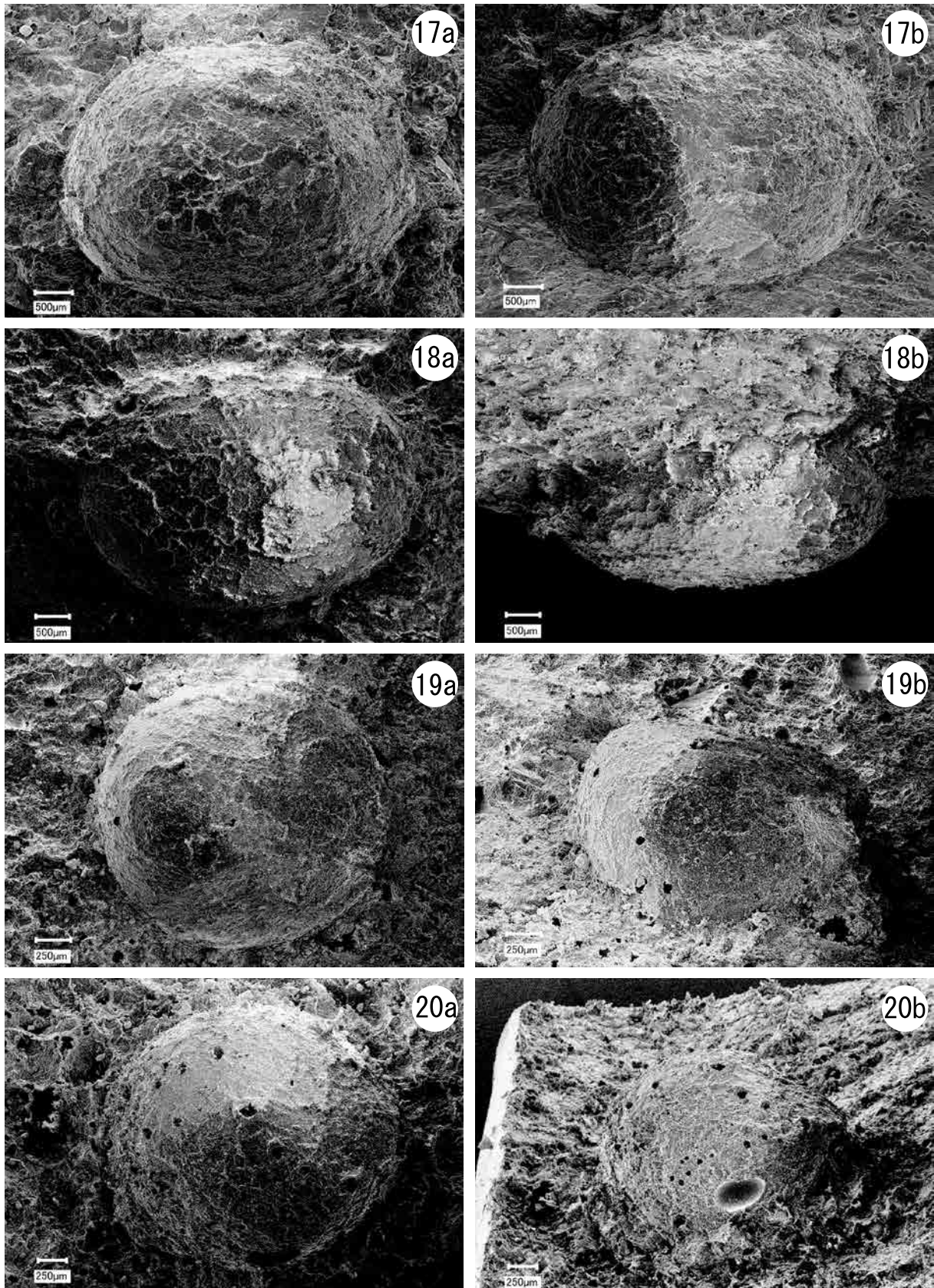
a: 側面観、b: 上面観



図版4 上ノ平Ⅰ / 三平Ⅰ / 林中原Ⅱ遺跡出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真(4)

13. ササゲ属アズキ亜属種子(圧痕No.53)、14. ササゲ属アズキ亜属種子(圧痕No.56)、15. ササゲ属アズキ亜属種子(圧痕No.78)、16. ササゲ属アズキ亜属種子(圧痕No.79)

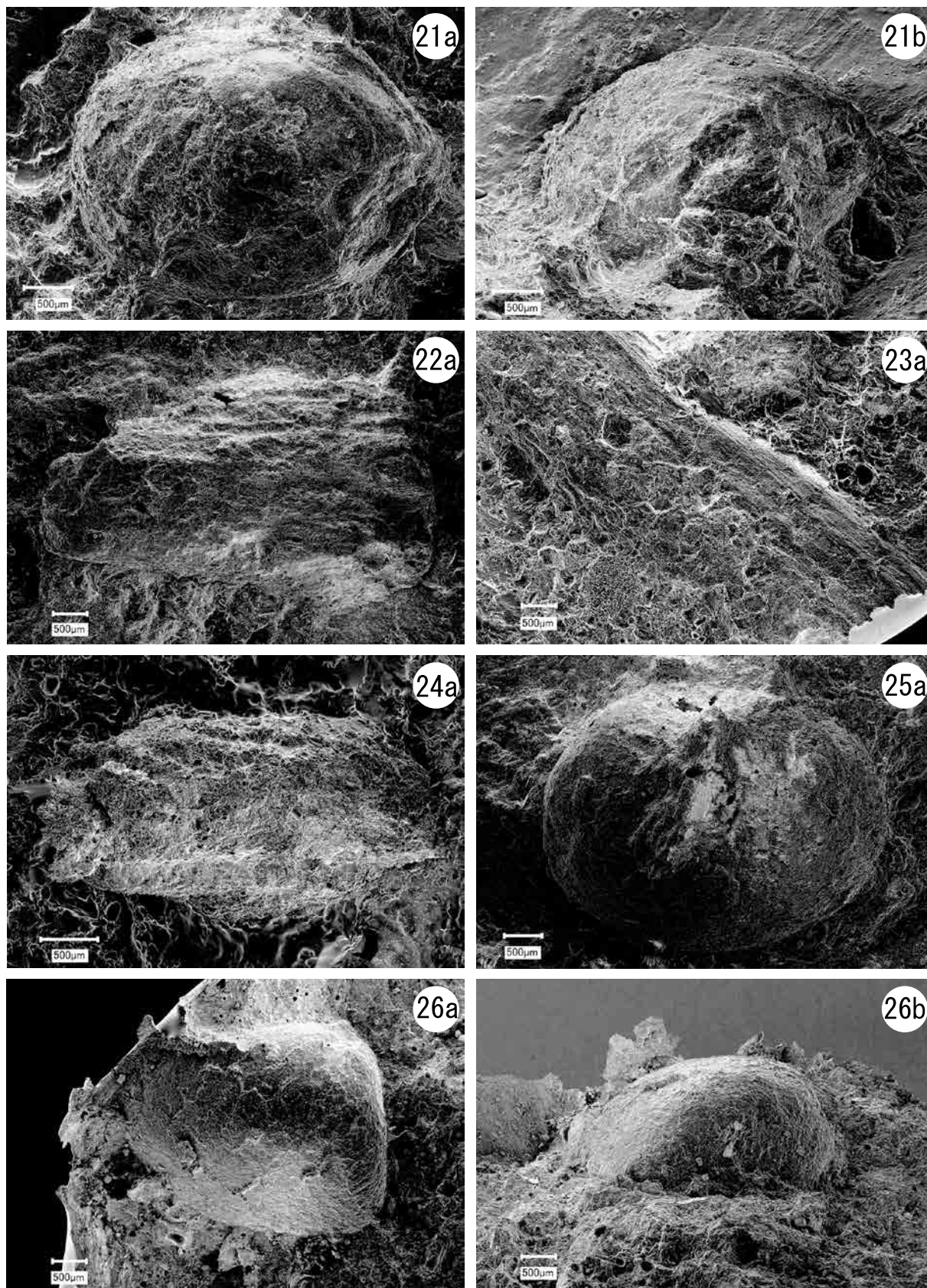
a: 側面観、b: 上面観



図版5 上ノ平Ⅰ / 三平Ⅰ / 林中原Ⅱ遺跡出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真(5)

17. ササゲ属アズキ亜属種子(圧痕No.80)、18. マメ科種子(圧痕No.12)、19. エゴマ果実(圧痕No.59)、20. エゴマ果実?(圧痕No.48)

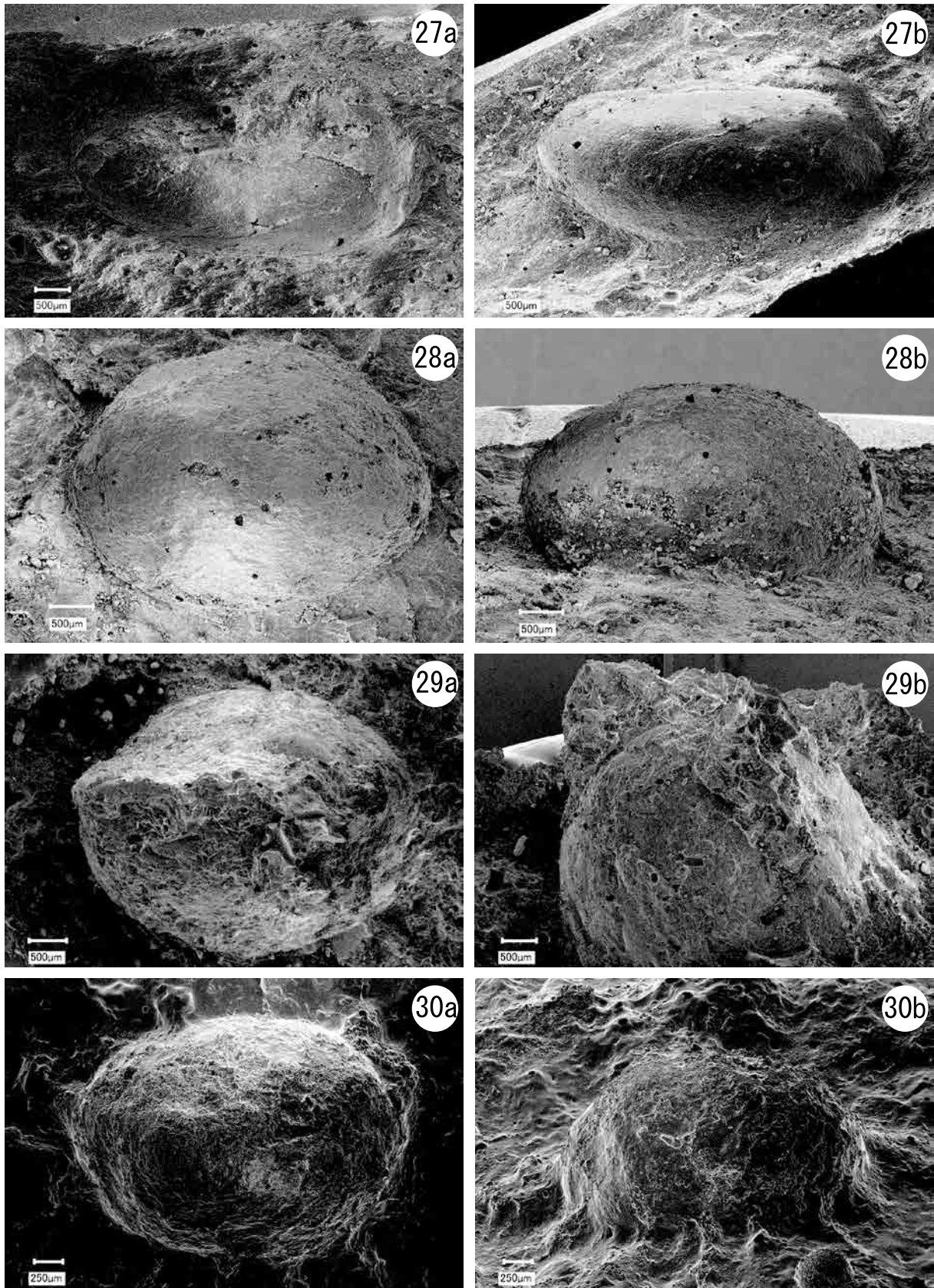
a: 側面観、b: 上面観



図版6 上ノ平I / 三平I / 林中原II遺跡出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真(6)

21. 不明A種実(圧痕No.84)、22. 不明木材(圧痕No.70)、23. 不明木材(圧痕No.77)、24. 不明木材(圧痕No.82)、25. 不明虫えい(圧痕No.83)、26. 同定不能種実(圧痕No.42)

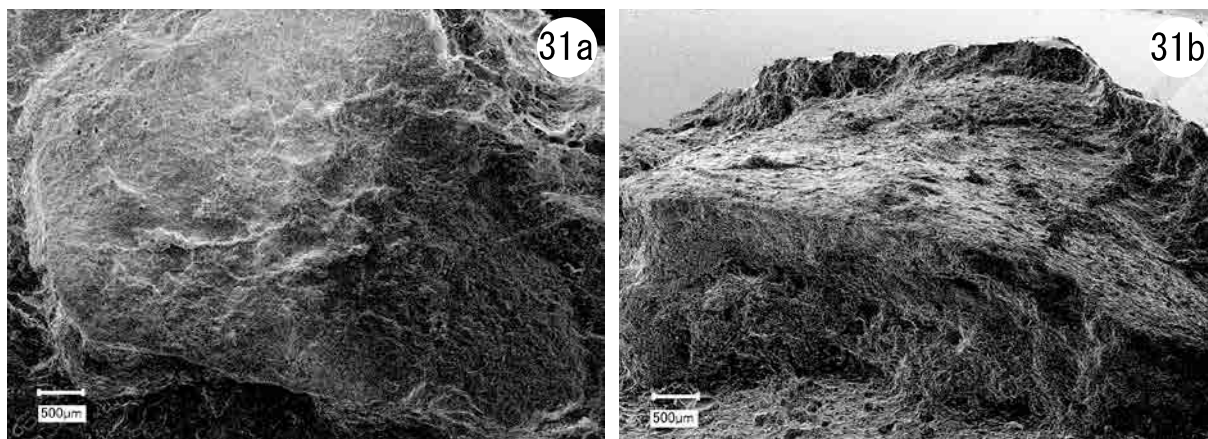
a: 側面観、b: 上面観



図版7 上ノ平Ⅰ / 三平Ⅰ / 林中原Ⅱ遺跡出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真(7)

27. 同定不能種実(圧痕No.44)、28. 同定不能種実(圧痕No.55)、29. 同定不能種実(圧痕No.63)、30. 同定不能種実(圧痕No.67)

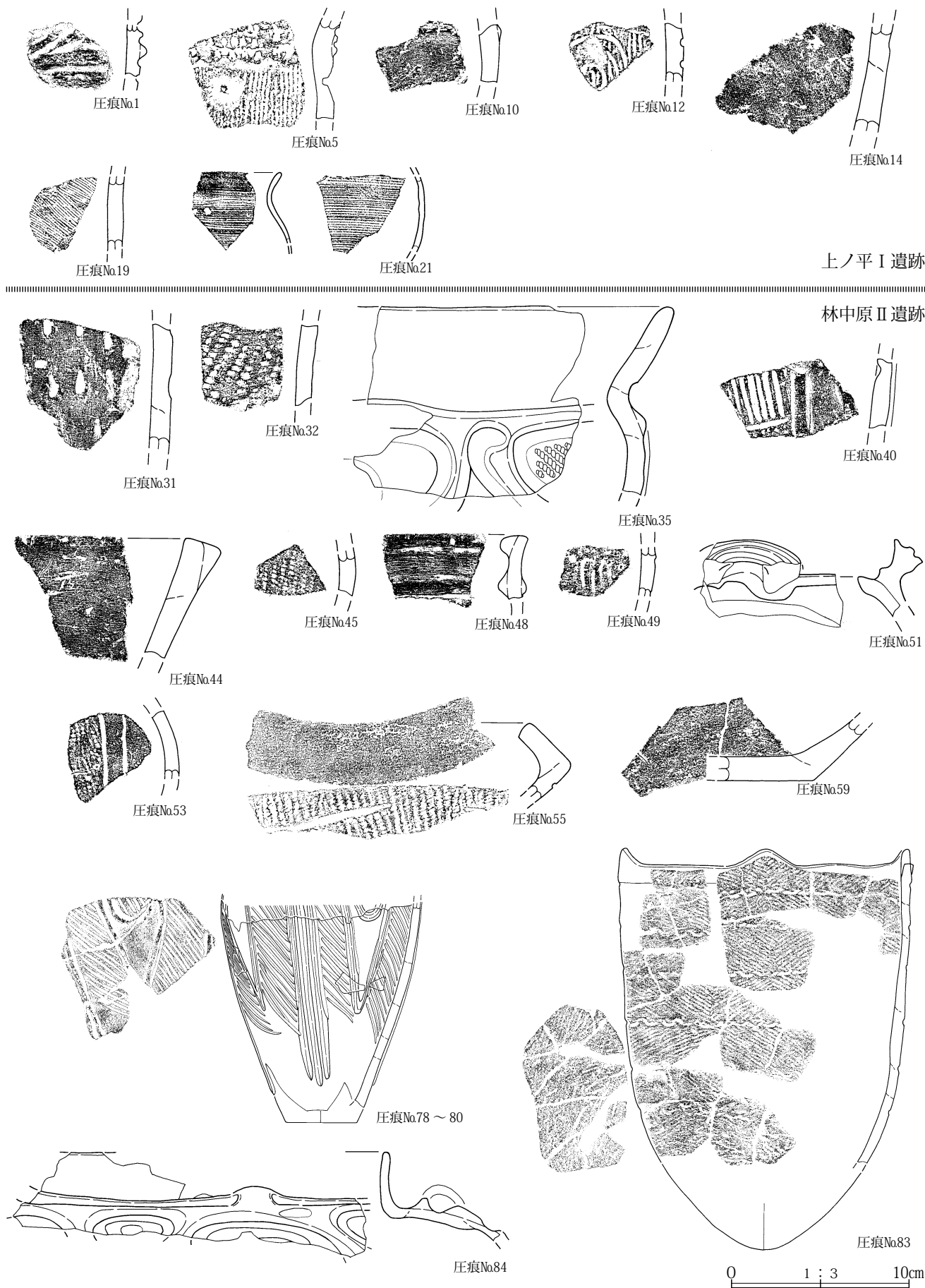
a: 側面観、b: 上面観



図版8 上ノ平Ⅰ / 三平Ⅰ / 林中原Ⅱ遺跡出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真(8)

31. 同定不能種実(圧痕 No. 71)

a: 側面観、b: 上面観



第358図 種実圧痕同定資料 (押痕No.78 ~ 83は1/5)

第3節 林中原Ⅱ遺跡61区及び62区出土 縄文時代焼骨

はじめに

林中原Ⅱ遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字林字中原に所在する。(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が平成20(2008)年10月～同21(2009)年10月まで実施された。

本遺跡の61区及び62区の住居・土坑・埋甕・掘立から焼骨が検出されたので、以下に報告する。いずれも、出土遺物等から時期は縄文時代中期に比定されている。これらは、明確な意図をもって火葬にしたのか否かが判断できないため、ここでは「焼骨」と記載する。

これまで、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査で出土した焼人骨は、深澤遺跡の縄文時代後期の配石遺構で2例(宮崎 1987)が、また本遺跡と近い位置にある横壁中村遺跡の縄文時代後期の30区33号住居から1例が出土している(楢崎 2009)。

同様に、焼獣骨は、長野原一本松遺跡の縄文時代後期の配石遺構でシカが(楢崎 2007)、横壁中村遺跡の縄文時代後期の20区382号土坑・29区6号住居でイノシシとシカが(楢崎 2009a)、30区33号住居と36号住居でイノシシとシカが(楢崎 2009a)出土している。但し、29区3号土坑は29区6号住居の可能性もあるという。

なお、この林中原Ⅱ遺跡では、51区の土坑から焼人骨が検出されており、本報告者が鑑定を実施している。今回の焼骨は、最大でも長さが2cm弱の細片が多く、肉眼で観察するのは困難であるためデジタルマイクロスコープ及び実体顕微鏡を使用して骨の表面を観察して人骨か獣骨かの判定を行った。

1. 61区出土焼骨

61区では、住居9軒、土坑3基、埋設土器1基(4号埋設土器)、掘立柱建物1軒の、14の遺構から焼骨が検出されている。

(1) 住居出土焼骨

61区の住居は、22号～24号住居・27号住居・32号住居・34号住居・38号住居・39号住居・42号住居の9軒から焼骨が検出されている。常識的に、住居から検出された焼骨は調理された獣骨であると推定される。

①22号住居出土焼骨

2袋に分けて取り上げられている。焼骨であることは間違いない。獣骨の手根骨あるいは足根骨の一部であると推定されるが、獣骨種の同定にはいたらなかった。

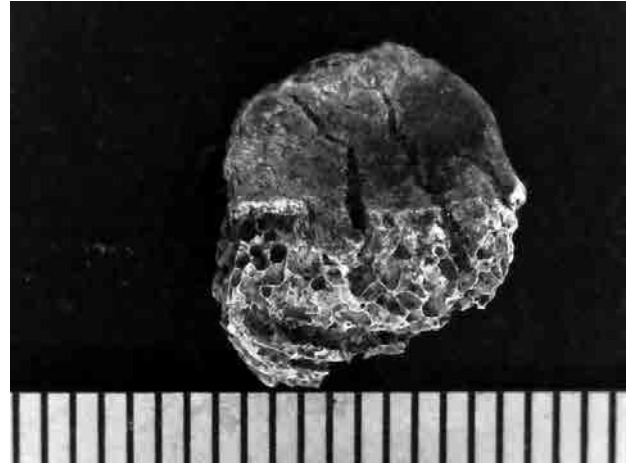


写真1. 61区22号住居出土焼骨(スケールの単位はmm)

②23号住居出土焼骨

9袋に分けて取り上げられている。焼骨であることは間違いない。表面観察から、獣骨であると推定されるが、獣骨種の同定にはいたらなかった。

③24号住居出土焼骨

5袋に分けて取り上げられている。焼骨であることは間違いない。ピット7出土焼骨内に肋骨片が認められた。獣骨であると推定されるが、獣骨種の同定にはいたらなかった。その大きさから、イノシシ(猪)かシカ(鹿)の幼獣かカモシカであると推定される。



写真2. 61区24号住居出土焼骨(スケールの単位はmm)

④27号住居出土焼骨

5袋に分けて取り上げられている。焼骨であることは間違いない。細片であるが、1点だけ獣骨の歯片が認められた。獣骨種の同定はできなかったが、肉食獣ではなく、イノシシ（猪）・シカ（鹿）・カモシカのいずれかの草食獣であると推定される。



写真3. 61区27号住居出土焼骨（スケールの単位はmm）



写真4. 61区27号住居出土焼骨（スケールの単位はmm）

⑤32号住居出土焼骨

1袋が取り上げられている。焼骨であることは間違いないが、細片である。表面観察から、獣骨であると推定される。しかしながら、獣骨種の同定にはいたらなかった。

⑥34号住居出土焼骨

3袋に分けて取り上げられている。焼骨であることは間違いないが、細片であるため、人骨か獣骨かの判定は

できなかった。

⑦38号住居出土焼骨

2袋に分けて取り上げられている。焼骨であることは間違いないが、細片であるため、人骨か獣骨かの判定はできなかった。

⑧39号住居炉内出土焼骨

2袋に分けて取り上げられている。焼骨であることは間違いない。表面観察から、獣骨であると推定される。しかしながら、獣骨種の同定にはいたらなかった。

⑨42号住居出土焼骨

1袋が取り上げられている。焼骨であることは間違いない。表面および断面観察から、シカ（鹿）の角片であると推定される。

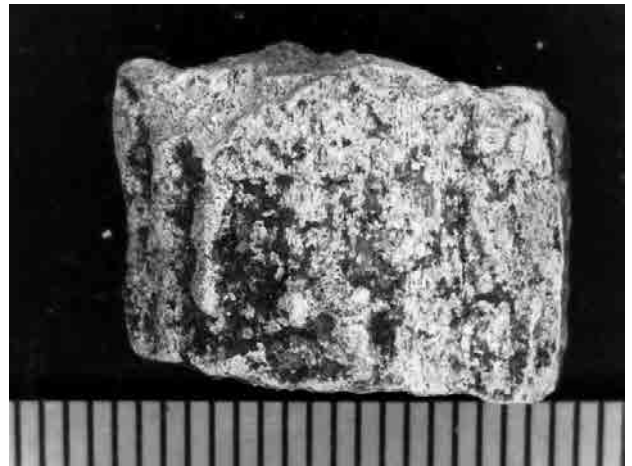


写真5. 61区42号住居出土焼骨表面（スケールの単位はmm）



写真6. 61区42号住居出土焼骨内面（スケールの単位はmm）

第4章 分析

(2) 土坑出土焼骨

61区の土坑は、71号土坑（61区2号掘立柱建物P5）・102号土坑・104号土坑の3基から検出されている。土坑出土焼骨は、これまでの事例から人骨の可能性が高いが、判定はできなかった。

①71号土坑出土焼骨

土坑は、平面規模が約88cm×約76cmで、深さ約68cmである。

1袋が取り上げられている。焼骨であることは間違いないが、細片であるため、人骨か獣骨かの判定はできなかった。



写真7. 61区71号土坑全景

②102号土坑

土坑は、平面規模が約140cm×約136cmで、深さ約100cmである。

1袋が取り上げられている。焼骨であることは間違いないが、細片であるため、人骨か獣骨かの判定はできなかった。



写真8. 61区102号土坑全景

③104号土坑出土焼骨

土坑は、平面規模が約148cm×約144cmで、深さ約94cmである。

1袋が取り上げられている。焼骨であることは間違いないが、細片であるため、人骨か獣骨かの判定はできなかった。



写真9. 61区104号土坑全景

(3) 埋設土器出土焼骨

①4号埋設土器出土焼骨

土坑は、平面規模が約104cm×約100cmで、深さ約52cmである。

1袋が取り上げられている。焼骨であることは間違いないが、細片であるため、人骨か獣骨かの判定はできなかった。



写真10. 61区4号埋設土器全景

(4) 掘立柱建物出土焼骨

61区の掘立柱建物は、1号掘立柱建物の1軒から焼骨が検出されている。

① 1号掘立柱建物出土焼骨

1袋が取り上げられている。焼骨であることは間違いない。一見、人骨の腓骨片に似ているが表面観察から獣骨であると推定される。



写真11. 61区1号掘立出土焼骨表面（スケールの単位はmm）



写真12. 61区1号掘立出土焼骨内面（スケールの単位はmm）

2. 62区出土焼骨

62区では、住居1軒・土坑2基の、3つの遺構から焼骨が検出されている。

(1) 住居出土焼骨

62区の住居は、2号住居1軒から焼骨が検出されている。

① 2号住居出土焼骨

6袋が取り上げられている。焼骨であることは間違いない。表面観察から、獣骨であると推定される。しかしながら、獣骨種の同定にはいたらなかった。

(2) 土坑出土焼骨

62区の土坑は、4号土坑・14号土坑の2基から焼骨が検出されている。

① 4号土坑出土焼骨

土坑は、平面規模が約128cm×約112cmで、深さ約80cmである。

1袋が取り上げられている。焼骨であることは間違いない。表面観察から、獣骨であると推定される。



写真13. 62区4号土坑全景

② 14号土坑出土焼骨

土坑は、平面規模が約180cm×約112cmで、深さ約26cmである。

62袋に分けて取り上げられている。また、土坑の形状や規模は、隅丸長方形を呈しており、人を埋葬した定型的な土坑墓のように見える。しかしながら、典型的なカモシカの角や尾椎が検出されているため、カモシカであると推定される。



写真14. 62区14号土坑全景

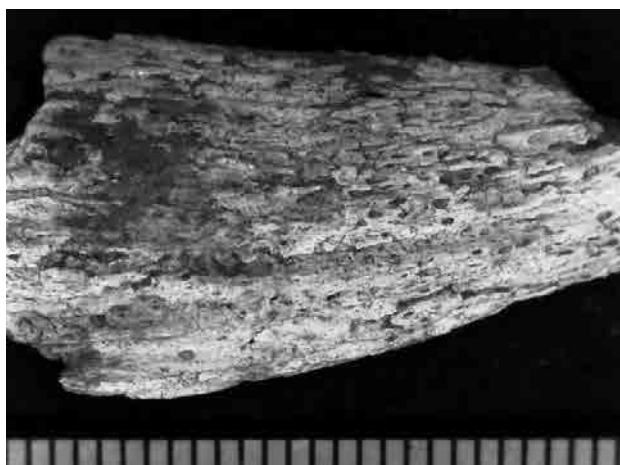


写真15. 62区14号土坑出土焼骨 [角外面]
(スケールの単位はmm)

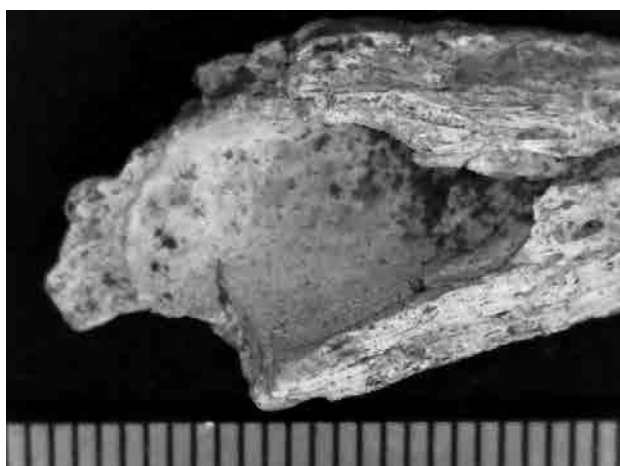


写真16. 62区14号土坑出土焼骨 [角内面]
(スケールの単位はmm)

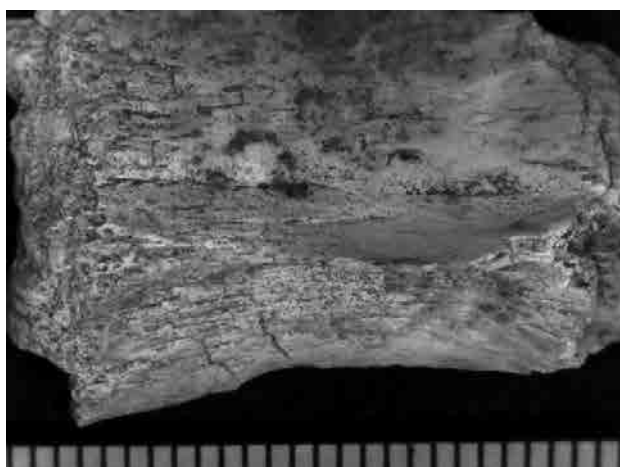


写真17. 62区14号土坑出土焼骨 [尾椎]
(スケールの単位はmm)

まとめ

群馬県吾妻郡長野原町に所在する林中原Ⅱ遺跡の61区及び62区の縄文時代中期の遺構から、焼骨が出土した。今回、焼骨の表面を拡大観察することにより、細片であるために人骨か獣骨か判定できなかったものを除くと、人骨は認められなかった。獣骨として同定できたものには、シカの角やカモシカの角が含まれる。常識的に、住居出土焼骨は、食用に調理した獣骨であると推定される。しかしながら、土坑出土の焼骨に獣骨が認められたことは、人骨のみならず獣骨も何らかの儀式に使用したものと推定される。

表10 林中原Ⅱ遺跡出土焼骨まとめ

61区		
住居	22号住居	獣骨
	23号住居	獣骨
	24号住居	猪・鹿・羚羊
	27号住居	猪・鹿・羚羊
	32号住居	獣骨
	34号住居	不明
	38号住居	不明
	39号住居	獣骨
	42号住居	鹿の角
土坑	71号土坑	不明
	102号土坑	不明
	104号土坑	不明
埋甕	4号埋甕	不明
掘立	1号掘立	獣骨
62区		
住居	2号住居	獣骨
土坑	4号土坑	獣骨
	14号土坑	羚羊

引用文献

- 榑崎修一郎 2007 「長野原一本松遺跡5区2号配石出土獣骨（縄文時代後期）」『長野原一本松遺跡（2）』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、p.309
- 榑崎修一郎 2008 「横壁中村遺跡土坑出土獣骨」『横壁中村遺跡（6）』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、pp.293-296
- 榑崎修一郎 2009a 「横壁中村遺跡29区6号住居出土獣骨」『横壁中村遺跡（8）』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、pp.221-224
- 榑崎修一郎 2009b 「横壁中村遺跡30区33号住居出土焼人骨」『横壁中村遺跡（9）』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、p.348
- 榑崎修一郎 2009c 「横壁中村遺跡（9）住居出土獣骨」『横壁中村遺跡（9）』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、p.349

第5章 総括

林中原Ⅱ遺跡は平成20・21年度に発掘調査が行われ、縄文時代中期～後期を中心とした集落跡が検出されている。調査区は国道部分と町道部分に分かれ、平成21年度は2班相当の調査体制を組み調査を進めた。既に、国道部分の発掘調査報告書として『林中原Ⅱ遺跡（1）』（群埋文2016）が刊行されており、本書は第2分冊として、町道部分で検出された、縄文時代中期～後期の遺構・遺物を扱った報告である。

町道部分（61区・62区）の縄文時代遺構は、住居跡65軒、掘立柱建物跡4棟、土坑107基、竪穴状遺構3基、埋設土器9基、焼土遺構13基、集石遺構2基、列石遺構2基など多くの遺構が検出された。既報告の国道部分と併せると大規模な集落遺跡として位置付けられよう。中期後葉に関してはおそらく径80～100m程の大型弧状・環状規模が想定される。

八ッ場ダム関連の発掘調査では、本遺跡と同様な大規模縄文時代集落跡が複数調査されている。横壁中村遺跡や長野原一本松遺跡、さらに最近では東宮遺跡などで中期～後期の集落遺跡が検出されており、該期集落様相は新たな分布状況を示している。このように吾妻川中流域各河岸段丘上に占地した縄文時代集落は、今後の縄文時代研究に良好な資料を提供することになるだろう。

本章では、町道部分（61区・62区）で調査された縄文時代遺構・遺物の概要や問題点を述べ、総括としたい。しかしながら、町道部分の調査については、住居跡以外に各時期を具体化する遺構は列石遺構1基に止まり、土坑などからの出土遺物は極めて貧弱である。ここでは、

住居跡の概要を述べ、各時期の様相を提示しておきたい。

第1節 各時期の住居跡の様相について

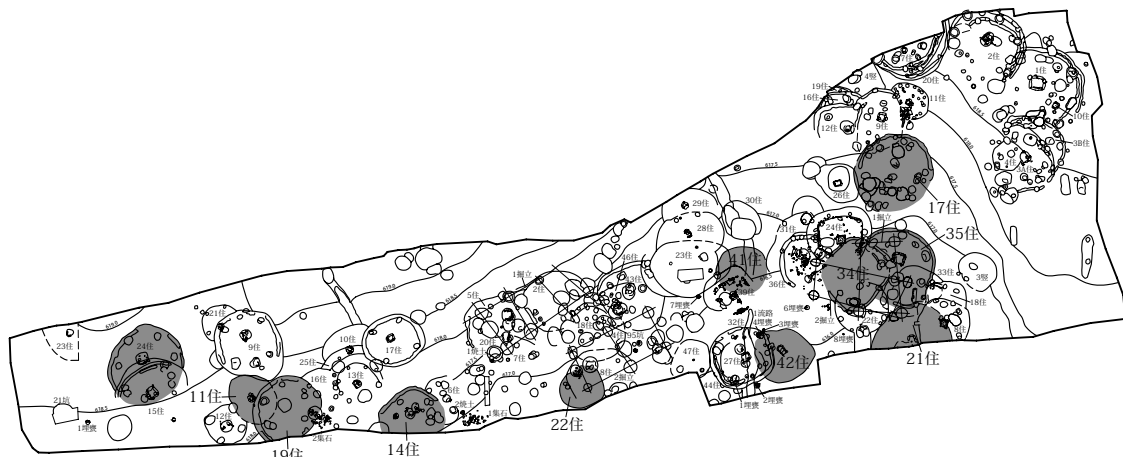
1. 前期～中期前半

国道部分では、前期後半に比定される遺構として、前期初頭に比定される住居跡や諸磯b式期の土坑が見られたが、町道部分では辛うじて、前期初頭の土坑（62区21号土坑）が検出されたが、全容が窺える例では無く、判然としない。

中期前半の遺構・遺物に関しても、国道部分では、幾つかの土坑が検出されたが、町道部分では遺構外出土例が多く、遺構に伴う遺物は見られなかった。前期遺構、中期前半の遺構に関しては、調査区域外への延長を想定するべきであろう。東に接する林中原Ⅰ遺跡では前期住居跡や阿玉台Ⅱ式期の住居跡が少数ながら報告されており、林中原Ⅱ遺跡は該期居住域からは外れていると考えられよう。

2. 中期中葉末～後葉前半段階の住居跡

勝坂3式～加曾利Ⅱ式段階に比定された住居跡配置を提示した（第359図）。中葉末としては61区21号住と62区22号住が該当し少数分布である。主体は後葉前半段階の住居跡で、61区17号住、34号住、37号住、41号住、42号住、62区11号住、14号住、19号住、24号住が挙げられる。国道部分では、当該期の土坑が一定数見受けられ、焼骨の出土を報告しており、筆者も墓域として位置付けた経緯がある。しかしながら、当該期における同様な土坑は町道部分では確認できず、住居跡群が調査されてい



第359図 61区・62区 中期中葉～後葉前半段階の住居跡配置

る。おそらく、町道部分は墓域としてではなく、居住域として選ばれた地点と捉えられよう。住居跡は国道部分より多く検出されており、居住域の広がりや北側へ延びる様相を示している。

住居跡は不整円形を平面形とし、中央部に地床炉あるいは石囲い炉を設ける。若干地床炉への傾向が強いが、61区35号住や42号住のように安定した石囲い炉を設ける例もあるため、確定的ではない。埋甕など出入口施設は設けてはいないが、方形の石囲い炉や17号住のような楕円状地床炉などの在り方から、住居主軸は意識されており、おそらく南側に出入口が設けられていたと思われる。

3. 中期後葉後半段階の住居跡

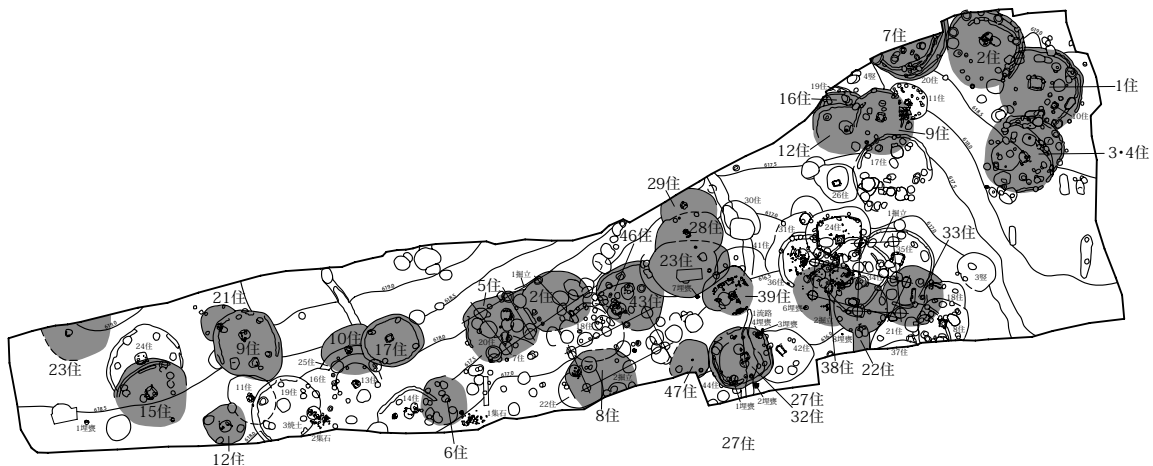
加曾利EⅢ式段階の住居跡が主体となる。出土土器は関東系の加曾利EⅢ式その他、「郷土式」や「唐草文系土器」、曾利2式・3式、あるいは「屋代類型」など信州系の土器が組成を占める。この信州系の土器群は加曾利EⅢ式新段階には客体的な存在となり、加曾利EⅣ式には稀少な存在となる。当地域では敷石住居跡が出現する時期にあたり、土器群の組成と住居跡構造の変化の解明が今後の課題となっている。

本遺跡では集落のピークを迎える(第360図)。町道部分の調査区全面を覆うような配置を見せ、61区3号住や7号住・20号住などに見るように、1軒の住居跡でも拡張痕跡が見出せる例など頻繁な居住が看取される。定住生活の恒常化といえよう。中期後葉前半段階の住居占地傾向からさらに広がりを見せた様相を示す。前に報告した51区、52区の同時期の住居跡分布と併せると、大規模な集落跡となり、環状集落と考えても、径80m以上の規模となる。環状集落としたら、北側にあたる箇所と位置

付けられよう。調査された主な住居跡としては、61区1～4号住、7号住、9号住、12号住、27号住、62区2号住、5号住、8号住、9号住、12号住、17号住、15号住などが挙げられるように住居跡は調査区全域に分布するが、北東端の1～4号住や7・9号住は他の住居跡より斜面上にあり、住居群としては別の一群の可能性もある。みかけ状の環状集落とはいえ、外郭を形成する一群も想定できよう。該期の住居跡は円形あるいは不整円形の平面形を呈し、掘り込みも深くしっかりとした住居跡が目立つ。石囲い炉が主体となり、主軸線上に奥壁柱穴や出入口埋甕が設置されるようになる。61区27号住や62区17号住は極めて整った形態を示す。また61区9号住、33号住、62区9号住のように、住居跡からの出土遺物が豊富な例が多く、膨大な土器・石器量を得ている。土坑も円形土坑の多くが当該期と考えているが、破片出土例が多く確定性に乏しいため、ここでは言及は控えたい。おそらく、住居の近縁に選地された貯蔵穴群と想定している。

また前述のように当地域では、中期後葉末期(加曾利EⅢ式新段階)になると、住居群の一部に敷石住居が出現してくる。本遺跡町道部分では、61区22号住や39号住が該当する。39号住は蓋石がされた出入口部埋甕を持ち、床面北側に敷石を設ける。出入口部は張出していないが、おそらくある程度の突出部が存在していたと考えられる。また、22号住は出入口部の石囲い施設を持ち、加曾利EⅣ式期にまで下る可能性もある。しかし出土土器の大半が加曾利EⅢ式あるいは「郷土式」のため本段階においている。出入口部の張出しが際立つ。

おそらく、この加曾利EⅢ式新段階に、生活様式一居住形態の変化が生じたと考える。敷石住居への居住が端



第360図 61区・62区 中期後葉後半段階の住居跡配置

的な例だが、信州系土器の客体化なども土器組成上重要な変化である。反面、石器組成は打製石斧・敲石・磨石類が多く出土しており、植物性食料を主とした生活基盤の変化が要因では無いと考える。また、短期間の劇的な変化ではなく、EⅢ式新段階からEⅣ式段階あるいは称名寺式段階の間に徐々に居住形態と保有土器の変化が果たされていったと思われる。このことから、長期的な変化としては、強制力の弱い儀礼に関わる価値観の変化―例えば、住居出入口部に対する意識の変化が敷石住居への傾斜を強め、それに伴い関東的な土器組成変化が併行したのではないかと考えている。

また、61区・62区ではこの段階に比定される掘立柱建物跡が検出されている。柱穴と住居跡の新旧関係から、時期を中期後葉末～中期末葉と幅広く捉えたが、調査方法から制約が多く確定的ではない。

4. 中期末葉～後期初頭段階の住居跡

加曾利EⅣ式から称名寺式の段階である。配置図(第361図)は敷石住居跡を中心に図示した。住居跡数は中期後葉に比して激減しており、配置を図示した住居としては、61区8号住、11号住、18号住、24号住、26号住、30号住、36号住、62区13号住が挙げられる。また、加曾利EⅢ式新段階とした61区22号住と39号住も、敷石住居跡として参考にするため再度掲載した。

配置は62区13号住を除き、東側への偏りが顕著である。これは、前冊で報告した51区・52区の該期遺構配置の傾向と同様であり、中期後葉で台地全体に広がっていた集落域が、住居軒数を減じながら、東側へ集中する動きが看取されよう。また、51区・52区の該期住居跡群の一部も51区1号列石に沿う占地状況を示す。本書で報告した

1号列石も、第329図に示したように39号住や24号住、8号・18号住にその走行が敷石住居跡と関連した様相を示す。

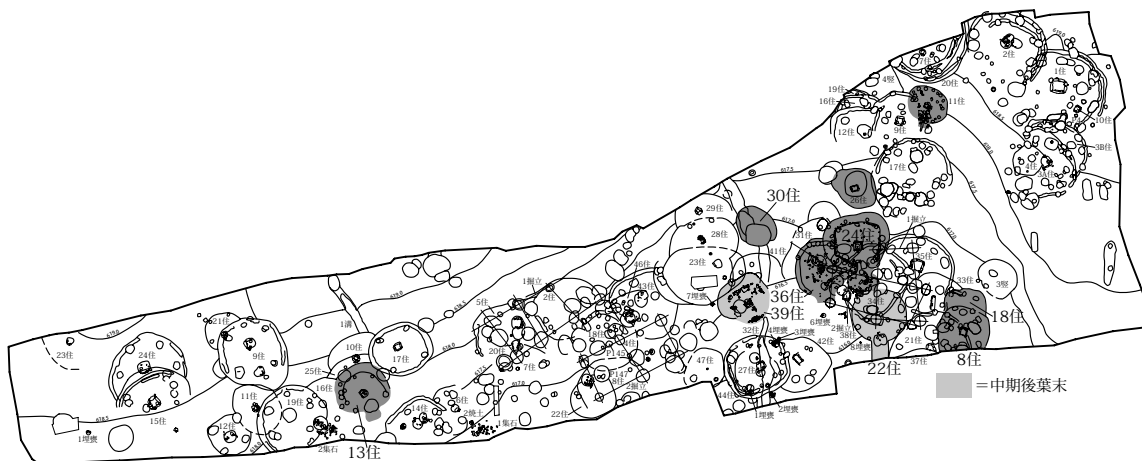
また配置した住居跡の殆どが敷石住居跡であるが、61区26号住と30号住は、敷石を設けず、小型の不整楕円形を平面形としている。本文中では、炬を持つが柱穴を有さないことから、竪穴状遺構としての位置付けも可能と示唆した。通常の居住施設ではない、小型住居の可能性もあるだろう。

以上のように、林中原Ⅱ遺跡61区・62区(町道部分)で調査された縄文時代住居跡について、大まかな時期を設け概観した。本来ならば、さらに細別時期を設定し、51区・52区の住居跡群などの遺構群を加えて、林中原Ⅱ遺跡縄文時代集落の性格に迫るべき資料群なのだが、時間の制約と編者の力量不足のため、町道部分の様相を提示するに止まる。ご容赦願いたい。362図に中期後半に限った住居の配置を概観し、環状集落あるいは弧状集落の可能性を示唆しておきたい。51区に中央土坑群が設けられ、住居配置は馬蹄形を想定した。また、61区北東部の住居跡群や林中原Ⅰ遺跡における中期集落跡は範囲外になる。あるいは集落規模が更に大きくなる可能性もあり、周辺調査の進展を期待したい。

第2節 出入口部埋襲について

前節で述べたように、林中原Ⅱ遺跡は縄文時代中期後葉に集落のピークを迎え、大規模な環状集落を吾妻川上位段丘に展開した中期集落跡である。

当地域の中期後葉集落跡を構成する住居跡の一部に



第361図 61区・62区 中期末葉～後期初頭段階の住居跡配置



第362図 林中原Ⅱ遺跡中期後葉住居跡配置図 (51・52・61・62区)

は、出入口埋甕を設ける例が知られる。関東地方や信州地域でも、該期住居跡に出入口埋甕は普遍的に見られており、特筆する住居内施設ではない。しかしながら、その用途など性格については、未だ確定した論が提示されていない。これは内容物分析の様々な問題もさることながら、各地域の出入口埋甕の様相がまとめられていないせいでもある。群馬県でも該期住居跡の施設として出入口部埋甕が報告された例は数多い。これらの類例を集め、埋甕の性格を明らかにしていくべきである。

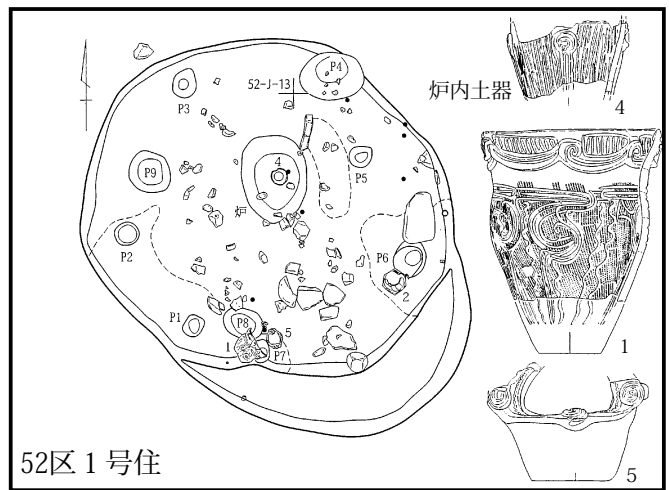
本節では、そのような分析作業の一助になるべく、本遺跡で検出された埋甕の幾つかを列挙することで、基礎作業の一つとしたい。

提示にあたっては、図示は第1分冊で報告した出入口埋甕の主たる例を挙げる。本書で報告した埋甕は住居番号で検索してもらいたい。

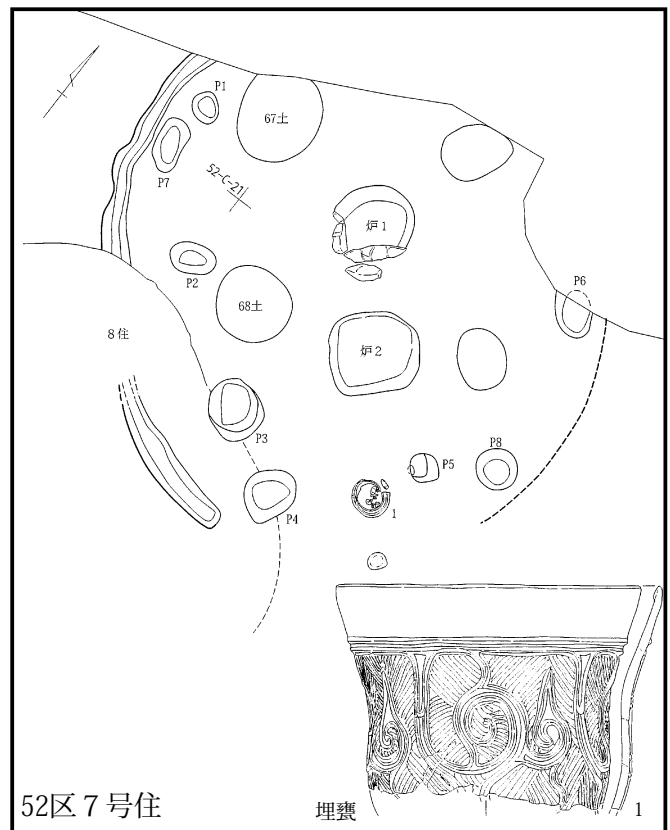
51区1号住居跡（第363図上）：加曾利EⅡ式古段階に比定されている。南側の壁際に横位に置かれた深鉢（1）と釣り手土器（7）が出土している。その他に、伏甕（2）や立石も東壁～東南壁際で出土しており、報告書では廃屋儀礼に伴う所産と推定している。厳密な出入口部埋甕ではないが、楕円状の炉跡長軸の延長上にあり、主軸線上に位置する。南壁周辺の儀礼痕跡の可能性が高い。本書に掲載した62区14号住が時期的には近い位置にある。大型深鉢体部下半を供した埋甕が検出されているが、炉跡の西～南西側に位置し、出入口施設の可能性は弱い。おそらく、この段階では出入口埋甕が住居施設として定着はしていないが、出入口周辺の儀礼行為、埋甕風習は行われていたと考えられよう。

52区7号住居跡、52区17号住居跡（第363図中・下）：図示した埋甕は兩個体とも「郷土式」であるが、おそらく、加曾利EⅢ式古段階に併行する例と考える。2例とも南東壁際に大型深鉢が埋甕として供されていたが、7号住1は逆位に17号住1は正斜位に設けられていた。また7号住は埋甕南に立石があり、52区1号住と同様な性格も想定されよう。本書では61区2号住、62区6号住、15号住が該当しよう。また、61区32号住はやや新しい加曾利EⅢ式中段階併行の埋甕が多出する住居跡として、注意を要する。

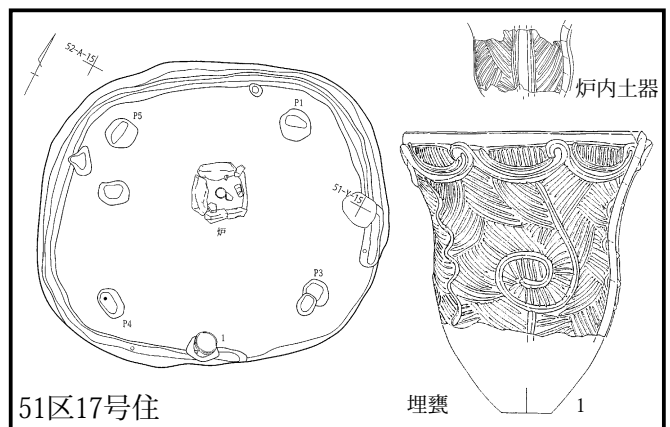
林中原Ⅱ遺跡では、加曾利EⅢ式段階になると確実に出入口施設としての埋甕が定着していると捉えられよ



52区1号住



52区7号住



51区17号住

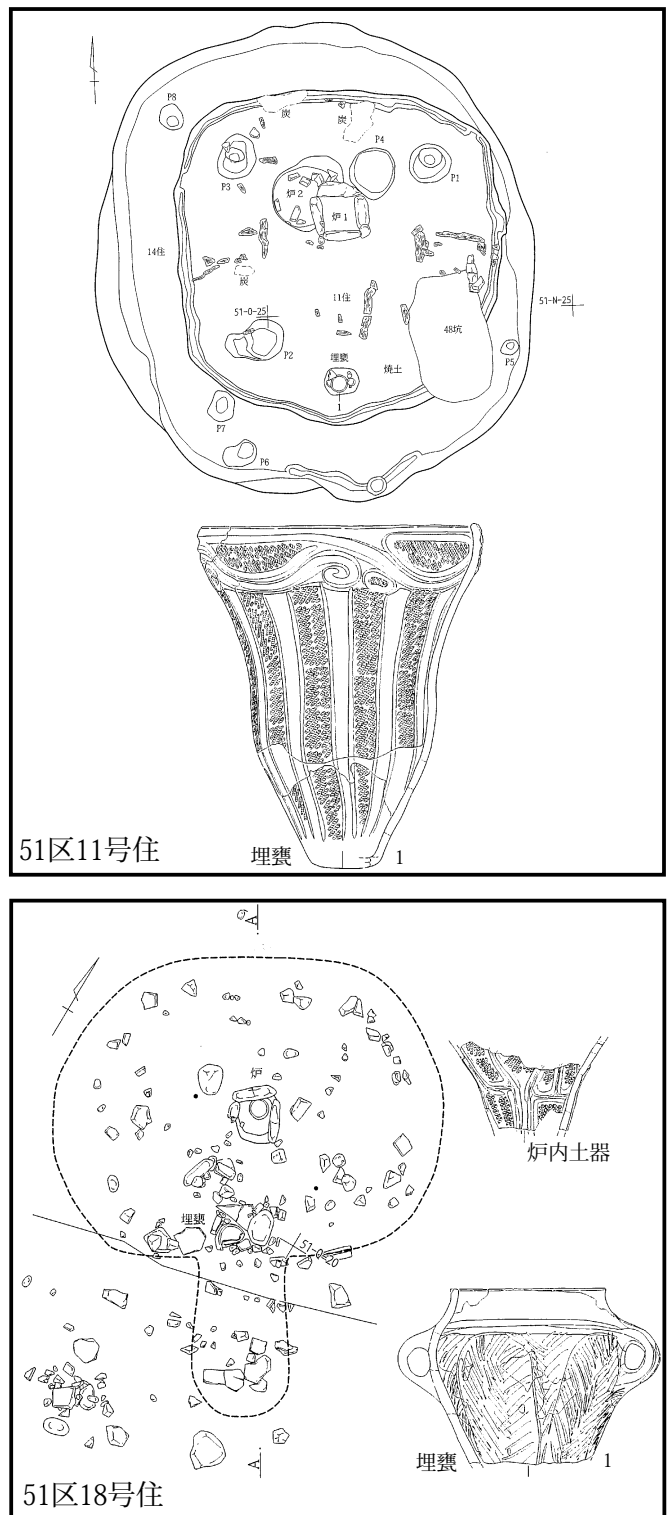
第363図 林中原Ⅱ遺跡51・52区出入口埋甕諸例（1）

う。さらに、本書で掲載した61区32号住のように、3基の埋甕が設けられ、住居外とはいえ近接して埋設土器4基が集中する様相は、埋甕、埋設土器が単純な性格ではないことが理解されよう。

51区11号住居跡（第364図上）：加曾利Ⅲ式新段階の大型深鉢が逆位埋甕として設けられていた。規模を縮小した住居であり、出入口部が僅かながら突出する平面形を示す。この形態の住居跡は、稀ながら当地域の加曾利Ⅲ式新段階の住居跡に見られ、敷石住居跡の前駆形態とも言われている。本書でもこの段階の出入口部埋甕を多く扱ったが、61区39号住の平面形が典型例として位置付けられよう。39号住は張出部が判然としないが、敷石住居跡であり、埋甕上位に蓋石状に板石が複数置かれていた。両脇にピットも開いており小規模ながら対ピットとして捉えられる。加曾利Ⅲ式新段階においては、確実に出入口部埋甕が、敷石住居張出部の基点となる様相を示している。一方その他の該期住居跡の埋甕は張出部の様相を示していないが、住居群の内部で張出部を持つ例と持たない例が共存する段階と考えられよう。

51区18号住居跡（第364図下）：報告では中期後葉末～末葉と位置付けた。炉内土器に古手の様相があるが他は加曾利Ⅳ式を主とし、埋甕1は「郷土式」の新相を呈する両耳壺である。張出部など推定線だが、連結部対ピットも検出されており、敷石住居跡として捉えられよう。また本書では、61区36号住がこの段階の住居跡であろう。出入口埋甕として、加曾利Ⅳ式の壺（1）と深鉢体部下半（4）が設けられていた。南側の壁が検出できなかったため、張出部の有無が判然としないが、おそらく敷石住居跡として把握できよう。加曾利Ⅲ式段階では、出入口埋甕は深鉢を主な器種としていたが、加曾利Ⅳ式段階では、両耳壺などが充てられる様相も垣間見えよう。

以上のように、本遺跡の中期住居跡内の出入口埋甕を概観した。加曾利Ⅲ式古段階～新段階の住居跡に安定的に見られる様相が把握されたが、既に加曾利Ⅱ式段階に南側壁周辺の儀礼に端を発し、加曾利Ⅲ式新段階には、敷石住居への変化の道程に埋甕が関わる様相が把握された。当地域や群馬県西部が敷石住居の初現形態が示される地域として位置付けられているが、その一部を具体化できる資料である。今後も、今日的な縄文時代研



第364図 林中原Ⅱ遺跡51・52区出入口埋甕諸例（2）

究課題を踏まえた調査を続けなければならないだろう。

遺構計測表・遺物観察表

《遺構》

住居跡

計測値： 長軸に直交する短軸を併せた数値を記述した。深さは安定した床面から、平均的な確認面までの数値を記した。壁などが残存していない場合は一で表現した。

方位： 主軸方位を真北からの角度で表した。

施設： 主な施設を記した。

遺物： 主な出土遺物を記した。

土坑・焼土・集石

平面形： 円形・不整円形・楕円状・不整楕円状・長方形・方形・不整方形から選んだ。

計測値： 長軸と短軸は直交位置で計測した。深さは底面から確認面までの距離である。

方位： 長方形、楕円状の形態に限り主軸・長軸方位を記した

《遺物》

出土位置： 挿図に番号が記された遺物は、平面位置と断面位置を記した。

胎土： 土器の夾雑物を記した。混和材としての砂粒が2mm以上を粗砂粒、2mm以下は細砂粒とした。混和材中の特徴的な鉱物粒として、石英、輝石を基準とし、片岩などが含まれた場合も明記した。また、繊維も胎土の一つとして記している。

焼成： 良好な例を標準とし、焼成温度が低く土器胎土が弱い順に、やや良好、脆弱あるいは不良と記した。

色調： 土器の表面色調を優先し、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠したが、色調名を優先し、マンセル値は併記していない。

石材： 石器、石製品の石材名を記した。

計測値： 土器は口径・底径・高さを基準に残存した部位を計測した。1/2以下の復元値は()で記した。破片資料の現存値は記していない。石器は長さ・幅・厚さ・重量を計測し、現存値を()で記した。

文様の特徴： 器形、文様構成を主とした記載で、文様要素や原体を併記した。

備考： 土器は時期の目安として、縄文時代六期区分と区分内の大凡の段階を記した。型式名は本文中に触れた。

表11 遺構計測表

住居跡

住居跡名	長軸	短軸	深さ	方位	グリッド位置	主な重複遺構	出土遺物など
61区1号住居跡	(560.0)	(695.0)	15.0	N-2° -E	61-P・Q-10・11	2・3・10住、6・7・21・39坑	深鉢・石鏃・磨石・敲石・スクレイパー。中期後葉
炉1	129.0	120.0	28.0	N-6° -E	—	—	
炉2	99.0	96.0	50.0	N-22° -E	—	—	
P1=85.0×58.0×65.0	P2=70.0×60.0×60.0	P3=110.0×—×70.0	P4=110.0×85.0×79.0	P5=80.0×70.0×65.0	P6=75.0×60.0×83.0		
P7=105.0×—×71.0	P8=30.0×25.0×20.0	P9=30.0×25.0×19.0	P10=80.0×(45.0)×50.0	P11=(45.0)×65.0×56.0	P12=72.0×50.0×45.0		
P13=100.0×56.0×60.0	P14=55.0×—×65.0	P15=(60.0)×45.0×56.0	P16=80.0×45.0×52.0	P17=60.0×45.0×59.0	P18=25.0×20.0×15.0		
P19=45.0×35.0×15.0							
61区2号住居跡	(640.0)	615.0	40.0	N-21° -E	61-Q・R-10～12	1住	深鉢・壺・石鏃・石鏃・打斧・磨石・敲石。中期後葉中～新
炉	119.0	76.0	53.0	N-34° -E	—	—	
P1=72.0×52.0×96.0	P2=60.0×56.0×95.0	P3=78.0×64.0×116.0	P4=(50.0)×64.0×105.0	P5=68.0×63.0×82.0	P6=90.0×82.0×100.0		
P7=36.0×20.0×22.0	P8=(40.0)×(35.0)×32.0	P9=50.0×42.0×36.0	P10=70.0×56.0×40.0	P11=45.0×40.0×16.0	P12=25.0×25.0×40.0		
P13=46.0×41.0×32.0	P14=32.0×24.0×—	P15=32.0×25.0×30.0	P16=25.0×25.0×34.0	P17=28.0×20.0×40.0	P18=28.0×22.0×38.0		
P19=65.0×58.0×85.0	P20=29.0×26.0×31.0	P21=65.0×57.0×83.0	P22=56.0×(36.0)×45.0	P23=(50.0)×56.0×84.0	P24=36.0×32.0×28.0		
埋葬	48.0	48.0	38.0	—	—	—	
61区3A号住居跡	(560.0)	(590.0)	32.0	N-45° -W	61-P-8・9、Q-8～10	1・10住、37・38坑	深鉢・土製円盤・石鏃・石鏃・打斧・磨石・凹石・敲石。中期後葉
61区3B号住居跡	—	—	25.0	N-45° -W	61-P・Q-9・10		
61区4号住居跡	243.0	226.0	46.0	N-47° -E	61-Q-9		
3A住居	90.0	86.0	40.0	N-46° -W	—		
3B住居	102.0	82.0	31.0	N-68° -W	—	—	
4住居	52.0	51.5	17.0	N-47° -E	—	—	
P1=52.0×40.0×65.0	P2=26.0×(15.0)×16.0	P3=(36.0)×38.0×35.0	P4=48.0×45.0×38.0	P5=34.0×32.0×42.0	P6=55.0×42.0×70.0		
P7=60.0×56.0×50.0	P8=42.0×36.0×37.0	P9=(55.0)×38.0×37.0	P10=66.0×40.0×45.0	P11=60.0×45.0×41.0	P12=55.0×46.0×28.0		
P13=(60.0)×47.0×45.0	P14=43.0×40.0×46.0	P15=60.0×48.0×47.0	P16=40.0×38.0×30.0	P17=33.0×28.0×47.0	P18=23.0×18.0×—		
P19=—×44.0×45.0	P20=42.0×26.0×—	P21=—×46.0×36.0	P22=50.0×(34.0)×42.0	P23=62.0×50.0×45.0	P24=53.0×50.0×42.0		
P25=46.0×30.0×—	P26=(30.0)×28.0×—	P27=30.0×25.0×—	P28=35.0×32.0×62.0	P29=27.0×18.0×—	P30=30.0×(15.0)×—		
P31=(70.0)×54.0×—	P32=40.0×28.0×—	P33=80.0×56.0×—	P34=(40.0)×36.0×—	P35=54.0×54.0×38.0			
埋葬	66.0	52.0	46.0	—	—	—	
61区7号住居跡	585.0	(235.0)	45.0	N-20° -W	61-S・T-11	20住	深鉢・石鏃・打斧・磨石・敲石・石鏃・石皿。中期後葉
炉	60.0	59.0	22.0	N-0°	—	—	
P1=—×30.0×35.0	P2=49.0×34.0×35.0	P3=40.0×39.0×35.0	P4=90.0×—×40.0	P5=(35.0)×35.0×—	P6=55.0×45.0×70.0		
P7=25.0×20.0×—	P8=60.0×55.0×63.0	P9=40.0×38.0×95.0	P10=20.0×15.0×—	P11=(93.0)×58.0×40.0	P12=40.0×(21.0)×—		
P13=29.0×21.0×—	P14=26.0×25.0×55.0	P15=42.0×40.0×60.0					
61区8号住居跡	414.0	(335.0)	52.0	N-6° -E	61-R・S-5・6	18・21住、90・91坑	深鉢・土製円盤・石鏃・石鏃・磨石・磨斧・石棒・軽石。中期末葉～後期初頭
炉	60.0	60.0	36.0	N-7° -E	—	—	
P1=58.0×45.0×55.0	P2=105.0×74.0×50.0	P3=60.0×46.0×80.0	P4=45.0×33.0×79.0	P5=55.0×40.0×60.0	P6=35.0×33.0×70.0		
P7=110.0×75.0×55.0	P8=45.0×37.0×52.0	P9=54.0×—×40.0	P10=45.0×30.0×35.0	P11=38.0×35.0×40.0	P12=48.0×20.0×45.0		
P13=40.0×—×20.0	P14=50.0×39.0×16.0						
61区9号住居跡	(500.0)	(495.0)	80.0	N-13° -E	61-S・T-9・10	11・12・16・17住、4竪	深鉢・壺・土製円盤・石鏃・石鏃・スクレイパー・打斧・磨石・軽石・敲石・石棒。中期後葉
炉1	72.0	80.0	61.0	N-13° -E	—	—	
炉2	46.0	37.0	7.0	N-5° -E	—	—	
P1=62.0×45.0×66.0	P2=35.0×24.0×20.0	P3=55.0×26.0×25.0	P4=36.0×27.0×50.0	P5=54.0×44.0×35.0	P6=44.0×28.0×56.0		
P7=54.0×45.0×65.0	P8=37.0×25.0×36.0	P9=25.0×24.0×55.0	P10=28.0×24.0×12.0	P11=45.0×(33.0)×55.0	P12=26.0×22.0×23.0		
P13=63.0×42.0×58.0	P14=56.0×54.0×74.0	P15=55.0×37.0×50.0					
埋葬	52.0	45.0	38.0	—	—	—	
61区10号住居跡	—	—	—	—	61-P-10	1住	土器片。時期不明
炉	56.0	50.0	22.0	N-37° -E	—	—	
P1=17.0×14.0×13.0	P2=35.0×32.0×32.0	P3=35.0×30.0×45.0	P4=35.0×32.0×52.0				
61区11号住居跡	(295.0)	325.0	40.0	N-21° -E	61-S-10	9住	深鉢・石鏃・打斧・スクレイパー。後期初頭
炉	78.0	54.0	18.0	N-34° -E	—	—	
P1=20.0×20.0×10.0	P2=30.0×26.0×20.0	P3=25.0×25.0×33.0	P4=21.0×20.0×30.0	P5=25.0×20.0×35.0	P6=25.0×15.0×15.0		
P7=25.0×19.0×30.0	P8=22.0×22.0×15.0	P9=26.0×19.0×20.0	P10=20.0×19.0×10.0				
61区12号住居跡	(460.0)	—	88.0	N-0°	61-T・U-9・10	9住、4竪、2流路	深鉢・壺・石鏃・石鏃・スクレイパー・打斧・磨石・敲石・石皿。中期後葉
61区16号住居跡	—	—	—	—	61-T・U-10		
61区19号住居跡	—	—	—	—	61-T・U-10		
炉	106.0	106.0	49.0	N-0°	—	—	
P1=75.0×60.0×43.0	P2=62.0×54.0×42.0	P3=56.0×48.0×20.0	P4=70.0×50.0×38.0	P5=32.0×(24.0)×—	P6=46.0×34.0×48.0		
P7=28.0×20.0×—	P8=28.0×25.0×—	P9=58.0×36.0×55.0					
61区17号住居跡	—	655.0	55.0	N-43° -W	61-S・T-8・9	9・26住、51～55坑	深鉢・石鏃・石鏃・磨石・打斧・多孔石。中期中葉末
炉	80.0	59.0	6.0	N-43° -W	—	—	
P1=50.0×50.0×35.0	P2=40.0×35.0×50.0	P3=45.0×40.0×35.0	P4=50.0×45.0×45.0	P5=55.0×55.0×55.0	P6=45.0×40.0×30.0		
P7=70.0×47.0×65.0	P8=55.0×50.0×60.0	P9=35.0×30.0×33.0	P10=70.0×48.0×55.0	P11=30.0×30.0×65.0	P12=50.0×45.0×65.0		
P13=45.0×35.0×—	P14=52.0×38.0×50.0	P15=35.0×30.0×50.0	P16=33.0×27.0×—	P17=55.0×50.0×—	P18=50.0×25.0×—		
P20=26.0×25.0×60.0	P21=56.0×50.0×30.0	P22=55.0×55.0×—	P23=65.0×45.0×—	P24=25.0×20.0×—	P25=50.0×45.0×—		
P26=40.0×30.0×—	P27=65.0×50.0×—	P28=75.0×72.0×50.0	P29=82.0×58.0×35.0	P30=35.0×33.0×35.0	P31=45.0×38.0×—		

遺構計測表

住居跡名	長軸	短軸	深さ	方位	グリッド位置	主な重複遺構	出土遺物など
61区18号住居跡	—	320.0	85.0	N-0°	61-R・S-6	8、33住	土器片・石鏃・スクレイパー。
炉	—	—	(13.0)	—	—	—	中期後葉～末葉
P1=36.0×34.0×80.0	P2=40.0×28.0×20.0	P3=45.0×30.0×62.0	P4=40.0×(20.0)×54.0				
61区20号住居跡	—	680.0	34.0	—	61-R-11・12、S・T-11	7住	土器片。期中中葉
炉	—	—	—	—	—	—	—
P1=30.0×22.0×18.0	P2=29.0×23.0×—						
61区21号住居跡	—	640.0	60.0	N-6°-W	61-R～T-5・6	8・18・22・33・37住、62坑、1・	土器片・打斧。期中中葉末
炉	(53.0)	(57.0)	14.0	N-10°-W	—	2掘立	—
P1=52.0×(40.0)×20.0	P2=43.0×40.0×20.0	P3=39.0×34.0×35.0	P4=34.0×(23.0)×20.0	P5=46.0×40.0×36.0	P6=21.0×15.0×31.0		
P7=65.0×40.0×53.0	P8=(27.0)×30.0×38.0						
61区22号住居跡	(580.0)	420.0	25.0	N-0°	61-T-5～7、U-6	22・34住、1・2掘立	深鉢・石鏃・打斧・磨石・石棒・凹石・台石・垂飾。中期後葉
炉	110.0	70.0	40.0	N-12°-W	—	—	—
P1=40.0×38.0×30.0	P2=55.0×45.0×75.0	P4=—×30.0×40.0	P5=(65.0)×47.0×55.0	P6=50.0×38.0×45.0	P7=48.0×41.0×65.0		
P9a=60.0×50.0×20.0	P9b=60.0×58.0×25.0	P10=—×—×10.0	P11=25.0×20.0×12.0	P12=25.0×20.0×10.0	P13=35.0×25.0×10.0		
61区23号住居跡	635.0	—	40.0	N-81°-E	61-W・X-6・7	28・39・41・43住	深鉢・石鏃・磨石・多孔隙。中期後葉
炉	66.0	63.0	17.0	N-31°-W	—	—	—
P1=(50.0)×(18.0)×34.0	P2=50.0×43.0×24.0	P3=53.5×52.0×33.0	P4=34.0×33.5×18.0	P5=37.0×34.5×15.0			
埋葬	54.0	50.0	17.0	—	—	—	—
61区24号住居跡	600.0	515.0	70.0	N-3°-W	61-T・U-7・8	3・34～36住、61・64・70・86坑	深鉢・土製円盤・石鏃・石錐・磨石・打斧・磨石・敲石・石棒・スクレイパー。後期初頭
炉	70.0	70.0	42.0	N-13°-W	—	—	—
P1=37.0×35.0×65.0	P2=52.0×42.0×62.0	P3=56.0×54.0×84.0	P4=(25.0)×41.0×55.0	P5=25.0×24.0×15.0	P8=25.0×20.0×30.0		
P9=28.0×20.0×49.0	P10=30.0×27.0×10.0	P11=32.0×30.0×51.0	P12=35.0×(25.0)×50.0	P13=45.0×45.0×55.0	P14=50.0×40.0×50.0		
P15=82.0×41.0×25.0	P17=40.0×37.0×53.0	P18=—×34.0×23.0	P19=—×35.0×15.0	P20=40.0×25.0×70.0	P21=25.0×21.0×50.0		
P22=32.0×25.0×60.0	P23=35.0×28.0×35.0	P24=32.0×20.0×45.0					
61区26号住居跡	310.0	293.0	40.0	N-11°-W	61-T・U-8・9	17住、45・56・57坑	土器片・石鏃・スクレイパー・凹石・磨石。後期初頭
炉	76.0	62.0	30.0	N-75°-E	—	—	—
61区27号住居跡	(375.0)	328.0	30.0	N-26°-W	61-V・W-4・5	32・42・44住、1流路	深鉢・打斧・磨石・敲石。中期後葉
炉1	73.0	67.0	22.0	N-40°-W	—	—	—
炉2	68.0	68.0	28.0	N-25°-W	—	—	—
P1=32.0×32.0×43.0							
61区28号住居跡	530.0	—	29.0	N-29°-W	61-W・X-7・8	23・29住	深鉢・石鏃・石錐・磨石・打斧・敲石。中期後葉
炉	76.0	70.0	26.0	N-27°-W	—	—	—
P1=40.0×32.0×28.0	P2=70.0×66.0×36.0	P3=60.0×(50.0)×40.0	P4=28.0×23.0×15.0	P5=38.0×31.0×30.0	P6=62.0×34.0×26.0		
埋葬	30.0	29.0	12.0	N-13°-W	—	—	—
61区29号住居跡	443.0	—	20.0	N-28°-E	61-W・X-8	28住	深鉢・石鏃・磨石・打斧・軽石。中期後葉
炉	59.0	50.0	30.0	N-50°-W	—	—	—
P1=35.0×31.0×10.0							
埋葬	17.0	18.0	21.0	N-12°-W	—	—	—
61区30号住居跡	345.0	280.0	29.0	N-0°	61-V・W-7・8	59坑	深鉢・石鏃・石錐。後期初頭
炉	(48.0)	62.0	8.0	N-8°-E	—	—	—
61区31号住居跡	—	—	40.0	N-0°	61-U-8、V-7・8	36住、63・75坑	深鉢・石鏃・打斧・磨石。時期不明
炉	—	—	—	—	—	—	—
P1=30.0×25.0×—	P2=35.0×31.0×25.0						
61区32号住居跡	500.0	465.0	36.0	N-25°-W	61-V・W-4～6	27・42・44住、P141、1流路	深鉢・浅鉢・石鏃・打斧・磨石・敲石・凹石・多孔隙・軽石・スクレイパー。中期後葉
炉	82.0	80.0	30.0	N-22°-W	—	—	—
P1=62.0×55.0×43.0	P2=34.0×26.0×50.0	P3=40.0×33.0×40.0	P4=40.0×39.0×19.0	P5=21.0×20.0×15.0	P6=35.0×25.0×55.0		
P7=15.0×13.0×10.0	P8=25.0×15.0×29.0	P9=30.0×20.0×23.0	P10=50.0×30.0×30.0	P11=68.0×(40.0)×35.0	P12=25.0×20.0×20.0		
P13=(20.0)×22.0×30.0	P14=29.0×22.0×15.0	P15=40.0×35.0×17.0	P16=40.0×30.0×18.0				
埋葬1	44.0	44.0	28.0	N-75°-E			
埋葬2	30.0	30.0	36.0	N-18°-W			
埋葬3	42.0	39.0	34.0	N-65°-E			
61区33号住居跡	—	—	63.0	N-0°	61-S・T-6・7	18・21・22・35住、1掘立	深鉢・石鏃・打斧・石皿・多孔隙・軽石。中期後葉
炉	114.0	—	80.0	N-0°	—	—	—
P2=35.0×28.0×30.0	P3=32.0×32.0×80.0	P5=30.0×30.0×52.0	P7=26.0×25.0×20.0				
61区34号住居跡	563.0	480.0	—	N-34°-E	61-T・U-6・7	22・24・35住、64・69・86坑、1掘立	深鉢・石鏃・打斧・スクレイパー。中期後葉
炉	55.0	45.0	10.0	N-0°	—	—	—
P1=78.0×60.0×50.0	P3=50.0×40.0×75.0	P5=45.0×40.0×48.0	P6=33.0×30.0×20.0	P7=55.0×33.0×20.0			
61区35号住居跡	615.0	—	120.0	N-9°-E	61-S・T-6・7	24・33・34住、65・66・69坑、1掘立	深鉢・石鏃・打斧・石錐・磨石・凹石・石皿・異形石器。期中中葉末
炉	(84.0)	108.0	32.0	N-14°-E	—	—	—
P1=60.0×37.0×30.0	P2=85.0×60.0×58.0	P3=70.0×65.0×69.0	P4=85.0×84.0×40.0	P5=75.0×50.0×60.0	P6=70.0×55.0×54.0		
P7=44.0×30.0×40.0	P8=—×15.0×58.0	P9=20.0×19.0×22.0	P10=80.0×59.0×65.0	P11=(25.0)×35.0×55.0			

遺構計測表

住居跡名	長軸	短軸	深さ	方位	グリッド位置	主な重複遺構	出土遺物など
61区36号住居跡	—	445.0	60.0	N-7° -W	61-U-6・7、V-7	24・31・34・36住、73・82坑、2掘立	深鉢・浅鉢・石鏃・石錐・打斧・軽石。中期後葉末
炉	72.0	48.0	34.0	N-5° -W	—	—	—
P1=35.0×35.0×39.0	P2=40.0×35.0×35.0	P3=32.0×30.0×44.0	P4=29.0×25.0×35.0	P5=53.0×50.0×45.0	P6=45.0×33.0×—		
P8=25.0×20.0×42.0	P9=40.0×30.0×25.0	P10=35.0×30.0×33.0	P11=36.0×30.0×28.0	P12=30.0×—×27.0	P13=25.0×—×25.0		
P14=20.0×15.0×21.0	P15=18.0×15.0×20.0						
埋葬	52.0	46.0	22.0	N-54° -W			
61区37号住居跡	—	—	—	—	61-S・T-5	21住	土器片。中期後葉か
炉	—	—	—	—	—	—	—
61区38号住居跡	—	(410.0)	20.0	N-0°	61-T・U-6・7	22・24・34・36住、82～86坑、6埋葬	土器片・石鏃・磨石・多孔石。中期後葉か
炉	72.0	64.0	21.0	N-3° -E	—	—	—
P1=44.0×34.0×50.0	P2=38.0×35.0×45.0	P3=30.0×25.0×40.0	P4=30.0×28.0×25.0	P5=45.0×38.0×55.0	P6=35.0×35.0×35.0		
P8=—×32.0×30.0	P9=40.0×31.0×22.0						
61区39号住居跡	405.0	370.0	50.0	N-42° -W	61-V・W-6・7	23・41住、80・81坑	深鉢・石鏃・石錐・打斧・軽石・凹石・多孔石・石匙。中期後葉
炉	60.0	58.0	24.0	N-32° -W	—	—	—
P1=35.0×26.0×45.0	P2=42.0×40.0×60.0	P3=25.0×21.0×35.0	P4=35.0×23.0×5.0	P5=37.0×34.0×20.0	P6=30.0×25.0×40.0		
P7=25.0×16.0×30.0	P8=28.0×22.0×28.0	P9=45.0×43.0×22.0	P10=29.0×25.0×50.0	P11=25.0×20.0×35.0			
埋葬	44.0	30.0	34.0	N-8° -W			
80号土坑	53.0	50.0	70.0				
61区41号住居跡	—	(392.0)	15.0	N-0°	61-V・W-7	23・39住	深鉢・磨斧・多孔石。中期後葉
炉	—	—	—	—	—	—	—
P1=32.0×27.0×—	P2=34.0×30.0×42.0	P3=(35.0)×33.0×35.0	P4=33.0×31.0×35.0				
61区42号住居跡	—	410.0	33.0	N-42° -W	61-U・V-5	27・32住、4埋葬	深鉢・石鏃・磨石・石皿・多孔石。中期中葉末
炉	80.0	56.0	20.0	N-46° -W	—	—	—
P1=59.0×37.0×50.0	P2=—×40.0×33.0	P3=25.0×24.0×19.0	P4=41.0×24.0×18.0	P5=46.0×40.0×53.0	P6=60.0×58.0×36.0		
P7=35.0×23.0×30.0	P9=40.0×33.0×45.0	P10=45.0×38.0×43.0					
61区43号住居跡	553.0	(393.0)	35.0	N-36° -W	61-X・Y-6・7	4・23・40・46住、2掘立	
炉1	74.0	(62.0)	25.0	N-85° -E	—	—	土器片・石鏃・スクレイパー・打斧・石皿。中期後葉
炉2	94.0	(80.0)	34.0	N-90° -E	—	—	—
炉3	86.0	74.0	10.0	N-14° -W	—	—	—
P1=46.0×40.0×54.0	P2=50.0×45.0×75.0	P3=68.0×62.0×73.0	P4=62.0×62.0×65.0	P5=50.0×42.0×35.0	P6=22.0×18.0×—		
P7=23.0×(16.0)×—	P8=36.0×24.0×—	P9=40.0×32.0×52.0	P10=(20.0)×15.0×—	P11=23.0×(20.0)×—	P12=45.0×43.0×74.0		
P13=(15.0)×16.0×—	P14=30.0×27.0×—	P15=45.0×45.0×35.0	P16=38.0×22.0×—	P17=25.0×20.0×—	P18=40.0×40.0×38.0		
P19=38.0×30.0×—							
61区44号住居跡	—	—	27.0	N-0°	61-V-4、W-4・5	27・32住、87・88坑	深鉢。中期後葉
炉	—	—	—	—	—	—	—
P1=32.0×—×12.0	P2=66.0×—×24.0	P3=35.0×—×10.0					
61区45号住居跡	—	—	—	—	—	—	土器片・石鏃。時期不明
炉	—	—	—	—	—	—	—
61区46号住居跡	—	—	—	N-22° -W	61-X・Y-6	4・40・43住	深鉢・打斧。中期後葉
炉	111.0	90.0	30.0	N-24° -W	—	—	—
埋葬1	54.0	53.0	32.0	N-4° -W			
埋葬2	38.0	32.0	14.0	N-13° -E			
埋葬3	(44.0)	(40.0)	12.0	N-67° -E			
61区47号住居跡	—	(315.0)	18.0	N-21° -E	61-W・X-5	111坑	深鉢・石鏃。中期後葉
炉	46.0	40.0	12.0	N-24° -W	—	—	—
P1=(35.0)×28.0×22.0							
埋葬	50.0	44.0	12.0	N-58° -E			
61区48号住居跡	—	—	—	—	—	—	土器片・石鏃。時期不明
炉	—	—	—	—	—	—	—
62区2号住居跡	(520.0)	(480.0)	50.0	N-66° -E	62-A・B-6・7	4・5・18住、14・18・20坑、1掘立	深鉢・ミニチュア土器・土製円盤・石鏃・石錐・打斧・軽石・磨石・多孔石。中期後葉～末葉
炉	130.0	108.0	16.0	N-72° -W	—	—	—
P1=45.0×40.0×40.0	P2=35.0×30.0×35.0	P3=43.0×32.0×65.0	P4=25.0×20.0×—	P5=42.0×25.0×60.0	P6=(25.0)×25.0×—		
P7=28.0×22.0×18.0	P8=40.0×40.0×65.0	P9=20.0×20.0×—	P10=32.0×22.0×—	P11=40.0×36.0×33.0	P12=40.0×40.0×28.0		
P13=70.0×55.0×42.0	P14=(25.0)×34.0×—	P15=26.0×25.0×—	P16=—×55.0×45.0	P17=36.0×30.0×—	P18=(55.0)×(55.0)×23.0		
P19=40.0×37.0×25.0	P20=(28.0)×26.0×—						
62区3号住居跡	—	—	—	—	—	2・4・8住	深鉢・石鏃。中期後葉
炉	—	—	—	—	—	—	—
62区4号住居跡	475.0	—	29.0	N-0°	61-Y-5・6、62-A-5・6	61区40・43・46住、2・8住、61区89・93・95・100・101坑、30・32坑、2掘立	深鉢・石鏃。中期後葉
炉	84	—	21.0	N-22° -W	—	—	—
P1=25.0×23.0×20.0	P2=27.0×20.0×20.0	P3=41.0×26.0×23.0	P4=(60.0)×40.0×21.0	P5=38.0×26.0×40.0			
62区5号住居跡	—	—	40.0	N-12° -W	62-B・C-5・6	2・20住	深鉢・石鏃・打斧・石皿。中期後葉
炉1	—	93.0	20.0	N-0°	—	—	—
炉2	108.0	98.0	26.0	N-0°	—	—	—
P1=44.0×—×30.0	P2=32.0×25.0×16.0	P3=40.0×35.0×13.0	P4=45.0×—×55.0	P5=25.0×24.0×18.0	P6=41.0×25.0×—		
P7=—×30.0×—	P8=24.0×—×—	P9=40.0×35.0×33.0	P10=50.0×45.0×23.0	P11=(80.0)×85.0×70.0	P12=29.0×24.0×—		
埋葬	40.0	38.0	12.0	N-16° -W			

遺構計測表

住居跡名	長軸	短軸	深さ	方位	グリッド位置	主な重複遺構	出土遺物など
62区6号住居跡	380.0	—	25.0	—	62-C・D- 4・5	14住、26・27坑、2焼土	深鉢・石鏃・石錐・石匙・打斧・磨石。中期後葉
炉	60.0	(50.0)	30.0	N-43° -E	—	—	—
P1=42.0×35.0×18.0	P2=42.0×38.0×18.0	P3=64.0×55.0×33.0	P4=50.0×40.0×26.0				
埋裏	55.0	43.0	30.0	—	—	—	—
62区7号住居跡	—	—	30.0	N- 0°	62-B- 5	20住	深鉢。中期中葉末
炉	—	—	—	—	—	—	—
P1= — ×43.0×50.0	P2=49.0× — ×35.0	P3=40.0×40.0×65.0	P4=42.0×39.0× —	P5=35.0×33.0×48.0			
62区8号住居跡	525.0	—	20.0	N-24° -W	61-Y- 4・5、62-A- 4・5	61区40住、4・22住、61区	深鉢・石鏃・石核・磨石・スクレイパー。中期後葉中頃
炉	88.0	88.0	32.0	N-20° -W	—	100・101坑、17・42坑、2掘立	—
埋裏	64.0	64.0	51.0	N-34° -E	—	—	—
62区9号住居跡	530.0	500.0	45.0	N-16° -W	62-G・H- 5・6	21住、48坑	深鉢・土製円盤・石鏃・石錐・スクレイパー・打斧・磨斧・磨石・石皿。中期後葉
炉	90.0	71.0	38.0	N-83° -E	—	—	—
P1=43.0× — ×42.0	P2=38.0×33.0×45.0	P3=47.0×35.0×40.0	P4=35.0× — ×32.0	P5=45.0×32.0×26.0	P6=62.0×45.0×35.0		
P7=66.0× — ×22.0	P8= — ×70.0×30.0	P9=35.0×28.0×20.0					
埋裏	81.0	74.0	32.0	—	—	—	—
62区10号住居跡	435.0	—	40.0	N-50° -W	62-E・F- 5・6	13・17・25住、1溝	深鉢・石鏃・石錐・打斧・石核・多孔石。中期後葉
炉	60.0	54.0	26.0	N-50° -W	—	—	—
62区11号住居跡	(382.0)	(375.0)	20.0	N- 0°	62-G・H- 4・5	9・12・19住	深鉢・石鏃・打斧。中期後葉古
炉	70.0	57.0	28.0	N-43° -W	—	—	—
62区12号住居跡	336.0	310.0	70.0	N-41° -W	62-G・H- 3・4	11住	深鉢・石鏃・石錐・打斧・敲石・凹石・スクレイパー。中期後葉
炉	196.0	172.0	25.0	N-39° -W	—	—	—
P1=62.0×45.0×35.0	P2=69.0×50.0×35.0	P3=79.0×68.0×53.0	P4=75.0×65.0×40.0				
62区13号住居跡	380.0	330.0	45.0	N-33° -W	62-E・F- 4・5	10・16・17・25住、19・50坑	深鉢・石鏃・石錐・打斧・磨石・敲石・石棒・軽石。中期末葉
炉	63.0	58.0	18.0	N-32° -W	—	—	—
P1=35.0×30.0×40.0	P2=20.0×20.0×45.0	P3=47.0×45.0×50.0	P4=112.0×100.0×54.0	P6=30.0×27.0×50.0	P7=30.0×25.0×60.0		
P8=35.0×31.0×45.0	P9=39.0×30.0×20.0	P10=30.0×29.0×10.0	P11=40.0×25.0×45.0	P12=35.0×35.0×56.0			
62区14号住居跡	—	—	30.0	N-41° -E	62-C ~ E- 4	6住、26 ~ 29坑	—
炉1	80.0	55.0	21.0	N-10° -W	—	—	—
炉2	82.0	76.0	13.0	N-27° -E	—	—	—
炉3	(88.0)	62.0	14.0	N-41° -E	—	—	—
P1=50.0×40.0×35.0	P2=55.0×40.0×15.0	P3=55.0×35.0×25.0	P4=(35.0)×35.0×15.0	P5=35.0×30.0×35.0	P6=55.0×50.0×30.0		
P7=40.0×(20.0)×25.0	P8=56.0×40.0×25.0	P9= — ×25.0×15.0	P10=50.0×47.0×21.0	P11=35.0×30.0×30.0			
62区15号住居跡	635.0	635.0	50.0	N-39° -W	62-H ~ J- 4・5	24住	深鉢・浅鉢・石鏃・石錐・打斧・磨石・凹石・石核・丸石。中期後葉
炉	100.0	92.0	33.0	N-29° -W	—	—	—
P1=55.0×53.0×49.0	P2=33.0×33.0×25.0	P3=55.0×55.0×30.0	P4=59.0×45.0×25.0	P5=58.0×45.0×13.0			
埋裏	75.0	63.0	25.0	N-42° -E	—	—	—
62区16号住居跡	—	—	46.0	—	62-E・F- 4・5	13・19・25住、41坑	深鉢・石鏃・打斧・スクレイパー・磨石。中期後葉
炉	61.0	53.0	16.0	N-36° -W	—	—	—
P1=38.0×32.0×40.0	P2=28.0×28.0×40.0	P3=45.0×38.0×32.0	P4=38.0×35.0×33.0	P5=(38.0)×40.0×20.0			
62区17号住居跡	494.0	408.0	40.0	N-23° -W	62-D・E- 5・6	10・13・25住	深鉢・土製円盤・打斧・磨石・凹石。中期後葉
炉	65.0	58.0	30.0	N-62° -E	—	—	—
P1=30.0×26.0×40.0	P2=50.0×33.0×45.0	P3=48.0×38.0×55.0	P4=45.0×40.0×48.0	P5=(40.0)×34.0×25.0			
62区18号住居跡	—	—	—	N- 0°	61-Y- 6、62-A- 6	4住、95坑	深鉢・磨石・加工痕ある剥片。時期不明
炉	—	—	—	—	—	—	—
P1=42.0×35.0×60.0	P2=31.0×25.0× —	P3=25.0×25.0× —	P4=40.0×38.0×30.0	P5=26.0×25.0×35.0	P6=20.0×20.0× —		
P7=23.0×23.0× —	P8=35.0×30.0×45.0	P9=25.0×20.0× —	P10=76.0×37.0×30.0				
62区19号住居跡	(483.0)	550.0	25.0	N- 6° -W	62-F・G- 3 ~ 5	11・16住、3焼土、2集石	深鉢・浅鉢・石鏃・石錐・打斧・磨石・磨斧・敲石・凹石・軽石。中期中葉末~後葉初頭
炉	108.0	106.0	30.0	N- 5° -W	—	—	—
P1= — ×55.0×38.0	P2=59.0×52.0×40.0	P3=50.0×40.0×33.0	P4=50.0×45.0×45.0	P5=43.0×40.0×39.0	P6= — ×60.0×50.0		
P7=33.0×33.0×35.0	P8=36.0×28.0×39.0						
62区20号住居跡	—	—	—	—	62-B・C- 5・6	5住、22坑	深鉢。時期不明
炉	92.0	56.0	24.0	N- 0°	—	—	—
P1=(40.0)×34.0×24.0	P2=80.0×56.0×40.0						
62区21号住居跡	(286.0)	—	40.0	N-12° -W	62-G- 6、H- 5・6	9住	深鉢・加工痕ある剥片。中期後葉
炉	52.0	50.0	22.0	N- 0°	—	—	—
P1=32.0×25.0×20.0	P2=23.0×20.0×18.0	P3=25.0×18.0×18.0					
62区22号住居跡	350.0	310.0	30.0	N-24° -W	61-Y- 4・5 62-A- 4・5、	8住、61区100坑、42坑、2掘立	深鉢・土製円盤・石鏃・打斧・磨石・多孔石・スクレイパー。中期中葉
炉	—	—	—	—	—	—	—
P1=40.0×30.0×34.0	P2=30.0×25.0×27.0	P3=21.0×21.0×18.0	P4=22.0×20.0×22.0	P5=26.0×24.0×19.0	P6=25.0×20.0×28.0		
P7=55.0×48.0×39.0							
62区23号住居跡	—	(405.0)	15.0	—	62-J・K- 5・6	—	—
炉	53.0	53.0	18.0	N- 0°	—	—	—

遺構計測表

住居跡名	長軸	短軸	深さ	方位	グリッド位置	主な重複遺構	出土遺物など
62区24号住居跡	—	605.0	32.0	—	62-I-5・6、J-4・5	15住	深鉢・石鏃・スクレイパー・打斧・磨石・敲石。中期後葉
炉	96.0	86.0	22.0	N-20° -W	—	—	—
P1=48.0×45.0×30.0	P2=70.0×62.0×35.0	P3=60.0×52.0×38.0	P4=60.0×52.0×38.0	P5=58.0×50.0×38.0	P6=61.0×52.0×36.0		
P7=55.0×(45.0)×36.0	P8=65.0×(46.0)×36.0	P9=50.0×41.0×34.0					
62区25号住居跡	—	—	15.0	N-0°	62-E・F-5	13・16住	深鉢。中期後葉
炉	—	—	—	—	—	—	—
P1=20.0×20.0×16.0							

土坑

遺構名	平面形状	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
61区土坑					
1号土坑	楕円形?	(40.0)	48.0	25.0	B-4
6号土坑	楕円形	103.0	62.0	72.0	P-10
7号土坑	不整楕円形	72.0	52.0	55.0	P-10
10号土坑	楕円形	114.0	72.0	18.0	P-8・9
17号土坑	円形	36.0	34.0	21.0	U-6
18号土坑	楕円形	128.0	74.0	47.0	U-5
19号土坑	楕円形	67.0	37.0	24.0	V-6
20号土坑	不整楕円形	74.0	62.0	14.0	R-10
21号土坑	楕円形	158.0	58.0	16.0	P・Q-10
24号土坑	楕円形	151.0	52.0	24.0	Q-8
37号土坑	不整楕円形	112.0	70.0	39.0	Q-8
38号土坑	楕円形	130.0	108.0	20.0	Q-8・9
39号土坑	不整形	(52.0)	55.0	46.0	P・Q-10
43号土坑	楕円形	98.0	63.0	46.0	T-10・11
44号土坑	楕円形	70.0	40.0	38.0	T-11
45号土坑	不整円形	144.0	124.0	30.0	U-9
51号土坑	不整円形	98.0	98.0	14.0	S-9
52号土坑	不整円形	106.0	90.0	20.0	S-8
53号土坑	不整円形	106.0	104.0	75.0	T-8・9
54号土坑	不整円形	68.0	60.0	25.0	S・T-8
55号土坑	—	—	—	43.0	T-8
56号土坑	楕円形	94.0	68.0	40.0	T・U-8・9
57号土坑	不整楕円形	200.0	—	34.0	U-9
58号土坑	—	—	—	27.0	W-8
59号土坑	楕円形	197.0	167.0	34.0	W・X-7・8
60号土坑	楕円形	120.0	74.0	32.0	X-6
61号土坑	不整円形	92.0	82.0	32.0	U-7
62号土坑	円形	120.0	106.0	74.0	S-6
63号土坑	楕円形	90.0	76.0	28.0	U-8
64号土坑	楕円形	100.0	84.0	26.0	T-7
65号土坑	円形	90.0	87.0	61.0	S-8
66号土坑	不整楕円形	85.0	72.0	22.0	S-7
68号土坑	円形	48.0	44.0	15.0	V・W-9
69号土坑	不整円形	77.0	68.0	12.0	S・T-9
70号土坑	楕円形	110.0	74.0	50.0	U-7
73号土坑	楕円形	104.0	80.0	—	U-7
74号土坑	楕円形	76.0	55.0	80.0	U-7
75号土坑	—	246.0	—	—	U-8
76号土坑	不整楕円形	(82.0)	80.0	36.0	Y-7・8
77号土坑	楕円形	64.0	49.0	28.0	Y-7
78号土坑	楕円形	120.0	94.0	38.0	Y-7
79号土坑	不整楕円形	178.0	120.0	32.0	Y-7
80号土坑	不整円形	55.0	50.0	24.0	W-7
81号土坑	円形	104.0	98.0	19.0	W-6
82号土坑	楕円形	60.0	50.0	34.0	U-6・7
83号土坑	不整円形?	90.0	—	30.0	U-7
84号土坑	円形?	94.0	—	29.0	U-6・7
85号土坑	円形	80.0	79.0	74.0	U-6・7
86号土坑	不整円形	66.0	56.0	38.0	U-7
87号土坑	円形	92.0	88.0	55.0	W-4
88号土坑	—	—	—	63.0	W-4
89号土坑	不整楕円形	43.0	31.0	21.0	Y-6
92号土坑	不整楕円形	90.0	60.0	20.0	Y-6
93号土坑	—	—	80.0	14.0	Y-6

遺構名	平面形状	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
62区土坑					
94号土坑	—	—	50.0	54.0	Y-5
95号土坑	不整円形	127.0	—	17.0	Y-6
96号土坑	不整円形	118.0	116.0	52.0	Y-6
99号土坑	円形	120.0	108.0	48.0	X-5・6
100号土坑	不整円形	123.0	117.0	33.0	Y-5、62-A-5
101号土坑	不整円形	129.0	116.0	82.0	Y-5
102号土坑	不整円形	135.0	133.0	93.0	X-5・6
103号土坑	円形	74.0	71.0	10.0	X-6
104号土坑	不整円形	143.0	140.0	80.0	W・X-6
105号土坑	—	—	94.0	41.0	X-6
107号土坑	楕円形?	(98.0)	(46.0)	50.0	W・X-6
110号土坑	不整円形	140.0	132.0	92.0	X-5
111号土坑	—	—	72.0	66.0	X-5
112号土坑	円形	52.0	49.0	20.0	Y-4
113号土坑	—	—	56.0	40.0	Y-4・5
114号土坑	—	146.0	—	42.0	Y-4
62区土坑					
2号土坑	楕円形	72.0	55.0	28.0	C-6
4号土坑	不整楕円形	126.0	110.0	78.0	D-7
5号土坑	円形	90.0	(84.0)	—	C-6
6号土坑	楕円形	121.0	110.0	38.0	D-6
8号土坑	—	—	98.0	53.0	D-7
10号土坑	不整楕円形	208.0	(165.0)	74.0	C・D-7
11号土坑	不整楕円形	117.0	80.0	68.0	C・D-7
13号土坑	不整楕円形	98.0	76.0	48.0	C-7
14号土坑	不整楕円形	(153.0)	118.0	24.0	A-6・7
15号土坑	—	—	(82.0)	37.0	A-6
16号土坑	円形	54.0	52.0	16.0	F-6
17号土坑	不整楕円形	120.0	85.0	18.0	F-6・7
18号土坑	不整円形	108.0	100.0	48.0	B-6
20号土坑	—	110.0	90.0	54.0	A-6・7、61-Y-6・7
21号土坑	—	150.0	—	32.0	K-4
22号土坑	不整円形	138.0	126.0	50.0	B・C-5・6
24号土坑	—	160.0	—	47.0	D・E-4
26号土坑	不整楕円形	(60.0)	(65.0)	37.0	D-4
27号土坑	不整楕円形	90.0	64.0	34.0	C・D-4
28号土坑	楕円形	78.0	(50.0)	38.0	D-4
29号土坑	不整円形	214.0	190.0	54.0	J-3・4
30号土坑	円形	124.0	108.0	43.0	A-5、61-Y-5
31号土坑	円形	102.0	101.0	50.0	B-6
32号土坑	円形	103.0	101.0	64.0	A-5・6
34号土坑	円形	80.0	(74.0)	43.0	C-4・5
35号土坑	円形	92.0	92.0	41.0	C-4
37号土坑	不整楕円形	(150.0)	(110.0)	30.0	A-5・6
39号土坑	不整楕円形	90.0	66.0	66.0	A-6
41号土坑	不整円形	108.0	105.0	45.0	F-4
42号土坑	不整円形	98.0	92.0	32.0	A-5
43号土坑	円形	68.0	60.0	21.0	A・B-4
44号土坑	不整楕円形	122.0	83.0	23.0	C-5
45号土坑	不整円形	96.0	93.0	20.0	B-4・5
46号土坑	不整円形	103.0	87.0	20.0	B-4
48号土坑	—	135.0	—	16.0	H-5
49号土坑	円形	96.0	96.0	46.0	F・G-5
50号土坑	円形	106.0	96.0	22.0	E-5

遺構計測表

61区遺構(その他)

遺構名	平面形状	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
1号掘立柱建物 P1		88	74	86	61-S・T-6・7
P2		(90)	86	68	
P3		79	73	90	
P4		93	80	54	
P5		102	82	61	
P6		89	76	77	
2号掘立柱建物 P1		77	70	75	61-S ~ U-6・7
P2		83	62	68	
P3		78	60	44	
P4		84	64	65	
P5		90	78	67	
P6		75	54	65	
3号竪穴状遺構	不整形	315	275	68	61-Q・R-6・7
4号竪穴状遺構		—	(345)	21	61-T-10・11
5号竪穴状遺構	不整形	240	240	62	61-U・V-9
1号埋設土器	円形	65	54	38	61-V・W-4
2号埋設土器	不整形	70	64	22	61-V-4
3号埋設土器		—	—	5	61-V-6
4号埋設土器	円形	82	78	40	61-V-5
6号埋設土器	円形	57	56	53	61-U-6
7号埋設土器	不整形	52	(32)	16	61-W-6
8号埋設土器	円形	27	—	10	61-T-5
3号焼土	不整形	160	92	14	61-V-7・8
4号焼土	不整形	146	60	14	61-V-7
7号焼土		76	54	6	61-U-9・10
9号焼土		84	38	5	61-T・U-10
10号焼土		65	55	8	61-S-10
13号焼土	円形	54	50	12	61-R・S-7・8
14号焼土	不整形	102	70	16	61-U-7
15号焼土	不整形	114	76	8	61-V・W-5
16号焼土	円形	36	28	12	61-T-7
17号焼土	不整形	55	50	14	61-U-7
18号焼土		88	70	17	61-Y-6
1号列石		3500			61-R ~ Y-4 ~ 7

62区遺構(その他)

遺構名	平面形状	長軸	短軸	深さ	グリッド位置
1号掘立柱建物 P1		69	54	42	61-Y-6 62-A ~ C-5 ~ 7
P2		90	86	70	
P3		131	87	86	
P4		125	117	65	
P5		104	94	65	
P6		124	106	60	
P7		98	72	48	
P8		94	80	68	
2号掘立柱建物 P1		90	90	92	61-X-5・6 Y-4 ~ 6 62-A-4・5
P2		83	83	88	
P3		(38)	70	54	
P4		61	58	54	
P5		64	62	55	
P6		104	93	70	
P7		—	67	67	
1号埋設土器	不整形	56	52	25	62-J-4
2号埋設土器	不整形	68	56	33	位置不明
1号焼土	不整形	50	(31)	22	62-B-5
2号焼土	不整形	47	40	20	62-C-4
1号集石		200	120	—	62-C-4
2号集石		210	120	—	62-F-4
2号列石		158			62-E-5

表12 遺物観察表

61区1号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第18図 PL.40	1	深鉢	口縁～底部 4/5残存	床直上	細:石英・輝石・雲母 少/良好/にぶい赤 褐色	口:14.0、高:20.5、底:6.2。小型で直線的にバケツ状に開く。口 縁部下に横位隆線を配すが他は無文。外面は弱い撫で、内面は平 滑な横位撫で調整を施す	中期後葉
第18図 PL.40	2	壺か	体部破片	ピット3	粗:石英/良好/にぶ い褐色	丸胴状の体部器形。上半に弧状隆線を付す。おそらく区画文構成 か。下半は縦位LRが覆う	中期後葉
第18図 PL.40	3	深鉢	口縁部破片	ピット3・7	粗:石英・雲母/良好 /灰褐色	口:(40.0)。大型深鉢で筒状の器形。口縁部に隆線による区画文 と縦位S字文を配す。S字文下端より2条隆線が垂下し波状隆線 と共に体部懸垂文を構成する。空白部は斜位短沈線を充填する。 内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第18図 PL.40	4	深鉢	口縁部破片	炉内	粗:石英・片岩/やや 軟/橙色	幅広の口縁無文部。頸部で屈曲するか。内外面とも平滑な撫で調 整	中期後葉
第18図 PL.40	5	深鉢	口縁部突起 片	炉内	粗:石英・雲母/良好 /にぶい赤褐色	双波状突起。頂部中央に渦巻文を配す。表面両側面にも沈線によ る棘手状意匠が施され、中位は円孔が穿たれる。裏面は丁寧な撫 で調整	中期後葉
第18図 PL.40	6	深鉢	口縁～体部 破片	床直上	細:輝石/良好/にぶ い褐色	小型深鉢。口縁部は隆線による区画文と渦巻文構成。体部は逆U 字状意匠と波状沈線文による懸垂文構成。磨消部は幅狭である。 縄文はRL充填施文。内面は平滑な撫で。口縁部に黒色付着物を見 る	中期後葉
第18図 PL.40	7	浅鉢	口縁部破片	床直上	細:石英/良好/にぶ い褐色	口縁部は肥厚し口唇部は尖る。無文で横位研磨を施し、外面口縁 部には赤彩痕跡を見る	中期後葉
第18図 PL.40	8	深鉢	口縁部破片	ピット3	粗:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	やや薄手。隆線による区画文構成。側線は沈線で縦位短沈線を充 填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第18図 PL.40	9	深鉢	頸部破片	床直上	粗:石英/良好/褐灰 色	頸部屈曲部に横位隆線を配し斜位刺突を交互に施す。体部は縦位 沈線を密に施し浅い横位沈線が重なる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第18図 PL.40	10	深鉢	体部破片	ピット2	細:石英・輝石/良好 /灰褐色	頸部屈曲部以下肩部が強く張る。横位隆線に斜位刺突が交互に重 なり体部は沈線文を主体に刻みを連続する。内面弱い研磨	中期後葉
第18図 PL.40	11	深鉢	底部3/4残 存	床直上	細:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	底:4.4。小型深鉢か。垂下沈線による懸垂文下端部を見る。内外 面研磨	中期後葉
第18図 PL.40	12	深鉢	底部1/2残 存	ピット3	細:石英/良好/橙 色	底:6.6。無文の体部下。内外面とも丁寧な撫で調整を施す	中期後葉
第18図 PL.40	13	石鏃	先端欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.7、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。 丁寧な押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げている	
第18図 PL.40	14	スクレイ パー	完形	ピット5	黒曜石	長:2.3、幅:1.6、厚:0.7、重:2.0。横長剥片を素材とし、周縁に 丁寧な押圧剥離を施し刃部とする。中央部にやや厚みを残す	
第19図 PL.40	15	磨石	完形	床直	変質安山岩	長:5.9、幅:5.2、厚:3.0、重:134.7。薄手で扁平な小型の円盤状 円礫。表裏面に平滑な磨面を持つ	
第19図 PL.40	16	敲石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:11.3、幅:8.0、厚:4.9、重:648.5。やや厚手の扁平な楕円状円礫。 敲打痕は全面に広がるが下端に集まる。表裏面に弱い磨面を見る	
第19図 PL.40	17	敲石	完形	床下	粗粒輝石安山岩	長:12.8、幅:6.5、厚:5.2、重:665.5。厚手の楕円状円礫。敲打 痕は全面に見られ、上下端部、裏面中央付近に集まる。また、磨 面が表裏面と右側面に見られ、裏面は強い平滑面を示す	
第19図 PL.40	18	敲石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:10.1、幅:8.2、厚:2.5、重:316.4。扁平で不整形の円礫。 敲打痕は上下端部に集中する。表裏面に平滑な磨面を見る	
PL.40	19	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:(1.3)、厚:0.2、重:0.5。凹基無茎鏃か。完成状態。 細かな丁寧な押圧剥離が全面を覆う	
PL.40	20	スクレイ パー	完形	床直上	黒色頁岩	長:6.1、幅:3.2、厚:1.1、重:26.0。横長剥片を素材とし、下端 部に表裏面からの剥離を加えて刃部としている	
PL.40	21	加工痕あ る剥片	右欠損	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:(1.9)、厚:0.4、重:1.7。横長剥片を素材とし、縁 辺に押圧剥離を丁寧な施す。表裏面とも素材面が残る。石鏃の未 製品か	
PL.40	22	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:1.8、厚:0.8、重:2.6。小型の剥片を素材としている。 基部及び両側縁に押圧剥離を施す	
PL.40	23	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:2.1、厚:0.8、重:3.5。不定形な横長剥片左側縁と下 端に押圧剥離を集める	

61区2号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第25図 PL.41	1	深鉢	口縁～体部 下半残存	炉内	粗:石英・雲母/良好 /にぶい赤褐色	口:18.0。口縁部上面楕円状を呈す。4単位口縁部突起を欠する。 突起下は縦位連接渦巻状突起あるいは横位眼鏡状突起を配す。体 部は2条隆線による区画文構成で斜位短沈線を充填する。上半は 被熱痕跡を見る	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第25図 PL.41	2	深鉢	口縁～体部 中位残存	埋糞	粗:石英多・輝石/良好/橙色	口:32.0。大型で筒状の器形。口縁部横位沈線を設け以下弧状突起両端より隆線2条が懸垂する。6単位を数える。体部は縦位沈線群を充て横位沈線2条を重ねる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第25図 PL.41	3	深鉢	口縁～体部 上半2/3残存	床直上	粗:石英・輝石/良好/橙色	口:36.0。口縁部は隆線による渦巻文と区画文が一体化する。側線は幅広の沈線。体部は2条の垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。縦位波状沈線も加わる。R Lを充填する。内面は弱い横位研磨を施す	中期後葉
第25図 PL.41	4	深鉢	口縁～体部 上半1/4残存	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい橙色	口:(16.6)。平縁で波状突起を付す。体部2帯構成で対向するU字状意匠と蕨手状懸垂文が配される。無節L縦位充填施文。裏面撫で調整。器面剥落多い	中期後葉
第25図 PL.41	5	深鉢	口縁部1/3 残存	ピット6・8	粗:輝石/良好/にぶい黄褐色	口:(38.0)。隆線による一体化した渦巻文と区画文。頸部隆線で画され体部は2条沈線で画された幅狭の磨消部懸垂文構成。縦位LRを充填する	中期後葉
第25図 PL.41	6	深鉢	口縁～体部 上半1/3残存	ピット3	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	口:(19.0)。平縁で口縁部突起を1単位付す。隆線による渦巻文と区画文が一体化した勾玉状区画を配す。側線は深い沈線。体部は沈線による方形区画文。縦位RLと無節Lによる羽状縄文構成。内面弱い研磨	中期後葉
第26図 PL.41	7	深鉢	口縁部1/4 ～体部1/2 ～底部残存	炉内 ピット3・6 61区1住ピット 3 61区4住	粗:石英・輝石/良好/明赤褐色・黒褐色	口:(46.0)、高:58.5、底:10.0。大型深鉢。口縁部は隆線による渦巻文と接続する区画文構成。区画内側線は太い沈線で強い施文。縦位密接条線を充填する。体部は1・2条の垂下隆線による懸垂文構成。不規則な配置ながら10単位を数える。側線は沈線及び撫で。縦位密接条線を充填し、縦位波状沈線が重なる。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第26図 PL.42	8	深鉢	口縁～体部 破片4点	床直	粗:輝石/良好/褐灰色	波状突起を付す口縁部破片3点と外反する体部破片1点。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。体部は垂下沈線に画された磨消部と施文部の懸垂文構成。施文部縦位RLに蕨手状沈線が重なる。内面丁寧な横位研磨	中期後葉
第26図 PL.42	9	深鉢	口縁～体部 破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	口:(45.0)。口縁部は隆線による楕円状区画文構成。区画交点上位に円文を配す。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部及び口縁部区画内はRL充填施文。内面は横位研磨を施す	中期後葉
第27図 PL.42	10	壺	口縁～体部 上半残存	床直	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	口:25.4。大型の橋状把手2単位を付す。頸部に沈線による長楕円文を連続し体部は渦巻文や円文弧状意匠を配す。縦位RLを充填する。内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第27図 PL.42	11	壺	口縁～体部 1/3残存	ピット6	粗:輝石/良好/橙色	口:(28.5)。横位隆線に付す橋状把手2単位か。体部上半に隆線による渦巻文や蕨手状懸垂文を配す。側線は沈線を施す。口縁部外面及び内面は研磨を加える	中期後葉
第27図 PL.42	12	壺	口縁～体部 破片	ピット3	粗:石英・片岩/良好/橙色	口:(44.0)。頸部屈曲し隆線を付す。体部上半は隆線による渦巻状突起を配し区画文を接する。区画内は刺突文を充填する。体部下半は縦位短沈線を施す。内面は丁寧な研磨を加える	中期後葉
第27図 PL.42	13	深鉢	口縁～体部 1/6残存	床直上	粗:石英・輝石/良好/橙色	口:(38.0)。バケツ状の器形だが体部下半に僅かな括れを有す。口縁部無文部下に2条沈線による簡素な楕円状意匠を設ける。体部には大柄の渦巻文を配し空白部に弧状短沈線を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第27図 PL.43	14	深鉢	口縁～体部 破片2点	ピット1・6・19	粗:石英・雲母/良好/にぶい橙色	口縁部に1条の隆線で渦巻文を配し2条隆線で区画文を接す。渦巻文下端より縦位蛇行隆線が体部に派生し懸垂文構成をなす。口縁部区画内は縦位、体部は縦位矢羽状に短沈線を施す。内面弱い撫で調整	中期後葉
第27図 PL.43	15	深鉢	口縁部破片	炉内 ピット6	細:石英・輝石/良好/褐色	口:(22.0)。口縁部に波状突起を付し隆線による渦巻文を配す。区画文が接し縦位短沈線を充填する。体部は垂下沈線2条の懸垂文構成に鱗状短沈線を施し蕨手状縦位沈線を重ねる。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第27図 PL.43	16	深鉢	口縁～体部 破片	床直上	細:輝石/良好/明赤褐色	口:(44.0)。口縁部は隆線による環状意匠と区画文構成。上位に沈線による長楕円状文を配す。区画内は弧状短沈線を充填する。体部は逆U字状意匠や渦巻状意匠を配し弧状短沈線を埋める。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第28図 PL.43	17a ～j	深鉢	口縁～体部 破片9点 底部片1点	埋土	粗:石英・輝石/軟質/橙色	底:(6.8)。1個体としてまとまるが各破片の遺存度が不良で接合不可能。口縁部は隆線による区画文構成。体部は垂下沈線2・3条による幅狭磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL	中期後葉
第28図 PL.43	18	深鉢	体部下半～ 底部破片	炉内 ピット6	粗:輝石/良好/にぶい黄褐色	底:(7.0)。内湾気味に開く体部下半。垂下沈線に画された磨消部と施文部及び波状沈線による懸垂文構成。施文部は縦位RL。内面は弱い研磨を施し煤が付着する	中期後葉
第28図 PL.43	19	深鉢	体部破片	床直上	細:石英少/良好/にぶい赤褐色	体部下半。垂下隆線による懸垂文構成下端。側線に沈線を施し無節Lを縦位充填施文する。内面平滑な撫で	中期後葉
第28図 PL.43	20	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶい橙色	低位波状突起を付す。隆線による渦巻文と区画文構成。側線に沈線を施し、横位LRLを充填する。内面は弱い横位研磨を施す	中期後葉

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第28図 PL.43	21	深鉢	口縁部破片	床直	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	薄手で口縁部横位沈線を設け以下縦位RLを施す。口縁部と内面に丁寧な研磨を加え、口縁部外面に赤彩を施す	中期後葉
第28図 PL.43	22	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/ 黒褐色	口縁部内湾し太い沈線による逆U字状意匠と蕨手状懸垂文を配す。横位LRを充填する。内面研磨	中期後葉
第28図 PL.43	23	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい 褐色	体部上半。隆線が横位接続し2条の懸垂文が配される。側線は太い沈線、縄文は縦位RLを充填する。内面は縦位研磨を施す	中期後葉
第28図 PL.43	24	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 暗褐色	垂下隆線1条の懸垂文構成。磨消部に低位隆線2条による弧状意匠か。施文部縄文は縦位LR充填施文。磨消部研磨、内面撫で調整を施す	中期後葉
第28図 PL.44	25	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	体部中位。垂下沈線による懸垂文構成。磨消部と施文部を配し、施文部は縦位RLを充填し縦位波状沈線を重ねる。磨消部及び内面は丁寧な撫で調整を施す	中期後葉
第28図 PL.44	26	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英/良好/にぶい 褐色	垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文。磨消部研磨、内面横位撫で調整	中期後葉
第29図 PL.44	27	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	振りを加えた小波状突起を付す口縁部。2条隆線による区画内を横位波状沈線が充填される。頸部無文。内外面撫で調整	中期後葉
第29図 PL.44	28	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。沈線を側線とし縦位沈線を充填する。体部は2条沈線を懸垂する。内面弱い撫で調整を施す	中期後葉
第29図 PL.44	29	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	1条の隆線による体部渦巻文構成。側線は一部沈線。斜位短沈線を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第29図 PL.44	30	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	体部中位の括れ部に設けられた同心円状の沈線文を中核に縦位・横位の長楕円状意匠や弧状意匠が配される。地文は縦位LR。内面平滑な横位撫で調整	中期後葉
第29図 PL.44	31	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶい 赤褐色	厚手の器厚。沈線による逆U字状意匠内縁を刺突文が充填される。2条の垂下沈線も施され、懸垂文構成か。内面弱い撫で	中期後葉
第29図 PL.44	32	深鉢	体部破片	床直	粗:白色粒/良好/褐色	粗:白色粒/良好/褐色。隆線による連接渦巻状意匠。沈線を側線としLRを充填施文する。内面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第29図 PL.44	33	無頸壺	口縁部破片	ピット1・6	細:輝石/良好/褐色	頸部に横位隆線2条を設け、小型の橋状把手を接続する。体部は隆線による逆U字状意匠が配される。内外面とも研磨を施す	中期後葉
第29図 PL.44	34	無頸壺	体部上半破片	ピット6	細:輝石/良好/にぶい 褐色	頸部に横位隆線2条を設け小型の橋状把手を付す。体部は太い沈線による逆U字状意匠を配しRLを充填する。内外面丁寧な研磨を加える	中期後葉
第29図 PL.44	35 36	壺	体部上半破片 2点	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	頸部無文で下位に横位隆線を設ける。体部上半に沈線による大柄な渦巻文を配し、区画内に縦位羽状短沈線を充填する。裏面平滑な撫で調整	中期後葉
第29図 PL.44	37	浅鉢	口縁部破片	床直上	細:石英/良好/褐色	口縁部肥厚し、丁寧に研磨を加える。内外面に赤彩痕跡を見る。外面に顕著で意匠文の一端が窺える	中期後葉
第29図 PL.44	38	深鉢	口縁部破片	床直上	細:白色粒/良好/黒 褐色	薄手で僅かに内湾する口縁部。体部上半に横位沈線を施す。外面に赤彩痕と黒彩痕を見る。内外面研磨	中期後葉
第29図 PL.44	39	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/黒褐色	口縁部僅かに内湾し横位沈線を設け以下縦位密接条線を施す。口縁部無文部に赤彩痕跡を見る。内面弱い研磨	中期後葉
第29図 PL.44	40	深鉢	底部2/3残存	床直上	細:石英/良好/灰褐色	小型深鉢か。底部器厚厚手。垂下沈線2条の下端を見る。外面研磨、内面弱い撫で調整を施す	中期後葉
第29図 PL.44	41	深鉢	底部1/3残存	ピット19	粗:小礫/良好/褐色	底:(4.6)。小型深鉢か。外反気味に開く体部下半。横位弧状沈線を施す。内外面撫で調整	中期後葉
第29図 PL.44	42	深鉢	底部2/3残存	床直	細:輝石/良好/にぶい 黄褐色	底:5.6。小型の底部で開き気味に立ち上がる。内外面とも丁寧な撫で調整	中期後葉
第29図 PL.44	43	深鉢	底部1/2残存	床直上	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	底:8.8。直立気味に開く体部下半。内外面撫で調整。内面に煤付着	中期後葉
第29図 PL.44	44	深鉢	底部破片	床直上	粗:輝石/良好/にぶい 褐色	底:(7.0)。外反気味に強く開く体部下半。無文だが縦位研磨痕が著しい。内面撫で調整	中期後葉
第29図 PL.44	45	深鉢	底部残存	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	底:8.8。大型の深鉢か。体部下半は開く。無文で横位撫でを施す	中期後葉
第29図 PL.44	46	深鉢	底部残存	埋土	細:石英・輝石/良好/ 褐色	底:7.6。大型の深鉢か。強く開く体部下半。無文で平滑な研磨を施す。内面は弱い撫で調整	中期後葉
第29図 PL.44	47	深鉢	底部残存	埋土	粗:輝石/良好/にぶい 褐色	底:5.0。大型の深鉢。厚手で底部端部は丸みを帯び強く開く。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第29図 PL.44	48	深鉢	底部1/3残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 明褐色	底:(8.8)。厚手で大型の深鉢。開き気味に立ち上がる。無文で外面は丁寧な撫で、内面は弱い撫でを施す	中期後葉
第29図 PL.44	49	深鉢	底部残存	床直上	粗:輝石/良好/褐色	底:6.0。内湾気味に開く体部下半。縦位沈線が端部にまで及ぶ	中期後葉
第30図 PL.45	50	石鏃	先端欠損	床直	黒曜石	長:(1.7)、幅:1.2、厚:0.4、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。中央がやや厚いが丁寧な押圧剥離が全体を覆う	
第30図 PL.45	51	石鏃	右脚欠損	床下	黒曜石	長:2.7、幅:(1.8)、厚:0.4、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。細かく丁寧な押圧剥離が全面に及び薄手でやや長身に仕上げる・均整取れた形状。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第30図 PL.45	52	石錐	完形	床直上	チャート	長:3.4、幅:3.0、厚:0.8、重:6.0。大型品。完成状態。摘み部から体部先端部に丁寧な押圧剥離が覆う。体部は両側縁からの調整で先端部を作出する。使用痕は見られない	
第30図 PL.45	53	石錐	完形	床直上	黒色頁岩	長:3.0、幅:1.6、厚:0.6、重:2.1。完成状態。体部両側縁からの押圧剥離で先端部を作出する。摘み部は無調整。使用に伴う摩耗痕は見られるが方向までは不明	
第30図 PL.45	54	打製石斧	上端欠損	床直上	細粒輝石安山岩	長:(12.0)、幅:5.2、厚:1.4、重:114.5。扁平な短冊形。両側縁中位が僅かに括れ、凸刃を呈す。刃部表裏面に使用による磨滅痕を見る	
第30図 PL.45	55	打製石斧	完形	床直上	変質安山岩	長:10.2、幅:4.7、厚:1.7、重:114.0。短冊形。裏面に湾曲し、粗い剥離による整形。直線的な両側縁で凸刃を呈す	
第30図 PL.45	56	打製石斧	完形	床下	細粒輝石安山岩	長:10.0、幅:5.1、厚:1.2、重:65.7。やや小型で扁平な短冊形。両側縁中位に括れを設け刃部に最大幅を持つ。刃部に僅かな使用による磨滅痕を見る	
第30図 PL.45	57	打製石斧	完形	ピット22	細粒輝石安山岩	長:12.9、幅:6.1、厚:2.1、重:186.3。短冊形。体部表面中位に厚みを残す。両側縁中位に僅かな括れを有し、刃部に最大幅を設ける。周縁は丁寧な剥離を施す	
第30図 PL.45	58	打製石斧	上半欠損	床直上	細粒輝石安山岩	長:(9.5)、幅:5.5、厚:3.2、重:196.8。大型の短冊形か。体部中位に大きく厚みを残し、周縁を粗い剥離で整形する。刃部に僅かな使用痕による磨滅痕がある	
第30図 PL.45	59	打製石斧	上端欠損	床直上	黒色安山岩	長:(9.3)、幅:4.9、厚:1.5、重:78.4。やや小型の短冊形で丁寧な剥離で整った形状を作出する。側縁中位に括れを設け、凸刃に最大幅を持たせる。刃部及び体部に僅かな磨滅痕が見られる。	
第30図 PL.45	60	石匙	完形	床直	黒色頁岩	長:8.0、幅:3.5、厚:0.8、重:27.9。縦形石匙。表面中央に礫面を残し、周縁に調整剥離を施し刃部を作出する。摘み部周辺の調整が丁寧	
第30図 PL.45	61	磨石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:6.2、幅:4.2、厚:4.4、重:171.0。小型の卵状円礫。表裏面に弱い磨面を持つ。側面の剥落は被熱によるものか	
第30図 PL.45	62	敲石	完形	床直上	変質安山岩	長:11.8、幅:5.8、厚:2.8、重:293.9。扁平な不整楕円状を呈す円礫。敲打痕は全体に広がり下部部に集まる。表裏面に弱い磨面を持つ	
第31図 PL.45	63	敲石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:9.3、幅:9.0、厚:5.7、重:694.7。厚手でやや扁平な円礫。敲打痕は全面に密に広がる。表裏面中央に強い平滑面を持つ	
第31図 PL.45	64	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:12.0、幅:10.4、厚:7.8、重:1264.1。厚手の球状円礫。丸石に近い。敲打痕も全面に広がり偏りを見ない。表裏面に僅かに磨面を持つ	
第31図 PL.45	65	凹石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:9.7、幅:6.8、厚:4.7、重:497.7。やや厚手の扁平な楕円状円礫。表裏面、側面、上下端部とも敲打痕を集める。表裏面の磨面も顕著で平滑なため断面方形状を示す	
第31図 PL.45	66	多孔石	1/4残存	床直	粗粒輝石安山岩	長:(18.5)、幅:(12.4)、厚:13.0、重:3363.0。大型の不整楕円状円礫。断面円錐状の凹みを各面に配す	
PL.45	67	石鏃	ほぼ完形	床直上	黒曜石	長:1.6、幅:1.3、厚:0.4、重:1.0。平基無茎鏃。完成状態。小型で丁寧な押圧剥離が全体を覆う。縁辺に微細剥離を施し形状を整えている	
PL.45	68	石鏃	上半欠損	床直上	黒曜石	長:(1.0)、幅:1.2、厚:0.2、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体に及び小型で薄手に仕上げる	
PL.45	69	石鏃	先端部欠損	埋土	黒色頁岩	長:(2.6)、幅:2.1、厚:0.7、重:3.5。平基無茎鏃。完成状態。中央部が厚く残るが押圧剥離が全体に施される事から完成状態と判断した	
PL.45	70	石鏃	左脚端部欠損	床直上	黒曜石	長:(2.1)、幅:1.1、厚:0.3、重:0.7。弱い凹基無茎鏃。完成状態。押圧剥離は体部中央から先端部に集まり、脚部は粗い調整に止まる	
PL.45	71	石鏃	ほぼ完形	床直上	黒曜石	長:1.7、幅:(1.2)、厚:0.3、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。周縁に押圧剥離を加えやや左右非対称に整形する。表裏面中央に素材面を残す	
PL.45	72	石鏃	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(2.1)、幅:(1.7)、厚:0.3、重:1.0。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に及び薄手に仕上げる。右側縁は鋸歯状を呈す	
PL.45	73	石鏃	片脚部欠損	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:(1.1)、厚:0.3、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。小型品で丁寧な押圧剥離が全体を覆う	
PL.45	74	石鏃	右側面欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:(1.0)、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げる	
PL.45	75	石鏃	先端部破片	炉内	黒曜石	長:(0.9)、幅:(0.7)、厚:0.15、重:0.1。完成状態。押圧剥離による先端部の作出	
PL.45	76	石鏃	脚部残存	炉内	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.8、厚:0.2、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げている。器面及び欠損面は風化する	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.45	77	石鏃未製品	下半欠損	埋嚢内	黒曜石	長:(2.2)、幅:(2.2)、厚:0.9、重:3.4。粗い押圧剥離が全体を覆うが中央部が厚く残り、側縁の作出に止まる	
PL.45	78	石鏃未製品か	下半欠損	炉内	黒曜石	長:(1.9)、幅:(1.6)、厚:0.6、重:1.3。剥片縁辺に押圧剥離を施すが裏面調整に止まる	
PL.45	79	石鏃未製品か	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.8、厚:0.4、重:1.1。凹基無茎鏃を意図した未製品か。薄手の素材縁辺に押圧剥離を加えるが左側縁の作出に止まる	
PL.45	80	石錐	完形	床直上	黒曜石	長:1.7、幅:1.2、厚:0.4、重:1.5。木葉状の平面形態で表面に押圧剥離を集め先端部を作出する。あるいは小型石匙の可能性もある	
PL.45	81	石錐	完形	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:0.8、厚:0.5、重:0.5。完成状態。小型品で先端部は僅かに突出する。周縁を細かな押圧剥離で覆う	
PL.45	82	打製石斧	上半部欠損	床下	黒色頁岩	長:(6.8)、幅:4.4、厚:1.4、重:(69.3)。短冊形。完成状態。やや細かい剥離で直線的な側縁と凸刃を作出する。刃部表裏面に使用による磨滅痕を見る	
PL.45	83	打製石斧	下半部欠損	床直上	変質安山岩	長:(9.1)、幅:(5.0)、厚:(1.6)、重:(85.8)。短冊形。表面に礫面を残す。やや細かい剥離で側面を直線的に作出する	
PL.45	84	打製石斧	上半部欠損	床直上	細粒輝石安山岩	長:(9.8)、幅:5.3、厚:2.0、重:(148.5)。短冊形。完成状態。粗い剥離で直線的な側縁と刃部を作出する。表面一部に厚みを残す	
PL.45	85	打製石斧	上端欠損	埋土	珪質頁岩	長:9.8、幅:5.9、厚:1.3、重:106.8。短冊形。薄手の素材周縁に粗い剥離を加える。刃部は再調整か	
PL.46	86	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:1.8、厚:0.5、重:2.0。礫面を残す。裏面に押圧剥離を施し刃部を作出する	
PL.46	87	使用痕ある剥片	完形	埋土	珪質頁岩	長:3.6、幅:3.6、厚:0.6、重:10.5。横長剥片を素材とし、下端表面に細かな剥離を施し刃部とする	
PL.46	88	磨石	一部欠損	床直上	変質安山岩	長:5.4、幅:5.7、厚:2.8、重:134.2。不定形な円礫。裏面に平坦面があり、平滑な磨面が広がる	
PL.46	89	磨石	下半部欠損	床直上	粗粒輝石安山岩	長:(8.5)、幅:6.7、厚:2.8、重:386.1。厚手ながら板状節理した方形角礫。表面に平滑な磨面を見る	
PL.46	90	磨石	破片	床直上	石英閃緑岩	長:(9.7)、幅:(8.0)、厚:(4.2)、重:492.9。裏面も欠損。大型の円礫か。表面中央に平滑な磨面を見る	
PL.46	91	敲石	裏面欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:13.2、幅:(5.5)、厚:(2.0)、重:(237.3)。やや縦長の楕円状円礫。表面中央及び右側面中に敲打痕を集める。裏面剥落	
PL.46	92	凹石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(4.8)、幅:7.0、厚:3.7、重:193.1。やや扁平な楕円状円礫か。表裏面に敲打痕が集中した浅い凹みを設ける。裏面に平滑な磨面、側縁に敲打痕を見る	

61区3・4号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第39図 PL.46	1	深鉢	口縁~体部 上半残存	61区3A住炉内	粗:石英・輝石/良好 /明赤褐色	口:27.0。口縁部は波状突起内に隆線渦巻文を配し横位隆線で繋ぐ。6単位を数える。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。区画内、施文部は縦位密接条線を充填し体部波状沈線が加わる。内面平滑な撫で	中期後葉
第39図 PL.46	2	深鉢	口唇部・底部 欠損	61区3B住炉内	細:石英・輝石・雲母 少/良好/橙色	口縁部は隆線による渦巻文と区画文が一体化する。区画内は縦位短沈線を充填する。体部は沈線による長楕円状意匠による上下2帯の懸垂文構成。8単位を数える。地文は無節L縦位施文。上半は被熱痕跡を見る	中期後葉
第39図 PL.46	3	深鉢	口縁1/3体部 下半残存	埋嚢	細:輝石/良好/橙色	口:(28.0)。キャリパー状を呈し頸部無文部を設ける。口縁部は幅狭で隆線による区画文と渦巻文構成。体部は隆線による大柄な渦巻文が横位に接続する、RLを充填する。内面研磨	中期後葉
第39図 PL.46	4	深鉢	口縁~体部 中位1/2残 存	61区3住床直上	細:石英・輝石/良好 /橙色	口:21.6。口縁部は緩やかに内湾。口縁部に横位に円形刺突文を連ね2条沈線による横位波状文を配す。以下逆U字状懸垂文を充て、磨消部に弧状短沈線を加える。内面は弱い横位研磨	中期後葉
第39図 PL.46	5	深鉢	口縁~体部 上半1/3残 存	61区3住床直上	粗:石英多・輝石/良 好/黒褐色	口:(9.0)。口唇部外傾し体部上半に強い内湾部を持たせる。内湾部に2条沈線で画された磨消部による連弧文が配される。縄文はLR充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第39図 PL.46	6	深鉢	口縁~体部 上半3/4残 存	61区3・4住床 直上	細:石英・輝石/良好 /にぶい橙色	口:35.4。口縁部は波状4単位を呈し隆線による渦巻文と区画文を配す。体部は2条沈線で画された磨消部懸垂文と縦位RL施文部に蕨手状沈線を加える。波頂部内面も小渦巻文を施す。内面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第39図 PL.46	7	深鉢	口縁~体部 上半破片	61区3住床直上	細:輝石/良好/黒褐 色	口:(22.0)。口縁部に波状突起を付し、隆線による渦巻文と区画文が一体化する。体部は沈線で画された磨消部U字状意匠が上下2帯配される。施文部縄文はLR充填施文。内面は研磨を施す	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第39図 PL.47	8	深鉢	口縁～体部 上半残存	61区3・4住床 直上	細:輝石/良好/橙色	口:37.0。隆線による口縁部渦巻文と一体化した区画文構成。不規則な配置ながら4単位を数える。側線は沈線。体部は垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部に縦位波状沈線文、磨消部に蕨手状沈線文が重なる。縄文はR L充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第39図 PL.47	9	深鉢	体部下半～ 底部	61区3住埋費 61区4住床直上	細:輝石/良好/にぶ い橙色	底:7.0。大型の深鉢。内湾気味に開く体部下半。垂下沈線2条に画された磨消懸垂文構成。施文部はR L縦位充填施文後縦位波状文が加わる。内面撫で調整	中期後葉
第40図 PL.47	10	深鉢	口縁～体部 1/4残存	61区3住床直上	細:輝石/良好/にぶ い橙色	口:(41.6)。緩やかな波状突起を付し体部上半に括れを設けたキャリパー状を呈す。突起下に隆線による渦巻文を配し区画文を接す。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位R Lで縦位波状沈線が重なる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第40図 PL.47	11	壺	口縁～体部 上半1/4残 存	61区3住床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口:(16.0)。幅広の無文口縁部下に隆線による渦巻文と区画文を配す。縦位R Lを充填する。体部は縦位密接条線が施される。口縁部内外面は研磨を施す	中期後葉
第40図 PL.47	12 13	深鉢	口縁～体部 上半破片2 点	61区3住床直上 61区2住	粗:石英多・輝石/良 好/にぶい橙色	口:(40.0)。大型深鉢。口縁部肥厚し無文。横位沈線を設け以下逆U字状懸垂文が配され、横位弧状短沈線を充填する。内面弱い研磨を施す	中期後葉
第40図 PL.48	14	壺	口縁～体部 上半破片	61区3住床直 61区1住ピット 1	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	無文の口縁部下に横位隆線を設け大型の橋状把手を付す。側線は沈線で縦位L Rを充填する。内面研磨	中期後葉
第40図 PL.48	15	深鉢	口縁～体部 上半破片	61区3住ピット 15	粗:輝石/良好/にぶ い黄褐色	薄手の器厚で口縁部は隆線による半渦巻文と区画文が配される。体部は2条の沈線に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。縄文はR L充填施文。内面研磨	中期後葉
第40図 PL.48	16	深鉢	体部破片	61区3住床直上	粗:輝石少/良好/に ぶい黄褐色	体部中位。上半は外反し下半は内湾する。渦巻状突起を付し隆線が派生し環状区画文を画す。区画内はL R充填施文。内面は研磨を施す	中期後葉
第41図 PL.48	17	深鉢	口縁部1/5 残存	61区3住床直上	細:輝石/良好/明黄 褐色	口:(40.0)。大型の深鉢で口縁部内湾する。おそらく隆線による渦巻文と区画文が一体化し縦位密接条線が充填される。口縁部内外面とも丁寧な研磨を施す	中期後葉
第41図 PL.48	18	深鉢	口縁部破片	61区3住床直上	細:石英・輝石/良好/ 褐色	口縁部内湾。沈線で画された磨消部による逆U字状意匠。蕨手状沈線も加わる。縦位R Lを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第41図 PL.48	19	深鉢	体部1/3残 存	61区3住床直上	粗:輝石多/良好/橙 色	大型深鉢。上半は外反し下半に僅かな内湾を見る。沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位密接条線が施され、縦位波状沈線が重なる。内面弱い研磨を施す	中期後葉
第41図 PL.48	20	深鉢	口縁部破片	61区3住床直上	細:輝石少/良好/黒 褐色	口縁部隆線による渦巻文と区画文構成。側線は沈線で横位R Lを充填する。内面研磨	中期後葉
第41図 PL.48	21	深鉢	体部破片	61区3・4住埋 土	細:輝石/良好/褐灰 色	頸部隆線を配し、細隆線による区画文を配す。側線は凹線。L R L+1を充填施文する。内面横位研磨	中期後葉
第41図 PL.48	22	深鉢	体部破片	61区4住床直上	粗:輝石/良好/明黄 褐色	垂下沈線による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位密接条線を充填し縦位波状沈線文を加える。内面撫で	中期後葉
第41図 PL.48	23	深鉢	体部破片	61区4住埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	太い垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。磨消部に縦位沈線が重なる・施文部は縦位R L充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第41図 PL.48	24	深鉢	体部破片	61区3住床直上	細:石英・輝石少/良 好/褐色	沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位R R L。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第41図 PL.48	25	深鉢	体部破片	61区3住床直上	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	体部下半か。浅い垂下沈線2条を見る。他は無文で弱い縦位研磨が覆う。内面は平滑な撫で	中期後葉
第41図 PL.48	26	深鉢	口縁部破片	61区3 B住炉内	粗:石英・雲母/良好/ にぶい褐色	波頂部に付された隆線による渦巻文より2条隆線が派生し口縁部区画文を画し体部は弧状意匠を描く。区画内及び体部は縦位・斜位短沈線を施す。内面は撫で調整	中期後葉
第41図 PL.48	27	深鉢	口縁部破片	61区4住埋土	細:石英多・輝石/良 好/暗褐色	口縁部沈線を設け以下体部上半に相向かう弧状短沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第41図 PL.48	28	深鉢	口縁部破片	61区4住埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	内湾する口縁部。沈線による横位長楕円状意匠を配す。横位沈線1条を介して体部は弧状沈線を施す。地文は無節L。内面は撫で調整	中期後葉
第42図 PL.48	29	深鉢	体部破片	61区3住床直上	細:石英・雲母/良好/ 褐色	1条の隆線による体部渦巻文構成。沈線を側線とし、短沈線を充填施文する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第42図 PL.48	30	深鉢	体部破片	61区3住床直上	粗:石英多・輝石/良 好/黒褐色	1条の沈線による多重同心円文あるいは渦巻文が配される。内面平滑な撫で	中期後葉
第42図 PL.49	31	深鉢	体部破片	61区3住床直上	粗:石英・輝石/良好/ 黒褐色	1条の沈線による大柄な渦巻文を配し、隙間を縦位矢羽状短沈線が埋める。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第42図 PL.49	32	深鉢	体部破片	61区3住床直上	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	体部を懸垂する縦位長楕円状沈線文。中位に縦位沈線を付加する。斜位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第42図 PL.49	33	深鉢	体部破片	61区3 B住炉内	粗:石英多・輝石/良 好/にぶい赤褐色	隆線による体部懸垂文、縦位密接条線施文後2条の横位沈線が重なる。内面撫で調整	中期後葉

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第42図 PL.49	34	壺か	口縁部破片	61区3住床直	粗:石英/良好/黒褐色	幅広の口縁部破片。内外面とも丁寧な研磨され、外面→口唇部内面に赤彩が及ぶ	中期後葉
第42図 PL.49	35	浅鉢	頸部破片	61区3住床直上	細:石英少/良好/暗褐色	屈曲部上半。横位隆線以下沈線による楕円状意匠が配される。施文部は入念な研磨の後塗彩。内面も横位研磨を施す	中期後葉
第42図 PL.49	36	浅鉢	口縁部破片	61区3住床直上	細:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	口唇部内面内削ぎ状に内傾し体部は強く開く。内外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩痕は見られない	中期後葉
第42図 PL.49	37	浅鉢	体部破片	61区3・4住埋土	細:輝石少/良好/にぶい黄褐色	開きは弱い。内外面とも平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第42図 PL.49	38	深鉢	底部1/2残存	61区3住ピット9	細:輝石/良好/にぶい赤褐色	底:4.6。体部下半は直立気味に開き、丸みを帯びる底部端部。無文で内外面とも平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第42図 PL.49	39	深鉢	口縁部破片	61区3住埋土	細:石英/良好/褐色	口縁部外傾。屈曲部に波状沈線文。以下弧状隆線と短沈線文を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉か
第42図 PL.49	40	土製円盤	完形	61区3住ピット9	細:輝石/良好/にぶい橙色	径:3.4×3.5、厚:1.0cm、重:15.3g。深鉢体部破片の再利用。垂下沈線と磨消部を見る。周縁は剥離調整による作出で一部摩耗する	中期後葉
第42図 PL.49	41	深鉢	口縁部破片	61区3住床直	粗:石英・雲母/良好/褐色	双環状突起下にコイル状と小環状突起を接続し隆線で繋ぐ。側縁は沈線で丁寧な施文。内面丁寧な研磨を施す	中期中葉
第42図 PL.49	42	石鏃	先端・右脚欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:(1.3)、厚:0.4、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。細かな押圧剥離による整形。裏面には素材面が残る	
第42図 PL.49	43	石鏃	完形	床下	黒曜石	長:2.3、幅:1.4、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い長身で薄手に作出する。挟り部の調整も入念	
第42図 PL.49	44	石錐	完形	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:1.0、厚:0.5、重:0.7。完成状態。小型の剥片下端部を体部として両側縁から粗い剥離を加えている。素材面や礫面が残るが使用痕は見られない	
第42図 PL.49	45	打製石斧	刃部欠損	床直	細粒輝石安山岩	長:(10.7)、幅:4.0、厚:1.2、重:74.6。扁平な短冊形。礫面を大きく残し、両側縁縁辺を粗い剥離で直線状に仕上げる	
第42図 PL.49	46	打製石斧	完形	床下	変質安山岩	長:10.4、幅:6.6、厚:2.1、重:173.1。小型の分銅形。体部中位から下半にかけて厚く、両側縁中位に括れを強く設ける。刃部角度も強く、凸刃を呈す	
第42図 PL.49	47	打製石斧	完形	床直	砂岩	長:9.2、幅:4.7、厚:1.3、重:73.8。小型で扁平な短冊形。細かな剥離を施し直線状の側縁を呈す。刃部表裏面に使用による磨滅痕がある	
第42図 PL.49	48	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:13.2、幅:4.7、厚:1.6、重:125.7。細身の短冊形。左側縁中位に括れを設け直線的に刃部に至る。刃部表裏面に使用による磨滅痕を見る	
第43図 PL.49	49	磨石	完形	床直上	細粒輝石安山岩	長:7.3、幅:5.4、厚:2.1、重:137.0。薄手で扁平な不整楕円状円礫。表裏面に平滑な磨面を持つ	
第43図 PL.49	50	磨石	下半欠損・裏面剥落	床直上	変質安山岩	長:(8.6)、幅:9.5、厚:(5.0)、重:729.0。やや扁平な円礫。表裏面とも著しい平滑面を持ち光沢を有す。裏面は被熱剥落か	
第43図 PL.49	51	凹石	下半欠損	床直上	粗粒輝石安山岩	長:(8.1)、幅:7.0、厚:5.4、重:419.2。厚手の不整形円礫。表裏面に敲打痕の集中による凹みを見る	
第43図 PL.49	52	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.2、幅:6.8、厚:5.2、重:287.0。やや厚手の不定形円礫。多孔質で軟質な印象。敲打痕が散布し、表裏面中央に磨面を見る	
第43図 PL.49	53	磨石	下半欠損	床直	石英閃緑岩	長:(10.8)、幅:12.0、厚:5.2、重:1077.4。やや扁平な円礫。表面に平滑な磨面を有す。側面から裏面は敲打痕が集中する	
PL.49	54	石鏃	下半欠損	61区3A住炉内	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.3)、厚:0.3、重:0.5。完成状態。丁寧な押圧剥離による整形で薄手に仕上げている	
PL.49	55	石鏃	下半欠損	ピット24	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.4)、厚:0.2、重:0.3。完成状態。表面と縁辺は丁寧な押圧剥離を施す。裏面は素材面を残す	
PL.49	56	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.2)、幅:1.7、厚:0.25、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。やや横長の平面形で丁寧な押圧剥離が全面に及び薄手に作出される	
PL.49	57	石錐	完形	埋土	黒曜石	長:1.3、幅:0.6、厚:0.3、重:0.2。極小の製品。完成状態裏面に素材面を残すが周縁より丁寧な押圧剥離を施している。使用痕は見られない	
PL.49	58	打製石斧	下半欠損	床直上	細粒輝石安山岩	長:(7.0)、幅:3.8、厚:1.1、重:34.9。薄手の短冊形。完成状態。やや細かい剥離で両側縁を外反気味に作出する	
PL.49	59	打製石斧	刃部残存	床直上	黒色頁岩	長:(4.8)、幅:4.9、厚:2.1、重:63.6。短冊形か。完成状態。体部は厚手で粗い剥離で刃部と側縁を作出する。刃部表裏面に使用による磨滅痕を見る	
PL.49	60	打製石斧	体部残存	床直上	細粒輝石安山岩	長:(6.5)、幅:5.3、厚:2.0、重:112.9。短冊形。完成状態。厚手ながら比較的細かい剥離で側縁を直線状に作出する	
PL.49	61	打製石斧	体部残存	床直上	細粒輝石安山岩	長:(6.7)、幅:5.7、厚:1.1、重:75.0。短冊形。完成状態。扁平で両側縁を細かい剥離で直線状に仕上げる	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.49	62	加工痕ある剥片	左半欠損	床直上	変質安山岩	長:(9.9)、幅:(6.5)、厚:(2.6)、重:210.5。厚手の大型横長剥片を素材とし右側縁に剥離を加え刃部とする	
PL.49	63	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.6、厚:0.4、重:1.3。小型の剥片左側縁から下端部に押圧剥離を集め刃部としている	
PL.49	64	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:2.1、厚:0.4、重:1.4。小型の剥片縁の一部に押圧剥離を施し刃部とする	
PL.49	65	使用痕ある剥片	完形	床直上	細粒輝石安山岩	長:4.8、幅:4.8、厚:1.1、重:32.4。不定型な横長剥片を素材とし側縁・下端部を刃部とする。刃こぼれを見る	
PL.49	66	使用痕ある剥片	上半欠損	床直上	細粒輝石安山岩	長:(5.2)、幅:3.9、厚:0.9、重:26.7。板状節理した素材の両側面を刃部とする。細かな刃こぼれを見る	

61区7号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第46図 PL.50	1	深鉢	口縁～体部 1/4残存	埋土	細:輝石/良好/褐色	波状突起頂部は擬口縁状に加工される。口縁部は沈線による渦巻文と区画文構成。接点に凹文を施す。体部は2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部、磨消部とも蕨手状沈線文が加わる。縄文はR L充填施文。内面は弱い横位研磨	中期後葉
第46図 PL.50	2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	波状縁か。低位隆線による大柄な弧状意匠。側線は幅広の沈線。L Rを充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第46図 PL.50	3	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/橙色	体部中位。垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成施文部縄文はR L縦位充填施文。内面撫で調整	中期後葉
第46図 PL.50	4～6	深鉢	体部破片3点	床直	粗:石英・輝石/良好/にぶい橙色	垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部は縦位密接条線を施し、縦位波状沈線も重ねる。内面撫で調整	中期後葉
第46図 PL.50	7	深鉢	体部下半～ 底部残存	埋土	粗:石英/やや軟/にぶい橙色	底:7.0。内湾気味に開く体部下半。垂下沈線による懸垂文下端を見る。縄文は縦位L Rか。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第46図 PL.50	8	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/橙色	2条の垂下沈線に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位L R充填施文。内面弱い研磨	中期後葉
第46図 PL.50	9	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/橙色	上半部内湾。太い垂下隆線による懸垂文構成。側線は沈線。縄文はL R縦位充填施文。内面弱い縦位研磨	中期後葉
第46図 PL.50	10	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	口縁部内面肥厚し強く開く。2条隆線が斜位に貼付される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第46図 PL.50	11	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/浅黄褐色	口縁部上に渦巻状突起を付し直下にも渦巻文を配した突起を設ける。沈線を側線とし区画文はR Lを充填する。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第46図 PL.50	12	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/褐色	平縁。小型で薄手の器厚。口縁部内湾し頸部外反する。内外面横位撫で調整。内面口唇部に煤付着	中期後葉
第46図 PL.50	13	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/暗褐色	平縁。小型で薄手の器厚。口縁部隆線を付し渦巻文を設け下端より隆線が垂下する。空白部は弧状短沈線を施す。内面平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第46図 PL.50	14	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・片岩/良好/にぶい褐色	あるいは鉢体部上半か。破片上端は屈曲する兆しを見る。体部は縦位密接条線が施される。内面平滑な撫で	中期後葉
第46図 PL.50	15	深鉢	底部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい橙色	体部下半は強く開く。垂下沈線による懸垂文下端部を見る。縦位R Lを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第46図 PL.50	16	深鉢	底部破片	床直	粗:輝石/良好/浅黄褐色	直線的に開く体部下半。垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。縦位密接条線を施す	中期後葉
第46図 PL.50	17	浅鉢	口縁部破片	床直上	細:石英/良好/灰黄褐色	口唇部肥厚し端部に面を持つ。全面に赤彩痕が残る。内外面横位研磨	中期後葉
第46図 PL.50	18	浅鉢	口縁部破片	床直	細:輝石/良好/黒褐色	口縁部肥厚。内外面に丁寧な研磨を加え。外面に漆状の塗膜を見る	中期後葉
第47図 PL.50	19	石錐	完形	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:1.7、厚:0.6、重:1.5。完成状態。摘み部から体部先端にかけてほぼ全面に丁寧な押圧剥離が覆う。先端部に使用痕は見られない	
第47図 PL.50	20	磨製石斧	ほぼ完形	ピット15	滑石	長:5.8、幅:3.3、厚:1.0、重:37.8。定角式。縦斜位の研磨により仕上げる。装着部は敲打状の使用痕を見る	
第47図 PL.50	21	スクレイパー	完形	埋土	黒色頁岩	長:9.9、幅:5.3、厚:1.2、重:72.8。薄手の横長剥片を素材とし、表面に礫面を僅かに残す。端部に細かな押圧剥離を施し直刃を作出する	
第47図 PL.50	22	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:10.0、幅:3.6、厚:2.0、重:94.0。短冊形。小型の頭部で幅広の刃部を呈す。側縁は直線状。刃部から側縁に使用による磨滅痕がある。特に表面に顕著	
第47図 PL.50	23	打製石斧	完形	埋土	変質安山岩	長:11.6、幅:4.9、厚:1.8、重:138.2。短冊形。表面に礫面を残し、周縁に調整剥離を加える。最大幅を中位に設け刃部は凸刃を呈し僅かな磨滅痕を見る	
第47図 PL.50	24	敲石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:14.2、幅:7.2、厚:4.5、重:727.7。やや扁平な不整楕円状を呈する円礫。敲打痕は全体に広がり、表面中央と下端に集まる。平滑な磨面が裏表面及び左側面に見られる	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第47図 PL.50	25	石皿	破片	炉石	粗粒輝石安山岩	長:(18.5)、幅:(24.2)、厚:8.4、重:5150.0。大型で厚手の素材。上半部にあたり周縁を欠く。底面に平滑な磨面を持ち、周縁及び裏面に敲打痕を集める	
PL.50	26	打製石斧	半面欠損	埋土	黒色頁岩	長:9.3、幅:5.2、厚:(0.9)、重:61.5。短冊形。完成状態。刃部に最大幅を設け使用による磨滅痕を見る。裏面著しく剥落	
PL.51	27	加工痕ある剥片	完形	床直	細粒輝石安山岩	長:3.6、幅:5.2、厚:1.6、重:35.8。横長剥片を素材とし、周縁に粗い剥離を加え刃部としている	
PL.51	28	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:1.3、厚:0.7、重:1.6。やや厚手の縦長剥片下部部に押圧剥離を集める。石鏃未製品か	
PL.51	29	加工痕ある剥片	左側縁欠損	埋土	黒曜石	長:(2.3)、幅:(1.4)、厚:0.3、重:1.5。小型の縦長剥片右側縁に剥離を加え刃部としている	
PL.51	30	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:3.3、幅:2.1、厚:1.4、重:6.2。不定型な縦長剥片を素材とし、右側縁表裏面より押圧剥離を施し刃部としている	
PL.51	31	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.7、厚:0.4、重:1.3。縦長剥片下部部に押圧剥離を施し先端部を作出する。石鏃未製品か	
PL.51	32	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:3.4、幅:1.8、厚:0.5、重:2.2。不定型な縦長剥片を素材とし、両側縁に微細剥離を連続し刃部を作出する	
PL.51	33	使用痕ある剥片	右側縁欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:6.1、幅:(5.9)、厚:1.1、重:39.9。横長剥片を素材とし、下部部に粗い剥離を加え刃部とする	

61区 8号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第51図 PL.51	1	深鉢	体部破片	ピット3	細:石英・雲母少/良好/にぶい黄褐色	外反する体部中位。縦位LRが器面を覆う。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第51図 PL.51	2	深鉢	体部破片	ピット5	粗:石英・輝石/良好/暗赤褐色	厚手で、体部は緩やかに外反する。縦位RLが器面を覆う。内面は弱い研磨を施す	中期後葉
第51図 PL.51	3	深鉢	体部破片	床直	粗:輝石/良好/明赤褐色	体部下半か。撚糸L縦位施文。内面は平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第51図 PL.51	4	深鉢	体部破片	床直	細:輝石/良好/にぶい黄褐色	内湾する体部上半。横位平行沈線を設け、クランク状の意匠が懸架する。地文は撚糸Lが斜位に施される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第51図 PL.51	5	深鉢か	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/明褐色	橋状把手上端。渦巻状意匠を配す。隆線による区画文が接し、沈線を側線としRLを充填する。内面弱い撫で	中期後葉
第51図 PL.51	6	深鉢	体部破片	ピット4	粗:輝石/良好/にぶい赤褐色	外反する体部上半。横位沈線3条を配し下位には垂下沈線や波状沈線を配す。地文は縦位RL。内面横位研磨を施す	中期後葉
第51図 PL.51	7	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	隆線による口縁部区画文。区画内側線は凹線、LRを充填する。内面弱い撫で調整	中期後葉
第51図 PL.51	8	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	体部下半。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成下端。施文部はLR縦位充填施文。内面弱い撫で調整	中期後葉
第51図 PL.51	9	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/にぶい褐色	隆線による渦巻文を中核にした隆線懸垂文構成。弧状沈線意匠を設け斜位短沈線を充填する。内面弱い撫で	中期後葉
第51図 PL.51	10	深鉢	底部1/3残存	埋土	粗:石英/良好/にぶい褐色	底:(4.6)。垂下沈線下部部か。外面は削り調整後弱い撫で、内面は撫で調整	中期後葉
第51図 PL.51	11	ミニチュア土器	口縁1/2欠損	埋土	細:石英多/良好/淡黄色・黒色	口:2.7、高:3.2、底:2.5。波状縁か。中位が括れあるいはキャリパー状を模したか。器面磨滅	中期後葉
第51図 PL.51	12	土製円盤	1/2残存	埋土	細:輝石/良好/にぶい褐色	径:(2.9)×4.4、厚:0.8cm、重:12.4g。深鉢体部の磨消部の転用であろう。周縁は丁寧な磨滅する	中期後葉
第51図 PL.51	13	石鏃未製品	完形	埋土	チャート	長:2.3、幅:1.9、厚:0.8、重:3.1。中央部が厚く残るものの周縁にやや粗い押圧剥離を施し先端部の作出を意図している	
第51図 PL.51	14	石鏃	完形	埋土	碧玉	長:2.0、幅:1.3、厚:0.6、重:1.5。断面三角形の体部表裏面に押圧剥離を施し先端部を作出する。使用痕は見られない	
第51図 PL.51	15	磨製石斧	ほぼ完形	床直上	変玄武岩	長:12.6、幅:4.8、厚:3.1、重:327.5。乳棒状を呈す。全面に整形の敲打痕と研磨痕跡を見る	
第51図 PL.51	16	磨石	一部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.9、幅:(7.4)、厚:2.7、重:349.1。扁平な不定形重円礫。周縁の欠損も磨滅する。表裏面に平滑面を有す。表面に微量煤付着	
第51図 PL.51	17	凹石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(9.3)、幅:9.3、厚:6.0、重:677.1。やや厚手の楕円状円礫。表裏面に敲打痕を集中した凹みを有し、弱い磨面も見られる	
第52図 PL.51	18	磨石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:18.2、幅:13.9、厚:10.8、重:3880.0。大型の楕円状円礫。卵形を呈す。表裏面に磨面を設け、全面に敲打痕を配す	
第52図 PL.51	19	石棒	体部のみ残存	床直	デイサイト	長:(5.8)、幅:10.1、厚:10.2、重:858.0。敲打痕による整形。体部中位上下を意図的に欠損させた石棒再利用品。被熱痕を見る	
第52図 PL.51	20	軽石製品	一部欠損	床直上	軽石	長:8.0、幅:5.3、厚:1.4、重:32.1。方形の平面形を呈す板状製品。各面を平坦に仕上げ、方形の断面形を示す。上端に小孔を穿つ	
PL.51	21	石鏃	先端部・左脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(2.1)、幅:(2.1)、厚:0.4、重:2.1。やや大型の平基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離で薄手に仕上げる	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.51	22	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.4、幅:1.7、厚:0.3、重:0.7。小型の平基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げている	
PL.51	23	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.4、厚:0.3、重:0.5。小型の平基無茎鏃。完成状態。三角形素材の縁辺を微細剥離で整形したのみ。表裏面に礫面、素材面を広く残す	
PL.51	24	石鏃未製品	完形	埋土	黒曜石	長:2.8、幅:2.0、厚:0.7、重:3.7。やや長身の素材。左側縁と下端部に押圧剥離を表裏面から加え体部の整形に着手した段階か。右側縁は無調整	
PL.51	25	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.6、厚:0.4、重:0.9。小型の横長剥片を素材とし右側縁表裏面より押圧剥離を加え刃部としている	
PL.51	26	加工痕ある剥片	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:1.3、厚:0.6、重:1.4。縦長剥片を素材とし、下端突出部に細かな押圧剥離を加える	
PL.51	27	使用痕ある剥片	下半欠損	埋土	黒色頁岩	長:(5.6)、幅:3.0、厚:0.9、重:20.8。縦長剥片を素材とし、両側縁に刃こぼれを見る	
PL.51	28	使用痕ある剥片	完形	床直	細粒輝石安山岩	長:6.0、幅:7.1、厚:1.1、重:59.8。礫面を大きく残す横長剥片を素材と、下端部の刃部に刃こぼれが見られる	
PL.51	29	磨石	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(6.6)、幅:(6.6)、厚:3.3、重:(182.9)。円礫を素材とする。敲打痕は少なく表面に平滑で光沢を持つ磨面を広げる。裏面は剥落する	

61区9号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第56図 PL.52	1	深鉢	口縁～体部 2/3残存	埋土	粗:輝石/やや軟/明 赤褐色	口:30.0。隆線による口縁部楕円状区画文構成。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。縄文はR L充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第56図 PL.52	2	深鉢	口縁～体部 2/3残存	埋土	粗:輝石/やや軟/明 赤褐色	口:26.5。口縁部は隆線による環状区画1単位を配し他は楕円状区画文を連ねる。体部は垂下沈線2条に画された幅広の磨消部懸垂文を設ける。縄文はL R縦位充填施文。内面は弱い横位研磨	中期後葉
第56図 PL.52	3	深鉢	口縁～体部 1/3残存	埋土	細:輝石/良好/にぶ い橙色	口:(48.0)。大型深鉢。口縁部は隆線による渦巻文と区画文が一体化する。側線は沈線及び撫で。体部は3条の垂下沈線による懸垂文構成。変形蕨手状沈線も施される。縄文はR L充填施文。内面弱い研磨を加える	中期後葉
第56図 PL.52	4	深鉢	口縁～体部 上半1/3残 存	床直上 61区12住	粗:石英・輝石/良好 /橙色	口:(21.0)。口縁部内湾。隆線による半渦巻文と区画文構成。側線は凹線でR Lを充填する。体部は垂下沈線に画された磨消部と施文部の懸垂文構成。内面撫で調整	中期後葉
第56図 PL.52	5	壺	体部1/3残 存	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい橙色	双環状を呈す橋状把手を体部上半に付す。あるいは2単位か。把手下端より隆線による分岐懸垂文が配され、体部は縦位沈線3条で区画される。区画内は短条線を充填する。内面は弱い縦位研磨を施す	中期後葉
第56図 PL.52	6	深鉢	体部下半 1/2残存	埋土	粗:石英・輝石/良好 /明褐色	キャリパー状深鉢下半。低位隆線と沈線によるU字状と逆U字状意匠、蕨手状意匠の上下2帯構成。縄文は縦位R L。内面は弱い縦位研磨を施す	中期後葉
第57図 PL.52	7	深鉢	口縁～体部 上半破片	床直上	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	口:(23.6)。キャリパー状深鉢。口縁部は隆線による区画文を配し体部は垂下沈線3条による磨消部懸垂文構成。縄文はR L充填施文。内面及び磨消部縦位研磨を施す	中期後葉
第57図 PL.53	8	深鉢	体部中位～ 下半破片	床直上	粗:石英・輝石/やや 軟/明黄褐色	キャリパー状深鉢。垂下沈線に画された施文部と磨消部による懸垂文構成。縦位波状沈線や単位化した蕨手状沈線が重なる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第57図 PL.53	9	壺	口縁部残存	床直	細:輝石/良好/灰黄 褐色	口:8.4。直立気味に開く無文の口縁部。内外面とも丁寧な縦位研磨が施される	中期後葉
第57図 PL.53	10	壺	口縁部残存	床直上	細:輝石/良好/灰黄 褐色	口:8.4。直立気味に開く。外面弱い撫で、内面平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第57図 PL.53	11	壺か	頸部～体部 上半破片2 点	床直上	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	頸部は直立し肩部は強く張り施文。橋状把手が肩部～体部に付けられる。文様は沈線による楕円状区画文や蕨手状意匠を配しL Rを充填する。肩部内面は無調整	中期後葉
第57図 PL.53	12	壺	頸部～底部 1/3残存	床直上	細:輝石/良好/灰黄 褐色	小型の壺で、頸部は無文で外反し頸部に橋状把手を付す。単位は不明。体部は内湾し沈線による区画文と蕨手状沈線文が配される。無節Rが充填される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第57図 PL.53	13	壺	体部～底部 1/2残存	埋土	粗:輝石/やや軟/ にぶい褐色	底:6.5。球胴状の小型壺。隆線と幅広の凹線による大柄の渦巻文が体部中位に配される。下半は分岐懸垂文が接続する。R L縦位充填施文。内面平滑な撫で調整。外器面磨滅	中期後葉
第57図 PL.53	14	深鉢	口縁～体部 上半1/3残 存	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	口:(30.0)。口縁部は幅広無文で外反気味に直立する。頸部隆線に大型の橋状把手を付す。2単位か。体部は沈線による方形区画状懸垂文と蕨手状懸垂文を配す。区画内はR L充填施文。内面弱い横位研磨	中期後葉

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第57図 PL.53	15	壺	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	下位に孔を配した縦位S字状意匠の橋状把手。両側に低位隆線による区画文を配しR Lを充填する。内面は平滑な撫で	中期後葉
第57図 PL.53	16 17	浅鉢	口縁部破片 2点	埋土	細:輝石/良好/にぶ い橙色	頸部屈曲し体部内湾する。口縁部は無文で屈曲部隆線より体部区画文が派生する。区画内側線は沈線で横位R Lを充填する。内面研磨	中期後葉
第58図 PL.53	18	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好 /灰褐色	厚手の器厚。隆線による区画文構成。側線は幅広の沈線。R Lを充填する。内面横位研磨	中期後葉
第58図 PL.53	19	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /黒褐色	厚手。太い隆帯による口縁部区画文。凹線を側線とし縦位R Lを充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第58図 PL.53	20	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/灰褐 色	口縁部突起欠損。低位隆線による口縁部区画文構成。凹線を側線とし縦位R Lを充填する。円文を口唇部に配す。内外面とも丁寧な研磨を施す	中期後葉
第58図 PL.53	21 22	深鉢	口縁部・体 部破片2点	床直上	粗:石英・輝石/軟質 /明黄褐色	器面磨滅。口縁部は太隆帯による区画文構成。側線は凹線、充填縄文は不明。体部は垂下沈線による磨消部懸垂文構成。縦位R Lを充填する	中期後葉
第58図 PL.53	23	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英少/良好/に ぶい黄橙色	口縁部隆線による弧状・渦巻状意匠。側線は凹線、横位R Lを充填する。内面研磨を施す	中期後葉
第58図 PL.54	24	深鉢	体部下半破 片	埋土	粗:輝石/良好/明褐 色	垂下沈線で画された幅広の磨消部懸垂文構成。磨消部内に縦位蛇行沈線を施す。施文部は縦位R L充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第58図 PL.54	25	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/明褐 色	2・3条の垂下沈線に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部に縦位R Lが充填され縦位波状沈線が加わる。内面撫で	中期後葉
第58図 PL.54	26	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い黄橙色	外反する体部中位。擬口縁。3条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位R L充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第58図 PL.54	27	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/にぶ い黄橙色	波頂部下の沈線による半渦巻文と区画文。縄文はR L充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第58図 PL.54	28	壺	体部破片	埋土	細:石英・雲母少/良 好/にぶい黄褐色	強く内湾する体部。上半に横位隆線を付し以下沈線による逆U字状意匠が配される。意匠内縄文は縦位R L R 充填施文。内面は平滑な撫で。少量の煤を付着する	中期後葉
第58図 PL.54	29	深鉢	体部下半破 片	埋土	細:石英・輝石/やや 軟/にぶい黄橙色	内湾気味に開く体部下半。沈線で画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部は縦位L 充填施文。外面磨滅、内面平滑な撫で調整	中期後葉
第59図 PL.54	30	壺	把手破片	埋土	粗:輝石/良好/灰黄 褐色	双環状を呈する大型の橋状把手。太い沈線を縁辺に施す。内面は平滑な撫で	中期後葉
第59図 PL.54	31	深鉢	把手破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い黄褐色	橋状把手。中位に凹線を施し、両端より隆線が派生する。内面は弱い研磨を施す	中期後葉
第59図 PL.54	32	壺か	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	隆線による環状区画意匠。区画内は沈線を側線とし円形刺突文を充填する。隆線交点に円文を配す。体部は縦位密接条線を施す	中期後葉
第59図 PL.54	33	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英/良好/明赤 褐色	大型の鉢か。弧状隆線と沈線以下強く開く体部上半に縦位沈線が密接に施される。内面撫で調整	中期後葉
第59図 PL.54	34	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい赤褐色	内傾する体部下半。隆線以下縦位条線を密接に施文する。内面強い横位・縦位撫で調整後研磨を施す	中期後葉
第59図 PL.54	35	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /黒褐色	波頂部に配された隆線による渦巻文。両側及び下端より12条の隆線が派生する。側線は撫で。斜位短沈線を施す。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第59図 PL.54	36	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/橙 色	低位隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。沈線を側線とし区画内は短沈線を充填する。体部は縦位矢羽状短沈線か。内面横位撫で調整	中期後葉
第59図 PL.54	37	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/灰褐 色	器厚は薄手。緩やかな波状突起を付す。沈線を側線とする口縁部区画文構成。斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第59図 PL.54	38	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英少/やや軟/ 橙色	体部上半に付せられた隆線による環状・渦巻状意匠。側線は沈線。弧状短沈線を充填する。内外面器面磨滅	中期後葉
第59図 PL.54	39	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/褐色	口:(30.0)。大型深鉢。外反する無文の幅大口縁部。外面及び口縁部内面は弱い縦位研磨。内面下位は弱い撫でを施す	中期後葉
第59図 PL.54	40	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/灰褐 色	強く開く口縁部。無文で内外面丁寧な研磨を施す。頸部屈曲部に横位沈線を施す	中期後葉
第59図 PL.54	41	深鉢	体部1/3残 存	床直上	細:輝石/良好/橙 色	3条の垂下沈線による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第59図 PL.55	42	深鉢	口縁～体部 破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /明褐色	口:(36.0)。大型深鉢。バケツ状の器形を呈す。口縁部は隆線による渦巻文を配し、体部は3条の垂下沈線による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を充填する。内面研磨	中期後葉
第60図 PL.55	43 44	壺	体部破片3 点	埋土	細:輝石少/良好/に ぶい黄色	強く内湾する体部器形。肩部には条線状の刺突文を施し、体部は沈線による大柄な渦巻文や蕨手状文を配す。内面は弱い横位研磨を施す	中期後葉
第60図 PL.55	45	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英多・輝石/良 好/にぶい褐色	波頂部に配される隆線による渦巻状意匠。側線は沈線で下端より2条沈線に画された磨消部が懸垂する。地文は縦位R L。内面は強い横位削り後撫で調整	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第60図 PL.55	46	深鉢	口縁～体部 1/2残存	埋土	粗:石英/良好/にぶ い赤褐色	口:12.6。小型深鉢。口縁部内湾し隆線による横位S字状意匠を 基準にした連繋。体部は浅い沈線による重方形状意匠や蕨手状懸 垂文を配す。内面横位撫で調整	中期後葉
第60図 PL.55	47	深鉢	体部中位 3/4残存	炉内	細:輝石少/良好/に ぶい橙色	体部中位の括れ部。沈線による縦位意匠文が配される。小円文や 蕨手文も施される。縄文は縦位RL充填施文。内面は弱い撫で調 整。全体に被熱痕跡を見る	中期後葉
第60図 PL.55	48	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /明褐色	口:(22.6)。隆線による末端が小渦巻文の横位弧状意匠を口縁部 配す。下端及び渦巻文下より2・3条の垂下沈線を施す。縄文は 縦位LLR充填施文。内面平滑な撫で	中期後葉
第60図 PL.55	49	深鉢	口縁～体部 1/3残存	埋土	粗:石英・輝石/良好 /明褐色	口:(32.0)。口縁部内湾。体部文様一帯構成で2条沈線による逆 U字状意匠が配される。縄文は縦位LR充填施文。内面は弱い横 位研磨を施す	中期後葉
第60図 PL.55	50	深鉢	口縁～体部 破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /褐色	口:(21.0)。口縁部内湾。口唇部に横位沈線を配し、体部は沈線 2・3条による逆U字状懸垂文を配す。無節L縦位充填施文。内 面平滑な撫で調整	中期後葉
第60図 PL.55	51	浅鉢	頸部破片	埋土	細:輝石/やや軟/浅 黄褐色	屈曲部隆線より隆線が斜位に派生し区画文を画す。隆線上と側線 には末端渦巻文の沈線を施す。区画内は縦位短沈線を充填する	中期後葉
第60図 PL.55	52	深鉢	口縁～体部 上半破片	床直上	粗:輝石/良好/にぶ い黄褐色	口:(50.0)。大型深鉢。口縁部は隆線による長楕円状区画文を設 けLRを充填し側線に沈線を施す。頸部の幅狭無文部を経て体部 上半には沈線による区画文が、下半には沈線による大柄な弧線文 ・渦巻文が配される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第60図 PL.55	53	深鉢	口縁～体部 破片	埋土	52と同一個体	52と同一個体	中期後葉
第61図 PL.56	54	深鉢	口縁～体部 上半破片	埋土	粗:輝石/良好/褐色	隆線による口縁部長楕円状区画文構成。区画内側線は沈線で横位 LRを充填する。幅広の頸部無文部を経て体部上半に横位沈線3 条を設け縦位短沈線を重ねる。以下縦位RLを施す、内面は平滑 な撫で調整	中期後葉
第61図 PL.56	55	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	口縁部隆線による渦巻文と区画文構成。側線は沈線。体部は垂下 沈線に画された幅狭磨消部懸垂文。縄文はLRと無節Rの2種を 見る。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第61図 PL.56	56	深鉢	頸部破片	床直上	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	口縁部は隆線による区画文構成か。側線は凹線でLRを横位充 填施文する。頸部は幅広の無文部を設け体部上半に横位沈線を施 す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第61図 PL.56	57	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い黄褐色	口縁部下に隆線による半渦巻状意匠を配し両脇から弧状隆線が派 生する。区画文を配さない。体部は沈線で画された磨消部懸垂文 構成で施文部には蕨手状懸垂文が重なる。縄文はRL充填施文。 内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第61図 PL.56	58	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/橙色	隆線による半渦巻状意匠上端を見る。LR充填施文。内面弱い横 位研磨	中期後葉
第61図 PL.56	59	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・片岩少/良 好/橙色	外反する。横位隆線を付し上位に垂下隆線と弧状沈線を配す。下 位に横位沈線4条を施す。地文に縦位密接条線を施す。内面弱い 研磨	中期後葉
第61図 PL.56	60	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /黒褐色	外反する体部上半か。横位沈線3条を設け、上位に横位沈線、下 位に剣先状意匠を配す。地文はLR斜位施文。内面は横位撫で 調整	中期後葉
第61図 PL.56	61	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い褐色	外反する体部中位。上位に横位波状沈線文を配し、体部に横位沈 線3条を設け以下3条の沈線による渦巻文や懸垂文を配す。縦位 RLを地文とする。内面研磨	中期後葉
第61図 PL.56	62	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・雲母/良好 /明赤褐色	体部上半。刻みを付す横位隆線を設け、垂下隆線や渦巻文を配す。 横位短沈線を充填する。内面横位撫で調整	中期後葉
第61図 PL.56	63	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	体部下半。刻みを付す垂下隆線による懸垂文下端。地文に縦位密 接条線を施す。内面撫で	中期後葉
第61図 PL.56	64	深鉢	頸部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	屈曲部に横位隆線を付し縦位交互刺突文を重ねる。以下は縦位R Lを施す。内面は丁寧な研磨を加える	中期後葉
第61図 PL.56	65	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/黒褐 色	口縁部内湾。隆線による口縁部環状意匠と小突起を2条隆線で繋 ぐ。無節Lを地文とする。内面研磨	中期後葉
第61図 PL.56	66	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/明赤 褐色	幅広の無文口縁。内湾気味に直立する。外面は丁寧な横位研磨、 内面は平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第61図 PL.56	67	浅鉢	口縁部破片	床直上	細:石英/良好/褐灰 色	口縁部肥厚し体部強く内湾する。内外面丁寧な研磨を施し赤痕 を見る	中期後葉
第62図 PL.56	68	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	口唇部内湾する。無文で内外面とも削り調整後弱い研磨を施す	中期後葉
第62図 PL.56	69	深鉢	体部～底部 1/3残存	埋土	細:輝石/良好/明赤 褐色	底:(9.6)。底径広く内湾気味に開く体部下半。平行沈線による 懸垂文下端を見る。地文は縦位RL。内面は平滑な撫で調整で被 熱痕跡を見る	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第62図 PL.56	70	深鉢	底部	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い橙色	底:(7.6)。外反気味に開く体部下半。垂下沈線で画された施文部と磨消部懸垂文構成下端。縦位RLを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第62図 PL.56	71	深鉢	底部1/2残存	埋土	細:輝石/良好/橙色	底:5.6。小型深鉢か。直立気味に開く体部下半。垂下沈線2条による懸垂文構成下端を見る。内面弱い研磨。煤付着	中期後葉
第62図 PL.56	72	深鉢	底部残存	埋土	粗:石英・輝石/やや 軟/橙色	底:6.3。小型深鉢か。直立気味の体部下半。垂下沈線の下端部を僅かに見る。内外面撫で調整	中期後葉
第62図 PL.56	73	深鉢	底部のみ残存	埋土	粗:石英/良好/にぶ い橙色	底:9.0。直立気味の体部下半。内外面平滑な撫で調整	中期後葉
第62図 PL.56	74	浅鉢	底部1/2残存	埋土	細:輝石少/良好/灰 褐色	底:(10.5)。強く開く体部下半。内外面とも丁寧な研磨を施す	中期後葉
第62図 PL.56 57	75 76	深鉢	体部下半～ 底部破片2 点	埋土	粗:石英・輝石/軟質 /明黄褐色	器面磨滅する。強く開く体部下半。垂下沈線による懸垂文構成。施文部縄文は縦位LRか	中期後葉
第62図 PL.57	77	深鉢	口縁～体部 1/4残存	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	口:(30.0)。厚手で口縁部内湾する。沈線施文で上半は横位波状文、下半は逆U字状懸垂文が配される2帯構成。縄文は無節L縦位充填施文。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第62図 PL.57	78	土製円盤	完形	埋土	細:輝石/良好/褐灰 色	径:3.4×3.3、厚:1.0cm、重:12.4g。弧状短沈線を施す深鉢体部破片の再利用。周縁を丁寧に磨滅する	中期後葉
第62図 PL.57	79	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:1.2、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面を覆い、整った小型品に仕上げる	
第62図 PL.57	80	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.4、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面を覆い、対称性に優れた良品に仕上げる	
第62図 PL.57	81	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.6、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面を覆い、対称性に優れた良品に仕上げる	
第62図 PL.57	82	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.3、厚:0.3、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面を覆い、対称性に優れた良品に仕上げる	
第62図 PL.57	83	石鏃	先端欠損	埋土	流紋岩	長:(2.0)、幅:1.7、厚:0.3、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。先端部突出か。丁寧な押圧剥離で側縁は内湾し整った平面形を呈す	
第62図 PL.57	84	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(2.0)、幅:2.0、厚:0.4、重:1.4。凹基無茎鏃。完成状態。やや粗い押圧剥離が全面を覆い、薄手の大型品を作出する。裏面に不純物	
第62図 PL.57	85	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:1.9、厚:0.8、重:3.5。厚みがある。粗い押圧剥離が周縁に施されるが、表面中央や側縁に素材面が残る	
第62図 PL.57	86	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:0.8、厚:0.4、重:0.5。完成状態。断面三角形の剥片を素材とし、周縁に細かな押圧剥離を施す。先端部に摩耗痕を見る	
第62図 PL.57	87	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:0.9、厚:0.5、重:0.6。断面三角形の細身の素材左側縁に細かな微細剥離を施し先端部を作出する	
第62図 PL.57	88	打製石斧	上端欠損	埋土	変質安山岩	長:(10.1)、幅:4.7、厚:1.9、重:138.5。短冊形。体部中位が背高で厚みを残す。粗い剥離を周縁に施し直線的な側縁を呈す。刃部に僅かな磨滅痕を見る	
第62図 PL.57	89	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:10.9、幅:6.5、厚:1.1、重:104.7。扁平な撥形。薄手の素材で周縁を粗い剥離で調整する。幅広の刃部は直刃を呈する。使用痕は顕著では無い	
第63図 PL.57	90	打製石斧	上端欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(10.5)、幅:5.9、厚:1.8、重:131.8。短冊形。表裏面に礫面を残す。頭部は小型で、側縁中位に括れを有し、刃部上位に最大幅を設ける。凸刃を呈し刃部角度は強い。使用による磨滅痕が見られる。	
第63図 PL.57	91	打製石斧	上端欠損	床直上	変質安山岩	長:(11.2)、幅:7.8、厚:1.5、重:229.2。撥形。表面に大きく礫面を残す。粗い剥離を周縁に及ぼし角度ある凸刃を作出する。	
第63図 PL.57	92	敲石	一部欠損	埋土	珪質変質岩	長:(7.5)、幅:2.8、厚:1.8、重:50.5。小型で棒状の円礫。左側縁及び下端部に細かな敲打痕が集まる。全体に錆化する	
第63図 PL.57	93	研磨具 (砥石か)	下半欠損	埋土	石英閃緑岩	長:(9.6)、幅:(6.1)、厚:(3.7)、重:306.2。楕円状円礫。表面中央が強く湾曲し、平滑な磨面が広がる。器表面の剥落著しい	
第63図 PL.57	94	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.0、幅:6.3、厚:3.9、重:422.6。扁平な楕円状円礫。小型品。表裏面中央に浅い凹みと磨面を有す。かるい敲打痕は散漫	
第63図 PL.57	95	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.7、幅:8.5、厚:3.4、重:571.2。扁平で不整楕円状を呈する円礫。敲打痕は側面と下端部、表面中央に集まる。平滑な磨面が表裏面に見られる	
第63図 PL.57	96	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:12.9、幅:8.2、厚:4.4、重:741.1。扁平で不整楕円状を呈する円礫。敲打痕を側縁と下端部に見るが散漫。表裏面に強い平滑面を持つ	
第63図 PL.57	97	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:12.1、幅:8.8、厚:4.8、重:747.1。やや厚手の楕円状円礫。敲打痕は全面に広がり、下端部に顕著。表裏面中央に弱い磨面	

遺物観察表

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第63図 PL.57	98	敲石	上半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(9.2)、幅:7.7、厚:4.9、重:505.0。下端に敲打痕を集める。表裏面及び右側面に平滑な磨面を持つ	
第63図 PL.57	99	軽石製品	完形	埋土	軽石	長:7.2、幅:6.2、厚:2.3、重:36.0。加工痕・整形痕を見ない原石か。小孔も自然孔と判断した	
第64図 PL.57	100	台石	完形	床直上	ひん岩	長:26.9、幅:24.0、厚:9.6、重:8300.0。大型でやや扁平な円礫。表面に平滑な磨面と僅かな敲打痕を見る。裏面にも少量の敲打痕が見られる	
第64図 PL.57	101	石棒	下部欠損	炉脇 61区11住 61区22住	緑色片岩	長:(70.0)、幅:11.1、厚:8.5、重:12500.0。無頭の大型石棒か。敲打による整形で、表面と両側縁に平滑な磨面を見るため、各面が凹む。3軒の住居跡からの出土である	
PL.58	102	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒色頁岩	長:2.7、幅:2.1、厚:0.7、重:3.2。凹基無茎鏃。完成状態か。先端部に厚く礫面を残すが、周縁からの丁寧な押圧剥離が全体を覆う	
PL.58	103	石鏃	片脚部欠損	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:(1.3)、厚:0.3、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。細身の素材に丁寧な押圧剥離を全面に施す	
PL.58	104	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.7、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離を全面に施し、薄手に仕上げている。やや非対称	
PL.58	105	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.1)、幅:1.2、厚:0.3、重:0.3。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離を全面に施すが裏面中央に素材面を残す	
PL.58	106	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:(1.4)、厚:0.3、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。挟り部湾曲は弱い。丁寧な押圧剥離が全面に施される	
PL.58	107	石鏃	片脚部欠損	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:(1.4)、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。細かく丁寧な押圧剥離が全面に及ぶ。先端部作出は入念に行う	
PL.58	108	石鏃	完形	埋土	石英	長:1.7、幅:1.3、厚:0.2、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。小型の剥片素材縁辺のみを押圧剥離で整形する。裏面も素材面が広く残る	
PL.58	109	石鏃	脚部残存	埋土	黒曜石	長:(0.9)、幅:1.6、厚:0.3、重:0.2。凹基無茎鏃。完成状態。細かく丁寧な押圧剥離が挟り部に集中する	
PL.58	110	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:(1.2)、幅:1.7、厚:0.4、重:0.7。凹基無茎鏃。未製品か。小型の剥片周辺に細かな押圧剥離を施す	
PL.58	111	石鏃	先端部・左側面欠損	埋土	黒曜石	長:(2.7)、幅:(1.5)、厚:0.6、重:2.1。凹基無茎鏃。完成状態。細かく丁寧な押圧剥離が全面に及ぶも中央部に厚みを残す	
PL.58	112	石鏃	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:(2.1)、厚:0.3、重:1.1。あるいは未製品か。薄手の素材縁辺に微細剥離を施す。裏面に素材面を大きく残す	
PL.58	113	石鏃	体部残存	埋土	黒曜石	長:(1.6)、幅:(1.3)、厚:0.4、重:0.8。あるいは未製品か。小型の剥片周縁に細かな押圧剥離を施す	
PL.58	114	石鏃	先端部残存	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.5)、厚:0.6、重:1.1。あるいは未製品か。剥片周縁に粗い押圧剥離を施す。厚みを残す	
PL.58	115	石鏃	先端部残存	埋土	黒曜石	長:(0.9)、幅:(0.7)、厚:0.15、重:0.1。完成状態。細かな押圧剥離を施す先端部	
PL.58	116	石鏃未製品	完形	埋土	黒曜石	長:(2.0)、幅:(1.9)、厚:0.3、重:1.1。薄手の剥片周縁に押圧剥離を加え先端部を作出した段階。基部は未着手に終わる	
PL.58	117	石鏃	体部のみ残存	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:0.7、厚:0.3、重:0.5。細長い素材全面に丁寧な押圧剥離を施す	
PL.58	118	打製石斧	体部残存	埋土	黒色頁岩	長:(4.7)、幅:3.8、厚:1.2、重:27.8。短冊形。完成状態。比較的細かな剥離で直線的な側縁を作出する	
PL.58	119	加工痕ある剥片	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:4.1、幅:6.0、厚:1.2、重:37.7。横長剥片を素材とする。下端部に細かい剥離を加え鋸歯状の刃部を作出する	
PL.58	120	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.3、幅:1.7、厚:0.5、重:1.0。小型の横長剥片を素材とし、端部に粗く細かな押圧剥離を加える	
PL.58	121	加工痕ある剥片	破片	埋土	黒曜石	長:2.7、幅:1.1、厚:0.6、重:1.2。やや大型のスクレイパー破片か。縁辺に丁寧な押圧剥離を施す	
PL.58	122	加工痕ある剥片	破片	埋土	黒曜石	長:1.1、幅:1.1、厚:0.3、重:0.3。あるいは石鏃先端部か。小型の剥片縁辺に細かな押圧剥離を加える	
PL.58	123	加工痕ある剥片	体部のみ残存	埋土	黒曜石	長:(0.9)、幅:1.4、厚:0.5、重:0.7。小型の剥片の一部に押圧剥離が看取される	
PL.58	124	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:1.7、厚:0.5、重:1.6。不定形な小型剥片の一部に粗い押圧剥離を施す	
PL.58	125	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:1.8、厚:0.6、重:3.3。小型の横長剥片下端部に細かな押圧剥離を施す	
PL.58	126	使用痕ある剥片	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(5.9)、幅:(5.6)、厚:(1.2)、重:38.2。横長剥片を素材とし下端部に剥離を施し刃部としている	
PL.58	127	磨石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(6.6)、幅:(7.9)、厚:4.2、重:357.0。やや厚手の扁平な楕円状円礫。端部・側面に敲打痕を見るが、表裏面に平滑で光沢を持つ磨面が広がる	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.58	128	磨石	完形	埋土	チャート	長:1.2、幅:0.6、厚:0.3、重:0.4。極少の円礫。全面が光沢を持つ磨面で覆われる。研磨具と考えた	
PL.58	129	敲石	上半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(8.9)、幅:7.7、厚:4.7、重:535.1。やや厚手の扁平な楕円状円礫。表裏面と下端部に敲打痕を集める。表面に弱い磨面が広がる	

61区10号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第65図 PL.58	1	深鉢	体部破片	炉内	粗:輝石/良好/にぶい黄橙色	器面磨滅。垂下沈線で画された磨消部と縦位波状沈線。内面撫で調整	中期後葉
第65図 PL.58	2	深鉢	体部破片	炉内	粗:輝石/良好/にぶい黄橙色	器面磨滅。垂下沈線3条による懸垂文構成。縦位波状沈線も加わる。内面撫で調整	中期後葉
第65図 PL.58	3	深鉢	体部破片	炉内	粗:輝石/良好/にぶい黄橙色	器面磨滅。体部下半。垂下沈線による懸垂文下端を見る。内面撫で調整	中期後葉

61区11号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第68図 PL.58	1	深鉢	口縁～体部下 下半残存	炉内	細:石英・輝石/良好/ 明黄褐色	口:21.5。筒状の中空突起を正副2単位配す。頂部に円形刺突文と沈線を施す。突起下に刻みを付す垂下隆線を設け、沈線による弧状意匠を体部上下2帯に配す。中に横位沈線を施すが乱雑な施文である。無節Rを施すが施文部としての強い制約は無い。内面は弱い横位研磨を施す	後期初頭
第69図 PL.58	2	深鉢	口縁～体部下 下半残存	炉内	粗:輝石/良好/浅黄 橙色	口:22.0。体部上半が強く開く。正副2単位の突起を付し、正突起は中に孔を設ける。突起下に刻みを付す隆線を垂下し中に紡錘状の意匠を配す。体部1帯構成で沈線で画された渦巻状や弧状意匠が無節Lの施文部として配される。内面弱い横位研磨。口縁部に煤が付着する	後期初頭
第69図 PL.58	3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 黒褐色	波状縁頂部。両側面に沈線による渦巻文を施す。頂部下に上端渦巻文の垂下沈線を配す。空白部は縦位矢羽状短沈線を埋める。内面撫で	中期後葉
第69図 PL.58	4	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	突出する口縁部渦巻状突起。沈線を側線とし口唇部に連繋する。強い内稜を付し横位撫で調整を施す	中期後葉
第69図 PL.58	5	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	無文の口縁部。低位隆線による口縁部区画文か。沈線を側線とする。内面、弱い研磨を施す	中期後葉
第69図 PL.58	6	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	肥厚する口縁部。隆線と凹線による口縁部区画文か。内面撫で。器形に歪みを見る	中期後葉
第69図 PL.58	7	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 褐色	口縁部肥厚。隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。側線は撫で、RLを充填施文する。内面横位研磨を施す	中期後葉
第69図 PL.58	8	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 黒色	口縁部肥厚。隆線と凹線による口縁部区画文か。RLを充填する。内面は弱い横位研磨を施す	中期後葉
第69図 PL.58	9	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/赤褐 色	器厚薄手で口縁部内湾する。隆線による渦巻文下端より隆線が派生する。側線は沈線。縦位細沈線を充填する。裏面平滑な撫で調整	中期後葉
第69図 PL.59	10	深鉢	口頸部破片	埋土	細:輝石少/良好/黒 褐色	隆線による口縁部区画文か。側線は撫で。RLを充填施文する。内面弱い横位研磨を施す	中期後葉
第69図 PL.59	11	深鉢	口頸部破片	埋土	細:輝石/良好/黒色	隆線による口縁部区画文。側線は撫で、横位RLを充填する。内面横位撫で後弱い研磨	中期後葉
第69図 PL.59	12	深鉢	口頸部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い褐色	隆線による口縁部区画。凹線を側線としRLを充填する。体部に垂下沈線2条のによる懸垂文上端を見る。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第69図 PL.59	13	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/褐色	体部上半。横位沈線を設け垂下沈線3条が派生する。上端に渦巻文を配す。地文は縦位LRを施す。内面研磨	中期後葉
第69図 PL.59	14	石鏃未製品	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:2.0、厚:0.4、重:1.7。薄手の素材周縁より丁寧な押圧剥離を施し、円形に仕上げている。先端部作出直前の様相か	
第69図 PL.59	15	石錐	完形	埋土	珪質頁岩	長:4.1、幅:2.5、厚:0.7、重:6.1。完成状態。摘み部は広く体部は両側縁からの丁寧な押圧剥離で先端部を作出する。使用痕は見られない	
第69図 PL.59	16	打製石斧	上下欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(7.3)、幅:4.6、厚:2.1、重:81.9。細身の短冊形。やや厚手で粗い剥離調整で直線的な側縁を作出する	
PL.59	17	打製石斧	体部残存	埋土	変質安山岩	長:(5.9)、幅:4.9、厚:1.8、重:65.6。短冊形か。完成状態。粗い剥離による両側縁の作出	
PL.59	18	加工痕ある剥片	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:(4.8)、幅:(5.2)、厚:0.9、重:24.7。横長剥片を素材とする。下端部の刃部に粗い剥離を加え鋸歯状とする	

遺物観察表

61区12号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第73図 PL.59	1	深鉢	口縁～体部 中位残存。 突起欠損	炉内	細:石英・雲母少/良 好/明黄褐色	口:19.8。波状縁波頂部欠損。4単位か。波頂下に隆線による渦 巻文を縦位に接続し、3条の隆線による縦位紡錘状意匠が上半に 配される。おそらく下半も同様の意匠文が配されるのであろう。 側線は撫でで縦位LRを充填する。内面平滑な撫で調整。下半に 被熱痕跡を見る	中期後葉
第73図 PL.59	2	深鉢	体部下半～ 底部残存	埋土	粗:石英多/やや軟/ 橙色	底:11.0。大型の深鉢。垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸 垂文構成。不規則な配置で13単位を数える。施文部縄文は縦位L R充填施文。内面撫で調整。外面器面やや磨滅	中期後葉
第73図 PL.59	3 4	深鉢	口縁～体部 破片2点	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	口:(32.0)。大型の深鉢。口縁部は2条隆線による区画文と渦巻 文構成。体部は垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。 施文部縄文は縦位RLR。内面横位へら撫で調整	中期後葉
第73図 PL.59	5	壺	口縁～体部 1/3残存	埋土	粗:石英/良好/にぶ い赤褐色	口:(52.0)。大型品。幅広の無文口縁部で頸部屈曲する。体部上 半に大型の橋状把手を付す。両側面上下から貫孔し縦位S字状意 匠が配される。隆線による区画文と渦巻文が接続する。縄文は斜 位RL充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第73図 PL.59	6	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	口:(23.0)。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。頸部隆線を 設ける。体部は2条の垂下沈線に画された幅狭磨消部懸垂文構成。 縄文は縦位RL充填施文。内面研磨	中期後葉
第73図 PL.59	7	深鉢	体部1/4残 存	埋土	細:石英多・輝石/良 好/明赤褐色	体部下半の内湾部。垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文 構成。施文部はLR縦位充填施文。内面平滑な撫で	中期後葉
第73図 PL.59	8	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 暗赤褐色	隆線による口縁部区画文。側線は凹線で区画内は斜位LRあるい は縦位短沈線を充填する。体部は垂下沈線上端を見る。内面横位 削り調整後弱い撫で	中期後葉
第74図 PL.59	9	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/灰黄 褐色	小型深鉢。口縁部内湾。低位隆線による口縁部区画文。体部は垂 下沈線による施文部と磨消部の懸垂文構成。縄文はLRを充填施 文。内面は弱い横位研磨を施す	中期後葉
第74図 PL.59	10	深鉢か	突起破片	埋土	粗:石英・片岩/良好/ 褐色	中空状の縦位S字状突起。正面孔に沿って沈線を施す。両側面か らも貫孔する	中期後葉
第74図 PL.59	11	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い黄橙色	垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。縄文はRL縦位 充填施文。内面器壁剥落	中期後葉
第74図 PL.60	12	深鉢	口頸部～体 部上半破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い黄褐色	隆線による区画文と渦巻文か。区画内側線は凹線、縦位RLを充 填する。体部は縦位密接条線を施す。内面撫で	中期後葉
第74図 PL.60	13	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/やや 軟/にぶい黄褐色	横位隆線以下弧状沈線を配し、無節Lを縦位施文する。器面磨滅 する	中期後葉
第74図 PL.60	14	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英多・輝石/良 好/明褐色	浅い2・3条の垂下沈線による懸垂文構成。波状沈線を加えるか。 内外面とも撫で調整、器面磨滅	中期後葉
第74図 PL.60	15	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。縄文はRL縦位 充填施文。内面縦位研磨	中期後葉
第74図 PL.60	16	深鉢	突起破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	中空状の波状突起。両側面と正面より貫孔する。縁辺及び孔に沿っ て隆線と沈線が扱い、裏面は渦巻状突起が配される。内面は平滑 な撫で	中期後葉
第74図 PL.60	17	壺か	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	幅狭の頸部屈曲部に付せられた中空状突起。両側面と下位からの 貫孔で上端は渦巻文が配される。楕円状区画文が接し、頸部隆線 には末端渦巻文の横位沈線に沿う。内面平滑な撫で	中期後葉
第74図 PL.60	18	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英少/良好/褐 色	口縁部内湾。口縁部横位隆線に円形小突起を付し1条の隆線が懸 垂する。沈線を側線とし無節Lを充填する。内面撫で	中期後葉
第74図 PL.60	19	深鉢	突起破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い褐色	波状を呈し頂部に円孔を穿ち側面縁辺を沈線で深く施文する。突 起中位を貫孔する。体部は斜位沈線を施す	中期後葉
第74図 PL.60	20	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/黒褐 色	外反する体部上半。2列の円文列が施され、以下弧状沈線も配さ れる。地文は斜位RL。内面研磨を施す	中期後葉
第74図 PL.60	21	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い黄褐色	縦位平行沈線数条による懸垂文構成。沈線による弧状・剣先状意 匠を配す。地文は縦位RL。器面磨滅。内面撫で	中期後葉
第74図 PL.60	22	深鉢	口縁～体部 上半残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口:17.7。扁平な隆線による口縁部勾玉状区画文構成。区画形状 や配置に不規則性が見られる。区画内は沈線を側線とし充填文は 施文しない。体部は垂下沈線2条による懸垂文構成。斜位短沈線 を充填する。内面横位研磨	中期後葉
第74図 PL.60	23	深鉢	口縁～体部 上半3/4残 存	埋土	粗:石英/良好/にぶ い橙色	口:18.2。口縁部は隆線による渦巻文と区画文が一体化した勾玉 状区画文。渦巻文は不規則な配置。区画内は縦位短沈線を施す。 体部は2条の垂下沈線による懸垂文構成。鱗状短沈線を充填する。 内面は弱い研磨を施す	中期後葉
第74図 PL.60	24	深鉢	口縁～体部 上半残存	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 暗赤褐色	口:(26.0)。口唇部多くを欠損。内湾する口縁部に隆線による渦 巻文を配し下端より隆線が体部に懸垂する。渦巻文は横位隆線で 繋ぎ体部と画する。体部地文は縦位密接条線で横位沈線2条が多 段に重なる。内面平滑な撫で調整	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第74図 PL.60	25	深鉢	口縁～体部 1/5残存	埋土	細:石英/良好/明赤 褐色	口:(23.6)。内湾する口縁部は肥厚し無文。隆線による渦巻文を 配し下端より2条隆線が懸垂する。上位に横位沈線2条を施し交 互刺突文を重ねる。体部は縦位沈線を地文とし、横位弧状沈線2 条を加える。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第74図 PL.60	26	深鉢	口縁～体部 1/3残存	埋土	粗:石英/良好/褐色	口:(21.0)。口縁部上位無文。隆線による勾玉状区画文構成。沈 線を側線とし縦位短沈線を充填する。体部は2条の垂下隆線による 懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を充填する。内面横位へう撫で	中期後葉
第75図 PL.60	27	深鉢	口縁～体部 1/4残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	口:(26.0)。隆線による口縁部区画文構成。区画内側線は沈線で 縦位短沈線を充填する。体部は2条の垂下隆線による懸垂文構成。 縦位矢羽状短沈線を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第75図 PL.60	28	深鉢	口縁～体部 1/5残存	床直上	粗:輝石/良好/にぶ い橙色	口縁部は隆線による渦巻文と区画文が一体化する勾玉状区画文。 縦位短沈線を充填する。体部は隆線による逆U字状意匠が接続し 下端より1条の隆線が懸垂する。斜位短沈線を充填する。内面研 磨	中期後葉
第75図 PL.60	29	深鉢	口縁～体部 1/4残存	床直上	粗:石英・雲母/良好/ 暗赤褐色	口:(24.0)。口縁部内面肥厚。口縁部上位無文。隆線による渦巻 文と区画文が一体化する構成。沈線を側線とし縦位・斜位短沈線 を充填する。体部は2条隆線による逆U字状懸垂文か。斜位短沈 線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第75図 PL.61	30	深鉢	体部下半～ 底部残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	底:6.2。直線的に開く体部下半。隆線によるU字状区画意匠下端。 8単位か。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。内面 横位撫で調整、煤付着	中期後葉
第75図 PL.61	31	深鉢	体部下半～ 底部1/3残 存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 明褐色	体部下半は内湾気味に開く。垂下隆線1条による懸垂文構成。沈 線を側線とし斜位短沈線を充填する。内面器壁剥落多	中期後葉
第75図 PL.61	32	深鉢	体部下半～ 1/4残存	床直上	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	隆線による逆U字状区画意匠。側線は無く縦位・斜位短沈線を充 填する。内面弱い縦位研磨を施す	中期後葉
第75図 PL.61	33 34 35	深鉢	口縁部破片 1・体部破 片2点	埋土	粗:石英・輝石/やや 軟/にぶい黄褐色	波頂部下に隆線による縦位S字状意匠を配し下端より2条隆線が 懸垂する。波頂部には沈線による渦巻文が配され、体部は縦位密 接条線を地文とし横位沈線2条が重なる。内面撫で調整	中期後葉
第75図 PL.61	36	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/やや軟/に ぶい褐色	隆線による渦巻文と区画文が一体化する。区画内は縦位短沈線を 施す。内外器面磨滅	中期後葉
第75図 PL.61	37	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 褐色	口縁部内湾。横位隆線に渦巻文を配し下端より垂下隆線が派生す る。逆U字状隆線も配され対向する弧状短沈線を充填する。内面 平滑な撫で調整	中期後葉
第75図 PL.61	38	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/褐色	波状突起に隆線による渦巻文を配す。下位に区画文と接する。隆 線の側線は沈線、区画内は縦位短沈線を施す	中期後葉
第75図 PL.61	39	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	隆線による口縁部区画文構成。区画内は沈線を側線とし縦位短沈 線を充填する。内面研磨	中期後葉
第75図 PL.61	40	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/黒褐 色	波状縁か。口縁部は横位隆線で幅狭に画され、横位蛇行沈線が施 される。体部は縦位短沈線が充填される。内面撫で	中期後葉
第75図 PL.61	41	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石・雲母/良好/ にぶい橙色	外反する無文の口縁部。内外面とも丁寧な研磨を施す	中期後葉
第75図 PL.61	42	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/橙色	隆線による横位渦巻状意匠を配す。斜位沈線を充填する。内面平 滑な撫で調整	中期後葉
第75図 PL.61	43	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 暗褐色	体部上半か。2条隆線による口縁部区画。縦位短沈線を充填する。 体部は縦位矢羽状短沈線を施す。内面平滑な撫で	中期後葉
第75図 PL.61	44	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 明褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。鱗状短沈線を充填する。隆線 間は無文。内面撫で	中期後葉
第76図 PL.61	45	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	体部下半。2条隆線による縦位長楕円状意匠と垂下沈線2条による 懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を相向いに充填する。内面撫 で調整	中期後葉
第76図 PL.61	46	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。空白部は横位沈線2条を配し、 縦位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第76図 PL.61	47	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い赤褐色	1条の隆線による渦巻文が懸架し下端より垂下隆線2条が派生す る。空白部は縦位矢羽状短沈線を施し縦位波状沈線を重ねる。内 面撫で調整	中期後葉
第76図 PL.61	48	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	体部中位の括れ部。2条隆線による懸垂文構成。側線は沈線。空 白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第76図 PL.61	49	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	沈線による体部施文。縦位沈線群による分割。空白部は弧状・楕 円状意匠が充てられる。内面研磨	中期後葉
第76図 PL.61	50	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	縦位矢羽状短沈線を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第76図 PL.61	51	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 褐色	体部上半か。横位沈線以下垂下沈線2条による幅狭の磨消部懸垂 文構成。施文部は斜位短沈線を充填する	中期後葉
第76図 PL.61	52	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	中位の括れ部。2条の垂下沈線による懸垂文構成。斜位短沈線群 を相向かいに配す充填文様。内面平滑な撫で	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第76図 PL.61	53	深鉢	底部	埋土	粗:石英・雲母/良好 /明褐色	底:7.6。直立気味に開く体部下半。無文で丁寧な撫で調整を施す。 内面煤が付着する	中期後葉
第76図 PL.62	54	鉢	口縁部破片	埋土	細:石英多・輝石/や や軟/浅黄橙色	強く開く幅広の無文口縁部。内外面とも撫で調整。器面磨滅する	中期後葉
第76図 PL.62	55	石鏃	ほぼ完形	埋土	流紋岩	長:1.5、幅:1.1、厚:0.3、重:0.3。小型の凹基無茎鏃。完成状態。 平面形はやや非対称で、細かな押圧剥離が全体を覆う	
第76図 PL.62	56	石匙	完形	埋土	黒曜石	長:1.5、幅:2.0、厚:0.3、重:0.7。完成状態。三角形の素材表面に 丁寧な押圧剥離を集める。摘み部は短く、刃部は直刃状をなす。 裏面は素材面を大きく残す	
第76図 PL.62	57	石鏃未製品	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.5、厚:0.3、重:0.5。平基無茎鏃。薄手の素材に丁寧な 押圧剥離を全体に施す。	
第76図 PL.62	58	石鏃	先端・片脚 欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:(1.5)、厚:0.2、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。 やや粗い押圧剥離を全面に施し、薄手に仕上げる	
第76図 PL.62	59	石鏃	完形	埋土	珪質頁岩	長:2.9、幅:1.8、厚:0.4、重:1.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な 押圧剥離が全面に及び長身で左右対称の整った平面形を呈している	
第76図 PL.62	60	石鏃未製品	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.7、厚:0.7、重:1.9。小型の横長剥片を素材とし、 やや粗い押圧剥離が周縁に施される。意図する形状は不明	
第76図 PL.62	61	石錐	完形	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:1.1、厚:0.6、重:1.1。断面三角形の小型素材周縁に 細かな押圧剥離を施す。表面に素材礫面が残り、先端部にまで及ぶ	
第76図 PL.62	62	石錐	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:0.6、厚:0.3、重:0.4。細身の断面三角形の素材の 両側縁に細かな押圧剥離を施す。先端部もやや強い剥離で作出する。 摩耗痕は見られない	
第76図 PL.62	63	打製石斧	上端欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(11.7)、幅:4.9、厚:1.7、重:113.2。短冊形。やや扁平で粗い 剥離調整で周縁を作出する。刃部は凸刃で表裏面とも使用による 磨滅痕が顕著	
第76図 PL.62	64	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:12.2、幅:5.2、厚:1.8、重:118.9。短冊形。小型の頭部で刃部 上位に最大幅を設ける。粗い剥離調整で、周縁を作出し凸刃を呈す	
第76図 PL.62	65	打製石斧	完形	埋土	変質安山岩	長:15.5、幅:5.9、厚:2.8、重:248.2。長身で細身の短冊形。頭部は 尖り刃部に最大幅を持たせる。粗い剥離調整で周縁を作出する。 側縁に装着痕を見る	
第77図 PL.62	66	凹石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:11.1、幅:8.9、厚:5.7、重:894.8。厚手でやや扁平な不整形 円状円礫。敲打痕は表裏面中央に集まり凹みとなす。また側面にも 集中する。表裏面は平滑な磨面となり光沢を持つ	
第77図 PL.62	67	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.3、幅:8.1、厚:7.3、重:769.2。厚手の球状円礫。敲打痕が 全面に広がるが下端部にやや集中する	
第77図 PL.62	68	石棒	破片	埋土	角閃石安山岩	長:(8.5)、幅:(12.6)、厚:(4.4)、重:479.6。大型石棒体部破片。 下端が意図的な欠損を受ける。器表面は平滑な研磨と線状痕を見る	
PL.62	69	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.5、厚:0.4、重:0.8。凹基無茎鏃。非対称ながら完成 状態。やや粗い押圧剥離を周縁に施し、表裏面とも中央部に素材面を 残す	
PL.62	70	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒色安山岩	長:1.9、幅:1.7、厚:0.4、重:1.3。挟りの弱い凹基無茎鏃。完成 状態。やや厚みのある体部ながら押圧剥離が全体を覆う。整った 平面形状である	
PL.62	71	石鏃	脚部残存	埋土	黒曜石	長:(1.2)、幅:1.8、厚:0.2、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。 丁寧で細かな押圧剥離が薄手の素材全面に及ぶ	
PL.62	72	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:1.5、幅:1.2、厚:0.4、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。やや 粗い押圧剥離が周縁に施される。表裏面中央に素材面が残る	
PL.62	73	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.5、厚:0.3、重:0.9。非対称な平基無茎鏃。完成 状態。やや粗い押圧剥離が全面を覆い、薄手に仕上げる。	
PL.62	74	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:(1.3)、厚:0.2、重:0.5。凹基無茎鏃。丁寧な押 圧剥離を周縁に施し素材面が表裏面に残る	
PL.62	75	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:(1.9)、厚:0.3、重:1.3。平基無茎鏃。完成状態。 丁寧な押圧剥離が全面を覆い、薄手に仕上げる	
PL.62	76	石鏃	体部残存	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:(1.7)、厚:0.3、重:0.8。完成状態か。細かな押 圧剥離が施されるが表裏面に素材面が残る	
PL.62	77	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:1.9、厚:0.6、重:2.2。平基無茎鏃。あるいは未 製品か。粗い押圧剥離が全面に及ぶが表面中央が厚く残る	
PL.62	78	石鏃	左返し部残 存	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:(1.1)、厚:0.2、重:0.2。一部の残存のため全容 不明。微細な押圧剥離を縁辺に施す	
PL.62	79	石鏃未製品	ほぼ完形	埋土	流紋岩	長:2.8、幅:(2.4)、厚:0.6、重:3.2。凹基無茎鏃を意図か。表面 中央に厚みを残し、周縁にやや粗い押圧剥離を施す	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.62	80	打製石斧	頭部のみ残存	埋土	変質安山岩	長:(4.4)、幅:6.1、厚:1.4、重:59.2。完成状態の短冊形か。粗い剥離に寄り頭部から側縁を作出する	
PL.62	81	打製石斧	下半欠損	埋土	変質安山岩	長:8.1、幅:4.5、厚:1.8、重:91.5。短冊形。完成状態。比較的細かい剥離で直線的な両側縁を作出する	
PL.62	82	打製石斧	下半欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:6.3、幅:3.9、厚:1.5、重:60.6。短冊形。完成状態。比較的細かい剥離で直線的な両側縁と頭部を作出する	
PL.62	83	打製石斧	上半欠損	埋土	黒色頁岩	長:(7.2)、幅:6.4、厚:1.8、重:94.5。完成状態の短冊形か。粗い剥離で側縁と刃部を作出する。刃部表裏面に使用による磨滅痕が僅かに見られる	
PL.62	84	スクレイパー	完形	埋土	珪質変質岩	長:2.7、幅:4.2、厚:1.1、重:9.2。横長剥片裏面下端部に押圧剥離を重ね先端部を作出する。石鏃未製品か	
PL.62	85	スクレイパー	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.8、厚:0.3、重:1.1。小型の横長剥片を素材とし周縁に粗い押圧剥離を施し凹形で薄手に仕上げる	
PL.62	86	加工痕ある剥片	下半欠損	床直上	黒色頁岩	長:3.5、幅:6.7、厚:0.6、重:17.8。不定型な薄手の横長剥片を素材とする。周縁に粗い剥離を加え刃部とする	
PL.62	87	加工痕ある剥片	右半欠損	埋土	黒色頁岩	長:3.4、幅:5.0、厚:1.1、重:16.1。横長剥片を素材とし、下部の刃部に細かな剥離を表裏方向から施す	
PL.62	88	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.0、厚:0.5、重:0.7。小型の縦長剥片を素材とし、縁辺に粗い押圧剥離を施す。やや厚みを残す	
PL.62	89	使用痕ある剥片	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:7.8、幅:5.4、厚:1.0、重:48.6。礫面を大きく残す縦長剥片を素材とし両側縁に使用による微細剥離が見られる	
PL.62	90	磨石	完形	床直上	ひん岩	長:14.8、幅:5.3、厚:5.7、重:796.6。不整形を呈す亜円礫。表裏面と側面に平滑な磨面が広がる	
PL.62	91	磨石	上下端部欠損	床直上	ひん岩	長:(9.7)、幅:7.3、厚:4.4、重:496.2。不整形を呈する亜円礫。表裏面に少量の敲打痕を見るが、平滑な磨面も広がる。破砕礫だが被熱が要因ではない	
PL.62	92	敲石	一部欠損	埋土	変質安山岩	長:(8.5)、幅:6.2、厚:3.4、重:217.9。小型でやや扁平な楕円状円礫。周縁・表裏面に敲打痕を見る。表面に弱い平滑な磨面が広がる	

61区16号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第78図 PL.63	1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/褐色	口唇部内面肥厚。口縁部区画文構成。区画接点に沈線による縦位S字状意匠を配す。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第78図 PL.63	2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	体部上半。2条隆線による懸垂文上端か。沈線を側線とし弧状短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第78図 PL.63	3	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶい橙色	垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文。磨消部及び内面は研磨を施す	中期後葉
第78図 PL.63	4	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	垂下沈線に画された磨消部と施文部の懸垂文構成。施文部は無節L縦位充填施文後縦位波状沈線を重ねる。内面撫で	中期後葉
第78図 PL.63	5	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/にぶい黄褐色	垂下沈線2・3条による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。内面撫で	中期後葉
第78図 PL.63	6	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:1.3、厚:0.4、重:0.5。完成状態。やや扁平で石鏃の再利用か。縁辺に押圧剥離を施し体部を作出する	
第78図 PL.63	7	石皿	中央部残存	埋土下位	粗粒輝石安山岩	長:(16.3)、幅:24.0、厚:8.2、重:3540.0。全面敲打による仕上げ。縁は一体化し強く湾曲する。表底面中央及び裏面に平滑面を有す	
PL.63	8	石鏃	上半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.6、厚:0.4、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が覆い、両側縁を鋸歯状に作出する	
PL.63	9	石鏃	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.3)、幅:(1.1)、厚:0.3、重:0.3。先端部のみ残存。押圧剥離による作出。側縁が鋸歯状を呈す	
PL.63	10	加工痕ある剥片	破片	埋土	珪質頁岩	長:4.8、幅:3.8、厚:1.0、重:23.3。縦長剥片左側縁に細かな剥離を加えて刃部とする。打製石斧などの再利用か	

61区17号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第83図 PL.63	1	深鉢	口縁～体部上半残存	床直上	粗:石英・輝石/良好/にぶい褐色	口:15.0。小型深鉢。4単位波状縁を呈し口唇端部に面を持つ。口縁部は隆線による長区画文と波頂下に渦巻文を配し横位隆線を派生する。区画内は縦位短沈線を充填する。体部は縦位RLが覆う。内面は平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第83図 PL.63	2	深鉢	口縁～体部上半破片	床直上	粗:輝石/良好/にぶい褐色	口縁部内湾。隆線による田螺状突起を付し2条隆線を横位に派生する。沈線による渦巻文や横位沈線を充填する。体部は3・4条の横位沈線群で画される。内面弱い横位研磨	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第83図 PL.63	3～ 7	深鉢	口縁～体部 破片5点	ピット2・22	粗:石英・雲母/良好/ 褐色・にぶい赤褐色 ・橙色	鋸歯状口縁を呈し口縁部横位沈線群を設ける。以下双環状突起や横位コイル状突起を付し、弧状隆線で繋ぐ。体部は小突起以下隆線による懸垂文構成。内面撫で	中期後葉
第83図 PL.63	8	深鉢	体部中位～ 底部1/2残 存	床直	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	底:7.2。内湾する体部下半。垂下する平行沈線4条による懸垂文構成。波状沈線も加わる。地文は縦位RL。内面は平滑な撫で調整、煤付着	中期後葉
第83図 PL.63	9	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:白色粒/良好/ にぶい褐色	頸部隆線で幅狭の口縁部文様帯を画す。沈線による渦巻文を配し横位沈線群と交互刺突文を充填する。体部は縦位燃糸L。体部上半にも横位沈線を施す。内面は丁寧な研磨	中期後葉
第83図 PL.63	10	浅鉢	体部破片	床直上	細:石英/良好/暗褐色	強く開く体部中位。無文で横位削り調整後研磨を加える。外面に黒色付着物を見る	中期後葉
第83図 PL.63	11	深鉢	頸部～体部 破片	床直上 61区9住	細:輝石/良好/赤褐色	大型深鉢。2条隆線による口縁部区画文か。頸部に1条、体部上半に2条の横位隆線を設ける。地文は口縁部は横位燃糸L、体部は縦位燃糸Lを施す。内面は弱い研磨	中期後葉
第83図 PL.64	12	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・雲母/良好/ 暗褐色	口縁部は無文で内湾し隆線による渦巻状突起を付し、直下に双環状小突起を付し横位隆線が派生する。沈線と横位爪形文を側線とする。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第83図 PL.64	13	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・雲母/良好/ 褐色	体部上半か。横位連結した双環状突起を配し両端から垂下隆線が派生する。体部は平行沈線による懸垂文や弧線文が配される。無節Lを地文とする。内面撫で	中期後葉
第83図 PL.64	14 ～ 17	深鉢	体部破片3 点、底部 2/3残存	床直 埋土	粗:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	底:9.6。直立気味に開く体部下半。体部から底部端部にまで縦位燃糸Lが覆う。内面平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第84図 PL.64	18	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い赤褐色	内皮使用の平行沈線5条による懸垂文構成。地文は直前段反燃RRL縦位施文。内面撫で	中期後葉
第84図 PL.64	19	深鉢	頸部破片	床直上	細:輝石/良好/赤褐色	強く開く頸部。無文で鎖状隆線を縦位に繋ぐ。屈曲部に2条の横位隆線を設ける。内外面とも弱い研磨を施す	中期後葉
第84図 PL.64	20	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:輝石/良好/褐灰色	口縁部内湾。2条隆線による弧状意匠あるいは区画文構成。側線は撫で、地文は横位燃糸L。内面は弱い横位研磨	中期後葉
第84図 PL.64	21	深鉢	口縁部突起 片	床直上	粗:石英・雲母/良好/ にぶい黄褐色	大波状縁頂部か。縁辺は肥厚し、複列の結節沈線と小型の連続爪形文が施される。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第84図 PL.64	22	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 灰褐色	口縁部内湾。隆線による弧状意匠。隆線上及び側線に沈線を施す。内外面とも弱い研磨を施す	中期後葉
第84図 PL.64	23	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	横位隆線に画された幅狭の口縁部文様帯。弧状意匠を配し縦位短沈線を充填する。側線は沈線。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第84図 PL.64	24	深鉢	体部破片	床直上	細:輝石/良好/にぶ い橙色	外反する体部上半。横位隆線を設け、燃糸Rを縦位に施文する。隆線には縦位沈線下端部を見る。内面研磨、煤付着	中期後葉
第84図 PL.64	25	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	低位隆線による環状あるいは弧状意匠。側線は施されず、丁寧な撫で調整に覆われる。内面も研磨を加える	中期後葉
第84図 PL.64	26	深鉢	体部破片	床直	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	内湾する筒状の器形。隆線による楕円状意匠を配し縦位コイル状突起を中位に付す。側線は沈線で三叉文を付加する。内面弱い撫で調整	中期中葉末～
第84図 PL.64	27	深鉢	底部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	底:(6.8)。縦位平行沈線による懸垂文構成下端部。充填文様は見られない。内面平滑な撫で、煤付着	中期後葉
第84図 PL.64	28	深鉢	底部破片	61区52坑内	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	底:(9.8)。内湾気味に開く体部下半。縦位LRが器面を覆う。内面撫で調整	中期後葉
第84図 PL.64	29	深鉢	口縁部破片	61区53坑内	粗:石英・輝石/良好/ 灰黄褐色	口縁部横位隆線を設ける。側線は幅広の沈線。体部は2条の沈線による逆U字状意匠を配す。縄文は横位・縦位RL施文。内面丁寧な研磨	中期後葉
第84図 PL.64	30	深鉢	口縁部破片	61区53坑内	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	隆線による口縁部区画文構成。側線幅広の沈線。区画交点に円文を施す。無節Lを縦位充填施文する。内面弱い研磨	中期後葉
第84図 PL.64	31	深鉢	体部中位 1/4～底部 残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 明褐色	底:17.2。小型深鉢。垂下隆線2条による懸垂文構成。3単位。体部中位に渦巻状意匠を配し、弧状短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第84図 PL.64	32 ～ 34	深鉢	体部破片3 点	床直	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色～褐色	体部下半。垂下沈線に画された施文部と磨消部の懸垂文構成。施文部は縦位RLを充填し波状沈線を重ねる。磨消部及び内面は研磨を施す	中期後葉
第84図 PL.64	35	深鉢	体部破片	61区53坑内	粗:輝石/良好/にぶ い赤褐色	垂下沈線に画された幅広の磨消部と施文部による懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文、磨消部及び内面は弱い研磨	中期後葉
第84図 PL.64	36	深鉢	体部破片	床直	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	垂下沈線に画された幅広の磨消部と施文部による懸垂文構成。施文部、磨消部とも蕨手状沈線を重ねる。縄文は縦位RL充填施文。磨消部及び内面は丁寧な研磨	中期後葉
第84図 PL.64	37	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	体部中位。上半は外反し、隆線で画された三角形の区画内に2条隆線による渦巻状意匠が懸架する。区画外は横位短沈線が充填される。内面撫で調整	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第84図 PL.64	38	土製円盤	完形	埋土	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	径:2.6×2.6、厚:1.2cm、重:9.2g。深鉢体部中位磨消部を再利用。 周縁を丁寧に磨減する	中期後葉
第85図 PL.64	39	石鏃	完形	ピット28	黒曜石	長:1.5、幅:1.6、厚:0.4、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。中央 部やや厚手ながら押圧剥離は全体を覆う。丁寧な調整で整った平 面形を示す	
第85図 PL.64	40	石鏃	摘み部欠損	床直上	黒曜石	長:6.4、幅:1.3、厚:0.9、重:7.1。完成状態。断面三角形の長身 の体部。一部に礫面を残すが周縁より丁寧な押圧剥離を施してい る。使用痕は見られない	
第85図 PL.64	41	磨石	完形	床直上	変質安山岩	長:7.3、幅:6.3、厚:2.2、重:163.0。扁平で円盤状の円礫。表裏 面に平滑な磨面を持つ	
第85図 PL.65	42	多孔石	一部欠損	床直上	粗粒輝石安山岩 アグルチネート	長:26.0、幅:15.6、厚:12.5、重:4789.0。大型で不定形な垂角礫。 各所の器表面が剥落する。表裏面と左側面に断面円錐状の凹みを 多数集める	
PL.64	43	石鏃	完形	ピット14	黒曜石	長:1.7、幅:1.2、厚:0.3、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。小型 品ながら丁寧な押圧剥離が全体を覆い整った平面形を作出する。 側縁も鋸歯状を呈し逸品である	
PL.64	44	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:1.3、厚:0.6、重:1.4。平基無茎鏃。完成状態。長身 で中央部がやや厚手ながら押圧剥離で全体を覆う。下半の剥離は やや粗い	
PL.64	45	石鏃	左脚部欠損	埋土	黒曜石	長:1.3、幅:(1.3)、厚:0.2、重:0.3。平基無茎鏃。完成状態。 薄手の剥片縁辺を押圧剥離で整形する。中央部に素材面を残す	
PL.64	46	石鏃	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.2)、厚:0.3、重:0.4。完成状態。丁寧な押圧 剥離による整形で薄手に仕上げる	
PL.64	47	石鏃	下半破片	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:(1.3)、厚:0.4、重:0.5。抉りの弱い凹基無茎鏃 か。完成状態。丁寧な押圧剥離が覆う	
PL.64	48	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:1.6、厚:0.3、重:0.7。平基無茎鏃。完成状態。 やや粗い押圧剥離が全体を覆う。基部が鋸歯状に作出される	
PL.64	49	打製石斧	完形	埋土	変質安山岩	長:11.3、幅:5.2、厚:2.0、重:124.0。短冊形。完成状態。左右 非対称で右側縁に広く刃部を設ける。周縁は細かな剥離が及ぶ。 刃部表面に使用による磨減痕を見る	
PL.64	50	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒色安山岩	長:4.3、幅:3.1、厚:0.7、重:9.4。薄手の横長剥片を素材とし側 縁表裏面より交互に剥離を加え先端部を作出する。石鏃の未製品 か	
PL.64	51	使用痕あ る剥片	完形	ピット2	黒曜石	長:2.0、幅:2.9、厚:0.7、重:4.1。横長剥片を素材とし下端部の 刃部に刃こぼれが僅かに見られる	

61区18号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第86図 PL.65	1	深鉢	底部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い褐色	底:(10.0)。直立気味に開く体部下。厚手で内外面とも丁寧な 撫で調整を施す	中期か
第86図 PL.65	2	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好 /明褐色	2条の垂下降線による懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を充填す る。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第86図 PL.65	3	深鉢	体部破片	ピット1	粗:石英多/良好/に ぶい黄褐色	2・3条の横位平行沈線を設け以下同沈線による小渦巻文や剣先 状意匠を配す。内面平滑な撫で	中期後葉
第86図 PL.65	4	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/橙色	内湾する口縁部に2段の刺突列を施す。体部は細沈線に画された 逆U字状磨消部を配す。施文部は縦位R L充填施文	中期末葉
第86図 PL.65	5	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い褐色	幅広の横位沈線3条を設け以下縦位L Rを施す。内面丁寧な研磨	中期後葉
第86図 PL.65 第86図 PL.65	6	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.2、幅:1.1、厚:0.3、重:0.3。小型の凹基無茎鏃。完成状態。 縁辺の押圧剥離を主としており、表面に礫面、裏面に素材面を残 す	
第86図 PL.65	7	スクレイ パー	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:3.1、厚:0.8、重:4.4。横長剥片を素材とする。両側 縁と下端に表裏面からの丁寧な押圧剥離を加え刃部とする	
PL.65	8	スクレイ パー	完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:3.4、厚:0.9、重:4.0。厚手の横長剥片を素材とし、 下端に丁寧な押圧剥離を表裏面に施し刃部を作出する。基部に礫 面を残す	
PL.65	9	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒色頁岩	長:7.9、幅:7.7、厚:0.9、重:36.3。薄手の不定型な横長剥片周 縁を刃部とし粗い剥離を施す	

61区19号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第77図 PL.62	1	深鉢	体部破片	床下	細:石英少/良好/黒 褐色	細片。斜位矢羽状短沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉

遺物観察表

61区20号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第87図 PL.65	1	浅鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	口縁部は強く開き無文。内外面とも丁寧な研磨を施し、外面には赤彩による斜位意匠を描く	中期中葉
第87図 PL.65	2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・片岩/良好/ にぶい赤褐色	3・4条の平行沈線による不定形区画文。区画内は截痕列が沿う。内面横位撫で調整	中期中葉
第87図 PL.65	3	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	刻みを付す垂下隆線による懸垂文構成。側線は沈線。縦位LRが覆う。内面平滑な撫で	中期中葉
第87図 PL.65	4	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ /橙色	厚手の器厚。おそらく体部下。縦位LRが覆う。内面平滑な撫で調整	中期中葉

61区21号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第91図 PL.65	1 2	深鉢	口縁部・体 部破片2点	埋土	細:石英・雲母/良好/ /暗赤褐色	幅広の無文口縁部より垂下隆線が懸垂磨る。おそらく体部も懸垂文構成。頸部に横位沈線2条を設け体部は同沈線による縦位区画文が配される。三叉文と刺突文が充填される。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第91図 PL.65	3	深鉢	体部下 半～底 部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い赤褐色	大型深鉢か。直立気味に開く体部下。内皮平行沈線が縦位に密接施文される。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第91図 PL.65	4	深鉢	体部下 半～底 部破片	床直上	粗:石英多・輝石/良 好/にぶい赤褐色	強く開く体部下。無文で内外面とも平滑な撫で調整を施す	中期中葉か
第91図 PL.65	5	浅鉢	体部破片	床直上	細:輝石/良好/灰黄 褐色	強く開く体部下。内外面とも丁寧な研磨を施す	中期中葉
第91図 PL.65	6	浅鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/灰黄 褐色	波状線を呈し、口縁部下で強く屈曲する。沈線による口縁部区画文か。内外面研磨を施す	後期初頭
第91図 PL.65	7	深鉢	突起破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ /黒褐色	片環状突起上位にコイル状突起を付す。上下端より隆線が派生する。空白部は沈線群を充填する。内面研磨	中期中葉
第91図 PL.65	8	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ /にぶい褐色	外反する体部上半か。横位平行沈線群を設け、地文に縦位擦糸Lを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第91図 PL.65	9	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ /褐色	2条隆線が垂下し下端で閉塞する、おそらく懸垂文構成。内皮平行沈線が縦位に密接施文される。内面撫で	中期後葉
第91図 PL.65	10	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ /暗褐色	隆線による半渦巻状意匠。幅狭の内皮平行沈線を側線とする。内面撫で	中期後葉
第91図 PL.65	11	打製石斧	完形	埋土	変質安山岩	長:10.5、幅:4.9、厚:2.0、重:115.3。短冊形。粗い剥離調整で周縁を加工し、右側縁に括れを設ける。中位に装着痕を見る	
PL.65	12	打製石斧	下半欠損	床直上	変質安山岩	長:9.1、幅:5.9、厚:2.9、重:186.2。短冊形。完成状態。厚手で刃部にかけて強く内湾する。粗い剥離で側縁が作出され、中位に装着痕を見る	

61区22号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第95図 PL.65	1	深鉢	突起片	床直上	細:石英・輝石/良好/ /橙色	滑車状の口縁部突起。中位が貫孔する。表面はRLを充填し、裏面は弧状意匠を配す	後期初頭
第95図 PL.65	2	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/にぶ い黄色	口縁部屈折し、横位沈線を設ける。口縁部突起は内外面の円形貼付を中心として、下端より弧状隆線が派生する。外面研磨、内面撫で調整を施す	後期前葉
第95図 PL.65	3	注口土器	注口部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い褐色	やや太い注口部上位に小型の橋状把手を設ける。把手両側面上端に円文を施し沈線で繋ぐ。把手下端も円文や沈線文が施される。外面丁寧な撫で調整が施される	後期前葉
第95図 PL.66	4	深鉢	体部下 半～底 部残存	ピット2	粗:石英多・輝石/良 好/にぶい橙色	底:11.0。2・3条の垂下沈線による懸垂文構成。下端部を弧状沈線で閉塞する。空白部には斜位沈線を充填する。内面撫で調整。被熱痕跡を見る	中期後葉
第95図 PL.66	5	深鉢	口縁部一 部、体部残 存	ピット3	細:輝石/良好/明黄 褐色	口:(15.0)。口縁部突起欠損。口縁部は無文で下位に横位沈線を設ける。体部は縦位RLに覆われる。内面研磨。煤付着	中期後葉
第95図 PL.66	6	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・輝石/やや 軟/にぶい黄橙色	波状突起か。2条の細隆線による弧状区画意匠が配される。側線は撫で。縄文はRL充填施文。内外面弱い研磨を施す	中期後葉
第95図 PL.66	7	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英/良好/にぶ い黄褐色	隆線による口縁部楕円状区画文。区画接点上位に大型の円文。区画内は凹線を側線としRLを充填する。器面磨滅	中期後葉
第95図 PL.66	8	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ /にぶい黄褐色	隆線による弧状意匠。おそらく大柄の渦巻文か。側線は幅広沈線。LRを充填施文する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第95図 PL.66	9	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/ /橙色	弧状垂下する隆線による懸垂文構成か。側線は撫で。縦位LRを施す。内面撫で	中期後葉
第95図 PL.66	10	深鉢	体部破片	床直	粗:輝石/良好/橙色	隆線による弧状区画意匠下端。区画内側線は撫で、斜位LRを充填する。隆線の剥落多く判然としない。内面平滑な撫で	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第95図 PL.66	11	深鉢	体部破片	床直	粗:石英多/良好/褐色	体部上半。口縁部は幅広無文か。頸部横位隆線2条を設け隆線による渦巻文を重ねる。下端より隆線が派生する懸垂文構成か。側縁は沈線。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第95図 PL.66	12	深鉢	体部破片	床直	細:石英・輝石/良好/橙色	垂下凹線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はR L縦位充填施文。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第95図 PL.66	13	壺か	把手破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/褐色	肩部に付せられる橋状把手。上端が波状になり、縦位LRが施される	中期後葉
第95図 PL.66	14	深鉢	体部破片	床直	粗:石英多・輝石/良好/にぶい褐色	2・3条の垂下沈線による懸垂文構成。空白部には横位弧状短沈線を充填する。施文は深い。内面撫で調整	中期後葉
第95図 PL.66	15	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/橙色	口縁部無文で肥厚する。肥厚下に平行沈線が深く施文され、以下体部文様は沈線による同心円・渦巻状意匠が配される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第95図 PL.66	16	深鉢	体部破片	床直	細:輝石/良好/褐色	垂下沈線による懸垂文構成か。斜位短沈線が充填されるが交差しており斜格子状となる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第96図 PL.66	17 18	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英/良好/にぶい黄褐色	口縁部僅かに内湾。縦位・斜位細沈線を乱雑に施す。内面撫で調整	中期後葉
第96図 PL.66	19	台付深鉢	底部1/2残存	床直	粗:石英・雲母/良好/明赤褐色	脚部欠損。内湾気味に開く体部下半。脚部との接点部分に孔を設けるが形状・単位は不明。縦位RLが覆う。内面は平滑な撫で調整を施す	中期中葉か
第96図 PL.66	20	深鉢	突起片	床直	粗:石英・雲母/良好/にぶい橙色	内湾する口頸部か。横位沈線以下横位に付せられたコイル状突起や嘴状突起が配される。平行沈線は幅狭で内皮を使用する。内面研磨	中期後葉初頭
第96図 PL.66	21	深鉢	突起片	床直	粗:石英・雲母/良好/明赤褐色	大型の環状を呈する口縁部突起。内外面同様の意匠を配す。中位が貫孔し下端も孔の存在を見る。三叉文を施す	中期中葉末
第96図 PL.66	22	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:1.4、厚:0.4、重:1.0。凹基無茎鏃。完成状態。縁辺を主体に押圧剥離を施す。表面中央部に礫面、裏面には素材面を残している	
第96図 PL.66	23	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:1.6、厚:0.4、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離を周縁に施し中央部に素材面を残すが、縁辺を鋸歯状に加工する。均整の取れた逸品	
第96図 PL.66	24	打製石斧	完形	床直	黒色頁岩	長:11.4、幅:4.5、厚:1.4、重:99.3。左右非対称な短冊形。比較的丁寧な剥離調整で直線的な側縁と凸刃を作出する。刃部表面に使用による磨滅痕を見る	
第96図 PL.66	25	磨製石斧	完形	床直	変玄武岩	長:8.0、幅:3.9、厚:2.3、重:116.5。定角式。敲打による整形で、上半部は敲打痕が残る。溝状の敲打痕集合が特徴である。下半～刃部は丁寧な研磨で整形される	
第96図 PL.66	26	磨製石斧	完形	床直	変玄武岩	長:12.2、幅:4.3、厚:1.7、重:94.4。定角式。敲打による整形で、上半部に入念な敲打痕が残る。下半～刃部は斜位の研磨による作出であるか	
第96図 PL.66	27	磨製石斧 転用品	完形	床直	変玄武岩	長:(7.2)、幅:5.1、厚:2.6、重:173.1。研磨時の斜位研磨痕を見る。下半は表裏面より強く剥離する。周縁は研磨を加えている	
第96図 PL.66	28	磨製石斧 転用品	下半欠損	床直上	変玄武岩	長:(8.1)、幅:5.3、厚:3.5、重:293.6。上半部及び刃部とも意図的に欠損し、再利用を図っている。体部は丁寧な平滑面で両側面中位に装着時の使用痕を残す	
第96図 PL.66	29	垂飾	完形	床直	滑石	長:3.9、幅:2.1、厚:0.75、重:8.2。あるいは未製品か。上半に設けた小孔は貫孔する。全体に丁寧な研磨が及ぶが、凹凸も顕著	
第96図 PL.66	30	敲石	一部欠損	床直	変質安山岩	長:20.1、幅:8.7、厚:6.1、重:1700.0。厚手の大型楕円状円礫。敲打痕は全体に広がるが下端部に集まる。欠損も敲打に伴う例か	
第96図 PL.67	31	凹石	完形	炉内	粗粒輝石安山岩	長:10.6、幅:9.8、厚:4.6、重:702.6。扁平な円形を呈する円礫。敲打痕は全体に及ぶが裏面中央に集まり凹みとなす。表裏面とも弱い磨面が広がる	
第97図 PL.67	32	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:17.2、幅:12.1、厚:9.0、重:2795.0。厚手の卵形を呈する楕円状円礫。敲打痕は全面に広がり、表面中央に集まる。表裏面に平滑な磨面を持つ	
第97図 PL.67	33	台石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:19.4、幅:17.0、厚:3.5、重:1900.0。板状の亜角礫周縁を打ち欠き方形に整える。表裏面は磨面と敲打痕が広がるが、形状から台石として捉えた	
第97図 PL.67	34	石棒	破片	床直	粗粒輝石安山岩	長:(13.5)、幅:8.8、厚:(7.0)、重:1375.8。おそらく石棒体部中位。破損、剥落が著しく器表面の残存も極一部に止まる	
第97図 PL.67	35	石棒	破片	床直	雲母石英片岩	長:(12.1)、幅:(10.4)、厚:(4.4)、重:979.0。大型石棒体部破片。敲打による整形で体部全体に研磨が及ぶ。上端は意図的な欠損により平坦面を築く	
PL.67	36	石鏃	上半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.5)、幅:1.9、厚:0.3、重:0.8。やや大型の凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げている	
PL.67	37	石鏃	上半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.6)、幅:2.0、厚:0.3、重:1.3。やや大型の凹基無茎鏃。完成状態。やや粗い押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げている	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.67	38	石鉢	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:1.4、厚:0.4、重:1.5。凹基無莖鉢。完成状態。やや長身で短脚。押圧剥離が縁辺に施され、表面に礫面、裏面に素材面を残している	
PL.67	39	石鉢	上半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.8、厚:0.4、重:0.8。挟りの弱い凹基無莖鉢。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げている	
PL.67	40	石鉢	上半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.3)、幅:2.2、厚:0.6、重:1.4。平基無莖鉢。完成状態。剥片基部を充て丁寧な押圧剥離を施す	
PL.67	41	石鉢	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(2.1)、幅:(1.4)、厚:0.3、重:0.7。完成状態か。丁寧な押圧剥離による整形	
PL.67	42	打製石斧	下半欠損	床直上	細粒輝石安山岩	長:7.5、幅:3.7、厚:1.1、重:38.9。短冊形。完成状態。裏面剥落後再調整か。細かな剥離による側縁の作出。装着痕を斜位に見る	
PL.67	43	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:2.6、厚:0.2、重:1.2。薄手の横長剥片を素材とし、右側縁と下端部に押圧剥離を加え先端部を作出する。石鉢未製品か	
PL.67	44	磨石	完形	床直	流紋岩	長:5.9、幅:5.8、厚:3.5、重:139.7。不整形円形を呈する円礫。表裏面に平滑な磨面を見る	
PL.67	45	磨石	完形	埋土	変質安山岩	長:9.7、幅:4.8、厚:2.6、重:179.5。不整形円形を呈する亜円礫。表裏面に磨面を見る。裏面が顕著で平滑である	
PL.67	46	凹石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(7.0)、幅:8.0、厚:4.3、重:397.2。やや厚手の不整形円状円礫。表面上位に敲打による凹みを設け、裏面平滑で光沢を持つ磨面を広げる	

61区23号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第101図 PL.67	1	深鉢	口縁~体部 中位残存	埋土	細:輝石/良好/にぶい褐色	口:29.0。口縁部内湾。沈線による横位波状文を配し、逆U字状懸垂文を波頂部に組み合わせる。下半に蕨手状沈線や逆U字状懸垂文を加える。施文部はR L 充填施文、磨消部は研磨を加える。内面は丁寧な横位研磨を施す	中期後葉
第101図 PL.67	2	深鉢	体部1/3、 底部残存	炉内	粗:石英・輝石/良好/明赤褐色	底:7.0。沈線によるU字状区画意匠。区画内外に縦位矢羽状短沈線を充填する。内面弱い撫で	中期後葉
第101図 PL.67	3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶい黄褐色	波状突起下の隆線による渦巻文と区画文を配す。側線は凹線、L R を充填する。内面弱い横位研磨	中期後葉
第101図 PL.67	4	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい黄褐色	外反する体部中位。垂下沈線3条による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位R L 充填施文	中期後葉
第101図 PL.67	5	深鉢	体部破片2 点	床直上	細:石英・雲母少/良好/明褐色	体部2帯構成か。下位は沈線による逆U字状区画意匠を配し、接点には渦巻文を施す。区画内は斜位短沈線や縦位波状沈線を埋める。内面撫で	中期後葉
第101図 PL.67	6	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石・雲母少/やや軟/赤褐色	垂下隆線による懸垂文構成か。空白部は横位沈線2条で分割され、縦位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第101図 PL.67	7	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	厚手。体部上半か。横位隆線で分帯された頸部文様帯。横位蛇行隆線を2段配す。体部は縦位平行沈線と縦位刺突文が施される。内面平滑な撫で	中期後葉
第101図 PL.67	8	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石・雲母/良好/にぶい褐色	刺突を加えた垂下隆線1条による懸垂文構成。斜位平行沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第101図 PL.67	9	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/やや軟/褐色	外反する体部上半。内皮平行沈線による横位弧状沈線群。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第101図 PL.68	10	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英多・輝石/良好/黒褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文。側線は沈線、無節Lを施す。内外面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第101図 PL.68	11	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英多・輝石/良好/赤褐色	口縁部は僅かに内湾し横位沈線を設ける。以下2条の沈線による長逆U字状意匠を配し、縦位無節Lを充填施文する。内面撫で	中期後葉
第101図 PL.68	12	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	垂下沈線3条と縦位波状沈線による懸垂文構成。地文は縦位R L。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第101図 PL.68	13	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/灰黄褐色	垂下沈線や縦位波状沈線による懸垂文構成か。地文は斜位L R。内面研磨	中期後葉
第101図 PL.68	14	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・雲母/良好/暗赤褐色	2条隆線による口縁部区画文。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。体部も斜位沈線を施す。内面平滑な撫で	中期後葉
第101図 PL.68	15	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・輝石・雲母少/良好/黒褐色	隆線による口縁部区画文。区画内側線は沈線で斜位短沈線を充填する。頸部は無文か。内面平滑な撫で	中期後葉
第101図 PL.68	16	深鉢	口縁部突起	床直	細:石英・輝石/良好/褐色	柱状突起で正面中位が貫孔する。縁辺は隆線による縁取りがなされ、上端と孔下に沈線による渦巻文を配す	中期後葉
第101図 PL.68	17	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/やや軟/褐色	隆線による口縁部区画文構成。区画接点にあたる。区画内は撫で線を側線とし横位R Lを施す。器面磨滅	中期後葉
第101図 PL.68	18	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・輝石多/良好/灰褐色	体部上半か。地文に縦位擦糸Lを施し、横位隆線を設ける。内面横位研磨を施す	中期後葉

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第101図 PL.68	19	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	縦位撚糸Lが覆う。内面平滑な撫で。煤付着	中期後葉
第101図 PL.68	20	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・雲母/良好/ にぶい褐色	2条隆線による体部渦巻文構成。側線は沈線。縦位沈線を施す。 内面撫で調整	中期後葉
第102図 PL.68	21	浅鉢	口縁部破片	床直	粗:輝石/良好/暗褐色	口唇部内削状を呈し体部は強く開く。外面横位削り調整後研磨。 内面も弱い研磨を施す	中期後葉
第102図 PL.68	22	浅鉢	口縁部破片	床下	細:石英・輝石/良好/ 明黄褐色	口縁部は外傾し頸部で屈曲、体部上半に内湾を持たせる。頸部屈 曲部に沈線。内面体部は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第102図 PL.68	23	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/ 明褐色	斜位沈線を施す。内外面とも平滑な撫で調整	中期後葉か
第102図 PL.68	24	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	横位沈線2条を設け下位より斜位沈線に画された施文部が配される。 刺突文を充填する。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第102図 PL.68	25	石鏃	完形	床直上	黒曜石	長:1.6、幅:1.4、厚:0.4、重:0.4。やや小型の凹基無茎鏃。完成 状態。押圧剥離が全体を覆い、整った平面形に仕上げる。挟り部 の調整も入念	
第102図 PL.68	26	石鏃	完形	床直上	黒色安山岩	長:2.5、幅:2.0、厚:0.4、重:1.7。やや大型の凹基無茎鏃。完成 状態。押圧剥離が全体を覆い薄手の整った平面形に仕上げる	
第102図 PL.68	27	研磨具か	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:7.1、幅:3.1、厚:2.9、重:98.3。細身の円柱状円礫。石棒の 転用か。細かな敲打による整形後両端に研磨を加える	
第102図 PL.68	28	磨製石斧	ほぼ完形	埋喪脇	変玄武岩	長:15.7、幅:5.5、厚:2.8、重:419.1。やや扁平な乳棒状を呈す。 完成状態で頭部に装着痕を見る。整形時の研磨痕が全体に及び丁寧 に作られる。体部中央に敲打痕を集める	
第102図 PL.68	29	磨石	完形	床直	変質安山岩	長:11.2、幅:5.6、厚:3.5、重:294.9。棒状円礫。下端部表裏面 より調整を加える。表裏面ともに平滑な磨面を持つ	
第102図 PL.68	30	磨石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:12.0、幅:10.5、厚:9.8、重:1648.1。丸石。全面に敲打痕を 見るが強い偏りは無い。表面に磨面が広がる	
第102図 PL.68	31	敲石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:9.8、幅:7.0、厚:2.6、重:239.2。扁平で不整形を呈する円礫。 敲打痕は全面に広がり下端部に集まる。表裏面に弱い磨面を見る	
第102図 PL.68	32	多孔石	完形	埋喪内	粗粒輝石安山岩	長:14.8、幅:18.2、厚:8.9、重:3020.0。厚手の不整形を基調 とした重角礫。断面円錐状の凹みを表裏面に配す。表面は中央に 集中する	
PL.68	33	石鏃	完形	床直上	黒色安山岩	長:1.8、幅:1.5、厚:0.3、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。押圧 剥離が全体を覆い薄手の整った平面形に仕上げる	
PL.68	34	石鏃	ほぼ完形	ピット1	黒色頁岩	長:(1.9)、幅:1.7、厚:0.4、重:1.6。凹基無茎鏃。完成状態。 先端部欠損。中央部やや厚手ながら全体に押圧剥離が及ぶ丁寧な 整形	
PL.68	35	石鏃	完形	床直上	黒曜石	長:1.9、幅:1.6、厚:0.3、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧 な押圧剥離が全体を覆い、薄手の整った平面形に仕上げる。挟り部 の調整も入念	
PL.68	36	石鏃	脚部欠損	埋土	流紋岩	長:1.8、幅:(1.0)、厚:0.2、重:0.3。凸基無茎鏃。左脚部を欠 損するが、再調整を加え未完成	
PL.68	37	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:1.7、厚:0.3、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。表面 は丁寧な押圧剥離を施し、裏面中央は素材面を残す。整った形状 の逸品である	
PL.68	38	石鏃	左側縁欠損	埋土	黒曜石	長:(2.4)、幅:(1.1)、厚:0.4、重:0.9。丁寧な押圧剥離による 整形だが裏面中央には素材面が残る	
PL.68	39	石鏃	脚部残存	埋土	黒曜石	長:(1.3)、幅:1.6、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏃。表裏面とも 丁寧な押圧剥離が覆い薄手に仕上げている	
PL.68	40	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.4、厚:0.3、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。体部 下半の基部に押圧剥離を集中させる。整った平面形状を示す	
PL.68	41	石鏃	脚部残存	埋土	黒曜石	長:(1.3)、幅:1.9、厚:0.3、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。 丁寧な押圧剥離が全体を覆う。挟り部も入念	
PL.68	42	石鏃	先端部欠損	埋土	チャート	長:(1.7)、幅:2.0、厚:0.6、重:1.8。凹基無茎鏃。完成状態。 中央がやや厚手ながら粗い押圧剥離が全体を覆う	
PL.68	43	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.2)、厚:0.4、重:0.7。平基無茎鏃。完成状態。 やや粗い押圧剥離による整形で非対称な平面形を呈す。	
PL.68	44	打製石斧	体部残存	床直上	変質安山岩	長:(4.6)、幅:5.9、厚:1.0、重:47.7。短冊形か。完成状態。薄 手の素材剥片に粗い剥離を加え直線的な側縁を作出する	
PL.68	45	打製石斧	完形	床直	変質安山岩	長:10.3、幅:7.3、厚:2.6、重:189.9。短冊形か。完成状態。著 しい湾曲を有す体部。粗い剥離による側縁と刃部の作出。刃部表 面は使用による磨減痕が顕著	
PL.68	46	打製石斧	完形	床直	黒色頁岩	長:7.7、幅:3.6、厚:0.9、重:26.6。小型の短冊形。完成状態。 薄手の縦長剥片両側縁と刃部に粗い剥離を加える	
PL.68	47	加工痕あ る剥片	完形	埋土	珪質頁岩	長:1.5、幅:2.4、厚:0.5、重:1.7。小型の横長剥片を素材とする。 下端部と右側縁に細かな剥離を加え刃部とする	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.68	48	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.1、厚:0.3、重:0.8。小型の縦長剥片を素材とし両側縁に微細剥離が加わる	
PL.68	49	磨石	半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(6.4)、幅:5.1、厚:3.0、重:172.4。やや扁平な楕円状円礫か。端部と側面に敲打痕を少量見る。表裏面に磨面が広がる	

61区24号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第107図 PL.69	1	深鉢	口縁~体部 1/3残存	床直 61区30住	粗:石英/良好/にぶ い黄褐色	1・2単位の波状縁。主頂部は欠損。副頂部内面は振りを加えた意匠。頂部より刻みを付す隆線が垂下する懸垂文構成。口縁部に沈線で画された横位施文帯を設け刺突文を加える。体部は施文部による渦巻文を配す。LRを充填し、磨消部は弱い撫でを施す。内面は平滑な撫で	後期初頭
第107図 PL.69	2	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	口唇部内屈。太い沈線によるJ字状・鋸先状意匠。施文部と磨消部を分けておらず、丁寧な撫で調整が施される。内面は横位研磨	後期初頭
第107図 PL.69	3	深鉢	体部1/3残 存	床直上	粗:石英/良好/橙色	内湾する体部中位。2条一組の沈線による渦巻文が配される。やや乱雑な施文。内面弱い縦位研磨	後期初頭
第107図 PL.69	4	深鉢	体部破片	床直	細:石英/良好/にぶ い橙色	沈線で画された幅広の磨消部弧状意匠。施文部縄文はLR充填施文。内面は平滑な撫で調整	後期初頭
第107図 PL.69	5	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/浅黄 褐色	沈線で画された弧状意匠。施文部と磨消部を分けておらず丁寧な撫で調整を施す。内面撫で調整はやや弱い	後期初頭
第107図 PL.69	6	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	内湾する体部。やや太い沈線2条による環状意匠が配される。施文部との別が無く丁寧な撫で調整が覆う	後期初頭
第107図 PL.69	7	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い褐色	厚手の大型深鉢か。細沈線による懸垂文構成か。施文部を見ず撫で調整が施される。内面も平滑な撫で調整	後期初頭
第107図 PL.69	8	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	沈線で画された逆U字状区画意匠。区画内はLR縦位充填施文。磨消部は弱い撫で調整。内面も横位撫で	後期初頭
第107図 PL.69	9	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 褐灰色	口縁部は無文で下位に横位隆線を設ける。外面弱い研磨、内面撫で調整を施す	後期初頭
第107図 PL.69	10	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	口縁部無文。下位に横位隆線を設け垂下降線が派生する懸垂文構成。施文部は縦位LR充填、磨消部は弱い研磨を施す。内面撫で調整	後期初頭
第107図 PL.69	11	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口縁部無文。下位に横位隆線を設け円形貼付文より垂下降線が派生する懸垂文構成。内外面とも平滑な撫で調整	後期初頭
第107図 PL.69	12	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/ 橙色	垂下降線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部側線は沈線で縦位LRを充填する。磨消部及び内面は研磨を施す	中期後葉
第107図 PL.69	13	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英/やや軟/浅 黄褐色	内湾する体部中位。横位LRが覆うが器面磨滅し判然としない。内面は撫で	後期初頭
第107図 PL.69	14	深鉢	底部	床直上	細:輝石/良好/にぶ い橙色	底:5.8。薄手の器厚。内湾気味に開く体部下半。細沈線による懸垂文や対弧意匠の下端。内外面とも研磨	後期初頭
第107図 PL.69	15	鉢か	体部上半か	埋土	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	内湾する口縁部に径9mm程の円孔が横位2段に連続する。横位沈線が円孔を繋ぎ、下位孔からは縦位にも派生する。体部も沈線による施文か。内稜は太く、内外面研磨、一部に赤彩が残る	後期か
第107図 PL.69	16 ~ 18	深鉢	口縁部・体 部破片2点	ピット20・23	粗:輝石/良好/暗赤 褐色	大型深鉢。口唇部内稜強く突出し口縁部沈線を設ける。幅広の無文部を経て頸部に横位弧状意匠と横位沈線を施す。体部は2条隆線による大柄な弧状・渦巻状意匠を配し弧状短沈線を充填する。内面弱い横位研磨を施す	中期後葉
第107図 PL.69	19	深鉢	体部破片	床直	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	沈線による弧状意匠と剣先状意匠。地文は縦位RL。内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第108図 PL.69	20	深鉢	口縁部3/4、 体部1/3残 存	床直上	細:輝石/良好/灰褐 色	口:11.8。口縁部が開き口頸部が内湾する器形。口縁部と頸部屈曲部に横位沈線と刺突文を設ける。口頸部には波状短沈線、体部は鋸手状沈線が配される。地文は無節L縦位施文。内面研磨を施し、煤が付着する	中期後葉
第108図 PL.69 PL.70	21 22	深鉢	口縁部・体 部破片2点	ピット14	粗:石英・雲母/良好/ 暗褐色	口:(16.0)。口縁部内湾する樽状の器形か。隆線による区画文と振りを加えた小突起。区画内は横位沈線2条に交互刺突文を加える。体部は隆線による渦巻文をより垂下降線2条が懸垂する。斜位沈線を充填する。内面平滑な撫で、煤付着	中期後葉
第108図 PL.70	23	深鉢	体部破片	ピット14	粗:石英・雲母/良好/ 暗赤褐色	2条隆線による渦巻状意匠。側線は沈線で弧状・斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第108図 PL.70	24	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	垂下降線磨滅。鱗状短沈線や斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第108図 PL.70	25	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	垂下降線による懸垂文構成か。縦位沈線群を地文とし、2・3条の横位弧状短沈線が重なる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第108図 PL.70	26	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 灰黄褐色	体部上半か。横位隆線2条を設け以下縦位矢羽状短沈線を施す。内面撫で	中期後葉

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第108図 PL.70	27	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	連接する渦巻文を付した2条隆線による懸垂文構成。側線は沈線 で縦位矢羽状短沈線を充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第108図 PL.70	28	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/明赤 褐色	数条の隆線による大柄な弧状意匠と瘤状突起。おそらく渦巻状意 匠か。縦位内皮平行沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第108図 PL.70	29 30	深鉢	口縁部破片 2点	床直上	粗:輝石/良好/橙色	内湾する口縁部。横位沈線を設け以下沈線による磨消部逆U字状 意匠を配す。縄文は縦位LR。内面研磨	中期後葉
第108図 PL.70	31	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/淡黄 色	垂下降線1条による懸垂文構成。側線は幅広の沈線。縄文は縦位 RL充填施文。内面は平滑な横位撫で	中期後葉
第108図 PL.70	32	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/橙色	2条隆線による大柄な渦巻文か。側線は撫で、縄文はRL充填施 文。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第108図 PL.70	33	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	外反する無文の幅大口縁部。内外面とも平滑な撫で調整	中期後葉
第108図 PL.70	34	深鉢	底部	床直上	細:石英・雲母/良好/ にぶい黄褐色	底:9.6。大型深鉢か。強く開く体部下半。無文で縦位削り調整後 撫で。内面も撫で調整	中期後葉
第108図 PL.70	35	深鉢	口縁部破片	埋土	細:白色粒/良好/ にぶい赤褐色	口縁部内湾。横位隆線を設け口縁部は刻みを付す2条隆線による 弧状意匠を配す。交互刺突文や弧状短沈線、縦位短沈線を充填す る。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第108図 PL.70	36	土製円盤	完形	埋土	細:輝石/良好/灰黄 褐色	径:2.3×2.3、厚:1.4cm、重:8.7g。小型品。深鉢体部の再利用か。 周縁を丁寧な磨滅する。弧状短沈線を施す	中期後葉
第108図 PL.70	37	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:1.5、厚:0.3、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。細か く丁寧な押圧剥離を全面に施し、均整の取れた形状を作出する	
第108図 PL.70	38	スクレイ パー	完形	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:1.7、厚:0.5、重:1.7。小型の縦長剥片を素材とする。 上下端部に礫面を残す。両側縁に粗い押圧剥離を施し刃部として いる	
第108図 PL.70	39	石錐	完形	埋土	黒色頁岩	長:3.5、幅:1.6、厚:0.7、重:3.2。完成状態。摘み部は狭く体部 と先端部の作出。押圧剥離を両側縁から施し、先端部は更に精緻 な調整を加える。使用痕は見られない	
第108図 PL.70	40	打製石斧	ほぼ完形	床直	細粒輝石安山岩	長:11.6、幅:5.6、厚:1.1、重:113.8。短冊形。扁平で形状に近 い素材。側縁は僅かな剥離を加え、刃部の調整のみ入念に行う	
第109図 PL.70	41	打製石斧	上端欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(10.4)、幅:5.5、厚:1.3、重:125.2。短冊形。粗い剥離調整 を周縁に加えるが刃部は厚い。使用による磨滅痕が刃部から側縁 に見られる	
第109図 PL.70	42	磨製石斧	基部・左側 刃部欠損	床直	変質蛇紋岩	長:5.9、幅:3.2、厚:1.05、重:34.4。薄手の定角式磨製石斧。極 めて丁寧な研磨が全体に及ぶ	
第109図 PL.70	43	磨石	完形	床直	変質安山岩	長:8.0、幅:4.9、厚:3.5、重:187.0。小型の不整楕円状円礫。裏 面に平滑な磨面を持つ	
第109図 PL.70	44	敲石	完形	埋土	変質安山岩	長:8.9、幅:6.6、厚:3.1、重:251.7。扁平な楕円状円礫。下端部 と側面に敲打痕が集まる。表裏面には弱い磨面が広がる	
第109図 PL.70	45	敲石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:11.4、幅:8.8、厚:6.8、重:986.0。厚手で卵形の楕円状円礫。 敲打痕は全面に広がり、強い偏りは見られない。平滑な磨面を表 裏面に持つ	
第109図 PL.70	46	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:12.4、幅:10.3、厚:4.1、重:825.1。扁平な円盤状の円礫。全 体に敲打痕が広がり、強い偏りは見られない。表裏面に平滑な磨 面を持つ	
第109図 PL.70	47	石棒	体部のみ残 存	床直上	デイサイト	長:(7.2)、幅:11.1、厚:11.5、重:1296.1。上下を意図的に欠損 して、円柱状に整形する。上端は剥離後敲打による整形と弱い研 磨が加わる。体部外面は敲打痕が残る	
PL.70	48	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒色頁岩	長:2.2、幅:(1.4)、厚:0.4、重:1.0。平基無茎鏃。完成状態。 小型でやや長身の平面形で中央部がやや厚く残るが全体的に押圧 剥離が覆う	
PL.70	49	石鏃	左半欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(2.6)、幅:(2.1)、厚:0.5、重:2.9。あるいは未製品か。横 長剥片右側縁と下端周縁より剥離を加え先端部を作出する	
PL.70	50	石鏃	先端・左脚 部欠損	埋土	チャート	長:(2.6)、幅:(1.7)、厚:0.3、重:1.3。凹基無茎鏃。完成状態。 押圧剥離が全体に及び薄手に仕上げている	
PL.70	51	石鏃	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:(1.5)、厚:0.6、重:1.6。あるいは未製品か。押 圧剥離が全体を覆うが先端は丸く体部は厚く残る	
PL.70	52	石鏃	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(2.1)、幅:(1.8)、厚:0.5、重:1.3。凹基無茎鏃。完成状態。 粗い押圧剥離が全体を覆う。先端はやや丸い	
PL.70	53	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:1.4、厚:0.3、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。 精緻で丁寧な押圧剥離が全体を覆う。鋸歯状の側縁を呈し挟り部 は強く湾曲する	
PL.70	54	石鏃	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(2.3)、幅:1.8、厚:0.4、重:1.2。平基無茎鏃か。完成状態。 押圧剥離が覆い比較的薄手に仕上がる。裏面下半に素材面が残る	
PL.70	55	スクレイ パー	破片	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:(1.6)、厚:0.4、重:1.5。小型の縦長剥片を素材 とし、下端刃部に押圧剥離を加える	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.70	56	加工痕ある剥片	左端部欠損	埋土	流紋岩	長:2.0、幅:3.3、厚:0.6、重:2.9。小型の横長剥片を素材とする。右側縁と下端部に押圧剥離を集め先端部を作出する。あるいは石鏃未製品か	
PL.70	57	磨石	一部欠損	床直	粗粒輝石安山岩	長:(11.6)、幅:5.3、厚:2.3、重:201.7。扁平な楕円状円礫。表裏面に平滑な磨面が広がる。被熱による亀裂を多く見る	
PL.70	58	敲石	一部欠損	ピット17	変質安山岩	長:(10.6)、幅:3.8、厚:2.9、重:169.2。棒状の小型円礫。敲打痕は下端部に集まる。表裏面に弱い磨面	

61区26号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第111図 PL.71	1	深鉢	口縁部破片	埋土 61区24住	細:輝石/良好/にぶい赤褐色	波頂部に付せられた斜位小型橋状把手。下端より口縁部隆線が派生する。体部は隆線による弧状意匠が配されLRを充填する。内面研磨、煤付着	後期初頭
第111図 PL.71	2	深鉢	体部破片	床直	粗:石英多/やや軟/にぶい褐色	分岐する隆線。内縁は無文。外縁は縦位RLを充填する。内外面器面磨滅	中期末葉
第111図 PL.71	3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/やや軟/にぶい褐色	波頂部に付せられた小型橋状把手。上端は環状を呈し細隆線が分岐派生し把手となす。器面磨滅	後期初頭
第111図 PL.71	4	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/灰黄褐色	体部上半頸部屈曲部。貼付文に円形刺突文を加え下端より分岐隆線が派生する。被熱痕跡を見る	後期初頭
第111図 PL.71	5	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/黒褐色	口唇部内面肥厚。口縁部沈線を設け、以下沈線で画された弧状意匠を配す。縄文はLR充填施文。内面撫で	中期末葉
第111図 PL.71	6	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい黄褐色	頸部屈曲部。縦位沈線による弧状意匠。内外面弱い研磨を施す	後期初頭
第111図 PL.71	7	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/明褐色	隆線による渦巻状意匠。隆線が派生し、短沈線が施される。内面撫で	中期後葉
第111図 PL.71	8	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶい褐色	沈線で画された施文部と磨消部による弧状意匠。施文部縄文はLR充填施文。内面平滑名撫で	後期初頭
第111図 PL.71	9	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶい黄褐色	薄手の器厚を呈す。沈線で画された弧状意匠上端。無節Rを充填する。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第111図 PL.71	10	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/明褐色	横位内皮沈線群を設け、刺突文を加える。以下、縦位RLを施す。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第111図 PL.71	11	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/明黄褐色	垂下沈線に画された幅広の磨消部懸垂文構成。縦位研磨を施す。施文部縄文はRL縦位施文。内面は横位撫で調整	中期後葉
第111図 PL.71	12	石鏃	完形	埋土	玉髓	長:1.8、幅:1.7、厚:0.5、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。表面に礫面が僅かに残るが粗い押圧剥離が全体を覆う。挟り部も粗い調整だが湾曲は強い	
第111図 PL.71	13	スクレイパー	完形	埋土	黒曜石	長:1.5、幅:1.6、厚:0.6、重:1.0。小型の円形を呈す。丁寧な押圧剥離が全面を覆う	
第111図 PL.71	14	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:16.8、幅:14.8、厚:12.1、重:3161.0。厚手の不定形な角礫。断面三角形の表面頂部に凹みが集中する。裏面にも凹みを見るが浅く密ではない	
第111図 PL.71	15	敲石	一部欠損	床直	粗粒輝石安山岩	長:13.7、幅:8.2、厚:4.3、重:790.8。やや厚手の不整楕円状の円礫。敲打痕を下端部に集める。表裏面に平滑な磨面を持つ	
PL.71	16	スクレイパー	下端欠損	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:1.8、厚:0.5、重:2.1。小型でやや厚手の素材全面に押圧剥離が施される	
PL.71	17	加工痕ある剥片	破片	埋土	黒曜石	長:(1.5)、幅:(1.0)、厚:0.3、重:0.3。薄手の素材周縁に押圧剥離を施す。不純物が混じるため、石鏃製作時の欠損品の可能性もある	

61区27号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第113図 PL.71	1	深鉢	体部上半～中位残存	炉	粗:石英・輝石/良好/明褐色	外反する体部上半。口縁部は隆線による区画文構成。側線を沈線とし横位RLを充填する。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部はRL縦位充填施文後蕨手状沈線を重ねる。内面研磨	中期後葉
第113図 PL.71	2	深鉢	口縁部破片	炉	細:輝石/良好/にぶい褐色	緩やかな波状突起を付す。口縁部は隆線による区画文と半渦巻文構成。区画接点に円文を施す。体部境は横位沈線で画し、体部は沈線による逆U字状意匠と磨消部を配す。磨消部には蕨手状沈線、施文部はRLを充填する。内面研磨	中期後葉
第113図 PL.71	3	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/にぶい褐灰色	口:(20.0)。口縁～体部2帯構成。沈線で画された縦位楕円状区画文とU字状意匠を配す。RL縦位充填施文。下半には蕨手状沈線を配す。内面弱い縦位研磨	中期後葉
第113図 PL.71	4	深鉢	口頸部～体部破片	炉	粗:輝石/良好/にぶい褐色	隆線による口縁部区画文。太い沈線を側線とする。体部は垂下沈線に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLRを施し縦位波状沈線を重ねる。内面研磨	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第113図 PL.71	5	深鉢	体部下半～ 底部1/3残 存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	底:(7.6)。波状隆線による懸垂文下端部。側線は沈線で斜位短 沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第113図 PL.71	6	深鉢	底部破片	炉内	細:輝石/良好/浅黄 橙色	底:(6.6)。外反気味に強く開く体部下半。懸垂する2条沈線下 端部を見る。斜位短沈線を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第113図 PL.71	7	深鉢	底部1/3残 存	炉	細:輝石/良好/明褐 色	底:(7.0)。直立気味に開く体部下半。無文で外面は丁寧な研磨、 内面は平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第113図 PL.71	8	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	口縁部は無文。下位に幅広の横位沈線を設け、体部も無文か。口 縁部に補修孔を見る。内面弱い横位研磨	中期後葉
第113図 PL.71	9	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ 褐灰色	波頂部下の隆線による渦巻状意匠。区画文を配す。側線は幅広の 沈線でR Lの充填か。内面横位研磨を施す	中期後葉
第113図 PL.71	10	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/黒褐 色	波状縁か隆線と幅広凹線による口縁部区画文と渦巻文構成。横位 L Rを充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第113図 PL.71	11	深鉢	体部破片	床直上	細:輝石・雲母少/良 好/橙色	縦位R L Lを施す。内面研磨	中期後葉か
第113図 PL.71	12	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:11.4、幅:4.4、厚:1.6、重:101.6。細身の短冊形。比較的丁 寧な剥離調整を周縁に施し整った形状を作出する。刃部に磨滅痕、 側縁に僅かな装着痕を見る	
第113図 PL.72	13	磨石	完形	炉	粗粒輝石安山岩	長:10.1、幅:8.6、厚:3.3、重:480.7。扁平で整った形状の楕円 状円礫。敲打痕は集中を見ず、表裏面の磨面が平滑面を築く	
第113図 PL.72	14	磨石	完形	埋土	変質安山岩	長:10.8、幅:4.8、厚:4.3、重:301.4。小型の棒状円礫。敲打痕 が裏面に見られるが強い偏りは見ない。表裏面とも各所に弱い磨 面が点在する	
PL.72	15	打製石斧	破片	床下	黒色頁岩	長:(4.5)、幅:(5.1)、厚:1.7、重:41.4。刃部破片。表面に礫 面を残す粗い剥離による作出	
PL.72	16	使用痕あ る剥片	破片	埋土	黒曜石	長:(1.1)、幅:(2.1)、厚:0.3、重:1.1。小型の横長剥片左側縁 一部に微細剥離を見る	
PL.72	17	使用痕あ る剥片	破片	埋土	黒曜石	長:(1.5)、幅:(1.3)、厚:0.5、重:0.7。小型の剥片下端部に粗 い押圧剥離を施し刃部とする	
PL.72	18	使用痕あ る剥片	右側縁欠損	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:(2.0)、厚:0.2、重:1.4。薄手の横長剥片を素材とし、 下端部の刃部に微細剥離を見る	
PL.72	19	使用痕あ る剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:2.1、厚:0.6、重:2.1。小型の剥片下端部を刃部とし 微細剥離を見る	

61区28号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第115図 PL.72	1	深鉢	体部上半 1/3、下半 残存	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	頸部外反し体部上半に内湾を持たせる。隆線による逆U字状意匠 を配す。縦位R Lを充填する。無文部は平滑な撫で、内面は研磨 を施す	中期後葉
第115図 PL.72	2	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・輝石/軟質/ にぶい黄橙色	2条沈線に画された幅狭磨消部による逆U字状意匠が配される。 施文部縄文は横位・斜位R L充填施文。内外面器面磨滅	中期後葉
第115図 PL.72	3	深鉢	体部破片	炉内	細:輝石/良好/橙色	垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はR L斜位充 填施文。蕨手状沈線上端も見られる。磨消部の幅や配置が不規則 で単位など不明。磨消部研磨、内面撫で調整	中期後葉
第115図 PL.72	4	深鉢	体部破片	床直	細:石英・輝石多/良 好/にぶい黄橙色	垂下沈線2条に画された幅狭磨消部による懸垂文構成。施文部は 幅広で縦位R Lを充填し縦位蕨手状沈線を重ねる。内面横位撫で 調整	中期後葉
第115図 PL.72	5	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	垂下沈線2条に画された幅狭磨消部による懸垂文構成。施文部は 無節L縦位充填施文。沈線は乱雑な施文。内面撫で調整	中期後葉
第115図 PL.72	6	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.3、幅:1.7、厚:0.4、重:0.7。小型の横長剥片を素材にし、 周縁に細かな押圧剥離を施し刃部としている。未製品か	
第115図 PL.72	7	石錐	完形	埋土	流紋岩	長:3.0、幅:2.0、厚:1.0、重:3.6。完成状態。先端部の作出に未 発達部分があるが、押圧剥離が側縁から施され、完成状態と判断 した	
第115図 PL.72	8	打製石斧	右側欠損	埋土	黒色頁岩	長:9.3、幅:4.9、厚:1.3、重:82.6。短冊形。縦長剥片を素材とし、 周縁を僅かな調整で作出する	
第115図 PL.72	9	磨石	完形	埋土	珪質変質岩	長:9.4、幅:7.2、厚:2.2、重:238.4。扁平な不整楕円状を呈する 円礫。敲打痕は散漫な分布。磨面は表裏面に広がる	
第115図 PL.72	10	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.6、幅:8.7、厚:4.6、重:649.8。扁平な整った楕円状円礫。 敲打痕は下端部と両側面に集まる。表裏面に平滑な磨面が広がる	
第115図 PL.72	11	磨石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:9.9、幅:10.4、厚:4.6、重:683.2。扁平な円礫。上半が厚手 で不均質な器厚を呈す。周縁を剥離し、平面形を整える。表裏面 に散漫な敲打痕と平滑な磨面を見る	
PL.72	12	石鏃	右脚部欠損	埋土	流紋岩	長:(1.9)、幅:(1.2)、厚:0.4、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。 粗い押圧剥離ながら全体を覆う	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.72	13	石鏃	上半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.2)、幅:1.3、厚:0.2、重:0.3。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げている。挟り部調整も入念で強い湾曲を呈す	
PL.72	14	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.3、厚:0.4、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。表面は丁寧な押圧剥離に覆われる。裏面は縦長の素材面が広く残る	
PL.72	15	打製石斧	下半欠損	床直	変質安山岩	長:(8.3)、幅:6.8、厚:2.0、重:161.1。撥型か。完成状態。側縁は体部上半で括れ下半にかけて強く開き、刃部に最大幅を持つか。比較的細かな剥離で作出される	
PL.72	16	加工痕ある剥片	破片	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:(1.3)、厚:0.2、重:0.6。薄手の小型剥片周縁に押圧剥離が施される。石鏃破片か	
PL.72	17	加工痕ある剥片	上半欠損	埋土	黒曜石	長:3.0、幅:(1.4)、厚:0.3、重:1.3。横長剥片を素材。下端の刃部のみ残存で、裏面に押圧剥離が施される	
PL.72	18	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒色頁岩	長:3.6、幅:3.4、厚:0.8、重:8.7。小型の横長剥片を素材とし周縁を刃部とする。僅かな刃こぼれを見る	

61区29号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第117図 PL.72	1	深鉢	突起欠損	埋糞	細:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	口:16.8、高:22.3、底:7.5。波状縁、主突起1単位を欠する。口縁部沈線を施し、以下沈線による体部2帯構成。上位は紡錘状意匠、下位は分岐懸垂文を配す。蕨手状沈線が縦位に設けられる。縄文は縦位LR。内面弱い研磨。口縁部に煤が付着する	中期後葉
第117図 PL.72	2	台付深鉢	体部下半～底部残存	埋糞	細:石英・輝石/良好/黒褐色	底:7.0。脚部は強く開く。体部下半は内湾気味に開く。浅い垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部との交互配列は厳密ではなく、ずれる単位もある。無節Lを縦位施文する。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第117図 PL.72	3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/良好/褐色	口縁部内湾し内稜鋭い。口縁部は斜位沈線を施し、頸部隆線を設ける。以下深い波状沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第117図 PL.72	4	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/にぶい黄褐色	厚手で直立気味の体部。横位隆線を設け隆線による楕円状区画文を配す。区画内は横位・縦位沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第117図 PL.72	5	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/褐色	隆線による口縁部楕円状区画文。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。内面横位撫で、煤付着	中期後葉
第117図 PL.72	6	深鉢	突起片	床直	粗:石英・雲母/良好/赤褐色	中空状突起。3方からの貫孔。正面、両側面、上面に渦巻文を配す	中期中葉
第117図 PL.73	7	深鉢	体部破片	炉内	粗:石英・雲母少/良好/赤褐色	隆線による蕨手状懸垂文。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第117図 PL.73	8 9	深鉢	口縁部・体部破片2点	埋土	粗:石英・輝石/やや軟/褐色	無文の口縁部下に横位隆線2条を設ける。体部も2条隆線による渦巻状意匠や不整形区画文が配される。斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第117図 PL.73	10	深鉢	体部破片	炉内	細:石英・雲母/良好/明赤褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成か。側線は沈線を施し空白部には斜位沈線を充填する。内面横位平滑な撫で調整	中期後葉
第117図 PL.73	11	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・雲母/良好/褐色	内皮平行沈線を縦位に施し、細い短沈線を縦位矢羽状に充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第117図 PL.73	12	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/褐色	外反する体部中位。横位平行沈線を設け上位は斜位、下位は弧状意匠文を配す。斜位捩糸Lを地文とする	中期後葉
第117図 PL.73	13	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい褐色	波状縁を呈し、口縁部は内屈する。刻みを重ねる浮線を横位多段に設ける。内面撫で	前期後葉
第117図 PL.73	14	深鉢	口縁部破片	床直	細:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	口縁部は内屈する。上位は浮線を横位多段に設け、下位は斜位に付す。内面横位撫で調整	前期後葉
第117図 PL.73	15	石鏃	右脚欠損	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:(1.6)、厚:0.4、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧で精緻な押圧剥離が全体を覆い、整った形状を作出する	
第117図 PL.73	16	打製石斧	完形	床直上	細粒輝石安山岩	長:11.5、幅:5.8、厚:2.7、重:235.8。短冊形。厚手で礫面を表面に残す。粗い剥離調整を周縁に施し、直線的な側縁と凸刃を作出する。使用痕を見ない	
第117図 PL.73	17	磨石	完形	床直	珪質変質岩	長:6.9、幅:5.1、厚:2.3、重:105.6。小型で扁平な楕円状円礫。整った形状を示す。表裏面に平滑な磨面が広がる。敲打痕は散漫	
第117図 PL.73	18	軽石製品	完形	埋土	軽石	長:6.0、幅:5.0、厚:0.9、重:6.6。扁平で不整形円形を呈する板状軽石製品。表裏面とも平坦面に築くが極めて多孔質	

61区30号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第119図 PL.73	1	深鉢	体部中位～底部1/2残存	床直	粗:石英/やや軟/にぶい黄褐色	底:10.0。体部中位が内湾する。沈線による施文で横位沈線により体部上下2帯に分かれ、下位は逆J字状意匠を2条沈線で描く。内外面とも器面磨滅	後期初頭

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第119図 PL.73	2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/やや軟/橙色	波状口縁。口縁部隆線を設け、波頂部突起に大型8字状意匠を配す。下端より弧状隆線が派生する。内外面弱い研磨	後期初頭
第119図 PL.73	3	深鉢	口縁部突起片	床直	粗:石英・輝石/良好/橙色	中空の円柱状突起。上端が円形で縁辺に沈線が沿う。正面下端より背割り隆線による対弧状意匠が垂下する。両側面に弧状沈線を配す	後期初頭
第119図 PL.73	4	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/黒褐色	厚手で直立気味の口縁部。太い沈線による口縁部弧状意匠か。無節Lを充填する。内面撫で	後期初頭
第119図 PL.73	5	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/褐灰色	沈線に画された幅広の施文部意匠文。LRを充填施文する。内面丁寧な研磨を施し、煤が付着する	後期初頭
第119図 PL.73	6	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/橙色	口縁部は直立気味で丸みを帯びた横位隆線を設ける。体部は無文。内面横位撫で調整	後期初頭
第119図 PL.73	7	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/やや軟/灰褐色	口唇部内折し口縁部に横位沈線2条、体部に弧状沈線を施す。内外面とも器面磨滅	後期中葉
第119図 PL.73	8	深鉢	体部破片	床直上	細:輝石/良好/褐灰色	口縁部下に配される橋状把手。沈線による分岐意匠が配される。縄文はLR充填施文。内面撫で、器面磨滅	後期初頭
第119図 PL.73	9	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/灰黄褐色	垂下隆線1条による懸垂文構成。施文部は斜位LR充填施文。内面撫で調整	後期初頭
第119図 PL.73	10	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/やや軟/橙色	隆線によるU字状区画意匠。区画内は無節L縦位充填施文。隆線側線は撫で。内面は平滑な撫で調整	後期初頭
第120図 PL.73	11	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい黄橙色	横位細沈線で分帯される。施文部はLR充填、磨消部は縦位研磨を施す。内面は平滑な撫で調整	後期初頭
第120図 PL.73	12	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石・雲母/やや軟/暗褐色	無節Lが横位に疎らに施される。内外器面磨滅する	後期初頭
第120図 PL.73	13	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	2条の低位隆線による口縁部区画文接点。区画内は凹線を側線とし斜位RLを充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第120図 PL.74	14	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/にぶい橙色	体部上下2帯構成か。隆線による逆U字状懸垂文を配す。縦位LRを充填する。内外面とも研磨を施す	中期後葉
第120図 PL.74	15	深鉢	体部破片	床直	粗:小礫/良好/浅黄褐色	2条隆線による大柄な弧状意匠。側線は撫で。LR斜位・縦位充填施文。内面平滑な横位撫で調整	中期後葉
第120図 PL.74	16	深鉢	体部破片	床直	粗:輝石・雲母/良好/暗褐色	2条隆線による縦位長楕円状懸垂文。側線は撫で、横位弧状短沈線を充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第120図 PL.74	17	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/褐色	隆線による小渦巻文より2条隆線が横位・縦位に派生する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第120図 PL.74	18	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/良好/褐色	2条隆線や円形貼付文を付した大型橋状把手。弧状沈線群を施文する。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第120図 PL.74	19	深鉢	口縁部突起片	床直上	粗:石英・輝石/良好/褐色	波状突起か。両側面は環状を呈し、中位に矢羽状刻みを付す垂下隆線を施す。下位も弧状突起を配す	中期中葉
第120図 PL.74	20	深鉢	底部	床直上	粗:石英多/やや軟/にぶい橙色	底:11.0。大型深鉢。外底面中央に凹みを見る。内外面とも撫で調整	後期初頭
第120図 PL.74	21	深鉢	底部片	床直上	粗:石英・軟質/にぶい黄橙色	底(8.0)。外反気味に強く開く体部下半。内外面とも器面磨滅する	後期初頭
第120図 PL.74	22	石錐	完形	床直上	黒色安山岩	長:4.1、幅:2.4、厚:0.7、重:3.1。完成状態。丁寧な押圧剥離を加え長身の体部と先端部を作出する。摘み部の調整はやや粗い。先端部は使用による磨滅痕が見られるが方向性は不明	
第120図 PL.74	23	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.6、幅:2.1、厚:0.3、重:1.0。凹基無茎鏃。完成状態。細かく丁寧な押圧剥離を施し、薄手で均整の取れた対称性に優れた逸品を作出する	
PL.74	24	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:(1.1)、厚:0.3、重:0.4。先端部のみ残存。完成状態。丁寧な押圧剥離が覆う	
PL.74	25	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:(1.4)、厚:0.3、重:0.5。先端部のみ残存。完成状態。丁寧な押圧剥離が覆い薄手に仕上げる	
PL.74	26	石鏃	片返し部欠損	埋土	黒曜石	長:1.4、幅:(0.9)、厚:0.2、重:0.3。平基無茎鏃。完成状態。小型品で丁寧な押圧剥離が表裏面を覆う	
PL.74	27	石鏃未製品か	ほぼ完形	埋土	流紋岩	長:2.6、幅:1.5、厚:0.7、重:1.7。平基無茎鏃を意図した製作か。基部の厚みは残り周縁調整も先端部作出にまでは至っていない	

61区31号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第121図 PL.74	1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/明褐色	口唇部に被熱痕跡。口縁部凹線を設け隆線による区画文を配す。区画接点には円文。区画内は縦位RL充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第121図 PL.74	2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/明赤褐色	口唇部に横位隆線2条。側線から区画文構成か。地文に撚糸L横位施文。内面研磨	中期後葉
第121図 PL.74	3	深鉢	口頸部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/橙色	波状縁か。口縁部隆線による区画文構成。区画内は撫線を側線とし、円形刺突文を横位に施す。区画接点に円文を配す。内外面研磨	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第121図 PL.74	4	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/橙色	大型の樽状深鉢か。器厚は薄手。隆線によるU字状意匠や懸垂文を配す。内外面研磨	中期後葉
第121図 PL.74	5	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/明赤褐色	垂下細沈線に画された幅広磨消部懸垂文構成。施文部は無節L縦位充填施文。磨消部は研磨、内面は撫で調整	中期後葉
第121図 PL.74	6	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/にぶい褐色	沈線で画された施文部と磨消部による弧状意匠。施文部縄文はRL充填施文。内面平滑な横位撫で調整を施す	中期後葉
第121図 PL.74	7	石鏃	左脚欠損	埋土	流紋岩	長:1.7、幅:(1.7)、厚:0.3、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。抉り部の湾曲強い。薄手の素材周縁を押し剥離で作出する	
第121図 PL.74	8	磨製石斧	刃部一部欠損	埋土	変玄武岩	長:4.3、幅:8.5、厚:0.7、重:9.4。細身の定角式磨製石斧。上下に刃部を設け、全体に丁寧な研磨を施す	
第121図 PL.74	9	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:9.2、幅:5.0、厚:1.3、重:80.6。短冊形。細かな剥離調整により直線的な側縁を作出する。刃部は欠損後の再調整か	
PL.74	10	石鏃	先端部のみ残存	埋土	黒曜石	長:1.5、幅:(0.9)、厚:0.3、重:0.3。完成状態。押し剥離が全体を覆い薄手に仕上げている	
PL.74	11	石鏃	破片	埋土	黒曜石	長:(1.5)、幅:(0.8)、厚:0.2、重:0.3。完成状態。薄手の剥片周縁に押し剥離を施す。表裏面とも素材面を残す	
PL.74	12	打製石斧	体部残存	埋土	細粒輝石安山岩	長:(6.0)、幅:4.8、厚:1.4、重:59.9。短冊形。完成状態。粗い剥離により直線的な側縁を作出する	

61区32号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第125図 PL.74	1	深鉢	口縁部突起欠損/体部下半欠損	埋喪1	細:輝石/良好/にぶい橙色	口:33.7。波頂部欠損は意図的な例か。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。4単位。幅広の沈線を側線としRLを横位充填施文する。体部は垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。内面上半は横位下半は縦位研磨を施す	中期後葉
第125図 PL.74	2	深鉢	底面欠損	埋喪2	細:輝石/良好/にぶい褐色	口:20.8、高:(38.2)、底:(7.6)。長胴形の4単位波状縁。隆線による渦巻文と区画文構成。側線は沈線で区画内は縦位短沈線を充填する。体部は沈線施文で縦位沈線や蕨手状沈線による懸垂文構成。小渦巻文を中位に配し上下2帯に分け、空白部は鱗状短沈線を充填する。内面研磨	中期後葉
第125図 PL.75	3	深鉢	ほぼ完形	埋喪3	粗:輝石/良好/褐色	口:27.8、高:34.8、底:9.0。平縁。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。不規則な配置で5単位を数える。区画文は上下2帯で上位が無文、下位が短沈線の充填。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は斜位短沈線を充填する。内面は弱い横位研磨	中期後葉
第125図 PL.75	4	深鉢	口縁1/4・体部残存	炉内	粗:石英・雲母/良好/橙色	口:(18.5)。波状縁4単位。口唇部を欠す。口縁部は低位隆線による渦巻文と区画文構成。幅広沈線を側線とし接点には円文を施す。体部は2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文及び口縁部はRL充填施文。内外器面磨滅。上半部に被熱痕跡を見る	中期後葉
第125図 PL.75	5	深鉢	口縁1/2・体部残存	床直上	粗:輝石/良好/褐色	口:(34.8)。4単位波状縁、キャリパー状深鉢。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。凹線を側線としLRを充填する。体部は垂下沈線2条に画された幅狭磨消部による懸垂文構成。施文部は縦位LRを充填後縦位波状沈線が重なる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第126図 PL.76	6	深鉢	口縁1/4～底部残存	床直上 61区103坑	粗:輝石/良好/にぶい赤褐色	口:(40.0)、高60.0、底:7.4。平縁の大型深鉢。口縁部は隆線による渦巻文と接続した区画文構成。区画内側線は沈線で縦位短沈線を充填する。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文後上半部に弧状短沈線を加える。磨消部は研磨、内面は平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第126図 PL.75	7	深鉢	口縁～体部上半1/3残存	床直上	粗:石英・輝石/良好/黒褐色	口:18.0。緩やかな波状突起下に隆線による渦巻文と一体化した区画文を配す。沈線を側線としLRを充填施文する。体部は2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。斜位LRを充填する。内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第126図 PL.75	8	深鉢	口縁部3/4・体部上半残存	床直	細:輝石/良好/褐色	口:47.5。4単位波状口縁。波頂部に隆線による渦巻文を配し、区画文を接続する。側線は沈線でLRを充填する。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成で施文部は縦位LRを充填する。内面横位研磨	中期後葉
第126図 PL.75	9	深鉢	口縁～体部上半1/4残存	床直上	細:石英・輝石/良好/褐色	口:(36.0)。大型深鉢。波状突起を設け隆線による半渦巻文と区画文構成。体部は垂下沈線に画された幅狭磨消部が一部懸垂文となり、蕨手状沈線、逆U字状意匠も配される。RLRが充填施文される。内面弱い横位研磨を施す	中期後葉
第126図 PL.75	10	深鉢	口縁部1/2残存	床直上	粗:石英・雲母/良好/褐色	口:30.0。波状突起下に隆線による渦巻文と区画文を配す。側線は幅広の沈線でLRを充填施文する。体部は垂下沈線の上端を見る。内面平滑な撫で調整	中期後葉

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第126図 PL.75	11	深鉢	体部中位の み残存	床直上	細:石英・雲母/良好/ にぶい褐色	内湾する体部中位。隆線による渦巻文と不整円形区画文が配される。側線は沈線でLRを充填する。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第126図 PL.76	12	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	大型の深鉢。隆線による渦巻文を中核した環状意匠を配す。下端より2条隆線が垂下する懸垂文構成か。沈線を側線とし、縦位LRを充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第126図 PL.76	13	深鉢	口縁～底部 1/4残存	床直上	細:石英・輝石/良好/ 褐色	口:(16.0)、高:21.5、底:(6.6)。波状突起下に隆線による渦巻文を配し楕円状区画文を接続する。区画内は縦位短沈線を充填する。体部は沈線によるU字状・逆U字状意匠を2帯に配し縦位矢羽状短沈線を埋める。内面研磨	中期後葉
第127図 PL.76	14	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	体部上半。2条隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。側線は撫で。体部は低位隆線2条による懸垂文構成。縦位LRを充填施文する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第127図 PL.76	15	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ 浅黄褐色	外反する体部中位。垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。間隔・配置に不規則性を見る。施文部縄文はRL縦位充填施文。内面弱い縦位研磨、煤付着	中期後葉
第127図 PL.76	16	深鉢	体部中位 1/4残存	床直上	細:輝石/良好/にぶ い褐色	外反する体部器形。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文。磨消部は縦位研磨。内面は弱い縦位研磨を施す	中期後葉
第127図 PL.76	17	深鉢	体部破片3 点	床直上	粗:石英・輝石/良好/ 赤褐色	体部中位～下半。垂下沈線に画された幅狭磨消部による懸垂文構成。施文部はRL縦位充填施文後縦位波状沈線を重なる。内面弱い縦位研磨	中期後葉
第127図 PL.77	18	鉢	体部1/3～ 底部残存	床直上	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	底:10.0。大型の鉢。口縁部は無文か。頸部に横位沈線を設け以下体部は縦位密接条線が覆う。内面弱い縦位研磨を施す	中期後葉
第127図 PL.77	19	深鉢	体部下半～ 底部残存	埋土	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	底:5.0。小型深鉢。2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LR充填施文後縦位波状沈線を加える。内外面とも研磨。内面に煤付着する	中期後葉
第127図 PL.77	20	深鉢	底部残存	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	底:6.0。内湾気味に開く体部下半。2条沈線による懸垂文下端を見る。内外面研磨を施す	中期後葉
第127図 PL.77	21	深鉢	体部1/3～ 底部残存	ピット2	細:輝石/良好/褐灰 色	底:6.2。小型の深鉢で体部は内湾する。2・3条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文。外面研磨、内面平滑な撫で調整、煤付着	中期後葉
第127図 PL.77	22	深鉢	体部下半～ 底部残存	床直上	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部はLR縦位充填施文。縦位沈線を加える。内面平滑な撫で	中期後葉
第127図 PL.77	23	深鉢	底部1/3残 存	床直上	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	底:8.4。厚手の大型深鉢か。体部下半は強く開き、内外面とも研磨を施す	中期後葉
第127図 PL.77	24 25	鉢	口縁～体部 破片2点	床直上 ピット1	粗:石英・輝石/良好/ 赤褐色・にぶい褐 色	口:(38.0)。口縁部は強く開き体部上半が内湾する。口縁部無文。体部上半に隆線による不整楕円状区画文を配す。側線は凹線。区画内及び体部下半は縦位密接条線を施す。内外面研磨を施す	中期後葉
第128図 PL.77	26	深鉢	口縁部破片	炉内	細:石英・少・輝石/良 好/暗赤灰色	波状突起下に隆線による渦巻文を配し、区画文を接続する。側線は凹線でLRを充填する。内面研磨を施す	中期後葉
第128図 PL.77	27	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ 明黄褐色	波状突起下に隆線による大柄な渦巻文を配し、区画文を接続する。側線は凹線で縦位LRを充填する。内面研磨を施す	中期後葉
第128図 PL.77	28	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:輝石/良好/にぶ い橙色	大型深鉢か。隆線による口縁部楕円状区画文。側線は凹線でRLを斜位充填施文する。体部は垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第128図 PL.77	29	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:輝石/良好/明赤 褐色	波状突起下の隆線による半渦巻文と区画文。区画文側線及び下端は凹線。体部は2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成で葎手状沈線上端を見る。縄文はRL充填施文。内面横位研磨を施す	中期後葉
第128図 PL.77	30	深鉢	口縁部破片 3点	床直	細:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	隆線による口縁部渦巻文と楕円状区画文構成。下端区画は沈線。体部は垂下沈線による磨消部懸垂文構成。口縁部・体部施文部とも縦位LR充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第128図 PL.77	31	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/褐色	隆線による口縁部区画文。渦巻文も加わる。側線は撫で、横位RLを充填する。内外面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第128図 PL.77 ・78	32 33	深鉢	口縁部破片 2点	埋土	細:輝石/良好/褐色	波状突起下に配された隆線による半渦巻状意匠。側線は撫でで充填文を施さない。内外面平滑な撫で調整が覆う	中期後葉
第128図 PL.78	34	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/にぶ い褐色	太い隆線による口縁部半渦巻文と区画文構成。側線は撫で、縄文は斜位RLR充填施文。内面丁寧な研磨	中期後葉
第128図 PL.78	35 36	深鉢	口縁部破片 2点	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	波状緑。太い隆帯による区画文と半渦巻文構成。側線は凹線で区画内は縦位密接条線を充填する。内面研磨	中期後葉
第129図 PL.78	37	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:輝石/良好/にぶ い赤褐色	厚手で大型の深鉢。波状緑で左側縁に面を持ち凹線を施す。口縁部は隆線による渦巻文を配す。側線は凹線でRLを充填する。体部は垂下沈線上端を見る。内面研磨	中期後葉
第129図 PL.78	38	壺か	口縁～頸部 破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 黒褐色	口縁部は広く無文。体部上半に太い隆線による渦巻文と区画文を配す。側線は撫で。内外面とも丁寧な研磨を施す	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第129図 PL.78	39	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/暗褐色	隆線による口縁部渦巻文と楕円状区画文構成。体部は沈線による横位波状文を配す。縄文は口縁部区画内が横位、体部が縦位LRを施す。内面は弱い研磨	中期後葉
第129図 PL.78	40	深鉢	口頸部～体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	低位隆線による口縁部区画文。幅広の沈線を側線とし縦位RLを充填する。体部は縦位沈線や蕨手状沈線による懸垂文構成。磨消部を見ない。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第129図 PL.78	41	深鉢	体部破片	床直上	細:輝石/良好/褐色	外反する体部中位。垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。沈線施文は深い。施文部は縦位RLRを充填施文し斜位短沈線を重ねる	中期後葉
第129図 PL.78	42	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/褐色	体部上半。沈線による口縁部区画下端。体部は垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文。磨消部には蕨手状沈線が重なる。内面弱い縦位研磨	中期後葉
第129図 PL.78	43	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	体部上半。横位沈線2条を設け円形刺突文を埋める。体部は沈線による逆U字状懸垂文と蕨手状沈線を配す。磨消部及び内面は研磨。施文部は縦位RL充填施文	中期後葉
第129図 PL.78	44	深鉢	体部破片	床直上	粗:輝石/良好/褐色	体部上半。沈線で画された逆U字状区画意匠。区画内はLR縦位充填施文。磨消部による懸垂文構成で幅狭である。内面は撫で調整に止まる	中期後葉
第129図 PL.78	45 46	深鉢	体部破片2点	床直上	粗:石英多・輝石/良好/にぶい赤褐色	太い垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRLR縦位充填施文。磨消部は研磨。内面は平滑な撫で調整を施し、煤が付着する	中期後葉
第129図 PL.78	47 48	深鉢	体部破片2点	炉内	細:石英/良好/明褐色	垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部は縦位無節Lを充填施文し波状沈線を重ねる。内面研磨	中期後葉
第129図 PL.78	49	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/雲母/良好/橙色	体部下半。2帯構成で下位は沈線で画された逆U字状意匠と縦位沈線を配す。縦位RLを充填。内面撫で、煤付着する	中期後葉
第130図 PL.78	50	鉢	体部破片	床直上	細:輝石多/良好/浅黄橙色	内湾する肩部。低位隆線による大柄な渦巻状・弧状意匠が配される。凹線を側線とし丁寧な作りを呈す。内面横位研磨	中期後葉
第130図 PL.78 79	51 ～ 53	壺か	口縁部・体部破片3点	床直上	細:輝石/良好/にぶい褐色	波状縁。内湾する器形で低位隆線による大柄な渦巻文が配される。薄手の丁寧な作りで一部赤彩痕も残る。内面丁寧な研磨	中期後葉
第130図 PL.79	54	深鉢	口縁部突起片	床直上	細:輝石/良好/黒褐色	波頂部の中空状突起7箇所からの貫孔。孔縁辺を隆線で縁取り円環状意匠などを配す。突起下は隆線による不整形円形の区画文が配される。区画内は沈線を側線としLRを充填する。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第130図 PL.79	55	深鉢	口縁部突起片	床直上	粗:石英・輝石/良好/褐色	口縁部上に配された中空状突起。縁辺は沈線文や渦巻文が施される。口縁部は隆線による区画文が配され、縦位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第130図 PL.79	56 ～ 58	深鉢	口縁～体部破片3点	床直上	細:石英少・輝石/良好/暗赤褐色	隆線による口縁部区画文構成。沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。体部は縦位に接続する垂下隆線2条による懸垂文構成、上端に渦巻文を配す。空白部は斜位短沈線を相向いに充てる。内面撫で調整	中期後葉
第130図 PL.79	59 ～ 61	深鉢	体部破片3点	床直上	細:輝石/良好/橙色	体部中位～下半の破片。垂下沈線2・3条による懸垂文構成。空白部は横位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第130図 PL.79	62	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/赤褐色	厚手の大型深鉢。口縁部は外反し無文部を広く設ける。内面は肥厚し横位研磨を施す	中期後葉
第130図 PL.79	63	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英/良好/褐灰色	口唇部に2条隆線を設け、小突起より弧状に派生する同隆線による口縁部区画文。側線に内皮沈線及び交互刺突文。隆線上及び区画内にRLを施す。内面平滑な撫で。被熱痕跡ある	中期後葉
第130図 PL.79	64	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	あるいは浅鉢か。2条の隆線で画された口縁部区画文構成。渦巻文は剥落か。側線は沈線。地文は縦位LR。内面研磨	中期後葉
第130図 PL.79	65	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石・雲母/良好/にぶい赤褐色	口縁部上に渦巻状小突起を突出させる。2条隆線の区画文を配し縦位短沈線を充填する。側線は沈線。頸部に縦位沈線3条を施す。内面弱い横位研磨	中期後葉
第131図 PL.79	66	深鉢	口頸部破片	床直上	細:輝石/良好/にぶい黄褐色	隆線で画された幅狭の口縁部区画文。区画内側線は凹線で横位LRを充填。頸部は広く無文部を設ける。内面平滑な撫で	中期後葉
第131図 PL.79	67	深鉢	体部破片	床直上	粗:輝石/良好/褐色	数条の垂下沈線による懸垂文構成。末端渦巻文の蕨手状意匠も配す。沈線間は丁寧な撫で、縄文は縦位RLR充填施文。内面は縦位研磨を施す	中期後葉
第131図 PL.79	68	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	2条の沈線による剣先状意匠を配す。地文は縦位LR。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第131図 PL.79	69	深鉢	底部残存	床直上	細:石英少/良好/にぶい褐色	底:5.8。内湾気味に開く体部下半。垂下沈線下端部を見る。外面研磨、内面平滑な撫で調整	中期後葉
第131図 PL.79	70	深鉢	底部1/4残存	床直上	粗:輝石/良好/赤褐色	底:(6.0)。大型の深鉢で強く開く体部下半。外面縦位研磨、内面平滑な撫で調整	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第131図 PL.79	71 72	浅鉢	体部破片2点	埋土	細:石英・輝石/良好/橙色	扁平に内湾する体部上半。頸部は外反か。2条一組の沈線で描かれる三角形意匠や弧状意匠が配される。沈線間は刻みが充填される。内面は黒色で横位研磨を施す	前期後葉
第131図 PL.79	73	浅鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・片岩/良好/明赤褐色	波状縁波頂部に設けられた双環状突起。縁辺に刻みを施し三叉文を施す。内面研磨	中期中葉
第131図 PL.79	74 75	深鉢	体部破片2点	床直上	細:石英/良好/黒褐色	刻みを付す2条の横位隆帯を設け以下降線による渦巻文を配す。側線に沈線や矢羽状刻みを施す。内面平滑な撫で	中期中葉末
第131図 PL.79	76	深鉢	体部破片	床直上	細:輝石/良好/褐色	沈線で画された三角形の区画内に三叉文が充てられる。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第131図 PL.79	77	深鉢	体部破片	床直上	細:輝石/良好/暗褐色	沈線で画された区画内に三叉文が充てられる。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第131図 PL.79	78	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.2、厚:0.4、重:0.6。完成状態。凹基無茎鏃。小型品、丁寧な押圧剥離が周縁に施される	
第131図 PL.79	79	石鏃	完形	床直上	黒曜石	長:1.9、幅:1.3、厚:0.3、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。細かな押圧剥離が全面を覆い、対称性に優れた整った形状を作出する	
第131図 PL.79	80	石鏃	完形	床直上	黒色頁岩	長:2.7、幅:1.9、厚:0.6、重:2.8。凹基無茎鏃。中央部に厚みが残るが粗い押圧剥離が全体に覆う完成状態とした	
第131図 PL.79	81	石鏃	先端・片脚欠損	埋土	黒曜石	長:(2.1)、幅:(1.6)、厚:0.2、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が表裏面を覆い、薄手に仕上げる	
第131図 PL.79	82	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:3.0、幅:2.3、厚:0.4、重:1.4。凹基無茎鏃。抉り部は強く、脚部は長い。丁寧な押圧剥離が全面を覆い、大型の逸品に仕上げる。	
第131図 PL.80	83	石鏃未製品	完形	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:2.1、厚:0.9、重:2.8。表面に押圧剥離が集中するも中央部分に厚みを残す。裏面は素材面が残る	
第131図 PL.80	84	スクレイパー	完形	床直上	珪質頁岩	長:5.4、幅:6.4、厚:1.8、重:77.9。横長剥片を素材とし、周縁に粗い剥離調整を加え、円形に仕上げている。下端の刃部には細かな調整が施される	
第131図 PL.80	85	打製石斧	完形	床直	黒色頁岩	長:10.2、幅:3.9、厚:0.9、重:57.7。小型の短冊形。薄手の素材に丁寧な剥離調整を周縁に施し、整った形状に仕上げる。刃部表面に使用による磨減痕を見る	
第131図 PL.80	86	打製石斧	ほぼ完形	壁周溝内	細粒輝石安山岩	長:9.7、幅:5.1、厚:1.4、重:79.1。短冊形。裏面が緩やかに湾曲する。粗い剥離調整により、小型の頭部に幅広の刃部を作出する。表面に環状欠損	
第131図 PL.80	87	打製石斧	完形	床直	細粒輝石安山岩	長:9.4、幅:5.3、厚:1.5、重:94.4。小型の短冊形。粗い剥離調整を周縁に施し刃部に最大幅を設ける。刃部に僅かな使用による磨減痕を見る	
第132図 PL.80	88	打製石斧	完形	床直上	細粒輝石安山岩	長:9.7、幅:4.9、厚:0.8、重:91.9。短冊形。表面に礫面と厚みを残すものの、周縁の剥離調整により整った形状に仕上げる	
第132図 PL.80	89	打製石斧	上端欠損	床直	細粒輝石安山岩	長:11.3、幅:5.0、厚:1.4、重:99.6。短冊形。扁平な板石を素材とし、周縁を粗い剥離調整で作出する。刃部表面の磨減痕が顕著である	
第132図 PL.80	90	打製石斧	完形	住居外	細粒輝石安山岩	長:13.8、幅:4.8、厚:2.2、重:155.4。細身の短冊形。やや長身。粗い剥離調整ながら整った形状に仕上げる。側縁は直線状で刃部も直刃を呈し、磨減痕を見る	
第132図 PL.80	91	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:5.3、幅:4.5、厚:4.3、重:101.6。小型の円礫。敲打痕は全体に広がるが、右側縁に偏る傾向が見られる	
第132図 PL.80	92	敲石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:8.6、幅:3.1、厚:3.1、重:131.5。小型の棒状円礫。全体に敲打痕が広がるが下半に集中する傾向が見られる	
第132図 PL.80	93	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.5、幅:7.4、厚:4.6、重:569.8。下半が厚手の楕円状円礫。敲打痕は全面に広がり下端に集まる。表裏面に強い平滑面を持つ	
第132図 PL.80	94	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:12.0、幅:8.5、厚:4.3、重:397.1。多孔質で扁平な楕円状円礫。表裏面は強い平滑面のため稜が明瞭である。平滑面は側面にも及ぶ。孔は敲打痕ではなく自然孔と判断した	
第132図 PL.80	95	軽石製品	下半欠損	床直上	軽石	長:(6.2)、幅:4.8、厚:2.0、重:17.5。台形状の平面形を呈す。磨製石斧の模造か。表裏面は平坦面を築き、周縁も丁寧に仕上げる。上位に径1.5程の円孔を穿つ	
第132図 PL.80	96	軽石製品	完形	埋土	軽石	長:3.8、幅:2.0、厚:1.5、重:4.5。小型楕円状に整形され、上位に径0.8程の盲孔を設ける。未貫孔のため、垂飾の未製品の可能性がある。全面丁寧に研磨され丸みを帯びる	
第132図 PL.80	97	多孔石	側縁欠損	床直上	粗粒輝石安山岩	長:17.5、幅:(13.0)、厚:10.8、重:2250.0。厚手の不定形な亜角礫。断面円錐状の凹みを表裏面中央に集中させる	
第132図 PL.80	98	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.5、幅:9.7、厚:4.5、重:320.1。不定形な多孔質な角礫。表面は平坦。表裏面に大型の断面円錐状の孔を設ける	
PL.80	99	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(2.1)、幅:(1.3)、厚:0.3、重:0.6。細身の凹基鏃。完成状態。細かく丁寧な押圧剥離が全面を覆い薄手に仕上げている	
PL.80	100	石鏃	脚部残存	埋土	黒曜石	長:(1.1)、幅:1.7、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に施される。欠損部に僅かな剥離をみる。あるいは再利用を意図したか	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.80	101	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:(1.6)、厚:0.2、重:0.7。完成状態か。裏面に素材面を残し、表面は押圧剥離が覆う	
PL.80	102	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.3)、幅:(1.4)、厚:0.2、重:0.4。完成状態。薄手の素材表面に押圧剥離を施す。裏面は素材面が残る	
PL.80	103	石鏃未製品	右側縁欠損	埋土	黒曜石	長:(2.5)、幅:(2.1)、厚:0.7、重:2.8。一部の残存であろう。左側縁に押圧剥離が集まるが、右側縁の欠損により製作を放棄したと思われる	
PL.80	104	打製石斧	下半欠損	床直	粗粒輝石安山岩	長:(7.0)、幅:4.8、厚:2.1、重:89.1。短冊形。完成状態。体部湾曲。厚手で粗い剥離による作出。側縁に装着痕を見る	
PL.80	105	打製石斧	両側縁欠損	床直上	粗粒輝石安山岩	長:10.1、幅:4.9、厚:1.3、重:87.0。短冊形。完成状態。礫面を広く残し、刃部は粗い剥離で作出する。使用による磨減痕を見る	
PL.80	106	スクレイパー	右側欠損	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:(1.6)、厚:0.4、重:1.3。小型の横長剥片を素材とし端部に細かな押圧剥離を加え刃部とする	
PL.80	107	加工痕ある剥片	左半欠損	埋土	黒色頁岩	長:4.9、幅:6.6、厚:1.3、重:38.2。横長剥片を素材とする。周縁に粗い剥離を連続し下部を刃部とする	
PL.80	108	加工痕ある剥片	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:(2.0)、厚:0.7、重:2.6。小型の横長剥片右側縁に粗い押圧剥離を施す	
PL.80	109	加工痕ある剥片	破片	埋土	黒曜石	長:(1.6)、幅:(0.7)、厚:0.5、重:0.3。断面三角形の小型剥片縁辺に僅かな押圧剥離を見る。石鏃か	
PL.80	110	加工痕ある剥片	破片	埋土	黒曜石	長:(1.2)、幅:(1.1)、厚:0.2、重:0.2。小破片に押圧剥離を見る。裏面は素材面を残す	
PL.80	111	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:4.8、幅:1.8、厚:0.9、重:5.6。先端が尖る不定形剥片左側縁に刃こぼれを見る	
PL.80	112	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:1.6、厚:0.3、重:1.2。薄手の縦長剥片の両側縁に細かな刃こぼれ状の微細剥離を見る	

61区33号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第134図 PL.80	1	深鉢	頸部破片	炉内	細:輝石多/良好/褐色 灰色	厚手の器厚を呈す大型深鉢。口縁部は内湾し頸部は外反する。無文で内外面とも研磨を施す	中期後葉
第134図 PL.80	2	深鉢	頸部破片	床直上	粗:石英多/良好/黄 灰色	外反する頸部。口縁部は隆線による区画文か。体部境は横位沈線群を設ける。内面撫で	中期後葉
第134図 PL.80	3	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/浅黄橙色	外反する体部上半。横位沈線3条を設け以下同沈線による連弧状意匠を配す。地文は縦位RL。内面撫で	中期後葉
第134図 PL.80	4	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ 橙色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第134図 PL.80	5	深鉢	体部破片	床直上	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	外反する体部上半。横位沈線3条を設け垂下沈線や縦位波状沈線を施す懸垂文構成。地文は縦位RL。内面研磨	中期後葉
第134図 PL.80	6	深鉢	口縁部破片	ピット1	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	内稜を持ち強く外反する口縁部。口唇部に横位刺突文を施す。頸部は無文。内面平滑な横位撫で調整	中期後葉
第134図 PL.80	7	深鉢	体部破片	床直	粗:輝石/良好/にぶ い赤褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第134図 PL.80	8	石鏃	体部のみ残存	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:(1.2)、厚:0.4、重:0.9。完成状態。丁寧で精緻な押圧剥離による作出。長身の体部	
第134図 PL.80	9	打製石斧	上半欠損	床直	粗粒輝石安山岩	長:8.9、幅:5.5、厚:2.2、重:108.9。短冊形。表面に礫面と厚みを残す。比較的丁寧な剥離調整で側縁中位の括れ部や刃部を作出する。括れ部には装着痕を見る	
第134図 PL.80	10	軽石製品	一部欠損	床直	軽石	長:7.8、幅:5.6、厚:1.4、重:23.1。隅丸方形を呈する板状軽石製品。表裏面周縁とも丁寧に整形され断面方形を呈す	
第134図 PL.81	11	多孔石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:21.2、幅:15.8、厚:10.5、重:3192.0。厚手の不定形な垂角礫。各面に断面円錐状の凹みを集めるが、線状になる例や段差に沿う例が見られる	
第135図 PL.81	12	石皿	破片	炉内	粗粒輝石安山岩	長:(19.7)、幅:(17.6)、厚:6.8、重:2810.0。扁平な円礫を素材とし、敲打による整形を施す。上半部右半分にあたる。表裏面とも平滑な磨面と敲打痕を見る	
第135図 PL.81	13	多孔石	完形	炉内	粗粒輝石安山岩	長:23.2、幅:20.1、厚:5.0、重:3190.0。扁平な円盤状円礫。表裏面中央に断面円錐状の凹みが集中する。表裏の孔位置が近似する特徴を見せる	

61区34号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第138図 PL.81	1	深鉢	口縁部破片	ピット1	細:輝石・雲母/良好/ 暗赤褐色	波状縁頂部より派生する隆線に画された口縁部区画文。縦位短沈線を充填する。体部は2条隆線による懸垂文構成、縦位矢羽状短沈線を充填する。内面研磨	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第138図 PL.81	2	深鉢	体部破片	周溝	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	体部上半。口縁部は隆線による区画文か。区画内は縄文を充填する。体部は上端渦巻文の垂下沈線による懸垂文構成か。弧状沈線も施される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第138図 PL.81	3	深鉢	体部破片	ピット1	細:石英・輝石多/良 好/にぶい黄褐色	縦位密接条線が覆う。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第138図 PL.81	4	深鉢	体部破片	ピット1	粗:石英・輝石多/良 好/にぶい褐色	厚手で外反する体部中位。縦位RLが覆う。内面研磨を施す	中期後葉
第138図 PL.81	5	深鉢	底部残存	ピット1	粗:石英多/良好/明 赤褐色	強く開く体部下半。大型の深鉢か。無文で内外面平滑な撫で調整	中期後葉
第138図 PL.81	6	深鉢	底部残存	埋土	粗:石英・輝石/良好 /明褐色	台付き状の底部形態。外面調整は雑で凹凸が目立つ。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第138図 PL.81	7	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:1.7、厚:0.3、重:0.9。凹基無茎鏃。完成状態。挟り部の湾曲は弱い。細かく丁寧な押圧剥離が全面に及び、薄手で均整の取れた形状を作出する	
第138図 PL.81	8	石鏃未製品	完形	埋土	チャート	長:2.2、幅:1.8、厚:0.9、重:2.8。周縁からの丁寧な押圧剥離により側縁～先端部を作出するものの中央に厚みが残る。仕上げ直前の段階か	
PL.81	9	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:(1.3)、厚:0.2、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げる	
PL.81	10	打製石斧	破片	埋土	細粒輝石安山岩	長:(6.2)、幅:(2.4)、厚:1.3、重:23.5。おそらく右側縁上半部の破片。完成状態の短冊形か	
PL.81	11	スクレイパー	上半欠損	埋土	黒色頁岩	長:(4.2)、幅:1.8、厚:0.6、重:5.1。小型で長身の剥片を素材とする。両側縁に剥離を加える。小型の短冊形打製石斧か	
PL.81	12	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:3.0、幅:2.9、厚:0.8、重:2.5。不定形な縦長剥片を素材とする。両側縁を刃部とし微細剥離が連続する	
PL.81	13	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:1.4、厚:0.4、重:0.9。薄手の不定形な縦長剥片を素材とする。周縁が刃部となり微細剥離を見る	

61区35号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第142図 PL.81	1	深鉢	口縁部1/3・ 底部欠損	炉の上	粗:石英・雲母/良好 /赤褐色	口:17.5。幅狭の口縁部文様帯上下に渦巻状小突起を付す。4単位。区画文は設けず縦位短沈線を充填する。頸部は幅広で無文。横位平行沈線で画され、渦巻文を3箇所配した隆帯意匠文を3単位配す。体部中位でも横位沈線を設け縦位沈線群を充填する。内面研磨	中期後葉
第142図 PL.81	2	深鉢	口縁部・体 部の一部欠 損	床直上	細:輝石少/良好/橙 色	底:9.0。体部中位で強く内湾する。頸部に横位沈線2・3条を設け、体部は沈線による大柄な弧状意匠4単位を配す。意匠末端に剣先状文を付し、内縁に縦位波状沈線を充てる特徴を見せる。地文は無節L縦位施文。内面研磨を施し、煤が少量付着する	中期後葉
第142図 PL.81	3	深鉢	体部のみ残 存	床直上	粗:石英/良好/にぶ い褐色	頸部外反し体部中位が内湾する小型深鉢。体部中位に隆帯による大柄な横位渦巻状意匠を設け、中位に垂下降線を配す。2単位。隆帯上は2条の沈線が乗り、頸部には弧状沈線、体部下半は縦位矢羽状短沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第142図 PL.81	4	深鉢	体部1/3～ 底部残存	床直上	細:石英多・輝石/良 好/にぶい褐色	体部中位内湾する。垂下降線と2・3条の縦位沈線による懸垂文構成。縦位沈線は渦巻文を附帯する。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。内面弱い研磨	中期後葉
第142図 PL.81	5	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/褐色	振りを加えた小突起と2条隆線による口縁部区画文構成。区画内は横位矢羽状短沈線を充填する。頸部は幅広の無文部を設ける。内面は横位撫で調整。61区2住に同一個体か	中期後葉
第142図 PL.81	6	深鉢	口縁部突起 片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	低位橋状把手を縦位に連ね、中空状となす。上端及び両側面など各所に沈線による渦巻文を配し沈線で繋ぐ。体部は短沈線施文か。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第142図 PL.82	7 8	深鉢	口縁部・体 部破片2点	埋土	細:石英・雲母少/良 好/にぶい黄褐色	隆線による口縁部弧状区画文。区画内側縁は刺突文。体部は中位に横位波状沈線を設け地文に縦位細沈線を施す。内面横位撫で調整	中期後葉
第142図 PL.82	9 10	深鉢	体部破片2 点	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい赤褐色	頸部外反し無文。太い横位隆線2条を設け隆線による横位半渦巻状意匠を付す。下端より沈線を加えた垂下降線が派生する。空白部は横位矢羽状短沈線を埋める。内面撫で	中期後葉
第142図 PL.82	11	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/褐色	外反する体部中位に双環状突起と横位沈線群を設ける。突起下端に隆線による渦巻文と懸垂文を配し、空白部は縦位稜形短沈線を施す。内面弱い研磨	中期後葉
第142図 PL.82	12	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	垂下降線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を比較的密に施す。内面弱い研磨	中期後葉
第142図 PL.82	13	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	垂下降線2条による懸垂文構成。空白部は細かな短沈線を縦位矢羽状に施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第142図 PL.82	14	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/暗褐色	垂下降線3条による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す。内面弱い横位研磨	中期後葉
第142図 PL.82	15	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石・輝石/やや軟/明褐色	体部上半か。横位隆線より縦位楕円状の意匠が懸垂する。縦位矢羽状短沈線を充填する。器面磨滅	中期後葉
第142図 PL.82	16	深鉢	体部下半～ 底部	ピット3	細:石英・雲母少/良好/にぶい赤褐色	底:7.0。外反気味に開く体部下半。垂下降線下端を見る。外面丁寧な研磨、内面撫で調整を施す	中期後葉
第142図 PL.82	17	深鉢	底部1/2残 存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	底:7.2。内外面とも撫で調整	中期後葉
第143図 PL.82	18	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/やや軟/に ぶい橙色	内湾する体部中位。薄手。地文に縦位沈線を施し、大柄の渦巻文や横位波状沈線文が重なる。内面撫で	中期後葉
第143図 PL.82	19	深鉢	体部破片	床直	細:石英/やや軟/に ぶい黄褐色	横位隆線を付す体部上半か。太い沈線による大柄な渦巻状意匠が配される。内面撫で。被熱痕跡を見る	中期後葉
第143図 PL.82	20	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	口縁部突起。平縁で頸部隆線に横位沈線が重なる。区画内は縦位短沈線を充填する。頸部は無文。内面撫で調整	中期後葉
第143図 PL.82	21	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 黒褐色	内湾する口縁部。振りを加えた縦位突起と渦巻文を配す。隆線による楕円状区画文を接続し横位沈線と交互刺突文を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第143図 PL.82	22	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	おそらく中空状の双環状突起を付すか。頸部隆線で画され横位沈線に交互刺突文あり渦巻文を加える。内面横位研磨	中期後葉
第143図 PL.82	23	深鉢	口頸部破片	ピット3	粗:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	口縁部沈線を設け、隆線による渦巻状突起と区画文を配す。区画内は沈線を側線としRLを横位充填施文する。頸部は無文か。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第143図 PL.82	24	深鉢	口縁部破片	ピット4	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	口縁部横位隆線を設ける。側線は太い沈線。撚糸Lを横位施文する。内面研磨	中期後葉
第143図 PL.82	25	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	鋸歯状口縁を呈す。以下無節Lを縦位施文する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第143図 PL.82	26	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	口縁部内湾。口唇部に2列の刺突列を設ける。以下3条の沈線による連弧状意匠を配す。地文は縦位撚糸R。内面撫で	中期後葉
第143図 PL.82	27	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	強く内湾する口縁部。無文で内面は平滑な撫で調整を施す。外器面は磨滅	中期後葉
第143図 PL.82	28	深鉢か	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/褐色	器形など判然としない。大型の橋状把手を付す。口唇部に面を持ち隆線による渦巻文を配し沈線を施す。把手上端にも渦巻文を施す。内面弱い研磨	中期後葉か
第143図 PL.82	29	深鉢	頸部破片	床直上	粗:輝石/良好/褐色	口縁部は横位細隆線で画す。体部は沈線による弧状意匠を配す。口縁部及び意匠内は無節Lを施す	中期後葉
第143図 PL.82	30	深鉢	体部破片2 点	埋土	粗:石英/良好/にぶ い赤褐色	2条一組の横位弧状沈線文を上半に配す。地文は撚糸R縦位施文。内面弱い研磨を施す	中期後葉
第143図 PL.82	32	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い黄褐色	外反する体部上半。横位平行沈線を設け、以下同沈線による弧線文や剣先状意匠を配す。地文は縦位RL。内面撫で	中期後葉
第143図 PL.82	33	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ 明褐色	外反する体部中位。隆線による反転意匠を配する懸垂文構成。側線は沈線で空白部も縦位沈線を施す。内面平滑な撫で	中期後葉
第143図 PL.82	34	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 暗赤褐色	垂下降線2条による懸垂文構成。側線は内皮平行沈線を隆線外側に施す。地文はRL斜位施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第143図 PL.82	35	深鉢	体部～底部 破片	床直上	粗:石英/やや軟/橙 色	底:(8.0)。内湾気味に開く体部下半。低位垂下降線による懸垂文構成。縦位RLを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第143図 PL.83	36	深鉢	口縁部・体 部破片2点	床直	粗:石英・雲母/良好/ 褐色	鋸歯状口縁。口縁部沈線群を設け、反転する弧状意匠を隆線と内皮沈線群で描く。横位コイル状突起も接続する。三叉文を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第143図 PL.83	38	深鉢	頸部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	頸部屈曲部に刻みを付す横位隆線を設け、小型の双環状把手を付す。上端からは垂下降線が派生する。側線は沈線で交互刺突文も施される。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第144図 PL.83	39	深鉢	口縁部破片 2点	埋土	粗:小礫・輝石/良好/ にぶい褐色	大型深鉢か。口唇部は肥厚し幅広の無文部を設ける。口縁部は隆線による区画文構成か。沈線を側線とし無節Lを充填する。内面弱い横位研磨	中期後葉
第144図 PL.83	41	深鉢	頸部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	外反する無文の頸部。下位に横位隆線を設け連続刺突文が沿う。縦位・弧状隆線の派生を見る。内面横位撫で調整	中期後葉
第144図 PL.83	42	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い橙色	垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部はRL縦位充填施文。内面は横位撫で調整	中期後葉
第144図 PL.83	43	深鉢	体部破片2 点	埋土	粗:輝石/やや軟/に ぶい黄褐色	沈線で画された弧状区画文。区画内はLRを充填する。幅広の磨消部は研磨を加える。内面撫で	中期後葉
第144図 PL.83	45	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部はRLを縦位充填施文し縦位波状沈線を加える。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第144図 PL.83	46	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/橙色	外反する体部中位。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位密接条線を施し縦位波状沈線を重ねる。内面弱い研磨を施す	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第144図 PL.83	47	深鉢	体部下半～ 底部残存	床直上	細:石英・輝石/良好 /にぶい橙色	底:7.6。底部は上げ底で台付き状となる。体部は内湾気味に開く。垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位LR。内面横位研磨を施す	中期後葉
第144図 PL.83	48	石鏃未製品	完形	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:2.0、厚:0.9、重:2.6。小型の素材周縁より押圧剥離を重ねるが、厚手の部分が残る製作上と思われる	
第144図 PL.83	49	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:0.7、厚:0.5、重:0.6。完成状態。小型の断面紡錘状の棒状素材両側縁より細かな押圧剥離を施し、体部と先端部を作出する。使用痕は見られない	
第144図 PL.83	50	異形石器	完形	床直上	黒色頁岩	長:5.2、幅:1.4、厚:0.6、重:4.4。薄手の剥片素材両側縁に細かな剥離を連続し、両端は尖らせ中位に括れを設けて両頭状の平面形態を呈す。表裏面中央に素材面を残す	
第144図 PL.83	51	打製石斧	完形	埋土	変質安山岩	長:11.7、幅:5.3、厚:1.8、重:130.5。短冊形。表面に礫面を大きく残し、周縁に細かな剥離調整を加え直線的な側縁や刃部を作出する	
第144図 PL.83	52	打製石斧	完形	床直上	変質安山岩	長:11.4、幅:5.1、厚:2.0、重:123.3。短冊形。表面に礫面、上半に厚みを残す。極めて粗い剥離を側縁のみに施す。刃部は無調整	
第145図 PL.83	53	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:10.1、幅:4.9、厚:2.3、重:119.8。短冊形。左側縁に礫面と厚みを残す。右側縁、刃部は丁寧な調整により作出される。	
第145図 PL.83	54	打製石斧	完形	埋土	変質安山岩	長:10.5、幅:4.8、厚:1.3、重:77.7。短冊形。表面に礫面を大きく残す。粗い剥離調整を施し直線的な側縁と凸刃を作出する。刃部に僅かな使用による磨滅痕を見る	
第145図 PL.83	55	打製石斧	下半欠損	埋土	ひん岩	長:9.7、幅:5.7、厚:3.7、重:257.0。厚手の短冊形。表面頭部に厚みを残す。粗い剥離調整を周縁に施す	
第145図 PL.83	56	磨石	一部欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:10.3、幅:4.3、厚:3.5、重:192.5。小型の棒状円礫。表裏面に平滑な磨面を見る	
第145図 PL.83	57	磨石	一部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(8.4)、幅:8.4、厚:1.8、重:209.1。扁平な円盤状円礫。下端は意図的な剥離か。表裏面に弱い平滑面が広がる	
第145図 PL.83	58	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.5、幅:8.2、厚:4.8、重:559.4。扁平な楕円状円礫。敲打痕は表裏面中央など全面に広がる。特に側縁の集中と磨面により断面形は方形状を呈す	
第145図 PL.83	59	石皿	1/4残存	床直上	粗粒輝石安山岩	長:(16.5)、幅:(12.2)、厚:6.2、重:2210.0。上半部左側の破片か。敲打による整形。底面及び裏面に平滑面が広がる	
PL.83	60	石鏃	体部・片脚 残存	埋土	黒曜石	長:(2.4)、幅:(1.0)、厚:0.3、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。薄手の素材縁辺より全体的に丁寧な押圧剥離を施し薄手に仕上げている	
PL.83	61	石鏃	体部残存	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:(1.4)、厚:0.3、重:0.8。薄手の素材に丁寧な押圧剥離を全体に覆い薄手に仕上げている	
PL.83	62	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.6)、幅:0.6、厚:0.4、重:0.4。先端部僅かに欠損。小型の棒状素材両側縁に押圧剥離を施し体部を作出する。使用痕は見られない	
PL.83	63	打製石斧	頭部・刃部 欠損	埋土	変質安山岩	長:(9.3)、幅:4.6、厚:1.8、重:91.0。短冊形。完成状態。粗い剥離により直線的な側縁を作出する。右側縁中位に装着痕を見る	
PL.83	64	打製石斧	上半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(7.6)、幅:4.2、厚:2.4、重:86.0。短冊形。完成状態。体部は厚手だが粗い剥離により側縁と刃部を作出する。刃部は凸刃で使用痕を見ない	
PL.83	65	打製石斧	上半欠損	埋土	変質安山岩	長:(8.1)、幅:5.2、厚:1.4、重:70.9。短冊形。完成状態。薄手の素材。粗い剥離により直線的な側縁と凸刃を作出する。刃部と左側縁に使用による磨滅痕が見られる	
PL.84	66	加工痕ある剥片	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:5.7、幅:8.6、厚:1.9、重:71.0。不定形な横長剥片を素材とする。下端を刃部とし両面からの剥離を施す	
PL.84	67	加工痕ある剥片	右半欠損	埋土	珪質頁岩	長:4.7、幅:7.9、厚:1.3、重:52.7。横長剥片を素材とし下端や左側面を刃部とするが、打製石斧の可能性もある。使用による磨滅痕も見られる	
PL.84	68	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:3.5、幅:1.8、厚:0.7、重:3.0。縦長剥片を素材とし、両側縁に細かな剥離を加えて刃部とし先端を尖らせる	
PL.84	69	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:4.9、幅:1.7、厚:1.1、重:6.7。縦長剥片を素材とし、両側縁に微細剥離を見る	

61区36号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第148図 PL.84	1	壺か	体部1/3残 存	埋嚢	粗:石英/やや軟/明 黄褐色	あるいは橋状把手を付すか。体部上半に隆線による環状意匠と区画文を配す。RLを充填施文するが、内外面とも器面磨滅し判然としない	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第148図 PL.84	2	深鉢	口縁～体部 1/4残存	ピット5	粗:輝石/良好/明赤 褐色	口:(46.0)。大型深鉢。口縁部は隆線による区画文構成。おそらく渦巻文も連続か。体部は垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部は縦位密接条線施文後に縦位波状沈線を加える。内面研磨、煤付着	中期後葉
第148図 PL.84	3	深鉢	体部中位残 存	炉内	粗:石英・輝石/軟質 /にぶい黄褐色	体部上半は内湾気味に開く。上下2帯構成で上位は隆線による大柄の渦巻文を配す。側線は沈線。下位は方形状懸垂文か。縄文はR L充填施文。内面は撫で調整	中期後葉
第148図 PL.84	4	深鉢	体部中位～ 底部残存	埋糞	細:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	体部中位で強く開く。下半はやや内湾気味。上下2帯構成で沈線のみを意匠施文で、上位はU字状、下位は分岐懸垂文が配される。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第148図 PL.84	5	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/褐灰 色	波状縁。口縁部凹線を設ける。体部は上半に沈線による逆U字状磨消部を配す。縄文はR L縦位施文。磨消部及び内面は弱い研磨を施す	中期後葉
第148図 PL.84	6	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英/良好/にぶ い赤褐色	波状縁。口縁部横位隆線を設け2条隆線に画された磨消部が懸垂する。施文部はL Rを充填。内面平滑な撫で	中期後葉
第148 ・149図 PL.84	7～ 9	深鉢	口縁部破片	壁周溝内	細:輝石・雲母少/良 好/灰褐色	内湾気味に強く開く口縁部。内稜も強く突出する。口縁部横位沈線を設け以下は無文。内外面弱い研磨	中期後葉
第149図 PL.84	10	深鉢	体部破片2 点	埋土	細:石英・輝石・雲母 少/良好/褐色	2条隆線による大柄な渦巻文構成。空白部は弧状短沈線を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第149図 PL.84	11	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/暗褐 色	口縁部に横位隆線を設け2条隆線が弧状に派生する。おそらく渦巻状意匠か。側線は撫で、L Rを充填施文する内面は研磨を施す	中期後葉
第149図 PL.84	12	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/赤褐 色	口縁部に横位隆線と横位沈線を設ける。横位隆線は突出し強い押圧文や交互刺突文を加える。内面平滑な撫で	中期中葉末
第149図 PL.84	13	深鉢	体部破片	住居外	粗:石英・雲母/良好 /褐色	双波状突起を付し下端より刻みを付す隆線が垂下する。側線は平行沈線。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第149図 PL.84	14	壺か	体部破片	住居外	粗:石英・片岩/良好 /赤褐色	薄手で内湾する体部器形。2条隆線による大柄な渦巻文構成。側線は凹線及び撫で。内面撫で	中期後葉
第149図 PL.85	15	深鉢	体部破片	住居外	細:石英・輝石/良好 /褐色	体部上半か。横位隆線は口縁部区画文下端。L Rを充填施文する。内面弱い研磨	中期後葉
第149図 PL.85	16	深鉢	体部破片	炉内	細:石英/良好/にぶ い赤褐色	体部上半か。横位隆線以下縦位密接条線を施す。内面研磨	中期後葉
第149図 PL.85	17	深鉢	体部破片	ピット6	細:輝石/良好/黒褐 色	縦位沈線と矢羽状刻みが重なる。空白部には短沈線や三叉文が施される。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第149図 PL.85	18	器台	脚部破片	床直上	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	外反気味に開く脚部。中位に孔を設けるが形状などは不明。内外面丁寧な撫で調整	中期後葉
第149図 PL.85	19	台付深鉢	脚部破片	住居外	粗:輝石/軟質/にぶ い黄褐色	底:(6.0)。小型で体部、脚部とも強く開く。内外面撫で調整を施すが器面磨滅のため判然としない	中期後葉
第149図 PL.85	20	深鉢	底部破片	床直	細:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	強く開く体部下半。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成下端。施文部縄文はL R充填。内面研磨	中期後葉
第149図 PL.85	21	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/やや 軟/黒褐色	内湾気味に開く口縁部。太い沈線2条を弧状に配す。あるいは渦巻文か。縄文は無節L。体部下半は撫で調整に終止する。内外面とも器面磨滅	中期後葉
第149図 PL.85	22	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.1、厚:0.3、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。小型品で裏面中央に素材面が残るが周縁からの丁寧な押圧剥離により整った平面形を作出する	
第149図 PL.85	23	石鏃未製 品	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:2.0、厚:0.6、重:2.6。凹基無茎鏃の製作意匠か。表裏面からの押圧剥離が全体に及ぶが未だ中央部に厚みが残る。最終段階の剥離調整が予想される	
第149図 PL.85	24	石錐	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:0.5、厚:0.3、重:0.2。完成状態。小型の棒状素材両側面に押圧剥離を加え、断面紡錘状の細い体部と先端部を作出する。使用痕は見られない	
第149図 PL.85	25	軽石製品	一部欠損	埋土	軽石	長:6.7、幅:3.8、厚:1.3、重:8.8。平面形が方形を呈する板状製品。仕上げは丁寧で、表裏面は平坦で端部は丸みを帯びる	
第149図 PL.85	26	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:9.8、幅:4.7、厚:1.7、重:93.0。短冊形。節理による板状素材周縁に丁寧な剥離調整を施し、直線状の側縁と凸刃を作出する。刃部表面の使用による磨滅痕が顕著	
PL.85	27	石鏃	脚先端部欠 損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:1.5、厚:0.3、重:1.0。凹基無茎鏃。完成状態。比較的粗い押圧剥離が全体を覆い挟り部の調整も雑な印象を得る	
PL.85	28	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:2.3、厚:0.9、重:3.9。小型の剥片両側縁に雑な剥離を加え先端部を作出する。石鏃未製品か	
PL.85	29	加工痕あ る剥片	上部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:2.0、厚:0.7、重:2.3。小型厚手の剥片を素材とする。右側縁に微細な剥離を連続する	
PL.85	30	加工痕あ る剥片	破片	埋土	黒曜石	長:(1.2)、幅:2.0、厚:0.3、重:1.2。薄手の小型剥片を素材都市、周縁より押圧剥離を施す	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.85	31	使用痕ある剥片	下半欠損	ピット5	細粒輝石安山岩	長:10.7、幅:7.8、厚:1.5、重:147.8。幅広の縦長剥片を素材とし、両側縁を刃部とする。刃こぼれを見る	
PL.85	32	使用痕ある剥片	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:6.3、幅:6.9、厚:1.6、重:80.0。表面に自然面を残す横長剥片を素材とする。下端を刃部とし刃こぼれを見る	
PL.85	33	使用痕ある剥片	完形	床直上	黒色頁岩	長:5.8、幅:3.5、厚:1.1、重:23.0。縦長剥片を素材とし先端が尖る。両側縁を刃部とし細かな刃こぼれを見る	

61区37号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第150図 PL.85	1	深鉢	口縁部把手 破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	小型器種口縁部に付けられる橋状把手。上端に振りを加えた隆線を配す。体部器厚薄手。内面撫で	中期中葉
第150図 PL.85	2	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/明赤 褐色	太い隆線と画された口縁部文様帯。隆線には沈線が重なり、区画内は横位矢羽状沈線が充填される。内面研磨	中期後葉
第150図 PL.85	3	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ /橙色	内皮平行沈線による方形区画文。地文は撚糸L縦位施文。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第150図 PL.85	4	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	交互三角陰刻による横位蛇行文。内面平滑な撫で	中期中葉末

61区38号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第152図 PL.85	1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/褐灰色	口縁部横位沈線を設け、渦巻状意匠を配す。内面平滑な撫で	中期後葉
第152図 PL.85	2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ /黒褐色	波状縁。口縁部横位沈線を設け、沈線で画した弧状・環状意匠を配す。縦位LR充填施文。内面弱い研磨	中期後葉
第152図 PL.85	3	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ /褐灰色	薄手の器厚。隆線による口縁部区画文。区画内側線は沈線で斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第152図 PL.85	4	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	体部下半か。厚手。斜位短沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第152図 PL.85	5	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/軟質/浅黄 橙色	体部下半か。厚手。無文で器面磨滅する	中期後葉
第152図 PL.85	6	石鏃未製品	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:1.7、厚:0.6、重:2.0。凹基無茎鏃の製作意図か。両側縁に押圧剥離を施し体部と先端部の作出途中と思われる。挟り部は粗い調整に止まっている	
第152図 PL.85	7	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:1.7、厚:0.4、重:0.9。凹基無茎鏃。完成状態。細かく丁寧な押圧剥離が全面に及び、薄手でやや長身の均整の取れた形状を作出する	
第152図 PL.85	8	磨石	完形	床直	石英閃緑岩	長:11.2、幅:9.4、厚:10.0、重:1317.8。やや歪な球状の円礫。小型の丸石か。数箇所に範囲の狭い磨面を持つ。敲打痕は希薄	
第152図 PL.85	9	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:13.5、幅:15.2、厚:8.3、重:1170.0。不定形で断面三角形の多孔質な角礫。各面に円錐状孔を配するが表裏面に集まる	

61区39号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第156図 PL.86	1	深鉢	体部残存	炉内	粗:石英/良好/にぶ い橙色	垂下沈線に画された幅広の磨消部懸垂文構成。磨消部内を上下2帯に分けU字状・逆U字状意匠を配す。施文部は無節L縦位充填施文だが、1単位のみ施文である。内面弱い縦位研磨。上半部に被熱痕跡を見る	中期後葉
第156図 PL.86	2	深鉢	口縁部残存 ～体部下半 1/4残存	床直	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	口:14.0。波状突起1単位を付す。波頂下に横位弧状凹線を施す。体部は1帯構成で凹線による逆U字状懸垂文が5単位配される。正面意外は施文部と磨消部の交互配列構成だが正面は施文部が優先される縦位RL充填施文。内面は横位研磨	中期後葉
第156図 PL.86	3	深鉢	口縁部一 部、体部残 存	炉内	粗:石英・輝石/良好/ /赤褐色	口縁部内湾し横位沈線を設ける。以下口縁部は横位、体部は縦位LRの施文後縦位密接条線を加える。内面平滑な撫で調整。上半に著しい被熱痕跡	中期後葉
第156図 PL.86	4	深鉢	体部中位～ 底部残存	埋土	粗:小礫・石英/良好/ /にぶい橙色	底:7.8。大型の深鉢。強く開く体部下半。上半部で僅かに内湾する。縦位密接条線が器面を覆う。幅1～2cmの櫛歯状工具か。内面横位削り調整後撫で	中期後葉
第156図 PL.86	5	深鉢	口縁部破片	床直	細:石英・輝石/良好/ /明褐色	口縁部隆線による区画文構成。区画内側線は沈線、無節L縦位施文。内面横位研磨	中期後葉
第156図 PL.86	6	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/明褐 色	僅かに内湾する口縁部。沈線による逆U字状意匠を配し、滴状刺突文が密に施される。内面弱い研磨	中期後葉
第156図 PL.86	7	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/橙色	体部中位。擬口縁。輪積み部分での欠損箇所をそのまま磨滅する。垂下沈線3条による磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第156図 PL.86	8	壺	頸部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	頸部は外反し体部上半に設けた横位隆線に把手を付す。体部は沈線による弧状意匠を配し、隆線上、意匠内にLRを施す。内面弱い研磨	中期後葉
第156図 PL.86	9	深鉢	口頸部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい赤褐色	隆線による口縁部渦巻文。頸部隆線を設け体部は2条の垂下沈線による懸垂文構成。無節L充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第156図 PL.86	10	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/褐色	体部上半。2条隆線による口縁部区画文。体部は垂下沈線3条による懸垂文構成か。地文に無節Lを縦位に施し横位弧状沈線2条を重ねる。内面平滑な横位撫で	中期後葉
第156図 PL.86	11	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /赤褐色	弧状隆線による不整形区画文構成。側線は撫で、区画内はRLを充填する。内面横位研磨	中期後葉
第156図 PL.86	12	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・輝石/良好 /明褐色	大型深鉢。2・3条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は無節L縦位施文	中期後葉
第156図 PL.86	13	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /明褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。縦位波状沈線を加える。施文部は縦位RL充填施文。内面研磨	中期後葉
第156図 PL.86	14	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	細沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は無節L縦位充填施文。内面弱い撫で	中期後葉
第157図 PL.86	15	深鉢	体部破片	床直	細:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	外反する体部上半。隆線による逆U字状意匠を配す。側線は凹線、RLを充填施文する。内面撫で	中期後葉
第157図 PL.86	16	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /明褐色	内湾する体部上半。横位隆線が口縁部劃線か。沈線を側線とする。体部は沈線で画された逆U字状磨消部。縄文はLR充填施文。内面は弱い撫で調整	中期後葉
第157図 PL.86	17	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第157図 PL.86	18	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母少/良 好/赤褐色	剥落する斜位隆線と斜位短沈線。沈線施文は浅く細い。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第157図 PL.86	19	深鉢	底部破片	床直上	細:石英・輝石/良好 /褐色	底:(8.0)。無文で内外面とも平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第157図 PL.86	20	深鉢	底部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	底:(7.6)。外反気味に開く体部下半。垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文。内面平滑な撫で、煤付着	中期後葉
第157図 PL.87	21	三角柱形 土製品	一部欠損	床直上	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	長:8.4、幅:5.2、厚:5.2。長軸中位に円孔を貫孔する。2条沈線による渦巻文を1面に配し他は外縁に沈線を施し内側は無文。全面丁寧な研磨を施すが赤彩痕は明瞭ではない	中期後葉
第157図 PL.87	22	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:1.7、厚:0.4、重:1.2。凹基無茎鏃。完成状態。細かく丁寧な押圧剥離を全面に施し、薄手で均整の取れた形状を作出する	
第157図 PL.87	23	スクレイ パー	一部欠損	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.6、厚:0.7、重:1.5。小型の円形状剥片周縁を丁寧な押圧剥離で刃部を作出する	
第157図 PL.87	24	石鏃未製 品	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:1.6、厚:0.6、重:1.8。中央部に厚みを残し、周縁にやや粗い押圧剥離を施す。側縁と先端部はほぼ完成状態か	
第157図 PL.87	25	石錐	先端欠損	埋土	珪質頁岩	長:4.1、幅:2.9、厚:1.1、重:11.1。完成状態。やや厚手の剥片下部部両側縁より押圧剥離を加え先端部を作出する。摘み部の調整は粗い	
第157図 PL.87	26	石匙	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:7.9、幅:2.6、厚:0.9、重:17.7。縦型。礫面を残すものの、丁寧な押圧剥離を周縁に施し、整った形状を作出する。	
第157図 PL.87	27	打製石斧	刃部欠損	床直上	黒色頁岩	長:7.3、幅:4.5、厚:1.9、重:66.4。小型の短冊形。表面中位にやや厚みを残す。粗い剥離調整を周縁に施し、楕円状の形態を作出している	
第157図 PL.87	28	打製石斧	上半欠損	床直	細粒輝石安山岩	長:5.2、幅:4.6、厚:1.2、重:42.5。短冊形。刃部のみの残存。表裏面とも使用による磨減痕が顕著	
第157図 PL.87	29	加工痕あ る剥片	完形	床直	黒色頁岩	長:6.7、幅:4.0、厚:1.1、重:36.0。横長剥片を素材とし、下部部に粗い剥離調整を加え刃部を作出する	
第158図 PL.87	30	磨製石斧	上端欠損	床直	変質蛇紋岩	長:5.1、幅:3.1、厚:1.4、重:40.3。小型の定角式磨製石斧。基部に装着のため再度研磨を加えている	
第158図 PL.87	31	磨製石斧	完形	埋土	変質蛇紋岩	長:8.2、幅:5.4、厚:2.5、重:209.7。定角式磨製石斧再利用か。周縁を再研磨し刃部も作出し、一回り小型の製品を意図している	
第158図 PL.87	32	磨製石斧	一部欠損	埋土	変質蛇紋岩	長:(14.1)、幅:5.6、厚:2.4、重:314.3。大型の定角式磨製石斧。縦位方向の破片接合による。刃部など表裏方向からの調整剥離で作出途中で放棄したものど捉えた	
第158図 PL.87	33	磨製石斧 転用敲石	完形	埋土	変玄武岩	長:10.0、幅:5.2、厚:2.9、重:302.2。下半及び刃部を欠損した磨製石斧を素材として、周縁を敲打により再整形している	
第158図 PL.87	34	磨石	一部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.4、幅:6.7、厚:2.7、重:257.1。扁平な楕円状円礫。裏面は器面剥落多い。敲打痕が広がるが散漫で表面の磨面が認められた	
第158図 PL.87	35	敲石	完形	埋土	石英閃緑岩	長:13.6、幅:9.6、厚:5.6、重:1092.9。厚手の楕円状円礫。上半部は意図的な剥離と考えた。敲打痕は下部部及び側面に集中する	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第158図 PL.87	36	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:22.6、幅:11.0、厚:6.3、重:2320.0。厚手の大型楕円状円礫。顕著な凹みは表面上半に1箇所のみだが、敲打痕は表面～右側縁に集中する。裏面の器表面剥落多い	
第158図 PL.87	37	多孔石	一部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(15.5)、幅:10.5、厚:6.5、重:1362.2。不定形な亜角礫。表面のみに断面円錐状の凹みを設ける。深い例は1孔のみである	
第158図 PL.87	38	軽石製品	下半・一部欠損	埋土	軽石	長:(5.1)、幅:7.5、厚:1.6、重:16.6。不整形を平面形にする板状軽石製品。極めて多孔質で小孔で占められる。表裏面を平坦に仕上げ、縁辺も丸みを帯びる	
第158図 PL.87	39	軽石製品	下半欠損	床直上	軽石	長:(6.6)、幅:6.1、厚:1.9、重:20.4。おそらく台形を平面形とする板状軽石製品。縁辺が丁寧な仕上げられるため、紡錘状の断面形を呈す。小孔は自然孔である	
第158図 PL.87	40	軽石製品	破片	床直上	軽石	長:(5.8)、幅:(4.3)、厚:0.9、重:5.3。平面形は方形か。極めて薄手に仕上げられた板状製品。小孔は自然孔であろう	
PL.87	41	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.0、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。やや厚みを残しながら押圧剥離が全体に及び、細身の整った形状を作出する	
PL.87	42	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.4、幅:0.8、厚:0.1、重:0.1。凹基無茎鏃。完成状態。小型で薄手の三角形素材をそのまま援用し挟り部のみの作出に止まる	
PL.87	43	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.5、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。やや粗い押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げている	
PL.87	44	石鏃	上半欠損	埋土	黒色安山岩	長:(1.9)、幅:2.1、厚:0.2、重:1.3。凹基無茎鏃。完成状態。粗い押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げる	
PL.87	45	石鏃	右脚欠損	埋土	黒曜石	長:(2.2)、幅:(1.5)、厚:0.3、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆う。挟り部湾曲も強く調整する	
PL.87	46	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.3、厚:0.3、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。小型品。丁寧な押圧剥離を縁辺から施し整った平面形を作出する。表裏面とも中央に素材面を残す	
PL.87	47	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.3、厚:0.3、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。細身の整った平面形を丁寧な押圧剥離で作出する	
PL.87	48	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.4、厚:0.2、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。側縁内湾する整った平面形状を示す。丁寧な押圧剥離で薄手に仕上げるが一部に礫面を残す	
PL.87	49	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:1.2、厚:0.4、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。粗い押圧剥離での作出で非対称な平面形でやや歪。表意面に礫面や素材面を残す	
PL.87	50	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.2、厚:0.2、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆うが裏面に素材面を残す	
PL.87	51	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:1.3、厚:0.4、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。表裏面周縁に押圧剥離を施すため素材面を広く残す	
PL.87	52	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.3、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。やや小型で丁寧な押圧剥離が全体に及び薄手で整った平面形に仕上げる	
PL.87	53	石鏃	左脚欠損	埋土	黒曜石	長:(2.1)、幅:(1.4)、厚:0.2、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離で薄手に仕上げている	
PL.87	54	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:1.4、厚:0.2、重:0.8。平基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い、薄手で整った平面形状に仕上げている	
PL.87	55	石鏃	完形か	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:1.3、厚:0.3、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。左脚部欠損後再調整を加える。丁寧な押圧剥離を施す	
PL.87	56	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:1.2、厚:0.4、重:0.7。平基無茎鏃。完成状態。小型品ながら丁寧な押圧剥離を施し左右対称の整った形状に作出する	
PL.87	57	石鏃	右脚欠損	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:(1.0)、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離で作出され、細身で挟り部の湾曲も強い	
PL.87	58	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.2、厚:0.4、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。小型で中央に厚みを残すが周縁からの丁寧な押圧剥離で整った平面形状を作出する。裏面に素材面を残す	
PL.87	59	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.5、幅:0.8、厚:0.4、重:0.4。凸基無茎鏃。完成状態。精緻な押圧剥離で全体を覆い、小型で滴状の形態を作出する	
PL.87	60	石鏃	完形	埋土	珪質頁岩	長:3.2、幅:2.7、厚:0.8、重:7.2。凸基無茎鏃。完成状態。あるいは未製品か。中央部が厚いものの周縁からの押圧剥離が全体を覆う。大型ながら形状も整っているため、完成状態と判断した	
PL.87	61	石鏃	右脚欠損	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:(1.5)、厚:0.3、重:1.1。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離で全体が覆われ、やや長身で薄手に仕上げている	
PL.87	62	石鏃未製品	完形	埋土	チャート	長:3.6、幅:2.8、厚:0.7、重:8.0。平基鏃を意図か。周縁から押圧剥離を施すが表面に礫面を残し左側縁は調整が及ばず厚い	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.87	63	石錐	先端欠損	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:0.8、厚:0.3、重:0.5。完成状態。摘み部から体部を丁寧な押圧剥離で覆う。側縁の一部に礫面を残す	
PL.87	64	スクレイパー	破片	埋土	黒曜石	長:(1.6)、幅:(1.4)、厚:0.3、重:0.6。薄手の剥片全体を押圧剥離が覆う。あるいは石錐体部破片か	
PL.87	65	加工痕ある剥片	破片	床直	変質安山岩	長:5.7、幅:5.7、厚:1.6、重:55.7。横長剥片を素材とする。下端に細かな剥離を集中し刃部を作出している	
PL.87	66	加工痕ある剥片	完形	床直	黒色頁岩	長:3.4、幅:5.2、厚:0.9、重:14.4。横長剥片を素材とし、下端に表裏面からの剥離を加え刃部とする	
PL.87	67	加工痕ある剥片	完形	床直	珪質頁岩	長:5.3、幅:5.6、厚:1.1、重:220.5。5点の剥片がある。縦長剥片が多く、側縁に加工を施す。石器製作址としての位置付けも可能であろう	
PL.87	68	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒色頁岩	長:3.2、幅:4.1、厚:1.1、重:18.2。横長剥片を素材とし、両側縁と下端に粗い剥離を施し刃部としている	
PL.87	69	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒色頁岩	長:5.2、幅:3.7、厚:1.1、重:22.2。縦長剥片を素材とする。両側縁を刃部とし右側縁に細かな剥離を施す	
PL.87	70	加工痕ある剥片	右半欠損	埋土	変質安山岩	長:6.1、幅:7.0、厚:1.7、重:86.4。横長剥片を素材とする。下端刃部と左側縁に剥離を施し、刃部には使用による磨滅痕を見る	
PL.87	71	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:0.9、厚:0.2、重:0.5。小型の縦長剥片を素材とし、両側縁と下端に細かな押圧剥離を施し滴状の平面形を作出する	
PL.87	72	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:1.4、厚:0.3、重:0.9。小型の剥片を素材とし表面側縁に細かい押圧剥離を連続させ先端部を作出する	
PL.87	73	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:1.1、厚:0.8、重:1.9。小型の縦長剥片を素材とし右側縁に細かな押圧剥離を施す	
PL.87	74	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:0.8、厚:0.4、重:0.6。小型で細長い剥片を素材とし、表面に細かな押圧剥離を集中し先端部の作出を試みている。あるいは石錐未製品か	
PL.87	75	加工痕ある剥片	完形	埋土	チャート	長:4.1、幅:2.9、厚:1.2、重:13.2。縦長剥片を素材とし、両側縁及び下端に剥離を施す	
PL.87	76	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒色頁岩	長:6.2、幅:5.1、厚:0.6、重:17.9。薄手で幅広の縦長剥片を素材とする。周縁を刃部とし刃こぼれを見る	
PL.88	77	使用痕ある剥片	右側縁欠損	埋土	珪質頁岩	長:5.3、幅:(6.3)、厚:0.9、重:22.4。薄手の横長剥片を素材とし、下端を刃部とする。刃こぼれを見る	
PL.88	78	使用痕ある剥片	右側縁欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:7.5、幅:(10.2)、厚:1.2、重:117.8。表面に広く礫面を残した、大型の横長剥片を素材とする。下端刃部に刃こぼれを見る	
PL.88	79	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.0、厚:0.3、重:0.4。小型の三角形状を呈す縦長剥片左側縁に微小剥離を見る	
PL.88	80	磨石	完形	床直	変質安山岩	長:8.2、幅:3.2、厚:2.1、重:81.0。小型棒状の円礫。表裏面に平滑な磨面を見る	
PL.88	81	敲石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:12.7、幅:5.1、厚:4.8、重:501.2。棒状の楕円状円礫。表裏面、両側縁、上下端部に敲打痕を見る	

61区41号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第159図 PL.88	1	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英・雲母/良好/にぶい褐色	内稜を設け、口縁部横位隆線を付す。以下2条一組の弧状沈線や斜位沈線を施す。地文はRL斜位施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第159図 PL.88	2	浅鉢	口縁部破片	床直上	細:石英/良好/赤褐色	口縁部肥厚し体部内湾する。内外面丁寧な研磨を施し、僅かな赤彩痕を見る	中期後葉
第159図 PL.88	3	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/赤褐色	横位隆線を設け、垂下隆線が派生する懸垂文構成。地文は撚糸L縦位施文。内面平滑な撫で調整、煤付着	中期後葉
第159図 PL.88	4	深鉢	頸部破片	ピット3	粗:石英・輝石/良好/暗赤褐色	頸部外反部に押圧を加えた横位鎖状隆帯を設ける。上下とも無文。器面磨滅。内面平滑な撫で	中期末葉
第159図 PL.88	5	深鉢	体部破片	床下	細:輝石/良好/黒褐色	内皮平行沈線による渦巻状意匠より横位沈線群が派生する。地文は縦位撚糸L。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第159図 PL.88	6	深鉢	体部破片	ピット2	細:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	縦位沈線群を主とした懸垂文構成か。沈線間に刺突文を施す。内面平滑な撫で	中期中葉
第159図 PL.88	7	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/褐色	縦位RLを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第159図 PL.88	8	深鉢	体部破片	床下	細:石英・輝石/良好/褐色	縦位沈線群による懸垂文構成。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第159図 PL.88	9	深鉢	体部破片	ピット2	粗:石英/良好/にぶい黄褐色	体部下半。無文で弱い撫で調整に止まる。内面は横位撫で調整	中期後葉
第159図 PL.88	10	磨製石斧	完形	床直上	変質蛇紋岩	長:11.2、幅:5.2、厚:2.4、重:268.6。やや大型の定角式磨製石斧。おそらく刃部欠損後再度研磨による刃部作出が施されたものか。周縁の剥落は装着痕か	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第159図 PL.88	11	多孔石	破片	床直上	粗粒輝石安山岩	長:(12.6)、幅:(8.9)、厚:6.5、重:791.4。厚手の不整形亜角礫。表裏面に断面紡錘状の孔を設けるが密ではない	
PL.88	12	石鏃	破片	埋土	黒曜石	長:1.4、幅:(1.1)、厚:0.4、重:0.6。体部のみ残存。完成状態。押圧剥離を全体に及び薄手に仕上げている	

61区42号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第163図 PL.88	1	深鉢	口縁～体部 中位残存	床直上	細:石英/良好/にぶ い橙色	口縁部内湾し体部が長胴形を呈す。口縁部文様帯は狭く背割り隆線による弧状意匠を配す。端部が剣先状になる特徴を有す。斜位短沈線を充填する。頸部無文部は幅広く体部とは横位沈線群と小突起で画す。体部は3・4条の垂下沈線群による懸垂文構成。地文は縦位RL。内面平滑な撫で調整	中期後葉初
第163図 PL.88	2 3	深鉢	口縁部破片 2点	埋土	細:石英・輝石・雲母 少/良好/褐色	口縁部上に渦巻状小突起を付し2条隆線で幅狭の区画文を画す。頸部は小渦巻状意匠も配す。区画内は斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉初
第163図 PL.88	4	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	口縁部内湾し2条隆線による口縁部区画文構成。区画下端に渦巻状突起を設ける。頸部横位沈線を配す。区画内は横位、頸部は斜位RLを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉初
第163図 PL.88	5 6	深鉢	口縁部・口 頸部破片2 点	埋土	細:石英/良好/褐色	口縁部内屈し無文。横位隆線を設け口頸部は2条の垂下隆線で区画する。区画内は2条沈線による弧状意匠を配す。頸部は横位沈線群が設けられる。縦位RLを充填する。内面横位研磨を施す	中期後葉初
第163図 PL.88	7～ 9	深鉢	口縁・体部 破片4点	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	2条隆線による口縁部区画文。2帯配され縦位短沈線を充填する。体部は縦位沈線や波状沈線による懸垂文構成。一部弧状意匠に変化する。内面丁寧な研磨	中期後葉初
第163図 PL.88	10	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい橙色	口唇部と頸部の2条隆線で幅狭の口縁部文様帯を画し、渦巻文を配し横位隆線で繋ぐ。沈線を側線とし、横位LRを地文とする。内面横位研磨	中期後葉初
第163図 PL.88	11	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母 少/良好/明赤褐色	内湾する口縁部。口唇端部に沈線が重なり、弧状隆線2条に画された区画文構成。区画内側線は沈線、縦位RLを地文とする。内面横位研磨	中期後葉初
第163図 PL.88	12	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:輝石/良好/にぶ い赤褐色	嘴状の小突起を配す口縁部区画文。区画内は沈線を側線とし弧状短沈線を充填する。地文は擦糸L縦位施文。内面は弱い研磨を施す	中期後葉初
第163図 PL.88	13	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・雲母/良好 /にぶい橙色	波状縁。波頂部より2条隆線による渦巻文が懸架する。口縁部隆線も設けられ上位に円形刺突文が沿う。以下沈線を側線とし縦位・弧状細沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第163図 PL.89	14	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /橙色	直立気味の体部中位。地文に擦糸Lを縦位施文し、縦位波状沈線文や垂下沈線2条を重ねる。内面平滑な撫で	中期後葉初
第163図 PL.89	15	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好 /暗褐色	縦位平行沈線群による懸垂文構成。U字状・逆U字状意匠も配す。内面平滑な撫で	中期後葉初
第163図 PL.89	16	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好 /暗褐色	体部上半。横位隆線2条による分帯。頸部は斜位沈線に相向いした斜位隆線を付した斜格子文。体部は縦位平行沈線群に縦位波状沈線が加わる懸垂文構成。内面撫で	中期後葉初
第163図 PL.89	17	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /赤褐色	内湾する体部下半。2条隆線による弧状意匠下端。内皮平行沈線による縦位沈線群が施され、複列の縦位刺突文が重なる。内面平滑な横位撫で調整	中期後葉初
第164図 PL.89	18	深鉢	口縁部突起 片	床直上	粗:石英・雲母/良好 /にぶい褐色	突出する柱状突起。上端は環状でU字状隆線が懸架する。下端より横位2条隆線が派生する。平行沈線が施文される	中期中葉末
第164図 PL.89	19	深鉢	口縁～体部 上半破片	埋土	粗:石英・雲母/良好 /にぶい赤褐色	口縁部外面肥厚し無文部を設ける。体部は横位沈線で多段に分帯され、短沈線による弧状・渦巻状意匠や交互三叉の陰刻による横位蛇行文が配される。内面平滑な撫で	中期中葉
第164図 PL.89	20	浅鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い赤褐色	口唇部内面突出し、体部は強く開く。内外面とも丁寧な研磨を施し、赤彩痕を見るが意匠までは不明	中期中葉
第164図 PL.89	21	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	縦位眼鏡状突起を配し下端より隆線が派生する。3条の細隆線による弧状意匠も配される。側線は撫で	中期中葉末
第164図 PL.89	22	深鉢	底部破片	埋土	粗:石英/良好/明赤 褐色	底:(19.0)。厚手で大型の深鉢か。無文で内外面とも平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第164図 PL.89	23	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.5、厚:0.4、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。押圧剥離が全体を覆い整った平面形に仕上げる。抉り部は強い湾曲を呈す	
第164図 PL.89	24	磨石	完形	炉脇	粗粒輝石安山岩	長:5.3、幅:3.2、厚:1.8、重:37.9。小型で扁平な楕円状円礫。表裏面に磨面が広がる	
第164図 PL.89	25	多孔石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:18.1、幅:12.0、厚:9.3、重:2420.0。厚手の不整形を基調とした亜角礫。表裏面に断面円錐状の孔を密集する	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第164図 PL.89	26	石皿	上半欠損	炉石	粗粒輝石安山岩	長:(20.0)、幅:30.6、厚:8.1、重:5330.0。大型で扁平な楕円状円盤。敲打による整形で、一部は凹みとなる。底面中央は平滑な磨面を有す	
PL.89	27	石鉢	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.6)、幅:(1.4)、厚:0.5、重:0.6。完成状態。表裏面とも押圧剥離に覆われるが表面はやや粗い	
PL.89	28	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.5、厚:0.4、重:1.0。小型の剥片を素材とし。粗い押圧剥離を下端刃部に施す	

61区43号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第168図 PL.89	1	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・雲母/良好/褐色	波頂部下の隆線による渦巻文。大型の区画文も接し、横位沈線や縦位短沈線が充填される。内面撫で	中期後葉
第168図 PL.89	2	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英多/良好/にぶい黄褐色	頸部強く屈曲。頸部隆線2条で口縁部文様帯を画す。側線は円形刺突文。縦位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第168図 PL.89	3	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/褐色	波状縁。口唇部に隆線が沿う。口縁部は広く無文で頸部に横位沈線3条を設ける。内面平滑な撫で、煤付着	中期後葉
第168図 PL.89	4	深鉢	口縁部突起片	床直	細:輝石/良好/にぶい黄褐色	波頂部に付された中空状の把手。4方からの貫孔。沈線や細隆線で縁取り、上端の円形孔意匠から渦巻文が懸架する。RL縄文を施す。裏面は半渦巻状の突起。内面平滑な撫で	中期後葉
第168図 PL.89	5	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英・輝石・雲母少/良好/橙色	内湾気味に開く無文の口縁部。口唇部内面肥厚する。内外面撫で	中期後葉
第168図 PL.89	6	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	直立気味の口縁部。広く無文部を設ける。内外面器面磨滅	中期後葉
第168図 PL.89	7	深鉢	口頸部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/にぶい褐色	隆線による口縁部区画文。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。頸部隆線以下は縦位RLを施す。内面は平滑な横位撫で調整	中期後葉
第168図 PL.89	8	深鉢	体部破片	ピット2	粗:輝石/やや軟/にぶい黄褐色	頸部横位隆線を設ける。体部は垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を充填する。内面研磨を施す	中期後葉
第168図 PL.89	9	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	縦位RLを地文とし、縦位波状沈線を重ねる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第168図 PL.89	10	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	内湾する体部。縦位LRを施す。内面撫で調整	中期後葉
第168図 PL.89	11	深鉢	体部破片	ピット3	粗:石英多・輝石/良好/明赤褐色	接続する2条隆線による懸垂文構成。弧状隆線も配される。沈線を側線とし、空白部は弧状短沈線を充填する。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第168図 PL.89	12	深鉢	口頸部破片	ピット2	細:石英/良好/褐色	大型の深鉢。横位隆線による口縁部分帯。凹線を側線とする。内外面とも丁寧な研磨を施す	中期後葉
第168図 PL.89	13	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/褐色	大型の深鉢体部下半。垂下沈線下端部を見る。内外面平滑な撫で調整	中期後葉
第168図 PL.89	14	深鉢	底部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/褐色	強く開く体部下半。2条の垂下沈線下端を僅かに見る。縦位RLを施す。内面撫で	中期後葉
第168図 PL.89	15	深鉢	底部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい橙色	強く開く体部下半。垂下沈線下端と縦位密接条線を見る。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第168図 PL.90	16	深鉢	底部破片	ピット8	粗:石英/良好/赤褐色	内外面とも平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第168図 PL.90	17	深鉢	底部残存	北壁際	細:石英・輝石/良好/橙色	底:5.6。小型深鉢か。外反気味に開く体部下半。器面磨滅する	中期後葉
第168図 PL.90	18	深鉢	底部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/明褐色	底:(8.0)。直立気味に開く体部下半。内外面とも平滑な撫で調整	中期後葉
第168図 PL.90	19	深鉢	底部破片	床直	粗:石英・輝石多/良好/明赤褐色	底:(8.0)。直立気味に開く体部下半。内外面とも平滑な撫で調整	中期後葉
第168図 PL.90	20	深鉢	底部破片	床下	粗:輝石/良好/明褐色	底:(11.0)。直立気味の体部下半。内外面とも弱い撫で調整	中期後葉
第168図 PL.90	21	深鉢	底部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	底:(12.0)。大型の深鉢。強く開く体部下半。内外面とも弱い研磨	中期後葉
第168図 PL.90	22	浅鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/暗褐色	口唇部内面突出。内外面研磨を施し内面が入念。赤彩痕は僅かに見る	中期後葉
第168図 PL.90	23	台付深鉢	脚部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	強く開く脚部。短脚か。斜位鎖状隆線を付し横位沈線を充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第168図 PL.90	24	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/灰黄褐色	体部上半。横位浮線文を多段に配し矢羽状の刻みを乗せる。幅狭の施文帯に波状文浮線文と縦位浮線文を配す。内面平滑な撫で	前期後葉
第168図 PL.90	25	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/橙色	内皮平行沈線による体部区画文構成。施文は強く深い。区画内は縦位沈線を充填し截痕跡を施す。内面撫で	中期中葉
第168図 PL.90	26	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/黒褐色	体部上半か。刻みを付す横位隆線を設け、沈線を側線とする。以下縦位燃糸Lを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉初

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第168図 PL.90	27	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/黒褐色	口縁部外傾し直下に横位隆線を設ける。側線は沈線で強い施文。内外面とも丁寧な研磨	後期か
第169図 PL.90	28	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.5、幅:1.4、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。小型で薄手の剥片周縁を微細な調整剥離を施したのみで整形する	
第169図 PL.90	29	スクレイパー	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:1.4、厚:0.6、重:1.8。小型縦長剥片両側縁の表裏面を交互に押圧剥離し先端部を作出している	
第169図 PL.90	30	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:11.9、幅:5.5、厚:1.8、重:153.6。短冊形。裏面側に湾曲する。粗い剥離調整で直線的な側縁と刃部を作出する。	
第169図 PL.90	31	打製石斧	上端欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:12.6、幅:5.8、厚:2.4、重:164.1。細身の短冊形。粗い剥離調整で左右非対称の体部を作出する。頭部は小型で幅広の刃部を呈する。刃部の磨滅痕が顕著	
第169図 PL.90	32	石皿	破片	埋土	緑色片岩	長:(18.8)、幅:(6.0)、厚:3.5、重:657.2。敲打による整形。下半左側の破片か。縁は弱く平坦に近い。内外面とも平滑な磨面を見る	
PL.90	33	打製石斧	体部残存	埋土	細粒輝石安山岩	長:(3.9)、幅:5.6、厚:1.3、重:45.0。短冊形か。完成状態。薄手の素材で粗い剥離により両側縁を作出する。一部に使用による磨滅痕を見る	
PL.90	34	加工痕ある剥片	完形	床下	黒色頁岩	長:5.2、幅:8.3、厚:0.8、重:42.5。薄手の横長剥片を素材とし、下端の刃部に表裏面からの粗い剥離を施す	

61区44号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第170図 PL.90	1	不明	把手破片	埋土	細:石英・輝石・片岩/良好/にぶい赤褐色	細身で中位に沈線を設けた橋状把手片。端部にはRLが施される	中期
第170図 PL.90	2	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい赤褐色	頸部隆線に沈線が重なる。施文は深い。口縁部区画内は縦位短沈線を充填する内面平滑な撫で	中期後葉
第170図 PL.90	3	深鉢	口頸部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい赤褐色	内湾する口縁部。内皮平行沈線を縦位密接施文する。内面撫で	中期後葉
第170図 PL.90	4	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい黄褐色	器厚薄手。縦位撚糸Lを施す	中期後葉
第170図 PL.90	5	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	横位平行沈線の上に弧状隆線が乗る。内面撫で	中期後葉

61区45号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第171図 PL.90	1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	薄手の器厚で、隆線による口縁部区画文構成を呈す。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第171図 PL.90	2	深鉢	口頸部破片	埋土	細:石英/良好/にぶい赤褐色	2条隆線による口縁部区画文。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第171図 PL.90	3	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/褐色	口縁部凹線を設け隆線による渦巻文を配す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第171図 PL.90	4	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	隆線による渦巻文。沈線を側線とする。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第171図 PL.90	5	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/暗褐色	幅狭の楕円状区画文構成。高い隆線で画す。区画内は縦位短沈線を埋める。上位に横位波状沈線を配す。内面平滑な撫で	中期中葉か
第171図 PL.90	6	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母少/良好/暗褐色	器厚薄手。垂下隆線による懸垂文構成。縦位密接条線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第171図 PL.90	7	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい橙色	垂下沈線で画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。磨消部・内面平滑な撫で調整	中期後葉
第171図 PL.90	8	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶい黄褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第171図 PL.90	9	石鏃未製品	先端欠損	埋土	黒曜石	長:(2.0)、幅:2.0、厚:0.4、重:1.6。薄手の素材周縁にやや粗い押圧剥離を施す。基部は平基だが凹基への加工も想定されよう	
PL.90	10	スクレイパー	上半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.4、厚:0.4、重:0.8。押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げる。石鏃の破片か	

61区46号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第173図 PL.91	1	深鉢	口縁部1/3・体部残存	埋土 1	粗:輝石/良好/明赤褐色	口:(34.0)。大型深鉢。体部上半に僅かな括れ部を持たせる。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。体部は沈線による施文部逆U字状懸垂文を配す。8単位。施文部には縦位波状沈線を加える箇所もある。磨消部は縦位研磨。内面は弱い横位研磨を施す。下半に被熱痕跡	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第173図 PL.90	2	深鉢	口頸部1/2 ～体部中位 残存	埋喪2	細:輝石/良好/赤褐色	口:15.5。口縁部は隆線による渦巻文と区画文が一体化した勾玉状区画文構成。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。体部は2条の垂下沈線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充てる。内面平滑な撫で、上半部被熱痕跡	中期後葉
第173図 PL.90	3	深鉢	体部残存	埋喪3	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	口縁部は隆線による区画文構成か。沈線を側線とし無筋Lを縦位施文する。体部は2条沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は無筋L縦位充填施文。内面平滑な撫で	中期後葉
第173図 PL.90	4	深鉢	口頸部1/2 ～体部中位 残存	炉体土器	粗:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	口縁部は隆線による区画文構成。おそらく渦巻文も配される巻文下端より派生する2条隆線による懸垂文構成。中位の渦巻文で縦位連接する。縦位波状隆線も設けられ、空白部は相向う斜位短沈線を埋める。上半部は被熱痕跡。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第173図 PL.90	5	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	あるいは壺体部下半か。縦位密接条線を施す。薄手で内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第173図 PL.90	6	深鉢	口頸部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/ 暗褐色	隆線による口縁部区画文と下位に配された渦巻文。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第173図 PL.90	7	深鉢	体部残存	床直	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	2条隆線による体部懸垂文構成。隆線は区画文に派生し斜位短沈線を充填する。側線は沈線。内面は横位撫で	中期後葉
第173図 PL.90	8	深鉢	体部残存	埋土	粗:輝石/良好/明褐色	垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部縄文はR L縦位充填施文。内面は弱い縦位研磨	中期後葉
第173図 PL.90	9	打製石斧	完形	床直上	細粒輝石安山岩	長:11.0、幅:5.7、厚:2.3、重:140.6。厚手の撥形。頭部は小型で中位に大きく括れを設け、左右非対称な幅広刃部を呈する。礫面を大きく残し、粗い剥離調整で作出する	

61区47号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第174図 PL.91	1	深鉢	口縁部3/4 残存	埋喪	粗:石英・輝石/軟質/ 浅黄色	口:28.4。口縁部は低隆線による渦巻文と区画文構成。区画下端線は沈線。区画内は横位R Lを充填する。体部は垂下沈線2条に画された幅広磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位・斜位R L充填施文。内外面器面磨滅	中期後葉
第174図 PL.91	2	深鉢	体部下半～ 底部残存	炉内	細:輝石/良好/明赤 褐色	底:(6.0)。3条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。施文部は幅狭で縦位R Lを充填する。内面弱い縦位研磨	中期後葉
第174図 PL.91	3	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/橙色	平行沈線による縦位密接条線。内面横位撫で	中期後葉
第174図 PL.91	4	石鏃	右脚欠損	埋土	黒色安山岩	長:2.3、幅:(1.3)、厚:0.4、重:1.0。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体に及び薄手に仕上げている。抉り部湾曲も強く丁寧な調整を施す	
PL.91	5	加工痕ある 剥片	破片	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:(1.4)、厚:0.4、重:1.3。薄手の剥片に押圧剥離を施し。刃部には微細な調整を加える	
PL.91	6	加工痕ある 剥片	下部欠損	埋喪内	黒曜石	長:(2.1)、幅:1.5、厚:0.4、重:1.0。横長剥片を素材とし、右側縁から下端にかけて細かな押圧剥離を施す	
PL.91	7	使用痕ある 剥片	一部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.9、幅:7.1、厚:1.7、重:174.7。横長剥片を素材とし、下端の刃部に微細剥離を見る	

61区48号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第175図 PL.91	1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い橙色	口縁部凹線を設ける。隆線による区画文か。内外面とも平滑な撫で調整	中期後葉
第175図 PL.91	2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/明褐 色	体部下半か。斜位弧状短沈線が充填される。外器面磨滅。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第175図 PL.91	3	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/橙色	垂下沈線による懸垂文下端。縦位条線も施される。下端の凹線は焼成後の傷か。内面研磨	中期後葉
第175図 PL.91	4	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 橙色	垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位R L充填施文。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第175図 PL.91	5	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.4、幅:1.4、厚:0.4、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。小型で中央部が厚く抉り部はやや弱い、全体的に丁寧な押圧剥離が覆う	

62区2号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第179図 PL.91	1	深鉢	体部1/2残 存	ピット8	粗:石英/良好/明赤 褐色	大型の深鉢。2条の沈線で画された磨消部H字状意匠。下半は懸垂文構成となる。施文部縄文はL R縦位充填施文。磨消部及び内面は平滑な撫で調整。内面下半に被熱痕としての黒斑を見る	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第179図 PL.92	2	深鉢	口縁～体部 破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口:(44.0)。大型深鉢。口縁部は隆線による楕円状区画文。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。口縁部区画内及び体部施文部は縦位密接条線を充填する。体部下半は縦位LRを施す。内面は研磨を加える	中期後葉
第179図 PL.91	3	深鉢	口縁～体部 上半1/3残存	床直上	細:輝石/良好/明赤 褐色	口:(19.8)。4単位波状縁。口縁部沈線を設け、体部は上下2帯構成。上位は沈線で画された縦位楕円状区画文、下位は分岐懸垂文か。縄文はLR縦位充填施文。磨消部及び内面は弱い研磨を施す	中期後葉
第179図 PL.92	4	深鉢	口縁部破片	ピット8	細:石英/良好/にぶい 黄褐色	内湾する平縁。口縁部沈線を設ける。体部は沈線で画された磨消部逆U字状意匠を配す。施文部はRL充填施文。磨消部及び内面は研磨を施す	中期後葉
第179図 PL.92	5	深鉢	口縁～体部 2/3残存	埋土	細:石英/良好/にぶい 黄褐色～暗褐色	口:(9.6)。小孔を穿つ波状突起2単位を設け、直下に隆線による縦位連結把手を配す。縄文はRL。内面研磨。内外面に少量の煤付着。体部下半に補修孔を見る	中期後葉
第179図 PL.92	6	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英/良好/橙色	波状縁。口唇部外反し以下は内湾。波頂部に沈線で画された磨消部逆U字状意匠を配す。縄文はLR充填施文。磨消部は平滑な撫で、内面は弱い横位研磨を施す	中期後葉
第179図 PL.92	7	深鉢	口縁～体部 破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	1条の沈線で画された磨消部逆U字状意匠を接続する。おそらく上下2帯構成。口縁部は横位、体部は縦位LRを充填する。内面弱い横位研磨。少量の煤付着	中期後葉
第179図 PL.92	8	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい黄褐色	1条の沈線で画された磨消部逆U字状意匠。口縁部は横位、体部は縦位LRを充填する。磨消部は撫で調整。内面弱い研磨	中期後葉
第179図 PL.92	9	深鉢	口縁部突起 片	床直上	細:石英/良好/にぶい 赤褐色	波頂部に強く突出する中空の円柱状突起。上端は渦巻状意匠となる。外面はRLを施す。内面弱い研磨	中期後葉
第179図 PL.92	10	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ 灰褐色	体部器厚厚手。口縁部に横位沈線を設け、体部は斜位RLを施す。内面研磨	中期後葉
第180図 PL.92	11	深鉢	口縁部破片	床直	細:石英・輝石/良好/ 黒褐色	緩やかな波状縁。口縁部沈線を設け、体部は沈線で画された磨消部による弧状意匠。おそらく波状文か。内面横位撫で	中期後葉
第180図 PL.92	12	深鉢	口縁部突起 片	床直上	細:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい橙色	隆線による渦巻文を配した波状突起。側線の強い撫でにより、端部を鋭利に仕上げる。内面弱い研磨	中期後葉
第180図 PL.92	13	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 橙色	沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。磨消部及び内面は平滑撫で調整	中期後葉
第180図 PL.92	14	深鉢	体部破片	炉内	粗:石英・雲母/良好/ にぶい黄褐色	縦位沈線で画された磨消部懸垂文構成か。施文部には縦位棘手状沈線が重なる。縄文は縦位RL。被熱により器面磨滅	中期後葉
第180図 PL.92	15	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成か。弧状隆線が横位に繋がり区画文を配す。側線は撫で、RLを充填施文する。内面平滑な撫で	中期後葉
第180図 PL.92	16	深鉢	頸部破片	床直上	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	幅広の頸部外反し無文。体部上半に隆線による区画文を設け、縦位LRを充填する。内面研磨。把手を付すため頸部に歪みを見る。内面研磨	中期後葉
第180図 PL.92	17	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい褐色	4・5条単位の縦位密接条線が覆う。内面凹凸を見る	中期後葉
第180図 PL.92	18	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	強く開く体部下半か。縦位密接条線が覆う。内面弱い撫で調整	中期後葉
第180図 PL.92	19	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい褐色	隆線による口縁部区画文。剥落するが渦巻文を配す。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する	中期後葉
第180図 PL.93	20	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	体部中位が僅かに内湾し、上半は外反する。隆線による渦巻文を配し、隆線が縦位に派生する。懸垂文構成か。斜位弧状短沈線を施す。内面撫で、少量の煤が付着する	中期後葉
第180図 PL.93	21	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	垂下沈線3条による懸垂文構成か。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。外面平滑な撫で	中期後葉
第180図 PL.93	22	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。隆線間は斜位短沈線を充填。空白部は横位沈線で区画され縦位沈線を充填する	中期後葉
第180図 PL.93	23	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/ 橙色	体部下半。大型の深鉢か。縦位密接条線が覆う。櫛歯状工具の一端が深く施文される。内面撫で、被熱痕跡の黒斑を帯状に見る	中期後葉
第180図 PL.93	24	深鉢	底部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	底:(6.0)。外反気味に開く底部。体部内面は丸底状。内外面とも撫で調整で内面に少量の煤が付着する	中期後葉
第180図 PL.93	25	深鉢	底部残存	埋土	粗:石英/良好/にぶい 褐色	底:5.2。厚手。丸みを帯びて立ち上がる。内外面とも撫で調整	中期後葉
第180図 PL.93	26	深鉢	底部のみ残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	底:8.5。体部下半は外反気味に開く。無文で、外面は平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第180図 PL.93	27	深鉢	底部残存	床直上	細:石英/良好/褐色	底:8.0。外反気味に開く体部下半。垂下隆線下端を見る。縄文はRL縦位施文か。内面撫で調整。煤付着	中期後葉
第180図 PL.93	28	ミニチュ ア土器	破片3点	炉内	粗:白色粒/やや軟/ にぶい黄褐色	厚手で、粗雑な作り。無文で撫で調整で仕上げる。器面磨滅	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第180図 PL.93	29	土製円盤	完形	埋土	粗:石英・輝石/良好/明褐色	径:2.7×2.8、厚:1.4cm、重:11.4g。深鉢体部を利用。周縁を丁寧 に摩耗する。文様は鱗状短沈線か	中期後葉
第180図 PL.93	30	土製円盤	完形	埋土	粗:石英/良好/明褐色	径:2.1×2.4、厚:1.0cm、重:5.5g。深鉢体部を利用。周縁を丁寧 に摩耗する。無文	中期後葉
第180図 PL.93	31	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/灰褐色	屈折する体部下半。刻みを付す縦位隆線を設け縦位沈線群を充填 する	中期中葉末
第180図 PL.93	32	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/黒褐色	幅広の無文口縁部を設け横位隆線で画す。体部は無節L縦位施文。 内面横位研磨を施す	中期末葉
第180図 PL.93	33	深鉢	口縁部把手 破片	埋土	細:石英/良好/褐色	口縁部上で跨ぐ把手の基部と思われる。両側面及び正面に円文と 沈線を施す。研磨を加える	後期初頭
第180図 PL.93	34	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	頸部括れ部に横位沈線で画された縄文施文部を配し、対弧状沈線 文を重ねる。縄文は横位LR。内外面研磨	後期中葉
第181図 PL.93	35	石鏃	片脚残存	埋土	黒曜石	長:(1.2)、幅:(1.0)、厚:0.3、重:0.3。凹基無茎鏃。完成状態。 細かく丁寧な押圧剥離が全面を覆う	
第181図 PL.93	36	石鏃	脚部欠損	炉内	黒曜石	長:(1.3)、幅:(1.0)、厚:0.2、重:0.3。完成状態。先端部のみ の残存。丁寧な押圧剥離が施される	
第181図 PL.93	37	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.2、幅:1.0、厚:0.3、重:0.4。整った小型の凹基無茎鏃。完 成状態。細かい押圧剥離が周縁に施される。表裏面に素材面を残 す	
第181図 PL.93	38	石鏃	先端欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(2.5)、幅:1.5、厚:0.4、重:1.0。非対称な脚部が特徴的。 凹基無茎鏃で完成状態。粗い押圧剥離による作出	
第181図 PL.93	39	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.3)、幅:(1.1)、厚:0.2、重:0.3。完成状態。先端部のみ の残存。丁寧な押圧剥離が施される	
第181図 PL.93	40	石鏃	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.1、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。 薄手の素材縁辺に微細剥離を施す。表裏面とも素材面を大きく残 す	
第181図 PL.93	41	石鏃	左側面一部 欠損	埋土	赤碧玉	長:2.3、幅:1.7、厚:0.4、重:1.1。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧 な押圧剥離が全体を覆う。抉り部の調整は入念	
第181図 PL.93	42	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:0.6、厚:0.35、重:0.8。断面三角形の剥片縁辺に 細かな押圧剥離を施す。先端部摩耗痕は見えない	
第181図 PL.93	43	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:6.7、幅:4.8、厚:1.5、重:53.0。短冊形。完成状態。小型品 で刃部に最大幅を持つ。使用による磨減痕が刃部表面に見られる	
第181図 PL.93	44	軽石製品	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:7.5、幅:4.1、厚:2.0、重:40.6。扁平な不整楕円状円礫。多 孔質で顕著な加工痕跡は見えない	
第181図 PL.93	45	敲石	一部欠損	床直上	粗粒輝石安山岩	長:12.9、幅:9.9、厚:5.1、重:804.0。やや厚手の扁平な楕円状円礫。 敲打痕が全面に広がるが下端部に顕著。裏面は剥落著しい。クラッ クは被熱によるものか	
第181図 PL.93	46	磨石	完形	床直	変質安山岩	長:9.1、幅:8.0、厚:6.8、重:600.5。厚手の不整形を呈する円礫。 表裏面に弱い磨面を持ち、表面中央に敲打による浅い凹みを有す	
第181図 PL.93	47	磨石	完形	床直	変質安山岩	長:14.0、幅:11.0、厚:7.9、重:1803.6。厚手の楕円状円礫。整っ た形状。敲打痕は表裏面中央、右側面中位、上下端部に集まる。 表裏面ともに平滑な磨面を持つ	
第181図 PL.93	48	石皿か	破片	床直上	粗粒輝石安山岩	長:(24.5)、幅:(14.5)、厚:(10.2)、重:3570.0。石皿中位の 破片か。底面は平滑で平坦面を保つ。内外面とも凹みを加える	
PL.93	49	加工痕あ る剥片	完形	床直上	細粒輝石安山岩	長:5.1、幅:7.7、厚:2.6、重:101.3。表裏面とも礫面を大きく残 し、下端部を刃部とし粗い調整剥離を加える	
PL.93	50	加工痕あ る剥片	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:11.6、幅:15.7、厚:5.8、重:894.5。大型の横長剥片を素材とし 下端部の刃部に粗い剥離を加える。表面に自然面を残す	
PL.93	51	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒色頁岩	長:4.6、幅:5.6、厚:0.7、重:24.2。薄手の横長剥片を素材とする。 下端部を刃部とし細かな剥離を加える	
PL.93	52	加工痕あ る剥片	一部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.3)、幅:(0.9)、厚:0.3、重:(0.3)。先端部残存か。縁 辺に僅かな押圧剥離を見る	
PL.93	53	加工痕あ る剥片	一部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:(1.5)、厚:0.3、重:(1.4)。縦長剥片を素材とし 左側縁に粗い押圧剥離を施す	
PL.93	54	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:1.6、厚:0.5、重:2.7。小型の横長剥片を素材とし端 部に粗い剥離を加え刃部とする	
PL.93	55	加工痕あ る剥片	一部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.2)、厚:0.6、重:(1.8)。小型の剥片下端部 及び右側縁に粗い押圧剥離を施す	
PL.93	56	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:2.2、厚:0.7、重:2.5。小型の剥片下端部に粗い剥離 を加える	
PL.93	57	使用痕あ る剥片	完形	埋土内	変質安山岩	長:7.6、幅:4.8、厚:1.3、重:79.7。板状節理した剥片を素材とし、 両側縁の刃部に細かな刃こぼれを見る	

62区 3号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第182図 PL.94	1	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶい 橙色	横位平行沈線以下同沈線による小渦巻状意匠が配される。地文は無節L斜位施文。内面撫で調整	中期後葉
第182図 PL.94	2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい黄橙色	器厚厚手。内皮平行沈線による弧状・重環状意匠、縦位波状沈線を施す。内面撫で	中期後葉
第182図 PL.94	3	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石・雲母/良好/ にぶい赤褐色	波状縁。口縁部沈線を設ける。やや幅広く浅い。以下横位LRを施す。内面研磨	中期後葉
第182図 PL.94	4	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文。内面平滑な撫で	中期後葉
第182図 PL.94	5	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	口唇部欠損。横位隆線により強い屈曲を示す。内外面とも横位撫で	中期後葉
第182図 PL.94	6	壺か	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶい 黄褐色	口縁部外反し下位に横位隆線を設け環状・渦巻状突起を付す。沈線と隆線による弧状意匠を配す。縦位RLを充填する。内面横位研磨	中期後葉
第182図 PL.94	7 8	深鉢	体部破片2 点	埋土	粗:輝石・雲母/良好/ 灰褐色	幅広い横位隆線を設ける。体部は無文。内外面とも横位撫で調整が顕著	中期後葉
第182図 PL.94	9	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	垂下沈線2・3条による磨消部懸垂文構成。施文部はRL縦位充填施文。内面弱い縦位研磨	中期後葉
第182図 PL.94	10	深鉢	底部1/2残 存	埋土	細:石英・輝石/良好/ 橙色	内湾気味に開く体部下半。垂下沈線下端を見る。外面丁寧な研磨。内面撫で調整	中期後葉
第182図 PL.94	11	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.0、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。厚みはあるが丁寧な押圧剥離が全体を覆う	

62区 4号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第184図 PL.94	1	深鉢	頸部破片	埋土	細:輝石・雲母/良好/ にぶい赤褐色	頸部外反し無文。体部は低位隆線と幅広沈線による逆U字状意匠や蕨手状意匠が配される。縄文は縦位RL充填施文。内面弱い研磨を施す	中期後葉
第184図 PL.94	2~ 4	深鉢	底部・体部 破片3点	床直上	粗:石英/やや軟/に ぶい黄橙色	底:(6.2)。直線的に開く体部下半。垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。体部上半は磨消部による弧状区画か。施文部は縦位RL充填施文。内外器面磨滅	中期後葉
第184図 PL.94	5	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	沈線に画された磨消部による弧状意匠か。斜位RLを充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第184図 PL.94	6	深鉢	体部下半~ 底部1/3残 存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	底:(10.6)。直線的に開く体部下半。垂下沈線や弧状沈線下端部を見る。内外面とも撫で調整	中期後葉
第184図 PL.94	7	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	隆線による渦巻文か。隆線上に沈線が重なり、斜位短沈線と側線沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第184図 PL.94	8	深鉢	体部破片	床直	細:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	2条の隆線による大柄な弧状・渦巻状意匠か。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第184図 PL.94	9	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	波頂部に設けられた柱状突起。横位短沈線と縦位交互沈線による蛇行文が配される。刻みを付す隆線が平行する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第184図 PL.94	10	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	太い沈線による弧状・渦巻状意匠か。内外面平滑な撫で調整。赤彩痕残る	中期後葉
第184図 PL.94	11	深鉢	口頸部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい 黄褐色	2条隆線による口縁部区画文下端。側線は沈線。頸部は無文か。内面研磨	中期後葉
第184図 PL.94	12	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	3条の沈線によるクランク状や弧状意匠。斜位LRを地文とする。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第184図 PL.94	13	ミニチュ ア土器	口縁部破片	埋土	細:石英/やや軟/に ぶい橙色	浅鉢を模したか。手捏ねによる成形で無文。内外面撫で調整	中期後葉
第184図 PL.94	14	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	斜位刻みを付した横位浮線文を多段に設ける。地文縄文はLR斜位施文。内面平滑な撫で調整	前期後半
第184図 PL.94	15	石鏃	破片	埋土	黒曜石	長:(1.8)、幅:(1.9)、厚:0.3、重:1.0。凹基無茎鏃。完成状態。押圧剥離により全体を薄手に仕上げる	

62区 5号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第188図 PL.94	1	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位密接条線が充填される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第188図 PL.94	2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶい 黄褐色	平縁か。頸部に2条の横位隆線を設ける。隆線間は無文。口縁部は区画文、体部は垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。縄文はLR充填施文。内面撫で	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第188図 PL.94	3	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い赤褐色	体部上半か。低位隆線で画され、2条の垂下沈線による磨消部懸 垂文構成。施文部上端に向かう渦巻文を配し縦位波状沈線を加 える。縦位RLを充填する	中期後葉
第188図 PL.94	4	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /暗褐色	口縁部横位沈線を設け、以下平行沈線群による縦位弧線文や縦位 波状文を施す。内面研磨	中期後葉
第188図 PL.94	5	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/灰黄 褐色	小型の深鉢か。無文の口縁部が外反する。外面平滑な撫で調整、 内面は横位研磨を施す	中期後葉
第188図 PL.94	6	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好 /明赤褐色	口唇部内面突出。口縁部は押圧を加えた横位隆線と渦巻文を配す。 地文に縦位密接条線を施す。内面撫で	中期後葉
第188図 PL.94	7	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/暗褐 色	波頂部の隆線渦巻文より2条隆線が弧状に接続して垂下する。お そらく区画文。区画内は斜位短沈線を充填する。内稜は強く、平 滑な撫で調整を施す	中期後葉
第189図 PL.94	8	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・小礫/やや 軟/灰黄色	波状突起が強く突出し、下端より隆線が分岐派生する。体部は沈 線に画された不整形区画文を配し縦位LRを充填する。器面磨 滅	中期後葉
第189図 PL.94	9	深鉢	頸部破片	床直	細:石英・輝石/良好 /黒褐色	口縁部区画文。区画内は縦位短沈線の充填。体部は縦位蛇行文に よる懸垂文構成か。横位弧状短沈線を施す	中期後葉
第189図 PL.94	10	深鉢	頸部破片	床直	粗:石英・輝石/良好 /灰褐色	頸部文様帯として隆線で画された幅狭の楕円状区画文を配す。体 部は斜位短沈線の施文か	中期後葉
第189図 PL.95	11	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい赤褐色	垂下沈線2条に画された施文部と磨消部による懸垂文構成。磨消 部縄文は縦位LR充填施文。磨消部及び内面は研磨を加える	中期後葉
第189図 PL.95	12	深鉢	体部下半～ 底部残存	炉1脇	粗:輝石/良好/にぶ い赤褐色	底:9.8。垂下隆線2条による懸垂文構成。垂下沈線も施される。 縦位無節Lを充填する。外面縦位研磨、内面撫で。少量の煤が付 着する	中期後葉
第189図 PL.95	13	深鉢	底部破片	埋土	粗:輝石/良好/橙色	垂下沈線2条で画された磨消部懸垂文構成。磨消部には縦位波状 沈線が加わる。施文部縄文はLR斜位充填施文。内面撫で	中期後葉
第189図 PL.95	15	浅鉢	体部破片	床直	細:石英・雲母/良好 /にぶい黄褐色	強く開く体部上半。外面無文で縦位研磨。内面は丁寧な研磨で黒 色を呈し、赤彩による環状意匠文を配す	中期後葉
第189図 PL.95	16	深鉢	体部破片	炉1南	粗:石英/良好/にぶ い黄褐色	外反する体部上半か。横位浮線文を多段に配し矢羽状の刻みを加 える。地文は横位LRを施す	前期後葉
第189図 PL.95	17	搔器	完形	埋土	黒曜石	長:1.5、幅:1.8、厚:0.5、重:1.2。小型の横長剥片を素材とする。 両側縁を表裏交互に押圧剥離を加える	
第189図 PL.95	18	石鏃未製 品	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:2.1、厚:0.6、重:2.0。凹基無茎鏃を意図している。 押圧調整は裏面のみで表面は粗い剥離に止まる	
第189図 PL.95	19	大型打製 石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:24.7、幅:7.1、厚:1.8、重:421.0。短冊形。完成状態。側縁 上位に抉りを持たせ、装着痕が集中する。側縁の加工は比較的細 かく丁寧。刃部は摩耗痕を見る	
第189図 PL.95	20	石皿	1/4残存	炉2の炉石	牛伏砂岩	長:(18.7)、幅:(15.1)、厚:8.8/3.8、重:2382.0。扁平な円礫。 敲打による整形。底面には平滑面を有す	
PL.95	21	打製石斧	上半欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:9.6、幅:7.2、厚:1.0、重:118.4。撥形。完成状態。表面に礫 面を大きくのこし、粗い剥離を周縁に加える。刃部使用痕は顕著 ではない	
PL.95	22	打製石斧	下半欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(7.2)、幅:(3.6)、厚:1.9、重:75.0。短冊形。完成状態。 小型で、粗い剥離が両側縁に加わる	
PL.95	23	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒曜石	長:3.2、幅:1.9、厚:0.5、重:2.4。不定形の縦長剥片を素材とし、 右側縁の刃部に刃こぼれを見る	

62区6号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第192図 PL.95	1	深鉢	口縁～底部 体部中位 4/5残存	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い黄褐色	口:35.6。口縁部は隆線による渦巻文と接続する区画文構成。5 単位を数える。体部は2条の垂下沈線に画された10単位の幅狭磨 消部懸垂文構成。縄文はRL充填施文。内面は弱い横位研磨。下 半に被熱痕跡を見る	中期後葉
第192図 PL.95	2	深鉢	口縁部破片	床直	細:石英・輝石/良好 /褐色	隆線による口縁部区画文構成。凹線を側線としRLを充填する。 頸部に無文部を設け、体部上半に横位沈線を施す。内面平滑な撫 で調整	中期後葉
第192図 PL.95	3	深鉢	体部下半～ 底部残存	炉内	細:石英・輝石/良好 /明赤褐色	強く開く体部下半。2条の垂下沈線による懸垂文構成下端部。施 文部縄文は縦位LRか。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第192図 PL.95	4	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英/良好/にぶ い赤褐色	隆線による口縁部区画文。不整形意匠を配し、意匠内は無文。区 画内は無節Rを充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第192図 PL.95	5	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英/良好/にぶ い橙色	厚手の器厚を呈す。太い隆線による口縁部区画文構成。側縁は撫 で。一部器面剥落する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第192図 PL.96	6	深鉢	口縁部破片	床直	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	内湾する口縁部。沈線による蕨手状懸垂文や逆U字状意匠上端を 見る。縄文は縦位LR。内面は平滑な撫で	中期後葉

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第192図 PL.96	7	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 黒褐色	外反する無文の口縁部。外面は弱い研磨、内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第192図 PL.96	8	深鉢	体部破片	炉内	細:石英/良好/明赤 褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LR充填施文後縦位波状沈線を加える。内面撫で	中期後葉
第192図 PL.96	9	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	太い隆線による口縁部楕円状区画文構成。側線は撫で、縦位LRを充填する。内面横位撫で調整	中期後葉
第192図 PL.96	10 11	深鉢	体部破片2 点	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	2条の隆線による大柄な弧状意匠・渦巻状意匠を配す。側線は凹線でRLを充填施文する。内面平滑な撫で	中期後葉
第192図 PL.96	12 ~ 14	深鉢	体部破片3 点	床直	粗:石英/良好/にぶ い赤褐色	2・3条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部はLR充填施文後縦位波状沈線重ねる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第192図 PL.96	15	深鉢	体部破片	炉内	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は無節L縦位充填施文。内面弱い撫で	中期後葉
第192図 PL.96	16	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。側線は凹線。縦位RLを施す。内面撫で、煤付着	中期後葉
第192図 PL.96	17	深鉢	体部破片	床直	細:石英・輝石/良好/ 褐色・にぶい褐色	薄手の器厚を呈し、太い沈線による大柄な体部渦巻文を配す。内面は弱い研磨を施す	中期後葉
第192図 PL.96	18	深鉢	口頸部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	口縁部外反し無文。頸部に押圧を加えた横位隆線を設ける。体部も無文か。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第193図 PL.96	19	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	4・5条単位の櫛歯状工具による縦位波状条線を施す。内面横位撫で	中期後葉
第193図 PL.96	20 21	壺	頸部破片2 点	床直	粗:石英/良好/にぶ い赤褐色	口縁部は無文、頸部は強く屈曲し体部上半に橋状把手を設ける。体部は幅広沈線による施文で不整形区画と蕨手状沈線文を配す。区画内はRL充填施文。内面研磨	中期後葉
第193図 PL.96	22	浅鉢	頸部~体部 破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	2条隆線に画された頸部屈曲部。口縁部は細い短沈線を斜位に充填する。内外面とも研磨を施す	中期後葉
第193図 PL.96	23	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。体部は縦位波状沈線による懸垂文構成か。空白部は斜位短沈線を施す。内面平滑な撫で	中期後葉
第193図 PL.96	24	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	波頂部に設けられる隆線による渦巻文。上端にも渦巻文が沈線で描かれる。側線は沈線。内面撫で	中期後葉
第193図 PL.96	25	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	上位は2条の隆線における大柄な渦巻文を配し、下位は渦巻文下端より派生する垂下隆線2条の懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第193図 PL.96	26	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	垂下沈線による懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第193図 PL.96	27	深鉢	体部破片	埋土	細:白色粒/良好/灰 褐色	沈線に画された施文部区画意匠。中に横位沈線、LRを充填する。内面平滑な撫で調整	後期前葉
第193図 PL.97	28	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:(1.2)、厚:0.4、重:0.5。小型の凹基無茎鏃。完成状態で丁寧な押圧剥離が全面に及ぶ	
第193図 PL.97	29	石鏃	返し部欠損	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:(1.6)、厚:0.3、重:1.1。おそらく平基鏃。完成状態で丁寧な押圧剥離が全面に及ぶ。	
第193図 PL.97	30	石鏃未製品	完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.4、厚:0.4、重:0.8。平基無茎鏃を意図したものか。加工は粗く側縁の調整に止まる	
第193図 PL.97	31	石匙	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:0.9、厚:0.2、重:0.4。完成状態。あるいは石鏃か小型の縦長剥片を素材とし、側縁下半に丁寧な調整を施す	
第193図 PL.97	32	石錐	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:0.9、厚:0.3、重:0.5。断面三角形の縦長剥片を素材とし、両側縁より粗い調整を加える。摩耗痕は見られない	
第193図 PL.97	33	加工痕ある剥片	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:6.7、幅:4.1、厚:0.6、重:20.0。縦長剥片を素材とし、両側縁に剥離を加えて刃部とする	
第193図 PL.97	34	打製石斧	上端欠損	床直	黒色頁岩	長:(9.7)、幅:4.9、厚:1.3、重:61.1。短冊形で刃部に最大幅を持つ。完成状態で刃部に使用による磨滅痕を僅かに見る	
第193図 PL.97	35	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.9、幅:7.5、厚:4.1、重:499.7。扁平な楕円状円礫。敲打痕が側縁と下端部、表裏面中央に集中する。弱い磨面が表裏面に見られる	
第193図 PL.97	36	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:13.5、幅:9.7、厚:7.0、重:1310.0。厚手の楕円状円礫。敲打痕は全面に見るが下端部に集中する。裏面に弱い磨面を持つ	
PL.97	37	石鏃	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.5)、幅:(1.1)、厚:0.3、重:0.4。先端部のみ残存。おそらく完成状態。押圧剥離が覆う	
PL.97	38	打製石斧	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:10.2、幅:4.8、厚:1.3、重:82.6。短冊形で刃部に最大幅を持つ。完成状態。風化のため器面剥落著しい	
PL.97	39	打製石斧	完形	床直上	黒色頁岩	長:9.3、幅:4.8、厚:1.2、重:76.1。短冊形。両側縁が緩やかな外反気味に湾曲する。完成状態で刃部に使用による磨滅痕を見る	
PL.97	40	打製石斧	完形	床直	細粒輝石安山岩	長:11.0、幅:8.4、厚:1.4、重:128.5。撥形を呈す。薄手の横長剥片を素材とし、外縁のみに剥離を施す。完成状態	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.97	41	打製石斧	左上欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:10.3、幅:5.1、厚:1.1、重:72.7。短冊形を呈す。両側縁とも直線的で刃部幅を広く取る。表裏面とも刃部から中央にかけて使用による磨滅痕が著しい	
PL.97	42	磨製石斧	上半部・刃部欠損	床直上	変質蛇紋岩	長:(2.1)、幅:1.6、厚:0.6、重:(5.0)。定角式磨製石斧上部か。細身で全体を丁寧な研磨で覆う。刺し切り痕も見る	

62区7号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第195図 PL.97	1	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	双波状突起。口唇部に深い沈線を施文。波頂下に隆線と沈線による渦巻文を配す。口縁部は小区画文が沈線で画され刺突文を充填する。突起内面も沈線を施す。内面平滑な撫で調整。煤付着	中期後葉
第195図 PL.97	2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	垂下沈線2・3条による磨消部懸垂文構成。施文部はLR縦位充填施文	中期後葉
第195図 PL.97	3	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶい黄褐色	外反する体部中位。垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LRが充填し、縦位波状文が重なる。内面研磨	中期後葉
第195図 PL.97	4	深鉢	口頸部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	隆線による渦巻文を配す。側線は凹線。縦位密接条線を充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第195図 PL.97	5	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	口縁部隆線を設け、弧状隆線が派生する。無節L充填施文。内面研磨	中期末葉
第195図 PL.97	6	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	幅広の無文口縁部を設け、横位隆線を付す。以下無節L縦位施文。内面平滑な撫で調整	中期末葉
第195図 PL.97	7	深鉢	体部破片	ピット1	粗:石英/やや軟/灰黄褐色	垂下隆線による懸垂文構成。器面磨滅。内面撫で調整	中期末葉
第195図 PL.97	8	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/灰黄褐色	波状線。口唇部に沈線を施し、円文を配す。内面撫で	後期前葉
第195図 PL.97	9	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶい黄褐色	垂下沈線1条による懸垂文構成。小円文を配す。地文は縦位LR。内面平滑な撫で	中期後葉

62区8号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第197図 PL.97	1	深鉢	口縁部1/3 ~底部残存	埋土 62区17住	粗:輝石・雲母/良好/橙色	口:48.4、高:60.5、底:8.0。大型深鉢。体部上半に弱い括れを持たせる。口縁部に幅広の横位凹線を設け、太い隆線による渦巻文と連接する区画文を配す。側線は幅広の凹線。体部は垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。9単位を数える。口縁部区画及び体部施文部は縦位波状密接条線を充填する。波状条線はコンパス状の回転施文である。内面縦位研磨	中期後葉
第197図 PL.98	2 3	深鉢	口縁部破片 体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/褐色/にぶい褐色	口縁部は隆線による区画文構成。区画内側線は沈線で縦位LRを充填する。体部は弧状沈線と縦位沈線が派生し、2条沈線に画された磨消部懸垂文構成を見る。縦位LRを充填する	中期後葉
第197図 PL.98	4	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/黒褐色	波頂部突起。隆線による口縁部渦巻文か。側線は凹線。横位RLRを充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第197図 PL.98	5	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英/良好/黒色	口縁部内面肥厚する。横位凹線を設け、以下横位弧状沈線を施す。地文は縦位RLと縦位LRの羽状縄文。内面撫で	中期後葉
第197図 PL.98	6	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/灰褐色	波頂部突起。隆線による渦巻文と区画文を配す。側線は撫で。LRを充填する。内外面とも研磨を施す	中期後葉
第197図 PL.98	7	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/にぶい褐色	隆線による口縁部区画文構成。区画接点上位に円形刺突文を施す。区画内は沈線を側線としRLを充填する。内面横位撫で調整	中期後葉
第197図 PL.98	8	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/橙色	外反する体部中位。2条の沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位LR充填施文。内面弱い研磨。煤付着	中期後葉
第197図 PL.98	9	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/やや軟/橙色	2条隆線による弧状意匠が配される。あるいは渦巻文か。側線は沈線で、弧状短沈線を充填する。器面磨滅する	中期後葉
第197図 PL.98	10	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい黄褐色	口縁部外反。上半は無文で下半は横位沈線4条を設ける。口唇部より隆線を3条垂下し頸部の横位隆線に接する。内面平滑な撫で調整	中期後葉初
第197図 PL.98	11	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石・雲母/良好/にぶい赤褐色	外反する体部中位。隆線による半渦巻状意匠が配される。側線は沈線。内面平滑な撫で	中期中葉
第197図 PL.98	12	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/良好/褐色	下端が突起化した隆線弧状区画意匠を配す。側線は内皮平行沈線を重複施文する。LRを施す	中期後葉初
第198図 PL.98	13	深鉢	体部1/5残存	埋土	粗:輝石/良好/にぶい赤褐色	樽状の大型深鉢。頸部は無文で体部との境は段差で画す。体部は刻みを付す隆線による区画文が2帯配される。上位は人体状意匠で渦巻文を施した環状突起を中核として隆線が派生する。空白部には交互三叉などが埋められる。下位は楕円状区画文で斜位短沈線や角押文が充填される	中期後葉初

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第198図 PL.98	14	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	内皮沈線施文後、1本描き沈線で弧線文を施す。地文は縦位LR。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第198図 PL.98	15	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	2条の沈線が斜位に設けられ、縦位波状沈線が配される。地文は縦位LR。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第198図 PL.98	16	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/黒褐色	頸部か。沈線による横位楕円状意匠内に横位沈線を施す。以下弧状沈線も施される。地文は縦位LR。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第198図 PL.98	17	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	口縁部滑車状突起。波状縁を呈す。内皮平行沈線を弧状に施す。内稜突出する。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第198図 PL.98	18	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 黒褐色	背割り隆帯による弧状・渦巻状意匠。側線は内皮平行沈線2条。縄文は横位RL。内面横位撫で調整	中期後葉初
第198図 PL.98	19	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/灰黄 褐色	器厚薄手。横位沈線以下3条の沈線によるクランク・方形区画状意匠。地文縄文縦位LR。内面研磨	中期後葉
第198図 PL.98	20	深鉢	頸部破片	埋土	細:輝石/良好/明赤 褐色	頸部外反し無文。体部上位に横位隆線を設け以下縦位条線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第198図 PL.98	21	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	外反する体部上半に内皮平行沈線群を横位に設ける。以下同沈線による弧状意匠を配す。横位LRを施す。内面弱い研磨	中期後葉
第198図 PL.98	22	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	沈線で画される口縁部区画文か。横位RLを充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第198図 PL.98	23	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	無文で幅狭の口縁部。横位沈線2条を設け以下三叉文を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉初
第198図 PL.98	24	深鉢	体部1/6残 存	埋土	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	体部下半。2条隆線によるU字状意匠が懸架する。棘状意匠も加わる。地文は縦位燃糸L。内面平滑な撫でを施し煤が付着する	中期後葉
第198図 PL.98	25	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.0、厚:0.3、重:0.5。歪な形状ながら周縁調整を加える。おそらく完成状態。抉り部の調整は丁寧	
第198図 PL.98	26	石鏃未製 品	完形	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:1.9、厚:0.3、重:0.7。平基無茎鏃を意図したものか。周縁剥離で側縁の作出に止まる	
第198図 PL.98	27	石槍か	下部欠損	埋土	珪質頁岩	長:2.6、幅:(1.8)、厚:0.4、重:1.6。先端部のみ残存。丁寧な押圧剥離を両側縁より加える	
第198図 PL.98	28	スクレイ パー	上半・下端 部欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(6.9)、幅:3.0、厚:1.05、重:(30.2)。下端部僅かに欠損か。横長剥片を素材とし、両側縁より剥離を加え、刃部を作出する	
第198図 PL.98	29	石核	完形	埋土	黒曜石	長:3.2、幅:3.5、厚:1.7、重:16.5。小型。打面転移を繰り返し小型の剥片を剥離している。	
第198図 PL.98	30	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.4、幅:8.0、厚:5.1、重:777.4。やや厚手の扁平な楕円状円礫。敲打痕は下端部及び左側面上半に集中する。表裏面は平滑な磨面を持つ	
PL.98	31	軽石製品	上部欠損	埋土	軽石	長:(6.7)、幅:4.3、厚:2.0、重:(17.1)。楕円状円礫。表裏面周縁を丁寧に磨滅させる。孔などは見えない	
PL.98	32	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:2.1、厚:0.5、重:1.7。横長剥片を素材とし、表面下端部と基部に僅かな調整を加える	
PL.98	33	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.9、幅:2.1、厚:0.8、重:4.7。横長剥片を素材とするが、表面に大きく磨面を残す。右側縁に加工痕を見る	

62区9号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第202図 PL.99	1	深鉢	口縁部4/5 ~体部中位 残存	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	口:37.8。口縁部は隆線による渦巻文と接続する区画文構成。残存部の推定で6単位構成と思われる。側線は凹線で横位RLを充填する。体部は垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL縦位充填施文。内面及び磨消部は縦位研磨を施す	中期後葉
第202図 PL.99	2	深鉢	口縁~体部 残存	床直上	粗:石英・輝石/良好/ 明黄褐色	口:29.6。4単位波状縁。波頂部下に隆線による渦巻文を配し不整形区画文を接続する。区画内は無文。体部は垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は無節Lを縦位充填施文する。内面弱い研磨。少量の煤付着	中期後葉
第202図 PL.99	3	深鉢	口縁~体部 上半残存	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	口:28.2。口縁部上に上端渦巻状の突起を4単位配す。口縁部文様帯は上下に配された隆線による渦巻文と区画文構成。頸部の横位連続刺突文で分帯し、体部は沈線による施文部逆U字状懸垂文。施文部、磨消部とも蕨手状沈線を重ねる。縄文はRL充填施文。内面は縦位研磨	中期後葉
第202図 PL.99	4	深鉢	口縁~体部 1/3残存	床直上	細:石英・輝石/良好/ 黒褐色	片波状口縁と波状口縁による2単位構成。口縁部文様帯は隆線による環状と楕円状区画文が接続する。区画内側線は沈線で縦位RLを充填する。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。RL施文後に縦位波状沈線を重ねる。内面弱い横位研磨を施す	中期後葉
第202図 PL.99	5	深鉢	体部1/2残 存。破片多	炬体土器	粗:石英/軟質/橙色	上半部は被熱のため器面剥落。下半部に縦位密接条線が施される	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第202図 PL.99	6	深鉢	口縁1/4～ 体部1/2残存	床直上 62-G 5・6	粗:石英粒/良好/ ぶい橙色	口:17.0。口縁部に波状突起を設ける。単位は不明、変則4単位か。口唇端部に円形刺突文。突起には懸架する渦巻状意匠を相対称に配し、中間に小孔を設ける。体部は隆線によるU字状意匠を配し、兩垂れ状刺突文を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第203図 PL.99	7	深鉢	口縁～体部 1/5残存	埋土 62-G 5	粗:小礫・輝石/良好/ 赤褐色	口:(38.0)。大型深鉢。隆線による口縁部渦巻文と楕円状区画文構成。側線は凹線でLRを充填する。体部は垂下沈線に画された施文部と磨消部による懸垂文構成。施文部はLR縦位充填施文。内面弱い研磨。体部下半に被熱痕跡を見る	中期後葉
第203図 PL.100	8	深鉢	口縁～体部 上半1/4残存	埋土	粗:石英・輝石・小礫/ 良好/明赤褐色	口:(42.0)。大型深鉢。口縁部上半内湾。隆線による口縁部楕円状区画文構成。側線は凹線で横位・斜位RLを充填する。体部は垂下沈線に画された幅広磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。内面平滑な撫で	中期後葉
第203図 PL.100	9	深鉢	口縁～体部 上半残存	床直上	細:石英/良好/ぶい 黄橙色	口唇部は被熱のため磨滅。隆線によるS字状意匠を口縁部に配す。独立した半渦巻状意匠も充てる。体部は沈線に画された磨消部逆U字状意匠を配し内側に蕨手状沈線を相向いに埋める。斜位・縦位RLを施す。内面研磨	中期後葉
第204図 PL.100	10	深鉢	口縁～体部 1/3残存	床直上	粗:輝石/良好/橙色	口縁部は隆線による環状区画文と楕円状区画文が接続する。沈線を側線とし横位RLを充填する。体部は沈線による描出で3帯に分帯される。上下2帯は円形区画文と蕨手状沈線文、下位は分岐懸垂文と蕨手状沈線文が配される。区画内は縦位・斜位RLが充填される。内面は平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第204図 PL.100	11	深鉢	体部1/2～ 底部残存	床直上	細:石英/良好/明赤 褐色	底:6.2。大型深鉢。体部上半に横位沈線を設け、横位波状沈線2条を配す。以下沈線による逆U字状意匠と蕨手状沈線文による懸垂文構成を示す。縄文はLR縦位充填施文。内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第204図 PL.100	12	深鉢	口縁～体部 2/3残存	床直上 62-G 5・6	細:石英・輝石/良好/ 橙色	口:23.8。キャリバー状深鉢。縦位密接条線が覆う。内面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第205図 PL.101	13	深鉢	口縁～体部 破片数点	床直	細:石英・輝石/良好/ ぶい橙色	口:(35.0)。大型深鉢。口縁部は隆線による楕円状区画文構成。区画内側線は沈線で斜位RLを充填する。体部は垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。磨消部には蕨手状沈線を重ねる。施文部縄文は縦位RL充填施文。内面弱い研磨	中期後葉
第205図 PL.101	14	深鉢	頸部～体部 1/2・底部残存	埋土	細:輝石/良好/赤褐 色	頸部に横位弧状沈線と円形刺突文を連続し、体部は垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成を呈す。縄文はLR縦位充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第205図 PL.101	15	深鉢	体部中位 1/3～底部 1/4残存	埋土	細:石英/良好/ぶい 橙色	底:(6.8)。緩やかに内湾気味に開く体部下半。垂下沈線2・3条による磨消部と施文部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文後縦位波状沈線を加える。磨消部及び内面縦位研磨を施す	中期後葉
第205図 PL.101	16	深鉢	体部下半～ 底部	床直上	粗:輝石/良好/明赤 褐色	底:8.8。2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LR充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第205図 PL.101	17	深鉢	体部下半～ 底部残存	ピット7	細:石英・輝石・小礫/ 良好/灰黄褐色	垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLを充填し縦位波状沈線を重ねる。内面縦位撫で調整	中期後葉
第205図 PL.101	18	深鉢	体部下半～ 底部1/3残存	埋土	細:石英/良好/明褐 色	底:(6.0)。内湾気味に開く体部下半。垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLを充填施文後縦位波状沈線を加える。内面縦位研磨	中期後葉
第205図 PL.101	19	深鉢	体部中位残存	床直上	細:石英/良好/ぶい 黄褐色	外反する体部上半に横位弧状沈線2条を配し、以下は2条の垂下沈線に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。内面研磨	中期後葉
第205図 PL.101	20	深鉢	体部下半残存	床直上	粗:石英/良好/明褐 色	垂下沈線2条による懸垂文構成。下端が接し単位文化する。空白部や単位内は縦位矢羽状短沈線を施す。内面研磨、煤付着	中期後葉
第205図 PL.101	21	深鉢	体部下半～	床直上	細:輝石/良好/暗褐 色	底:8.0。小径で筒形の体部形態。やや内湾する。把手剥落痕跡から、あるいはジョッキ状の器形か。隆線による長方形区画文や縦位S字状渦巻文。側線は沈線で縦位LRを充填する。内面研磨	中期後葉
第205図 PL.101	22	深鉢	体部破片	床直上 62-G 6	粗:石英/良好/ぶい 橙色	体部中位の括れが緩やか。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位矢羽状短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第206図 PL.101	23	深鉢	体部中位 4/5残存	床直上	細:輝石/良好/ぶい 褐色	大型深鉢。体部下半に内湾部を持たせる。2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部上半は縦位LR、下半は斜位・縦位密接条線を施し、さらに縦位波状沈線を重ねる。内面弱い研磨を施す	中期後葉
第206図 PL.101 ・102	24 ～ 28	深鉢	口縁部・体 部破片5点	埋土	細:石英・輝石/良好/ ぶい褐色	波頂部下に隆線による渦巻文を配す。体部は垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位LR充填施文、渦巻文を加える。内面研磨	中期後葉
第206図 PL.102	29	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 暗褐色	口:(41.0)。大型深鉢で波状突起を付す。波頂部下に隆線による渦巻文を配し区画文を接続する。体部は2条沈線による幅狭磨消部懸垂文構成。縄文は口縁部は横位、体部は縦位LR充填施文。内外面研磨	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第206図 PL.102	30	深鉢	口縁部1/4 残存	埋土	細:石英・輝石・片岩 /良好/灰黄褐色	口:(48.0)。大型深鉢。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。 側線は撫で及び沈線。文様帯下端は沈線で画される。体部は垂下 沈線2条に画された幅広磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LR充 填施文。内面は横位撫で調整	中期後葉
第206図 PL.102	31	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/黒褐 色	波状縁。波頂部に隆線による渦巻文を配し、区画文が接続する。 側線は凹線。体部は垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文 部縄文はRL充填施文、蕨手状沈線上端を見る。内面弱い研磨	中期後葉
第206図 PL.102	32	深鉢	口縁部破片 2点	埋土	細:輝石/良好/黒褐 色	突出する波状突起を付す。口縁部に円文と沈線を施し、体部は沈 線による逆U字状意匠や蕨手状沈線を配す。縦位LRを充填する。 内面弱い研磨	中期後葉
第207図 PL.102	33	深鉢	口縁～体部 上半破片	床直上	細:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	波頂部下に隆線による渦巻文を配し、区画文を接続する。側線は 凹線でRLを充填施文する。体部は垂下沈線2条に画された幅狭 磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLを充填する。内面弱い横位 研磨	中期後葉
第207図 PL.102	34	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/灰褐 色	波状突起を付す大型深鉢。隆線による口縁部区画文を配す。下端 区画は沈線のみ。体部は幅狭の磨消部懸垂文構成。口縁部は横位、 体部は縦位LRを充填施文する	中期後葉
第207図 PL.102	35 ～ 37	深鉢	口縁部・体 部破片3点	床直上	粗:石英・輝石/良好 /橙色～にぶい褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は凹線。文様帯下端 の区画線は希薄。体部は2条の垂下沈線に画された幅広磨消部懸 垂文構成。施文部縄文はRL充填施文。内面横位研磨	中期後葉
第207図 PL.102	38	深鉢	口縁部破片 2点	床直上	細:石英/良好/暗褐 色	口縁部は内湾し隆線による横位S字状を配す。側線は幅広沈線で 強い施文。体部は垂下沈線2条による幅狭磨消部懸垂文構成。一 部逆U字状となる。施文部縄文はRL充填施文。内面弱い横位研 磨	中期後葉
第207図 PL.102	39	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英・輝石/良好 /にぶい橙色	大型深鉢。太い隆線による口縁部区画文。区画内側線は撫で、縦 位LRを充填する。内外面丁寧な研磨	中期後葉
第207図 PL.103	40	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /暗褐色	体部上半の外反部。垂下沈線2条に画された、磨消部懸垂文構成。 施文部は縦位RL充填施文。内面丁寧な研磨	中期後葉
第207図 PL.103	41	深鉢	体部中位破 片	埋土	細:石英・輝石/良好 /明褐色	中位で括れ下半で内湾する。垂下沈線で画された磨消部懸垂文構 成。施文部は縦位RLが充填され、蕨手状沈線が上下に分かれて 配される。内面弱い研磨	中期後葉
第207図 PL.103	42	壺	頸部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	太い横位隆線に渦巻文が懸架する。沈線で画された楕円状区画文 が接続する。縦位LRを充填する。内面研磨	中期後葉
第208図 PL.103	43	深鉢	体部破片	床直上	細:石英/良好/橙色	垂下沈線2条に画された幅広磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL 充填施文後に縦位波状沈線を加える。内面弱い縦位研磨	中期後葉
第208図 PL.103	44	深鉢	体部破片	床直上	細:石英/良好/にぶ い赤褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL 充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第208図 PL.103	45	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	太い頸部隆線で画す。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂 文構成。施文部は縦位RLを充填する。内面研磨	中期後葉
第208図 PL.103	46	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	体部上半。垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。縦位蕨手状沈 線も配される。縄文はLR縦位充填施文。内面弱い研磨	中期後葉
第208図 PL.103	47	深鉢	体部下半破 片	床直上	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	体部下半。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。交互配列 の施文部は縦位RL充填施文。内面縦位研磨	中期後葉
第208図 PL.103	48	深鉢	体部下半破 片	床直上	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	小型深鉢体部下半。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。 施文部は縦位RL充填施文。内面研磨、煤付着	中期後葉
第208図 PL.103	49	壺	体部突起片	埋土	粗:石英/良好/明褐 色	大型の両耳壺把手。稜線と幅広凹線による縦位S字状意匠を配し、 強く突出する。内外面とも平滑な撫で調整	中期後葉
第208図 PL.103	50	壺	頸部～体部 破片	埋土	粗:石英/良好/灰黄 褐色	頸部外反し無文。横位隆線2条で文様帯を画し隆線渦巻文と区画 文を配す。区画内及び体部は縦位密接条線を施す。内面は弱い横 位研磨を施す	中期後葉
第208図 PL.103	51 52	壺	口縁～体部 上半破片2 点	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい橙色	口縁部外反。頸部に刺突文を加えた横位隆線を設け、体部は隆線 による環状・渦巻状意匠を付し垂下隆線が派生する。沈線による 大柄な渦巻文を配し、矢羽状刺突文を充填する。器面磨滅。内面 平滑な撫で調整	中期後葉
第208図 PL.103	53	深鉢	口縁部突起 片	埋土	細:石英/良好/灰黄 褐色	口縁部の隆線による渦巻文と区画文。内器壁剥落する	中期後葉
第208図 PL.103	54 55	鉢	体部破片	床直上	細:輝石/良好/にぶ い褐色	太い沈線で大柄の環状意匠を設け、意匠内に環状・渦巻状小意匠 を配す。内外面研磨し外面には赤彩痕が残る	中期後葉
第209図 PL.104	56 ～ 58	深鉢	口縁部・体 部破片3点	埋土	粗:輝石/良好/明褐 色	大型深鉢。口縁部横位沈線を設け以下縦位密接条線が覆う。内面 撫で調整。	中期後葉
第209図 PL.104	59	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /灰黄褐色	隆線による口縁部楕円状区画文。区画内側線は凹線、縦位密接条 線を充填する。体部は垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。縦 位密接条線を施す。内面弱い研磨	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第209図 PL.104	60 61	深鉢	口縁部・体 部破片2点	埋土	細:石英/良好/暗褐色	波状突起を付す。波頂部に簡素な隆線渦巻文を配し、横位隆線と垂下隆線を派生する。側線は沈線。施文部は斜位短沈線を充填する。内面横位研磨	中期後葉
第209図 PL.104	62	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/褐色	波状突起を付すが欠損。口縁部は隆線による区画文構成。側線を設けず、縦位条線を充填する。体部も縦位条線を波状に施す。内面弱い研磨	中期後葉
第209図 PL.104	63	壺	体部上半破 片	埋土	粗:石英/良好/褐色	頸部外反し横位隆線に波状突起を付す。突起下に沈線による渦巻文を配し、その他も大柄の弧線文・渦巻文を充てる。器面磨滅。内面横位研磨を施す	中期後葉
第209図 PL.104	64	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	口縁部横位沈線を設け、以下2条沈線に画された幅狭磨消部による弧状意匠。意匠内縁は無文で外縁は密接条線を施す。内面研磨	中期後葉
第209図 PL.104	65	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい褐色	沈線による口縁部楕円状区画文。区画内外に6本単位の櫛歯状工具による刺突文が施される。内面横位撫で	中期後葉
第209図 PL.104	66	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	波状縁波頂部下。縦位突起が連続し、小型の橋状把手を付す。下端も隆線による懸垂文構成か。把手より斜位隆線が派生し、沈線が側線として施文される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第209図 PL.104	67	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/灰黄褐色	体部上半。横位低隆線で画され上位は口縁部文様帯か。下位は体部で斜位密接条線が斜格子状に施される。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第209図 PL.104	68	浅鉢	口頸部破片	床直上	細:石英/良好/浅黄褐色	頸部屈曲強く隆線を付す。口頸部は隆線による渦巻文と区画文を配す。沈線を側線とし短沈線を充填する。内面平滑な横位撫で調整	中期後葉
第210図 PL.104	69 ~ 74	深鉢	体部破片6 点	床直上	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	上半は内湾する器形か。1本描き沈線による渦巻状意匠を配す。沈線間には刺突文を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第210図 PL.104	75 76	深鉢	口縁部・体 部破片2点	床直上	粗:石英/軟質/明黄褐色	口:(15.0)。器面著しく磨滅。口縁部横位沈線と横位波状沈線の痕跡を見る	中期後葉
第210図 PL.105	77	深鉢	底部残存	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	底:(5.5)。小型深鉢か。垂下沈線による懸垂文下端部を見る。施文部は無節L縦位充填施文。外底面に砂付着。内面細かな研磨を施す	中期後葉
第210図 PL.105	78	深鉢	底部残存	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	底:8.6。大型深鉢か。無文で外底面にまで丁寧な研磨を施す。内面撫で調整	中期後葉
第210図 PL.105	79	深鉢	体部下半~ 底部残存	床直上	細:石英・輝石/良好/褐色	僅かに内湾気味に開く体部下半。無文で内外面とも丁寧な縦位研磨を施す	中期後葉
第210図 PL.105	80	深鉢	底部1/3残 存	埋土	細:石英・輝石/良好/明褐色	底:9.0。内湾気味に開く体部下半。大型の深鉢か。外面は無文で横位削り調整後研磨、内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第210図 PL.105	81	深鉢	底部残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	底:9.7。厚手の器厚を呈す大型深鉢か。無文で縦位研磨を施す。内面は横位撫で調整	中期後葉
第210図 PL.105	82	器台	脚部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい褐色	強く開く脚部、円孔を配す。内外面弱い撫で	中期後葉
第210図 PL.105	83	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・片岩/良好/赤褐色	横位隆線と平行沈線以下、縦位平行沈線による区画文構成。区画内は截痕列を施し区画隅は三叉状に沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第210図 PL.105	84	深鉢	突起破片	埋土	細:石英/良好/にぶい褐色	中空状突起外皮。上端及び側面に孔を設け隆線で縁取る。小区画内は渦巻文を配す	中期後葉
第210図 PL.105	85	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	垂下隆線を設け数条の沈線を側線とする。交互三叉文と円文を施す。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第210図 PL.105	86	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/浅黄褐色	外反する体部上半か。双円状突起を付し、2条の細隆線が縦位、横位に派生する。側線は丁寧な沈線で、綾杉状沈線も充填される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第210図 PL.105	87	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	体部中位の屈曲部に2条隆線を設け、上位は2条隆線による舌状意匠や弧状沈線を配す。地文にRLを見る。下位は斜位RLを施す。内面横位研磨	中期後葉初
第210図 PL.105	88	深鉢	口縁部1/5 残存	埋土	粗:輝石/良好/にぶい褐色	口:(12.8)。平縁の小型深鉢。口唇部横位沈線を設ける。体部はU字状意匠両端より垂下沈線が懸垂する。縦位波状沈線も配される。地文は縦位RLで一部斜位に施文される。内面研磨	中期後葉
第210図 PL.105	89	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/黒褐色	横位沈線上下に分帯する。上位は幅広沈線によるU字状意匠、下位は縦位波状沈線を施す。地文はRL。内面平滑な縦位撫で調整	中期後葉
第210図 PL.105	90	土製円盤	完形	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい褐色	径:2.4×2.2、厚:1.1cm、重:7.1g。深鉢体部破片を再利用。周縁を丁寧に磨滅する	中期後葉
第211図 PL.105	91	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:1.2、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。細かで丁寧な押圧剥離を全面に施し、細身で小型に仕上げる	
第211図 PL.105	92	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:1.8、厚:0.4、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。挟り部湾曲は弱い。丁寧に細かな押圧剥離を全面に施すが表面に中央に礫面を残す	

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第211図 PL.105	93	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.6、幅:1.7、厚:0.7、重:2.7。平基無茎鏃。丁寧な押圧剥離が裏面を覆う。表面は厚く稜が残る。あるいは未製品か	
第211図 PL.105	94	石鏃	上端欠損	埋土	流紋岩	長:(2.0)、幅:2.1、厚:0.5、重:1.4。平基無茎鏃。両側縁は外反気味に粗い押圧剥離を施す	
第211図 PL.105	95	石鏃	両脚欠損	埋土	黒曜石	長:(2.5)、幅:1.6、厚:0.4、重:1.2。凹基無茎鏃。完成状態。やや粗い押圧剥離が全面を覆い薄手に仕上げる	
第211図 PL.105	96	石鏃	基部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:0.9、厚:0.3、重:0.5。完成状態。断面三角形の素材縁辺に細かな押圧剥離を施す。先端部摩擦痕は見られない	
第211図 PL.105	97	石鏃	完形	埋土	黒色頁岩	長:3.9、幅:2.4、厚:0.6、重:3.4。長身の体部で断面紡錘状。先端部に縦方向の摩擦を伴う使用痕を見る。脚部・摘み部とも丁寧な調整を施す	
第211図 PL.105	98	楔形石器か	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:1.9、厚:1.1、重:3.7。方形状を呈し、上下両端から対向する細かな剥離を見る。	
第211図 PL.105	99	スクレイパー	完形	埋土	流紋岩	長:3.6、幅:2.9、厚:1.2、重:9.4。あるいは石鏃未製品か。横長剥片を素材とし、周縁を押圧剥離で調整する	
第211図 PL.105	100	スクレイパー	完形	埋土	黒色頁岩	長:5.9、幅:3.3、厚:0.8、重:16.8。横長剥片を素材とし、下端部及び左側縁に剥離を施す。下端部を直刃とする	
第211図 PL.105	101	打製石斧	完形	床直上	細粒輝石安山岩	長:8.5、幅:5.6、厚:2.0、重:105.6。小型の短冊形。完成状態で刃部に最大幅を持ち縦位使用磨減痕を見る。周縁の調整は丁寧	
第211図 PL.105	102	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:10.5、幅:5.0、厚:1.5、重:85.8。短冊形で完成状態。両側縁は僅かに外反し最大幅を刃部に持つ。刃部表裏面に使用による磨減痕が著しい	
第211図 PL.105	103	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:10.1、幅:4.3、厚:1.8、重:77.1。細身の短冊形。完成状態で比較的丁寧な剥離で周縁を加工する。最大幅を持つ凸刃で中位にかけて使用による僅かな磨減痕を見る	
第211図 PL.105	104	打製石斧	上端欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(13.2)、幅:6.2、厚:2.5、重:(185.3)。やや大型の短冊形。完成状態。両側縁中位が緩やかに括れ最大幅の刃部を持つ。周辺に剥離はやや粗い。使用痕を見ない	
第211図 PL.105	105	大型打製石斧	完形	床直上	黒色頁岩	長:21.4、幅:6.7、厚:2.5、重:478.8。大型品で短冊状を呈す。粗い剥離調整で直線的な側縁や刃部を作出し、刃部表面は礫面を残す。使用痕は見られない	
第212図 PL.105	106	磨製石斧 転用敲石	完形	床直上	変玄武岩	長:6.7、幅:4.7、厚:3.0、重:196.7。刃部欠損する磨製石斧を敲打により再利用した例。下端部・右側縁に敲打を集め、周縁を再度研磨する	
第212図 PL.105	107	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:5.0、幅:4.0、厚:2.0、重:60.6。小型品。扁平な楕円状円礫。表裏面とも磨面を持つが平滑ではない。擦痕が残る	
第212図 PL.105	108	研磨具 (砥石)	下位欠損	埋土	凝灰質砂岩	長:9.4、幅:4.9、厚:1.9、重:81.3。板状の長楕円状円礫。長軸方向に溝状の研磨痕を見る。右側縁が薄く偏る	
第212図 PL.105	109	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:7.3、幅:5.1、厚:2.7、重:163.0。小型品。扁平な不整楕円状円礫。表裏面とも平滑な磨面を持つ。敲打痕を上下端部に僅かに見る	
第212図 PL.105	110	磨石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:6.2、幅:5.4、厚:4.6、重:207.3。小型の球状を呈す円礫。表面に弱い磨面を見る。敲打痕も少なく散漫である	
第212図 PL.105	111	磨石	器面剥落	埋土	粗粒輝石安山岩	長:7.5、幅:7.1、厚:4.9、重:326.0。やや扁平な球状を呈す小型円礫。器表面は被熱による剥落が著しい。平滑な磨面を表裏面に見る	
第212図 PL.105	112	磨石	一部欠損	埋土	変質安山岩	長:9.7、幅:6.3、厚:2.6、重:266.1。扁平な楕円状円礫。表裏面に平滑な磨面が広がる。下端に敲打痕が僅かに見られる	
第212図 PL.105	113	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.6、幅:5.4、厚:2.7、重:317.2。扁平な長楕円状円礫。やや小型品。浅い敲打痕が表裏面中央に集まる。磨面も表裏面に見る	
第212図 PL.105	114	磨石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(12.0)、幅:7.5、厚:5.0、重:811.6。厚手の長楕円状円礫。平滑な磨面を表裏面に持つ。裏面が強い。敲打痕を表面・上端に見る	
第212図 PL.105	115	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.8、幅:6.0、厚:3.5、重:393.8。やや厚手の楕円状円礫。表裏面に稜線を持つが平滑な磨面が広がる。上下端部に僅かな敲打痕を見る	
第212図 PL.106	116	磨石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(9.2)、幅:8.2、厚:5.7、重:633.7。やや厚手の不整楕円状を呈する円礫。表面に器壁剥落が点在するが、表裏面に平滑な磨面が広がる。上端に敲打痕が集まる	
第212図 PL.106	117	敲石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:9.6、幅:8.1、厚:4.0、重:460.0。扁平な円盤状の円礫。敲打痕は全面に見られ、表裏面中央、下端部に集中する。強い平滑面を表裏面に持つ	
第212図 PL.106	118	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:14.7、幅:6.1、厚:4.2、重:615.3。やや厚手の不整長楕円状の円礫。浅い敲打痕を表裏面中央に集める。磨面も表裏面に見るが弱い	

遺物観察表

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第213図 PL.106	119	磨石か	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:12.9、幅:9.8、厚:2.1、重:491.2。板状の角礫。周縁調整により円盤状の形態を作出する。表裏面に磨面を見る	
第213図 PL.106	120	磨石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:17.2、幅:5.8、厚:3.8、重:659.9。棒状の円礫。敲打痕は左側面と下端部に集中する、裏面磨面が強く及ぶため磨石とした	
第213図 PL.106	121	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.8、幅:5.8、厚:3.7、重:465.3。やや厚手の不整楕円状円礫。敲打痕は散漫に見られる。表裏面に磨面が広がる	
第213図 PL.106	122	石皿	1/3残存	床直	粗粒輝石安山岩	長:(20.5)、幅:(15.7)、厚:7.8、重:3360.0。大型品か。敲打による整形。底面には平滑面が広がり、光沢を持つ。裏面は孔を設ける。	
PL.106	123	石鏃	片脚欠損	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:(1.4)、厚:0.4、重:(1.4)。平基無茎鏃か。完成状態。やや粗い押圧剥離が全面を覆う	
PL.106	124	石鏃	脚部のみ残存	埋土	黒曜石	長:(1.1)、幅:1.5、厚:0.3、重:(0.4)。凹基無茎鏃。完成状態。薄手の素材に押圧剥離を加える。表面に礫面を残す	
PL.106	125	石鏃	片脚欠損	埋土	黒曜石	長:(2.2)、幅:1.6、厚:0.4、重:(1.4)。凹基無茎鏃。完成状態。やや粗い押圧剥離が全面を覆う	
PL.106	126	石鏃	上半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.1)、幅:1.5、厚:0.3、重:(0.7)。平基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離を全面に施し薄手に仕上げる	
PL.106	127	石鏃	右側欠損	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:(1.6)、厚:0.35、重:(0.9)。凹基無茎鏃。完成状態。やや粗い押圧剥離を全面に施す	
PL.106	128	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.7、幅:1.7、厚:0.5、重:2.1。平基無茎鏃。粗い押圧剥離を施すが表裏面に素材面や礫面を残す。あるいは未製品か	
PL.106	129	石鏃	先端・片脚部欠損	埋土	流紋岩	長:(2.1)、幅:(2.1)、厚:0.4、重:(0.8)。未製品か。平基鏃を意図したか。周縁を粗い押圧剥離で調整したのみである	
PL.106	130	打製石斧	上下半欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(8.2)、幅:5.8、厚:2.4、重:135.0。中位のみ残存。上下欠損後、下端は刃部を再調整する	
PL.106	131	打製石斧	上部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.3、幅:6.6、厚:1.1、重:82.5。あるいは撥形か。完成状態粗い剥離により両側縁中位が強く括れ、刃部を広く持つ	
PL.106	132	打製石斧	ほぼ完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.9、幅:5.6、厚:1.1、重:102.2。短冊形。剥離は粗く、両側縁は直線的で刃部に最大幅を持たせる	
PL.106	133	打製石斧	ほぼ完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.2、幅:6.3、厚:1.9、重:152.3。撥形。完成状態。粗い剥離により両側縁上位に括れを設け、下端は凸刃とする。	
PL.106	134	打製石斧	上半欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(8.1)、幅:5.1、厚:0.9、重:54.8。撥形。完成状態か。薄手で右側縁の括れが入念で左は粗い。凸刃に僅かな使用による磨滅を見る	
PL.106	135	打製石斧	ほぼ完形	埋土	黒色頁岩	長:9.0、幅:4.5、厚:1.0、重:57.4。薄手の短冊形。完成状態。直線的な両側縁と僅かに広がる刃部。刃部に使用による磨滅痕を見る	
PL.106	136	打製石斧	破片	床直上	細粒輝石安山岩	長:(7.6)、幅:5.3、厚:1.3、重:80.2。上半及び右側縁を大きく欠損。短冊形で刃部に使用磨滅痕が僅かに残る	
PL.106	137	打製石斧	完形	床直上	細粒輝石安山岩	長:8.5、幅:4.0、厚:1.6、重:69.6。小型の短冊形。完成状態。両側縁は直線的で比較的丁寧な剥離を加える。刃部及び体部突出部に使用による磨滅痕を見る	
PL.106	138	打製石斧	上半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:8.9、幅:5.8、厚:2.3、重:140.9。撥形で、粗い剥離により両側縁中位に挟り部を設け、幅広の刃部を持つ。刃部には使用による弱い磨滅痕を見る	
PL.106	139	打製石斧	裏面上半欠損	床直上	細粒輝石安山岩	長:9.9、幅:5.0、厚:1.4、重:95.1。短冊形。完成状態で、細かな剥離が側縁、刃部に及ぶ。裏面刃部に使用による磨滅痕が見られる	
PL.106	140	打製石斧	上半欠損	埋土	黒色頁岩	長:(5.4)、幅:4.6、厚:1.5、重:51.0。短冊形か。粗い剥離を施し、凸刃には使用による磨滅痕が見られる	
PL.106	141	打製石斧	完形	埋土	変質安山岩	長:9.9、幅:5.9、厚:1.7、重:114.9。撥型を呈し、中位の括れと刃部の広がり非対称。風化のため器面磨滅	
PL.106	142	打製石斧	裏面下半欠損	床直上	粗粒輝石安山岩	長:10.2、幅:5.0、厚:1.3、重:88.8。短冊形。完成状態か。粗い剥離で直線的な両側縁を作出する	
PL.106	143	打製石斧	完形	埋土	変質安山岩	長:11.0、幅:5.0、厚:1.7、重:126.3。短冊形。完成状態。粗い剥離で中位に僅かな括れを有し刃部に最大幅を持たせる。刃部磨滅痕は僅か	
PL.106	144	打製石斧	下半欠損	埋土	黒色頁岩	長:(8.3)、幅:4.4、厚:2.2、重:90.7。小型の短冊形。中位で僅かに括れ刃部に広がりを見る。粗い剥離で覆われる	
PL.106	145	打製石斧	体部残存	埋土	変質安山岩	長:(3.3)、幅:4.6、厚:1.4、重:44.3。両側縁のみが残存。粗い剥離による短冊形か	
PL.106	146	打製石斧	下半欠損	埋土	黒色頁岩	長:(7.7)、幅:4.0、厚:2.1、重:80.3。おそらく短冊形。背高で厚みのある体部。両側縁は直線的に粗い剥離で作出される	
PL.106	147	打製石斧	上端・下半欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(4.9)、幅:4.1、厚:1.2、重:39.3。あるいは撥型か。粗い剥離により中位に強い括れを持つ	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.106	148	加工痕ある剥片	下半欠損	埋土	黒色頁岩	長:(4.2)、幅:(3.2)、厚:1.3、重:(21.9)。小型の打製石斧か。横長剥片を素材とし、両側縁に加工を施す	
PL.106	149	加工痕ある剥片	右側面欠損	埋土	変質安山岩	長:10.9、幅:4.8、厚:2.0、重:137.5。大型の横長剥片を素材とし、表面に礫面を残す。下端部・左側面に剥離を施し下端部を刃部とする	
PL.106	150	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:1.2、厚:0.8、重:2.5。縦長剥片両端部に細かな剥離を見る。あるいは楔形か	
PL.106	151	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:1.3、厚:0.6、重:1.5。縦長剥片を素材とし、側縁に細かな押圧剥離を施す	
PL.106	152	加工痕ある剥片	先端部残存	埋土	黒曜石	長:(1.2)、幅:(0.8)、厚:0.3、重:0.2。微小な剥片を素材とし周縁に細かな押圧剥離を施す。石錐先端部か	
PL.106	153	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:0.9、幅:1.4、厚:0.2、重:0.2。微小な剥片周縁に押圧剥離を施す	
PL.106	154	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.7、幅:1.2、厚:0.8、重:2.3。断面三角形の素材左側縁に押圧剥離を施す。表面に礫面を大きく残す。あるいは石錐未製品か	
PL.106	155	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.6、幅:1.0、厚:0.3、重:1.2。縦長剥片を素材とし、両側縁に微細な剥離を加え刃部とする	
PL.106	156	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:3.7、幅:1.8、厚:0.8、重:3.4。縦長剥片を素材とし、右側縁に微細な剥離を施し刃部とする	
PL.106	157	加工痕ある剥片	右側欠損	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.0、厚:0.5、重:0.9。小型の剥片裏面に押圧剥離を集め、周縁を刃部としている	
PL.106	158	加工痕ある剥片	完形	埋土	流紋岩	長:3.2、幅:2.2、厚:1.2、重:7.0。横長剥片を素材とする。下端部に表裏面より押圧剥離を加え刃部とする	
PL.107	159	使用痕ある剥片	下部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(11.0)、幅:5.5、厚:0.9、重:78.5。薄手の板状剥離した縦長剥片を素材とし、両側縁に刃こぼれを見る	
PL.107	160	磨石	上・下部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(6.2)、幅:5.5、厚:2.3、重:142.4。やや扁平な楕円状円礫。表裏面に平滑な磨面を設け、敲打による凹みも見られる	
PL.107	161	磨石	裏面剥落	床直上	変質安山岩	長:(12.0)、幅:(5.8)、厚:2.6、重:207.6。不整楕円状を呈す。表面に磨面が広がり、少量の敲打痕を見る	
PL.107	162	磨石	一部欠損	埋土	珪質頁岩	長:2.1、幅:1.8、厚:1.0、重:(6.0)。碁石状の小型円礫。全面を研磨に覆われる	
PL.107	163	磨石	破片	床直	粗粒輝石安山岩	長:(9.5)、幅:7.5、厚:4.3、重:468.5。上下半・裏面を欠す。楕円状の円礫か。表裏面とも平滑な光沢を持つ磨面を有す	
PL.107	164	敲石	上部欠損	床直上	粗粒輝石安山岩	長:(13.0)、幅:6.2、厚:4.3、重:518.7。やや厚手の楕円状円礫。敲打痕を下端部・両側縁に見る。表裏面に弱い磨面を持つ	
PL.107	165	敲石	裏面欠損	床直	粗粒輝石安山岩	長:13.7、幅:(5.5)、厚:4.2、重:402.8。不整形な棒状円礫。左側縁の下端部に敲打痕が集中する	

62区10号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第215図 PL.107	1	壺	頸部～体部 上半1/2残存	床直上	細:石英/良好/灰黄褐色	頸部は外反し無文。頸部隆線を設け、上端と側面より貫孔する橋状把手を設ける。体部は隆線による渦巻文や不整形区画文を配しRLを充填する。円文も施す。内面研磨	中期後葉
第215図 PL.107	2	壺	口縁部破片	埋土	粗:石英/やや軟/橙色	口唇部は面を持ち、小波状突起が突出する。口縁部は隆線による環状意匠や弧状区画文が配される。区画内は縄文を充填する。内外面器面磨滅	中期後葉
第215図 PL.107	3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/暗褐色	口唇部内稜強い。無文口縁部下に横位隆線と渦巻文を配し垂下隆線を派生する。横位短沈線を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第215図 PL.107	4	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	垂下沈線に画された磨消部H字状懸垂文。施文部縄文は縦位RL充填施文。磨消部及び内面は縦位研磨を施す	中期後葉
第215図 PL.107	5	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/やや軟/にぶい褐色	厚手の器厚。斜位RLが覆う。内面撫で。被熱のため器面磨滅	中期後葉
第215図 PL.107	6	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/にぶい褐色	横位波状隆線に渦巻文が連接する。下位に横位弧状隆線を配す。斜位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第215図 PL.107	7	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/良好/暗褐色	隆線による渦巻状意匠周辺を放射状に短沈線を充填する、内面平滑な撫で調整	中期後葉
第216図 PL.107	8	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/やや軟/にぶい褐色	2条沈線による逆U字状意匠。おそらく懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第216図 PL.107	9	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英/良好/にぶい赤褐色	厚手の器厚、体部下半。垂下沈線2条による懸垂文構成か。空白部は斜位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第216図 PL.107	10	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/黒褐色	薄手の器厚を呈す。隆線による口縁部区画文構成。区画内側縁は沈線、横位RLを充填する。体部は縦位RLを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第216図 PL.107	11	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい褐色	縦位・斜位RLを地文とし、縦位波状沈線を重ねる。内面弱い研磨	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第216図 PL.107	12	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	体部下半か。内皮平行沈線によるクランク状懸垂文を配す。地文は縦位密接条線。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第216図 PL.107	13	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	内湾する体部。横位沈線に刺突文を重ね、以下2・3条の弧状沈線が三叉状に施される。地文は縦位密接条線。内面横位撫で調整	中期後葉
第216図 PL.107	14	深鉢	口縁部破片	埋土	細:白色粒/良好/灰 褐色	口唇部端部に沈線を施す。口縁部下に横位隆線を設け両側線として沈線を施し上位に刺突文を加える。内面研磨	中期中葉
第216図 PL.107	15	深鉢	体部破片	床直	細:石英/良好/橙色	大型深鉢か。薄手の器厚を呈し無文。外面は縦位研磨、内面は撫で調整を施す	中期後葉か
第216図 PL.107	16	深鉢	底部1/4残存	床直	粗:石英・輝石/良好/ 明褐色	底:(12.2)。大型深鉢。体部は強く開き無文。内外面とも平滑な撫で調整	中期後葉
第216図 PL.107	17	石錐	先端欠損	床直上	黒色頁岩	長:3.4、幅:3.2、厚:0.6、重:4.6。やや大型の摘み部を持ち、断面紡錘状の長身の体部。使用痕は見られない	
第216図 PL.107	18	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:10.9、幅:5.2、厚:1.6、重:122.9。短冊形。中位に緩やかな括れを持たせ、幅広の刃部に至る。刃部形状は非対称で表面に使用による磨滅痕が見られる	
第216図 PL.107	19	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:14.0、幅:6.6、厚:1.9、重:243.2。短冊形。完成状態。薄手の板状礫を素材とし、表裏面に礫面を残す。粗い剥離で直線的な側縁と幅広で非対称な刃部を作出する。刃部～体部に使用による磨滅痕が著しい	
第216図 PL.107	20	石核	完形	埋土	黒曜石	長:3.6、幅:4.1、厚:2.0、重:20.2。不定方向に打面を移動し、小型の剥片を剥離している。緻密な素材	
第216図 PL.107	21	多孔石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:23.7、幅:22.5、厚:7.2、重:3695.0。板状の大型亜角礫。表面中央に断面円錐形の孔を集中する。裏面に敲打痕を少量見るが判然としない	
PL.107	22	打製石斧	下半欠損	埋土	砂岩	長:(4.8)、幅:4.1、厚:1.2、重:46.5。短冊形か。比較的細かな剥離により直線的な側縁を作出する	
PL.107	23	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:11.8、幅:5.5、厚:2.9、重:211.5。短冊形。細かな剥離により中位にやや括れを持ち、刃部に最大幅を持たせる。使用痕は見えない	
PL.107	24	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:10.7、幅:4.3、厚:1.2、重:62.8。短冊形。完成状態。表面に礫面を大きく残す。側縁、刃部の調整も粗い	
PL.107	25	打製石斧	上半・下端欠損	埋土	黒色頁岩	長:(7.5)、幅:4.9、厚:2.2、重:120.4。短冊形。体部のみの残存。完成状態。粗い剥離による直線的な側縁。右側縁に磨滅痕を見る	
PL.107	26	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:3.3、厚:0.35、重:1.9。横長剥片を素材とし、左側縁に刃こぼれなどの使用痕を見る	
PL.107	27	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:3.7、幅:2.0、厚:0.5、重:3.1。縦長剥片を素材とし、左側縁と右側縁上位に刃こぼれなどの使用痕を見る	
PL.107	28	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:1.3、厚:0.5、重:1.1。縦長剥片下半両側縁に細かな刃こぼれを見る	

62区11号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第218図 PL.108	1	深鉢	口縁～体部下半4/5残存	炉脇	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	口:16.6。隆線による渦巻文を配した大型環状突起を4単位設ける。渦巻文を付した2条の横位弧状隆線で繋ぎ、下端は小渦巻文から派生した隆線が懸架しU字状区画文を画す。区画内は縦位波状隆線を加え弧状短沈線を充填する。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第218図 PL.108	2	釣手土器	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/褐色	波状縁。口縁部端部は面を持ち、横位沈線3条を充填し、半肉彫手法と沈線による渦巻文を配す。外面は2条隆線が巡る。内面撫で調整、外面煤付着	中期後葉
第218図 PL.108	3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ にぶい褐色	緩やかな波状縁。隆線による渦巻文を配し横位弧状隆線2条で繋ぐ。縦位短沈線を充填し縦位交互刺突文も加える。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第218図 PL.108	4	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/やや 軟/にぶい橙色	扁平な口縁部に隆線による渦巻文を配す。側線は沈線。外器面磨滅。内面研磨を施す	中期後葉
第219図 PL.108	5	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・雲母/良好/ にぶい褐色	隆線による渦巻文両脇より弧状隆線を派生する。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。内面横位撫で	中期後葉
第219図 PL.108	6	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 黒褐色	外反する体部中位。2条隆線による懸垂文構成。沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第219図 PL.108	7	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい橙色	隆線による懸架するU字状意匠。中位に垂下降線を充て、斜位短沈線を充填する。隆線の側線は沈線。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第219図 PL.108	8	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英/やや軟/橙 色	垂下降線2条による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。外面に带状の被熱痕跡。内面平滑な撫で、煤を付着する	中期後葉
第219図 PL.108	9	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	3条の隆線による大柄な渦巻文構成。側線は沈線で内縁に放射状に短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第219図 PL.108	10	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/黒褐色	口唇部に複列の刻みを施す。口縁部横位沈線を設け以下無節Lの横位・縦位施文による横位羽状縄文構成が覆う。内面研磨	中期後葉
第219図 PL.108	11	深鉢	頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	頸部隆線を設ける。側線は沈線。以下縦位RLを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第219図 PL.108	12	壺	頸部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	口縁部短く外反し無文。頸部に隆線を設け体部は2条隆線による大柄な弧状・渦巻状意匠。側線は沈線。縄文はLR。内面弱い横位研磨	中期後葉
第219図 PL.108	13	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶい橙色	地文に縦位無節Lを施し、縦位波状沈線を重ねる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第219図 PL.108	14	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/灰褐色	内湾する体部。2条の沈線による渦巻状意匠を配す。地文は縦位LR。内面は撫で	中期後葉
第219図 PL.108	15	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/明黄褐色	垂下する内皮平行沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位LR。内面撫で調整	中期後葉
第219図 PL.108	16	浅鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい黄橙色	頸部屈曲部に設けた隆線に刻みを連続する。内面研磨	中期後葉
第219図 PL.108	17	浅鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・片岩/良好/明赤褐色	口縁部肥厚し体部は内湾する。無文で内外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩痕は見られない	中期後葉
第219図 PL.108	18	浅鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・小礫/良好/黒褐色	口縁部外面突出する。無文で内外面丁寧な横位研磨を施す。赤彩痕は判然としない	中期後葉
第219図 PL.108	19	深鉢	底部1/3残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/赤褐色	底:11.0。厚手の大型深鉢か。無文で内外面とも横位撫で調整を施す	中期後葉
第219図 PL.108	20	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.5、厚:0.4、重:1.2。平基無茎鏃。完成状態。やや左右非対称ながら丁寧な押圧剥離が表裏面とも覆う	
第219図 PL.108	21	石鏃	先端欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.5、厚:0.2、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。扱りは深くなく、表裏面とも丁寧な押圧剥離で覆われ薄手の作りを示す	
第219図 PL.108	22	石錐	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:1.1、厚:0.4、重:1.1。表面に素材面を残す。完成状態。細かな押圧剥離を施し、先端部は交互の調整による作出がなされる	
第219図 PL.108	23	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:9.6、幅:5.2、厚:1.9、重:110.2。短冊形。完成状態。粗い剥離による直線的な側縁と幅広の刃部。表面に僅かに使用による磨滅痕を見る	
第219図 PL.108	24	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:10.8、幅:4.3、厚:2.5、重:132.3。短冊形。完成状態。刃部表面に礫面を残し、粗い剥離により側縁を作出する。頭部に摩耗痕を見るが、着柄痕か	
PL.108	25	石鏃	片脚部欠損	埋土	黒曜石	長:1.4、幅:(0.9)、厚:0.4、重:(0.4)。凹基無茎鏃。完成状態。小型で表面は押圧剥離に覆われ中央が厚く残る。裏面は素材面を残す	
PL.108	26	打製石斧	上半欠損	埋土	黒色頁岩	長:(4.5)、幅:4.9、厚:1.4、重:41.2。短冊形か。粗い剥離による側縁、刃部の作出。使用痕は見られない	
PL.108	27	打製石斧	完形	埋土	変質安山岩	長:12.5、幅:7.2、厚:3.4、重:277.2。短冊形か。表面に礫面を背高で残す。粗い剥離による側面、凸刃の作出	
PL.108	28	打製石斧	上半欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(8.9)、幅:6.2、厚:2.0、重:153.3。短冊形。完成状態。粗い剥離による側面、刃部の作出。表裏面に弱い使用による磨滅痕を見る	

62区12号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第222図 PL.109	1	深鉢	口縁～体部 1/4残存	床直上	細:石英・輝石・片岩/良好/にぶい黄橙色	口:(50.0)。口縁部は太い隆線による区画文と環状・渦巻状意匠を配す。区画内は沈線を側線とし、密接条線による斜格子文を充填する。体部は垂下沈線2条に画された幅広磨消部懸垂文構成。背もぬは縦位LRを充填し縦位波状文や乱雑な縦位矢羽状短沈線を施文する。内面横位撫で調整	中期後葉
第222図 PL.109	2	深鉢	口縁～体部 1/5残存	埋土	細:石英・輝石・片岩/やや軟/明黄褐色	口:(42.0)。隆線による口縁部区画文と渦巻文構成。側線は沈線でRLを充填する。体部は垂下沈線2条に画された幅広磨消部懸垂文構成。施文部は斜位RLを施し縦位波状沈線を重ねる。内面横位撫で調整	中期後葉
第222図 PL.109	3	深鉢	口縁～体部 1/3残存	埋土 62-G 3	細:石英/やや軟/にぶい黄橙色	隆線による口縁部渦巻文と一体化した区画文。沈線を側線とし区画下端を兼ねる。体部は沈線による不整形区画文や縦位S字状意匠が配される。RLを充填する。器面磨滅。内面平滑な撫で	中期後葉
第222図 PL.109	4 5	深鉢	口縁～体部 上半1/4・体 部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい橙色	口:(32.0)。隆線による口縁部楕円状区画文。側線は凹線で横位RLを充填する。体部は垂下沈線2条に画された幅広磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLを充填し腕手状波状沈線を重ねる。磨消部・内面とも平滑な撫で	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第223図 PL.110	6	深鉢	口縁～体部 破片3点	埋土	細:石英・輝石/良好/ 黒褐色	口:30.0。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。側線は撫で 及び凹線。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施 文部には縦位波状沈線文を施す。縄文は口縁部、体部ともLR充 填施文。内面弱い研磨	中期後葉
第223図 PL.109	7	深鉢	体部1/4残 存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 灰褐色	大型深鉢。外反する体部中位。垂下沈線3条を施した磨消部懸垂 文構成。RL縦位充填施文。内面撫で	中期後葉
第223図 PL.109 ・110	8 9	深鉢	口縁部破片 2点	埋土 62-H 4	細:輝石/良好/にぶ い橙色・黒褐色	波状突起と片波状突起を付し以下2条沈線に画された幅狭磨消部 による逆U字状意匠が配される。無節Lが横位・縦位に充填施文 される。突起内面に環状意匠を施す。内面平滑な横位撫で調整	中期後葉
第223図 PL.110	10	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	波状突起を付す。凹線による口縁部区画文。横位RLを充填する。 内面丁寧な横位研磨を施す	中期後葉
第223図 PL.110	11	壺	体部把手破 片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐灰色	頸部の横位隆線に付した大型橋状把手。縦位S字状意匠を配す。 体部は縦位沈線や棘手状沈線を施す。縄文は縦位RL。内面横位 研磨	中期後葉
第224図 PL.110	12	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 橙色	波状縁。隆線と側線凹線による口縁部渦巻文と区画文。円文も施 される。体部は沈線による磨消部逆U字状懸垂文。内面も口唇部 沈線を施し研磨を加える	中期後葉
第224図 PL.110.	13 ～ 16	深鉢	体部破片4 点	埋土	細:石英・輝石/良好/ 橙色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLを 充填施文し縦位波状沈線文を重ねる。内面は撫で調整	中期後葉
第224図 PL.110	17	深鉢	口縁～体部 上半破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 褐色	大型深鉢。太い隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は幅 広沈線で区画下端を画す。体部は垂下沈線2条に画された幅狭の 磨消部懸垂文構成。縄文は縦位RL充填施文。内面研磨	中期後葉
第224図 PL.111	18	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 暗褐色	大型の深鉢か。口縁部は隆線による渦巻文と楕円状区画文構成。 区画内は凹線を側線とし縦位密接条線を充填する。内面弱い横位 研磨	中期後葉
第224図 PL.111	19	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 赤褐色	体部下半か。垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。 施文部は縦位無節Lを施す。内面撫で	中期後葉
第224図 PL.111	20	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/黒褐 色	薄手の器厚。2条の垂下沈線に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。 施文部は縦位RLを充填する。内面縦位研磨	中期後葉
第224図 PL.111	21	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ 明褐色	垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は斜位LRを充填 する。施文部下半に縦位波状沈線上端を見る。内面弱い研磨	中期後葉
第224図 PL.111	22	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・小礫 /やや軟/橙色	垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLを施す。 器面磨滅	中期後葉
第224図 PL.111	23	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い橙色	垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部は無節Lを縦位充 填施文する。内面平滑な横位撫で	中期後葉
第224図 PL.111	24	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い黄褐色	垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLを施す。 内面平滑な撫で調整	中期後葉
第225図 PL.111	25	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石・小礫/良好/ 明褐色	大型深鉢体部中位～下半。2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂 文構成。施文部は縦位密接条線を地文とし縦位波状沈線文を重ね る。内面弱い研磨	中期後葉
第225図 PL.111	26	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口唇部多くが欠損。口縁部外反し無文。頸部隆線を設け以下縦位 密接条線を施す。内面研磨	中期後葉
第225図 PL.111	27	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	外反する体部中位。垂下沈線2条に画された幅広磨消部懸垂文構 成。施文部は縦位密接条線施文後縦位波状沈線文を重ねる。内面弱 い横位研磨	中期後葉
第225図 PL.111	28	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	沈線による口縁部区画文下端。縦位密接条線を充填する。内面研 磨	中期後葉
第225図 PL.111	29	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	破片上端は横位沈線の痕跡か。以下縦位密接条線が覆う。平滑な 撫で調整	中期後葉
第225図 PL.111 ・112	30 ～ 32	深鉢	口頸部・体 部破片3点	床直上	粗:石英・輝石/良好/ 灰黄褐色	口縁部は低隆線による区画文を配す。体部は2条の垂下沈線に画 された磨消部懸垂文構成。口縁部区画内及び体部施文部は縦位密 接条線を充填する。体部は波状文が加わる。内面弱い横位研磨	中期後葉
第225図 PL.112	33	壺か	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/灰黄 褐色	体部屈折部上位がRL、下位が縦位密接条線を施文する。内面撫 で調整	中期後葉
第225図 PL.112	34	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	沈線で画された磨消部による逆U字状意匠。施文部は縦位密接条 線を地文とし沈線による縦位S字状意匠が配される。内面弱い研 磨	中期後葉
第225図 PL.112	35	壺	口縁部破片 2点	埋土	細:石英・輝石/良好/ 灰褐色	口縁部内湾する。欠損部に大型の補修孔を穿つ。隆線による渦巻 文や弧状意匠を配す。側線は撫で。内面撫で	中期後葉
第225図 PL.112	36	壺	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い橙色	口縁部外反し無文。頸部～体部は強く内湾し、2条の横位隆線を 設け橋状把手を付す。体部は隆線による渦巻文を配す。側線は幅 広沈線。内外面とも丁寧な研磨	中期後葉
第225図 PL.112	37	壺	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い橙色	内湾する体部上半。低隆線による渦巻状・弧状意匠を配す。側線 は幅広沈線。内外面弱い研磨	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第226図 PL.112	38	深鉢	口縁～体部 1/3残存	床直上	粗:輝石/良好/にぶ い橙色	口:50.0。大型深鉢。口縁部は隆線による渦巻文と区画文が一体化した変形勾玉状区画文構成。体部は垂下沈線3条による懸垂文構成で縦位矢羽状短沈線や横位短沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第226図 PL.112	39	深鉢	口縁～体部 上半破片	床直上	粗:石英/良好/にぶ い赤褐色	口唇部周辺剥落著しい。口縁部は隆線による渦巻文と区画文が一体化する。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。体部は幅狭の逆U字状磨消部懸垂文を配し縦位矢羽状短沈線を埋める。内面撫で	中期後葉
第226図 PL.112	40	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/暗褐 色	無文の口縁部下位に2条の横位隆線を設ける。以下斜位短沈線を施す。内面横位撫で	中期後葉
第226図 PL.112	41	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石・小礫 /良好/灰黄褐色	扁平な口縁部に隆線による渦巻文と区画文が一体化し勾玉状区画文が配される。区画内は沈線を側線とし短沈線を放射状に充填する。内面横位撫で調整	中期後葉
第226図 PL.112	42	壺か	頸部破片	床直上	細:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	小径で頸部外反し無文。下位に横位隆線と沈線を施す。内外面丁寧な研磨を加える	中期後葉
第226図 PL.112	43	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好 /橙色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。側線は沈線。斜位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第226図 PL.112	44	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英/良好/にぶ い橙色	2条隆線と縦位波状隆線による懸垂文構成。沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。内面研磨	中期後葉
第226図 PL.112	45	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い橙色	沈線を重ねた隆線による中空状突起基部。下端は半渦巻文、両脇に区画文を配す。LRを充填する。内面撫で	中期後葉
第226図 PL.112	46	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /黒褐色	波状縁。波頂部に橋状把手を設ける。体部は沈線による不整形円形区画文を配しRLを充填する。内面横位撫で	中期後葉
第226図 PL.112	47	深鉢	体部下半～ 底部4/5残 存	埋土	粗:石英・輝石/良好 /赤褐色	底:7.6。内湾気味に開く体部下半。おそらく2条一組の垂下沈線による懸垂文構成。縦位波状沈線も重なる。内外面は平滑な撫で	中期後葉
第226図 PL.112	48	深鉢	体部下半～ 底部1/2残 存	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい赤褐色	底:7.0。緩やかに内湾気味に開く体部下半。垂下沈線に画された幅広の磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第226図 PL.113	49	深鉢	体部下半破 片	埋土 62-H 4	細:石英/良好/褐灰 色	小型深鉢か。隆線による分岐懸垂文を配す。側線は凹線を施し縦位RLを充填する。磨消部及び内面は研磨	中期後葉
第227図 PL.113	50	深鉢	底部1/4残 存	埋土	細:石英/良好/橙色	底:(7.0)。数条の垂下沈線下端部を見る。懸垂文構成。外面は丁寧な研磨、内面は撫で調整	中期後葉
第227図 PL.113	51	深鉢	底部残存	埋土	粗:石英/やや軟/に ぶい橙色	底:8.0。厚手の底面器厚。大型深鉢か。垂下沈線下端部を僅かに見る。内外器面磨滅	中期後葉
第227図 PL.113	52	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・繊維/良好 /にぶい黄褐色	口唇部角頭状をなし口縁部肥厚する。肥厚下に結節縄文横位RLを施す。器面磨滅	前期中葉
第227図 PL.113	53	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・繊維/良好 /橙色	結節LRとRLによる横位羽状縄文構成。器面磨滅	前期中葉
第227図 PL.113	54	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・繊維/良好 /明褐色	斜位0段多条LRを施す。器面剥落多い	前期前葉
第227図 PL.113	55	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・繊維/良好 /黒褐色	結節LRとRLによる縦位羽状縄文構成。器面磨滅	前期中葉
第227図 PL.113	56	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石・片岩 /良好/にぶい赤褐 色	平縁で突起を付す。隆線による口縁部楕円区画文。側線は連続爪形文で区画中に三角連続刺突文を横位鋸歯状に配す。内面研磨	中期中葉
第227図 PL.113	57	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・雲母/良好 /灰褐色	2条の隆線による弧状・渦巻状意匠を配す。側線は連続爪形文と複列の結節沈線。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第227図 PL.113	58	深鉢	口縁部突起 片	埋土	細:石英・雲母/良好 /褐色	環状突起を内外面に付す。外面は側線として2条の沈線を施す	中期中葉
第227図 PL.113	59	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	幅狭の無文口縁部を横位沈線で画し体部は2条の沈線で画された幅狭磨消部による弧状意匠が配される。縄文は横位・縦位RLを施す。内面平滑な横位撫で調整	中期後葉
第227図 PL.113	60	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/黒褐 色	波状突起を付し、沈線による縦位逆S字状意匠を配す。施文は深く強い。その他に弧状意匠も施される。地文は縦位LR。内面研磨	中期後葉
第227図 PL.113	61	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英/良好/黒褐 色	口唇部に連続刺突文。口縁部は沈線による区画文意匠か。区画内は横位LRを充填する。内面弱い横位研磨	中期後葉
第227図 PL.113	62	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	薄手の器厚。波状縁。口縁部は幅狭で横位隆線で画し縦位短沈線を充填する。側線は沈線。体部は無節LR斜位施文。内面弱い研磨	中期後葉
第227図 PL.113	63	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	隆線による弧状・渦巻状意匠。内縁側線に沈線を施す。外縁に沈線による弧状意匠を配す。内面平滑な撫で	中期後葉
第227図 PL.113	64	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	横位隆線を設け沈線を側線とする。以下縦位沈線も配される。RLを充填施文する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第227図 PL.113	65	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/明赤 褐色	体部下半。垂下沈線による懸垂文下端。縦位波状沈線も加わる。内面平滑な撫で調整	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第227図 PL.113	66 67	土製腕輪	破片2点	埋土 62-G 4	細:石英/良好/にぶ い褐色	規模は不明だがおそらく楕円状の平面形か。表面はLRを施し、裏面は削り調整後撫でを加え	中期～後期
第227図 PL.113	68	ミニチュ ア土器	底部1/4残 存	埋土	細:石英/やや軟/に ぶい黄褐色	底:5.0。深鉢を模したか。無文で外器面磨滅。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第227図 PL.113	69	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:1.3、幅:1.2、厚:0.3、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。小型で押圧剥離が覆う。抉り部は入念に施す	
第227図 PL.113	70	石鏃未製 品	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:2.0、厚:0.7、重:3.7。器厚があるが先端部の作出に着手しており、三角形状を意図した押圧剥離調整が覆う・平基無茎鏃か	
第227図 PL.113	71	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:1.2、厚:0.3、重:0.5。完成状態。小型で長身の体部。摘み部も押圧剥離に覆われた丁寧な作りを示す。先端部の使用痕は見られない	
第227図 PL.113	72	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:1.1、厚:0.3、重:0.9。小型の横長剥片を素材。完成状態。体部は表裏面より交互の調整を施し、先端部を作出する。摘み部は無調整。使用痕は見られない	
第228図 PL.113	73	スクレイ パー	完形	埋土	黒色頁岩	長:9.8、幅:4.6、厚:1.3、重:62.6。横長剥片を素材とし、下端に表裏剥離を施し、刃部とする	
第228図 PL.113	74	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:11.0、幅:5.7、厚:1.7、重:111.8。短冊形。完成状態。粗い剥離により側縁を外反し幅広の刃部を作出する。裏面刃部に僅かに磨滅痕を見る	
第228図 PL.113	75	敲石	下半欠損	埋土	ひん岩	長:9.0、幅:6.3、厚:3.2、重:238.0。扁平な楕円状円礫。敲打痕は上端部や側面に集まり、表裏面に平滑な磨面を持つ	
第228図 PL.113	76	凹石	下半欠損	埋土	砂岩	長:(9.8)、幅:7.9、厚:3.9、重:467.2。扁平な楕円状円礫。表裏面に浅い敲打による凹みを持ち、磨面が広がる	
第228図 PL.113	77	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.5、幅:7.6、厚:2.8、重:345.7。扁平な楕円状円礫。敲打痕は表面中央に集まり凹みとなす。平滑な磨面は表裏面とも顕著。両側縁も磨面を持ち明瞭な稜線を示す	
PL.113	78	打製石斧	破片	床直上	細粒輝石安山岩	長:(11.3)、幅:(5.3)、厚:(2.0)、重:85.7。短冊形か。先端部、下半、裏面を大きく欠損する。調整は粗い剥離が施される	
PL.113	79	打製石斧	上半欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(11.0)、幅:5.4、厚:1.9、重:192.2。短冊形。完成状態。表面に礫面を残す。粗い剥離で両側縁を直線状に仕上げる。刃部に僅かな使用による磨滅痕を見る	
PL.113	80	打製石斧	破片	床直上	変質安山岩	長:(6.3)、幅:(5.1)、厚:2.8、重:106.8。頭部のみ残存。短冊形か。右側面に節理面を残す	
PL.113	81	加工痕あ る剥片	上・下欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(12.0)、幅:4.9、厚:1.6、重:99.3。板状節理した素材。両側縁に粗い剥離を施し刃部とする	
PL.113	82	敲石	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(4.5)、幅:7.5、厚:4.7、重:142.8。やや扁平な楕円状円礫か。端部から側縁に敲打痕が集まる	

62区13号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第232図 PL.114	1	ミニチュ ア土器	完形	埋土	細:輝石/良好/明褐 色	口:6.0、高:6.2、底:4.6。丁寧な作り。口縁部に横位細隆線を設け、以下縦位・斜位LRを施す。内面研磨	中期末葉
第232図 PL.114	2	深鉢	体部1/2残 存	炉内	細:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	小径の小型深鉢か。2条沈線に画された幅狭磨消部による渦巻状意匠や縦位波状文を配す。施文部との交互配列は厳密ではなく、不規則な配置を示す。施文部は無節L充填施文。内面弱い研磨	中期後葉
第232図 PL.114	3	深鉢	口頸部破片	床直上	細:石英/良好/にぶ い褐色	隆線による口縁部区画文か。区画内は凹線を側線とし、横位LRを充填する。体部は沈線による逆U字状意匠を配す。内面弱い横位研磨	中期後葉
第232図 PL.114	4	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/暗褐 色	薄手の器厚を呈す。口縁部横位沈線2条を設け、沈線間に円形刺突文を連ねる。以下縦位密接条線を浅く施文する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第232図 PL.114	5	深鉢	口縁部破片	ピット4	粗:石英/やや軟/に ぶい黄褐色	波状縁頂部に設けられた橋状把手。両下端より口縁部隆線が派生する。無節Lを施す。器面磨滅	中期後葉
第232図 PL.114	6	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・雲母/良好 /黒褐色	波状縁。口縁部に円形刺突文と横位沈線を施す。体部は沈線で画された磨消部逆U字状意匠か。LRを充填施文する。内面平滑な撫で調整、微量の煤付着	中期後葉
第232図 PL.114	7	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/褐色	口縁部内外面肥厚。太い隆線による口縁部区画文。凹線を側線としRLを施す。内面横位研磨	中期後葉
第232図 PL.114	8	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英/良好/暗赤 褐色	口縁部内湾。隆線による口縁部楕円状区画文。区画内は幅広沈線を側線とし横位RLを充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第232図 PL.114	9	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/暗褐 色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。渦巻文下端より逆渦巻文が接続し、さらに垂下隆線2条が懸垂する。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線・縦位交互刺突文を充填する。体部は斜位短沈線を施す。内面横位撫で調整	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第232図 PL.114	10	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	波状縁。口縁より2条隆線を基調とした縦位突起が懸垂する。側 縁は沈線で2条沈線による区画文が配され、横位短沈線を充填す る。内面横位撫で	中期後葉
第232図 PL.114	11	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /褐色	2条隆線による渦巻状突起を相向いに配す。内面研磨	中期後葉
第232図 PL.114	12	浅鉢	頸部破片	埋土	粗:石英/やや軟/に ぶい黄褐色	頸部屈曲し、横位隆線を付す。下位に円形刺突文が沿い、縦位短 沈線を充填する。内面横位撫で	中期後葉
第232図 PL.114	13	深鉢	体部破片	ピット4	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部は広く縦 位RLを充填する。内面弱い横位研磨	中期後葉
第232図 PL.114	14	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /明赤褐色	外反する体部中位。沈線で画された磨消部H字状意匠による懸垂 文構成。施文部縦文はRL縦位充填施文。磨消部及び内面平滑な 撫で調整	中期後葉
第232図 PL.114	15	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/やや軟/に ぶい黄褐色	2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は無節L充 填施文。器面磨滅。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第232図 PL.114	16	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/褐色	円形刺突文を重ねる2条隆線による逆U字状意匠。側縁は沈線で 斜位沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第232図 PL.114	17	深鉢	体部破片	ピット4	粗:石英・輝石/良好 /明赤褐色	横位隆線下位に2条の沈線が沿い刻みを重ねる。三叉文を配す	中期中葉末
第232図 PL.114	18	深鉢	底部残存	埋土	粗:石英/やや軟/に ぶい褐色	底:7.6。厚手の器厚。内外面とも器面磨滅する	中期後葉
第232図 PL.114	19	深鉢	底部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い黄褐色	底:(8.6)。外反気味に開く体部下半。無文で外器面磨滅する。 内面は乱雑な撫で調整	中期後葉
第233図 PL.114	20	石鏃	左脚欠損	埋土	黒曜石	長:(2.0)、幅:(1.0)、厚:0.2、重:0.5。小型で細身の凹基無茎 鏃。完成状態。比較的粗い押圧剥離で作出しており、素材面を残 している	
第233図 PL.114	21	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:(2.1)、幅:1.6、厚:0.2、重:0.7。右脚端部欠。凹基無茎鏃。 完成状態。薄手で押圧剥離に覆われるがやや雑な作り	
第233図 PL.114	22	石鏃未製 品	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.9、厚:0.6、重:2.3。中央部が厚く残り、先端部と 側縁を押圧剥離により作出する。裏面に素材を残し、完成状態ま では複数回の行程を要する	
第233図 PL.114	23	石鏃未製 品	完形	埋土	チャート	長:2.8、幅:2.5、厚:1.0、重:5.6。中央部が厚く残るが、先端部 ・側縁を押圧剥離により作出し、三角形の器形を整えているが 完成状態までは複数回の行程を要する	
第233図 PL.114	24	石錐	先端部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:0.8、厚:0.3、重:0.6。小型品。完成状態。断面 三角形の体部で押圧剥離による作出。摘み部も丁寧な調整。使用 痕は見られない	
第233図 PL.114	25	石鏃	完形	埋土	珪質頁岩	長:2.5、幅:1.1、厚:0.3、重:0.6。凹基有茎鏃。完成状態。細身 で入念な押圧剥離で整え、舌は小型ながら丁寧な作出で突出する	
第233図 PL.114	26	石錐	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:3.2、幅:2.1、厚:0.6、重:2.5。完成状態。長身の体部を丁寧 な押圧剥離で作出する。使用痕として磨滅痕を僅かに見るが、方 向などは不明	
第233図 PL.114	27	石錐	摘み部・先 端部欠損	埋土	珪質頁岩	長:(4.5)、幅:0.9、厚:0.5、重:2.1。極めて長身の体部。押圧 剥離による作出で断面紡錘状をなす。使用痕は明瞭ではない	
第233図 PL.114	28	打製石斧	完形	床直	変質安山岩	長:10.2、幅:4.3、厚:2.1、重:121.2。短冊形。完成状態。直線 的な両側縁を作出し刃部に最大幅を持たせる。刃部に使用による 磨滅痕を見る	
第233図 PL.114	29	軽石製品	完形	床直	軽石	長:7.3、幅:5.8、厚:1.6、重:31.2。板状の整った長方形を呈す。 6面とも丁寧な作出で仕上げている。孔は穿たれないことから、 未完成品の可能性もある	
第233図 PL.114	30	磨石	完形	床直	変質安山岩	長:13.7、幅:6.6、厚:2.8、重:384.6。扁平で不整楕円状の円礫。 表面に弱い磨面と散漫な敲打痕を見る	
第233図 PL.114	31	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:10.7、幅:7.8、厚:3.1、重:377.5。扁平で不整形な円礫。表 裏面とも弱い磨面を持つ。敲打痕の集中も散漫	
第233図 PL.114	32	敲石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:12.6、幅:6.0、厚:3.7、重:410.7。楕円棒状の円礫。敲打痕 を下端に集める。裏面に弱い磨面を持つ	
第233図 PL.114	33	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:10.2、幅:8.7、厚:3.0、重:392.7。扁平で不整形な円礫。 表裏面中央に弱い磨面を持つ。敲打痕も散漫に見られる	
第233図 PL.114	34	敲石	完形	床直	ひん岩	長:8.2、幅:11.1、厚:3.4、重:481.2。扁平な不整楕円形の円礫。 厚手の下端部に敲打痕を集中する	
第233図 PL.115	35	石棒	体部のみ残 存	埋土	デイサイト	長:(8.6)、幅:11.5、厚:11.0、重:1396.5。敲打による整形。大型 石棒体部上半の上下に意図的な欠損を加え、円柱状の加工品を 作出する。他方1点とあるいは同一個体か	
第233図 PL.115	36	石棒	体部のみ残 存	埋土	デイサイト	長:(7.6)、幅:11.6、厚:12.4、重:1438.0。敲打による整形。大型 石棒体部中位の上下に意図的な欠損を施し、円柱状の加工品を 作出する。被熱による破砕も見られる	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.115	37	石鏃	破片	埋土	黒曜石	長:(1.1)、幅:(1.4)、厚:0.5、重:(0.4)。おそらく完成状態。先端部のみ残存で押圧剥離による作出	
PL.115	38	スクレイパー	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:1.7、厚:0.7、重:2.7。横長剥片上下端部に押圧剥離を加える。あるいは楔形か	
PL.115	39	加工痕ある剥片	上半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.0)、幅:2.2、厚:0.4、重:(1.0)。横長剥片下端部に僅かな調整を加え刃部とする	
PL.115	40	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:11.2、幅:6.7、厚:3.3、重:391.2。やや扁平な不整楕円状の円礫。表裏面に平滑な磨面を持つ	
PL.115	41	敲石	完形	環礫内	変質安山岩	長:10.3、幅:5.4、厚:3.7、重:289.7。不整楕円状の小型円礫。裏面及び右側面、下端左に敲打痕を集める。表面に弱い磨面を広げる	
PL.115	42	不明石製品	完形	埋土	石英	長:5.5、幅:1.6、厚:1.2、重:12.5。明瞭な剥離・調整痕を見出せないが、節理による剥離。棒状製品。素材であろうか	

62区14号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第237図 PL.115	1	深鉢	体部中位～ 底部1/3残 存	埋糞	細:石英・輝石/やや 軟/黄橙色	底:(16.6)。大型深鉢。体部中位に内湾を持たせ、渦巻文を中核とした垂下降線2・3条による懸垂文構成を呈す。空白部には縦位矢羽状短沈線を地文とし、縦位波状沈線を重ねる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第237図 PL.115	2	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・雲母/良好/ 赤褐色	垂下降線による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を施す。内面撫で調整	中期後葉
第237図 PL.115	3	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/ 赤褐色	縦位波状隆線1条による懸垂文構成。相向する斜位短沈線を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第237図 PL.115	4	深鉢	口縁部1/3 残存	炉内	粗:石英/やや軟/に ぶい黄橙色	口:(50.8)。大型深鉢。扇状突起両端より細身の把手が付される。突起中位は貫孔し上端は刺突文と沈線渦巻文を施す。口縁部文様帯は頸部隆線で画され、円形刺突文が重なる。把手両下端や波底部に小渦巻文を配し、縦位短沈線を充填する。他の破片では頸部に沈線による波状意匠と刺突文を見る。器面磨滅	中期後葉
第237図 PL.115	5	深鉢	体部下半残 存	埋糞	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/暗褐色	内湾気味に開く体部。3条の垂下降線による懸垂文構成。隆線によるV字状意匠を懸架し上位には弧状隆線を配す。斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第237図 PL.115	6	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	隆線による渦巻文下端より垂下降線が懸垂する。縦位矢羽状短沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第237図 PL.115	7	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	内湾する体部上半か。突起下端より垂下降線2条が懸垂する。斜位短沈線を施す。施文は深い。内面撫で調整	中期後葉
第237図 PL.115	8	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	2・3条の垂下降線による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を施す。薄手で内面撫で調整	中期後葉
第237図 PL.115	9	深鉢	体部破片	床直	粗:石英/良好/暗褐 色	垂下降線による懸垂文構成か。鱗状短沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第238図 PL.116	10	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	渦巻状突起より3条の垂下降線が派生する。縦位矢羽状短沈線を施す。内面撫で調整	中期後葉
第238図 PL.116	11	深鉢	体部破片	ピット3	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	隆線による渦巻文が懸架する。隆線間は横位短沈線、渦巻文周辺も短沈線を充填する。内面撫で、外面に少量の煤付着	中期後葉
第238図 PL.116	12	深鉢	体部破片	ピット3	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	あるいは口頸部か。隆線による小型の渦巻文を配し、斜位短沈線を充填する。側線は沈線。内面撫で調整	中期後葉
第238図 PL.116	13	深鉢	体部破片	ピット3	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	2条の隆線による大柄の渦巻状意匠か。斜位短沈線や横位短沈線を充填する。側線沈線。内面横位撫で調整	中期後葉
第238図 PL.116	14	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 黒褐色	口唇部肥厚。口縁部は沈線で画された楕円状区画文か。無節L縦位斜位施文。口唇部及び内面弱い研磨	中期後葉
第238図 PL.116	15	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄橙色	平縁か。口縁部横位隆線と斜位RL。隆線による区画文構成か。内面強い横位撫で調整後研磨を加える	中期後葉
第238図 PL.116	16	深鉢	口頸部破片	床直上	粗:石英/やや軟/橙 色	口縁部は2条の隆線による渦巻文を配す。おそらく区画文構成。頸部は無文か。器面磨滅	中期後葉
第238図 PL.116	17	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	体部上半か。2条の横位沈線間に円形刺突文を埋める。以下沈線による逆U字状区画を配しLRを充填する。内面研磨	中期後葉
第238図 PL.116	18	深鉢	体部破片	ピット3	細:石英・片岩/良好/ 赤褐色	垂下降線で画された施文部と磨消部による懸垂文構成。施文部側線は沈線、縦位RLを充填する。内面弱い研磨を施す	中期後葉
第238図 PL.116	19	深鉢	体部破片	床直	粗:石英/良好/明赤 褐色	厚手で内湾する体部中位。縦位密接条線が覆う。器面磨滅。内面撫で調整	中期後葉
第238図 PL.116	20	深鉢	体部1/5残 存	床直	粗:石英/やや軟/橙 色	頸部で括れ体部上半が内湾する。縦位LRが覆う。器面磨滅	中期後葉
第238図 PL.116	21	石鏃	左脚欠損	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:1.5、厚:0.5、重:1.1。凹基無茎鏃。完成状態。表面中央にやや厚みを残すが、丁寧な押圧剥離が全面を覆う	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第238図 PL.116	22	石鏃	基部・先端 欠損	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:2.0、厚:0.4、重:2.0。凹基無莖鏃。完成状態。やや粗い押圧剥離が全面を覆い、薄手に仕上げる。先端部丸い	
第238図 PL.116	23	石鏃	先端欠損	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:0.7、厚:0.3、重:0.6。完成状態。断面三角形の素材縁辺に細かな押圧剥離を施す。先端部の摩耗痕は見られない	
第238図 PL.116	24	石鏃未製品	一部欠損	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:1.5、厚:0.7、重:2.3。方形を呈し、上下両端から対向する細かな剥離を見る。	
第238図 PL.116	25	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:10.1、幅:4.8、厚:1.6、重:93.4。短冊形。完成状態。表面に礫面を大きく残し、粗い剥離で側縁と刃部を作出する。刃部の使用による磨滅痕は顕著	
第238図 PL.116	26	打製石斧	完形	埋土内	変質安山岩	長:12.9、幅:5.1、厚:2.4、重:174.0。短冊形。完成状態。長身の体部で側縁は直線状で刃部に最大幅を持たせる。刃部から体部に使用による磨滅痕が明瞭に見られる	
第238図 PL.116	27	磨製石斧	上半欠損	住居外	デイサイト凝灰岩	長:(6.3)、幅:6.1、厚:3.2、重:155.4。乳棒状か。製作時の研磨痕を全面に見る。刃部の欠損や刃こぼれは見られない	
第238図 PL.116	28	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:8.4、幅:6.3、厚:4.3、重:365.1。やや厚みのある方形を呈する円礫。敲打痕は浅く全面に見られる。表裏面とも平滑面を持つ	
第239図 PL.116	29	台石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:20.1、幅:15.2、厚:7.6、重:3580.0。大型のやや厚手の楕円状円礫。敲打痕が全面に広がる。表裏面に弱い平滑面を磨面として持つ	
第239図 PL.116	30	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.1、幅:6.8、厚:4.1、重:518.1。楕円状の円礫。全面に敲打痕が広がり、裏面と下端に集中する。平滑な磨面を表裏面と両側面に持つため断面は方形をなす。表面は光沢を帯びる	
第239図 PL.116	31	凹石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:15.9、幅:9.0、厚:5.0、重:1070.0。厚みのある楕円状円礫。表裏面周縁に敲打痕を見るが、表裏中央部に凹みとして集まる	
PL.116	32	石鏃	脚部残存	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.9、厚:0.3、重:(0.7)。凹基無莖鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に及び薄手に仕上げている	
PL.116	33	石鏃	脚部欠損	ピット1	黒曜石	長:(1.6)、幅:(1.1)、厚:0.2、重:(0.4)。完成状態。丁寧な押圧剥離により薄手に仕上げている。	
PL.116	34	打製石斧	上半欠損	床直	黒色頁岩	長:(9.8)、幅:6.5、厚:2.2、重:175.0。短冊形。完成状態。やや細かい剥離により直線的な側縁と凸刃を作出する。刃部に僅かに使用による磨滅痕を見る	
PL.116	35	打製石斧	完形	住居外	変質安山岩	長:9.5、幅:4.3、厚:1.7、重:70.0。短冊形。完成状態。上位に僅かな括れを設け下半に最大幅を持つ。刃部に僅かな使用による磨滅痕を見る	
PL.116	36	打製石斧	破片	埋土	細粒輝石安山岩	長:(8.5)、幅:(4.8)、厚:(1.5)、重:66.0。短冊形の刃部片か。表面に礫面を大きく残す。刃部に使用による磨滅痕を見る	
PL.116	37	スクレイパー	左側半欠損	埋土	赤碧玉	長:1.7、幅:(1.6)、厚:0.35、重:(1.0)。あるいは石鏃か。薄手で押圧剥離が施される	

62区15号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第244図 PL.117	1	深鉢	口頸部～体部 上半残存	埋土	粗:石英・小礫/良好/ 暗赤褐色	隆線による口縁部区画文構成。沈線を側線とし縦位LRを充填する。体部は垂下沈線3条の懸垂文構成。縦位LRを施す。内面撫で調整	中期後葉
第244図 PL.117	2	深鉢	体部残存	床直 62-1 4	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/灰褐色	隆線による口縁部渦巻文構成か。体部は垂下沈線2条による幅狭磨消部懸垂文構成。施文部は広く縦位LRを充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第244図 PL.117	3	深鉢	口縁～体部 残存	炉内	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	口:21.0。4単位波状口縁。波頂部に隆線による渦巻文を配し、不整楕円状の区画文が接続する。側線は幅広の沈線。体部は垂下沈線に画された施文部と磨消部の懸垂文構成。円形区画文や蕨手状沈線文などを配す。縄文はLR充填施文。内面平滑な撫で調整。口唇部周辺に被熱痕跡を見る	中期後葉
第244図 PL.117	4	深鉢	体部下半～ 底部残存	床直	細:輝石/良好/にぶ い橙色	底:5.4。下半に内湾を持たせる。2条の横位波状沈線を設け、以下逆U字状意匠と蕨手状沈線文を充てる懸垂文構成。5単位を数える。施文部は縦位LRを充填する。内面弱い縦位研磨を施す	中期後葉
第244図 PL.117	5	深鉢	口縁部1/2 ～体部残存	埋土	細:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	口:22.0。4単位波状縁。波状突起を配した波頂部下に隆線による渦巻文と区画文を接続する。区画下端は沈線。突起内面は沈線による渦巻文を施す。体部は2条の垂下沈線による幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LRを充填し縦位波状沈線を加える。内面弱い研磨	中期後葉
第244図 PL.117	6	深鉢	口縁～体部 上半1/3残 存	埋土	細:輝石/良好/橙色	口:(18.0)。波状突起頂部と直下を渦巻文が縦位に接続する。隆線による区画文を配し沈線を側線とする。体部は垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。縄文はLR充填施文。磨消部及び内面研磨を施す	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第244図 PL.117	7	深鉢	口縁～体部 上半1/2残存	埋土	細:石英・輝石・雲母/ 良好/褐色	口:22.3。緩やかな4単位波状縁。波頂部下に隆線による渦巻文を配し楕円状区画文を接続する。側線は沈線、LRを充填する。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文。内面横位研磨	中期後葉
第244図 PL.117	8	深鉢	口縁～体部 上半1/3残存	埋土	細:石英・輝石/良好/ 褐色	口:(17.0)。体部中位の括れ部に2条の円形刺突文列を設ける。上位に沈線による横位波状文、下位に逆U字状懸垂文を配す。地文は口唇部横位LR、体部縦位LRを施すが、硬質な原体か。内面研磨	中期後葉
第244図 PL.117	9	鉢	口縁～体部 1/2残存	埋土	細:輝石/良好/にぶ い橙色	口:(9.7)。口縁部短く直立し強い横位撫で調整を加える。体部は縦位・斜位RLが多い、下半に斜位撫で調整が重なる。内面平滑な撫で。内外面に黒色付着物	中期後葉
第245図 PL.117	10	深鉢	口縁～体部 上半1/3残存・口縁部 破片	埋土	細:輝石/良好/灰黄 褐色	口:(17.0)。薄手の器厚を呈す。体部上半に横位波状沈線を設け、波頂部に逆U字状意匠を配す。下半には縦位蕨手状沈線を磨消部に配す。縄文は口唇部横位、体部縦位RL充填施文。内面研磨。	中期後葉
第245図 PL.117	11	深鉢	口縁～体部 上半1/4残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	口:(12.0)。波状突起を付す。単位は不明。突起下に垂下沈線で画された磨消部懸垂文を配す。地文に縦位無節Lを施し、縦位波状密接条線を重ねる。比較的乱雑な施文。内面撫で調整に止まる	中期後葉
第245図 PL.117	12	深鉢	口縁部1/4 ～体部上半 3/4残存	床直 62-1 4	粗:輝石/良好/にぶ い赤褐色	口:(39.0)。大型深鉢。口縁部に幅広の横位凹線を設け以下隆線による楕円状区画文と渦巻文を配す。側線は凹線で横位RLを充填する。体部は垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第245図 PL.118	13	深鉢	口縁～体部 破片2点	埋土 62-1 4	粗:石英・輝石/良好/ 暗赤褐色	口:(31.6)。波状突起下に隆線による渦巻文を配し楕円状区画文を接続する。体部は垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部及び口縁部区画内は縦位波状密接条線を充填する。磨消部は研磨を加えるも内面は撫でに止まる	中期後葉
第245図 PL.118	14	深鉢	体部下半～ 底部残存	床直	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/褐色	底:7.2。内湾気味に開く体部下半。垂下沈線に画された施文部と磨消部の懸垂文構成。施文部は縦位LR充填後縦位波状沈線を施す。内面平滑な撫で	中期後葉
第245図 PL.118	15	深鉢	体部下半～ 底部1/2残存	埋土	細:石英・輝石/良好/ 褐色	底:(7.0)。2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位LR充填施文か。器面磨滅。内面平滑な撫で調整。被熱痕跡を見る	中期後葉
第245図 PL.118	16	深鉢	体部下半 1/2～底部 残存	床直上	細:石英・輝石/良好/ 橙色	底:6.0。内湾気味に開く体部。2条の垂下沈線に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。内面弱い研磨。体部外面に被熱痕跡を見る	中期後葉
第245図 PL.118	17	深鉢	体部下半 1/3～底部 残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 明褐色	底:6.4。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部はRL縦位充填施文か。内面平滑な撫で調整。煤付着	中期後葉
第245図 PL.118	18	深鉢	体部下半 2/3～底部 残存	床直上	細:石英・輝石/良好/ 橙色	底:7.0。垂下沈線2・3条による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文。磨消部、底面及び内面は研磨を施す	中期後葉
第245図 PL.118	19	深鉢	体部下半～ 底部1/3残存	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	底:(8.0)。厚手の器厚。垂下沈線2条による懸垂文構成下端を見る。斜位撫で調整痕が顕著に残る。内面弱い縦位研磨	中期後葉
第245図 PL.118	20	深鉢	口縁部1/2 残存	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	口:(52.0)。大型深鉢の無文口縁部。比較的薄手の器厚を呈す。内外面平滑な撫で調整	中期後葉
第245図 PL.118	21	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口唇部内面は肥厚し口縁部強く開く。無文で内外面平滑な横位撫で調整	中期後葉
第245図 PL.118	22	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	口縁部内外面肥厚する。外面肥厚下に沈線を施すが他は無文。弱い縦位研磨を施す。内面横位撫で調整	中期後葉
第245図 PL.118	23	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 暗褐色	外反する無文の口縁部。内外面とも横位研磨を施す。補修孔を穿つ	中期後葉
第246図 PL.118	24	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・輝石・小礫/ 良好/にぶい赤褐色	波状縁。太い隆線による口縁部区画文構成。側線は撫で、横位RLRを充填する。頸部は無文で下位に横位沈線を設けるか。内面弱い研磨	中期後葉
第246図 PL.118	25	深鉢	口縁～体部 上半破片	埋土	粗:石英・輝石・小礫/ 良好/にぶい褐色	大型深鉢。太い隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は撫で。体部は垂下沈線と蕨手状沈線による懸垂文構成。縦位密接条線を施す。内面弱い横位研磨	中期後葉
第246図 PL.118	26	深鉢	口縁～体部 上半破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	大型深鉢。太い隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は撫で。縄文はLR充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第246図 PL.118	27	深鉢	口縁～体部 上半破片	埋土	細:輝石/良好/暗褐 色	口縁部隆線による渦巻文と区画文構成。波状突起を付す。区画内は沈線を側線としLRを充填する。体部は3条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LR充填施文。内面及び磨消部は研磨を施す	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第246図 PL.118	28	深鉢	口縁～体部 上半1/4残存	埋土	粗:石英/良好/明赤 褐色	口縁部は隆線による区画文と渦巻文が一体化する。側線は沈線で縦位密接条線を充填する。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は密接条線を斜格子目状に施す。内面平滑な撫で。口縁部に被熱痕跡	中期後葉
第246図 PL.118	29	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 赤褐色	口頸部か。凹線による施文。区画文と磨消部懸垂文。縄文はL R L 充填施文。磨消部は研磨を加える。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第246図 PL.118	30	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	滑車状の波状突起。中位に円孔を穿つ。隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は凹線でR Lを充填する。内面横位研磨。少量の煤を付着する	中期後葉
第246図 PL.119	31	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	太い隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は撫で、斜位R Lを充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第246図 PL.119	32	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい黄橙色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位R L 充填施文後縦位波状沈線を重ねる。内面研磨	中期後葉
第246図 PL.119	33	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口縁部楕円状区画文。下端部は沈線で画し横位R Lを充填する。体部は縦位密接条線が覆う。内面平滑な撫で	中期後葉
第246図 PL.119	34	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ 暗褐色	垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部は縦位R L 充填施文。内面研磨	中期後葉
第246図 PL.119	35	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・小礫/ 良好/にぶい褐色	2条の沈線に画された磨消部による横位波状文が配される。縦位密接条線が充填施文される。やや浅い施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第247図 PL.119	36	浅鉢	体部1/3残存	床直上	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	強く開く体部下半。無文で外面は縦位研磨、内面は横位研磨を施す。器面磨滅	中期後葉
第247図 PL.119	37	浅鉢	口縁～体部 破片	埋土	細:石英・輝石・片岩/ 良好/暗赤褐色	口唇部外面突出。体部は僅かに内湾する。内外面とも丁寧な研磨を施す。赤彩痕は僅かに見られる	中期後葉
第247図 PL.119	38	浅鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口唇部外面肥厚し、赤彩痕を明瞭に見る。器面磨滅	中期後葉
第247図 PL.119	39	深鉢	口頸部破片	埋土	細:石英/良好/褐色 ～黒褐色	薄手の器厚。細隆線による口縁部区画。頸部は無文か。内外面とも丁寧な研磨を施し、微量の赤彩痕を見る	中期後葉
第247図 PL.119	40	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 灰黄褐色	口縁部は幅狭で横位隆線で画される。区画内側線は沈線で横位矢羽状短沈線を充填する。頸部は無文か。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第247図 PL.119	41	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 暗褐色	低位波状突起。口唇部に沈線を施し、波頂部下に沈線による渦巻文を配す。横位弧状短沈線の充填か。内面は弱い研磨を施す	中期後葉
第247図 PL.119	42	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 暗褐色	2条隆線による口縁部区画文と下位に付けられた小渦巻文。区画内は横位矢羽状短沈線を充填する。器面磨滅。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第247図 PL.119	43	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい褐色	口頸部に付けられた2条隆線による渦巻状意匠。下端より垂下隆線3条が派生する。側線に円形刺突文。内面撫で	中期後葉
第247図 PL.119	44	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成か。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第247図 PL.119	45	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は横位弧状短沈線を充填する。内面縦位研磨	中期後葉
第247図 PL.119	46	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ 黒褐色	体部上半。頸部外反し体部境で屈曲する。体部は櫛歯状工具による刺突文を施す。内面平滑な撫で	中期後葉
第247図 PL.119	47	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 赤褐色	沈線のみ施文か。3条の垂下沈線間に刺突文を施す。懸垂文構成か。沈線による弧状意匠文や円形刺突文を配す。内面撫で調整	中期後葉か
第247図 PL.119	48	深鉢	口縁部突起	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	柱状の突起で横位に橋状把手を付す。隆線の上に刻みを施し突起側面は沈線文や三叉文を配す	中期末葉
第247図 PL.119	49	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.1、厚:0.3、重:0.4。小型の凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が表裏面を覆い、特に抉り部の調整が入念である	
第247図 PL.119	50	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.5、幅:1.3、厚:0.3、重:0.3。小型の凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離により三叉状の形態に仕上げる	
第247図 PL.119	51	石鏃	左脚欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:(1.1)、厚:0.3、重:0.4。小型で細身の凹基無茎鏃。完成状態。先端部も僅かに欠す。表裏面とも押圧剥離が覆う。脚部を内湾気味に仕上げる意図がある	
第247図 PL.119	52	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:1.5、厚:0.3、重:0.5。平基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が表裏面を覆う	
第247図 PL.119	53	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:1.5、厚:1.3、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が表裏面に施され、薄手で整った形状に仕上げている	
第247図 PL.119	54	石鏃	右脚欠損	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:1.5、厚:0.3、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態丁寧な押圧剥離で全体を覆う	
第247図 PL.119	55	石鏃	先端欠損	埋土	黒曜石	長:(2.0)、幅:1.8、厚:0.4、重:1.4。凹基無茎鏃。完成状態。やや大型で裏面中央に素材面を残す。押圧剥離が周縁に施される	
第247図 PL.119	56	石鏃未製品	先端・左脚 欠損	炉内	黒曜石	長:(2.6)、幅:(1.9)、厚:0.6、重:1.8。凹基無茎鏃。あるいは完成状態か。裏面の押圧剥離は及ばず、抉り部は脚部が非対称となる	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第247図 PL.119	57	石鏃未製品	上部欠損	埋土	黒曜石	長:(2.0)、幅:2.2、厚:0.7、重:2.0。やや細身の素材縁辺を押圧剥離で調整する。上端よりの加撃で大きく欠損し、製作を中止したと思われる	
第247図 PL.119	58	加工痕ある剥片	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(2.7)、幅:2.0、厚:0.6、重:2.3。縦長剥片を素材とし、両側縁に細かな調整を施し、刃部とする	
第247図 PL.119	59	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:0.6、厚:0.3、重:0.3。小型の縦長剥片を素材とし、両側縁に細かな調整を施す。使用痕は見られない	
第247図 PL.119	60	石鏃	下半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.9)、幅:0.7、厚:0.5、重:0.7。断面紡錘状の棒状素材周縁を押圧剥離で調整する。使用痕は見られない	
第247図 PL.119	61	原石	完形	埋土	黒曜石	長:4.1、幅:4.9、厚:3.4、重:53.6。角縁・漆黒。礫面を多く残す。不純物は礫面に止まる	
第248図 PL.119	62	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:8.7、幅:4.3、厚:1.9、重:83.4。短冊形。完成状態。比較的細かな剥離で中位に括れを設ける。使用による磨滅痕が刃部裏面と頭部表面に見られる	
第248図 PL.119	63	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:10.8、幅:3.3、厚:1.3、重:43.9。短冊形。完成状態。非対称ながら細身に細かな剥離で薄手に仕上げる。刃部表面に使用による磨滅痕を見る	
第248図 PL.119	64	磨石	完形	埋土	変質安山岩	長:10.4、幅:6.6、厚:3.2、重:440.4。やや扁平な不整形形状の円礫。表裏面に平滑な磨面を持つ	
第248図 PL.119	65	敲石	完形	埋土	ひん岩	長:9.5、幅:6.2、厚:2.6、重:274.6。扁平な不整形円状の円礫。敲打痕は全面に見られるが、端部に集中する。表裏面に磨面	
第248図 PL.119	66	磨石	完形	埋土	変質安山岩	長:11.4、幅:8.2、厚:6.5、重:886.1。やや厚手の楕円状円礫。敲打痕を全面に見る。表裏面に磨面を持ち裏面は平滑面が広がる	
第248図 PL.119	67	敲石	一部欠損	ピット4	粗粒輝石安山岩	長:10.1、幅:7.5、厚:4.5、重:510.6。やや厚手の楕円形状円礫。敲打痕が全面に広がり、表裏面中央や左側縁下位に集まる。表裏面には平滑な磨面を持つ	
第248図 PL.120	68	丸石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.6、幅:11.4、厚:9.1、重:1423.6。球状円礫。全面に敲打痕が広がり、断面円錐形の孔も設けられる。被熱によるクラックか	
第248図 PL.120	69	台石	完形	炉石	石英閃緑岩	長:30.9、幅:18.2、厚:11.5、重:10800.0。大型の不整形楕円状を呈する円礫。表裏面に敲打に伴う凹みが少量見られ平滑な磨面が広がる。表面段差に沿って敲打が連なる	
第249図 PL.120	70	台石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:19.4、幅:15.5、厚:6.5、重:3385.0。やや厚手の扁平な円礫。小型の部類。表裏面に平滑な磨面が広がる。裏面に敲打痕を僅かに見る	
第249図 PL.120	71	石棒	体部のみ残存	埋土	デイサイト	長:(14.2)、幅:12.3、厚:10.3、重:3150.0。大型石棒体部中位上下に意図的な欠損を加える。器表面は丁寧な平滑面が広がる	
第249図 PL.120	72	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:17.7、幅:10.6、厚:6.5、重:1295.0。不整形の角礫。表面中央のみに断面円錐状の孔を見る	
PL.120	73	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.5)、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。おそらく完成状態。極めて粗い押圧剥離が表裏交互に施され整形する	
PL.120	74	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.0)、幅:(1.2)、厚:0.2、重:0.3。先端部のみ残存。押圧剥離による整形	
PL.120	75	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.6)、幅:(1.1)、厚:0.25、重:0.5。先端部のみ残存。比較的粗い押圧剥離による整形	
PL.120	76	石鏃	右脚部欠損	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:(1.8)、厚:0.35、重:1.1。平基無茎鏃。完成状態。細かな押圧剥離により薄手に仕上げる	
PL.120	77	石鏃未製品	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.1、厚:0.5、重:(1.0)。あるいは石鏃未製品か。両側面に押圧剥離を施すものの表面稜を強く残す	
PL.120	78	打製石斧	刃部片	埋土	黒色頁岩	長:(4.6)、幅:(5.1)、厚:(1.6)、重:36.7。短冊形か。夾雑物による歪みがある。刃部周辺の使用痕が著しく、再利用品の可能性もある	
PL.120	79	打製石斧	体部残存	埋土	変質安山岩	長:(9.4)、幅:5.8、厚:1.3、重:98.6。短冊形。完成状態か。比較的細かな剥離による直線的な側縁が作出される	
PL.120	80	打製石斧	破片	埋土	黒色頁岩	長:(6.7)、幅:(3.8)、厚:1.1、重:24.2。頭部破片。短冊形か。小型で粗い剥離で側縁を作出する	
PL.120	81	打製石斧	下部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(11.2)、幅:5.4、厚:1.2、重:92.6。短冊形。完成状態。粗い剥離で薄手で側縁は直線上に仕上げる	
PL.120	82	打製石斧	上半欠損	埋土	変玄武岩	長:(9.2)、幅:7.0、厚:2.4、重:205.1。短冊形。完成状態。大型で刃部の一部が欠損した後も使用を繰り返し、顕著な縦位磨滅痕が残る	
PL.120	83	打製石斧	破片	埋土	黒色頁岩	長:4.8、幅:4.7、厚:1.0、重:29.7。短冊形。刃部破片か。風化により器面磨滅する	
PL.120	84	打製石斧	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(7.0)、幅:4.9、厚:1.8、重:84.3。短冊形。完成状態。頭部のみ残存。粗い剥離による作出	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.120	85	打製石斧	体部残存	埋土	細粒輝石安山岩	長:(6.1)、幅:6.4、厚:0.8、重:40.1。短冊形。完成状態。粗い剥離により直線的な側縁を作出する。薄手	
PL.120	86	スクレイパー	完形	埋土	黒色安山岩	長:6.9、幅:3.2、厚:1.2、重:30.7。縦長剥片を素材とし、粗い剥離で石槍状に整形する	
PL.120	87	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.8、幅:2.2、厚:0.7、重:1.9。縦長剥片を素材とし、右側縁と下端部に細かな調整を施し刃部とする	
PL.120	88	使用痕ある剥片	左半欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(7.0)、幅:(5.6)、厚:2.5、重:85.9。横長剥片を素材とし、下端部を刃部とする。細かな刃こぼれを見る	

62区16号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第252図 PL.120	1	深鉢	口縁～体部 破片3点	床直	粗:輝石/良好/橙色	口:(45.0)。大型深鉢。口縁部は隆線による楕円状区画文。区画内は沈線を側線としRLを充填する。補修孔を穿つ。体部は沈線による円形区画文と蕨手状沈線文を配す。区画内は斜位RLを施す。内面横位研磨	中期後葉
第252図 PL.120	2	深鉢	体部破片	床直上	粗:輝石/良好/にぶい 橙色	体部下半。おそらく1と同一個体。垂下沈線3条による懸垂文下端。施文部縄文は縦位・斜位RL充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第252図 PL.121	3	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英/良好/にぶい 黄褐色	口縁部肥厚し無文。隆線による渦巻文と区画文構成。側線は幅広の沈線。LR縦位充填施文。内面は強い削り調整後弱い研磨	中期後葉
第252図 PL.121	4	深鉢	口縁～体部 上半破片2点	床直	粗:石英・輝石/良好/ 黒褐色	口:(43.0)。大型深鉢。口縁部は隆線による楕円状区画文構成。側線は凹線で斜位・縦位LLRを充填する。体部は、垂下沈線2条に画された幅広の磨消部懸垂文構成。磨消部に縦位蕨手状沈線が加わる。施文部は縦位LLRを施す。内面は弱い研磨	中期後葉
第252図 PL.121	5	深鉢	口縁部破片	床直	粗:石英・輝石/やや 軟/黄褐色	波状突起を付し直下に隆線による渦巻文を配す。側線は幅広の沈線か。口縁部は横位LR、体部は斜位LRを充填する	中期後葉
第252図 PL.121	6	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口縁部肥厚し無文。横位沈線3条を設け、沈線2条が垂下する。波状沈線も縦位に施される。地文は縦位LRか	中期後葉
第252図 PL.121	7	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 黒褐色	厚手で口縁部肥厚する。おそらく区画文構成。縄文は無節L斜位充填施文	中期後葉
第252図 PL.121	8	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 黒褐色	幅広の無文口縁部を横位隆線で画す。体部は2条沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は弧状短沈線を埋める。内面撫で	中期後葉
第252図 PL.121	9	深鉢	口縁部破片	床直	細:石英・輝石/良好/ 黒褐色	2条の沈線による弧状意匠・逆U字状意匠か。縄文はLR充填施文。内面研磨	中期後葉
第252図 PL.121	10	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/にぶい 黄褐色	外反する幅広の無文口縁部。外面は弱い縦位研磨、内面は横位撫で調整を施す。補修孔を見る	中期後葉
第252図 PL.121	11	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	波状縁、波頂部欠損。波頂部に縦位に連接する隆線渦巻文を配し、下端より2条隆線が垂下する。口縁部文様帯は幅狭で縦位短沈線を充填する。体部は斜位短沈線を施す。内面横位撫で調整	中期後葉
第252図 PL.121	12	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 暗褐色	内湾する体部上半か。太い隆線で画された無文部懸垂文構成か。側線は沈線。施文部は無節L充填施文	中期後葉
第253図 PL.121	13	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/やや 軟/灰黄色	沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は無節L斜位充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第253図 PL.121	14	深鉢	体部破片	床直	粗:輝石/良好/橙色	外反する体部中位。6・7本単位の密接条線が縦位波状に施される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第253図 PL.121	15	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	薄手の器厚を呈し、内湾する体部上半。幅広の沈線数条が垂下する。内外面弱い研磨	中期後葉
第253図 PL.121	16	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部は鱗状短沈線を充填する	中期後葉
第253図 PL.121	17	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	内湾する体部中位～下半。沈線による大柄の渦巻文を配し横位蕨手状沈線などを配す。器面磨滅。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第253図 PL.121	18	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	内湾する体部中位。垂下隆線1条による懸垂文構成。縦位沈線を地文状に施し、横位沈線3条を加える。内面撫で	中期後葉
第253図 PL.121	19	浅鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・片岩/良好/ 赤褐色	口縁部は短く外傾し体部上半に内湾部を設ける。無文で口縁部内外面に横位研磨を施し赤彩を加える	中期後葉
第253図 PL.121	20	浅鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/褐色	口縁部外面強く突出し体部内湾は緩やか。内外面横位研磨を施す。赤彩痕を見る	中期後葉
第253図 PL.121	21	深鉢か	体部突起片	床直上	細:輝石/良好/にぶい 赤褐色	球状の中空突起。沈線による渦巻文が施される	中期中葉末か
第253図 PL.121	22	ミニチュア土器	底部残存	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	底:3.8。深鉢の模倣。垂下沈線を施した懸垂文構成。細沈線による斜位・渦巻状の短沈線意匠。内面撫で	中期後葉
第253図 PL.121	23	深鉢	底部残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	底:7.6。底面器厚極めて厚手で3.0cmを測る。内面撫で	中期後葉
第253図 PL.121	24	深鉢	底部1/2残存	床直上	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	底:8.4。外面縦位・斜位撫で調整。内面撫で	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第253図 PL.121	25	深鉢	底部1/3残存	埋土	粗:石英/良好/にぶい黄褐色	底:(12.4)。外面平滑な撫で調整。内面の器壁磨滅	中期後葉
第253図 PL.121	26	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/にぶい褐色	刻みを付す隆線による非対称な口唇部形状を呈す区画文。区画内は単列の角押文と刺突文を施し、中位横位鋸歯文を充てる。内面も弧状の小突起を付す	中期前葉
第253図 PL.121	27	浅鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/にぶい橙色	屈曲部で剥落。口縁部は複列の結節沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第253図 PL.121	28	深鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/にぶい黄褐色	波状口縁。刻みを付す隆線を口縁部に設け、波頂部に同隆線による渦巻状突起を配す。内面平滑な撫で	中期中葉末
第253図 PL.122	29	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.0、幅:0.9、厚:0.2、重:0.1。小型の凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が表裏面を覆う。挟り部への作出も丁寧である	
第253図 PL.122	30	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.6、幅:1.5、厚:0.4、重:1.4。凹基無茎鏃。完成状態。先端部平面形は丸みを帯び、翼状の脚部を持つ。押圧剥離による作出だが、裏面に素材面を大きく残す	
第253図 PL.122	31	打製石斧	下半欠損	埋土	黒色頁岩	長:(7.4)、幅:4.8、厚:1.3、重:50.4。短冊形。完成状態。粗い剥離で側縁を直線的に作出する	
第253図 PL.122	32	打製石斧	完形	床直上	変質安山岩	長:11.3、幅:5.1、厚:2.8、重:174.8。短冊形。完成状態。比較的細かい剥離で直線的な側縁を作出する。右側縁に使用磨滅痕を見ることが調整剥離が新しく再利用と見る	
第253図 PL.122	33	磨石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:10.2、幅:6.3、厚:2.7、重:269.2。扁平な不整楕円状の円礫。表裏面中央に平滑面を持つ。敲打痕は少量を見る	
第253図 PL.122	34	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.8、幅:4.7、厚:3.1、重:224.0。小型の不整楕円状の円礫。表裏面及び左側面に弱い磨面を持つ	
PL.122	35	石鏃	破片	埋土	黒曜石	長:(1.1)、幅:1.2、厚:0.3、重:0.3。左辺脚部のみが残存。押圧剥離による作出	
PL.122	36	石鏃	先端・脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.6)、幅:(1.4)、厚:0.3、重:0.7。体部のみが残存。薄手で丁寧な押圧剥離が覆う	
PL.122	37	石鏃	破片	埋土	黒曜石	長:(1.3)、幅:(1.0)、厚:0.2、重:0.3。先端部のみが残存。薄手で押圧剥離が施される	
PL.122	38	打製石斧	下半欠損	埋土	黒色頁岩	長:(6.4)、幅:4.3、厚:1.4、重:55.1。短冊形。完成状態。頭部のみが残存で、比較的細かな剥離による作出である。磨滅痕を切っており、再利用と思われる	
PL.122	39	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.3、幅:1.9、厚:0.8、重:4.4。横長剥片周縁に微細剥離が見られる。刃こぼれと判断した	

62区17号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第257図 PL.122	1	深鉢	口縁1/2欠損	床直上	粗:輝石/良好/明赤褐色	口:36.0、高:42.5、底:8.0。キャリアー状の深鉢。口縁部は隆線による渦巻文と連接する区画文構成。区画内は凹線を側線とし横位RLを充填する。多帯じゃ上下2帯構成で、上位が縦位楕円状区画と蕨手状沈線と弧線文、下位は分岐懸垂文と蕨手状沈線を配す。いずれも7単位を数える。縦位・斜位RLを充填する。内面研磨	中期後葉
第257図 PL.122	2	深鉢	口縁~体部 中位1/3残存	埋土	細:輝石/やや軟/橙色	口:(22.1)。口縁部内湾し無文。横位沈線を設け以下沈線による逆U字状懸垂文と縦位蕨手状沈線文2種を配す。磨消部と施文部の交互規則性は崩れている。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第257図 PL.122	3	深鉢	体部1/4残存	床直上	粗:石英・輝石/良好/橙色	体部下内湾。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位無節L充填施文。内面撫で。下半に被熱痕跡を見る	中期後葉
第257図 PL.122	4	深鉢	口縁部破片	床直上	細:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	隆線による口縁部楕円状区画文。撫でを側線としRLを充填施文する。体部は垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部の縦位波状沈線上端を見る。内面弱い撫で	中期後葉
第257図 PL.122	5	深鉢	口縁部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/褐灰色	大型深鉢。太い隆線による口縁部区画文。おそらく渦巻文も附帯する。側線は撫で、無節Lを横位充填施文する。体部は垂下沈線に画された施文部懸垂文構成か、無節L縦位施文。内面撫で調整	中期後葉
第257図 PL.122	6	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	口唇部肥厚。凹線による口縁部区画上端。横位RLを充填する。内面弱い横位研磨	中期後葉
第257図 PL.122	7	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/やや軟/黒褐色	口唇部内面肥厚。口縁部は内湾し口唇部に横位LRを施し以下縦位に施文する。器面磨滅	中期後葉
第257図 PL.122	8	深鉢	口縁部突起片	埋土	細:石英/良好/にぶい赤褐色	波頂部に設けられた小型の橋状把手。両側面と裏面から貫孔する。把手正面には沈線による縦位S字状意匠を配し、体部は弧状沈線を施す。内面研磨	中期後葉
第257図 PL.122	9	深鉢	口縁部突起片	埋土	細:石英/良好/灰黄褐色	小型の柱状突起。上端に渦巻文を配し下位に繋げる。体部は沈線で画された磨消部逆U字状区画意匠。施文部縄文は縦位RL。内面研磨	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第257図 PL.122	10	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	外反する口縁部。無文で内外面とも研磨を施す	中期後葉
第257図 PL.123	11	壺	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	頸部外反し無文。横位隆線を設け以下区画文を派生する。側線と沈線としLRを充填する。内面研磨	中期後葉
第257図 PL.123	12	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ /褐色	あるいは両耳壺か。頸部は外反し無文。横位隆線を設け以下縦位RLを施す。内面弱い研磨	中期後葉
第257図 PL.123	13	深鉢	口頸部破片	床直上	粗:石英/良好/浅黄 褐色	太い隆線による口縁部楕円状区画文。側線は凹線。横位RLを充填する。内面横位研磨	中期後葉
第257図 PL.123	14	壺	体部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/ 良好/暗灰黄色	頸部は外反し無文。体部上半は強く内湾し沈線による弧状意匠を配す。区画内は縦位RL。内外面とも平滑な撫で調整	中期後葉
第258図 PL.123	15	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	あるいは両耳壺か。体部上半に設けられた横位隆線に大型の橋状把手を付す。体部は縦位沈線と縦位LRを施す。内面撫で調整	中期後葉
第258図 PL.123	16	壺	頸部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	頸部は強く屈曲する。体部上半に横位隆線2条を設け、小型の橋状把手を付す。内外面とも研磨を施す	中期後葉
第258図 PL.123	17	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ /褐色	頸部は外反し無文。体部上半に押圧を加える横位隆線を設け、橋状把手を設ける。把手上面には沈線による腕骨状意匠を施す。体部は弧状沈線が施され、無節Lを重手する。内面撫で調整	中期後葉
第258図 PL.123	18	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/やや 軟/にぶい黄褐色	垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。磨消部には縦位波状沈線を加える。施文部縄文は不明。器面磨滅	中期後葉
第258図 PL.123	19	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ /灰黄褐色	垂下沈線2条に画された幅広磨消部懸垂文構成。施文部縄文はLR縦位充填施文。内面弱い横位研磨	中期後葉
第258図 PL.123	20 ~ 22	深鉢	口頸部・体部破片3点	埋土	細:石英・輝石/良好/ /褐色	細隆線による口縁部区画文。側線に沈線、縦位密接条線を充填する。体部は2条の沈線による逆U字状磨消部懸垂文。施文部は縦位密接条線を地文とし縦位波状沈線を重ねる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第258図 PL.123	23	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ /浅黄褐色	体部下半。2条の垂下沈線に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。内面平滑な撫で	中期後葉
第258図 PL.123	24	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	平縁の波状突起に隆線による渦巻文を配す。中位より横位弧状隆線が派生する。おそらく2段の口縁部区画文か。斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第258図 PL.123	25	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/ にぶい黄褐色	隆線による渦巻状突起を頂部とし、両下端より隆線が垂下し、横位隆線2条や渦巻文も派生する。隆線間には円形刺突文や交互刺突文を埋める。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第258図 PL.123	26	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/ 良好/褐色	体部上半か。内皮平行沈線による波状文以下弧状隆線を配し、斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第258図 PL.123	27	深鉢	口頸部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ /灰黄褐色	薄手の器厚。隆線による弧状・渦巻状意匠より横位隆線が派生する。口縁部は区画文で斜位短沈線を充填する。体部は弧状沈線を配し短沈線を埋める。内面平滑な撫で	中期後葉
第258図 PL.123	28	深鉢	体部下半 1/3~底部 残存	床直上	粗:石英/やや軟/灰 白色	底:6.6。内湾気味に開く体部下半。2条の垂下沈線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状沈線を施す。内面平滑な撫で調整。外面は被熱痕跡のため器面磨滅	中期後葉
第258図 PL.123	29	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・輝石/良好/ /暗褐色	内湾する体部上半か。横位隆線を設け以下2条隆線による弧状・渦巻状意匠を配す。沈線を側線とする。空白部は縦位・斜位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第258図 PL.123	30	深鉢	口縁~体部 上半破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	口:(41.4)。大型深鉢。口縁部は高い隆線による渦巻文と区画文構成。下位にも沈線による楕円状意匠を配す。区画内は沈線を側線とし横位RLを充填する。無文の頸部を経て体部は横位沈線で画され2条隆線による大柄な弧状意匠を配す。内面平滑な横位撫で調整	中期後葉
第258図 PL.123	31	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ /褐色	2条隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。区画内は沈線を側線とし縦位RLを地文とする。頸部は無文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第258図 PL.123	32	土製円盤	一部欠損	埋土	粗:石英/やや軟/橙 色	径:3.8×4.2、厚:1.1cm、重:13.2g。深鉢体部破片の再利用。周縁を磨滅するが、器面も磨滅しており遺存度が悪い	中期後葉
第258図 PL.123	33	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:11.2、幅:4.5、厚:1.7、重:93.8。短冊形。完成状態。比較的細かな剥離により直線的な側縁と刃部を作出する。刃部周辺及び裏面頭部に使用による磨滅痕を見る	
第259図 PL.123	34	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.6、幅:8.8、厚:4.2、重:599.0。やや扁平な楕円状円礫。敲打痕は全体に広がるが、表裏面中央に集まり凹みとなる。表裏面とも平滑面を見る	
第259図 PL.123	35	磨石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:15.4、幅:8.6、厚:5.0、重:1053.7。大型でやや厚手の楕円状円礫。敲打痕は上下端部に集まる。平滑面が表裏面に見られる	
第259図 PL.123	36	多孔石	完形	床直	粗粒輝石安山岩	長:19.9、幅:16.3、厚:11.5、重:4160.0。大型の不定形な角礫。表裏面に断面円錐状の孔を多数設ける	

遺物観察表

62区18号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第260図 PL.124	1	深鉢	体部破片	ピット7	粗:石英/良好/暗褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。側線は沈線。斜位沈線を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第260図 PL.124	2	深鉢	体部破片	ピット4	粗:石英・輝石/やや軟/褐色	頸部に設けられた刻みを付す横位隆線。器面磨減	中期後葉
第260図 PL.124	3	深鉢	体部破片	ピット5	粗:石英・雲母/良好/明褐色	R L縦位施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第260図 PL.124	4	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/明褐色	体部下半か。隆線によるU字状意匠区画下端か。沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第260図 PL.124	5	加工痕ある剥片	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:12.5、幅:8.9、厚:2.0、重:225.6。大型の横長剥片を素材とし、両側縁と端部に加工を加え刃部とする	
第260図 PL.124	6	磨石	完形	床下	粗粒輝石安山岩	長:8.5、幅:7.4、厚:4.5、重:426.6。やや扁平な円盤状の円礫。敲打痕は端部に見られる。表裏面に平滑面を持ち、裏面は強い	

62区19号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第264図 PL.124	1	深鉢	口縁～体部 上半1/4残 存	埋土	粗:輝石/良好/褐色	口:(23.6)。口縁部は横位沈線と2条隆線による渦巻文と区画文構成。区画内は縦位短沈線を充填する。頸部は無文で体部上半に横位沈線3条を設ける。体部は沈線による意匠文が配され、一部剣先状意匠となる。内面平滑な撫で	中期後葉
第264図 PL.124	2	深鉢	口縁部残存	床直上	粗:石英・輝石/良好/黒褐色	口:36.0。口唇部内屈。口唇部は横位、以下斜位・縦位R Lを地文とし、体部上半に3条の沈線による連弧文を配す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第264図 PL.124	3	深鉢	体部上半残 存	床直	細:石英・輝石/良好/明赤褐色	頸部外反し体部中位が内湾する。頸部に横位沈線を設け、下位沈線が2条沈線による体部懸垂文へ派生する。各所に小渦巻文を配し、横位剣先状意匠へと変化する。縦位波状沈線も配される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第264図 PL.124	4	深鉢	口縁～体部 上半破片2 点	埋土	粗:石英/やや軟/に ぶい褐色	口縁部は隆線による渦巻文と楕円状区画文構成。区画内は沈線を側線と斜位短沈線を充填する。体部は斜位・縦位R Lを地文とし縦位波状沈線を加える。外器面磨減。内面平滑な撫で調整。	中期後葉
第264図 PL.124	5 6	深鉢	口縁部・体 部破片3点	床直	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口縁部は肥厚し無文。体部は2条の沈線で画された方形・不整形の区画文構成。区画内は縦位R Lを施し縦位波状沈線を重ねる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第264図 PL.124	7	深鉢	口縁部1/2 ～体部残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口:13.6。小型深鉢。口縁部内湾。体部文様は沈線による上下2帯構成で上位は波状文と縦位楕円状区画文、下位は分岐懸垂文と蕨手状沈線文が配される。縄文はR L充填施文。内面は弱い研磨を施す	中期後葉
第264図 PL.124	8	深鉢	口縁～体部 残存	床直上	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	口:23.0。2単位の口縁部突起を欠損する。横位隆線で画された幅狭の口縁部文様帯。縦位短沈線を充填する。弧状・渦巻状の突起意匠が体部と連繋し、体部は大柄な半渦巻状意匠が配される。5単位。空白部は斜位短沈線を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第264図 PL.124	9	深鉢	口縁～体部 中位残存	埋土 62区16住	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい褐色	口:21.4。2条隆線による口縁部渦巻文と弧状区画文。7単位。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。体部は沈線のみで上端渦巻文を配した縦位波状文と逆U字状意匠による懸垂文構成。空白部は横位沈線2条による再区画と縦位短沈線の充填。内面撫で調整	中期後葉
第265図 PL.124	10	深鉢	口縁部突起 片	埋土	細:輝石/良好/褐色	小型の中空状突起。6方からの貫孔。正面と両側面孔の外縁には沈線が縁取られる。体部には細かな刻みを施す。内外面に研磨を施し、丁寧に仕上げている	中期後葉
第265図 PL.124	11	深鉢	口縁部突起 片	埋土	細:石英・輝石・雲母/ 良好/褐色	波頂部に設けられる滑車状突起。内外面に隆線による渦巻文を配す。外面は下端より垂下隆線が派生し、斜位短沈線を施す。左側面にも小渦巻文を付す	中期後葉
第265図 PL.124	12	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い赤褐色	隆線による口縁部楕円状区画文。区画接点はX字状の突起となり片環状の意匠も配される。区画内は2条沈線を側線とする。体部は縦位沈線が密に施される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第265図 PL.124	13	深鉢	体部下半～ 底部端部残 存	埋土 62区16住	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	底:(8.4)。僅かに内湾気味に開く体部下半。2条隆線と1条隆線を交互に配した懸垂文構成。空白部は縦位沈線群を地文に横位沈線2・3条が多段に重なる。内面撫で調整	中期後葉
第265図 PL.125	14	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/やや軟/橙 色	体部中位。横位弧状隆線を配し縦位矢羽状短沈線を施す。内面撫で調整	中期後葉
第265図 PL.125	15	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 黒褐色	内湾する口縁部に斜位沈線と隆線による斜格子文を配す。屈曲部の頸部に横位隆線2条を設け縦位隆線が懸垂する。内面弱い研磨	中期後葉
第265図 PL.125	16	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	体部上半。頸部外反部に横位蛇行隆線を設け、柱状小突起下端より1条の隆線が垂下する懸垂文構成。空白部は縦位沈線を地文とし横位長楕円状意匠を重ねる。内面撫で調整	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第265図 PL.125	17	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英/良好/にぶ い褐色	体部上半。頸部は無文。横位隆線を設け、縦位波状隆線が派生する。側線は内皮平行沈線で、体部地文はL Rで隆線貼付前の施文。内面は横位撫で調整を施す	中期後葉
第265図 PL.125	18	浅鉢	口縁~体部 下半1/3残 存	床直	粗:石英・片岩/良好 /明赤褐色	口:42.0。大型の浅鉢。口唇部内稜を持つ。口縁~体部はほぼ一体化し強く開く。無文で内外面丁寧な研磨を施し、赤彩を加える	中期後葉
第265図 PL.125	19	浅鉢	口縁~体部 上半破片	床直上	細:石英/良好/橙色	口縁部は幅狭ながら外面に肥厚し、体部は内湾する。内外面に赤彩痕、黒彩痕を見るが意匠文は不明。内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第265図 PL.125	20	鉢	口縁部破片	床直上	細:輝石/良好/橙色	口:(50.0)。強く開く大型の鉢口縁部か。外面に赤彩痕を僅かに見る。内面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第265図 PL.125	21	浅鉢	底部破片	埋土	細:石英/良好/褐色	強く開く体部下半。外面は撫で、内面は丁寧な研磨を施す	中期中葉
第266図 PL.125	22	浅鉢	頸部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好 /赤褐色	頸部屈曲する。体部上半に低位隆線による弧状意匠が配される。内外面とも丁寧な研磨を施し、赤彩を加える。赤彩意匠は不明である	中期後葉
第266図 PL.125	23	浅鉢	頸部~体部 破片	床直上	細:石英/良好/にぶ い褐色	強く開く体部。頸部屈曲部に横位隆線と沈線を設ける。内面研磨、外面は弱い研磨を施す	中期後葉
第266図 PL.125	24	浅鉢	体部~底部 端部破片	床直上	細:石英・輝石/良好 /にぶい橙色	底:(10.0)。強く開く体部下半。無文で内外面とも弱い研磨を施す	中期後葉
第266図 PL.125	25	台付深鉢	脚部	床直上	粗:輝石/良好/明赤 褐色	外反気味に開く体部下半。垂下沈線2条や縦位波状沈線による懸垂文構成。地文は無節L縦位施文。内面は研磨を施す	中期後葉
第266図 PL.125	26	深鉢	体部下半~ 底部残存	埋土	粗:石英・輝石/良好 /明赤褐色	底:8.6。直立気味の体部下半。縦位無節Lが覆う。内面平滑な撫で、煤付着する	中期後葉
第266図 PL.125	27	深鉢	底部残存	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい橙色	底:9.0。直立気味に開く体部下半。内外面とも平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第266図 PL.125	28	深鉢	体部下半~ 底部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /明赤褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成下端。施文部縄文は縦位L R充填施文。沈線施文は深い。内面弱い縦位研磨	中期後葉
第266図 PL.125	29	深鉢	体部下半~ 底部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	強く開く体部下半。大型深鉢か。内面平滑な撫で調整。外面は器面磨滅する	中期後葉
第266図 PL.125	30	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	矢羽状刻みを付す横位浮線文を多段に配す。地文に横位R Lを施す。内面平滑な撫で	前期後葉
第266図 PL.125	31	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/明赤 褐色	口縁部に付された環状突起上下端部より隆線が横位に派生する。隆線側線は平行沈線。内面平滑な撫で	中期中葉
第266図 PL.125	32	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好 /にぶい赤褐色	環状突起と弧状突起。上位には連続刺突文が施される。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第266図 PL.125	33	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /明褐色	口縁部内稜を持つ。隆線による口縁部楕円状区画文。連続爪形文と連続刺突文を側線とし、縦位波状刺突文を充填する。内面平滑な撫で	中期中葉
第266図 PL.125	34	石鏃	左脚欠損	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.3)、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。薄手の素材に丁寧な押圧剥離を施し整った形状に仕上げる。裏面中央に素材面を残す	
第266図 PL.125	35	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:1.3、厚:0.2、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。やや長身で細かく丁寧な押圧剥離が全面を覆い、整った形状を作出する	
第266図 PL.125	36	石鏃	上部左側欠 損	埋土	黒曜石	長:2.1、幅:1.6、厚:0.3、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。折り部は弱い。細かく丁寧な押圧剥離を全面に施し整った形状を作出する	
第266図 PL.125	37	石錐	基部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:(0.6)、厚:0.2、重:0.3。完成状態。細身の脚部に表裏面より細かな押圧剥離を加える	
第266図 PL.125	38	石錐	先端欠損	埋土	黒色頁岩	長:(3.2)、幅:1.9、厚:0.4、重:3.0。完成状態。長身の体部で両側面からの押圧剥離で作出される。摘み部も丁寧な調整が及ぶ。使用痕は見られない	
第266図 PL.125	39	異形石器 (スクレ イバー)	完形	埋土	黒曜石	長:3.5、幅:1.5、厚:0.4、重:1.4。完成状態。薄手の素材周縁と裏面中央にまで丁寧な押圧剥離を施し両側縁を刃部とする。表面は礫面を広く残す。	
第266図 PL.125	40	打製石斧	下半欠損	埋土	黒色頁岩	長:(9.0)、幅:4.0、厚:1.3、重:(50.6)。短冊形。完成状態。粗い剥離により中位に括れを設ける	
第266図 PL.125	41	打製石斧	下半欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(10.4)、幅:4.8、厚:1.1、重:(81.8)。短冊形。完成状態。左側縁に大きく括れを設ける。右側縁は直線状。頭部に使用による磨滅痕を見る	
第267図 PL.125	42	磨製石斧	下半欠損	埋土	変玄武岩	長:(9.3)、幅:5.6、厚:3.1、重:310.1。基部は細く敲打痕を集める。体部中位にも敲打痕があるが意匠は不明。製作時の縦位・斜位研磨痕を全面に見る	
第267図 PL.126	43	磨石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:6.5、幅:5.5、厚:4.7、重:208.2。小型球状の円礫。敲打痕が下端に見られるが浅く散漫、裏面に磨面による平滑面を設ける	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第267図 PL.126	44	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:8.7、幅:5.6、厚:2.1、重:170.9。小型扁平な楕円状円礫。表裏面に磨面を設け、右側面に敲打痕の集中を見る。全体に錆化する	
第267図 PL.126	45	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:7.5、幅:4.9、厚:3.3、重:192.9。小型で不整楕円状の円礫。敲打痕が表面及び右側縁に集中し凹みをなす。裏面に平滑面を見る	
第267図 PL.126	46	敲石	完形	埋土	ひん岩	長:11.5、幅:5.6、厚:3.6、重:388.4。棒状の円礫。敲打痕は下半から下端に集中する	
第267図 PL.126	47	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.9、幅:5.5、厚:4.0、重:352.9。小型で不整楕円状を呈す円礫。敲打痕の集中は表面下位と右側面上位に見られる	
第267図 PL.126	48	凹石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(19.4)、幅:7.8、厚:4.1、重:498.1。やや厚手の楕円状円礫。敲打痕は全面に見られ、裏面中央では凹みとなる。また側面に意図的な敲打痕の集中による溝状の凹みを設ける。表裏面及び両側面とも平滑面が著しく、断面は方形状をなす。表裏面は光沢を持つ	
第267図 PL.126	49	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:12.6、幅:6.3、厚:5.6、重:639.6。厚手の棒状円礫。全面に敲打痕を見るが表裏面に集まり凹みをなす。磨面も強く、断面形は方形状を示す	
第267図 PL.126	50	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:16.0、幅:12.2、厚:11.5、重:3260.0。大型の球状円礫。丸石か。全面に敲打痕が広がり、表面中央に凹みを有す。凹み周辺は器面剥落による欠損	
第267図 PL.126	51	軽石製品	1/2欠損	埋土	軽石	長:4.2、幅:3.3、厚:1.6、重:6.4。小型円盤状か。図右半を欠損する。小孔は自然孔であろう	
PL.126	52	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:(1.2)、厚:0.2、重:(0.3)。先端部のみ残存。完成状態。丁寧な押圧剥離を全面に施す	
PL.126	53	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(1.5)、幅:(1.3)、厚:0.25、重:(0.4)。先端部のみ残存。完成状態。やや粗い押圧剥離を全面に施す	
PL.126	54	打製石斧	ほぼ完形	埋土	黒色頁岩	長:11.3、幅:4.8、厚:1.8、重:133.4。短冊形。完成状態。粗い剥離により左側面上位に括れを設ける。刃部表裏面に使用による磨滅痕を見る	
PL.126	55	打製石斧	ほぼ完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:12.0、幅:6.0、厚:2.0、重:162.6。短冊形。完成状態。極めて粗い剥離で縁辺を作出し幅広の刃部を設ける。使用痕は見られない	
PL.126	56	打製石斧	下半欠損	床直上	黒色頁岩	長:15.0、幅:6.4、厚:2.3、重:326.1。大型の短冊形。完成状態。2点の接合。粗い剥離が両側縁に施される	
PL.126	57	加工痕ある剥片	完形	床直上	黒色頁岩	長:4.0、幅:7.9、厚:0.8、重:27.6。横長剥片を素材とし、下端部に粗い調整を加え刃部とする	
PL.126	58	加工痕ある剥片	左側縁欠損	床直	粗粒輝石安山岩	長:6.5、幅:(5.4)、厚:1.4、重:63.7。縦長剥片を素材とし、右側縁、下端部に調整を加え刃部としている	
PL.126	59	加工痕ある剥片	完形	埋土	流紋岩	長:1.9、幅:2.2、厚:0.3、重:1.0。小型の横長剥片を素材とする。下端部表面に微細な剥離を加える	
PL.126	60	加工痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.4、幅:2.0、厚:0.9、重:4.3。小型の剥片周縁に粗い剥離を加える。表面に不純物を見る	
PL.126	61	使用痕ある剥片	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:2.3、幅:6.8、厚:0.9、重:18.9。横長剥片下端部に微細剥離を見る	
PL.126	62	使用痕ある剥片	右側縁欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:6.0、幅:(5.7)、厚:1.5、重:59.5。礫面を大きく残した横長剥片を素材とし、下端部を刃部として使用する	
PL.126	63	使用痕ある剥片	ほぼ完形	埋土	黒色頁岩	長:3.3、幅:4.2、厚:0.7、重:12.3。小型の横長剥片を素材とする。下端部を刃部とし刃こぼれを見る	
PL.126	64	使用痕ある剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.0、幅:4.9、厚:0.6、重:6.7。幅横長剥片を素材とし側縁の一部に刃こぼれ状の使用痕を見る	
PL.126	65	石核	完形	埋土	流紋岩	長:6.2、幅:3.8、厚:2.5、重:46.4。縦長剥片を目的とした作出を見せるが、石材から数回の剥離に止まる	
PL.126	66	磨石	下欠損 2/3	埋土	細粒輝石安山岩	長:(13.7)、幅:11.0、厚:7.5、重:1413.8。不整方形を呈す亜角礫。表面に平滑な磨面が広がる	
PL.126	67	磨石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(6.0)、幅:7.7、厚:4.8、重:267.4。やや扁平な楕円状円礫。敲打痕が全面に及ぶが表面に平滑な磨面が広がる	
PL.126	68	敲石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(11.0)、幅:6.2、厚:5.6、重:590.5。棒状の円礫。表裏面に弱い磨面が広がるが、上端に敲打痕が集まる	
PL.126	69	凹石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(9.0)、幅:8.0、厚:4.7、重:571.5。やや厚手の楕円状円礫。表裏面上位に敲打による凹みを設ける。裏面は弱い磨面が広がる。上端部と右側面に敲打痕を集める	
PL.126	70	台石	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(14.7)、幅:(8.0)、厚:7.0、重:1316.5。大型でやや扁平な楕円状円礫か。表面に平滑な磨面、裏面・側面に敲打痕を持つ	

62区20号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第268図 PL.126	1	深鉢	体部下半～ 底部残存	床直	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	底:9.2。大型深鉢。体部下半は強く開く。垂下沈線による懸垂文構成。縦位波状沈線も加わる。内面研磨	中期後葉
第268図 PL.126	2	深鉢	口縁部破片	炉内	細:石英・輝石/良好/ 褐色	隆線による口縁部区画文。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第268図 PL.126	3	深鉢	体部破片	炉内	粗:石英/軟質/にぶ い黄褐色	器面磨滅。縦位LR?を施す	中期後葉
PL.126	4	石鏃	左脚欠損	ピット1	黒色安山岩	長:3.3、幅:1.4、厚:0.2、重:1.0。凹基無茎鏃。やや長身で押圧剥離により薄手に仕上げる	
PL.126	5	加工痕ある 剥片	ほぼ完形	埋土	変質安山岩	長:7.0、幅:8.1、厚:3.0、重:184.5。横長剥片下端部に粗い調整を加え刃部としている	

62区21号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第269図 PL.127	1	深鉢	口縁～体部 上半破片	埋土	細:石英/良好/褐色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は凹線。体部は沈線で画された施文部逆U字状懸垂文。縄文はRL充填施文。磨消部と内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第269図 PL.127	2	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	小型深鉢。薄手の器厚。波頂部下の隆線による渦巻文と区画文。体部は縦位LRを施す。内面弱い研磨	中期後葉
第269図 PL.127	3	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	2条隆線による口縁部区画文下端に配された渦巻状突起。区画内は沈線を側線とし縦位RLを施す。頸部は無文か。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第269図 PL.127	4	壺	頸部破片	床直上	細:石英/良好/にぶ い褐色	頸部外反し体部上半は内湾する。横位隆線2条を設け小型の橋状把手を付す。単位は不明。体部は弧状沈線を施す。外面弱い研磨、内面撫で調整を施す	中期後葉
第269図 PL.127	5	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・輝石/良好/ 明褐色	体部上半。横位隆線以下縦位沈線を配す。縄文は縦位LR。器面磨滅。内面撫で調整	中期後葉
第269図 PL.127	6	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 明黄褐色	垂下沈線2条による懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を施す。器面磨滅。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第269図 PL.127	7	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	2条隆線による大柄な渦巻文を配す。側線は撫で。隆線間は無文だが、空白部は斜位短沈線を充填する。内面は横位撫で調整	中期後葉
第269図 PL.127	8	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い黄褐色	2条の垂下沈線に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部縄文はLR縦位充填施文。内面は平滑な横位撫で	中期後葉
第269図 PL.127	9	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英/良好/にぶ い黄褐色	刻みを付す垂下隆線による懸垂文構成。側線は沈線。空白部は鱗状短沈線を充填する。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第269図 PL.127	10	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い橙色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。空白部は斜位短沈線を充填する。内面横位撫で調整	中期後葉
第269図 PL.127	11	深鉢	体部下半～ 底部1/2残 存	埋土	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	強く開く体部下半。垂下沈線に画された施文部と磨消部による懸垂文下端。施文部縄文はLR縦位施文。外面は丁寧な研磨、内面は弱い研磨を施す	中期後葉
第269図 PL.127	12	加工痕ある 剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.7、幅:1.6、厚:0.3、重:0.9。小型の横長剥片を素材とする。右側縁及び下端部に調整を加え刃部とする	

62区22号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第271図 PL.127	1 2	深鉢	口縁～体部 上半破片・ 体部下半破 片	埋土 62-A 5	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口:(23.4)。小型深鉢。突出する波状突起と斜位双環状突起を口縁部に付す。2単位か。斜位双寛突突起下はコイル状突起が接続する。体部は内皮平行沈線が充填され、円文や三叉文も配される。体部下半は横位隆線で画され斜位環状突起を斜位隆線が繋ぐ。内面研磨、煤付着	中期中葉末
第271図 PL.127	3	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/ 良好/橙色	筒状の器形か、口縁部直立する。幅広の無文口縁部を設け、横位沈線以下縦位短沈線や三叉文を施す。内面弱い研磨	中期中葉末
第271図 PL.127	4	深鉢	突起片	埋土	細:石英・雲母/良好/ 赤褐色	口縁部上の嘴状突起か。先端は三角形に尖り下位は中空状の球体を呈す。平滑な撫で調整を施す	中期中葉末
第271図 PL.127	5	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/ 良好/赤褐色	刻みを付す弧状隆線を付す。内皮沈線を側線とし、空白部を平行沈線で小区画し三叉文を充てる。内面平滑な撫で	中期中葉末
第271図 PL.127	6	深鉢	体部下半～ 底部1/4残 存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐色/にぶい褐色	底:(11.0)。大型の深鉢か。体部下半の横位区画線を設け、体部は三角区画文配列。区画隆線には刺突文を加え、区画内は沈線を側線とし三叉文等を埋める。内面横位撫で調整	中期中葉末
第271図 PL.127	7	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/やや軟/橙 色	体部に付せられた横位嘴状突起か。太い沈線が端部より派生する。器面磨滅	中期中葉末
第271図 PL.127	8	深鉢	口頸部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/ 良好/褐色	頸部屈曲し刻みを付す横位隆線を設ける。口縁部は太い沈線による方形区画文を配す。体部は縦位撚糸Lを施す。内面研磨	中期中葉末

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第271図 PL.127	9	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/明赤褐色	鋸歯状口縁を呈し、横位内皮平行沈線3条を設ける。小波状突起とコイル状突起を内湾部に付し平行沈線を側線とする。RLを施す。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第271図 PL.127	10 11	深鉢	体部破片2点	埋土	細:石英・輝石・雲母/良好/にぶい赤褐色	体部内湾し、弧状隆線と内皮平行沈線を側線とする。縄文は縦位・斜位RL。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第271図 PL.127	12	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・雲母/やや軟/橙色	鋸歯状口縁を呈し、横位沈線群を配す。薄手で器面磨滅する。内面平滑な撫で	中期中葉末
第271図 PL.127	13	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/やや軟/良好	双波状突起を付し下端より弧状隆線が派生する。内皮平行沈線を側線とする。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第271図 PL.127	14	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	波状突起下に2条隆線による渦巻状意匠を配す口縁部区画文構成。側線は撫で。地文は燃糸L縦位施文。内面弱い研磨	中期中葉末
第271図 PL.127	15	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/良好/極暗赤褐色	弧状隆線を配し、内皮沈線群を側線とする。斜位LRを施す。薄手で内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第271図 PL.127	16	浅鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石・片岩/良好/にぶい赤褐色	口縁部内湾し幅広の隆帯による渦巻状意匠が懸架する。外面弱い研磨、内面丁寧な研磨を施す	中期中葉末
第271図 PL.127 ・128	17 18	深鉢	口縁～体部 上半破片2点	埋土	粗:輝石/良好/暗褐色	口:(44.0)。大型深鉢。隆線による口縁部区画文構成。幅広の凹線を側線とする。体部は2条の垂下沈線による懸垂文構成。蔵手状沈線も配し、磨消部との交互配列は維持されていない。縄文は複節LRL充填施文。内面は横位研磨を施す	中期後葉
第272図 PL.128	19	深鉢	口縁～体部 中位1/2残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/褐色	口:(26.6)。口縁部は隆線による楕円状区画文を配す。沈線を側線とし横位RLを充填する。体部は垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文で縦位沈線を加える箇所もある。内面横位研磨	中期後葉
第272図 PL.128	20	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/良好/黒褐色	隆線による渦巻文と区画文構成。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。体部は垂下沈線2条による懸垂文構成か。地文は縦位LR。内面研磨	中期後葉
第272図 PL.128	21	土製円盤	完形	埋土	粗:石英・輝石/良好/灰褐色	径:4.5×4.5、厚:1.4cm、重:30.4g。不整形円形を呈し周縁を丁寧に磨滅する。縦位沈線を施す深鉢体部破片を利用	中期後葉
第272図 PL.128	22	石鏃	右脚欠損	床下	黒曜石	長:(1.2)、幅:(1.3)、厚:0.2、重:0.3。小型の凹基無茎鏃。押圧剥離による作出で挟り部に顕著。裏面に素材面を残す	
第272図 PL.128	23	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.5、幅:1.3、厚:0.2、重:0.2。小型の凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離で整った形状に作出する。特に挟り部の調整を入念に施す	
第272図 PL.128	24	石鏃	右脚欠損	床下	黒曜石	長:2.4、幅:(1.9)、厚:0.3、重:1.1。凹基無茎鏃。完成状態。押圧剥離が全体を覆う。側縁に顕著。表裏面に礫面を残す	
第272図 PL.128	25	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:9.6、幅:4.4、厚:1.2、重:58.0。短冊形。完成状態。比較的細かな縁辺調整で整った形状に仕上げる。刃部使用痕は僅かに見るのみである	
第272図 PL.128	26	スクレイパー	完形	埋土	黒色頁岩	長:7.6、幅:5.6、厚:1.0、重:49.1。縦長剥片両側縁及び下端部に丁寧な剥離を加え刃部を作出する	
第272図 PL.128	27	磨石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(6.0)、幅:6.3、厚:2.0、重:113.5。小型で扁平な円礫。表裏面に平滑面を見る。下端部は欠損する	
第272図 PL.128	28	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:13.5、幅:8.0、厚:4.5、重:756.1。大型でやや厚手の楕円状円礫。敲打痕を側縁、下端部に集め、平滑面を表裏面に見る	
第272図 PL.128	29	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:12.3、幅:7.9、厚:4.9、重:740.3。厚手の楕円状円礫。敲打痕は左側縁と下端部に見られ、平滑面を裏面に設ける	
第272図 PL.128	30	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.9、幅:7.5、厚:4.0、重:486.5。不整形の円礫。浅い敲打痕を散漫に見る。表裏面とも平滑面をほぼ中央に持つ	
第272図 PL.128	31	多孔石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.1、幅:8.4、厚:7.3、重:552.7。不定形の小型角礫の平坦面に1孔のみ設ける。周辺にも小孔を見るが自然孔と判断した	
PL.128	32	石鏃	上半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.0)、幅:1.7、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離で薄手に仕上げる	
PL.128	33	石鏃	破片	埋土	流紋岩	長:1.7、幅:(1.7)、厚:0.5、重:(0.7)。凹基無茎鏃。完成状態。左側縁上位、脚端部欠損。中央部が厚く残るが周縁は押圧剥離で整形されている	
PL.128	34	石鏃	脚部欠損	埋土	黒曜石	長:(2.1)、幅:(1.5)、厚:0.4、重:1.0。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆う	
PL.128	35	石鏃	先端部・下半欠損	埋土	黒曜石	長:(2.2)、幅:2.1、厚:0.45、重:1.8。体部のみの残存。おそらく完成状態。押圧剥離は表面と裏面縁辺に集まる。裏面は素材面が大きく残る	
PL.128	36	打製石斧	破片	埋土	黒色頁岩	長:(5.0)、幅:5.8、厚:1.0、重:39.4。刃部のみの残存。刃部表面及び左側面に使用による磨滅痕を見る	
PL.128	37	磨石	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(6.0)、幅:(5.6)、厚:4.0、重:154.4。楕円状円礫か。表面に疎らな敲打痕と平滑な磨面を見る	

62区23号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第273図 PL.128	1 2	深鉢	体部中位～ 底部3点	床直上	細:輝石/良好/にぶ い橙色	底:(16.0)。薄手の器厚で上半で外反し下半で内湾するキャリパー 状深鉢。垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部 は上半が縦位密接条線、下半が縦位R L充填施文。内面弱い研磨 を施す	中期後葉
第273図 PL.128	3	鉢	体部～底部 残存	床直上	細:石英/良好/褐色	底:8.5。大型の鉢。強く開く体部下。約1cm幅の櫛状工具に よる密接な縦位条線が覆う。内面研磨	中期後葉
第273図 PL.128	4	磨石	完形	床直上	粗粒輝石安山岩	長:8.3、幅:9.5、厚:4.5、重:490.8。不整形の円礫。敲打痕は全 面に広がるが浅く散漫。表裏面に平滑面を見るが弱い	

62区24号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第276図 PL.128	1	深鉢	口縁～体部 上半1/4残 存	床直上	粗:石英・雲母/良好 /褐色	口:(13.5)。口唇部欠損。横位隆線2条に画された幅狭の口縁部 文様帯に渦巻文を付す。体部は縦位沈線群を地文とし縦位波状沈 線を加える懸垂文構成。内面撫で調整	中期後葉
第276図 PL.128	2	深鉢	口縁部1/5 残存	床直	粗:石英・輝石・雲母 /良好/暗褐色	口:(29.0)。口縁部突起及び横位隆線欠損。口唇端部に沈線を設 ける。波状突起で、おそらく橋状把手を付す。剥落する横位隆線 で画され、区画内は沈線を側線とし横位矢羽状短沈線を充填する。 頸部無文。内面撫で調整	中期後葉
第276図 PL.128	3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母 /良好/褐色	幅狭の口縁部肥厚し無文。体部は環状小突起より隆線が派生する。 縦位矢羽状短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第276図 PL.128	4	深鉢	体部破片	床直	粗:石英・輝石/やや 軟/橙色	体部上半か。横位隆線以下幅広隆帯を付し蛇行隆線を垂下する。 上位には横位沈線を施す。内面撫で。外器面磨滅	中期後葉
第276図 PL.129	5	深鉢	体部破片	床直上	粗:石英・雲母/良好 /にぶい褐色	体部上半の屈曲部に横位沈線を設け、上位は横位波状沈線と斜位 沈線、下位は縦位波状沈線を施す。地文は縦位L R。内面平滑な 撫で	中期後葉
第276図 PL.129	6	深鉢	体部破片	床直上	細:石英・輝石・雲母 /良好/暗褐色	2条隆線による懸垂文構成か。上半に同隆線による渦巻状意匠を 弧状隆線が繋ぐ。縦位密接条線を地文とし沈線による小渦巻文や 横位波状文を加える。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第276図 PL.129	7	浅鉢	体部破片	炉内	細:石英・輝石/良好 /明赤褐色	強く開く体部。無文で外面は縦位研磨、内面は丁寧な研磨を施す。 赤彩痕は見られなかった	中期後葉
第276図 PL.129	8	深鉢	底部のみ残 存	床直上	細:石英・輝石/良好 /にぶい赤褐色	底:5.0。小型深鉢。底面網代痕を見るが研磨のため判然としない。 内面煤付着	中期
第276図 PL.129	9	深鉢	体部下～ 底部残存	床直上	粗:石英・輝石・雲母 /良好/にぶい赤褐 色	底:6.0。小型深鉢。体部下は直立気味に開く。2条の垂下沈線 による懸垂文構成。沈線間は刺突文を施す。縦位波状沈線下端を 見る。内外面撫で調整	中期後葉
第276図 PL.129	10	浅鉢	底部破片	埋土	細:石英・片岩/良好 /にぶい橙色	強く開く体部下。無文で内外面丁寧な研磨を施す。内面色調は 黒色を呈す	中期後葉
第276図 PL.129	11	石鏃未製 品	一部欠損	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:1.8、厚:0.5、重:1.6。凹基無茎鏃か。大まかな押圧 剥離が施される。中央部は厚い	
第276図 PL.129	12	スクレイ パー	完形	床下	黒曜石	長:2.0、幅:2.5、厚:0.6、重:2.9。小型の横長剥片を素材とし、 両側縁と下端部に剥離を加え刃部とする	
第276図 PL.129	13	打製石斧	下半欠損	床直	粗粒輝石安山岩	長:(10.3)、幅:6.9、厚:2.6、重:(278.7)。短冊形。完成状態。 粗い剥離で両側縁を直線的に作出する	
第276図 PL.129	14	凹石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(10.2)、幅:7.4、厚:4.3、重:535.9。やや厚手の楕円状円礫。 敲打痕を表面中央に集め凹みとなす。表裏面・両側面とも平滑面 を有し、断面は方形状を示す。表裏面とも光沢面を持つ	
第276図 PL.129	15	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.3、幅:5.5、厚:4.5、重:336.7。小型だが厚手の楕円状円礫。 敲打痕を全面に見るが、下端部と表裏面に顕著	
PL.129	16	石鏃	上半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.3)、幅:(1.7)、厚:0.35、重:(0.7)。凹基無茎鏃。完成 状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げる	
PL.129	17	打製石斧	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.7、幅:6.0、厚:1.6、重:108.8。短冊形。凸刃を呈し最大 幅も刃部周辺に設ける。礫面、素材面を大きく残し、刃部には使 用による磨滅痕も少量見られる	
PL.129	18	加工痕あ る剥片	破片	炉内	黒色頁岩	長:(4.8)、幅:(5.6)、厚:1.1、重:26.3。横長剥片を素材とし、 表面に礫面を大きく残す。下端部へ剥離を施し刃部とする	
PL.129	19	砥石	破片	埋土	凝灰質砂岩	長:(5.8)、幅:(4.0)、厚:0.9、重:22.0。中央部にかけて薄くなる。 全面が平滑な磨面で、仕上げ段階の研磨具であろう	

62区25号住居跡

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第277図 PL.129	1	深鉢	口縁～体部 上半残存	床直	粗:石英/良好/にぶ い黄橙色	口:13.8。小型深鉢。口縁部は低隆線による区画文と渦巻文構成。 2単位。区画内は円形刺突文を充填する。下半に被熱痕跡。体部 は横位沈線と横位円形刺突列で画され、2条沈線による逆U字状 懸垂文が配される。内面弱い縦位研磨。下半部に被熱痕跡を見る	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第277図 PL.129	2	深鉢	体部破片	床直	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	外反する体部中位。沈線で画された逆U字状・分岐状意匠を配す。懸垂文構成。縦位LRを充填する。内面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第277図 PL.129	3	深鉢	頸部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 灰褐色	波頂部下の沈線による区画文下端。体部は垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成か。縄文は縦位LR充填施文。内面平滑な撫で	中期後葉
第277図 PL.129	4	深鉢	体部破片	床直	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	体部上半に付せられる橋状把手。片側が縦位波状となる。横位LRを充填施文する。内面研磨	中期後葉

61区1号掘立柱建物

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第280図 PL.129	1	深鉢	口縁部破片	ピット6	細:石英多/良好/黒 褐色	無文の口縁部。内面肥厚し、内外面とも弱い研磨を施す	中期後葉
第280図 PL.129	2	浅鉢	体部破片	—	粗:輝石・片岩/良好/ にぶい赤褐色	上半で内湾し下半で強く開く。内湾部に隆線と沈線による環状・弧状意匠。内外面とも丁寧な研磨。外面に赤彩痕を見る	中期後葉
第280図 PL.129	3	深鉢	体部破片	ピット6	細:輝石少/良好/黒 褐色	渦巻文を中核とした2・3条の垂下隆線による懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第280図 PL.129	4	深鉢	体部破片	ピット6	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	縦位蛇行隆線を付し横位平行沈線を施す。地文は斜位撚糸Lを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第280図 PL.129	5	深鉢	体部破片	—	細:輝石/良好/にぶ い褐色	縦位平行沈線による懸垂文構成。地文は縦位LR。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第280図 PL.129	6	深鉢	体部破片	ピット6	細:輝石少/良好/黒 褐色	縦位矢羽状短沈線を施す。内面弱い研磨	中期後葉
第280図 PL.129	7	深鉢	口頸部破片	ピット6	細:輝石少/良好/黒 褐色	横位隆線と小突起を付す。以下横位矢羽状短沈線を施す	中期後葉

61区2号掘立柱建物

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第283図 PL.129	1	深鉢	体部破片	—	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	沈線で画された弧状区画文。区画内はLRを充填する。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第283図 PL.129	2	深鉢	体部破片	—	細:輝石/良好/明赤 褐色	外反する頸部。下位に横位隆線を付す。外面横位撫で、内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第283図 PL.129	3	深鉢	体部破片	—	細:輝石/良好/明赤 褐色	体部上半か。横位LRと縦位LRによる羽状縄文。内面横位撫で調整	中期後葉か
第283図 PL.129	4	深鉢	体部破片	—	粗:石英・輝石/良好/ 暗褐色	横位平行沈線を数条設け以下縦位平行沈線群を配す。沈線間に刻みを施す。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第283図 PL.129	5	深鉢	頸部破片	—	細:石英多・輝石/良 好/暗赤褐色	外反する頸部。下位に横位隆線を設ける。外面雑な縦位撫で、内面横位研磨を施す	中期中葉末
第283図 PL.129	6	深鉢	体部破片	—	粗:石英・輝石/良好/ 暗赤褐色	横位隆線2条より縦位隆線2条が派生する懸垂文構成。交点に円形刺突文。縄文は縦位LR。内面平滑な撫で	中期後葉
第283図 PL.129	7	打製石斧	完形	—	細粒輝石安山岩	長:11.8、幅:6.4、厚:2.0、重:213.3。短冊形。完成状態。周縁をやや細かな剥離を加え、直線的な側縁を作出し、刃部に最大幅を設ける	

62区1号掘立柱建物

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第286図 PL.129	1	深鉢	口縁部破片	ピット2	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	口縁部外面肥厚し、緩やかに内湾する。無文で内外面とも撫で調整。器面磨減	中期後葉
第286図 PL.130	2	深鉢	体部破片	—	粗:石英・輝石・白色 粒/良好/明褐色	隆線で画された幅狭の横位楕円状区画。側線は沈線。区画接点下に弧状沈線を施す。小渦巻文か	中期中葉か
第286図 PL.129 ・130	3 4	深鉢	体部破片3 点	—	粗:輝石/良好/にぶ い橙色	体部中位～体部下半。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位密接条線施文後に縦位波状沈線を加える。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第286図 PL.130	5	深鉢	口縁部破片	—	細:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい赤褐色	薄手の器厚で内湾する口縁部。隆線による口縁部区画文と渦巻文。弧状短沈線を充填する。内外面研磨	中期後葉
第286図 PL.130	6	深鉢	体部破片	—	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	体部上半。口縁部区画文下端より垂下隆線3条が派生する。側線は撫で、LRを充填する。内面横位撫で	中期後葉

62区2号掘立柱建物

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第289図 PL.130	1	浅鉢	体部破片	—	細:石英・片岩粒/良 好/赤褐色	無文で内外面研磨を施し赤彩痕を見る	中期
第289図 PL.130	2	深鉢	体部破片	—	細:石英/良好/にぶ い橙色	縦位波状沈線による懸垂文構成。斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第289図 PL.130	3	深鉢	体部破片	—	細:輝石/良好/褐色	2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は無節L縦位充填施文。内面弱い研磨	中期後葉
第289図 PL.130	4	深鉢	口縁部破片	—	粗:石英・輝石/やや軟/にぶい赤褐色	隆線による口縁部区画文か。沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。中に横位波状沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第289図 PL.130	5	深鉢	体部破片	—	粗:石英・輝石/良好/暗褐色	垂下波状沈線による懸垂文構成。地文は斜位LR。内面撫で調整	中期後葉
第289図 PL.130	6	深鉢	体部破片	—	細:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	厚手の器厚。2条の垂下沈線で画された磨消部と施文部による懸垂文構成。施文部は縦位密接条線を施す。内面撫で調整	中期後葉
第289図 PL.130	7	深鉢	口縁部破片	—	細:石英・輝石/良好/褐色	2条の頸部隆線と沈線に画された口縁部区画文構成。区画内は斜位短沈線を充填する。体部は斜位・弧状沈線を施す。地文は斜位LR。薄手で内面を研磨する	中期後葉
第289図 PL.130	8	深鉢	頸部破片	—	粗:石英・輝石/良好/橙色	外反する無文の頸部。体部は横位弧状沈線3条を設け、以下沈線による横位連弧状意匠を配す。地文は縦位RL	中期後葉
第289図 PL.130	9	深鉢	底部1/4残存	—	細:石英・輝石/良好/橙色	底:(6.0)。丸みを帯びて開く体部下半。垂下沈線3条による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を充填する。底部外面弱い研磨、内面横位撫で	中期後葉
第289図 PL.130	10	深鉢	体部破片	—	細:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	垂下沈線2条で画された磨消部・施文部懸垂文構成。施文部は縦位RLを充填し縦位波状沈線を加える。内面平滑な撫で	中期後葉
第289図 PL.130	11	深鉢	体部破片	—	細:石英・輝石/良好/暗褐色	体部上半。2条隆線で画された口縁部。体部は2条沈線で画された弧状意匠や渦巻文を施す。地文は縦位LR。内面平滑な撫で	中期後葉
第289図 PL.130	12	深鉢	底部破片	—	細:輝石/良好/明褐色	垂下沈線で画された磨消部・施文部懸垂文構成。施文部は縦位RLを充填し縦位波状沈線を加える。内外面研磨。内面煤付着	中期後葉
第289図 PL.130	13	深鉢	体部破片	—	細:輝石・雲母/良好/暗褐色	3・4条の平行沈線を相向斜位に配し、同沈線による弧状意匠を接続する。地文は縦位LR	中期中葉
第289図 PL.130	14	深鉢	体部下半～ 底部残存	—	細:輝石/良好/明赤褐色	底:6.0。内湾気味に開く体部下半。2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文後縦位波状沈線を重ねる。内面縦位研磨。少量の煤付着	中期後葉
第289図 PL.130	15	原石	完形	—	黒曜石	長:3.4、幅:4.7、厚:2.9、重:42.8。角礫・漆黒。礫面に覆われる。不純物は少量で極一部に混じる	
第289図 PL.130	16	原石	完形	—	黒曜石	長:5.0、幅:3.2、厚:1.8、重:28.1。角礫・漆黒。礫面に覆われ、不純物は微量。緻密な印象を得る	
第289図 PL.130	17	原石	完形	—	黒曜石	長:5.1、幅:2.8、厚:2.2、重:24.0。角礫・漆黒。礫面を一部残す。不純物無く緻密	
第289図 PL.130	18	石核(珪質岩)	完形	—	黒曜石	長:5.6、幅:6.3、厚:3.2、重:74.6。打面方向を不定法校に転移し、小型の剥片を剥離する	
第289図 PL.130	19	打製石斧	上半欠損	—	黒色頁岩	長:(6.0)、幅:4.6、厚:0.9、重:35.2。短冊形。完成状態。粗い剥離で外反気味の側縁を作出し幅広の刃部を設ける。使用痕は刃部に僅かに見るのみである	

土坑 61区

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第298図 PL.130	6坑 1	深鉢	底部残存	埋土	細:石英・輝石/良好/黒褐色	底:6.3。小型深鉢底部。意図的な欠損か。縦位密接条線が器面を覆う。内面平滑な横位撫で調整。油煙状の黒色附着物を見る	中期後葉
第298図 PL.130	37坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/橙色	体部内湾。無節L縦位施文が覆う。内面横位撫で	中期後葉
第298図 PL.130	37坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/赤褐色	垂下沈線2条による幅狭磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL施文後縦位波状沈線を加える。内面縦位研磨	中期後葉
第298図 PL.130	38坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/褐色	小破片。口縁部横位隆線付し、垂下隆線が派生する。内面横位撫で	中期後葉
第298図 PL.130	38坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/褐色	斜位短沈線を相向いに施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
PL.130	38坑 3	石鏃	完形	埋土	黒曜石	長:1.3、幅:1.7、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離が全面を覆い、薄手で整った平面形を作出している	
第298図 PL.130	39坑 1	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:8.6、幅:4.4、厚:1.3、重:56.4。小型の短冊形。やや扁平で礫面を残し、粗い剥離調整を周縁に施す	
第298図 PL.130	43坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶい黄褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。側線は沈線。斜位短沈線を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第298図 PL.131	45坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石・雲母/良好/にぶい黄褐色	渦巻文を付した口縁部横位隆線を設ける。他は無文で斜位撫で調整を施す。内面は平滑な撫で調整	後期初頭
第298図 PL.131	45坑 2	深鉢	突起片	埋土	粗:石英・雲母/良好/褐色	内面剥落。斜位双環状突起と思われる。下端に沈線を施したコイル状突起を付す	中期中葉末
第298図 PL.131	45坑 3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石多/良好/にぶい黄褐色	口縁部内湾し口唇部内面肥厚する。2・3条の沈線による弧状意匠が施される。RLを施す。内面平滑な撫で	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第298図 PL.131	45坑 4	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/やや軟/にぶい褐色	口唇部尖る。無文の口縁部。器面磨滅。内面横位撫で調整	後期初頭
第298図 PL.131	45坑 5	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/明黄褐色	2条の細沈線に画された磨消部による弧状意匠。R Lを充填施文する。内面は平滑な撫で調整	後期初頭
第298図 PL.131	45坑 6	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/やや軟/にぶい黄褐色	2条の細沈線に画された施文部弧状意匠。おそらく半渦巻文か。意匠内は無節L充填施文。器面磨滅	後期初頭
第298図 PL.131	45坑 7	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい黄褐色	2条の細沈線に画された施文部弧状意匠。おそらく半渦巻文か。意匠内は無節L充填施文。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第298図 PL.131	45坑 8	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/明褐色	沈線による斜位・渦巻状意匠を配す。円形刺突文も加わる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第298図 PL.131	58坑 1	深鉢	体部上半～ 底部残存	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	底:8.0。器厚薄手。外反する体部器形。縦位波状密接条線を地文とし、縦位波状沈線を重ねる懸垂文構成。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第298図 PL.131	58坑 2	深鉢	口縁部1/3 ～体部1/2 残存	埋土	粗:石英・雲母/良好/赤褐色	口:(18.0)。樽状の深鉢。口縁部に渦巻状の小突起を付す。突起両脇より円形刺突文を側線とする横位隆線が派生し、以下隆線による楕円状区画文が連なる口縁部文様を呈す。体部は横位隆線より懸架する2条隆線による半渦巻文が配され、斜位・縦位短沈線を充填する。内面横位撫で調整	中期後葉
第298図 PL.131	58坑 3	深鉢	口縁～体部 下半残存	埋土	粗:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	口:18.0。パケツ状の器形。器厚薄手。口縁部に横位隆線を設け、以下隆線によるU字状意匠を上端で連繋する。6単位を数える。空白部は縦位矢羽状短沈線や横位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第298図 PL.131	58坑 4	深鉢	体部中位～ 底部端部残存	埋土	粗:石英・雲母/良好/暗褐色	底:(7.5)。体部上半内湾。隆線による弧状区画内を反転する渦巻状意匠を配す。4単位構成。側線は撫でて縦位矢羽状短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第298図 PL.131	58坑 5	深鉢	口縁～体部 上半破片	埋土	粗:石英・雲母多/良好/暗褐色	口:(13.0)。口縁部内湾する樽状の器形・振りを加えた縦位突起と2条隆線に画された口縁部区画文。区画内は横位沈線と交互刺突文を充填する。体部は2条隆線による渦巻文と短沈線の充填。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第298図 PL.131	58坑 6	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/黒褐色	無文の口縁部下に横位隆線3条を設け、以下横位弧状短沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第299図 PL.131	62坑 1	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・片岩/良好/にぶい褐色	2条隆線による口縁部区画文構成。区画内は沈線を側線とし、地文に斜位捺線Lを施す。頸部は無文。内面弱い研磨	中期後葉
第299図 PL.131	62坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/やや軟/褐色	体部上半か。横位沈線を設け、縦位沈線群を充填する。外器面磨滅。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第299図 PL.131	62坑 3	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/暗赤褐色	外反する体部中位。垂下隆線1条による懸垂文構成。空白部は縦位密接条線を施す。内面横位撫で調整	中期後葉
第299図 PL.131	62坑 4	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	縦位内皮平行沈線3条による懸垂文構成。縄文は縦位R L充填施文。内面研磨	中期後葉
第299図 PL.131	62坑 5	深鉢	底部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	内湾気味に開く体部下半。垂下沈線3条による懸垂文下端。地文は縦位R L。内面平滑な撫で調整。煤付着	中期後葉
第299図 PL.131	62坑 6	石皿	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(15.1)、幅:(11.6)、厚:5.9、重:1220.0。体部中位の破片か。底面に平滑な磨面を持つ。裏面には断面円錐状の孔を密集する	
第299図 PL.131	64坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/黒褐色	外反する体部上半か。垂下沈線2条を見るが懸垂文構成か。地文に縦位R Lを施すが僅かな施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第299図 PL.131	64坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/黒褐色	垂下沈線1条の懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
PL.131	64坑 3	石鏃	右脚欠損	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:(1.4)、厚:0.2、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面を覆いやや長身で整った平面形を作出する	
第299図 PL.131	65坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/褐色	強く突出する2条の頸部隆線で画される口縁部文様帯。横位矢羽状単位沈線を充填する。頸部は無文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第299図 PL.131	65坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/明赤褐色	2条の隆線による環状意匠。下端より横位隆線が派生する。側線は沈線。R Lを充填施文する。内面研磨	中期後葉
第299図 PL.131	69坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/褐色	2条隆線による弧状・渦巻状意匠。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第299図 PL.131	70坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/明褐色	弧状沈線3条を配し沈線間に横位R Lを施す。内面撫で	中期中葉末
第299図 PL.132	73坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/黒褐色	口縁部外面肥厚。斜位短沈線を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第299図 PL.132	73坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/褐色	浅い沈線による弧状意匠が配される。内面撫で	後期初頭
PL.132	73坑 3	石鏃	ほぼ完形	埋土	黒曜石	長:1.6、幅:1.7、厚:0.5、重:1.1。凹基無茎鏃。完成状態。中央部がやや厚手ながら、丁寧な押圧剥離が全面を覆う	
第299図 PL.132	74坑 1	深鉢	口縁～体部 上半1/3残存	埋土	粗:石英・輝石・雲母/良好/褐色	口:(28.0)。4単位波状縁。波頂部は波状を基調とした中空状突起か。口縁部凹縁を設け体部は沈線による不整形区画文や蹴手状沈線文を2帯配す。縦位L Rを充填する。内面研磨	中期後葉

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第299図 PL.132	74坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/褐色	地文に縦位無節Lを施し、1条の垂下沈線を重ねる懸垂文構成。内面弱い研磨	中期後葉
第299図 PL.132	74坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/褐色	2条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第299図 PL.132	75坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/褐色	2条の隆線による弧状・渦巻状意匠。短沈線を放射状に充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第299図 PL.132	75坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/良好/明赤褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。横位弧状短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第299図 PL.132	75坑 3	深鉢	底部破片	埋土	細:輝石/良好/赤褐色	端部張出し気味。無文で斜位削り調整痕が明瞭。内面も横位削り調整。底面に網代痕が残る	後期か
第299図 PL.132	76坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/良好/にぶい黄橙色	体部下。低位隆帯による下半区画線。沈線を側線とし、縦位LRを施す。内面平滑な撫でを施す	中期後葉初
第299図 PL.132	77坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい橙色	体部下。垂下沈線2条による懸垂文構成。縦位無節Lを充填する。内面横位撫で調整	中期後葉
第299図 PL.132	79坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/橙色	体部中位。上下2帯構成か。沈線で画されたU字状意匠と逆U字状意匠。LRを充填する。沈線の施文は深い。内面弱い横位研磨	後期初頭
第299図 PL.132	79坑 2	深鉢	底部	埋土	粗:輝石/良好/にぶい褐色	底:9.0。底部丸みを帯び外反気味に開く。大型深鉢か。垂下沈線下端部を見る。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第299図 PL.132	81坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英多・輝石/良好/にぶい黄橙色	縦位密接条線が覆う。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第299図 PL.132	81坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/橙色	横位内皮平行沈線と縦位同沈線群による懸垂文構成か。縦位に連続爪形文を施す。地文は縦位・斜位RL。内面撫で	中期後葉初
第299図 PL.132	82坑 1	深鉢	口頸部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい黄橙色	幅狭の無文の口縁部下に横位隆線を設け以下横位LRを施す。内面平滑な撫で調整	中期末葉
第299図 PL.132	83坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/やや軟/にぶい黄橙色	口縁部無文。以下に横位隆線を設け弧状隆線が懸垂する。縄文は縦位RLか。外器面磨減。内面横位撫で調整	中期末葉
第300図 PL.132	84坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい黄橙色	口縁部沈線を設け、以下沈線による小弧線文上端を見る。蕨手状沈線か。縄文は縦位RL。補修孔を見る。内面研磨	中期後葉
第300図 PL.132	85坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好/にぶい黄橙色	外反する体部。外面丁寧な研磨を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第300図 PL.132	87坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/橙色	内湾する体部。横位弧状の内皮平行沈線を設け、縦位RLを地文とする。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第300図 PL.132	87坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい橙色	垂下沈線3条による懸垂文構成。斜位・縦位LRを地文とする。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第300図 PL.132	92坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/灰褐色	横位・斜位沈線を施す。内面撫で	中期後葉
第300図 PL.132	95坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/暗褐色	口唇部内面肥厚。隆線による渦巻文を配す。他は無文で平滑な撫で調整に覆われる	中期後葉
第300図 PL.132	95坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/にぶい橙色	沈線による弧状意匠を配す。地文は斜位擦糸Lを施す。内面撫で	中期後葉
第300図 PL.132	95坑 3	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/良好/暗褐色	隆線による弧状・渦巻状意匠を配す。沈線は側線で縦位沈線を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第300図 PL.132	95坑 4	浅鉢	底部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/橙色	強く開く体部下。無文で外面は撫で調整。内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
PL.132	95坑 5	打製石斧	下半部欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(7.0)、幅:4.7、厚:1.1、重:(66.9)。短冊形。完成状態。比較的細かい剥離で直線的な側縁を作出する	
第300図 PL.132	96坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母多/良好/にぶい褐色	口縁部内面突出。斜位隆線を付し3条の深い沈線を側線とする。縦位沈線群も施す。内面撫で	中期中葉
第300図 PL.132	96坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/灰褐色	口縁部横位隆線と2条の弧状隆線による口縁部区画文。地文は斜位擦糸L。内面平滑な撫で調整	中期後葉初
第300図 PL.132	96坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	2条の垂下沈線による懸垂文構成。地文は斜位擦糸L。内面横位撫で調整	中期後葉初
第300図 PL.132	96坑 4	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい赤褐色	横位隆線より斜位隆線が派生する。横位内皮平行沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第300図 PL.133	99坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母少/良好/褐色	刻みを付す横位平行沈線で分帯され、沈線による渦巻文を中核に縦位沈線群や斜位沈線、三叉文を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉初
第300図 PL.133	99坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/褐色	強く突出する柱状突起。あるいは橋状把手を付すか。口縁部は沈線による区画文構成か。一部に交互刺突文が加わる。地文は擦糸R縦位施文。内面研磨	中期後葉初
第300図 PL.133	99坑 3 4	深鉢	口縁部破片 2点	埋土	粗:石英・雲母/良好/黒褐色	波状口縁。隆線による区画文構成。隆線及び口唇部に複列の結節沈線が沿い、区画内も弧状意匠が配される。内面平滑な撫で	中期中葉
第300図 PL.133	99坑 5	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/黒褐色	隆線による渦巻文を配した区画文構成。下半は分岐懸垂文。隆線の側線は沈線で、斜位弧状短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第300図 PL.133	99坑 6	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/褐色	2条隆線による口縁部渦巻文。側線は沈線で放射状の短沈線を充填する。しっかりとした施文。内面平滑な撫で	中期後葉
第300図 PL.133	99坑 7	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/褐色	屈折して内湾する口縁部。縦位隆線群を付す。内面撫で調整に止まる	中期後葉
第300図 PL.133	99坑 8	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/褐色	口縁部内面肥厚。外面は無文で内外面とも研磨を施す	中期後葉
第300図 PL.133	99坑 9	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/暗褐色	2条隆線による口縁部区画文。沈線を側線とし縦位LRを施す。内面弱い研磨	中期後葉
第300図 PL.133	99坑 10	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	横位隆線を設け、縦位隆線群を付す口縁部。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第300図 PL.133	99坑 11	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/褐色	横位平行沈線を多段に施し沈線間に刻みを埋める。斜位沈線による小区画文も配す。内面弱い研磨	中期後葉初
第300図 PL.133	99坑 12	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい褐色	横位隆線を設け、上位は斜位沈線群下位は縦位沈線群を配す。いずれも内皮平行沈線。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第300図 PL.133	99坑 13	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/赤褐色	内湾する体部。2条隆線により幅狭の横位無文帯を画す。下位は斜位隆線による区画構成か。斜位短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉初
第300図 PL.133	99坑 14	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/暗赤褐色	体部上半か。2条の横位隆線を設け、縦位矢羽状短沈線を施す。内面撫で調整	中期後葉
第300図 PL.133	99坑 15	深鉢	体部下半～ 底部破片	埋土	細:輝石/良好/赤褐色	内湾気味に開く体部下半。縦位撚糸Rが覆う。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第300図 PL.133	99坑 16	打製石斧	上端欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.2、幅:6.4、厚:1.4、重:135.8。分銅形。挟り部はやや弱い。薄手の素材で礫面を残し、粗い剥離調整で周縁を作出する	
PL.133	99坑 17	加工痕ある 剥片	完形	埋土	流紋岩	長:1.4、幅:2.4、厚:0.4、重:1.3。小型の剥片周縁に押圧剥離を施し、刃部としている	
第301図 PL.133	100坑 1 2	深鉢	口縁部・体 部破片2点	埋土	細:輝石/良好/にぶい赤褐色	口縁部は細隆線による楕円状区画構成。体部は垂下沈線2条に画された幅広磨消部懸垂文構成。縄文はRL縦位・斜位充填施文。内外面研磨を施す	中期後葉
PL.133	100坑 3	加工痕ある 剥片	完形	埋土	黒色頁岩	長:9.2、幅:8.0、厚:1.4、重:130.7。幅広の縦長剥片を素材にし右側縁から下端に細かな剥離を加え刃部としている	
第301図 PL.133	101坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石・片岩 粒/良好/赤褐色	内湾する無文の口縁部。口唇部稜線は鋭く、内外面とも平滑な撫で調整を施す	中期後葉初
第301図 PL.133	101坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	縦位撚糸Lが器面を覆う。内面弱い研磨	中期後葉初
第301図 PL.133	101坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ にぶい褐色	2条の垂下沈線による懸垂文構成。地文は撚糸R縦位施文。内面平滑な撫で	中期後葉初
第301図 PL.133	101坑 4	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 褐色	体部上半の外反部か。横位平行沈線群が施される。内面平滑な撫で調整	中期後葉初
第301図 PL.133	101坑 5	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/やや 軟/明褐色	コイル状突起を重ねた垂下隆線による懸垂文構成。側線は平行沈線群。器面磨滅	中期後葉初
第301図 PL.133	101坑 6	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 暗褐色	斜位弧状隆線による体部区画文か。横位平行沈線や斜位平行沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第301図 PL.133	101坑 7	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/明褐色	体部上半か。横位沈線を設け体部は瘤状小突起より垂下隆線が懸垂する。弧状沈線を施す。内面平滑な撫で	中期後葉初
第図 PL.133	101坑 8	器台	脚部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 明褐色	破片右側に孔の痕跡が見出せる。斜位LRを施す。内面弱い撫で	中期
第301図 PL.133	101坑 9	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:11.8、幅:6.3、厚:4.3、重:430.0。やや厚手で扁平な楕円状円礫。敲打痕は全面に及ぶが、下端部の集中が顕著。裏面の磨面は弱く顕著ではない	
第301図 PL.134	102坑 1	深鉢	口縁～体部 上半破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	口縁部内湾する小型深鉢。円形突起と隆線による蛇行意匠を配す。他は無文。頸部隆線には刻みを乗せ、交互刺突文を加える。体部は斜位RLを施す。内面平滑な撫で、煤付着	中期後葉初
第301図 PL.134	102坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/灰褐色	口縁部幅狭の無文部を設け、以下斜位短沈線を充填する区画文を配す。側線は沈線。内面横位撫で調整	中期後葉
第301図 PL.134	102坑 3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶい 黄橙色	口縁部幅狭の無文部を設け、以下縦位短沈線を充填する区画文を配す。側線は沈線。内面横位撫で調整	中期後葉
第301図 PL.134	102坑 4	鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・片岩粒/良 好/褐色	口縁部外面肥厚する。無文で外面丁寧な研磨、内面弱い研磨を施す	中期後葉
第301図 PL.134	102坑 5	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/ 良好/赤褐色	連接する垂下隆線2条による懸垂文構成。側線は撫で、縦位RLを充填する。硬質な原体施文。内面平滑な撫で	中期後葉
第301図 PL.134	102坑 6	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母多/良 好/にぶい褐色	体部下半。垂下隆線1条と側線の沈線2条による懸垂文構成。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第301図 PL.134	102坑 7	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶい 褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLを施し縦位波状沈線を加える。内面平滑な撫で	中期後葉
第301図 PL.134	102坑 8	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶい 褐色	外反する体部中位。2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LR充填施文。内面研磨	中期後葉

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第301図 PL.134	102坑 9	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い橙色	薄手の器厚。横位・斜位沈線と渦巻文を配す。地文は縦位RL。 内面平滑な撫で調整	中期後葉
第301図 PL.134	102坑 10	深鉢	底部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い褐色	強く開く体部下半。垂下沈線による懸垂文下端を見る。内面横位 撫で調整	中期後葉
第301図 PL.134	102坑 11	凹石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:8.3、幅:7.3、厚:4.5、重:363.5。やや厚手の扁平な円盤状の 円礫。敲打痕は全体に広がるが、表面中央に集まる。表裏面とも 弱い磨面を持つ	
PL.134	102坑 12	使用痕あ る剥片	完形	埋土	変質安山岩	長:8.0、幅:12.0、厚:2.0、重:253.8。大型の横長剥片を素材にする。 表面に礫面を大きく残し、下端及び両側縁を刃部とし、細かな刃 こぼれを見る	
第302図 PL.134	104坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好 /暗褐色	口縁部幅広の無文部を設け横位隆線で画す。以下横位矢羽状短沈 線を施す。内面弱い横位研磨	中期後葉
第302図 PL.134	104坑 2	浅鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/暗褐 色	口唇部外面肥厚。内外面丁寧な研磨を施し、僅かな赤彩痕が残る。 補修孔も見られる	中期後葉
第302図 PL.134	104坑 3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好 /にぶい褐色	口縁部に小型の双環状突起とコイル状突起を付し、下端より弧状 隆線が派生する。側線は内皮平行沈線。内稜強く平滑な撫で調整 を施す	中期中葉末
第302図 PL.134	104坑 4	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/赤褐 色	内湾する体部。内皮平行沈線数条による弧状・渦巻状意匠。地文 は縦位・斜位RLを施す。内面研磨	中期中葉末
第302図 PL.134	104坑 5	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・片岩/良好 /にぶい褐色	体部上半。隆線による口縁部区画文下端。側線は撫で。体部は縦 位RLを施す。内面横位研磨	中期後葉
第302図 PL.134	104坑 6	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/暗赤 褐色	体部屈曲部に横位隆線2条を設け、横位沈線や刺突文を施す。地 文はRL縦位施文だが隆線上にも横位に施す。内面平滑な撫で調 整	中期後葉初
第302図 PL.134	104坑 7	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好 /灰褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成か。縦位沈線群や横位 沈線を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉初
第302図 PL.134	104坑 8	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・雲母/良好 /にぶい橙色	体部下半。内皮平行沈線による縦位沈線群による懸垂mん構成。 無文部は半肉彫を呈す。内面平滑な撫で	中期後葉初
第302図 PL.134	104坑 9	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好 /にぶい赤褐色	体部上半。横位内皮平行沈線群による分帯。下半は縦位平行沈線 群による懸垂文構成。地文は縦位RL。内面弱い研磨	中期後葉
第302図 PL.134	107坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い橙色	1条の垂下隆線による懸垂文構成。側線は撫で、斜位RLを施す。 内面平滑な撫で調整	中期後葉
第302図 PL.134	110坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好 /明褐色	口縁部は内湾し口頸部は強く外傾する。縦位隆線群を貼付する。 内面平滑な撫で調整	中期後葉
第302図 PL.134	110坑 2	深鉢	口縁部突起 片	埋土	粗:石英・雲母/良好 /にぶい黄褐色	波状突起。頂部より隆線が垂下し、縁辺を縁取る。内面も三叉状 の意匠を配す	中期中葉
第302図 PL.134	110坑 3	深鉢	口縁部突起 片	埋土	細:輝石/良好/褐色	隆線による口縁部上の小渦巻状突起。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第302図 PL.134	110坑 4	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好 /にぶい赤褐色	2条隆線による口縁部区画文下端か。縦位密接条線を充填する。 内面平滑な撫で調整	中期後葉
第302図 PL.134	110坑 5	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	隆線による逆U字状懸垂文か。側線は撫で。内面は平滑な撫で調 整	中期後葉
第302図 PL.134	110坑 6	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好 /明赤褐色	隆線による口縁部区画文。側線は沈線で弧状短沈線を充填する。 体部は横位矢羽状短沈線の施文か。器面磨滅	中期後葉
第302図 PL.135	110坑 7	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・多・輝石/良 好/褐色	器厚薄手。撚糸L斜位施文が覆う。内面横位研磨	中期後葉
第302図 PL.135	110坑 8	深鉢	底部破片	埋土	粗:石英/良好/赤褐 色	厚手。内器面剥落する。外面は平滑な撫で調整	中期後葉
第302図 PL.135	110坑 9	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好 /灰褐色	口唇部僅かに突出し、口縁部は無文。下位に横位沈線を施す。内 面平滑な撫で調整	中期中葉
第302図 PL.135	110坑 10	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好 /明赤褐色	2条隆線による弧状意匠か。側線は沈線で、斜位短沈線を充填す る。内縁平滑な撫で調整	中期後葉
第302図 PL.135	110坑 11	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:7.9、幅:6.6、厚:5.4、重:405.5。やや厚手の不整楕円状円礫。 敲打痕が全体に広がり、裏面中央に弱い磨面を持つ	
第303図 PL.135	111坑 1~ 3	深鉢	体部破片3 点	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい褐色~明褐 色	体部上半。垂下沈線による幅広磨消部懸垂文構成。施文部は逆U 字状懸垂文。磨消部に縦位波状沈線文や蕨手状沈線文を配す。縄 文は縦位RL充填施文。内面撫で	中期後葉
第303図 PL.135	112坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	縦位LRが器面を覆う。内面丁寧な横位研磨	中期後葉
PL.135	112坑 2	加工痕あ る剥片	上部欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(6.3)、幅:8.6、厚:1.2、重:(102.9)。横長剥片を素材とす る。表面は広く礫面に占められ、裏面下端部の一部に剥離を見る	

遺物観察表

土坑 62区

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第309図 PL.135	5坑 1	浅鉢	底部1/3残存	埋土	細:石英・輝石/良好/褐色	強く開く体部下半。底部端部は丸みを帯びる。外面は平滑な撫で、内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第309図 PL.135	5坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい赤褐色	口縁部横位沈線を多段に配し、上位2条に円形刺突文を重ねる。内面弱い横位研磨	中期後葉
第309図 PL.135	8坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	無文の口縁部。内外面とも平滑な横位撫で調整を施す	中期後葉
第309図 PL.135	8坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	体部下半。垂下沈線2条による懸垂文構成。他は無文。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第309図 PL.135	8坑 3	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい黄褐色	沈線で画された施文部と磨消部によるJ字状・銚先状意匠。LRを充填する。内面弱い研磨	後期初頭
第309図 PL.135	10坑 1	深鉢	体部のみ1/3残存	埋土	粗:石英・輝石/良好/橙色～黒褐色	器厚薄手。大型深鉢で体部中位が僅かに括れる。無文で外面撫で調整後弱い研磨、内面斜位撫で調整を施す	後期初頭
第309図 PL.135	10坑 2	深鉢	体部下半～底部1/2残存	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい橙色	底:6.0。垂下沈線に画された磨消部と施文部懸垂文の交互配列。底部端部にまで沈線を施文する。施文部は無節L充填施文。内面平滑な撫で。底面に網代痕が残るが撫で調整のため判然としない	後期初頭
第309図 PL.135	10坑 3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/褐色	比較的薄手の器厚を呈し無文。内外面とも弱い研磨を施す	後期か
第309図 PL.135	10坑 4	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶい黄褐色	垂下細隆線による懸垂文構成。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第309図 PL.135	10坑 5	石皿	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(14.4)、幅:(12.2)、厚:(6.0)、重:995.0。上半部左側の破片か。裏面に脚を付ける。敲打により整形。内底面は平滑な磨面で光沢を有す	
第309図 PL.136	11坑 1	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい褐色	高い隆線による弧状突起を付し口縁部区画文を配す。頸部隆線には円形刺突文が重なる。区画内は沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。細隆線で弧状意匠を描くが、渦巻文か。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第309図 PL.136	11坑 2	鉢	体部破片3点	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい橙色	低位隆線による弧状・環状意匠。側線は撫で。外面は平滑な撫で、内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第309図 PL.136	13坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶい褐色	大型深鉢体部上半か。2条の横位隆線による口縁部区画下端。側線は凹線。体部は縦位LRを施す。内面弱い縦位研磨	中期後葉
第309図 PL.136	13坑 2	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶい褐色	口唇部欠損。隆線による口縁部区画文。側線は凹線。縦位LRを充填する。内面横位研磨	中期後葉
第309図 PL.136	14坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/明赤褐色	口縁部無文で横位撫で調整痕明瞭。横位隆線を設け凹線を側線とする。体部は横位・縦位LRによる羽状縄文か。内面平滑な撫で調整	中期末葉
第309図 PL.136	14坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/やや軟/にぶい橙色	体部下半か。器面磨滅する。縦位密接条線が覆う。器形の歪みを見る	中期後葉
第309図 PL.136	14坑 3	打製石斧	上端欠損	埋土	黒色頁岩	長:(9.0)、幅:4.7、厚:1.8、重:102.6。短冊形。完成状態。粗い剥離により直線的な両側縁と厚手の刃部を作出する。刃部には使用による磨滅痕が著しい	
第309図 PL.136	14坑 4	丸石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.4、幅:8.6、厚:7.6、重:950.0。厚手の楕円状円礫。球状に近い。全面に浅い敲打痕が広がり、強い偏りはないが下部部に集まるか	
第310図 PL.136	16坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石・雲母/良好/灰褐色	口縁部内外面肥厚。無文で平滑な横位撫で調整を施す	中期後葉
第310図 PL.136	16坑 2 3	深鉢	体部破片・底部残存	埋土	粗:輝石/やや軟/にぶい赤褐色	底:7.0。同一個体ながら体部破片数点と底部の接合が果たせなかった。体部は隆線によるU字状意匠。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。器面磨滅	中期後葉
第310図 PL.136	17坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石・雲母/良好/灰褐色	口縁部横位隆線に強い刻みを重ねる。下位は横位沈線を見ることから区画文構成か。縦位密接条線を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第310図 PL.136	17坑 2	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:輝石/やや軟/にぶい赤褐色	隆線による口縁部区画文。下位に渦巻文を付すか。区画内は弧状短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第310図 PL.136	17坑 3	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶい赤褐色	外反する体部上半。細沈線による分岐懸垂文構成か。磨消部は弱い研磨、施文部は縦位LRを施す。内面器壁剥落多い	中期末葉
第310図 PL.136	17坑 4	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	横位弧状沈線の痕跡を上端に見る。以下沈線による分岐懸垂文を配す。無節Rを縦位充填施文し磨消部及び内面は研磨を施す	中期末葉
第310図 PL.136	17坑 5	深鉢	体部下半～底部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶい赤褐色	底:(5.0)。2条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位LR充填施文。外底面研磨、内面弱い研磨	中期後葉
第310図 PL.136	17坑 6	打製石斧	上下端欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(11.6)、幅:6.0、厚:2.1、重:181.3。短冊形。完成状態。粗い剥離による作出で直線的な側縁と刃部に最大幅を設ける。使用痕は見られない	
PL.136	17坑 7	スクレイパー	左半欠損	埋土	黒色安山岩	長:4.5、幅:(4.0)、厚:1.7、重:27.6。横長剥片を素材とし右側縁に細かな剥離を集め刃部とする	
PL.136	17坑 8	磨製石斧	破片	埋土	変質蛇紋岩	長:(4.6)、幅:(4.7)、厚:2.1、重:33.7。大型の定角式体部破片。研磨は入念で光沢を持つ	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第310図 PL.136	18坑 1	深鉢	口縁～体部 上半破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	波状突起に弧状沈線2条を施し、体部は2条の沈線による逆U字 状意匠を配す。口縁部沈線も突起下でクランクし懸垂化する特徴 を見せる。内面撫で調整	中期後葉
第310図 PL.136	18坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い橙色	口縁部区画文構成か。側線は撫で。体部は垂下弧状沈線に画され た磨消部分岐懸垂文か。施文部はLR充填施文。内面平滑な撫で 調整	中期後葉
第310図 PL.136	20坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 黒褐色	口縁～体部一体化し斜位RLが器面を覆う。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第310図 PL.136	20坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/灰褐 色	2条の沈線による弧状意匠。施文は深い。内面横位撫で	後期初頭
第310図 PL.136	20坑 3	磨石	下半欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:(7.2)、幅:5.7、厚:3.7、重:231.1。やや厚手の棒状円礫か。 両面に平滑な磨面を持つ。上端部に敲打痕を集める	
第310図 PL.137	21坑 1	深鉢	口縁～体部 破片3点	埋土	粗:石英・繊維/やや 軟/にぶい黄褐色	口:(32.0)。波状突起を付し、口縁部は僅かな段を持つ。口唇部 は角頭状をなす。結束部を横位多段に施文する羽状縄文構成。外 器面磨滅する。内面撫で調整。体部下半に被熱痕跡を見る	前期初頭
第311図 PL.137	22坑 1 2	深鉢	体部破片2 点	埋土	粗:輝石・雲母/良好/ にぶい赤褐色	体部上半に横位隆線を設け、2条の垂下隆線や波状隆線を派生す る懸垂文構成。斜位短沈線、鱗状短沈線を充填する。内面平滑な 撫で調整	中期後葉
第311図 PL.137	22坑 3	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	体部中位。垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は 縦位RL充填施文。内面弱い研磨	中期後葉
第311図 PL.137	22坑 4	鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	強く内湾する体部中位。横位沈線を設け以下は無文で赤彩を施す。 意匠は不明。内面横位研磨	中期後葉
第311図 PL.137	22坑 5	深鉢	頸部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	頸部屈曲部に横位隆線を設け、体部は隆線貼付上端を見る。斜位 沈線を施す。内面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第311図 PL.137	22坑 6	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/にぶ い橙色	口縁部に太い横位隆線を設け、隆線渦巻文を付す。側線は円形刺 突文を疎らに施す。内面黒色研磨	中期後葉
第311図 PL.137	22坑 7	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/灰褐 色	2条の隆線による口縁部区画文。側線は凹線でRLを充填する。 体部は垂下沈線2条による幅狭磨消部懸垂文構成。施文部は縦位 RLを充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第311図 PL.137	22坑 8	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 褐色	波頂部下の双環状突起。上位は円孔か。突起は沈線による渦巻文 が施される。内面研磨	中期後葉
第311図 PL.137	22坑 9	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい赤褐 色	太い横位隆線に刻みを加える。以下縦位密接条線が覆う	中期後葉
第311図 PL.137	24坑 1	深鉢	口縁～体部 上半破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 赤褐色	幅広く無文の口縁部。横位隆線で画し、以下2条隆線や縦位波状 隆線による区画文を配す。斜位短沈線を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第311図 PL.137	24坑 2	深鉢	口縁～体部 上半破片	埋土	細:輝石・雲母/良好/ 黒褐色	薄手の器厚を呈す。2条隆線による口縁部区画文と渦巻文。側線 は沈線。体部は垂下沈線による磨消部や施文部波状文の懸垂文構 成。縄文はRL充填施文。内面研磨	中期後葉
第311図 PL.137	24坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい赤褐 色	隆線による体部弧状・渦巻状意匠。斜位短沈線を充填する。内面 撫で	中期後葉
第311図 PL.137	24坑 4	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	体部2帯構成の下位文様。沈線による分岐懸垂文。縦位無節L充 填施文。内面縦位研磨	中期末葉
第311図 PL.138	27坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 褐色	隆線による口縁部楕円状区画文。幅広の沈線を側線とし縦位RL を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第311図 PL.138	27坑 2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/やや 軟/明赤褐色	器面磨滅。縦位密接条線が施される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第311図 PL.138	27坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/やや軟/黄 灰色	器面磨滅。無節L斜位施文か	中期後葉
第311図 PL.138	29坑 1	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	体部下半。縦位短沈線下端を見る。内面撫で	中期後葉
第311図 PL.138	29坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	口唇部に沿って連続爪形文と連続三角刺突文が施される。内面弱 い横位研磨	中期中葉
第312図 PL.138	30坑 1	深鉢	頸部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 灰褐色	太い横位隆線による分帯。口縁部は隆線による区画文か。体部は 縦位RLを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第312図 PL.138	30坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	横位隆線2条による分帯。以下縦位擦糸Lを地文とし垂下沈線を 重ねる。内面弱い横位研磨	中期後葉初
第312図 PL.138	30坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 黒褐色	沈線による大柄な弧状・渦巻状意匠。内面平滑な撫で	中期後葉
PL.138	30坑 4	使用痕あ る剥片	左半欠損	埋土	変質安山岩	長:8.0、幅:(6.5)、厚:1.2、重:68.8。横長剥片を素材とし、下 端部の刃部に刃こぼれを見る	
第312図 PL.138	31坑 1	深鉢	口縁部突起 片	埋土	粗:石英/良好/明褐 色	中位に円孔を設けた環状突起。隆線と沈線で縁取る。器面磨滅	中期中葉末
第312図 PL.138	31坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石・雲母/良好/ 黒褐色	渦巻文を中核とした2条隆線による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈 線を充填する。内面横位撫で	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第312図 PL.138	31坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/橙色	2条の垂下降線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第312図 PL.138	31坑 4	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/黒褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文。内面研磨	中期後葉
第312図 PL.138	32坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:輝石/良好/橙色	口縁部突起は突出し両側面より弧状隆線が派生する。口縁部は波状隆線野による区画文か。下端より1条の隆線が懸垂する。無節Lを施すが撫でによる不鮮明。内面横位削り調整後撫で	中期後葉
第312図 PL.138	32坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/良好/にぶい褐色	やや扁平な口縁部。隆線による楕円状区画文構成。沈線を側線とし縦位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第312図 PL.138	32坑 3	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石・雲母/良好/にぶい褐色	突出する隆線による口縁部幅狭の区画文。沈線を側線とし斜位短沈線を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第312図 PL.138	32坑 4	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	体部上半か。横位隆線で体部を画す。頸部は縦位弧状沈線文を配す。円形刺突文を側線とし体部は垂下降線が派生する。斜位短沈線を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第312図 PL.138	32坑 5	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/橙色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位矢羽状短沈線を施す。外面研磨、内面撫で調整	中期後葉
第312図 PL.138	32坑 6	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:12.6、幅:5.2、厚:2.0、重:193.4。短冊形。完成状態。比較的細かな剝離で直線的な側縁と厚手の刃部を作出する。使用による磨減痕は刃部の他、頭部と側縁の一部にも見られる。装着痕か	
第312図 PL.138	35坑 1	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/明褐色	垂下沈線3条による磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LRを充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第312図 PL.138	35坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	内湾する体部上半。横位隆線で画され、体部上半沈線で画された施文部逆U字状意匠と縦位蕨手状沈線を配す。内面撫で	中期後葉
第312図 PL.138	35坑 3	磨石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:21.4、幅:15.3、厚:12.2、重:5520.0。厚手の楕円状円礫。卵形を呈し、全面に浅い敲打痕を見る。表面の一部に磨面を設ける	
第313図 PL.138	37坑 1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	直立気味の幅大口縁部に斜位隆線を付す。頸部横位隆線1条を設ける。体部は無文。口縁部に煤付着。被熱のためか器面磨滅	中期末葉
第313図 PL.138	37坑 2	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/黄褐色	2条の垂下降線による懸垂文構成か。縦位沈線を地文状とし横位弧状沈線3条を加える。内面平滑な撫で	中期後葉
第313図 PL.138	37坑 3	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・繊維/良好/にぶい黄褐色	横位LRとRLによる羽状縄文構成。内面弱い撫で	前期中葉
第313図 PL.138	37坑 4	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/明赤褐色	縦位撚糸Rを施す。横位沈線を下端に見る	中期後葉
第313図 PL.138	37坑 5	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/明赤褐色	垂下降線2条による懸垂文構成か。側線は沈線で横位弧状短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第313図 PL.138	37坑 6	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/褐色	刻みを付す縦位弧状隆線を配し、側線、充填文に1本描き沈線を施す。内面平滑な撫で	中期中葉
第313図 PL.138	37坑 7	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・白色粒/良好/明褐色	幅狭の横位隆線2条に弧状隆線を重ねる。小破片のため全容は判然としない	中期中葉か
第313図 PL.138	37坑 8	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	横位隆線以下先端V字状隆線が派生する。綾杉状沈線を充填する。内面平滑な撫で。器厚薄手	中期後葉
第313図 PL.138	37坑 9	浅鉢	底部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	強く開く体部下半。無文で内外面研磨を施す	中期後葉か
第313図 PL.138	37坑 10	打製石斧	下半欠損	埋土	黒色頁岩	長:(7.5)、幅:4.8、厚:1.3、重:53.8。短冊形。完成状態。比較的細かな剝離による側縁の作出。頭部は突出し、使用による磨滅痕を見る。装着痕か	
第313図 PL.138	37坑 11	敲石	完形	埋土	粗粒輝石安山岩	長:9.9、幅:7.8、厚:5.6、重:575.3。厚手の小型楕円状円礫。敲打痕は全面に見られ、上下端部の集中が著しい	
第313図 PL.138	37坑 12	磨石	一部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:10.0、幅:7.7、厚:2.6、重:296.8。薄手の扁平な不定形円礫。表裏面に磨面を見る。小孔は自然孔であろう	
PL.138	37坑 13	打製石斧	破片	埋土	黒色頁岩	長:6.7、幅:(5.0)、厚:1.8、重:65.9。短冊形か。頭部のみが残存	
PL.138	37坑 14	打製石斧	破片	埋土	黒色頁岩	長:(9.5)、幅:4.8、厚:1.2、重:37.0。短冊形か。表裏面とも剥落著しい	
第313図 PL.139	41坑 1	深鉢	口縁部1/3 ~体部上半 残存	埋土	細:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	波状縁。波頂部に退嬰化した沈線による渦巻文が配され、区画文が連接する。体部は2条の沈線に画された磨消部H字状懸垂文が配される。縄文は口縁部が横位、体部が縦位RL充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第313図 PL.139	41坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・多・輝石/良好/暗褐色	強く外反する無文の幅大口縁部。内外面とも横位研磨を施す	中期後葉
第313図 PL.139	41坑 3	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/明黄褐色	垂下沈線で画された磨消部と施文部による懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。器面磨滅	中期後葉
第313図 PL.139	41坑 4	土偶	腕部破片	埋土	細:石英/良好/にぶい褐色	おそらく左上腕部か。表面は横位内皮平行沈線、裏面は外皮沈線の弧状施文。丁寧な撫で調整を施す	中期後葉か

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第314図 PL.139	42坑 1	深鉢	口縁～体部 破片3点	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	口:(42.0)。隆線による渦巻文と区画文が一体化する。側線は沈線。体部は垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LRに縦位波状沈線が重なる。全体に雑な施文。内面撫で調整	中期後葉
第314図 PL.139	42坑 2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石少/良 好/にぶい橙色	隆線で画された口縁部楕円状区画文構成。口唇部に円文を配す。区画内は幅広沈線を側線とし、横位RLを充填する。内面は縦位研磨を施す	中期後葉
第314図 PL.139	42坑 3	浅鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石・片岩/ 良好/明赤褐色	口縁部外面肥厚。体部は強く内湾し、隆線による弧状意匠を配す。外面撫で、内面横位研磨を施す	中期後葉
第314図 PL.139	42坑 4	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 灰黄褐色	波状緑か。口縁部隆線に内皮使用の横位連続爪形文を重ねる。以下横位爪形文と横位平行沈線を多段に施し、体部は同沈線による渦巻文が配される。被熱による変色か、内面はにぶい褐色を呈す	中期中葉
第314図 PL.139	42坑 5	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/暗褐色	外反する頸部か。体部に横位隆線を設け側線として平行沈線群が沿う。体部は弧状隆線と沈線を施す	中期中葉
第314図 PL.139	42坑 6	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	横位隆線を設け、側線として内皮平行沈線群が沿う。下位に縦位沈線2条と縦位RLを施す	中期中葉か
第314図 PL.139	42坑 7	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 明黄褐色	垂下沈線に画された磨消部と施文部による懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL充填施文。磨消部及び内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第314図 PL.139	44坑 1	打製石斧	下半欠損	埋土	細粒輝石安山岩	長:(9.9)、幅:5.6、厚:1.6、重:121.2。短冊形。完成状態。比較的細かな剥離で側縁を仕上げる。表面全体に使用による磨滅痕を見る	

61区3号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第315図 PL.139	1	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 黒褐色	内面強く肥厚し、波状突起を付す。口縁部は細隆線2条と凹線による区画文構成。RLを充填する。内面平滑な撫で調整。	中期後葉
第315図 PL.139	2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/橙色	直線的に開く無文の口縁部。外面は弱い撫で、内面は平滑な撫で調整を施す	後期か
第315図 PL.139	3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/やや軟/に ぶい黄褐色	口縁部は外反し無文。下位に横位隆線を設け、弧状隆線を付す。器面磨滅	後期か
第315図 PL.139	4	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/明黄 褐色	直立気味の無文口縁部下に横位隆線を設ける。以下体部は縦位LRを施す。内面横位撫で調整	後期初頭
第315図 PL.139	5	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/にぶ い褐色	口縁部は無文で波状縁を呈す。屈曲部に細隆線を設け、体部は斜位・縦位LRを施す。内面平滑な撫で	中期末葉
第315図 PL.139	6	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 褐色	口縁部内湾。幅狭の無文部下に横位細隆線を設け、垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文が派生する。施文部縄文は縦位LR。内面横位撫で調整	中期末葉
第315図 PL.139	7	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	幅狭の無文の口縁部下に横位隆線を設ける。以下縦位・斜位LRを施す。内面横位研磨、煤付着	中期末葉
第315図 PL.139	8	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 明褐色	波頂部に設けられた捻転状突起。両脇より口縁部細隆線が派生する。裏面も低位弧状突起を付す。内外面研磨	後期初頭
第315図 PL.139	9	深鉢	口縁部突起 破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	波頂部に設けられた捻転状突起。上位部分は貫孔する。中位両脇より口縁部隆線が、両下脇より口縁部沈線が派生する。内面撫で	後期初頭
第315図 PL.139	10	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/やや軟/明 黄褐色	無文の口縁部。下位に横位隆線を設け、垂下隆線が派生する体部懸垂文構成。無節L縦位施文。器面磨滅	中期末葉
第315図 PL.139	11	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英/良好/黒褐 色	頸部外反し体部上半は内傾する。隆線による渦巻文が配され円形刺突文も隆線上に施される。内面平滑な撫で	後期初頭
第315図 PL.140	12	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 橙色	体部上半か。垂下隆線1条による懸垂文構成。他は無文で内面は撫で調整。器厚薄手	中期末葉
第315図 PL.140	13	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/灰黄 褐色	横位沈線に画された施文部による幾何学文構成。細縄文LRを充填する。内面平滑な撫で調整	後期前葉
第315図 PL.140	14	深鉢	底部1/2残 存	埋土	細:輝石/良好/にぶ い橙色	底:7.0。外反気味に開く体部下半。入念な縦位研磨を施す。内面は平滑な撫で調整。底面に網代痕	中期後葉
第315図 PL.140	15	深鉢	底部1/2残 存	埋土	細:石英・輝石/良好/ 暗褐色	底:5.2。小型深鉢か。縦位沈線による懸垂文下部端を見る。無節L縦位充填施文。内面丁寧な研磨	後期前葉
第315図 PL.140	16	スクレイ パー	上半欠損	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:0.8、厚:0.6、重:0.7。あるいは石錐未製品か。断面三角形の棒状素材の両側縁より細かな押圧剥離を加える	
PL.140	17	石錐	体部残存	埋土	黒曜石	長:(2.0)、幅:0.8、厚:0.9、重:1.5。先端部欠損。体部から摘み部に粗い押圧剥離を施す。上端に礫面を残す	
PL.140	18	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.3、幅:1.8、厚:0.6、重:1.4。小型の横長剥片を素材とし、下端部の刃部に細かな押圧剥離を施す	

遺物観察表

61区4号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第317図 PL.140	1	壺	口縁～体部 上半1/4残 存	埋土	粗:輝石/良好/明赤 褐色	無文の口縁部は幅広で外反する。頸部に横位隆線2条を設け、渦 巻文を付す。体部は沈線による不整形区画文を配す。縦位RL を充填する。内面弱い研磨	中期後葉
第317図 PL.140	2	深鉢	口縁～体部 上半1/4残 存	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	隆線による口縁部楕円状区画文構成。区画接点には隆線と沈線で 縦位S字状意匠を配す。区画内は斜位短沈線を充填する。体部は 垂下沈線2条による幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LR 施文後に縦位波状沈線を重ねる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第317図 PL.140	3	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/褐色	波状縁。口縁部は幅狭の無文部と口縁部隆線を設ける。体部は2 条の垂下沈線に画された幅狭磨消部懸垂文構成か。施文部縄文は 縦位LR充填施文。内面弱い研磨	中期後葉
第317図 PL.140	4	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	緩やかな波状縁。幅狭の無文部と口縁部隆線を設け、2条一組の 弧状隆線が派生しおそらく渦巻文を配する。縄文はRL充填施文。 内面平滑な撫で	中期後葉
第317図 PL.140	5	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ 褐色	口縁部は肥厚し隆線による区画文を配す。区画内は沈線を側線とし 縦位短沈線を充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第317図 PL.140	6	深鉢	頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	隆線による口縁部区画文下端。沈線を側線とし縦位短沈線を充填 する。体部は縦位波状隆線が派生し、斜位弧状短沈線を施す	中期後葉
第317図 PL.140	7	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い橙色	垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部は無節L縦位充填 施文。内面弱い研磨	中期後葉
第318図 PL.140	8	スクレイ パー	完形	埋土	黒曜石	長:2.8、幅:1.3、厚:0.8、重:2.3。縦長剥片を素材とし、裏面に 丁寧な押圧剥離を集中する。表面は先端のみの作出に止まる	
第318図 PL.140	9	打製石斧	完形	埋土	黒色頁岩	長:10.6、幅:4.4、厚:1.6、重:86.7。非対称な短冊形。粗い剥離 ながら細かな調整を加え側縁、刃部を作出する	
第318図 PL.140	10	石棒	破片	埋土	雲母石英片岩	長:(20.9)、幅:(10.0)、厚:(6.3)、重:2090.0。大型石棒で無 頭タイプかあるいは基部か。先端部は残存状態が悪いが、研磨が 看取できる。体部は敲打による整形	
PL.140	11	石鏃	右脚欠損	埋土	黒曜石	長:(1.4)、幅:(1.7)、厚:1.3、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。 非対称な形状ながら丁寧な押圧剥離に覆われ薄手に仕上げている	

61区5号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第319図 PL.140	1	壺	頸部把手	埋土	粗:石英/良好/にぶ い黄褐色	体部上半に付せられた大型橋状把手。隆線で縁取られ中位は縦位 S字状意匠を配し、区画文が接続する。体部は細隆線と沈線による 逆U字状意匠を配し縦位RLを施す。内面横位撫で調整	中期後葉
第319図 PL.140	2	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	口縁部横位隆線を設ける。他は無文。内外面とも平滑な撫で調整 を施す	後期初頭
第319図 PL.140	3	深鉢	口縁部突起 片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 灰黄褐色	波状突起。凹線下位に縄文を施す。おそらく渦巻文か。、内外面 研磨	中期後葉
第319図 PL.140	4	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	平縁。口縁部沈線を施し、弧状沈線により磨消部と施文部を画す。 施文部は無節L充填施文。内面弱い研磨	後期初頭
第319図 PL.140	5	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石小/良好/灰 黄褐色	沈線で画された施文部と磨消部による渦巻文を配す。施文部はR Lを充填する。内面弱い横位研磨	後期初頭
第319図 PL.140	6	深鉢	体部破片	埋土	細:石英/良好/にぶ い褐色	沈線で画された磨消部懸垂文に縦位S字状意匠が配される。施文 部縄文はRL充填施文。内面丁寧な研磨	中期後葉
第319図 PL.140	7	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	体部下半。垂下沈線による懸垂文下端。縦位波状文も加わる。内 面平滑な撫で調整	中期後葉
第319図 PL.140	8	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	外反する体部中位。2条の沈線で画された磨消部弧状意匠か。施 文部縄文はLR充填施文。内面平滑な撫で	後期初頭
第319図 PL.140	9	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/ にぶい褐色	器厚薄手。縦位弧状隆線を付す。U字状懸架文か。斜位短沈線を 充填する。内面撫で	中期後葉
第319図 PL.140	10	打製石斧	上半欠損	埋土	珪質頁岩	長:5.3、幅:4.8、厚:1.8、重:73.6。短冊形。比較的丁寧な剥離 調整で側縁、刃部を作出する。刃部表面に礫面が残り、摩耗痕も 見られる	
第319図 PL.140	11	スクレイ パー	完形	埋土	黒曜石	長:2.2、幅:0.9、厚:0.4、重:0.8。小型の剥片周縁より押圧剥離 が全面に及び小弧状の平面形に作出する。弧内縁が刃部状となる	
PL.140	12	石鏃未製 品	完形	埋土	黒曜石	長:2.7、幅:1.7、厚:0.9、重:3.1。小型の剥片周辺より押圧剥離 を加えるが中央部が厚く、側縁と先端部の粗い作出に止まる	
PL.140	13	加工痕あ る剥片	破片	埋土	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.3)、厚:0.5、重:0.8。小型の剥片を素材とし 先端部に押圧剥離を加え刃部としている	

埋設土器 61区

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第321図 PL.141	1埋 1	深鉢	口縁～体部 中位残存	—	細:輝石/良好/橙色	口:39.0。4単位波状口縁大型深鉢。口縁部は隆線による渦巻文と連接する区画文構成。区画内側線は凹線でRLを充填する。体部は上下2帯構成。上位は沈線による不整形区画と縦位S字状意匠を配す。下位は隆線による大柄の渦巻文を中核に据え小渦巻文や不整形区画文が埋められる。側線は凹線でRLを充填する。内外面研磨を施し丁寧な作りを示す	中期後葉
第321図 PL.141	1埋 2	深鉢	体部2/3残存	—	粗:輝石/良好/橙色	低隆線2・3条による懸垂文構成。逆U字状・蕨手状懸垂文も加わる。側線は幅広の沈線。縄文はRL縦位充填施文。内面研磨	中期後葉
第321図 PL.141	1埋 3	敲石	上半欠損	—	粗粒輝石安山岩	長:(8.2)、幅:(9.8)、厚:7.2、重:400.8。厚手の不整楕円状円礫。被熱のため多孔質を呈する。敲打痕は全体に広がり下部に集まる。裏面に平滑な磨面を見る	
第321図 PL.141	2埋 1	深鉢	口縁～体部 上半残存	—	粗:石英・輝石/良好/黄橙色	口:41.6。大型深鉢。口縁部は隆線による半渦巻文と区画文構成。不規則な配置ながら5単位を数える。横位矢羽状短沈線を充填する。体部は垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位矢羽状短沈線を充填する。内面は弱い横位研磨を施す	中期後葉
第321図 PL.141	2埋 2	磨石	完形	—	粗粒輝石安山岩	長:5.4、幅:4.1、厚:1.3、重:35.5。小型で扁平な不整楕円状円礫。表裏面中央に弱い磨面を持つ	
第321図 PL.141	2埋 3	石鏃	完形	—	黒色安山岩	長:1.6、幅:1.2、厚:0.4、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。小型で中央部に厚みを残すが、押圧剥離が全面を覆う	
第321図 PL.141	2埋 4	スクレイパー	完形	—	黒曜石	長:2.4、幅:1.7、厚:0.8、重:2.9。厚みのある小型剥片下端に押圧剥離を施し刃部としている	
PL.141	2埋 5	石鏃	右脚欠損	—	黒色安山岩	長:1.8、幅:(1.6)、厚:0.3、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面を覆い整った平面形を作出している	
PL.141	2埋 6	石鏃	完形	—	黒曜石	長:1.4、幅:0.8、厚:0.2、重:0.2。凹基無茎鏃。完成状態。小型で薄手の素材剥片周縁に細かな調整を施し平面形を作出する。表裏面とも素材面を広く残す	
PL.141	2埋 7	石鏃	下半欠損	—	黒曜石	長:(1.5)、幅:(0.7)、厚:0.3、重:0.3。先端部のみ残存。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面を覆う	
PL.141	2埋 8	磨石	2/3剥離面	—	粗粒輝石安山岩	長:(12.3)、幅:(7.4)、厚:(5.0)、重:794.8。礫皮を広く逸す。表裏面とも平滑な磨面を持つ	
第321図 PL.141	3埋 1	深鉢	体部下半～ 底部残存	—	細:石英少/良好/褐色	底:8.0。底部突出し、体部下半は強く開く。縦位RLを覆う。下半部及び内面は研磨を施す	中期後葉
第322図 PL.142	4埋 1	壺	口縁～体部 の一部欠損	—	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	口:32.0、高:44.0、底:10.4。大型の両耳壺。把手は4単位構成。口縁部は外反気味に内傾し無文。頸部隆線2条を設け、大型の橋状把手を付す。3個が欠損。把手下端より2条の弧状隆線が派生し把手間を繋ぐ。区画中位には隆線による渦巻文が配される。縄文はRL充填施文。内面は横位・斜位撫で調整	中期後葉
第322図 PL.142	4埋 2	深鉢	体部中位 2/3残存	—	粗:石英・輝石/やや軟/褐色	体部中位の僅かな括れ部。垂下沈線2条に画された磨消部と施文部による懸垂文構成。交互配列を呈す。施文部縄文は縦位RL充填施文。内面は弱い研磨、下半に煤付着	中期後葉
第322図 PL.142	4埋 3	敲石	完形	—	粗粒輝石安山岩	長:13.3、幅:5.1、厚:4.5、重:430.0。下半が広い棒状円礫。敲打痕は下端を中心に集中する。表面下半に僅かな磨面を見る	
第322図 PL.142	4埋 4	石鏃未製品	完形	—	黒曜石	長:2.5、幅:1.9、厚:0.8、重:2.7。凹基無茎鏃の製作意図か。やや粗い押圧剥離に全体が覆われるが、中央に厚みがあり未製品と見る。また右側縁の欠損のため製作を中止、放棄したものと考えられる	
PL.142	4埋 5	石鏃	破片	—	黒曜石	長:(1.4)、幅:(1.2)、厚:0.2、重:0.4。体部のみ残存。完成状態。丁寧な押圧剥離により薄手に仕上げる	
第323図 PL.143	6埋 1	深鉢	体部下半残存	—	粗:輝石/良好/明黄褐色	底:9.4。厚手の器厚を呈す。大型深鉢。体部上半は外反し下半に僅かな内湾を持たせる。垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成。施文部縄文はRL斜位充填施文。縦位波状沈線を施す区画もある。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第323図 PL.143	6埋 2	深鉢	体部破片	—	細:石英・輝石/良好/明褐色	縦位RLを覆う。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第323図 PL.143	6埋 3	深鉢	口縁部破片	—	粗:輝石/良好/にぶい黄褐色	口縁部内稜強い。無文で内外面とも平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第323図 PL.143	6埋 4	深鉢	口縁部破片	—	粗:石英・雲母/良好/明褐色	口唇部より横位重弧状沈線を配す。口縁部内稜は剥落	中期中葉
第323図 PL.143	7埋 1	壺	頸部～体部 上半1/4残存	—	細:輝石/良好/明赤褐色	底:(7.4)。頸部に横位隆線を設け、大型の橋状把手を付す。単位は不明。把手下端から横位波状隆線が派生する。体部は縦位密接条線を施す。内面弱い研磨。底部の一部を欠損するが意図的な破壊と捉えたい	中期後葉
第323図 PL.143	7埋 2	凹石	上半欠損	—	粗粒輝石安山岩	長:11.3、幅:6.1、厚:4.4、重:432.0。やや厚手の長楕円状円礫。敲打痕は下端及び裏面中央に集まり、裏面で凹みとなす	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第323図 PL.143	7埋 3	石鍬未製品	完形	—	黒色安山岩	長:3.1、幅:2.5、厚:1.0、重:7.0。小型の素材剥片周縁よりやや粗い押圧剥離を施す。中央部に厚みを残し基部整形も整っていない	
第323図 PL.144	8埋 1～ 3	深鉢	頸部～底部 破片3点	—	細:石英・輝石/やや 軟/にぶい黄橙色	器面磨滅し、器形・文様ともに判然としない。頸部は外反し体部下半は内湾する。文様は弧状沈線と縄文施文が僅かに確認できる	中期後葉か

埋設土器 62区

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第324図 PL.144	1埋 1	深鉢	口縁部破片 ・体部1/2残 存	—	粗:石英/良好/灰褐 色	口:33.2。口縁部は隆線による渦巻文と区画文構成。体部は垂下沈線2条に画された幅狭磨消部懸垂文構成。施文部縄文はLR充填施文。内面は平滑な撫で調整。下半部が被熱のため変色	中期後葉
第324図 PL.144	2埋 1	深鉢	体部のみ残 存	—	細:輝石/良好/明赤 褐色	大型深鉢。直線的に開く。上半に横位隆線を設け以下沈線に画された施文部と磨消部の懸垂文構成。施文部は無節L縦位充填施文。磨消部には蕨手状沈線が加わる。内面は撫で調整を施す	中期後葉

焼土 61区

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第326図 PL.144	14焼 1～ 5	深鉢	体部・底部 破片5点	埋土	粗:石英/やや軟/に ぶい黄橙色	脆弱で残存状態悪い。垂下隆線で画された施文部と磨消部交互配列による懸垂文構成。施文部縄文は縦位LR充填施文。器面磨滅する	中期後葉
第326図 PL.144	14焼 6	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英・輝石/やや 軟/にぶい褐色	肥厚する無文口縁部下に横位隆線を設ける。以下横位RLを施す。内面撫で	中期後葉
第326図 PL.144	14焼 7	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/灰褐 色	垂下沈線1条と蕨手状沈線端部を見る。地文は縦位RL。内面横位撫で調整	中期後葉
第326図 PL.144	14焼 8	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 明黄褐色	垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RLに縦位波状沈線文が重なる。内面研磨	中期後葉
第326図 PL.144	15焼 1	深鉢	口縁部把手 片	埋土	細:輝石/良好/明赤 褐色	釣り手状の把手。表面及び両側面に沈線と刺突文を施す。裏面は無文で撫で調整を施す	後期初頭
第326図 PL.144	16焼 1	深鉢	口縁部把手 片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 暗褐色	縦位連接把手。上位は縦位環状を呈し隆線と沈線で縁取る。下位は欠損するが両側面と内面からの貫孔で中空状を呈す。口縁部隆線が派生する	中期後葉
第326図 PL.144	17焼 1 2	深鉢	口縁部・体 部破片2点	埋土	粗:石英/やや軟/黒 褐色	被熱のため器面磨滅。口縁部横位隆線を設け、垂下隆線が派生する。体部は垂下隆線による懸垂文構成で磨消部と施文部からなる。施文部縄文は縦位RL	中期末葉
第326図 PL.144	17焼 3 4	深鉢	体部・底部 破片2点	埋土	粗:石英/やや軟/橙 色	底:(9.0)。被熱のため器面磨滅。体部は垂下隆線による懸垂文構成。施文部縄文は縦位LR	中期後末葉
第326図 PL.144	17焼 5	石棒	体部のみ残 存	埋土	緑色片岩	長:11.6、幅:3.3、厚:3.3、重:183.2。棒状の円礫。敲打による整形で両端を逸する。あるいは意図的な所産か。長軸方向の破損を見るが、被熱による例では無い	
第326図 PL.145	18焼 1	深鉢	口縁部突起 片	埋土	細:石英少・雲母/良 好/褐色	中に円孔を配した板状の突起。上端は隆線による蛇行文を配し、外面は沈線が縁取る	中期中葉
第326図 PL.145	18焼 2	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/褐色	無文の体部。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第326図 PL.145	18焼 3	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 赤褐色	薄手の器厚。内湾する体部中位。沈線による施文で弧状短沈線と縦位短沈線を施す。内面研磨	中期後葉
PL.145	18焼 4	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒曜石	長:2.5、幅:1.2、厚:0.5、重:1.5。小型の縦長剥片を素材とし、下端刃部に押圧剥離、右側縁に微細剥離を見る	

焼土 62区

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第326図 PL.145	1焼 1	深鉢	口頸部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 橙色	波頂部配された捻転状突起。沈線を重ねる。突起両下端より口縁部隆線が派生する。体部は無節Lを施す	後期初頭
第326図 PL.145	1焼 2	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は浅い縦位密接条線と波状沈線を重ねる。内面平滑な撫で	中期後葉
第326図 PL.145	2焼 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶ い黄橙色	口縁部沈線と縦位無節L。区画文構成か。内面撫で	中期後葉
第326図 PL.145	2焼 2	深鉢	口頸部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	隆線による口縁部区画文の一部。側縁は撫で	中期後葉
第326図 PL.145	2焼 3	加工痕あ る剥片	完形	埋土	黒曜石	長:1.9、幅:2.8、厚:0.5、重:2.4。横長剥片を素材とし、押圧剥離を表面に集め、下端を刃部とする	

集石 62区

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第327図 PL.145	1集 1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 灰褐色	外反する無文の口縁部。内外面とも弱い研磨を施す	中期後葉
第327図 PL.145	1集 2	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	上端に渦巻文を配した小突起。口縁部は区画文構成か。凹線が施される。内面撫で	中期後葉
第327図 PL.145	1集 3	石皿	破片	埋土	粗粒輝石安山岩	長:17.6、幅:(10.2)、厚:6.6、重:1581.0。おそらく上半部右側の破片。敲打による整形。底面は緩やかに凹み、縁も低く凹みを並べる。裏面も弱い磨面を見る	
第327図 PL.145	1集 4	多孔石	一部欠損	埋土	粗粒輝石安山岩	長:33.1、幅:20.4、厚:18.4、重:13300.0。大型で不定方形を呈する亜角礫。断面円錐状の凹みが表面縁辺に設けられる。両側縁・裏面にも浅い孔を見るが顕著では無い	
PL.145	1集 5	打製石斧	完形	埋土	細粒輝石安山岩	長:11.1、幅:4.7、厚:1.2、重:86.1。短冊形。完成状態。表面に礫面を大きく残し。粗い剥離で両側縁と刃部を作出する。	
第328図 PL.145	2集 1	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 灰褐色	垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は無節R縦位充填施文。内面横位撫で調整	中期後葉
第328図 PL.145	2集 2	深鉢	体部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ 橙色	沈線による小渦巻文を中心に弧状意匠や懸垂文が配される。RL縦位充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第328図 PL.145	2集 3	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/やや 軟/橙色	器面磨滅。浅い凹線による逆U字状意匠か。RL充填施文。内面撫で	中期後葉
第328図 PL.145	2集 4	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	口唇部に幅狭の無文部を設け、以下縦位RLを施す。破片下端に弧状の撫で線を見るが全容は不明。内面撫で	中期後葉
PL.145	2集 5	加工痕ある剥片	左半欠損	埋土	ホルンフェルス	長:3.2、幅:1.6、厚:0.6、重:5.4。横長剥片を素材。右側縁と下端刃部に細かな剥離を施し刃部とする	

1号列石

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第334図 PL.145	1 2	鉢	口縁~底部 1/2残存	1群	粗:石英・片岩少/良 好/黒褐色	口:26.0、高:13.5、底:8.0。破片4点以上からなる。口縁部は強く開き体部は内湾する。上位に刻みを付す横位細線2条を設け8字状貼付文を2ヶー対で配す。おそらく3~4単位。口唇部を僅かに突出させ、横位沈線を施す。内面平滑な撫で調整	後期前葉
第334図 PL.145	3	深鉢	口縁部破片	—	粗:輝石/良好/にぶ い赤褐色	強い横位撫でによるミズ腫れ状の隆線が覆う。内面弱い研磨	後期前葉
第334図 PL.145	4	鉢	口縁部1/2 残存	—	細:石英・輝石/良好/ 黒褐色	口:11.0。小型鉢。口縁部~頸部は屈曲し橋状把手を設け、体部上半が内湾する。把手は8字状貼付文を配し下位は貫孔する。頸部隆線は円形刺突文を加え、下位に沈線を側線とする。内面丁寧な研磨	後期前葉
第334図 PL.145	5	深鉢	口縁部破片	5群	細:石英・輝石/良好/ 橙色	口縁部円環状突起。中位に円孔を穿つ。口縁部は幅狭に屈曲し横位沈線を施す。内面研磨	後期前葉
第334図 PL.145	6	深鉢	口縁部破片	—	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	口縁部内屈し波状突起を付す。円形貼付文を突起内外面に付し、口縁部は横位沈線を施す。内面平滑な撫で	後期前葉
第334図 PL.145	7	注口土器 か	体部破片	7群	細:輝石/良好/黒褐 色	体部屈曲部に設けられた横位隆線上位の橋状把手。やや斜位に傾いている。左側下端からも隆線が派生する。内面横位撫で調整	後期前葉
第334図 PL.145	8	壺	体部破片	8群	細:輝石/良好/褐灰 色	2条隆線による弧状意匠を配し、橋状把手を付す。内面平滑な撫で調整	後期前葉
第334図 PL.145	9	深鉢	頸部破片	7群	細:石英/良好/黒褐 色	強い押圧を加えた横位鎖状隆線を設ける。内面弱い研磨を施す	後期前葉
第334図 PL.145	10	深鉢	頸部破片	—	細:石英・輝石/良好/ 灰褐色	押圧を加えた横位鎖状隆線を設ける。内面平滑な撫で調整	後期前葉
第334図 PL.145	11	深鉢	体部破片	—	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	土製円盤の可能性もある。沈線で画された逆U字状意匠を細かく配列する。縄文はRL斜位充填施文。内面は弱い研磨	後期前葉
第334図 PL.145	12	深鉢	体部破片	—	細:輝石少/良好/に ぶい橙色	沈線による弧状意匠下端より垂下沈線が派生する。弧線文を充填する。内面平滑な撫で調整	後期前葉
第334図 PL.145	13	深鉢	口縁部破片	5群	粗:石英/やや軟/浅 黄褐色	波状縁。口縁部は無文で横位隆線を設ける。体部は2条の弧状沈線や分岐懸垂文が配される。器面磨滅	後期初頭
第334図 PL.146	14	深鉢	体部破片	—	細:輝石/良好/にぶ い橙色	体部2帯構成。沈線によるU字状意匠と分岐懸垂文を配す。意匠内は刺突列点文を施す。内面横位撫で	後期初頭
第334図 PL.146	15	深鉢	体部破片	—	細:輝石少/良好/に ぶい橙色	体部2帯構成か。沈線によるU字状意匠と分岐懸垂文を配す。内面撫で	後期初頭
第334図 PL.146	16	深鉢	体部破片	—	細:石英・輝石/良好/ 暗褐色	縦位沈線や横位弧状沈線を施す。内面弱い研磨	後期初頭
第334図 PL.146	17	深鉢	体部破片	—	細:石英・輝石/良好/ 褐色	太い沈線に画された施文部弧状・J字状意匠。意匠内は刺突列点文を充填する。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第334図 PL.146	18	深鉢	体部破片	6群b	細:石英/良好/黒褐 色	太い弧状沈線に画された施文部意匠。刺突列点文を充填する。内面平滑な撫で調整	後期初頭

遺物観察表

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第334図 PL.146	19	深鉢	口縁部破片	4群	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	無文の口縁部下に横位隆線を設け、隆線による分岐懸垂文を派生する。縄文は縦位LR。内面は横位撫で調整	中期末葉
第334図 PL.146	20	深鉢	口縁部破片	7群	粗:石英・輝石/良好 /黒褐色	口縁部内湾。斜位・縦位RLが器面を覆う。内面弱い横位研磨	中期後葉か
第334図 PL.146	21	深鉢	口縁部破片	9群	細:石英少/良好/に ぶい黄褐色	厚手の器厚。口縁部肥厚するも横位隆線と一体化する。以下横位・斜位RLを施す。内面平滑な撫で調整	中期末葉
第334図 PL.146	22	深鉢	口縁部破片	7群	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	口縁部は短く下位に横位隆線を設け浅い凹線を側線とする。体部は無文か。内面横位削り調整後撫で	中期末葉
第334図 PL.146	23	深鉢	口縁部破片	—	粗:石英/やや軟/に ぶい黄褐色	口唇部欠損ながら、擬口縁か。口縁部横位隆線を設け、垂下沈線が派生する懸垂文構成。縦位RLを充填施文する。内面平滑な撫で調整	中期末葉
第334図 PL.146	24	深鉢	体部破片	—	細:石英・輝石/良好 /褐色	弧状細沈線に画された磨消部弧状意匠。施文部縄文はLR充填施文。内面平滑な撫で調整	中期末葉
第334図 PL.146	25	深鉢	口縁部破片	—	細:石英・輝石/良好 /褐色	緩やかな波状縁。波頂部に隆線による渦巻文を配し、口縁部隆線が派生する。内外面とも弱い研磨を施す	中期末葉
第334図 PL.146	26	壺	口縁部破片	—	細:輝石/良好/褐灰 色	器厚薄手。口縁部に横位隆線2条を配し突起を付す。弧状隆線が派生する。おそらく渦巻状意匠。内面削り調整後弱い研磨	中期末葉
第335図 PL.146	27	注口土器 か	底部破片	—	細:石英少/良好/灰 黄褐色	底:(6.0)。内外面とも弱い撫で。器面磨滅	後期か
第335図 PL.146	28	深鉢	底部破片	6群 a	粗:石英・輝石/良好 /明赤褐色	底:(8.0)。強く開く体部下半。無文。底面に網代痕	後期か
第335図 PL.146	29	深鉢	底部1/3残 存	3群	粗:輝石/良好/にぶ い赤褐色	底:(9.2)。外反気味に開く。内外面とも弱い横位研磨	中期後葉か
第335図 PL.146	30	深鉢	底部1/3残 存	6群 a	粗:石英/やや軟/に ぶい黄褐色	底:(8.0)。大型の深鉢。外器面磨滅する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第335図 PL.146	31	深鉢	底部残存	6群 a	粗:石英・輝石/良好 /褐色	底:8.6。大型の深鉢。体部下半は強く開く。無文で外面は弱い研磨、内面は平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第335図 PL.146	32	深鉢	底部1/2残 存	6群 a	粗:石英/やや軟/に ぶい黄褐色	底:9.8。体部下半は強く開く。内外面とも器面磨滅する	中期後葉か
第335図 PL.146	33	深鉢	口縁部破片	4群	粗:石英・輝石/良好 /にぶい黄褐色	波状縁。低位隆線による区画文と渦巻文構成か。側線は沈線。RLを充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第335図 PL.146	34	深鉢	口縁部破片	9群	細:輝石/良好/明褐 色	波頂部に配された隆線による渦巻文。側線は凹線。縄文は縦位RL。突起内面も沈線による渦巻文を施す。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第335図 PL.146	35	深鉢	口縁部破片	—	粗:輝石/良好/褐色	薄手の器厚を呈し口縁部は内湾する。沈線で画された幅狭磨消部による逆U字状意匠。内面研磨	中期後葉
第335図 PL.146	36	深鉢	口縁部破片	6群 a	粗:石英多/良好/に ぶい黄褐色	2条の隆線による渦巻文と区画文か。側線は撫で、横位LRを充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第335図 PL.146	37	深鉢	口頸部破片	9群	細:石英・輝石/良好 /褐色	細隆線と凹線による口縁部区画文下端。体部及び区画内は縦位密接条線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第335図 PL.146	38	深鉢	体部破片	—	粗:石英・輝石/良好 /褐色	2条隆線による弧状意匠を配す。渦巻状意匠か。小区画文も連接する。縦位LRを充填する。内面撫で	中期後葉
第335図 PL.146	39	深鉢	体部破片	9群	粗:輝石/良好/褐色	細隆線と凹線による渦巻状意匠。RLを充填する。内面撫で	中期後葉
第335図 PL.146	40	壺	体部把手片	3群	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	体部上半に設けられた横位隆線と大型橋状把手。正面が凹み平滑な撫でを施す。縄文はLR充填施文。内面横位研磨を施す	中期後葉
第335図 PL.146	41	深鉢	体部破片	—	粗:石英/やや軟/に ぶい黄褐色	縦位RLが覆う。内外器面磨滅	中期後葉か
第335図 PL.146	42	深鉢	体部破片	7群	粗:石英/良好/にぶ い黄褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位波状密接条線。施文の止めも見られる。内面は平滑な横位撫で調整	中期後葉
第335図 PL.146	43	壺	体部破片	6群 a	粗:石英・片岩/良好 /褐色	体部上半に横位隆線2条を設け、小型の橋状把手が跨ぐ。以下隆線による大柄の渦巻文が配される。器面磨滅	中期後葉
第335図 PL.146	44	深鉢	口縁部突起 片	2群	細:石英/良好/褐色	波頂部より垂下した2条隆線による渦巻文。下端より弧状隆線が派生する。側線は沈線で、渦巻文も配される。細かな短沈線を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第335図 PL.146	45	深鉢	体部破片	—	粗:石英・輝石/やや 軟/にぶい赤褐色	垂下隆線1条の両側面にさらに隆線を加えた縦位突起による懸垂文構成。器面磨滅	中期後葉
第335図 PL.146	46	深鉢	口縁部破片	—	細:石英・輝石/良好 /暗褐色	小型深鉢か。内面肥厚。2・3条の沈線による口縁部楕円状区画文。区画接点は円形刺突文を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第335図 PL.147	47	深鉢	体部破片	7群	粗:石英・輝石/良好 /明赤褐色	垂下沈線と弧状沈線を施し沈線間は縦位矢羽状短沈線や斜位刻みを埋める。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第335図 PL.147	48	深鉢	体部破片2 点	—	細:石英・輝石/良好 /にぶい褐色	横位内皮沈線を数条設け、4条の同沈線が懸垂する。縄文は縦位RL。内面は縦位撫で調整	中期中葉か
第335図 PL.147	50	深鉢	口縁部破片	底面	細:輝石/良好/にぶ い褐色	口縁部横位隆線を設け、以下横位内皮平行沈線群を施す。一部交互刺突文を加える。内面研磨	中期中葉か
第336図 PL.147	51	石鏃	先端欠損	3・4群	黒曜石	長:(2.1)、幅:2.0、厚:0.4、重:1.5。平基鏃か。薄手の素材周縁にやや粗い押圧剥離を施す。基部はあるいは凹基への加工も可能性がある。あるいは未製品か	

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第336図 PL.147	52	スクレイパー	完形	3・4群	黒曜石	長:2.6、幅:0.9、厚:0.8、重:1.6。断面三角形を呈す小型棒状の素材表面のみに押圧剥離を集める。裏面は広く素材面を残す	
第336図 PL.147	53	石槍か	上半欠損	3・4群	黒曜石	長:(2.2)、幅:1.1、厚:0.4、重:0.9。縦長剥片を素材とする。両側縁からの丁寧な押圧剥離で体部と先端部を作出する。裏面は素材面を残す	
第336図 PL.147	54	打製石斧	完形	—	黒色頁岩	長:6.8、幅:3.8、厚:1.1、重:35.3。小型の短冊形。比較的細かな剥離調整が周縁に及び、楕円状の形態を作出する。刃部に礫面と僅かな磨滅痕を見る	
第336図 PL.147	55	打製石斧	下半欠損	2群	黒色頁岩	長:7.1、幅:4.9、厚:2.1、重:96.7。短冊形。中位をやや厚手に残す。比較的丁寧な剥離調整を施し、頭部は尖り、側縁はやや湾曲する形態を作出する	
第336図 PL.147	56	磨製石斧 再利用品	体部のみ残存	8群	変玄武岩	長:5.3、幅:4.6、厚:2.9、重:142.1。定角式磨製石斧上半の破片縁辺を再研磨し、一部敲打を加える	
第336図 PL.147	57	磨石	完形	—	粗粒輝石安山岩	長:7.6、幅:1.9、厚:1.7、重:31.9。細身で小型棒状円礫。平滑な磨面が各面に見られる	
第336図 PL.147	58	敲石	完形	—	粗粒輝石安山岩	長:10.5、幅:4.2、厚:2.6、重:154.4。棒状の小型円礫。敲打痕は全体に多く見られるが上下端部と左側縁に集まる。表裏面中央に弱い磨面を持つ	
第336図 PL.147	59	凹石	上端欠損	2群	粗粒輝石安山岩	長:(12.7)、幅:7.8、厚:4.2、重:600.0。扁平な楕円状円礫。敲打痕は表裏面中央に集まり凹みをなし、右側縁と下端部にも集まる。弱い磨面を表裏面に広く見る	
第336図 PL.147	60	磨石	一部欠損	6群 b	粗粒輝石安山岩	長:36.4、幅:2.5、厚:11.1、重:8100.0。大型棒状の円礫。敲打痕が全面に見られ、特に下端に集中する。平滑な磨面が表面中央に見られる。光沢を持つ	
第336図 PL.147	61	磨石	完形	7群	粗粒輝石安山岩	長:20.2、幅:14.9、厚:12.5、重:5580.0。大型で厚手の卵形を呈した楕円状円礫。丸石に近い。敲打痕は疎らに広がり、表裏面に平滑な磨面を持つ	
第336図 PL.147	62	磨石	完形	3群	溶結凝灰岩	長:15.5、幅:14.5、厚:9.7、重:3080.0。大型でやや扁平な球状を呈する円礫。敲打痕は全体に広がり、表裏面及び左側面に平滑で光沢を持つ磨面が見られる	
第337図 PL.147	63	台石	完形	3群	石英閃緑岩	長:21.8、幅:18.5、厚:11.3、重:6700.0。大型で厚手の整った形状の円礫。全体に敲打痕が広がり、表裏面に平滑な磨面を持つ	
第337図 PL.147	64	敲石	完形	6群 b	石英閃緑岩	長:25.9、幅:18.0、厚:14.0、重:9500.0。大型で不整楕円状を呈する円礫。表面及び側面に敲打痕を集めるが、裏面には少量を見るのみである	
第337図 PL.147	65	多孔石	下半欠損	5群	粗粒輝石安山岩	長:29.8、幅:18.3、厚:14.8、重:12180.0。大型で厚手の楕円状円礫。重量ある。表裏面に断面円錐状の凹みを多く配す。下半は意図的な欠損か	
第337図 PL.147	66	多孔石	完形	3群	粗粒輝石安山岩	長:26.1、幅:20.4、厚:13.5、重:10850.0。大型で球状の円礫。小型ながら断面円錐状の凹みが多数設けられる。裏面の器表面は剥落。右側面に弱い磨面を持つ	
第338図 PL.147	67	丸石	完形	6群 a	石英閃緑岩	長:27.3、幅:21.4、厚:20.5、重:1800.0。大型の丸石。敲打痕は全体に広がるが、裏面は希薄で表面に集中する	
第338図 PL.148	68	丸石	完形	6群 b	石英閃緑岩	長:28.7、幅:23.2、厚:20.0、重:19500.0。大型の丸石。全面に敲打痕が広がるが、弱く浅い例が主体。表面の一部に平滑な磨面を持つ	
第338図 PL.148	69	石皿	下半欠損	8群	粗粒輝石安山岩	長:(22.5)、幅:25.4、厚:9.8、重:5800.0。大型品。敲打による整形で、表裏面とも石皿としての機能を保持する。表面は深く、裏面はやや浅い。平滑面も広がりを見る	
第339図 PL.148	70	石棒	破片	6群 a	緑色片岩	長:(13.0)、幅:(6.4)、厚:(3.9)、重:329.9。有頭石棒の上半部破片か。敲打による整形で、縦位方向の亀裂が著しい。被熱による欠損か	
第339図 PL.148	71	石棒	基部のみ残存	—	デイサイト	長:(13.2)、幅:9.4、厚:9.2、重:1440.0。おそらく基部と捉えた。棒状の円礫を敲打により整形し、全面を研磨する。再利用による横方向の意図的な破砕が行われている	
第339図 PL.148	72	石棒	下半欠損	6群 b	緑色片岩	長:(22.4)、幅:(10.2)、厚:7.2、重:2920.0。棒状礫を素材とし、敲打による整形を施す。頭部の作出は丁寧。体部中位に2個一対の凹みを配す。体部断面形は上位が円形で下位が楕円形を呈す。細かな亀裂を見るが被熱によるものではない	
第339図 PL.148	73	石棒未製品か	完形	6群 a	石英閃緑岩	長:51.0、幅:22.6、厚:17.3、重:27500.0。大型で重量ある不整楕円状円礫。全体に敲打痕が見られるが、表面に集中する。特に上位で抉れ状に施されており、石棒製作途中の感も見受けられる	
第340図 PL.148	74	凹石	左半欠損	7群	粗粒輝石安山岩	長:(21.3)、幅:(15.4)、厚:7.5、重:365.0。大型でやや扁平な楕円状円礫。敲打痕は表裏面に集中し深い凹みとなる。器表面の剥落は被熱によるものか	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第340図 PL.148	75	多孔石	一部欠損	6群 a	粗粒輝石安山岩	長:17.0、幅:14.2、厚:13.2、重:4200.0。方形を基調とした不整形角礫。表裏面に少量ながら断面円錐状の凹みを配す	
第340図 PL.148	76	多孔石	完形	4群	粗粒輝石安山岩	長:17.3、幅:21.7、厚:15.2、重:5200.0。不整形の角礫。頂部を尖らせた角礫に断面円錐状の孔を疎らに設ける	
第340図 PL.148	77	多孔石	半欠損	3群	粗粒輝石安山岩	長:(20.2)、幅:(11.6)、厚:10.1、重:1950.0。厚手で不定形の亜角礫。3面に断面円錐状の孔を密集させる	
第340図 PL.148	78	多孔石	半欠損か	9群	粗粒輝石安山岩	長:(11.0)、幅:(14.6)、厚:8.3、重:1690.0。比較的硬質な厚手で不整形形を呈する円礫。表裏面に断面円錐状の孔を集める	
第341図 PL.149	79	多孔石	完形	6群 b	粗粒輝石安山岩	長:19.5、幅:15.8、厚:12.8、重:4310.0。大型で厚手の不定形角礫。表面のやや平坦な面を選び、断面円錐状の凹みを集める。比較的大型の凹みが主体となる	
第341図 PL.149	80	多孔石	完形	6群 b	粗粒輝石安山岩	長:19.8、幅:15.0、厚:11.1、重:2462.0。厚手の不定形角礫。表裏面に断面円錐状の凹みを多数設ける。裏面の凹みは判然とせず図示していない	
第341図 PL.149	81	多孔石	完形	—	粗粒輝石安山岩	長:21.0、幅:17.4、厚:11.3、重:5120.0。大型の不整形角礫。断面三角形の頂部に円錐状の孔が密に設けられ、一部線状に並ぶ。また、裏面にも少量の孔を見る	
PL.149	82	石鏃	左側欠損	3・4群	黒曜石	長:(1.3)、幅:(0.9)、厚:0.3、重:0.3。凹基無茎鏃。完成状態。小型で押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げる	
PL.149	83	石鏃	上部欠損	3・4群	黒曜石	長:(1.7)、幅:1.9、厚:0.4、重:1.1。平基無茎鏃。完成状態。やや粗い押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げる	
PL.149	84	石鏃未製品か	破片	3・4群	黒曜石	長:(1.8)、幅:1.0、厚:0.6、重:1.2。厚手の剥片を押圧剥離が覆い先端部を作出する。石鏃未製品か	
PL.149	85	石鏃	完形	3・4群	黒曜石	長:1.6、幅:1.0、厚:1.4、重:0.5。小型の縦長剥片を素材とする。両側縁表面に細かな押圧剥離を施し先端部を作出する。完成状態	
PL.149	86	加工痕ある剥片	下部欠損	3・4群	黒曜石	長:1.3、幅:1.2、厚:0.5、重:0.7。小型の剥片両側縁に押圧剥離を施し先端部を作出する。石鏃未製品か	
PL.149	87	加工痕ある剥片	完形	3・4群	黒曜石	長:2.4、幅:2.3、厚:0.8、重:3.4。横長剥片を素材とする。左側縁に粗く細かい剥離を施す	
PL.149	88	使用痕ある剥片	完形	3・4群	黒曜石	長:2.5、幅:1.7、厚:0.3、重:1.2。縦長剥片を素材とし両側縁に細かな刃こぼれを見る	
PL.149	89	使用痕ある剥片	完形	3・4群	黒曜石	長:1.5、幅:2.0、厚:0.7、重:1.4。小型の横長剥片を素材とし。下端の刃部に使用に伴う微細剥離を見る	
PL.149	90	使用痕ある剥片	一部欠損	5群	黒色頁岩	長:7.6、幅:6.2、厚:1.6、重:82.6。幅広の縦長剥片を素材とする。両側縁・下端刃部に使用による微細剥離を見る	
PL.149	91	敲石	完形	6群 a	粗粒輝石安山岩	長:11.3、幅:9.9、厚:8.4、重:1340.0。厚手の不整形形を呈する円礫。全体に敲打痕を見る。右側縁の一部に弱い磨面を設ける	
PL.149	92	石棒	破片	6群 a	デイサイト	長:(7.2)、幅:(8.7)、厚:(5.6)、重:456.6。体部破片。敲打による整形。欠損の意図は不明	
PL.149	93	多孔石	完形	—	粗粒輝石安山岩	長:10.2、幅:13.4、厚:7.1、重:1210.0。不定形角礫。表面にやや大型の凹みを2基設ける。裏面は欠損か	

2号列石

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第342図 PL.149	1	深鉢	口縁部破片	下面	細:輝石/良好/にぶい黄褐色	口縁部に横位細線2条を設け体部は沈線に画された施文部幾何学文を配す。LRを充填する。内面研磨	後期前葉
第342図 PL.149	2	深鉢	口頸部破片	下面	細:輝石/良好/にぶい橙色	低位隆線による口縁部区画文。側線は沈線で縦位密接条線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第342図 PL.149	3	深鉢	口縁部破片	下面	細:石英・輝石/良好/にぶい褐色	幅狭の無文部を設け、口縁部隆線による区画文を構成する。沈線を側線とし縦位RLを充填する。内面撫で	中期後葉

61区1号流路

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第343図 PL.149	1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/灰褐色	口縁部折り返し状に肥厚する。以下沈線による弧線文や短沈線が施される。内面平滑な撫で調整	中期末葉
第343図 PL.149	2	深鉢	口縁部破片	埋土	粗:石英/良好/褐灰色	口縁部横位隆線を設け以下不整形区画文と弧状隆線文を配す。おそらく渦巻文であろう。縄文はLR。内面は弱い研磨を施す	中期後葉
第343図 PL.149	3	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第343図 PL.149	4	深鉢	体部破片	埋土	粗:輝石/良好/明赤褐色	体部下半。垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位無節L充填施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第343図 PL.149	5	深鉢	体部破片	埋土	細:輝石/良好/にぶい橙色	垂下沈線2条による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線や弧状沈線を埋める。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第343図 PL.149	6	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・雲母/良好/明赤褐色	2条隆線による弧状意匠。短沈線を放射状に施すことから渦巻文の可能性は高い。内面横位撫で調整	中期後葉

62区 1号溝

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第344図 PL.149	1	深鉢	口縁部破片	埋土	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	波状突起下に隆線による渦巻状突起を配し下端より刻みを付す隆線1条が懸垂する。隆線の側線は沈線で斜位短沈線を充填する。内面横位削り調整後弱い撫で	中期後葉
第344図 PL.149	2 3	深鉢	頸部破片・ 体部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/にぶい褐色	口縁部は隆線による区画文構成。区画内はRLを充填する。体部は縦位密接条線を地文とし2条の垂下沈線を重ねる懸垂文構成。さらに横位長楕円状沈線を配す。内面横位撫で調整	中期後葉
第344図 PL.149	4	深鉢	体部破片	埋土	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/灰褐色	隆線による接続するU字状区画意匠。区画内は縦位密接条線を施し、横位沈線2条を加える。内面器壁剥落	中期後葉
PL.149	5	打製石斧	上半・刃部 欠損	埋土	黒色頁岩	長:8.2、幅:5.2、厚:2.0、重:122.3。短冊形。完成状態。比較的細かな剥離で体部中位が括れ下半は内湾気味の平面形を示す	
PL.149	6	加工痕ある 剥片	完形	埋土	黒色頁岩	長:5.5、幅:4.2、厚:1.2、重:21.9。薄手の横長剥片を素材とし、右側縁に細かな剥離を集め刃部を作出する	

遺構外出土遺物 61区

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第345図 PL.150	1	深鉢	口縁部破片	61-D 8	細:石英・輝石・繊維/ 良好/褐色	薄手の小型品。波状縁を呈し垂下する小突起と頸部隆線で口縁部区画文を画す。区画内は弧状沈線を配す。体部は横位LRを施す。器面磨滅	前期前葉
第345図 PL.150	2 ~5	深鉢	体部破片4 点	61-R 8~10	粗:片岩・繊維/良好/ 明褐色	横位LRと横位RLによる横位羽状縄文構成。追加成形施文の痕跡も見出せる。内面研磨	前期中葉
第345図 PL.150	6	深鉢	口縁部破片	61-R 9・10	粗:石英・片岩少・繊維/ 良好/灰黄褐色	おそらく波状口縁波底部に付せられた小突起。口唇部は内削ぎ状を呈す。口縁部は斜位平行沈線と連続爪形文による菱形文構成。内面は丁寧な横位研磨	前期中葉
第345図 PL.150	7	深鉢	口縁部破片	61-T10	粗:石英・雲母/良好/ 赤褐色	口縁部は刻みを付す隆線による楕円区画文を配す。区画内は単列の結節沈線を側線とし、斜位結節沈線群を充填する。内面横位撫で調整	中期中葉
第345図 PL.150	8	深鉢	頸部破片	61-Y 5	粗:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	頸部屈曲部に大型環状突起を付す。頸部上は外反し連続爪形文と大型三角連続刺突文を施す。内面撫で	中期中葉
第345図 PL.150	9	深鉢	体部破片	61-R11	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	内湾する体部上半。2条の刻みを付す隆線による環状・渦巻状意匠を配し縦位沈線、連続爪形文、横位交互刺突文を施す。内面弱い撫で調整に止まる	中期中葉末
第345図 PL.150	10	深鉢	体部破片	61区	細:輝石/良好/灰褐 色	横位隆帯による分帯。上位は斜位隆帯による三角区画文か。縦位沈線が充填される。隆帯上にRLを施す。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第345図 PL.150	11	深鉢	体部破片	61-S 8	粗:石英/良好/にぶ い橙色	体部下半か。低位隆帯による弧線文下端。隆帯上には太い沈線数条を重ねる。内面研磨	中期中葉末
第345図 PL.150	12	深鉢	体部破片	61-X 6	細:石英・輝石/良好/ 赤褐色	刻みを付す横位隆線を設け、以下垂下沈線数条を施す。横位沈線も加える。内面平滑な撫で調整	中期中葉末
第345図 PL.150	13	深鉢	口縁部破片	61-Y 5	粗:輝石/良好/明赤 褐色	口縁部上に縦位環状突起を付す。下端に斜位に傾いた環状突起とコイル状突起を付す。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第345図 PL.150	14	深鉢	体部破片	61-X 5	細:石英・雲母/良好/ 明赤褐色	体部中位に横位コイル状突起を付す。内皮平行沈線群を充填する。内面弱い研磨	中期中葉末
第345図 PL.150	15	深鉢	頸部破片	61-W 6	粗:石英・雲母多/良 好/褐色	頸部無文で外反する。体部横位隆線を設け、瘤状の小突起より斜位隆線が派生する。側線は平行沈線。内面は横位撫で調整	中期中葉末
第345図 PL.150	16	深鉢	口縁部破片	61-R10	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口縁部内湾。隆線で2段に画された区画文構成。側線は沈線、横位擦糸Lを地文とする。内面器面磨滅	中期後葉
第345図 PL.150	17	深鉢	口縁部突起 片	61-R11	粗:石英/良好/褐色	扇状突起波頂部片側より弧状隆線が派生する。無文で側線も施されない。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第345図 PL.150	18	深鉢	口縁部破片	61-R11	粗:輝石少/良好/灰 褐色	口縁部折り返し状に肥厚。地文に縦位RLを施し、横位弧状沈線2条を配す。内面丁寧な研磨	中期後葉
第345図 PL.150	19	深鉢	口縁部破片	61-R10	粗:石英・雲母/良好/ 黒褐色	頸部隆線に画された口縁部区画文。区画下端に半渦巻状小突起を付す。斜位短沈線を充填する。内面研磨	中期後葉
第345図 PL.150	20	深鉢	口縁部破片	61-R 9	細:輝石/良好/にぶ い褐色	口縁部双波状突起。下位に2条隆線による渦巻文と斜位弧状意匠。斜位短沈線を施す。突起内面は隆線と沈線による弧状意匠が配される	中期後葉
第345図 PL.150	21	深鉢	口縁部破片	61-S11	細:石英/良好/褐色	波頂部より垂下した縦位突起による口縁部区画文。頸部は2条隆線を設ける。斜位平行沈線を充填する。内稜突出し、平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第345図 PL.150	22	深鉢	口縁部破片	61-S 7	粗:石英/良好/暗黄 褐色	2条隆線による渦巻文と不整形区画文。沈線を側線とし縦位RLを施す。内面横位研磨	中期後葉
第345図 PL.150	23	深鉢	口縁部破片	61-U 5	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	頸部隆線突出し、口縁部区画文を画す。側線は内皮平行沈線。横位RLを充填する。内面横位撫で	中期後葉
第345図 PL.150	24	深鉢	口縁部破片	61-X 5	粗:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	波状縁。波頂部下に渦巻文を施した双環状突起を付す。隆線による区画文を配し縦位短沈線を充填する。頸部は縦位LRを施す。内面平滑な横位撫で調整	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第345図 PL.150	25	深鉢	口縁部破片	61-U 5	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	口縁部屈曲する小型深鉢か。口縁～頸部無文で、内外面横位研磨を施す	中期後葉
第345図 PL.150	26 27	深鉢	口縁部・体 部破片 2点	61-S 9	粗:石英/良好/褐色	口縁部は隆線による区画文。頸部隆線には沈線が重なり末端 S 字状をなす。区画内は沈線を側線とし横位 R L を施す。頸部は無文で体部上半に横位沈線 3 条を設け、縦位沈線を派生する。縦位 R L を施す。内面平滑な撫で	中期後葉
第345図 PL.150	28	深鉢	口縁部破片	61-U 8	粗:石英・雲母/良好/ 暗褐色	樽状の深鉢。口縁部上位は横位隆線で画され沈線と円形刺突文を施す。下位は振りを加えた縦位突起と細隆線で区画文が配される区画内は横位沈線を充てる。内面撫で	中期後葉
第345図 PL.150	29	浅鉢	口頸部破片	61-X 5	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	口縁部外傾し、頸部屈曲部強い。刻みを付す横位隆線で画された頸部は小渦巻文を末端とした横位沈線と連続刻みを施す。内面弱い研磨	中期後葉
第346図 PL.150	30	深鉢	体部破片	61-S 9	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	体部中位に 3 条の横位沈線を設ける。上位は横位波状沈線と横位長楕円文を配す。下位は 3 条の垂下沈線による懸垂文構成。小渦巻文と弧状意匠、縦位波状沈線も施す。地文は縦位 R L。内面丁寧な研磨	中期後葉
第346図 PL.150	31	深鉢	体部破片	61-Y 6	細:石英・輝石/良好/ にぶい橙色	内皮平行沈線重複施文による沈線 3 条による大柄な渦巻文。横位沈線 4 条も派生する。地文は撚糸 L 斜位施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第346図 PL.150	32	深鉢	体部下半～ 底部破片	61-Y 6	細:輝石/良好/明褐 色	内湾気味に開く体部下半。縦位平行沈線 4 条による懸垂文構成。地文は縦位 R L。内面縦位研磨。煤付着	中期後葉
第346図 PL.150	33 34	深鉢	体部破片 2 点	61-Y 5	細:輝石/良好/暗赤 褐色	内湾する体部。垂下沈線 3 条による懸垂文構成か。2 条沈線による弧状・渦巻意匠を配す。地文は縦位 L R。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第346図 PL.150	35	深鉢	体部破片	61-S11	細:輝石/良好/褐色	垂下平行沈線 3 条による懸垂文構成。地文に斜位撚糸 R を施し、横位弧状沈線を重ねる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第346図 PL.150	36	深鉢	体部破片	61-R 7	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	外反する体部中位。地文に縦位 R L を施し、縦位波状沈線を重ねる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第346図 PL.150	37	深鉢	体部破片 2 点	61-S 9	粗:輝石/良好/褐色	外反する体部上半。内皮沈線を重ねた横位隆線を設け、下位に横位沈線 3・4 条を施す。内面弱い横位研磨	中期後葉
第346図 PL.150	38	鉢	頸部破片	61-H 8	粗:輝石/良好/にぶ い橙色	頸部屈曲部に付けられた中空状の橋状把手。3 方からの貫孔。沈線による渦巻文を施す。内面平滑な撫で	中期後葉
第346図 PL.150	39	深鉢	体部破片	61区	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	地文に縦位 L R を施し、2 条の垂下隆線と側線沈線を加える。懸垂文構成。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第346図 PL.151	40	深鉢	体部破片	61-Y 5	粗:石英・雲母/良好/ 橙色	横位隆線より刻みを付す垂下隆線が派生する懸垂文構成。側線は内皮平行沈線。縦位 R L を充填する。内面横位撫で調整	中期後葉
第346図 PL.151	41	深鉢	体部破片	61-Y 5	粗:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	体部上半に横位沈線を設け以下、縦位撚糸 L を地文とし垂下沈線を重ねる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第346図 PL.151	42	深鉢	体部破片	61-U 5	粗:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	3 条の隆線による弧状意匠。U 字状意匠か。縦位平行沈線を施し、縦位刺突文を加える。内面弱い縦位研磨	中期後葉
第346図 PL.151	43	深鉢	体部破片	61-U 6	粗:輝石/良好/にぶ い赤褐色	体部中位～下半か。垂下沈線 2 条による懸垂文構成。施文部は見られない。内面横位研磨	中期後葉
第346図 PL.151	44	深鉢	体部破片	61-S 8	細:石英・輝石/良好/ 暗赤褐色	縦位沈線と縦位弧状沈線に画された幅狭の磨消部。施文部は横位 R L と縦位 R L を施す。内面撫で	中期後葉
第346図 PL.151	45	深鉢	体部破片	61-T 7	細:石英・輝石/良好/ 淡黄色	厚手。太い沈線による渦巻文が配される。縄文は R L 充填施文。内面弱い研磨	中期後葉
第346図 PL.151	46	深鉢	底部破片	61-U 9	細:石英/良好/褐色	底:(8.6)。条線状の沈線が垂下する懸垂文構成。縦位 R L を施す。内面撫で調整に止まる	中期後葉
第346図 PL.151	47 48	深鉢	口頸部破片 2点	61-R 8～10	細:輝石/良好/暗褐 色	隆線による口縁部渦巻文と区画文構成。側線は凹線、R L を充填する。頸部に幅広の無文部を設ける。内外面とも研磨を施す	中期後葉
第347図 PL.151	49 ～ 51	深鉢	口縁部・体 部破片 3点	61-R10	細:輝石/良好/にぶ い橙色	口縁部は細隆線と凹線による区画文構成。体部は 2 条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。縄文は R L 充填施文。内面横位研磨を施す	中期後葉
第347図 PL.151	52	深鉢	口縁部破片	61-Y 5	細:輝石/良好/褐色	波状突起を付し隆線による渦巻文と区画文を配す。側線は沈線で区画下端を画す。L R を充填し、円文を施す。内面横位研磨	中期後葉
第347図 PL.151	53	深鉢	口縁部破片	61-X 7	細:輝石/良好/明赤 褐色	波状線。波頂部下に 2 条隆線による渦巻文。中位より横位沈線が下端から 2 条垂下隆線が派生する。体部は斜位短沈線を施す。内面弱い横位研磨	中期後葉
第347図 PL.151	54	深鉢	口縁部破片	61-S11	細:輝石/良好/にぶ い褐色	大型深鉢か。太い隆線による渦巻文と接続する区画文か。側線は撫で、斜位 R L を充填する。内面横位研磨	中期後葉
第347図 PL.151	55	深鉢	口縁部破片	61-R 9	細:輝石/良好/橙色	隆線と側線沈線による口縁部楕円状区画文。横位 L R を充填する。内面横位撫で調整	中期後葉
第347図 PL.151	56	深鉢	口縁部破片	61-S 8	細:輝石/良好/褐色	口縁部横位隆線を設け弧状隆線が派生する。区画文と渦巻文か。側線は撫で、L R を施す。内面丁寧な研磨	中期後葉
第347図 PL.151	57	深鉢	口縁部破片	61-X 5	粗:輝石/良好/褐色	口唇部外面肥厚。太い凹線を口唇部に設ける。おそらく隆線による口縁部区画か。縦位密接条線を充填する。内面横位研磨	中期後葉

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第347図 PL.151	58	深鉢	口頸部破片	61-S 7	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	低位隆線による口縁部区画文。区画内側線は幅広の沈線でR Lを 充填する。内面弱い横位研磨	中期後葉
第347図 PL.151	59	深鉢	口縁部破片	61区	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	隆線による渦巻状突起を口縁部に設ける。側線は撫で。内面は 横位撫で調整	中期後葉
第347図 PL.151	60	深鉢	頸部破片	61-R 9	粗:石英・輝石/良好/ 赤褐色	あるいは壺か。口縁部は無文で頸部に隆線による渦巻文を配す。 側線は撫ででL Rを充填する。体部は沈線文上端を見る。内面平 滑な撫で調整	中期後葉
第347図 PL.151	61	深鉢	口縁部破片	61-S 8	粗:石英/良好/にぶ い褐色	浅い凹線に画された施文部逆U字状意匠を配す。縄文はL R縦位 充填施文。磨消部上端には凹線による渦巻文を施す。内面削り調 整に止まる	中期後葉
第347図 PL.151	62	深鉢	口縁部破片	61-T 9	細:石英・輝石/良好/ 褐色	口縁部内湾し波状縁を呈す。口縁部沈線を設け、以下沈線による 逆U字状磨消部懸垂文を配す。無節Lを充填施文する。内面平滑 な撫で調整	中期後葉
第347図 PL.151	63	浅鉢	口縁部破片	61-T11	細:石英/良好/褐色	口縁部内外面肥厚し体部上半に内湾を持たせる。無文で内外面と も弱い研磨を加える	中期後葉
第347図 PL.151	64	深鉢	口縁部破片	61-W 7	粗:輝石/良好/明赤 褐色	口縁部は強く外反し頸部に横位隆線を設ける。他は無文で内外面 とも横位撫で調整を施す	中期後葉
第347図 PL.151	65	深鉢	口縁部破片	61-U 6	粗:輝石/良好/明赤 褐色	大型深鉢か。頸部屈曲部に横位隆線を設ける。他は無文で内外面 とも横位撫で調整を施す	中期後葉
第347図 PL.152	66	壺	体部破片	61-U 8	粗:石英/良好/暗褐 色	両耳壺体部上半に設けられた横位隆線と大型橋状把手。体部は縦 位沈線を施し縦位無節Lを充填する。内面弱い横位研磨	中期後葉
第348図 PL.152 第348図 PL.152	67	深鉢	体部破片	61-W 6	細:輝石/良好/明赤 褐色	体部中位か。2帯構成。上位はU字状、下位は逆U字状意匠を沈 線で画し、無節Lを縦位充填施文する。磨消部及び内面は縦位研 磨	中期後葉
第348図 PL.152	68	深鉢	体部破片	61-Q 6	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	体部中位か。2帯構成で隆線を描線とする。上位・下位とも細隆 線による弧状意匠が配され、R Lを充填する。磨消部・内面とも 平滑な撫で調整	中期後葉
第348図 PL.152	69	深鉢	体部破片	61-W 8	細:石英・輝石/良 好/赤褐色	薄手の体部上半。弧状隆線による口縁部区画文か。体部は細隆線 に画された施文部と磨消部の懸垂文構成か。側線は沈線で縦位L Rを施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第348図 PL.152	70	深鉢	体部破片	61-S11	細:輝石/良好/にぶ い褐色	体部上半。細隆線による口縁部区画文下端。凹線を側線とし横位 R Lを充填する。体部は沈線で画された磨消部と施文部による懸 垂文構成。縦位R Lを充填する。磨消部及び内面は研磨を施す	中期後葉
第348図 PL.152	71	深鉢	口頸部・体 部破片2点	61-R11	細:石英・輝石/良 好/にぶい赤褐色	口縁部は隆線による区画文、体部は垂下降線2条による懸垂文構 成。側線は撫で及び沈線。無節L充填施文。内面は横位撫で調整	中期後葉
第348図 PL.152	73	深鉢	体部破片	61-Y 5	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	2条の垂下沈線に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部は縦 位R Lを充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第348図 PL.152	74	深鉢	体部破片	61区	粗:輝石/良好/にぶ い褐色	垂下沈線2条に画された磨消部懸垂文構成。施文部は斜位R L充 填施文。内面弱い研磨	中期後葉
第348図 PL.152	75	深鉢	体部破片	61-Y 5	粗:輝石/良好/にぶ い赤褐色	縦位密接条線を地文とし、垂下沈線2条による磨消部懸垂文構成 を示す。内面弱い研磨	中期後葉
第348図 PL.152	76	深鉢	体部破片	61-Y 5	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	縦位密接条線を地文とし、縦位波状沈線を加える。内面弱い研磨	中期後葉
第348図 PL.152	77	壺	体部破片	61-R11	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	薄手の器厚を呈す。低位隆線による環状・弧状意匠か。内外面と も研磨を施し赤彩を加える	中期後葉
第348図 PL.152	78	深鉢	体部下半 〜底部破片	61-R 7	粗:石英・小礫/良好/ にぶい褐色	底:(12.0)。大型深鉢。外反気味に開く体部下半。外面は縦位・ 横位研磨を施し、内面は撫で調整。煤付着	中期後葉
第348図 PL.152	79	深鉢	体部下半 1/3〜底部 残存	61-R11	細:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	底:6.0。薄手の器厚を呈し内湾気味に開く。垂下沈線による懸垂 文構成下端部。おそらく縦位波状沈線を加える。内面撫で調整	中期後葉
第348図 PL.152	80	深鉢	底部残存	61-W 7	細:石英・輝石/良好/ 橙色	底:8.0。厚手の器厚。密に施された垂下沈線群を見る。懸垂文構 成。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第348図 PL.152	81	深鉢	底部1/2残 存	61-S11	細:輝石/良好/橙色	底:7.0。垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は判然と せず縦位波状沈線か。磨消部及び内面は弱い研磨を施す	中期後葉
第348図 PL.152	82	深鉢	底部残存	61-R 9	粗:石英・輝石/良好/ にぶい赤褐色	底:7.6。強く開く体部下半。無文で内外面とも平滑な撫で調整を 施す	中期後葉
第348図 PL.152	83	深鉢	底部残存	61-S10	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	底:7.0。大型深鉢か。強く開く体部下半。端部は丸みを帯びる。 無文で内外面とも撫で調整	中期後葉
第348図 PL.152	84	浅鉢	底部破片	61-S11	細:石英/良好/にぶ い褐色	強く開く体部下半。内外面とも無文で丁寧な研磨を施す	中期後葉
第348図 PL.152	85	台付深鉢	脚部破片	61-S11	細:石英少/良好/に ぶい黄褐色	歪で上位器形と下位形態の差がある。斜位沈線を施し、突起等の 貼付も見込まれる。外面横位削り、内面横位撫で調整	中期後葉か
第348図 PL.152	86	浅鉢	体部破片	61-S 9	細:輝石/良好/灰黄 褐色	体部は強く開く。無文で内外面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第348図 PL.152	87	壺か	突起破片	61-S 8	粗:輝石/良好/明赤 褐色	大型の橋状把手。縁辺は隆線による突出する。裏面剥落。全体に 丁寧な撫で調整で覆われる	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第348図 PL.152	88	深鉢	口縁部突起片	61-S 8	粗:石英少/良好/に ぶい褐色	突出する波頂部。隆線による縦位に接続する渦巻文が配される。両下端より口縁部隆線が派生する。内面上端も渦巻文を設ける。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第349図 PL.152	89	深鉢	口頸部破片	61-X 6	粗:石英・輝石/良好/ 褐色	双波状突起か。直下に渦巻文を配した双環状突起を付す。突起両脇より2条隆線が派生し口縁部を画し横位矢羽状短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第349図 PL.152	90	深鉢	口縁部破片	61-W 7	粗:輝石少/良好/に ぶい褐色	幅狭の口縁部文様帯。2条隆線による渦巻文を配す。内面横位撫で調整	中期後葉
第349図 PL.152	91	深鉢	口縁部破片	61-T10	粗:石英・雲母/良好/ にぶい赤褐色	口縁部外面肥厚し、隆線による渦巻文を配す。側線は沈線、内面平滑な撫で調整	中期後葉
第349図 PL.152	92	深鉢	体部破片	61-U 8	粗:石英・輝石/良好/ 黒褐色	体部上半に設けられた横位隆線2条。おそらく口縁部区画下端か。体部は鱗状短沈線を施す。内面平滑な撫で	中期後葉
第349図 PL.152	93	深鉢	体部破片	61-R 8	細:石英・雲母/良好/ にぶい黄褐色	横位隆線による懸垂文構成。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第349図 PL.152	94	深鉢	体部破片	61-X 5	細:石英・輝石/良好/ 明赤褐色	小型の双環状突起を中核にし、振りを加えた隆線などによる懸垂文構成。側線は沈線で、渦巻文や三叉文を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第349図 PL.152	95	深鉢	体部破片	61-R10	細:輝石/良好/にぶ い赤褐色	垂下隆線2条による懸垂文構成。側線は撫で。斜位短沈線を充填する。内面撫で調整	中期後葉
第349図 PL.152	96	深鉢	体部破片	61-U 6	粗:石英/良好/にぶ い赤褐色	2条隆線による弧状・渦巻状意匠を配し下端より接続する2条隆線が懸垂する。側線は沈線。斜位弧状短沈線を充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第349図 PL.153	97	深鉢	体部破片	61-X 8	粗:石英・輝石/良好/ 暗褐色	隆線による口縁部区画文か。垂下隆線2条による懸垂文構成。空白部は弧状・斜位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第349図 PL.153	98	深鉢	体部破片	61-S 7	粗:石英・雲母/良好/ 黒褐色	斜位隆線以下垂下隆線3条による蕨手状意匠。側線沈線。斜位短沈線を充填する。内面弱い横位研磨	中期後葉
第349図 PL.153	99	深鉢	体部破片	61-S11	粗:石英・雲母/良好/ 暗赤褐色	横位隆線に小突起を付す。上位・下位とも内皮平行沈線群を集め連続刺突文を加える。内面横位撫で調整	中期後葉
第349図 PL.153	100	深鉢	口頸部～体部破片	61区	粗:石英・輝石/良好/ 灰褐色	口縁部文様帯は隆線による渦巻文を配し横位隆線で多段に画され斜位短沈線を充填する。体部は剣先状隆線文を配し相向う斜位短沈線を配す。内面横位撫で調整	中期後葉
第349図 PL.153	101	深鉢	体部破片	61-X 6	粗:輝石/良好/にぶ い赤褐色	体部下半か。細沈線による重弧状意匠。あるいは渦巻状意匠か。沈線間には刻みを埋める。内面平滑な撫で	中期後葉
第349図 PL.153	102	深鉢	体部破片	61-Y 5	粗:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	垂下隆線2条による磨消部懸垂文構成。施文部は横位弧状短沈線と斜位短沈線を施す。内面研磨	中期後葉
第349図 PL.153	103	深鉢	口縁部破片	61-R10	細:石英/良好/にぶ い赤褐色	あるいはミニチュア土器か。小型品。薄手の器厚を呈す。波状突起を付し、縦位波状沈線を連ねる。内面撫で	中期後葉
第349図 PL.153	104	土偶か	脚部か	61-S 7	粗:石英・片岩/良好/ 明赤褐色	中実。円柱状で底面が凹む。下端に横位凹線を施し、縦位RLを施す。足や指の表現も無く土偶とする積極的な根拠を持たない	中期後葉か
第349図 PL.153	105	土製円盤	完形	61区	細:輝石/良好/浅黄 褐色	径:3.2×2.2、厚:0.9cm、重:4.1g。深鉢体部の再利用。周縁を丁寧に磨滅する	中期後葉
第349図 PL.153	106	土製円盤	完形	61-R 5	細:石英/良好/黒褐 色	径:3.2×2.9、厚:0.9cm、重:9.0g。深鉢体部を再利用。周縁を丁寧に磨滅する。磨消部と施文部、縦位RLを施す	中期後葉
第349図 PL.153	107	土製円盤	完形	61-R 8	細:石英/良好/明褐 色	径:5.2×4.9、厚:1.3cm、重:37.9g。深鉢体部を再利用。周縁を打ち欠き円形に成形する。無文。あるいは磨消部か	中期後葉
第349図 PL.153	108	深鉢	口縁部突起片	61-U 8	粗:石英/良好/にぶ い褐色	円環状突起下位に2連の小型橋状把手を設ける。器面磨滅	中期後葉
第349図 PL.153	109	深鉢	口縁部破片	61-X 6	細:石英・輝石/良好/ 暗褐色	口唇部尖り口縁部は内湾する。縦位無節Lが器面を覆う。内面平滑な撫で調整	中期末葉
第349図 PL.153	110	深鉢	口縁部破片	61-S 8	粗:輝石/やや軟/橙 色	無文口縁部下に横位隆線を設け、弧状隆線が配する。おそらく分岐懸垂文。無節L縦位施文。器面磨滅	後期初頭
第350図 PL.153	111	深鉢	口縁部破片	61-R 7	粗:石英・輝石/良好/ 橙色	平縁。口縁部に幅広の肥厚部を設け、下端に沈線が沿う。外器面磨滅。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第350図 PL.153	112	深鉢	口縁部破片	61-R 6	細:輝石/良好/褐色	口唇部角頭状で直立気味の口縁部。無文で内面は研磨を施す	後期初頭
第350図 PL.153	113	深鉢	口縁部破片	61-Q 6	細:石英・輝石/良好/ 黒褐色	口縁部内湾し横位沈線を設ける以下沈線による弧状意匠を配す。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第350図 PL.153	114	深鉢	口縁部破片	61-Q 7	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	無文の口縁部。外面は研磨、内面は撫で調整に止まる	後期初頭
第350図 PL.153	115	深鉢	口縁部破片	61-S 8	細:輝石/良好/灰褐 色	波頂部に設けられた捻転状突起。両脇より口縁部細隆線が派生する。裏面も低位突起を付す。内面弱い研磨	後期初頭
第350図 PL.153	116	深鉢	体部破片	61-U 9	細:輝石少/良好/灰 黄褐色	頸部外反し体部は強く内湾する。上半に横位沈線を設け下位は沈線に画された磨消部による渦巻文を配す。RLを縦位充填施文する。内面研磨	後期初頭
第350図 PL.153	117	深鉢	体部破片	61-S 8	細:輝石/良好/にぶ い黄褐色	内湾する体部上半。沈線で画された磨消部弧状意匠が配される。施文部はRL充填施文。内面研磨	後期初頭

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第350図 PL.153	118	深鉢	体部破片	61-S 5	細:輝石/良好/にぶい 橙色	縦位沈線で画された施文部と磨消部によるスベード状や銚先状意匠。施文部は列点状刺突文を充填する。内面は弱い横位研磨	後期初頭
第350図 PL.153	119	深鉢	体部破片	61-R 6	細:輝石/良好/明褐色	垂下沈線に画された施文部と磨消部。懸垂文構成か。施文部は刺突列点文を充填する。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第350図 PL.153	120 121	深鉢	体部破片2点	61-W 5	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	太い沈線に画された磨消部弧状・J字状意匠。施文部は兩垂れ状の刺突列点文を充填する。内面平滑な撫で調整	後期初頭
第350図 PL.153	122	深鉢	頸部破片	61-R 6	粗:石英/良好/明赤褐色	刻みを付す横位隆線を設ける。以下沈線による長楕円状意匠を配す。内器面磨滅	後期初頭
第350図 PL.153	123	深鉢	口縁部破片	61-V 3	細:輝石/良好/灰黄褐色	口縁部滑車状突起を付し中位を貫孔する。上端部に刺突文と沈線を施す。頸部屈曲部に8字状貼付文を設ける。内面研磨	後期中葉
第350図 PL.153	124	深鉢	体部破片	61-Q 6	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	体部上半か。円文と横位沈線を施し、3条の弧状沈線が派生する。縄文は縦位RL。内面平滑な撫で調整	後期前葉
第350図 PL.153	125	深鉢	口縁部破片	61-T11	細:輝石/良好/褐色	口唇部内屈する。口縁～体部一帯構成で、沈線で画された施文部弧状意匠を配す。LRを充填する。内外面とも弱い研磨を施す	後期初頭
第350図 PL.153	126	注口土器	口縁部破片	61-R10	細:輝石/良好/浅黄色	口縁部は強く開く、頸部屈曲部に跨がり三角形の橋状把手を付す。把手両側面は沈線と円文、頂部に小渦巻文を配し沈線に画された施文部帯状意匠を配す。体部も帯状意匠を基準に弧状沈線等を施す。内面弱い撫で	後期前葉
第350図 PL.153	127	浅鉢	体部破片	61-S 8	細:輝石/良好/橙色	強く開く体部。口縁部内面に横位沈線数条を配す。内面は丁寧な研磨を施す	後期前葉
第350図 PL.153	128	注口土器	注口部破片	61-S10	細:輝石少/良好/にぶい 褐色	短く反り気味の注口部。中位に把手の剥落した痕跡を見る。縦位研磨を加え、赤彩が重なる	後期初頭か
第350図 PL.153	129	注口土器 か	底部残存	61-W 5	細:輝石/良好/黒褐色	底:3.2。小型器種か。外面撫で、内面の調整は弱い	後期か
第350図 PL.153	130	深鉢	底部破片	61-S 8	細:輝石/良好/淡黄色	底:(10.0)。外反気味に開く体部下半。無文で外面は平滑な撫で、内面は弱い撫で調整に止まる	後期初頭
第350図 PL.154	131	深鉢	体部破片	61区	細:輝石少/良好/にぶい 赤褐色	内湾気味に開く体部下半。無文で縦位削り調整後撫でを加える。内面研磨	後期か
第350図 PL.154	132	深鉢	体部破片	61-Q 1	細:石英/やや軟/にぶい 黄褐色	強い横位刺突文が器面を覆う。内面平滑な撫で調整	後期前葉
第350図 PL.154	133	深鉢	体部破片	61-U 6	細:白色粒/良好/赤褐色	2個一対の刺突文を横位に施す。薄手で内面黒色を呈し丁寧な研磨を加える	後期か
第350図 PL.154	134	深鉢	口縁部破片	61-W 5	粗:石英・輝石/良好/ 暗褐色	口縁部外面肥厚し頸部は外反する。無文で内外面とも横位撫で調整を施す	後期中葉か
第350図 PL.154	135	軽石製品	破片	61区	軽石	長:(4.2)、幅:(2.6)、厚:1.0、重:3.2。おそらく、台形状の板状製品。丁寧な仕上げで縁辺は丸みを帯びる。小孔は自然孔	
第350図 PL.154	136	原石	完形	61-X 6	黒曜石	長:4.2、幅:4.7、厚:2.5、重:37.6。不純物を含む上位方向を打面とした剥片剥離が行われる	
第350図 PL.154	137	原石	完形	61-W 7	黒曜石	長:3.3、幅:4.5、厚:2.1、重:34.2。角礫・漆黒。礫面に覆われる。不純物は微量で緻密な石材である。	
第351図 PL.154	138	原石	完形	61区	黒曜石	長:4.08、幅:4.86、厚:3.48、重:68.35。角礫・漆黒。礫面に覆われ、不純物が節理面として層状に混じる	
第351図 PL.154	139	原石	完形	61区	黒曜石	長:3.63、幅:4.60、厚:2.74、重:33.23。角礫・漆黒。礫面は一面。不定方向の打面の変化を見る	
第351図 PL.154	140	原石	完形	61区	黒曜石	長:3.79、幅:4.16、厚:3.05、重:40.63。角礫・漆黒。礫面は一面。不定方向の打面の変化を見る。節理面もある	
第351図 PL.154	141	原石	完形	61区	黒曜石	長:3.22、幅:6.58、厚:1.84、重:30.49。角礫・漆黒。3面が礫面。不純物が少量混じる	
第351図 PL.154	142	石核	完形	61区	黒曜石	長:1.92、幅:3.50、厚:1.88、重:10.64。不純物を含む面を打面とし、打面転移を繰り返す	
第351図 PL.154	143	石核	完形	61区	黒曜石	長:1.71、幅:2.27、厚:2.01、重:6.34。小型。打面転移を繰り返している	
第351図 PL.154	144	原石	完形	61区	黒曜石	長:3.74、幅:4.90、厚:2.46、重:47.9。角礫・漆黒。剥離面を1面見る。不純物の除去か	
第351図 PL.154	145	原石	完形	61区	黒曜石	長:4.07、幅:5.34、厚:2.60、重:48.65。角礫・漆黒。礫面に覆われる	
第351図 PL.154	146	原石	完形	61区	黒曜石	長:3.03、幅:4.54、厚:2.93、重:40.15。角礫・漆黒。礫面を2面残す。緻密な印象を受ける	
第351図 PL.154	147	原石	完形	61区	黒曜石	長:2.63、幅:4.92、厚:2.71、重:36.54。角礫・漆黒。剥離面を1面見る。緻密な印象を得る	
第352図 PL.154	148	原石	完形	61区	黒曜石	長:3.16、幅:5.13、厚:2.66、重:43.16。角礫・漆黒。礫面を2面残す。上位からの剥離。緻密な石材である	
第352図 PL.154	149	原石	完形	61区	黒曜石	長:2.87、幅:6.86、厚:1.77、重:32.53。角礫・漆黒。礫面に覆われる	
第352図 PL.154	150	石核	完形	61区	黒曜石	長:2.56、幅:3.98、厚:1.39、重:11.73。小型。上位の打面を主とする	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.154	151	石鏝	完形	61-P 9	細粒輝石安山岩	長:2.6、幅:1.7、厚:0.3、重:1.7。凹基無茎鏝。完成状態。周縁からの丁寧な調整で整った形状に作出される。挟り部の湾曲も強い	
PL.154	152	石鏝	完形	61-R 7	黒色頁岩	長:3.0、幅:1.4、厚:0.4、重:1.2。凸基有茎鏝。薄手の素材から丁寧な調整により小型木葉状の平面形を作出する。器面風化が著しい	
PL.154	153	石鏝	右脚欠損	61-W 7	チャート	長:2.2、幅:(1.2)、厚:0.3、重:0.4。凹基無茎鏝。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に及び薄手に仕上げている	
PL.154	154	石鏝	ほぼ完形	61-R 3	黒曜石	長:2.9、幅:1.7、厚:0.3、重:1.1。凹基無茎鏝。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離を全面に施し、長身で薄手に仕上げている	
PL.154	155	石鏝	ほぼ完形	61-S11	珪化凝灰岩	長:2.5、幅:(1.8)、厚:0.5、重:1.2。凹基無茎鏝。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離を全面に施す。中央部がやや厚いが均整の取れた形状に仕上げる	
PL.154	156	石鏝	ほぼ完形	表土	黒曜石	長:1.6、幅:1.3、厚:0.3、重:0.3。凹基無茎鏝。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離が全面に及び整った平面形に作出される。側縁は鋸歯状を呈す	
PL.154	157	石鏝	右脚欠損	表土	黒曜石	長:1.6、幅:(1.2)、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏝。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に施され薄手に仕上げている	
PL.154	158	石鏝	片脚欠損	表土	黒曜石	長:(2.3)、幅:(1.4)、厚:0.3、重:0.9。凹基無茎鏝。完成状態。丁寧な押圧剥離により薄手に仕上がる	
PL.154	159	石鏝	完形	61-M 7	黒色安山岩	長:1.8、幅:1.4、厚:0.4、重:0.8。凹基無茎鏝。完成状態。細かな押圧剥離を全面に施し薄手に仕上げる	
PL.154	160	石鏝	下半欠損	61-Q 8	黒曜石	長:2.1、幅:1.8、厚:0.4、重:1.5。薄手の素材縁辺に押圧剥離を加え製品として下半欠損後再度細かな調整を加えた段階と考えた	
PL.154	161	石鏝	完形	61-Q 8	黒曜石	長:1.4、幅:1.0、厚:0.2、重:0.3。凹基無茎鏝。完成状態。小型の剥片周縁に押圧剥離を加え薄手に仕上げる。裏面には素材面が残る	
PL.154	162	石鏝	ほぼ完形	61-R 6	黒曜石	長:2.1、幅:1.7、厚:0.5、重:1.4。平基無茎鏝。完成状態。粗い押圧剥離が全面に及び中央に厚みが残る。やや雑な作出	
PL.154	163	石鏝	上半欠損	61-R 6	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.5、厚:0.6、重:1.2。平基無茎鏝。完成状態。やや中央に厚みを残すが押圧剥離が全面に施される	
PL.154	164	石鏝	上半欠損	61-R 8	黒曜石	長:(1.2)、幅:(1.7)、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏝。完成状態。薄手の剥片全面に押圧剥離を施す	
PL.154	165	石鏝	ほぼ完形	61-R 8	黒曜石	長:1.9、幅:1.2、厚:0.2、重:0.4。平基無茎鏝。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離を全面に覆い細身で薄手の均整の取れた形状に仕上げる	
PL.154	166	石鏝	脚端部欠損	61-R 9	黒曜石	長:(1.9)、幅:(1.6)、厚:0.3、重:1.0。凹基無茎鏝。完成状態。やや粗い押圧剥離が全面を覆い薄手に仕上げる	
PL.154	167	石鏝	上半・左脚欠損	61-R 9	黒曜石	長:(1.4)、幅:(1.4)、厚:0.2、重:0.6。凹基無茎鏝。完成状態。丁寧な押圧剥離を全面に施し薄手に仕上げる	
PL.154	168	石鏝	上半欠損	61-R10	黒色安山岩	長:(1.8)、幅:2.2、厚:0.4、重:1.4。凹基無茎鏝。完成状態。中央部に僅かな厚みが残るが押圧剥離が全面を覆う	
PL.154	169	石鏝	片脚欠損	61-R10	黒曜石	長:2.2、幅:(1.5)、厚:0.3、重:0.6。凹基無茎鏝。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離が全面を覆い、長身で薄手の均整の取れた形状に仕上げている	
PL.154	170	石鏝	下半欠損	61-R11	黒曜石	長:(1.8)、幅:(1.2)、厚:0.4、重:0.8。完成状態。やや厚みのある素材縁辺より丁寧な押圧剥離を施す	
PL.154	171	石鏝	完形	61-S 7	黒曜石	長:1.6、幅:1.1、厚:0.2、重:0.3。凹基無茎鏝。完成状態。小型で丁寧な押圧剥離を表面に集中し薄手に仕上げる。裏面に素材面が残る	
PL.154	172	石鏝	ほぼ完形	61-S 7	黒曜石	長:2.0、幅:1.6、厚:0.2、重:0.9。凹基無茎鏝。完成状態。薄手の剥片周縁に細かな押圧剥離を施し形状を整える。表面に礫面、裏面に素材面を残す	
PL.154	173	石鏝	片脚欠損	61-S 8	黒曜石	長:(1.3)、幅:1.1、厚:0.2、重:0.3。凹基無茎鏝。完成状態。極めて小型の剥片を素材とし、周縁に細かな押圧剥離を施す。表裏面に素材面を残す	
PL.154	174	石鏝	上半欠損	61-S 8	黒曜石	長:(1.7)、幅:1.7、厚:0.4、重:1.0。凹基無茎鏝。完成状態。丁寧な押圧剥離を全面に施すが中央部がやや厚手	
PL.154	175	石鏝	破片	61-S 8	黒曜石	長:(0.9)、幅:(0.9)、厚:0.2、重:0.1。脚部の破片か。完成状態。押圧剥離が全面を覆う	
PL.154	176	石鏝	片脚欠損	61-S10	黒曜石	長:1.6、幅:(1.3)、厚:0.3、重:0.6。凹基無茎鏝。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離を全面に施し、整った小型の形状を作出する	
PL.154	177	石鏝	ほぼ完形	61-S11	黒曜石	長:2.2、幅:1.9、厚:0.2、重:0.9。凹基無茎鏝。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面を覆い薄手に仕上げている。平面形も対称性に富み整った形状に作出する	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.154	178	石鏃	完形	61-T 5	赤碧玉	長:2.1、幅:1.8、厚:0.3、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離を全面に施し、やや長身で整った形状に作出する	
PL.154	179	石鏃	脚部欠損	61-T 7	黒曜石	長:(1.7)、幅:1.2、厚:0.4、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。小型で中央にやや厚みが残るが、押圧剥離が全面を覆う	
PL.154	180	石鏃	ほぼ完形	61-T 9	黒曜石	長:1.8、幅:1.4、厚:1.3、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離を周縁より施し、中央部に素材面が残る。左側縁に僅かな括れを見る	
PL.154	181	石鏃	完形	61-T 9	黒曜石	長:2.8、幅:1.2、厚:0.5、重:1.5。凹基無茎鏃。完成状態。左右非対称で中央部に厚みが残るが、完成品と考えた	
PL.154	182	石鏃	完形	61-T 9	黒色頁岩	長:2.1、幅:2.0、厚:0.4、重:1.8。凹基無茎鏃。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離が全面を覆い長身で整った平面形状に仕上げる。側縁は鋸歯状を呈す	
PL.154	183	石鏃	破片	61-T10	黒曜石	長:(1.1)、幅:(1.0)、厚:0.2、重:0.1。先端部のみの残存。完成状態。押圧剥離が施される	
PL.154	184	石鏃	右側面欠損	61-U 5	黒曜石	長:2.2、幅:(0.9)、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏃か。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離を全面に施し薄手に仕上げている	
PL.154	185	石鏃	片脚欠損	61-U 7	黒曜石	長:(1.4)、幅:(1.9)、厚:0.3、重:1.5。凹基無茎鏃。完成状態。やや粗い押圧剥離が全面を覆い薄手の大型品に仕上げている	
PL.154	186	石鏃	下半欠損	61-U 7	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.7)、厚:0.4、重:1.2。先端部のみの残存。完成状態。中央にやや厚みが残るが丁寧な押圧剥離が全面を覆う	
PL.154	187	石鏃	完形	61-V 4	黒曜石	長:2.3、幅:1.7、厚:0.3、重:1.0。凹基無茎鏃。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離を全面に施し、薄手で左右対称の整った平面形状に仕上げている	
PL.154	188	石鏃	上半欠損	61-V 4	黒曜石	長:(1.3)、幅:1.5、厚:0.2、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離を全面に施し薄手に仕上げる	
PL.154	189	石鏃	脚部欠損	61-V 5	黒曜石	長:(1.9)、幅:(2.1)、厚:0.3、重:1.3。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に施され薄手に仕上げている	
PL.154	190	石鏃	端部欠損	61-V 5	黒曜石	長:(1.5)、幅:(1.6)、厚:0.3、重:1.0。体部のみの残存。凹基無茎鏃か。完成状態。やや粗い押圧剥離が全面を覆う	
PL.154	191	石鏃	完形	61-V 6	黒曜石	長:1.8、幅:1.5、厚:0.3、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面を覆い均整の取れた薄手の形状に仕上げている	
PL.154	192	石鏃	上半欠損	61-V 6	黒曜石	長:(1.5)、幅:1.5、厚:0.2、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。挟りが弱く長身の平面形。押圧剥離が全面を覆い薄手に仕上げている	
PL.155	193	石鏃	完形	61-V 6	玉髓	長:3.2、幅:1.7、厚:0.3、重:1.1。凹基無茎鏃。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離が全面を覆い薄手で均整の取れた長身の形状を作出する。石材色調もあり逸品である	
PL.155	194	石鏃	ほぼ完形	61-V 8	黒曜石	長:1.8、幅:1.9、厚:0.4、重:1.6。平基無茎鏃。完成状態か。中央部に厚みを残すが押圧剥離が全面を覆う	
PL.155	195	石鏃	ほぼ完形	61-V 9	黒曜石	長:1.3、幅:2.2、厚:0.2、重:0.6。平基無茎鏃。完成状態。基部を広く見た。丁寧な押圧剥離が全面を覆い薄手に仕上げている	
PL.155	196	石鏃	片脚欠損	61-V 9	黒曜石	長:(1.2)、幅:(1.9)、厚:0.2、重:0.2。小型の凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に施される	
PL.155	197	石鏃	先端部欠損	61-W 6	黒曜石	長:(1.6)、幅:1.5、厚:0.2、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に及び薄手で整った形状に仕上げる。挟り部湾曲も強く入念な調整を施す	
PL.155	198	石鏃	上半欠損	61-W 6	黒曜石	長:(1.3)、幅:1.7、厚:0.3、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に施され薄手に仕上げる。挟り部はやや非対称	
PL.155	199	石鏃	上部欠損	61-W 8	黒曜石	長:(1.6)、幅:1.5、厚:0.3、重:1.0。平基無茎鏃。完成状態。薄手の剥片を素材としており周縁からの丁寧な押圧剥離で作出される。表面一部に礫面が残る	
PL.155	200	石鏃	完形	61-X 5	黒曜石	長:1.6、幅:1.1、厚:0.4、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離が全面に施され小型で均整の取れた形状に仕上げている	
PL.155	201	石鏃	上部欠損	61-X 6	黒曜石	長:0.9、幅:1.2、厚:0.2、重:0.3。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に覆い、小型で整った形状を作出している	
PL.155	202	石鏃	破片	61-X 6	黒曜石	長:(1.4)、幅:(0.9)、厚:0.1、重:0.2。薄手の小型剥片周縁に微細剥離を加え先端部を作出している	
PL.155	203	石鏃	端部欠損	61-X 7	黒曜石	長:(1.8)、幅:(1.5)、厚:0.2、重:0.6。先端部と右脚部欠損。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に及び薄手に仕上げている	
PL.155	204	石鏃	破片	61-X 8	黒曜石	長:(1.3)、幅:(0.8)、厚:0.1、重:0.2。脚部破片か。押圧剥離が全面に及んだ完成状態	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.155	205	石鏃	右脚欠損	61-Y 5	黒曜石	長:(1.8)、幅:(1.6)、厚:0.4、重:0.9。凹基無茎鏃。完成状態。やや厚みを中央に残すが押圧剥離が全面に及ぶ	
PL.155	206	石鏃	ほぼ完形	61-W 8	黒曜石	長:2.1、幅:1.5、厚:0.3、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。精緻で丁寧な押圧剥離を全面に施し薄手で均整の取れた形状を作出している	
PL.155	207	石鏃	ほぼ完形	61-S 8	黒曜石	長:2.0、幅:1.3、厚:0.2、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に覆い、非対称な平面形ながら薄手に仕上げている	
PL.155	208	石鏃	下半欠損	61-T 6	黒曜石	長:(2.1)、幅:(1.2)、厚:0.3、重:0.6。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面を覆う	
PL.155	209	石鏃	完形	61-T 9	黒曜石	長:1.6、幅:1.5、厚:0.3、重:1.1。凸基有茎鏃。完成状態。精緻で細かな押圧剥離を施し、長身の整った形状に仕上げている	
PL.155	210	石鏃	端部欠損	61-R 8	黒曜石	長:(1.7)、幅:1.3、厚:0.2、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全面に覆われ薄手に仕上げる	
PL.155	211	石鏃未製品	ほぼ完形	61-S10	黒色頁岩	長:3.6、幅:2.8、厚:1.1、重:10.4。凹基無茎鏃が製作意図か。周縁からの押圧剥離を施すが右側縁に厚みを残す。大型であり、製作着手直前の段階と考える	
PL.155	212	石鏃未製品	完形	61-W 6	黒色安山岩	長:2.8、幅:1.7、厚:0.5、重:2.6。凹基無茎鏃を意図した製作か。押圧剥離が覆うが左側面の一部に礫面を大きく残す。形状も左右非対称である	
PL.155	213	石鏃未製品	側面欠損	61-X 5	黒曜石	長:2.7、幅:1.8、厚:0.8、重:3.3。凹基無茎鏃を意図した製作。丁寧な押圧剥離が全面に覆うが中央部が厚く残り、平面形状も非対称である。最終段階前の調整であろう	
PL.155	214	石鏃未製品か	先端欠損	61-P 9	黒曜石	長:(2.5)、幅:2.4、厚:0.6、重:2.7。薄手の素材周縁よりやや粗い押圧剥離を施し三角形状の器形を作出する。先端部の欠損により製作を中止・放棄したか	
PL.155	215	石鏃未製品か	左側面欠損	61-Q 7	黒曜石	長:2.0、幅:1.4、厚:0.4、重:1.0。凹基無茎鏃を意図したか。細身で表面のみに押圧剥離が集まり、挟り部の作出も未着手である	
PL.155	216	石鏃	先端部欠損	61-R 7	珪質頁岩	長:4.4、幅:2.8、厚:0.8、重:9.6。完成状態。体部をやや粗い交互の剥離で作出する。摘み部は周縁を細かな調整を施す	
PL.155	217	石鏃	完形	61-S 8	黒色頁岩	長:5.7、幅:2.2、厚:1.0、重:9.7。完成状態。両側縁からの丁寧な剥離で体部と先端部を作出する。摘み部はやや粗い剥離を施す。使用痕は見られない	
PL.155	218	石鏃	ほぼ完形	61-S 8	チャート	長:2.5、幅:1.2、厚:0.8、重:1.9。完成状態。先端部僅かに欠損。体部は断面三角形を呈し両側縁より細かな押圧剥離を施す。使用痕は見られない	
PL.155	219	石鏃	破片	61-S 8	黒曜石	長:(1.3)、幅:(1.0)、厚:0.2、重:0.3。完成状態。先端部のみの残存。細かな押圧剥離による作出で、先端部が僅かに突出する	
PL.155	220	石鏃	完形	61-T10	黒曜石	長:1.1、幅:0.5、厚:0.2、重:0.4。完成状態。極めて細身の体部で断面方形を呈す。体部は側縁からの細かな押圧剥離に止まるが先端部は周縁調整となる	
PL.155	221	石鏃	完形	61-T10	黒曜石	長:1.1、幅:1.0、厚:0.3、重:0.6。完成状態。薄手の縦長剥片を素材とし、体部～先端部は両側縁からの押圧剥離が覆う	
PL.155	222	石鏃	脚部欠損	61-T11	黒曜石	長:(1.4)、幅:(1.0)、厚:0.2、重:0.2。凹基無茎鏃。完成状態。細かな押圧剥離が全面を覆い小型で薄手の形状に仕上げている	
PL.155	223	石鏃	完形	61-V 7	黒曜石	長:1.2、幅:0.8、厚:0.4、重:0.4。完成状態。極小の剥片表面に細かい押圧剥離を集め、先端部を僅かに突出する	
PL.155	224	石鏃	上部欠損	61-V 8	黒曜石	長:(1.4)、幅:0.5、厚:0.2、重:0.3。完成状態。極めて細い断面紡錘状の体部。側縁からの入念な押圧剥離で作出される。使用痕は見られない	
PL.155	225	石鏃	上部欠損	61-V 8	黒曜石	長:(2.1)、幅:0.6、厚:0.4、重:0.5。完成状態。棒状の体部側縁からの押圧剥離で体部を作出する	
PL.155	226	石鏃	端部欠損	61-V 8	黒曜石	長:(1.2)、幅:(0.8)、厚:0.2、重:0.3。体部のみの残存。石鏃脚部の可能性もあるが細身のため石鏃と考えた。押圧剥離で覆われた完成状態である	
PL.155	227	石鏃	完形	61-X 5	黒曜石	長:2.4、幅:0.6、厚:0.5、重:0.6。完成状態。断面三角形の体部両側縁から丁寧な押圧剥離が加えられ、両先端部が作出される	
PL.155	228	石鏃	完形	61-X 5	黒曜石	長:2.2、幅:1.4、厚:0.6、重:1.7。完成状態。断面三角形の体部両側縁に押圧剥離が施される。先端部は裏面からの調整も加わる。発泡しており被熱痕跡がある	
PL.155	229	石鏃	上部欠損	61-X 5	黒曜石	長:(1.4)、幅:0.5、厚:0.5、重:0.5。完成状態。先端部のみの残存。押圧剥離が全面を覆い先端部を作出する	
PL.155	230	石鏃未製品	完形	61-X 6	黒曜石	長:3.1、幅:1.2、厚:0.8、重:2.5。厚手の断面三角形の体部両側縁から押圧剥離を加えるが先端部の作出には至っていない	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.155	231	打製石斧	完形	61-X 6	細粒輝石安山岩	長:14.3、幅:6.0、厚:2.5、重:280.0。短冊形。完成状態。粗い剥離による直線的な側縁の作出。側縁中位に装着痕。刃部裏面に使用による磨滅痕を見る	
PL.155	232	打製石斧	完形	61-0 1	細粒輝石安山岩	長:14.1、幅:8.5、厚:2.7、重:312.1。撥型。完成状態。体部中位で括れ刃部に最大幅を持たせる。粗い剥離による作出。刃部に僅かな使用による磨滅痕	
PL.155	233	打製石斧	下半欠損	61-R 7	黒色頁岩	長:(7.7)、幅:5.0、厚:2.6、重:132.1。短冊形。完成状態。厚手で比較的細かな剥離で側縁と頭部を作出する	
PL.155	234	打製石斧	完形	61-S 9	粗粒輝石安山岩	長:12.0、幅:6.1、厚:1.8、重:174.7。短冊形。完成状態。粗い剥離で直線的な側縁を作出し、刃部に最大幅を設ける。使用による磨滅痕を刃部表面に見る	
PL.155	235	打製石斧	ほぼ完形	61-R11	変質安山岩	長:13.1、幅:5.6、厚:2.4、重:196.4。短冊形。完成状態。厚手で湾曲する体部。粗い剥離で側縁と刃部を作出する。刃部表裏面に使用による磨滅痕を見る	
PL.155	236	打製石斧	完形	61-S 8	細粒輝石安山岩	長:8.3、幅:4.3、厚:1.2、重:50.9。短冊形。完成状態。薄手の素材の両側縁と刃部を粗い剥離で作出。刃部表面に使用による磨滅痕が顕著	
PL.155	237	打製石斧	右側縁・下半欠損	61-R 8	細粒輝石安山岩	長:(10.1)、幅:5.1、厚:1.5、重:103.9。短冊形。完成状態。粗い剥離で直線的な両側縁を作出する	
PL.155	238	打製石斧	右上側欠損	61-R11	細粒輝石安山岩	長:10.9、幅:5.3、厚:1.7、重:95.5。分銅形。完成状態。体部中位に括れを設け刃部に最大幅を持たせる。剥離は粗く、刃部表裏面に使用による磨滅痕が見られる	
PL.155	239	打製石斧	下半欠損	61-V 6	粗粒輝石安山岩	長:(7.9)、幅:5.6、厚:2.2、重:117.4。短冊形。完成状態。体部は厚手。やや細かい剥離で直線的な側縁を作出する。上位に装着痕が僅かに見られる	
PL.155	240	打製石斧	頭部残存	61-T10	細粒輝石安山岩	長:(2.7)、幅:5.2、厚:0.9、重:15.7。完成状態か。薄手の素材を使用し粗い剥離を加える	
PL.155	241	打製石斧	破片	61-S11	黒色頁岩	長:(11.1)、幅:3.3、厚:1.8、重:58.8。側縁や裏面が大きく欠損する。刃部に使用による顕著な磨滅痕を見る	
PL.155	242	打製石斧	体部残存	61-T10	細粒輝石安山岩	長:(6.9)、幅:5.0、厚:1.3、重:44.5。短冊形か。完成状態。薄手の素材に粗い剥離で直線的な体部を作出する	
PL.155	243	打製石斧	右側欠損	61-S11	黒色頁岩	長:10.5、幅:(4.3)、厚:2.0、重:92.1。短冊形。完成状態。体部は厚手で、粗い剥離による側縁と刃部を作出する。使用痕は僅かに見られるのみ	
PL.155	244	打製石斧	上一部欠損	61-Y 5	細粒輝石安山岩	長:(9.2)、幅:6.5、厚:2.0、重:124.2。分銅形。完成状態。粗い剥離調整で両側縁中位に括れを設け、刃部に最大幅を持たせる。括れ部に装着痕を見る	
PL.155	245	打製石斧	下部残存	61-R 8	細粒輝石安山岩	長:(4.0)、幅:(6.5)、厚:2.3、重:74.3。完成状態。厚手の刃部のみの残存。粗い剥離で作出される	
PL.155	246	打製石斧	頭部残存	61-S11	黒色頁岩	長:(2.7)、幅:2.3、厚:0.8、重:6.0。短冊形。完成状態。小型で細身の平面形態。比較的細かな剥離で周縁を作出する。頭部の一部に磨滅痕がある	
PL.155	247	打製石斧	頭部残存	61-R 8	黒色頁岩	長:(4.6)、幅:3.8、厚:1.5、重:34.2。短冊形。完成状態。板状の素材で粗い剥離を周縁に施す	
PL.155	248	打製石斧	頭部残存	61-X 6	細粒輝石安山岩	長:(3.2)、幅:5.5、厚:1.6、重:34.2。完成状態か。粗い剥離を周縁に施す。表面に礫面を広く残す	
PL.155	249	打製石斧	完形	61-Y 5	細粒輝石安山岩	長:10.6、幅:5.9、厚:2.3、重:129.3。短冊形。完成状態。体部は強く湾曲する。表面に広く礫面を残し粗い剥離で周縁を作出する。使用痕は見られない	
PL.155	250	打製石斧	頭部欠損	61-S11	細粒輝石安山岩	長:(7.3)、幅:4.5、厚:1.3、重:48.0。短冊形。完成状態。小型で粗い剥離により体部中位側縁に括れを設ける。刃部周辺の使用痕は僅かである	
PL.155	251	打製石斧	頭部欠損	61-V 6	珪質頁岩	長:(11.2)、幅:5.0、厚:1.3、重:93.8。短冊形。完成状態。扁平な板状素材周縁を粗い剥離調整を施す。刃部裏面に使用による磨滅痕を見る	
PL.155	252	打製石斧	上半欠損	61-W 8	細粒輝石安山岩	長:(7.8)、幅:5.7、厚:1.0、重:73.2。短冊形。完成状態。薄手の素材周縁より粗い剥離を施し、側縁と刃部を作出する	
PL.156	253	打製石斧	上半欠損	61-Q 7	粗粒輝石安山岩	長:(6.7)、幅:6.0、厚:2.1、重:110.8。短冊形。完成状態。粗い剥離により直線的な側縁を作出し、刃部に最大幅を持たせる。使用痕は見られない	
PL.156	254	スクレイパー	完形	61-V 9	玉髓	長:2.3、幅:1.5、厚:0.5、重:1.7。小型の横長剥片周縁に細かい押圧剥離を施し刃部としている。裏面中央は素材面が残る	
PL.156	255	スクレイパー	上部欠損	61-R 6	黒曜石	長:(1.8)、幅:2.1、厚:0.5、重:2.1。薄手の剥片を素材とする。両側縁に粗い押圧剥離を施し刃部と先端部を作出する	
PL.156	256	スクレイパー	完形	61-S 8	黒曜石	長:1.7、幅:1.3、厚:0.6、重:2.0。縦長剥片を素材とし、両側縁より押圧剥離を施し先端部を作出している	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.156	257	スクレイパー	完形	61-S 8	黒曜石	長:1.8、幅:1.7、厚:0.3、重:1.3。小型で円形の剥片を素材とする。表面周縁に押圧剥離を施す	
PL.156	258	スクレイパー	一部欠損	61-V 9	黒曜石	長:(1.3)、幅:1.4、厚:0.6、重:2.3。小型でやや厚手の剥片を素材にする。表裏面に丁寧な押圧剥離を施し刃部を作出する	
PL.156	259	スクレイパー	一部欠損	61-X 5	黒曜石	長:1.8、幅:1.8、厚:0.7、重:2.6。小型の横長剥片を素材とし、下端刃部にやや粗い押圧剥離を表裏面より施す	
PL.156	260	石槍	完形	61-S 8	珪化木	長:4.2、幅:1.6、厚:0.8、重:5.0。完成状態。両側縁から押圧剥離が施されるが表面には外稜が残る。先端部の作出も弱く、石錐未製品の可能性もある	
PL.156	261	加工痕ある剥片	完形	61-Q 6	黒色頁岩	長:4.9、幅:6.7、厚:0.9、重:25.3。板状節理した素材。直線的な縁辺に細かな剥離を施している	
PL.156	262	加工痕ある剥片	下半欠損	61-U 6	黒色頁岩	長:(3.1)、幅:1.2、厚:0.3、重:1.6。薄手で細身の縦長剥片を素材とする。両側縁に細かな剥離を施す	
PL.156	263	加工痕ある剥片	完形	61-O 6	黒色頁岩	長:6.2、幅:2.7、厚:0.7、重:15.6。縦長剥片を素材とし、両側縁及び下端に細かな剥離を施す。	
PL.156	264	加工痕ある剥片	完形	61区	黒色頁岩	長:7.1、幅:6.3、厚:1.5、重:98.2。幅広の縦長剥片を素材に右側縁と下端に粗い剥離を加え刃部としている	
PL.156	265	加工痕ある剥片	右半欠損	61-S 9	細粒輝石安山岩	長:7.9、幅:(7.3)、厚:2.5、重:127.2。大型の横長剥片を素材とし、左側縁と下端に粗い剥離を施し刃部とする	
PL.156	266	加工痕ある剥片	破片	表土	黒曜石	長:(1.4)、幅:(2.0)、厚:0.3、重:0.9。小型で薄手の剥片の表面のみに押圧剥離を施す。裏面は素材面が残る	
PL.156	267	加工痕ある剥片	左半欠損	表土	黒曜石	長:2.1、幅:1.4、厚:0.3、重:1.0。小型の横長剥片を素材とし右側縁と下端刃部に細かな押圧剥離を施す	
PL.156	268	加工痕ある剥片	完形	表土	黒曜石	長:2.0、幅:1.4、厚:0.4、重:1.1。小型の縦長剥片を素材とする。両側縁上下で表裏交互に細かな押圧剥離を施す	
PL.156	269	加工痕ある剥片	完形	61-R 6	黒曜石	長:1.3、幅:2.3、厚:0.5、重:1.3。小型の横長剥片を素材とする。右側縁と上端に粗い押圧剥離を施す	
PL.156	270	加工痕ある剥片	完形	61-R 8	黒曜石	長:2.0、幅:1.4、厚:0.3、重:1.1。小型の横長剥片を素材とし左側縁と下端に押圧剥離を施し先端部の作出を意図している	
PL.156	271	加工痕ある剥片	右側縁欠損	61-R 8	黒曜石	長:2.4、幅:1.4、厚:0.6、重:2.1。小型の縦長剥片を素材とし、左側縁から下端に粗い押圧剥離を施す	
PL.156	272	加工痕ある剥片	ほぼ完形	61-R10	黒曜石	長:2.9、幅:1.9、厚:0.7、重:4.0。横長剥片を素材とし、上下端部に粗い押圧剥離を施す	
PL.156	273	加工痕ある剥片	破片	61-R11	黒曜石	長:(1.6)、幅:(0.9)、厚:0.4、重:0.6。小型の剥片下端部に微細剥離を見る	
PL.156	274	加工痕ある剥片	完形	61-S 8	黒曜石	長:1.7、幅:2.0、厚:0.9、重:2.2。小型の剥片下端部に押圧剥離を施し刃部としている	
PL.156	275	加工痕ある剥片	破片	61-S 8	黒曜石	長:(1.6)、幅:(1.7)、厚:0.3、重:0.8。薄手の剥片裏面に押圧剥離を集める。表面には礫面を残す	
PL.156	276	加工痕ある剥片	破片	61-S 9	黒曜石	長:(1.3)、幅:(0.8)、厚:(0.5)、重:0.4。小型の剥片縁辺に細かな押圧剥離を施している	
PL.156	277	加工痕ある剥片	ほぼ完形	61-S10	黒曜石	長:1.9、幅:2.0、厚:0.5、重:1.9。縦長剥片周縁に押圧剥離を施し三角形に作出する。あるいは石鏃未製品か	
PL.156	278	加工痕ある剥片	左半欠損	61-S10	黒曜石	長:2.3、幅:(1.1)、厚:0.4、重:1.3。小型の剥片表面に押圧剥離を集める。あるいは石鏃未製品か	
PL.156	279	加工痕ある剥片	破片	61-S11	黒曜石	長:(1.3)、幅:(1.2)、厚:0.4、重:0.5。剥片縁辺に丁寧な押圧剥離を施す。石鏃上半の破片か	
PL.156	280	加工痕ある剥片	破片	61-S11	黒曜石	長:(1.6)、幅:(0.8)、厚:0.6、重:0.7。小型の剥片表面に押圧剥離を施す	
PL.156	281	加工痕ある剥片	完形	61-T 7	黒曜石	長:1.4、幅:1.5、厚:1.1、重:4.5。小型の石核状素材の片側面に粗い押圧剥離が施される	
PL.156	282	加工痕ある剥片	完形	61-T 8	黒曜石	長:2.8、幅:1.2、厚:0.4、重:1.7。不定形な縦長剥片を素材とし右側縁に細かな剥離を施す	
PL.156	283	加工痕ある剥片	破片	61-T10	黒曜石	長:(2.1)、幅:(1.3)、厚:0.4、重:0.8。横長剥片を素材とし、左側縁に押圧剥離を施し刃部としている	
PL.156	284	加工痕ある剥片	左半欠損	61-V 6	黒曜石	長:(1.9)、幅:(1.7)、厚:0.5、重:1.4。不定形な横長剥片下端部に押圧剥離を施し弧状の刃部を作出する	
PL.156	285	加工痕ある剥片	破片	61-X 6	黒曜石	長:(0.8)、幅:(1.9)、厚:0.4、重:0.6。小型の剥片を素材とし、周縁の一部に粗い剥離を加え刃部としている	
PL.156	286	加工痕ある剥片	完形	61-X 6	黒曜石	長:2.0、幅:1.2、厚:0.5、重:0.9。小型で薄手の剥片を素材とし、右側縁に細かな押圧剥離を施し刃部としている	
PL.156	287	加工痕ある剥片	完形	61-X 6	黒曜石	長:1.8、幅:1.6、厚:0.4、重:1.1。小型の横長剥片を素材とする。表面に押圧剥離を施し周縁に刃部を作出する	
PL.156	288	加工痕ある剥片	ほぼ完形	61-Y 5	黒曜石	長:2.2、幅:2.5、厚:0.7、重:4.1。横長剥片を素材とし、両側縁に僅かな押圧剥離を施す	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.	289	加工痕ある剥片	下部欠損	61-Y 5	黒曜石	長:(2.1)、幅:1.9、厚:0.9、重:3.7。縦長剥片を素材とし、左側縁に粗い押圧剥離を施し刃部とする	
PL.	290	使用痕ある剥片	完形	61-V 8	黒色頁岩	長:3.7、幅:6.9、厚:0.7、重:19.6。薄手の横長剥片を素材とする。周縁を刃部とし鋸歯状の刃こぼれを見る	
PL.156	291	使用痕ある剥片	完形	61-Y 5	黒色頁岩	長:5.7、幅:5.3、厚:1.0、重:25.8。縦長剥片を素材とし、右側縁と下端部に微細剥離を見る	
PL.156	292	使用痕ある剥片	ほぼ完形	61-Q 7	黒色頁岩	長:5.9、幅:3.8、厚:1.3、重:30.0。横長剥片を素材とし下端刃部に刃こぼれが見られる	
PL.156	293	使用痕ある剥片	完形	61-R 6	黒曜石	長:2.4、幅:1.5、厚:0.6、重:1.3。縦長剥片を素材とする、両側縁に微細剥離を見る	
PL.156	294	使用痕ある剥片	完形	61-R 7	黒曜石	長:2.6、幅:1.6、厚:0.5、重:1.8。小型の縦長剥片を素材とし両側縁の刃部に微細剥離を見る	
PL.156	295	使用痕ある剥片	完形	61-R 7	黒曜石	長:3.2、幅:1.5、厚:0.5、重:2.4。縦長剥片を素材とし、両側縁及び下端に微細剥離を見る	
PL.156	296	使用痕ある剥片	左側縁欠損	61-R 9	黒曜石	長:3.1、幅:1.7、厚:0.4、重:2.3。縦長剥片を素材とする。両側縁を刃部とし微細剥離を見る	
PL.156	297	使用痕ある剥片	完形	61-R10	黒曜石	長:2.0、幅:1.6、厚:0.5、重:1.8。小型の縦長剥片を素材とする。両側縁と下端を刃部とし微細剥離を見る	
PL.156	298	使用痕ある剥片	完形	61-R10	黒曜石	長:3.0、幅:2.0、厚:0.9、重:5.9。厚手の小型剥片を素材とする。左側縁と下端に僅かな微細剥離が見られる	
PL.156	299	使用痕ある剥片	完形	61-R10	黒曜石	長:3.8、幅:2.0、厚:0.9、重:5.1。縦長剥片を素材とし、両側縁に細かな刃こぼれを見る	
PL.156	300	使用痕ある剥片	完形	61-S 7	黒曜石	長:3.0、幅:1.5、厚:0.6、重:2.1。不定型な縦長剥片を素材にし両側縁の刃部に微細剥離が加わる	
PL.156	301	使用痕ある剥片	完形	61-V 9	黒曜石	長:1.7、幅:1.3、厚:0.3、重:0.6。小型の縦長剥片を素材とし周縁を刃部とする。細かな刃こぼれを見る	
PL.156	302	使用痕ある剥片	完形	61-W 5	黒曜石	長:2.5、幅:1.7、厚:0.6、重:1.8。不定型な縦長剥片を素材とし突出する剥片端部両側縁に微細剥離が見られる	
PL.156	303	使用痕ある剥片	完形	61-X 7	黒曜石	長:1.9、幅:1.5、厚:0.5、重:1.1。小型の横長剥片を素材とする。側縁と下端を刃部とし微細剥離を見る	
PL.156	304	磨製石斧	一部欠損	61-R 8	変はんれい岩	長:13.0、幅:2.7、厚:2.0、重:76.9。小型ながら乳棒状の形態を取る。全面が丁寧に研磨され、刃部の作出は入念である	
PL.156	305	磨製石斧	刃部破片	61-S 9	変質蛇紋岩	長:(4.5)、幅:(4.2)、厚:(1.0)、重:24.7定角式の刃部破片。丁寧に研磨が全面に及び光沢を持つ	
PL.156	306	磨石	完形	61区	変質安山岩	長:15.6、幅:5.5、厚:3.6、重:535.5。棒状の円礫。表裏面に平滑な磨面を見る。表面下に敲打による凹み、側縁に捲縛痕状の凹みを見るが磨面が新しい	
PL.156	307	磨石	完形	61-T 9	変質安山岩	長:11.8、幅:4.8、厚:3.8、重:358.6。不整形な呈する垂円礫。表裏面・両側面に平滑な磨面を見る	
PL.156	308	磨石	完形	61-O 1	粗粒輝石安山岩	長:3.9、幅:3.1、厚:2.9、重:42.2。小型球状の円礫。表裏面に磨面、上端に僅かな敲打痕を見る	
PL.156	309	磨石	表裏面剥落	61-Y 5	粗粒輝石安山岩	長:10.8、幅:8.0、厚:(4.6)、重:560.1。やや扁平な楕円状円礫。平滑な磨面を表裏面の一部に見る	
PL.156	310	磨石	右側面欠損	61-U 5	粗粒輝石安山岩	長:9.2、幅:(7.1)、厚:2.3、重:204.9。扁平な楕円状円礫。表面中央及び上端に敲打痕を見るが、平滑な磨面の広がり表裏面に顕著である	
PL.156	311	磨石	完形	61-S11	粗粒輝石安山岩	長:8.3、幅:6.1、厚:4.3、重:266.2。卵状の円礫。表裏面に平滑な磨面を持つ。上下端部に僅かな敲打痕を見る	
PL.156	312	磨石	裏面一部欠損	61-X 6	粗粒輝石安山岩	長:8.6、幅:6.6、厚:4.2、重:370.6。小型でやや扁平な楕円状円礫。表裏面に平滑な磨面が広がる	
PL.156	313	磨石	ほぼ完形	61-Y 6	石英閃緑岩	長:12.2、幅:4.5、厚:4.0、重:299.8。棒状の円礫。右側縁と裏面に平滑な磨面を見る	
PL.157	314	磨石	完形	61-Q 8	石英閃緑岩	長:22.7、幅:17.7、厚:16.1、重:9500.0。大型の丸石状円礫。表裏面、周縁に敲打痕、磨面を見る	
PL.157	315	敲石	完形	61-R 9	粗粒輝石安山岩	長:9.6、幅:9.0、厚:5.2、重:668.1。やや扁平な不整形の円礫。表裏面、上下端部に敲打痕を集める。表裏面中央に弱い磨面を持つ	
PL.157	316	敲石	完形	61-X 7	粗粒輝石安山岩	長:8.8、幅:7.0、厚:3.9、重:375.9。扁平な楕円状円礫。上下端部と両側面に敲打痕を集める。表裏面には平滑な磨面が広がる	
PL.157	317	凹石	完形	61-S 8	粗粒輝石安山岩	長:12.7、幅:8.3、厚:5.5、重:940.5。楕円状円礫。両側面に強い敲打と磨面を持つため断面方形となる。表裏面中央に敲打による凹み。平滑で光沢を持つ磨面が広がる	
PL.157	318	凹石	完形	61区	粗粒輝石安山岩	長:14.5、幅:8.9、厚:5.6、重:988.8。表面中央やや下に敲打による凹みを設ける。側面。上下端部にも敲打痕を見る	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.157	319	凹石	完形	61区	粗粒輝石安山岩	長:11.6、幅:6.9、厚:4.4、重:560.4。やや扁平な楕円状円礫。表裏面中央上下2箇所にて敲打による凹みを持つ。上下端部も敲打が集申し、磨面を持つ	
PL.157	320	凹石	完形	61-R 8	変質安山岩	長:12.9、幅:(9.4)、厚:4.5、重:66.4。扁平な楕円状円礫。表裏面中央上下にて敲打による凹み2箇所を見る。敲打痕は上下端部にも見られる	
PL.157	321	凹石	ほぼ完形	61-S 8	粗粒輝石安山岩	長:13.0、幅:7.0、厚:3.7、重:593.2。やや扁平な楕円状円礫。両側面に強い敲打と磨面を持つため断面方形となる。表裏面中央にて敲打による凹みと磨面を見る	
PL.157	322	凹石	完形	61-S10	粗粒輝石安山岩	長:9.4、幅:7.8、厚:4.6、重:455.5。やや小型の楕円状円礫。表裏面中央にて敲打による凹みを持つ。側面と上下端部にも敲打痕を見る	
PL.157	323	凹石	完形	61-R11	粗粒輝石安山岩	長:10.4、幅:8.0、厚:4.6、重:544.4。扁平でやや小型の楕円状円礫。表面中央やや上位にて敲打による凹み2箇所を持つ。上下端部にも敲打痕が集まる	
PL.157	324	石皿	1/4残存	61-X 5	粗粒輝石安山岩	長:(21.2)、幅:(15.4)、厚:7.9、重:4250.0。扁平な大型円礫。おそらく上位の破片。縁は明瞭で底面は平滑な磨面を持つ。裏面に凹みを有す	
PL.157	325	台石	半欠損	61-S 8	粗粒輝石安山岩	長:(10.3)、幅:15.4、厚:7.5、重:1800.0。大型でやや扁平な円礫。表裏面に敲打痕と磨面を持つ。表面は平滑な印象が強い	
PL.157	326	台石	1/4残存	61-W 8	粗粒輝石安山岩	長:(16.5)、幅:(14.5)、厚:8.0、重:2240.0。大型の扁平な円礫。表面に光沢のある平滑な磨面が広がる。中央部にかけて敲打痕も集まる	
PL.157	327	台石	半欠損	61-V 8	粗粒輝石安山岩	長:(17.8)、幅:19.6、厚:6.7、重:3540.0。大型の扁平な楕円状円礫。表面に光沢のある平滑な磨面を持つ。裏面にも磨面を見るが中央部に限る。敲打痕は散在するがまとまりを持たない	

遺構外出土遺物 62区

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第353図 PL.157	1	深鉢	口縁部破片	62-B 5	細:石英・輝石・繊維/良好/にぶい褐色	薄手の器厚を呈す。横位LRを施す。内面凹凸を見るが平滑な撫で調整を施す	前期中葉
第353図 PL.157	2	深鉢	口縁部破片	62-F 5	細:石英/良好/褐色	器厚薄手で直線的に開口縁部器形。横位平行沈線を多段に施す。施文はやや乱雑。内面平滑な撫で調整	前期後葉
第353図 PL.157	3	深鉢	口縁部破片	62-F 6	細:石英・輝石/良好/にぶい橙色	口縁部屈折。横位浮線を多段に配し、横位矢羽状刻みを重ねる。内面平滑な撫で調整	前期後葉
第353図 PL.157	4 5	深鉢	体部破片2点	62-F 5・6	細:石英・輝石/良好/にぶい黄橙色	上半は2条一組の横位浮線を多段に配し中位は弧状・斜位意匠を配す。浮線には細かな矢羽状刻みと刺突文を重ねる。地文は横位LR。内面平滑な撫で調整	前期後葉
第353図 PL.157	6	深鉢	体部破片	62-F 7	粗:輝石/良好/にぶい黄橙色	2条の横位浮線文を配し、横位矢羽状の刻みを重ねる。内面撫で	前期後葉
第353図 PL.157	7	深鉢	体部破片	62-J 5	細:石英/良好/にぶい褐色	横位浮線文を多段に配し、斜位刻みを重ねる。地文は横位RL。内面撫で	前期後葉
第353図 PL.157	8	深鉢	体部破片	62-G 4	細:石英/良好/にぶい黄褐色	横位浮線文2条を配し矢羽状刻みを重ねる。以下斜位RLを施す。内面弱い研磨	前期後葉
第353図 PL.157	9	深鉢	口縁部破片	62-J 5	細:石英・片岩粒/良好/橙色	器厚薄手。口縁部内湾し口唇部に刻みを付す。口縁部文様帯は内皮施文による角押文2条と横位隆線で画される。斜位角押文を充填する	中期前葉
第353図 PL.157	10	浅鉢	口縁部破片	62-F 5	細:石英/良好/赤褐色	単列の結節沈線を施す	中期前葉
第353図 PL.157	11	浅鉢	口頸部破片	62-F 6	細:石英/良好/にぶい褐色	頸部屈曲。三角連続刺突文を横位・斜位に施す。内面研磨	中期前葉
第353図 PL.157	12	深鉢	口縁部破片	62-C 4	細:石英・輝石・雲母/良好/明赤褐色	口縁部は短く外反し垂下隆線が派生する。側線は三角連続刺突文を施す。内面撫で	中期中葉
第353図 PL.157	13	深鉢	体部破片	62-G 4	粗:石英・輝石・雲母/良好/橙色	横位隆線を設け弧状隆線が派生する。側線は平行沈線。斜位沈線や刻み、三叉文を施す。内面平滑な撫で調整	中期中葉
第353図 PL.158	14	深鉢	体部破片	62-A 5	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	数条の沈線で画された区画文。沈線間に刻みを施し。区画中位には三叉文を配す。内面横位撫で調整	中期後葉初
第353図 PL.158	15	深鉢	口縁部破片	62-D 5	細:石英/良好/橙色	口縁部無文で強く内屈。体部は直線的に開き、斜位LRを地文とし沈線文を施す。内面平滑な横位撫で	中期中葉
第353図 PL.158	16	深鉢	体部破片	62-A 4	粗:石英・雲母/良好/明赤褐色	内湾する体部上半。隆線による弧状突起を配す。側線は内皮平行沈線。内面は平滑な撫で	中期中葉末
第353図 PL.158	17	深鉢	体部破片	62-I 5	細:石英・輝石/良好/橙色	厚手の器厚。内皮沈線による方形区画か。地文はLR。内面平滑な撫で調整	中期中葉末

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第353図 PL.158	18	深鉢	口縁部破片	62-E 5	細:石英・輝石/良好/黒褐色	口縁部文様帯は2条の横位隆線で画される。隆線間は縦位刻みを施す。区画内は横位沈線と交互刺突文を充填する。体部は垂下隆線と上端を見る。内面撫で	中期後葉初
第353図 PL.158	19	深鉢	口縁部破片	62-H 5	粗:石英・輝石・片岩/良好/橙色	波状縁頂部。太い隆線による渦巻状意匠が配される。側線は沈線で燃糸Lを斜位施文する。内面撫で	中期後葉
第353図 PL.158	20	深鉢	体部破片	62-H 3	粗:輝石/良好/にぶい黄褐色	体部上半。小型の双環状突起を付し、渦巻文を配した沈線文と隆線を横位・縦位に派生する。懸垂文構成。細かな斜位沈線を施す。綾杉状短沈線か。内面弱い研磨	中期後葉
第353図 PL.158	21	深鉢	体部破片	62-F 6	粗:石英/良好/にぶい橙色	弧状隆線3条を懸架する。空白部は横位密接条線を充填する。隆線には内皮沈線を重ねる。内面平滑な撫で	中期後葉初
第353図 PL.158	22	深鉢	体部破片	62-K 3	細:石英・輝石/良好/橙色	縦位密接条線を地文とし、幅広の弧状沈線を施す。沈線施文は深く端部が稜状をなす。内面平滑な撫で	中期後葉か
第353図 PL.158	23	深鉢	頸部破片	62-D 6	細:石英・輝石/良好/灰黄褐色	外反する頸部。横位沈線と横位刺突文を設ける。内面研磨。破片上端は磨滅しており擬口縁か	中期後葉
第353図 PL.158	24	深鉢	体部破片	62-I 6	細:石英・輝石・雲母/良好/褐色	沈線による渦巻文と2条沈線による懸垂文。弧状沈線も派生する。地文は縦位LR。内面撫で調整	中期後葉
第353図 PL.158	25	深鉢	体部破片	62-I 6	細:石英・輝石・雲母/良好/褐色	垂下沈線と沈線で画された弧状意匠。地文は縦位RL。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第353図 PL.158	26	深鉢	体部破片	62-F 6	粗:石英・輝石・雲母/良好/黒褐色	3条の垂下沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位LR充填施文後縦位波状沈線を加える。内面横位撫で調整	中期後葉
第353図 PL.158	27	深鉢	体部破片	62-D 5	粗:石英・輝石/良好/にぶい橙色	垂下隆線による懸垂文構成。側線は撫で。縄文は縦位LR充填施文。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第353図 PL.158	28	深鉢	口縁～体部 上半3/4残 存	62-J 4・5・K 5	細:輝石/良好/灰褐色	口:26.4。4単位波状口縁。波頂部に隆線による渦巻文を配し、区画文を接続する。波頂部内面も渦巻文を施す。区画文下端は側線の沈線が兼ねる。頸部は無文で体部境に横位沈線2条と刺突文を充てる。体部は沈線による逆U字状意匠と蕨手状懸垂文。縄文はRL充填施文。内面は横位研磨	中期後葉
第353図 PL.158	29	壺	体部破片	62-I 3	粗:輝石/良好/にぶい黄褐色	多くを剥落するが隆線による渦巻状突起を配し、区画文を接続する。側線は沈線でLRを充填する。内面磨滅	中期後葉
第353図 PL.158	30	深鉢	口縁部破片	62-E 6	細:石英/良好/灰褐色	1条の口縁部沈線を設け、以下2条の沈線による横位連弧状意匠が配される。縄文は横位LR充填施文。内面弱い研磨	中期後葉
第353図 PL.158	31 32	深鉢	体部破片2 点	62-I 3	細:石英・輝石/良好/灰褐色	体部上半。横位隆線2条間を円形刺突文が施される。以下沈線による弧状意匠が配される。縄文は縦位RL。内面研磨	中期後葉
第354図 PL.158	33	深鉢	口縁～体部 上半破片	62-G 6	粗:石英・輝石/良好/明褐色	隆線による口縁部楕円状区画文構成。区画文下端は側線沈線が画す。体部は垂下沈線2条による懸垂文構成。区画内及び施文部は縦位波状密接条線。内面弱い研磨	中期後葉
第354図 PL.158	34	深鉢	口縁～体部 上半破片	62-K 4	細:石英・輝石・雲母/良好/にぶい黄褐色	波状突起。口縁部は隆線による楕円状区画文構成。区画内は沈線を側線とし横位RLを充填する。体部は2条の沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は縦位RL。	中期後葉
第354図 PL.158	35	壺	体部破片	62-F 7	粗:石英/良好/明褐色	体部上半に設けられた大型橋状把手。正面に凹線による縦位S字状意匠を配す。2条の弧状沈線も施される。区画文か。内面横位撫で調整	中期後葉
第354図 PL.158	36	壺	口縁部～体部 上半破片	62-F 6	粗:石英/良好/灰黄褐色	広く外反する無文の口縁部。体部上半に横位隆線を設け大型の橋状把手を付す。体部は隆線による懸垂文と蕨手状意匠が配される。側線は凹線で縦位RLを充填する。内面弱い研磨。少量の煤付着	中期後葉
第354図 PL.158	37	鉢	頸部～体部 破片	62-K 4	細:石英・片岩/良好/にぶい黄褐色	頸部外反し、体部は強く内湾する。頸部に横位隆線2条を設け、橋状把手を付す。体部は幅広の沈線による描出で大柄の弧線文や渦巻文、楕円文を配す。器厚薄手。内外面研磨。外器面剥落多い	中期後葉
第354図 PL.158	38	壺	口縁～体部 上半破片	62-J 4・5・K 5	細:石英・雲母/良好/橙色	口縁部は直立し、体部は強く張る。頸部屈曲部下に横位隆線2条を設け小型の橋状把手を付す。体部は低位隆線による環状・渦巻状意匠が配される。内外面とも研磨を施す。赤彩痕は明瞭ではない	中期後葉
第354図 PL.158	39	壺	頸部破片	62-G 6	細:石英・輝石/良好/にぶい黄褐色	頸部外反し体部上半に横位隆線2条を設け小型の橋状把手を付す。体部は沈線による弧状意匠を配す。内面研磨	中期後葉
第354図 PL.159	40	深鉢	口頸部破片	62-D 5	細:石英・輝石/良好/にぶい橙色	隆線による口縁部区画文と渦巻文。側線は凹線。縄文は口縁部は横位、体部は縦位RL充填施文。丁寧な施文。内面弱い横位研磨	中期後葉
第354図 PL.159	41	深鉢	口頸部破片	62-E 6	粗:石英・輝石/やや軟/橙色	頸部屈曲。口縁部は隆線による区画文構成。区画内は沈線を側線とし、縦位探知戦を充填する。頸部隆線には円形刺突文が重なる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第354図 PL.159	42	深鉢	口頸部～体部 上半破片	62-D 6	粗:石英・輝石/良好/橙色	太い隆線による口縁部区画文下端。区画内側線は凹線、横位RLを充填する。体部は垂下沈線2条に画された幅狭の磨消部懸垂文構成。施文部は縦位RL充填施文。内面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第354図 PL.159	43	深鉢	体部破片	62-H 3	粗:石英・輝石/良好/浅黄褐色	2条の垂下沈線で画された幅広の磨消部による懸垂文構成。施文部縄文は縦位LR充填施文。磨消部は縦位研磨を加える	中期後葉
第354図 PL.159	44	深鉢	体部破片	62-H 3	粗:石英・輝石/良好/褐色	垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。施文部縄文は斜位RL充填施文	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第354図 PL.159	45	深鉢	体部破片	62-D 4・6	粗:石英・雲母/良好/暗赤褐色	隆線による分岐懸垂文か。側線は撫で。縦位密接条線を充填施文する。内面平滑な撫で	中期後葉
第355図 PL.159	46	深鉢	体部破片	62区	細:石英・輝石/良好/褐色	ジョッキ形か。内傾する体部上半。頸部とは段をもって画し、体部は沈線で画された施文部逆U字状意匠が配される。縦位RLを充填施文する。磨消部及び内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第355図 PL.159	47	深鉢	体部破片	62区	細:石英・輝石/良好/灰褐色	ジョッキ形か。内傾する体部上半に橋状把手を付す。沈線で画された施文部縄文はRL縦位充填施文。内面研磨	中期後葉
第355図 PL.159	48	深鉢	口縁部破片	62-G 6	粗:石英/良好/明赤褐色	高い隆線による渦巻文と不整形区画文が配される。区画内側線は沈線及び撫で、RLを施し、縦位沈線2条を重ねる。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第355図 PL.159	49	深鉢	体部破片	62-D 5	粗:石英/良好/にぶい黄褐色	隆線による小渦巻文を中核にして斜位隆線2条が派生する。側線沈線が接続し小区画文を画す。区画内はLRを充填する。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第355図 PL.159	50	深鉢	口縁～体部 1/4残存	62-I 5	粗:石英・輝石・雲母/良好/褐色	口縁部内湾し沈線と密接条線による斜格子文を配す。頸部屈曲部に横位沈線を設け、体部はコイル状突起より隆線が懸垂すると思われる。交互回転による蛇行沈線文を施す。内面平滑な撫で調整	中期後葉
第355図 PL.159	51	深鉢	体部破片	62-E 7	細:石英/良好/暗褐色	沈線に画された磨消部縦位弧状意匠。あるいは渦巻文か。櫛歯状工具による刺突文を充填する。内面横位研磨	中期後葉
第355図 PL.159	52	浅鉢	頸部破片	62-I 5	粗:石英/やや軟/黄褐色	強く屈曲する頸部。刻みを付す隆線を設け、隆線による渦巻文を付す。渦巻文より斜位隆線2条が派生する。器面磨滅	中期後葉
第355図 PL.159	53	深鉢	口縁部破片	62-H 6	粗:石英・輝石/良好/にぶい褐色	直立気味の無文口縁部下に横位隆線を設け、斜位弧状隆線が派生する。側線は沈線で縦位短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第355図 PL.159	54	深鉢	口縁部破片	62-I 3	細:輝石/良好/橙色	幅狭の無文口縁部。体部は渦巻状小突起より2条隆線が垂下する。口縁部下に弧状沈線数条を配し刺突文が沿う。内面平滑な撫で	中期後葉
第355図 PL.159	55	浅鉢	頸部破片	62-I 5	細:輝石/良好/にぶい黄褐色	口縁部は外反し頸部強く屈曲する。隆線で画された幅狭の櫛円状区画を配す文様帯。区画内は沈線を側線とし斜位短沈線や横位沈線を充填する。内面平滑な撫で	中期後葉
第355図 PL.159	56	深鉢	口縁部破片	62-G 6	細:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	口縁部は隆線で画された幅狭の区画文構成。区画接点より垂下隆線が派生する。区画内及び体部は短沈線を施文する。内面弱い研磨	中期後葉
第355図 PL.159	57	深鉢	口縁部破片	62-G 5	粗:石英・輝石/良好/灰褐色	口縁部横位沈線を設け以下弧状沈線と敵手状沈線を配す。刺突文を充填する	中期後葉
第355図 PL.159	58	深鉢	口縁部破片	62-D 4	粗:石英・輝石・雲母/良好/褐色	3条の垂下隆線による上端渦巻文の懸垂文。口縁部隆線も対応する。側線は円形刺突文を施す。内面平滑な撫で	中期後葉
第355図 PL.159	59	深鉢	体部破片	62-L 4	細:石英・雲母/良好/灰褐色	体部上半。横位隆線以下垂下隆線による懸垂文構成。弧状隆線も配される。側線は沈線で縦位短沈線や横位波状文が施される。内面平滑な撫で	中期後葉
第355図 PL.159	60	深鉢	体部破片	62-I 6	粗:石英・輝石/良好/にぶい赤褐色	体部上半。横位隆線で画される幅狭の文様帯。振りを加えた隆線を縦位に付し横位矢羽状短沈線を充填する。内面撫で	中期後葉
第355図 PL.159	61	深鉢	体部破片	62-G 4	粗:石英・輝石/やや軟/にぶい黄褐色	2条隆線による渦巻状意匠を配し、縦位隆線が派生する。側線は沈線で斜位短沈線を充填する。器面磨滅	中期後葉
第355図 PL.159	62	深鉢	口縁部1/5 残存	62-F 7	細:石英・輝石・雲母/良好/にぶい黄褐色	口:(31.0)。大型の深鉢。幅広の無文口縁部が外傾し、頸部は屈曲する。外面は弱い研磨、内面は丁寧な研磨を施す	中期後葉
第355図 PL.159	63	壺か	口縁部破片	62-D 4	粗:石英・輝石/良好/明褐色	広く外反する無文の口縁部。体部境に横位隆線を設け、剥落するが突起・把手を付す。内外面とも弱い研磨	中期後葉
第355図 PL.159	64	深鉢	口縁部破片	62-D 5	細:石英/良好/明黄褐色	広く外反する無文の口縁部。外面は縦位、内面は弱い横位研磨を施す	中期後葉
第355図 PL.160	65	深鉢	口縁部破片	62-D 5	粗:石英/やや軟/明黄褐色	広く外反する無文の口縁部。内外面とも器面磨滅	中期後葉
第356図 PL.160	66	浅鉢	口縁部破片	62-C 9	細:石英・輝石/良好/橙色	直線的に強く開く口縁～体部。内外面とも丁寧な研磨を施し、赤彩痕を見る	中期後葉
第356図 PL.160	67	深鉢	底部2/3残 存	62-H 5	細:石英・輝石/良好/橙色	底:4.4。垂下沈線2条の下端を見る。懸垂文構成。縄文は縦位RL。底面及び内面丁寧な研磨を施す	中期後葉
第356図 PL.160	68	深鉢	底部残存	62-G 6	粗:石英・雲母/良好/にぶい赤褐色	底:3.8。小型の深鉢。内湾気味に開く体部下半。垂下沈線による懸垂文構成。内面研磨。煤付着	中期後葉
第356図 PL.160	69	深鉢	底部2/3残 存	62-A 7	粗:石英・輝石/良好/橙色	底:7.5。体部下半は内湾気味に開く。外器面は無文で器面磨滅。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
第356図 PL.160	70	深鉢	体部下半～ 底部残存	62-F 7	粗:石英・輝石/良好/橙色	外反気味に開く体部下半。無文で内外面とも撫で調整	中期後葉
第356図 PL.160	71	深鉢	底部1/2残 存	62-F 6	粗:石英・輝石/良好/明褐色	底:12.0。大型深鉢。無文で器面磨滅。内外面撫で調整	中期後葉
第356図 PL.160	72	深鉢	底部1/3残 存	62-A 4	細:石英・輝石/良好/褐色	底:(12.0)。大型深鉢。直立気味に開く体部下半。無文で内外面とも平滑な撫で調整を施す	中期後葉
第356図 PL.160	73	台付深鉢	脚部破片	62-H 3	粗:石英・輝石/良好/明褐色	底:6.0×5.4。短脚でおそらく小型深鉢か。隆線による分岐懸垂文を2単位配す。内面撫でも弱い	中期後葉か

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
第356図 PL.160	74	深鉢	体部下半～ 底部1/3残	62-L 4	粗:石英・輝石・雲母/ 良好/橙色	底:(10.0)。2条の垂下沈線による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を充填する。内面横位撫で。外器面やや磨滅する	中期後葉
第356図 PL.160	75	深鉢	口縁部破片	62-H 4	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	波状縁波頂部。小突起を付し口縁部隆線を派生する。側線は沈線及び撫で。体部は斜位LRを施す。内面撫で	中期末葉
第356図 PL.160	76	深鉢	体部破片	62-F 6	細:石英/良好/橙色	体部下半。垂下する細沈線による施文部と磨消部の懸垂文構成。縦位LR充填施文。内面は撫で調整	中期末葉
第356図 PL.160	77	土製円盤	完形	62-I 3	粗:輝石/良好/にぶ い黄褐色	径:2.9×3.1、厚:1.1cm、重:7.0g。内湾する体部破片を利用。加曽利EⅡ式か。周縁を丁寧に磨滅する。LRを施す	中期後葉
第356図 PL.160	78	深鉢	口縁部突起	62-C 4	粗:輝石/良好/暗褐 色	口縁部上の環状突起。中位に孔を設ける。体部は細隆線による弧状意匠を配し、突起裏面は円形貼付文を付す。内面は弱い研磨	後期初頭
第356図 PL.160.	79	深鉢	把手片	62-D 4	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	口縁部上を跨ぐ大型把手。捻転状突起を接続すると思われる。側面に円形刺突を単独で施す。研磨を加える	後期初頭
第356図 PL.160	80	深鉢	体部破片	62-F 6	粗:石英・やや軟/明 黄褐色	沈線に画された磨消部弧状意匠。逆U字状意匠か。無節L充填施文。外器面磨滅。内面平滑な撫で、煤付着	後期初頭
第356図 PL.160	81	深鉢	体部破片	62-E 7	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	浅い細沈線に画された磨消部と施文部の弧状意匠。渦巻意匠か。施文部縄文はLR充填施文。内面横位撫で	後期初頭
第356図 PL.160	82	鉢か	体部破片	62-D 5	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	内湾する体部中位。2条沈線で弧状意匠が配される。LRを充填する。内外面研磨	後期初頭
第356図 PL.160	83	深鉢	口縁部破片	62-D 4	細:石英/良好/にぶ い黄褐色	半円状突起を付す。突起上端に弧状沈線を施し、両下端に円文を配す。内面平滑な撫で調整	後期前葉
第356図 PL.160	84	深鉢	体部破片	62-C 7	粗:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	内湾する体部。垂下沈線2条による懸垂文構成。無節L縦位充填施文。内面横位撫で調整	後期前葉
第356図 PL.160	85	深鉢	体部破片	62-F 7	細:石英・輝石/良好/ 灰黄褐色	沈線による大柄の渦巻意匠や弧状意匠。下端より懸垂文が派生する。内面縦位研磨	後期前葉
第356図 PL.160	86	深鉢	体部破片	62-D 5	粗:石英・輝石/やや 軟/明赤褐色	体部下半。無文で内外面撫で調整	中期後葉
第356図 PL.160	87	深鉢	口縁部破片	62-C 6	細:石英・輝石/良好/ にぶい褐色	口唇部欠損。細沈線で画された縄文施文部による幾何学文構成。LRを充填する。磨消部及び内面は弱い研磨	後期前葉
第356図 PL.160	88	深鉢	口縁部破片	62-H 6	細:石英/良好/暗褐 色	口唇部内屈し、内面に内稜・横位沈線群を設ける。外面は横位沈線を多段に配し、LRを重ねる。内面研磨	後期中葉
第356図 PL.160	89	深鉢	口縁部破片	62-B 6	細:石英・輝石/良好/ にぶい黄褐色	口縁部内屈し、内屈部に横位沈線を設け刻みを充填する。内面平滑な撫で	後期中葉
第356図 PL.160	90	深鉢	体部破片	62-D 3	細:石英・片岩/良好/ 褐色	斜位沈線を乱雑に斜格子状に施す。内面も削り調整に止まる	後期中葉
第356図 PL.160	91	深鉢	口縁部破片	62区	粗:石英/やや軟/に ぶい黄褐色	口縁部は短く横位隆線を設ける。内外面磨滅	後期か
第357図 PL.160	92	石匙	完形	62-D 5	黒曜石	長:2.4、幅:(1.1)、厚:0.3、重:0.5。小型の石匙。あるいは左右非対称の小型の石槍か。丁寧に押圧剥離に覆われる。完成状態	
第357図 PL.160	93	石錐	完形	62-D 6	黒曜石	長:2.1、幅:0.9、厚:0.5、重:0.6。断面三角形の体部裏面及び先端部に丁寧に押圧剥離を施し、尖状の先端部を作出する。使用痕は見られない	
第357図 PL.160	94	石錐	完形	62-H 5	黒曜石	長:2.3、幅:0.6、厚:0.2、重:0.5。細身の体部で摘みを有さない。完成状態。周縁及び先端を極めて精緻な押圧剥離で覆う。使用痕は見られない	
第357図 PL.160	95	石錐	基部欠損	62-G 4	黒曜石	長:3.8、幅:1.2、厚:0.5、重:2.7。横長剥片を素材とする。表面に礫面を残す。体部から先端部は交互の押圧剥離で作出される	
第357図 PL.160	96	スクレイパー	完形	62-G 6	黒曜石	長:2.8、幅:2.2、厚:0.8、重:3.9。縦長剥片を素材とする。表面の周縁を丁寧に押圧剥離が施され刃部とする。裏面には素材面が残る	
第357図 PL.160	97	鉤状石器	基部欠損	62-B 7	黒曜石	長:(2.8)、幅:2.5、厚:1.0、重:4.7。嘴状あるいは釣り針状の形態。厚手の印象が強く全体に丁寧に押圧剥離に覆われる。特に内湾部は入念な調整を加える	
第357図 PL.160	98	石核	完形	62-F 5	黒曜石	長:2.6、幅:4.3、厚:1.9、重:12.6。細かな不定方向の打面を移転する剥片剥離。石材は緻密	
第357図 PL.160	99	原石	完形	62-B 4	黒曜石	長:4.5、幅:3.2、厚:1.7、重:20.0。角礫・漆黒。不定方向の打面による剥片剥離。緻密な石材	
第357図 PL.160	100	磨製石斧	下半欠損	62-B 7	変玄武岩	長:14.1、幅:6.2、厚:6.4、重:666.6。乳棒状を呈す。下半部は刃部欠損に伴う切断か。基部に細かな敲打痕が集中し煤が付着する	
PL.160	101	石鏃	完形	62-B 7	黒色頁岩	長:2.5、幅:1.9、厚:0.6、重:3.0。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧に押圧剥離で木葉状の体部を作出する。抉り部も丁寧に仕上げる	
PL.160	102	石鏃	先端部欠損	62-B 6	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.7、厚:0.3、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧に押圧剥離を施し薄手に仕上げる	
PL.160	103	石鏃	下半欠損	62-B 7	黒曜石	長:(1.9)、幅:(0.9)、厚:0.3、重:0.4。完成状態。細身の体部。丁寧に押圧剥離に覆われる	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.160	104	石鏃	左側半欠損	62-C 4	黒曜石	長:1.1、幅:(0.7)、厚:0.3、重:0.2。小型の平基無茎鏃。丁寧な押圧剥離で作出される	
PL.160	105	石鏃	完形	62-C 5	黒色安山岩	長:1.5、幅:1.4、厚:0.45、重:0.8。凹基無茎鏃。中央部がやや厚手。押圧剥離が全体を覆い側縁は鋸歯状となる	
PL.160	106	石鏃	先端部・片脚先端部欠損	62-C 7	黒曜石	長:(1.6)、幅:(1.3)、厚:0.45、重:0.9。平基無茎鏃。完成状態。中央部がやや厚手ながらも押圧剥離に覆われた丁寧な作り	
PL.160	107	石鏃	完形	62-C 7	チャート	長:1.2、幅:0.9、厚:0.2、重:0.2。小型の凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離で極めて薄手に作出される。挟り部が入念に調整される	
PL.160	108	石鏃	先端部欠損	62-D 5	黒曜石	長:(1.3)、幅:1.3、厚:0.35、重:0.6。小型の凹基無茎鏃。完成状態。比較的粗い押圧剥離で作出される	
PL.160	109	石鏃	上半欠損	62-D 5	黒曜石	長:(1.3)、幅:1.6、厚:0.25、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離で覆われ薄手に作出される。挟り部の調整も入念	
PL.160	110	石鏃	脚部欠損	62-D 5	黒曜石	長:(1.8)、幅:(1.5)、厚:0.4、重:1.2。平基無茎鏃。あるいは未製品か。表面は押圧剥離を施すが裏面は素材面が広く残り、製作途中段階とも思われる	
PL.160	111	石鏃	完形	62-E 4	黒曜石	長:1.9、幅:1.4、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離による作出。挟り部も入念である	
PL.160	112	石鏃	完形	62-E 6	黒曜石	長:1.9、幅:(1.4)、厚:0.45、重:1.1。平基無茎鏃。あるいは未製品か。押圧剥離を施すが表面に礫面、裏面に素材面を残す	
PL.160	113	石鏃	先端部・脚部欠損	62-E 6	黒曜石	長:(1.5)、幅:(1.1)、厚:0.3、重:0.3。細身の体部か。丁寧な押圧剥離に覆われた薄手の完成品	
PL.160	114	石鏃	ほぼ完形	62-F 4	黒曜石	長:1.3、幅:1.1、厚:0.3、重:0.5。小型の凹基無茎鏃。完成状態。粗い押圧剥離による作出	
PL.160	115	石鏃	破片	62-F 4	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.7)、厚:0.35、重:(1.4)。体部のみの残存。押圧剥離が施され薄手に仕上げる。完成状態	
PL.161	116	石鏃	上半欠損	62-G 4	黒曜石	長:(1.1)、幅:1.6、厚:0.2、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離を施し、薄手に仕上げている	
PL.161	117	石鏃	先端部欠損	62-G 4	黒曜石	長:(1.3)、幅:1.0、厚:0.35、重:0.5。小型の凹基無茎鏃。やや細身の平面形態で非対称。押圧剥離による作出で裏面はやや粗い調整	
PL.161	118	石鏃	破片	62-G 4	黒曜石	長:(1.1)、幅:(1.2)、厚:0.2、重:0.2。おそらく、片脚部のみの残存。押圧剥離に覆われた完成品。薄手	
PL.161	119	石鏃	左半欠損	62-G 4	黒曜石	長:(1.5)、幅:(0.7)、厚:0.25、重:0.3。おそらく平基無茎鏃。完成状態か。やや粗い押圧剥離の作出	
PL.161	120	石鏃	片脚欠損	62-G 5	黒曜石	長:2.2、幅:(1.1)、厚:0.4、重:0.9。凹基無茎鏃。完成状態。細身の体部で丁寧な押圧剥離で紡錘状の断面形を作出する	
PL.161	121	石鏃	上半欠損	62-H 3	黒曜石	長:(1.3)、幅:1.3、厚:0.3、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。やや粗い押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げる	
PL.161	122	石鏃	先端部・右脚部欠損	62-H 3	黒曜石	長:(2.3)、幅:(1.7)、厚:0.3、重:0.9。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げる	
PL.161	123	石鏃	左脚部欠損	62-H 4	黒曜石	長:1.6、幅:(1.3)、厚:0.3、重:0.6。平基無茎鏃。完成状態。押圧剥離による作出。器面は風化する	
PL.161	124	石鏃	ほぼ完形	62-H 4	黒曜石	長:1.3、幅:1.5、厚:0.3、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離による整形。先端部欠損後に再調整を加えている	
PL.161	125	石鏃	先端部・右脚部欠損	62-H 4	黒曜石	長:(2.0)、幅:(1.1)、厚:0.4、重:0.6。平基無茎鏃。完成状態。中央部に厚みを残すが押圧剥離が全体を覆う	
PL.161	126	石鏃	右脚部欠損	62-H 5	黒曜石	長:1.8、幅:(1.4)、厚:0.3、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離で全体を覆う	
PL.161	127	石鏃	破片	62-I 3	黒曜石	長:(2.2)、幅:(1.0)、厚:0.25、重:0.3。先端部のみの残存。完成状態。押圧剥離による薄手の作出	
PL.161	128	石鏃	下半欠損	62-I 3	黒曜石	長:(1.5)、幅:(1.3)、厚:0.35、重:0.5。完成状態か。押圧剥離による作出	
PL.161	129	石鏃	体部のみ残存	62-I 4	黒曜石	長:(0.9)、幅:(1.2)、厚:0.3、重:0.4。完成状態か。丁寧な押圧剥離による作出	
PL.161	130	石鏃	上半欠損	62-I 5	黒曜石	長:(1.8)、幅:1.8、厚:0.35、重:1.4。やや大型の平基無茎鏃。粗い押圧剥離で薄手に作出している	
PL.161	131	石鏃	脚部欠損	62-J 3	黒色頁岩	長:(2.2)、幅:(1.6)、厚:0.45、重:1.2。凹基無茎鏃。完成状態。中央部の厚みはややあるが丁寧な押圧剥離で全体を覆う	
PL.161	132	石鏃	破片	62-J 3	黒曜石	長:(1.6)、幅:(1.4)、厚:(0.25)、重:0.5。おそらく先端部破片。完成状態か。押圧剥離で薄く仕上げる	
PL.161	133	石鏃	完形	62-J 4	黒曜石	長:1.6、幅:1.5、厚:0.3、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。先端部平面形状が非対称ながら、丁寧な押圧剥離で全体を覆い、薄手に仕上げる	

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.161	134	石鏃	左脚部欠損	62-J 4	黒曜石	長:1.6、幅:(1.2)、厚:0.35、重:0.4。凹基無茎鏃。完成状態。やや粗い押圧剥離で作出する	
PL.161	135	石鏃	脚部欠損	62-J 5	黒曜石	長:(1.7)、幅:(1.5)、厚:0.2、重:0.5。平基無茎鏃か。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げる	
PL.161	136	石鏃	先端部・右 脚部欠損	62-K 4	黒曜石	長:(1.5)、幅:(1.4)、厚:0.25、重:0.5。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆う	
PL.161	137	石鏃	ほぼ完形	62-K 4	黒曜石	長:2.0、幅:1.6、厚:0.5、重:1.0。凸基無茎鏃。完成状態。素材の厚みを基部にし、押圧剥離が覆う	
PL.161	138	石鏃	先端部欠損	62-K 4	黒曜石	長:(1.5)、幅:1.8、厚:0.3、重:0.9。平基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆い中央の厚みも除去する	
PL.161	139	石鏃	右脚部欠損	62-K 4	黒曜石	長:2.1、幅:(1.1)、厚:0.35、重:0.6。凹基無茎鏃。完成状態。やや細身の体部。丁寧な押圧剥離による作出	
PL.161	140	石鏃	先端部破片	62-K 4	黒曜石	長:(0.7)、幅:(0.5)、厚:(0.2)、重:0.1。小破片。押圧剥離を見る	
PL.161	141	石鏃	体部のみ残 存	62-K 4	黒曜石	長:(1.4)、幅:(1.5)、厚:0.25、重:0.8。脚部、先端部欠損。完成状態。押圧剥離により薄手に仕上げている	
PL.161	142	石鏃	左側縁欠損	62-L 4	黒曜石	長:2.1、幅:(1.7)、厚:0.65、重:2.1。あるいは未製品か。押圧剥離による凹基無茎鏃を意図しているが中央は厚手に残る	
PL.161	143	石鏃	左脚欠損	62-L 4	黒曜石	長:(2.0)、幅:(1.7)、厚:0.3、重:0.8。凹基無茎鏃。完成状態。押圧剥離が全体を覆い薄手に仕上げている	
PL.161	144	石鏃	ほぼ完形	表土	黒曜石	長:1.5、幅:1.4、厚:0.35、重:0.7。凹基無茎鏃。完成状態。丁寧な押圧剥離が全体を覆う。側縁が入念である	
PL.161	145	石鏃か	一部欠損	62-F 5	黒曜石	長:1.0、幅:(2.2)、厚:0.35、重:0.6。あるいは石匙か。完成状態。丁寧な押圧剥離で薄手に仕上げられ、縁辺は鋸歯状となる	
PL.161	146	石鏃未製 品	先端部欠損	62-G 4	黒曜石	長:(2.0)、幅:1.6、厚:0.55、重:1.9。押圧剥離により両側縁の作出に着手した段階。表面に礫面が残る	
PL.161	147	石鏃	両端部欠損	62-B 6	黒曜石	長:(1.7)、幅:0.7、厚:0.4、重:0.5。細身の棒状素材周縁より細かな押圧剥離を加える。使用痕は見られない	
PL.161	148	石鏃	上端欠損	62-D 6	黒曜石	長:(1.6)、幅:0.6、厚:0.5、重:0.7。断面三角形の体部両側縁に押圧剥離を施し先端部を作出する。完成状態。使用痕は見られない	
PL.161	149	石鏃	上端欠損	62-D 6	黒曜石	長:(1.5)、幅:0.6、厚:0.4、重:0.4。断面三角形の体部裏面の両側縁に丁寧な押圧剥離を施す。完成状態。使用痕は見られない	
PL.161	150	石鏃	先端部欠損	62-F 4	黒色頁岩	長:(2.5)、幅:2.6、厚:0.75、重:(3.4)。断面紡錘状の体部を丁寧な剥離が覆う。摘み部縁辺にも剥離が及ぶ。完成状態	
PL.161	151	石鏃	ほぼ完形	62-G 4	黒曜石	長:2.1、幅:1.7、厚:0.35、重:1.3。薄手の素材で表裏面に礫面を残す。体部は短く摘み部縁辺と押圧剥離が施される。使用痕は見られない。完成状態	
PL.161	152	石鏃	完形	62-H 4	黒曜石	長:3.6、幅:1.6、厚:0.5、重:2.9。不定型な縦長剥片下半部を石鏃様の体部として押圧剥離を加える。摘み部は無調整。使用痕は見られない	
PL.161	153	石鏃	破片	62-I 5	黒曜石	長:(1.7)、幅:0.7、厚:0.45、重:0.8。体部破片。断面紡錘状の体部で丁寧な押圧剥離が覆う	
PL.161	154	石鏃	上部欠損	62-K 4	黒曜石	長:(2.0)、幅:(0.8)、厚:0.3、重:0.5。完成状態か。体部部は断面三角形を呈し、片面のみの押圧剥離を主とした体部～先端部の調整。使用痕は見られない	
PL.161	155	石鏃	上部欠損	62-K 4	チャート	長:(2.2)、幅:(0.8)、厚:0.6、重:1.2。完成状態。断面紡錘状の体部周縁を押圧剥離で覆う。先端部使用痕は見られない	
PL.161	156	打製石斧	破片	62-A 5	黒色頁岩	長:(5.0)、幅:4.3、厚:1.5、重:43.8。上半部側縁のみの残存。おそらく短冊形	
PL.161	157	打製石斧	刃部のみ残	62-A 6	細粒輝石安山岩	長:(5.5)、幅:6.6、厚:2.4、重:129.8。短冊形か。完成状態。粗い剥離による側縁・刃部の作出。刃部には使用による磨滅痕が見られる	
PL.161	158	打製石斧	下欠損	62-B 5	細粒輝石安山岩	長:(7.6)、幅:4.3、厚:1.4、重:58.7。短冊形。完成状態。粗い剥離により直線的な側縁を仕上げる	
PL.161	159	打製石斧	体部残存	62-B 7	黒色頁岩	長:6.2、幅:4.4、厚:1.3、重:51.1。短冊形。完成状態。粗い剥離により直線的な側縁を仕上げる。器面風化	
PL.161	160	打製石斧	体部残存	62-C 4	細粒輝石安山岩	長:(6.4)、幅:5.3、厚:2.4、重:139.8。短冊形か。完成状態。厚手で粗い剥離により両側縁を作出する	
PL.161	161	打製石斧	完形	62-C 4	黒色頁岩	長:9.9、幅:4.5、厚:1.1、重:59.2。短冊形。完成状態。中央下位に括れを僅かに設け、刃部に広がりを持たせる。使用による磨滅痕が刃部表面に見られる	
PL.161	162	打製石斧	完形	62-C 5	細粒輝石安山岩	長:11.7、幅:5.0、厚:2.2、重:129.2。短冊形。完成状態。粗い剥離による側縁の作出。刃部に最大幅を持たせる。使用による磨滅痕を刃部表面に見る	

遺物観察表

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.161	163	打製石斧	上半欠損	62-C 6	細粒輝石安山岩	長:5.8、幅:4.8、厚:1.1、重:35.6。短冊形。完成状態。粗い剥離により外反気味の側縁と幅広の刃部を作出する	
PL.161	164	打製石斧	完形	62-D 6	細粒輝石安山岩	長:11.9、幅:5.9、厚:2.0、重:180.1。短冊形。完成状態。粗い剥離により直線的な側縁をと凸刃を作出する	
PL.161	165	打製石斧	下半欠損	62-D 6	黒色頁岩	長:(8.3)、幅:5.7、厚:2.5、重:143.7。あるいは分銅形か。体部中央は厚手で、強い加撃による剥離調整を側縁に加える	
PL.161	166	打製石斧	ほぼ完形	62-D 7	変質安山岩	長:9.0、幅:6.0、厚:1.7、重:120.2。撥型。完成状態。直線的な側縁と最大幅の刃部。使用痕は見られない	
PL.161	167	打製石斧	完形	62-E 6	変質安山岩	長:10.2、幅:5.8、厚:1.9、重:146.7。短冊形。完成状態。粗い剥離による直線的な側縁と厚手の刃部の作出。刃部と右側縁には使用による磨滅痕が見られる	
PL.161	168	打製石斧	上半欠損	62-F 6	変質安山岩	長:7.6、幅:5.8、厚:2.3、重:132.9。短冊形。完成状態。粗い剥離により直線的な側縁と凸状の刃部を作出する。刃部には使用による磨滅痕を見る	
PL.161	169	打製石斧	上端欠損	62-F 6	粗粒輝石安山岩	長:(9.5)、幅:4.7、厚:1.3、重:58.7。短冊形。完成状態。粗い剥離により側縁と刃部を作出する。使用痕は見られない	
PL.161	170	打製石斧	上半欠損	62-F 6	細粒輝石安山岩	長:(7.3)、幅:5.5、厚:1.8、重:109.6。短冊形。完成状態。粗い剥離により下半に弱い括れを設ける。刃部には使用による磨滅痕が顕著に見られる	
PL.161	171	打製石斧	完形	62-F 7	黒色頁岩	長:9.0、幅:4.9、厚:1.9、重:99.1。短冊形。完成状態。比較的細かな剥離で両側縁と幅広刃部を作出する。使用痕は表面に顕著で磨滅痕が広がる	
PL.161	172	打製石斧	上半欠損	62-H 3	黒色頁岩	長:(7.1)、幅:5.2、厚:2.1、重:110.5。短冊形。完成状態。比較的細かい剥離による側縁と刃部の作出。刃部に最大幅を持たせ僅かな使用痕を見る	
PL.161	173	打製石斧	完形	62-I 3	黒色頁岩	長:11.0、幅:3.7、厚:1.5、重:76.6。短冊形。完成状態。細身で粗い剥離で整形される。刃部は凸刃で体部中央にかけて使用による磨滅痕が広がる	
PL.161	174	打製石斧	完形	62-I 4	細粒輝石安山岩	長:11.2、幅:4.7、厚:1.4、重:82.9。短冊形。完成状態。細身で粗い剥離で外反気味の側縁を作出する。刃部は幅広で明瞭な使用磨滅痕が見られる	
PL.161	175	打製石斧	上半欠損	62-I 5	細粒輝石安山岩	長:(7.7)、幅:4.9、厚:1.2、重:64.6。短冊形。完成状態。粗い剥離による側縁と刃部の作出。刃部に最大幅を持たせる。使用磨滅痕も明瞭に見られる	
PL.161	176	打製石斧	完形	表土	変質安山岩	長:11.0、幅:5.4、厚:2.7、重:207.1。短冊形。完成状態。粗い剥離による整形か。器面風化のため判然としない	
PL.161	177	スクレイパー	完形	62-C 4	黒色頁岩	長:7.3、幅:4.6、厚:0.9、重:29.0。薄手の縦長剥片を素材とする。両側縁に鋸歯状の細かな調整が施される	
PL.161	178	スクレイパー	完形	62-D 6	チャート	長:2.1、幅:1.4、厚:0.5、重:1.5。小型の横長剥片を素材とする。周縁及び中央部に丁寧な押圧剥離を施し木葉状の平面形に仕上げる	
PL.161	179	スクレイパー	破片	62-H 4	黒曜石	長:0.7、幅:(1.1)、厚:0.35、重:0.4。細身の石鏃体部破片か。押圧剥離による作出で薄手に仕上げる	
PL.161	180	スクレイパー	完形	62-I 4	黒曜石	長:1.6、幅:1.1、厚:0.6、重:1.2。小型の剥片端部に縦位方向の押圧剥離を施し刃部とする	
PL.161	181	スクレイパー	完形	62-I 4	黒曜石	長:1.6、幅:1.7、厚:0.5、重:1.4。小型の剥片基部に押圧剥離を集め刃部としている	
PL.161	182	スクレイパー	上部欠損	62-I 4	黒曜石	長:(2.0)、幅:1.9、厚:0.5、重:1.8。小型の剥片下端部に押圧剥離を集め刃部としている	
PL.161	183	スクレイパー	完形	62-K 4	黒曜石	長:1.6、幅:2.3、厚:0.45、重:1.5。横長剥片基部に押圧剥離を集める。あるいは石鏃未製品か	
PL.161	184	スクレイパー	下半欠損	62-K 4	黒曜石	長:(1.0)、幅:(2.0)、厚:0.4、重:1.0。小型の剥片基部を押圧剥離で刃部とする	
PL.161	185	スクレイパー	完形	62-K 4	黒色頁岩	長:2.2、幅:3.4、厚:1.2、重:8.9。小型の横長剥片下端を刃部として、やや粗い剥離調整を施す	
PL.161	186	スクレイパー	上部欠損	62-K 5	黒曜石	長:(1.7)、幅:1.8、厚:0.4、重:1.4。小型の剥片周縁に丁寧な押圧剥離を施す。あるいは平基無茎鏃か	
PL.161	187	スクレイパー	上部欠損	62-L 4	黒曜石	長:(1.7)、幅:0.8、厚:0.35、重:0.5。小型の剥片周縁を押圧剥離で整える。素材面が残る石鏃などの未製品か	
PL.161	188	加工痕ある剥片	完形	62-G 3	黒色頁岩	長:5.5、幅:8.7、厚:2.7、重:188.4。大型で礫面を表面に大きく残す横長剥片。下端に剥離を加え刃部としている	
PL.161	189	加工痕ある剥片	完形	62-G 4	黒色頁岩	長:6.1、幅:3.7、厚:0.8、重:20.8。あるいは小型の打製石斧か。横長剥片を素材とし、両側縁及び下端部に加工を施す。使用痕も下端刃部に見られる	
PL.161	190	加工痕ある剥片	完形	62-A 5	黒曜石	長:1.5、幅:1.9、厚:0.5、重:1.4。小型の横長剥片下端部に微細剥離を加える	

挿図 PL.No	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.161	191	加工痕ある剥片	左側縁欠損	62-E 4	黒曜石	長:3.2、幅:1.7、厚:0.6、重:3.2。横長剥片を素材とし下部に僅かな調整を加え刃部としている	
PL.162	192	加工痕ある剥片	完形	62-E 6	黒曜石	長:2.0、幅:1.1、厚:0.35、重:0.9。横長剥片を素材。作出意図は不明ながら、裏面に押圧剥離が施される	
PL.162	193	加工痕ある剥片	完形	62-G 6	黒曜石	長:2.1、幅:1.4、厚:0.45、重:1.0。縦長剥片を素材とし、両側縁に微細剥離を連続する。あるいは粗製石鏃か	
PL.162	194	加工痕ある剥片	完形	62-G 6	黒曜石	長:3.1、幅:2.0、厚:0.6、重:3.1。縦長剥片を素材とし、両側縁に細かな剥離を施し刃部とする	
PL.162	195	加工痕ある剥片	完形	62-H 3	黒曜石	長:3.0、幅:2.3、厚:1.1、重:5.8。横長剥片を素材とし、基部から左側縁にかけて押圧剥離を施す。あるいは石鏃未製品か	
PL.162	196	加工痕ある剥片	完形	62-H 4	黒曜石	長:1.6、幅:2.5、厚:0.8、重:4.1。横長剥片の基部に押圧剥離を施す。あるいは石鏃未製品か	
PL.162	197	加工痕ある剥片	破片	62-H 5	黒曜石	長:(1.6)、幅:(1.4)、厚:0.5、重:1.1。石鏃未製品か。表裏面とも押圧剥離を施す	
PL.162	198	加工痕ある剥片	破片	62-H 5	黒曜石	長:(1.8)、幅:(1.5)、厚:0.8、重:1.6。不定形でやや厚手の剥片に押圧剥離を施す。石鏃未製品か	
PL.162	199	使用痕ある剥片	上半欠損	62-D 6	黒色頁岩	長:(4.2)、幅:4.2、厚:0.8、重:20.0。縦長剥片を素材とし、両側縁及び下部を刃部とする	
PL.162	200	使用痕ある剥片	完形	62-E 4	黒色頁岩	長:4.9、幅:4.0、厚:1.1、重:20.5。縦長剥片を素材とし、左側縁と下部に微細剥離を見る	
PL.162	201	使用痕ある剥片	完形	62-E 5	細粒輝石安山岩	長:5.9、幅:5.1、厚:1.9、重:57.1。横長剥片を素材とし、両側縁を刃部としている	
PL.162	202	使用痕ある剥片	完形	62-E 6	細粒輝石安山岩	長:8.5、幅:6.0、厚:2.5、重:140.8。表面に礫面を大きく残した縦長剥片を素材とする。右側縁を刃部とする	
PL.162	203	使用痕ある剥片	ほぼ完形	62-E 6	黒色頁岩	長:6.5、幅:3.9、厚:0.9、重:28.4。縦長剥片を素材とし、右側縁に微細剥離が連続する	
PL.162	204	使用痕ある剥片	完形	62-E 6	黒色頁岩	長:4.2、幅:5.7、厚:0.9、重:21.7。横長剥片を素材とし、両側縁及び下部を刃部としている	
PL.162	205	使用痕ある剥片	完形	62-D 4	黒曜石	長:2.9、幅:2.1、厚:0.35、重:2.8。縦長剥片を素材とし、両側縁に微細剥離を見る	
PL.162	206	使用痕ある剥片	完形	62-D 5	黒曜石	長:1.2、幅:2.2、厚:0.35、重:0.9。横長剥片を素材とし、右側縁と下部の刃部に微細剥離を見る	
PL.162	207	使用痕ある剥片	完形	62-D 5	黒曜石	長:2.1、幅:2.6、厚:0.5、重:2.5。横長剥片を素材とし、両側縁と下部に刃こぼれ状の使用痕を見る	
PL.162	208	使用痕ある剥片	完形	62-D 6	黒曜石	長:1.5、幅:1.2、厚:0.25、重:0.4。小型の横長剥片周縁に細かな剥離が巡る	
PL.162	209	使用痕ある剥片	完形	62-D 6	流紋岩	長:1.4、幅:1.8、厚:0.4、重:0.9。小型の横長剥片の側縁を刃部とし微細剥離が見られる	
PL.162	210	使用痕ある剥片	完形	62-E 5	黒曜石	長:3.5、幅:1.7、厚:0.5、重:2.6。不定型な縦長剥片を素材とし、両側縁と下部に微細剥離を見る	
PL.162	211	使用痕ある剥片	完形	62-F 6	黒曜石	長:1.6、幅:2.6、厚:0.75、重:2.7。小型の縦長剥片を素材とする。左側縁と下部を刃部とし微細剥離を施す	
PL.162	212	使用痕ある剥片	下半欠損	62-G 4	珪質頁岩	長:(4.0)、幅:2.3、厚:0.6、重:4.4。薄手の縦長剥片を素材とし、両側縁に微細剥離を残す	
PL.162	213	使用痕ある剥片	完形	62-G 6	黒曜石	長:3.0、幅:2.1、厚:0.6、重:3.4。縦長剥片を素材とし、両側縁に微細剥離が見られる	
PL.162	214	使用痕ある剥片	完形	62-I 3	黒曜石	長:2.7、幅:1.7、厚:0.4、重:1.6。縦長剥片を素材とし、外反する両側縁と下部に微細剥離を見る	
PL.162	215	使用痕ある剥片	完形	62-I 5	流紋岩	長:2.6、幅:2.4、厚:0.8、重:3.5。縦長剥片を素材とする。両側縁を刃部としており、微細な刃こぼれを見る	
PL.162	216	使用痕ある剥片	下半欠損	62-J 4	黒曜石	長:(1.4)、幅:1.6、厚:0.3、重:0.8。薄手の縦長剥片基部から側縁に微細剥離が集まる	
PL.162	217	使用痕ある剥片	完形	62-L 4	黒曜石	長:1.6、幅:1.3、厚:0.5、重:0.8。小型の剥片左側縁を刃部とし刃こぼれが見られる	
PL.162	218	使用痕ある剥片	完形	62-L 4	チャート	長:2.2、幅:1.8、厚:0.4、重:1.6。小型の剥片周縁を刃部として微細剥離や刃こぼれが見られる	
PL.162	219	磨製石斧	破片	62-E 7	変質蛇紋岩	長:(3.3)、幅:(1.7)、厚:1.3、重:7.9。定角式の刃部破片。丁寧な研磨により光沢を帯びる	
PL.162	220	磨石	完形	62-A 5	粗粒輝石安山岩	長:13.7、幅:8.6、厚:5.1、重:1021.6。不整楕円状の円礫。敲打痕は各面に散在するものの、平滑で光沢を持つ磨面が広がる	
PL.162	221	磨石	完形	62-C 4	ひん岩	長:13.8、幅:6.6、厚:5.6、重:773.1。不定形の亜角礫。裏面の平坦面に平滑な磨面を持つ	
PL.162	222	磨石	下半欠損	62-F 6	粗粒輝石安山岩	長:8.9、幅:7.0、厚:3.7、重:310.4。やや薄手の不整楕円状円礫。表裏面には敲打痕と磨面、端部には敲打痕を見る	
PL.162	223	磨石	完形	62-H 4	変質安山岩	長:15.1、幅:7.1、厚:4.0、重:664.4。不整棒状の亜円礫。表裏面に平滑な磨面を持つ	

遺物観察表

挿図 PL.No.	番号	器種	部位・残存	出土位置	胎土/焼成/色調 または石材	計測値・文様の特徴等	備考
PL.162	224	磨石	完形	62-H 4	粗粒輝石安山岩	長:14.3、幅:8.7、厚:4.0、重:773.1。やや扁平な不整楕円状を呈する円礫。表裏面に平滑な磨面と少量の敲打痕を持つ	
PL.162	225	磨石	完形	62-H 6	珪質頁岩	長:2.0、幅:1.7、厚:0.7、重:3.8。小型の円礫。全面光沢を持つ磨面で占められる。研磨具であろう	
PL.162	226	磨石	完形	62-D 4	粗粒輝石安山岩	長:13.7、幅:7.1、厚:3.7、重:538.4。大型で方形の円礫。若干多孔質。表裏両側面に面を持ち、各面に磨面を敲打痕を見る	
PL.162	227	砥石	破片	62-D 5	凝灰質砂岩	長:(3.8)、幅:(4.3)、厚:1.3、重:20.0。扁平で断面紡錘状の円礫。表裏面とも平滑な磨面が広がる	
PL.162	228	敲石	完形	62-F 6	粗粒輝石安山岩	長:13.1、幅:9.2、厚:6.8、重:1028.7。厚手の不整楕円状円礫。下端部・右側面に敲打痕を集める。表裏面は弱い磨面が広がる	
PL.162	229	敲石	完形	62-K 4	粗粒輝石安山岩	長:10.7、幅:7.0、厚:4.3、重:493.1。小型の楕円状円礫。表裏面及び上下端部に敲打痕が集まる	
PL.162	230	凹石	裏面一部欠損	62-C 4	粗粒輝石安山岩	長:14.1、幅:10.0、厚:3.5、重:629.8。扁平な楕円状円礫。裏面剥落。表面上位に敲打による凹みを見る。敲打痕は側縁・下端にも集まる	
PL.162	231	凹石	完形	62-C 4	粗粒輝石安山岩	長:12.0、幅:6.0、厚:3.8、重:390.2。不整楕円状の円礫。敲打の集中を表裏面2箇所に見る。表面は磨面を持つ	
PL.162	232	凹石	完形	62-D 6	粗粒輝石安山岩	長:12.9、幅:9.2、厚:5.6、重:1039.0。厚手の楕円状円礫。表面中央に敲打による凹みを持つ。裏面及び上下端部にも敲打痕が集まる。表裏面とも平滑な磨面を見る	
PL.162	233	多孔石	完形	62-H 5	粗粒輝石安山岩	長:17.0、幅:16.6、厚:11.8、重:3600.0。不定形で断面台形状の垂角礫。表裏面に断面円錐状の凹みを多数集める。側面の一部に磨面を広げる	

写真図版



1 調査区遠景 丸岩を臨む(東から)



2 遺跡全景(上61・62区 下51・52区)



1 61区1号住居跡全景(西から)



2 61区1号住居跡炉跡(北から)



3 61区1号住居跡遺物出土状態(南から)



4 61区1号住居跡遺物出土状態(西から)



5 61区2号住居跡全景(南から)



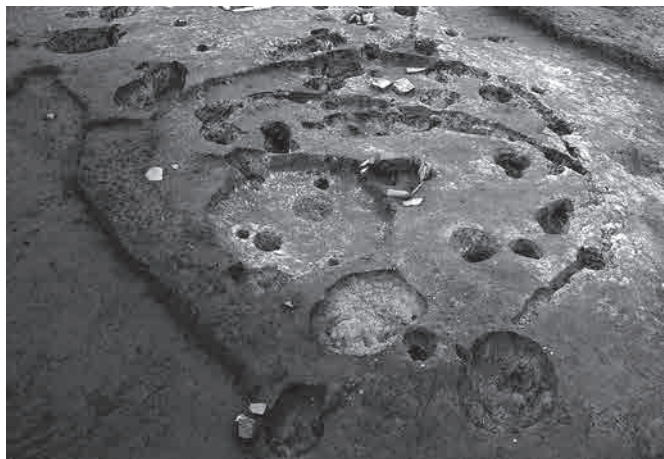
6 61区2号住居跡炉跡(北から)



7 61区2号住居跡炉内土器(南から)



8 61区2号住居跡埋甕(南から)



1 61区3号住居跡全景(南西から)



2 61区3号住居跡炉跡(南西から)



3 61区3号住居跡炉内土器(西から)



4 61区3号住居跡遺物出土状態(北東から)



5 61区4号住居跡全景(東から)



6 61区4号住居跡遺物出土状態(東から)



7 61区7号住居跡全景(南から)



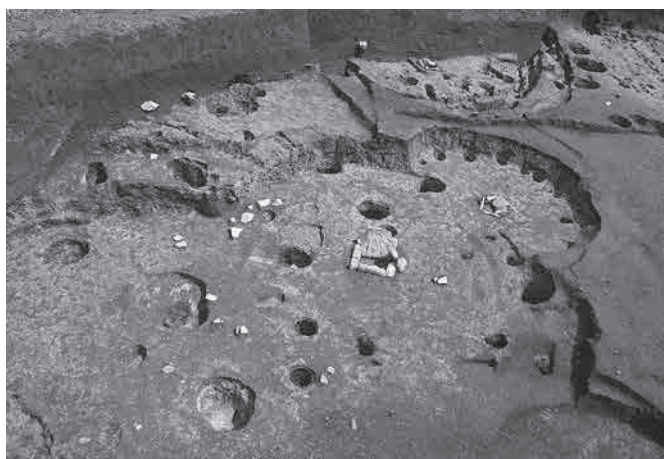
8 61区7号住居跡炉跡(東から)



1 61区8号住居跡全景(北から)



2 61区8号住居跡炉跡(北から)



3 61区9号住居跡全景(南から)



4 61区9号住居跡炉跡(東から)



5 61区9号住居跡埋甕(東から)



6 61区9号住居跡埋甕(西から)



7 61区9号住居跡遺物出土状態(南東から)



8 61区9号住居跡遺物出土状態(西から)



1 61区10号住居跡全景(南から)



2 61区10号住居跡炉跡(南から)



3 61区11号住居跡全景(南東から)



4 61区11号住居跡炉跡(北東から)



5 61区12・9・16号住居跡全景(南から)



6 61区12号住居跡炉跡(東から)



7 61区12号住居跡炉内土器(東から)



8 61区12号住居跡遺物出土状態(西から)

PL.6



1 61区16号住居跡全景(南から)



2 61区17号住居跡全景(西から)



3 61区17号住居跡炉跡(東から)



4 61区17号住居跡遺物出土状態(南から)



5 61区18号住居跡全景(北から)



6 61区19号住居跡全景(南から)



7 61区20号住居跡全景(南から)



8 61区21号住居跡全景(北から)



1 61区22号住居跡(北から)



2 61区22号住居跡炉跡(西から)



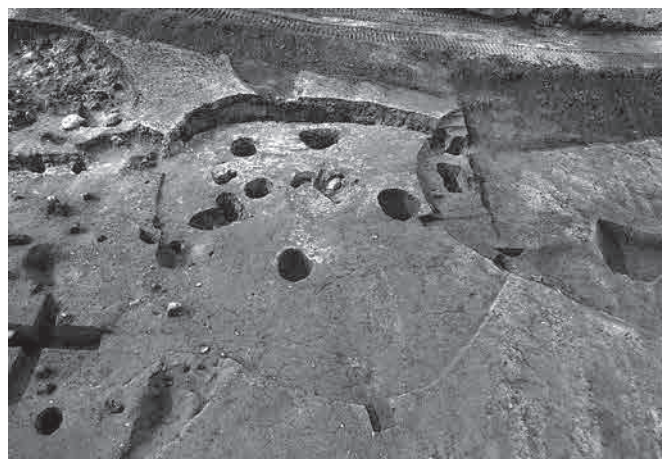
3 61区22号住居跡石組(東から)



4 61区23号住居跡全景(東から)



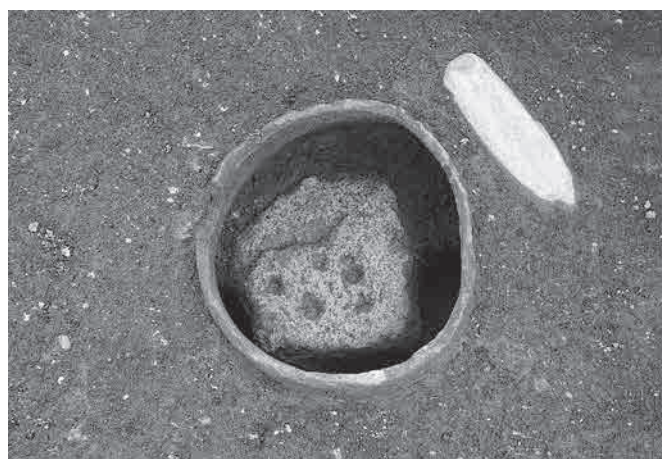
5 61区23号住居跡炉跡(北東から)



6 61区23号住居跡床下全景(南から)



7 61区23号住居跡埋甕(東から)



8 61区23号住居跡埋甕(東から)



1 61区24号住居跡全景(東から)



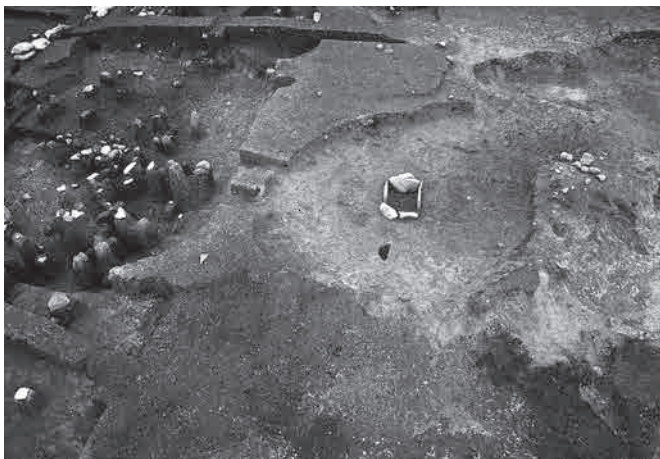
2 61区24号住居跡全景(南から)



3 61区24号住居跡炉跡(南から)



4 61区24号住居跡遺物出土状態(東から)



5 61区26号住居跡全景(東から)



6 61区26号住居跡遺物出土状態(東から)



7 61区27号住居跡全景(南から)



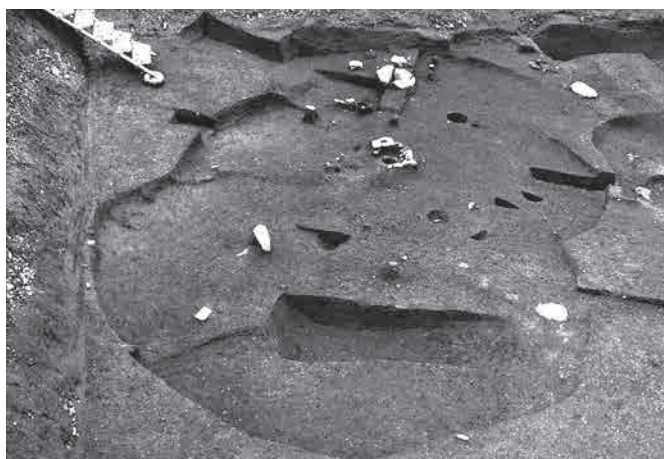
8 61区27号住居跡炉跡(南から)



1 61区28号住居跡全景(南東から)



2 61区28号住居跡炉跡(西から)



3 61区29号住居跡全景 手前は23・28号住居跡(南から)



4 61区29号住居跡炉跡(南から)



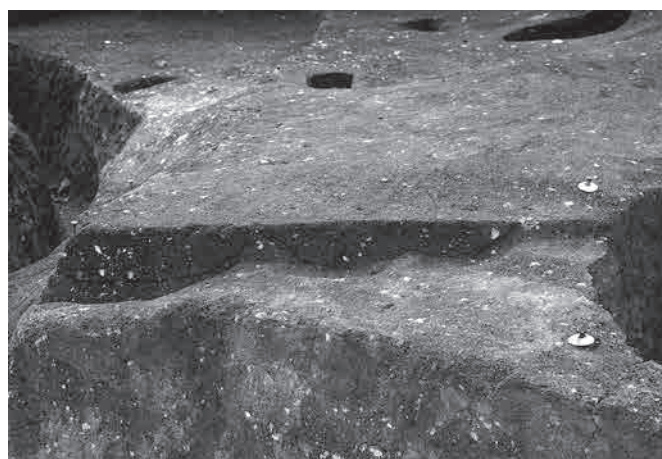
5 61区29号住居跡埋甕(東から)



6 61区30号住居跡全景(南から)



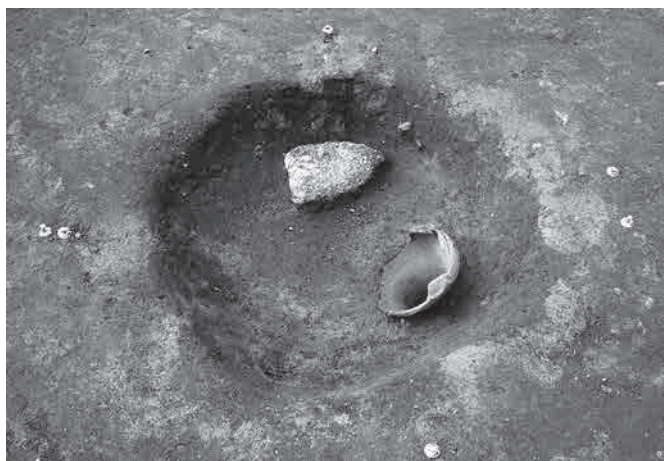
7 61区30号住居跡遺物出土状態(南東から)



8 61区31号住居跡土層(東から)



1 61区32号住居跡全景(北から)



2 61区32号住居跡炉跡(南から)



3 61区32号住居跡埋甕1(東から)



4 61区32号住居跡埋甕2(南から)



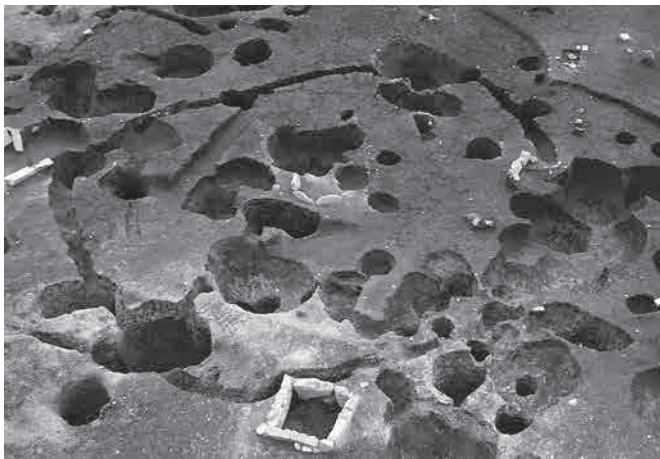
5 61区32号住居跡埋甕3(西から)



1 61区33号住居跡全景(北から)



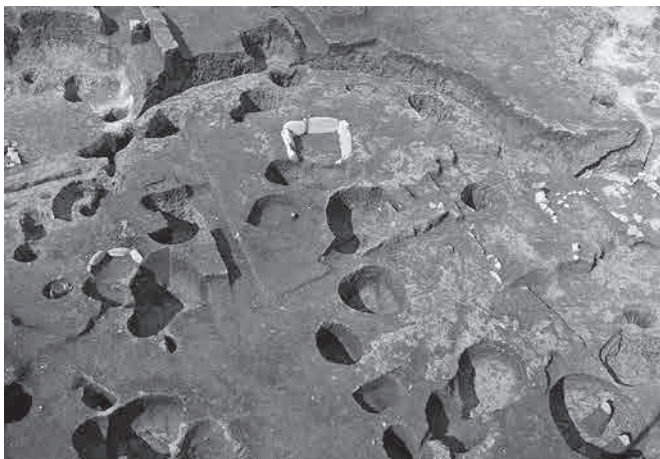
2 61区33号住居跡炉跡(北から)



3 61区34号住居跡全景(北から)



4 61区34号住居跡炉跡(南西から)



5 61区35号住居跡全景(南から)



6 61区35号住居跡炉跡(南から)



7 61区35号住居跡遺物出土状態(南から)



8 61区35号住居跡遺物出土状態(南から)



1 61区36号住居跡全景(南から)



2 61区36号住居跡炉跡(東から)



3 61区37号住居跡全景(北から)



4 61区38号住居跡全景(南から)



5 61区38号住居跡炉跡(北から)



6 61区39号住居跡全景(南東から)



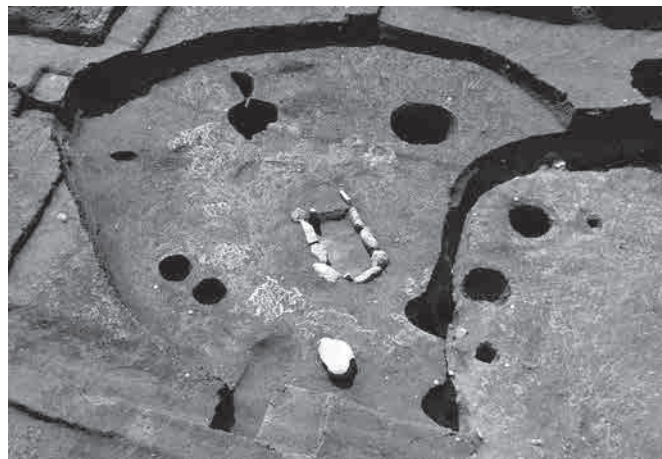
7 61区39号住居跡炉跡(南から)



8 61区39号住居跡埋甕(南から)



1 61区41号住居跡全景(南東から)



2 61区42号住居跡全景(北から)



3 61区42号住居跡炉跡(南東から)



4 61区42号住居跡遺物出土状態(東から)



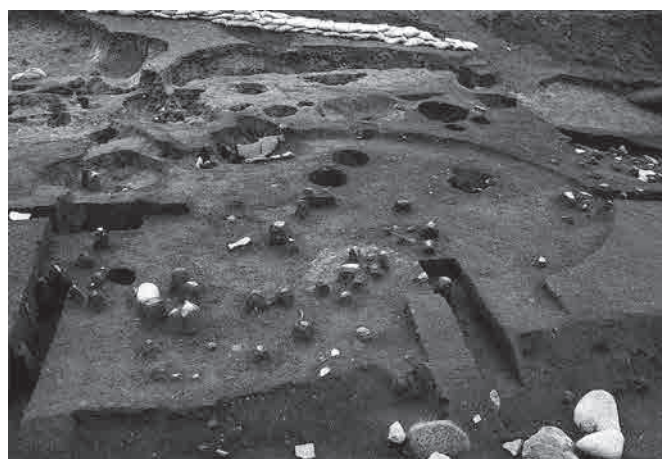
5 61区43号住居跡全景(南から)



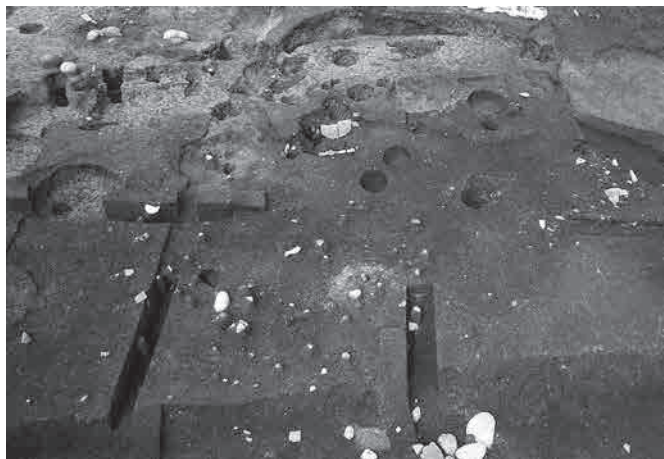
6 61区43号住居跡遺物出土状態(南から)



7 61区44号住居跡全景(北西から)



8 61区43・46号住居跡周辺全景(南から)



1 61区46号住居跡全景(南から)



2 61区46号住居跡炉跡(南から)



3 61区46号住居跡埋甕1(東から)



4 61区46号住居跡埋甕2(北から)



5 61区46号住居跡埋甕3(東から)



6 61区47号住居跡全景(東から)



7 61区47号住居跡炉内土器(東から)



8 61区47号住居跡埋甕(北西から)



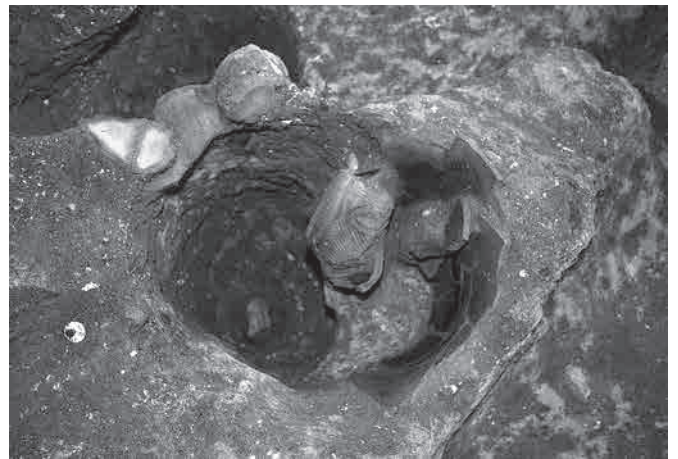
1 62区2号住居跡全景(南から)



2 62区2号住居跡炉跡(南から)



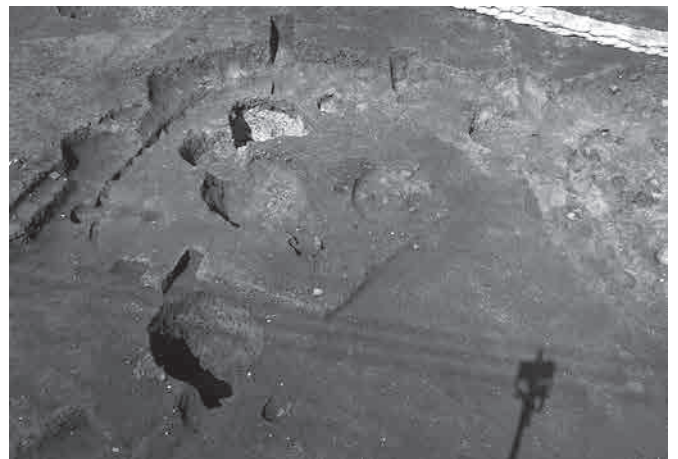
3 62区2号住居跡遺物出土状態(南から)



4 62区2号住居跡遺物出土状態(西から)



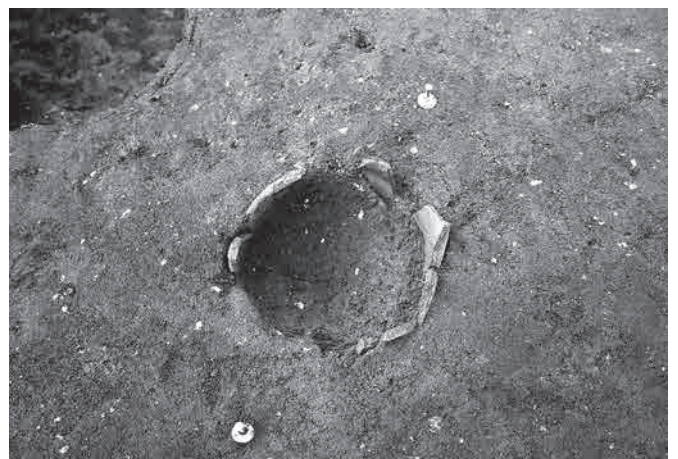
5 62区4号住居跡全景(南から)



6 62区5号住居跡全景(南から)



7 62区5号住居跡炉跡2(北から)



8 62区5号住居跡埋甕(南から)



1 62区6号住居跡全景(南東から)



2 62区6号住居跡炉跡(北から)



3 62区6号住居跡埋葬(東から)



4 62区7号住居跡全景(南から)



5 62区8号住居跡全景(南から)



6 62区8号住居跡炉跡(北から)



7 62区8号住居跡埋葬(南西から)



8 62区8号住居跡遺物出土状態(西から)



1 62区9号住居跡全景(南東から)



2 62区9号住居跡炉跡(南から)



3 62区9号住居跡埋嚢(西から)



4 62区9号住居跡遺物出土状態(北から)



5 62区9号住居跡遺物出土状態(東から)



1 62区10号住居跡全景(南から)



2 62区10号住居跡炉跡(南東から)



3 62区11号住居跡全景(南東から)



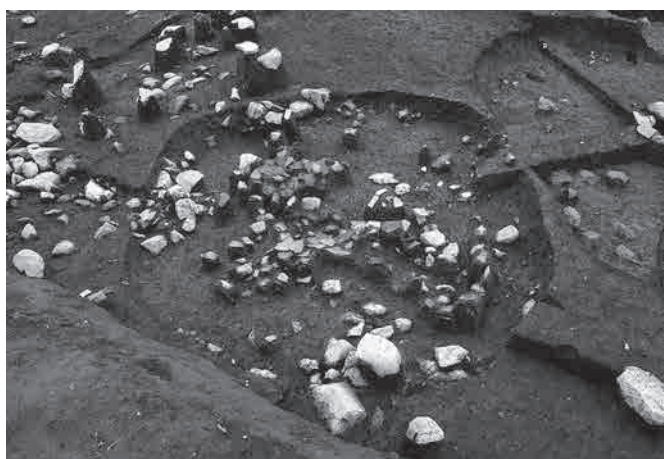
4 62区11号住居跡炉跡(北東から)



5 62区12号住居跡全景(南東から)



6 62区12号住居跡炉跡(南から)



7 62区12号住居跡遺物出土状態(南東から)



8 62区12号住居跡遺物出土状態(南東から)



1 62区13号住居跡全景(南東から)



2 62区13号住居跡炉跡(南東から)



3 62区13号住居跡遺物出土状態(南から)



4 62区13号住居跡遺物出土状態(南から)



5 62区13号住居跡遺物出土状態(南から)



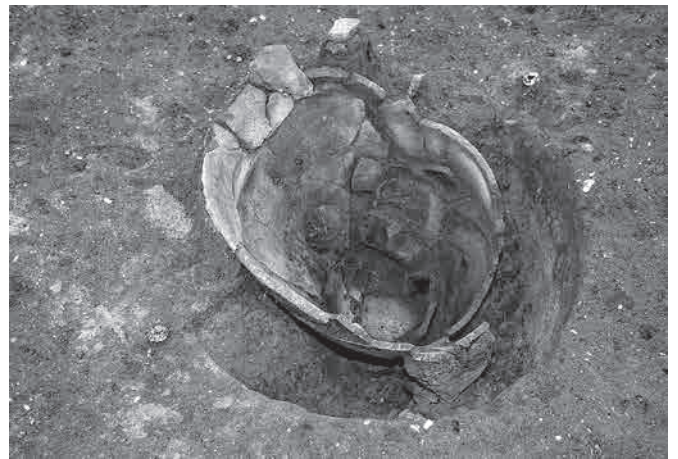
1 62区13号住居跡遺物出土状態(南西から)



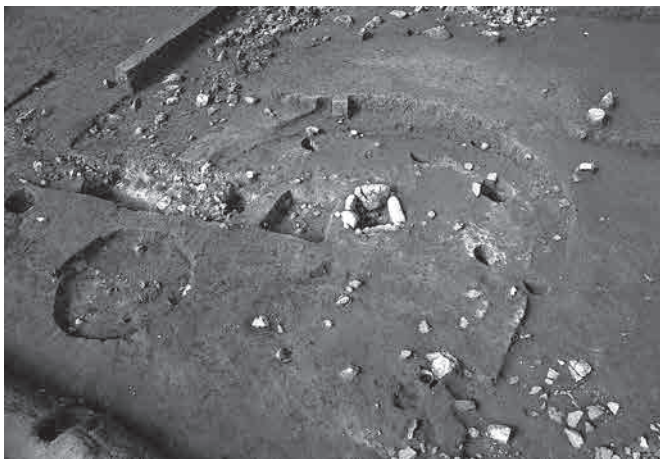
2 62区13号住居跡床下全景(南から)



3 62区14号住居跡全景(南東から)



4 62区14号住居跡埋葬(北東から)



5 62区15号住居跡全景(南から)



6 62区15号住居跡炉跡(西から)



7 62区15号住居跡炉内土器(東から)



8 62区15号住居跡埋葬(西から)



1 62区15号住居跡遺物出土状態(南から)



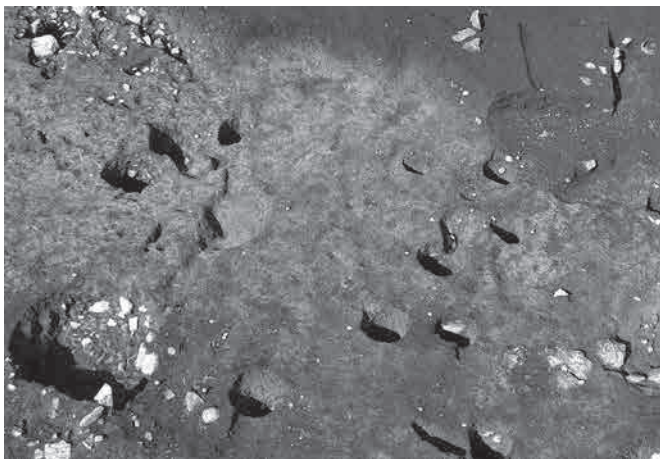
2 62区15号住居跡遺物出土状態(南から)



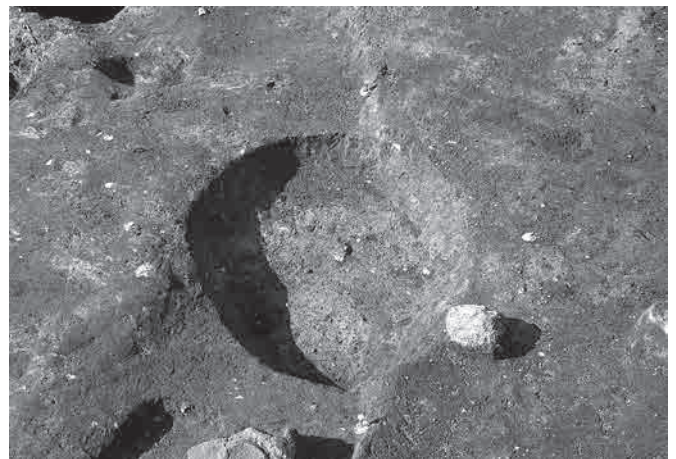
3 62区15号住居跡遺物出土状態(南から)



4 62区15号住居跡遺物出土状態(南から)



5 62区16号住居跡全景(南東から)



6 62区16号住居跡炉跡(南から)



7 62区17号住居跡遺物出土状態(南東から)



8 62区17号住居跡遺物出土状態(北西から)



1 62区17号住居跡全景(南東から)



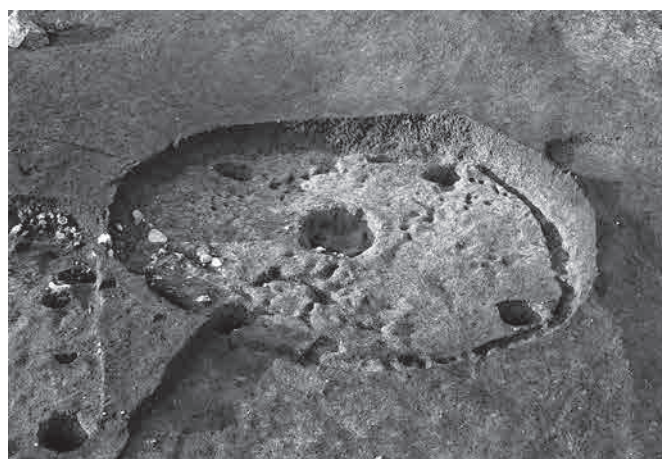
2 62区17号住居跡炉跡(北東から)



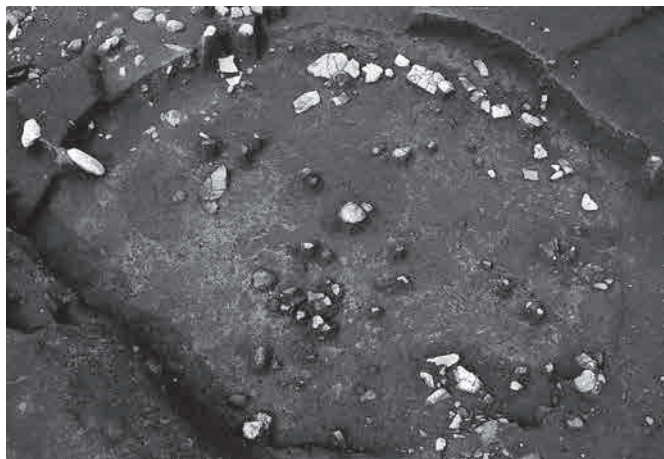
3 62区17号住居跡遺物出土状態(南東から)



4 62区17号住居跡遺物出土状態(東から)



5 62区17号住居跡床下全景(南東から)



1 62区19号住居跡全景(南東から)



2 62区19号住居跡炉跡(南東から)



3 62区19号住居跡遺物出土状態(北東から)



4 62区19号住居跡遺物出土状態(北から)



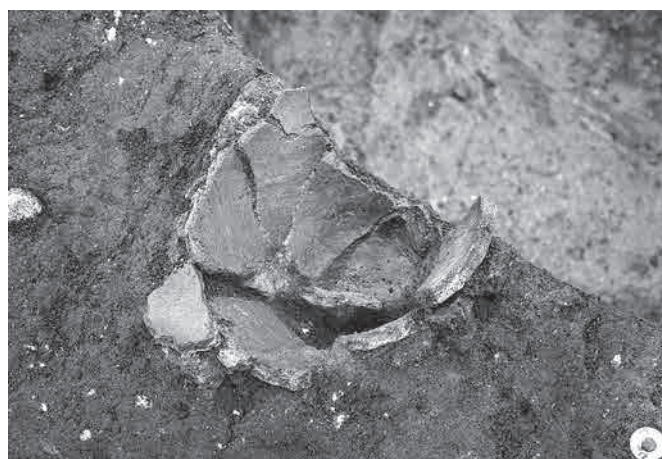
5 62区19号住居跡遺物出土状態(北東から)



6 62区19号住居跡床下全景(南東から)



7 62区20号住居跡炉跡(南から)



8 62区20号住居跡遺物出土状態(南から)



1 62区21号住居跡全景(南東から)



2 62区21号住居跡炉跡(西から)



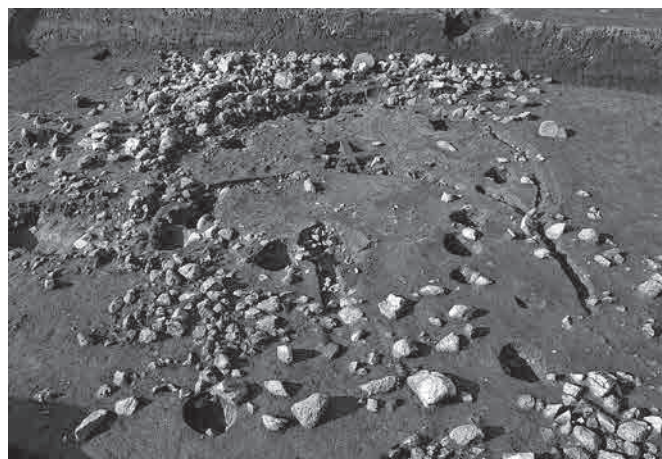
3 62区22号住居跡全景(南から)



4 62区22号住居跡遺物出土状態(南から)



5 62区23号住居跡全景(南から)



6 62区24号住居跡全景(南から)



7 62区24号住居跡炉跡(南から)



8 62区25号住居跡全景(西から)



1 61区58号土坑遺物出土状態(南から)



2 61区74号土坑全景(北から)



3 62区10号土坑全景(北東から)



4 62区14号土坑全景(南東から)



5 62区14号土坑骨出土状態(北西から)



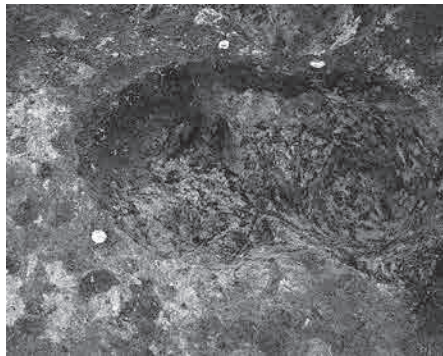
6 62区21号土坑全景(南から)



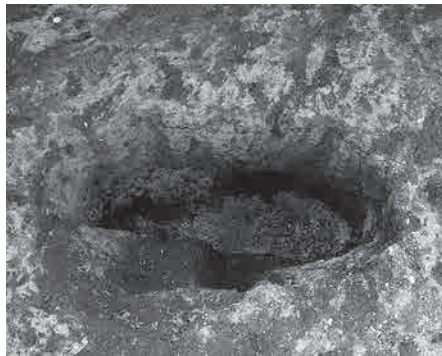
7 62区21号土坑遺物出土状態(南から)



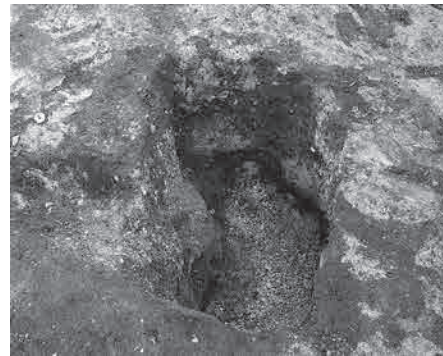
8 62区35号土坑全景(南西から)



1 61区1号土坑全景(南西から)



2 61区6号土坑全景(北西から)



3 61区7号土坑全景(南西から)



4 61区10号土坑全景(南から)



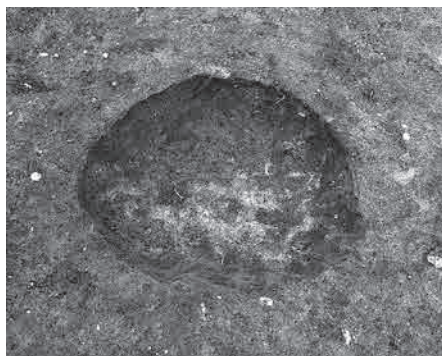
5 61区17号土坑全景(南から)



6 61区18号土坑全景(南から)



7 61区19号土坑全景(南から)



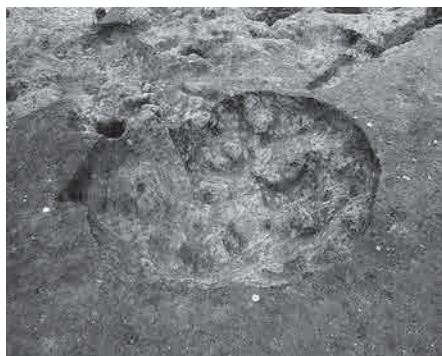
8 61区20号土坑全景(南から)



9 61区21号土坑全景(東から)



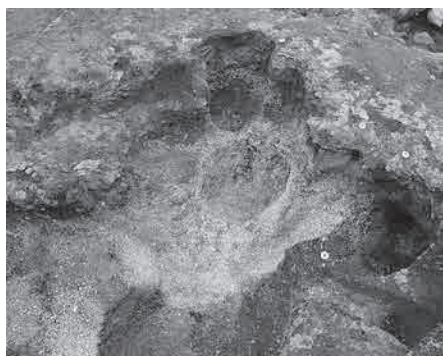
10 61区24号土坑全景(南から)



11 61区37号土坑全景(南西から)



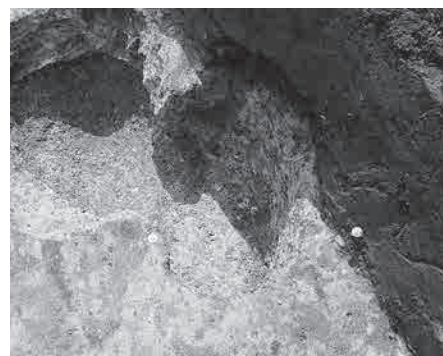
12 61区38号土坑全景(東から)



13 61区39号土坑全景(南から)



14 61区43号土坑全景(南西から)



15 61区44号土坑全景(東から)



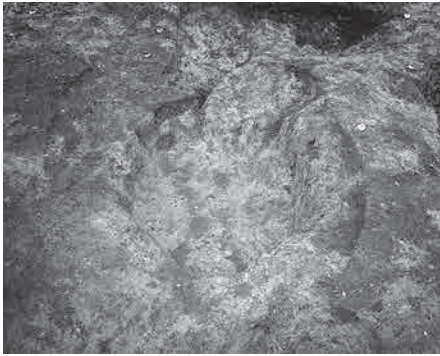
1 61区45号土坑全景(西から)



2 61区51号土坑全景(東から)



3 61区52号土坑全景(南から)



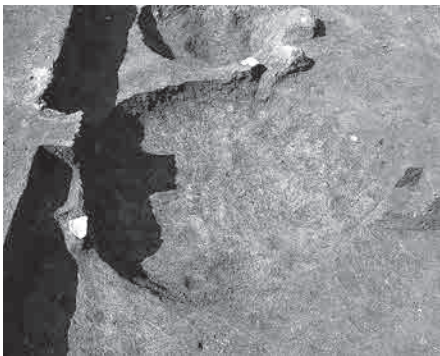
4 61区54号土坑全景(東から)



5 61区56号土坑全景(南から)



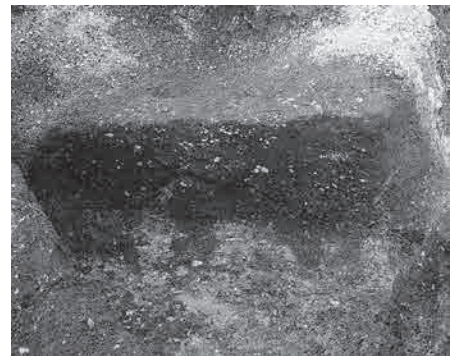
6 61区60号土坑全景(南から)



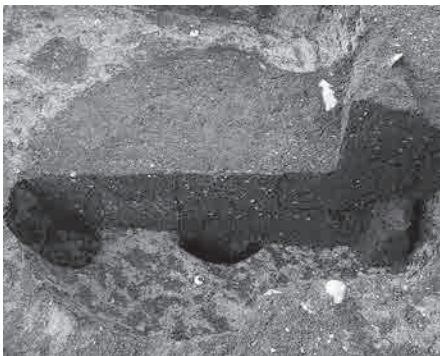
7 61区61号土坑全景(南東から)



8 61区62号土坑全景(西から)



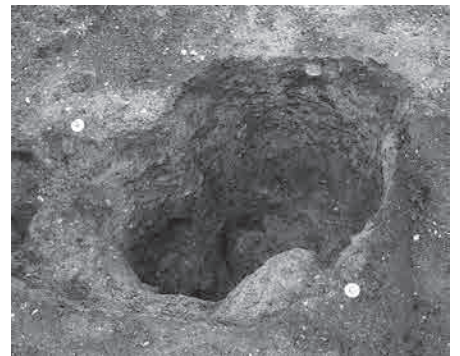
9 61区63号土坑土層(南西から)



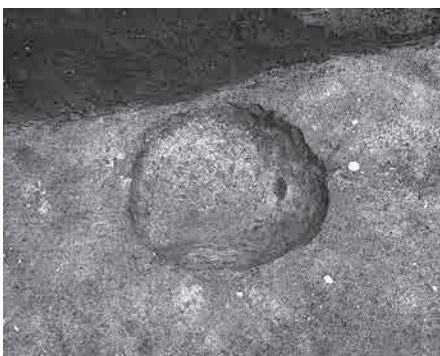
10 61区64号土坑土層(南から)



11 61区65号土坑全景(西から)



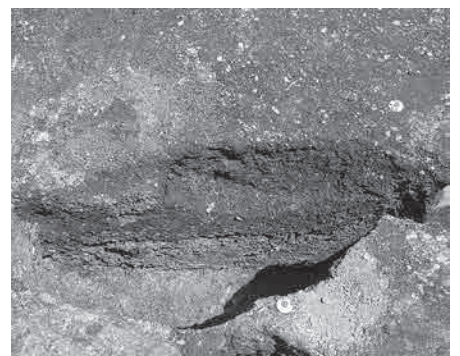
12 61区66号土坑全景(南から)



13 61区68号土坑全景(南から)



14 61区69号土坑全景(南から)



15 61区70号土坑土層(南西から)



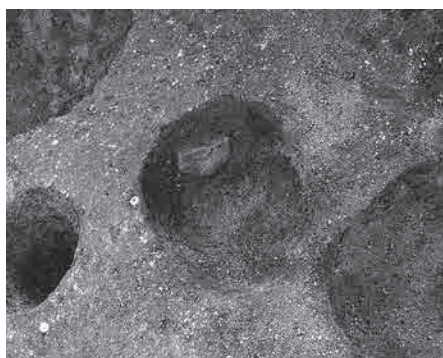
1 61区73号土坑全景(北から)



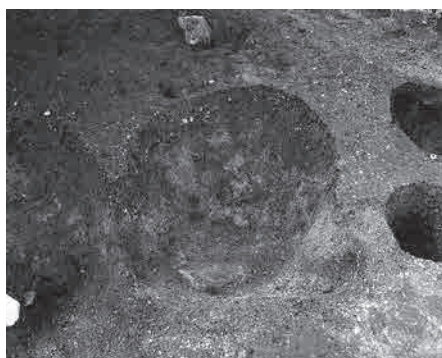
2 61区75号土坑全景(西から)



3 61区76号土坑全景(南から)



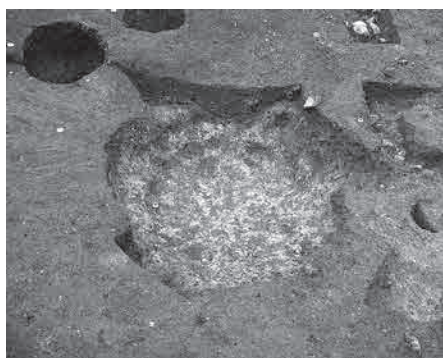
4 61区77号土坑全景(東から)



5 61区78号土坑全景(南東から)



6 61区79号土坑全景(南東から)



7 61区81号土坑全景(南から)



8 61区82号土坑全景(南西から)



9 61区83号土坑土層(南から)



10 61区84号土坑土層(北から)



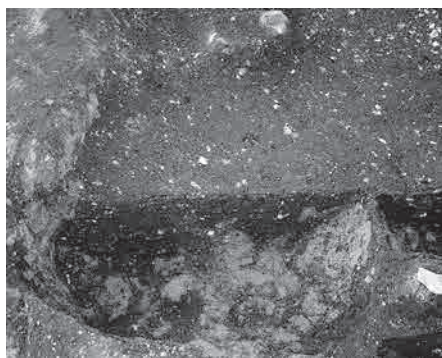
11 61区85号土坑土層(西から)



12 61区87号土坑全景(北西から)



13 61区88号土坑土層(北から)



14 61区92号土坑土層(南から)



15 61区95号土坑全景(西から)



1 61区96号土坑全景(北から)



2 61区99号土坑全景(西から)



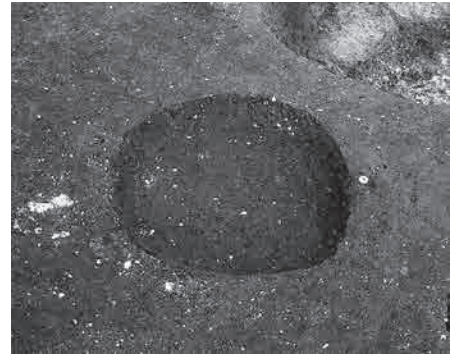
3 61区100号土坑全景(南から)



4 61区101号土坑全景(西から)



5 61区102号土坑全景(西から)



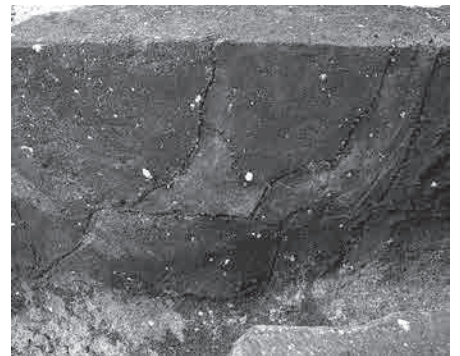
6 61区103号土坑全景(西から)



7 61区104号土坑全景(東から)



8 61区105号土坑全景(南から)



9 61区107号土坑土層(北東から)



10 61区109坑(左)110坑(右)全景(北西から)



11 61区110号土坑全景(南から)



12 61区111号土坑全景(北西から)



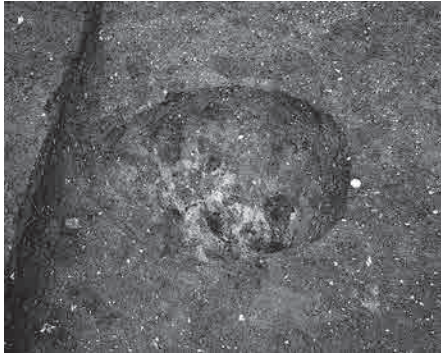
13 61区112号土坑全景(北から)



14 61区113号土坑土層(北から)



15 61区114号土坑土層(北から)



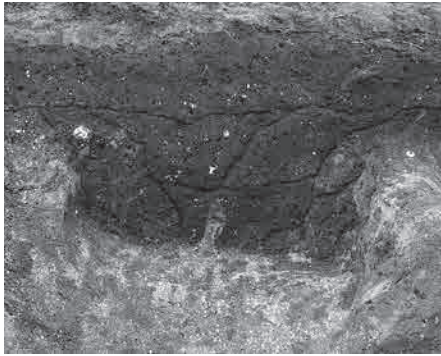
1 62区2号土坑全景(南から)



2 62区4号土坑全景(北西から)



3 62区6号土坑全景(南東から)



4 62区8号土坑土層(南から)



5 62区11号土坑土層(北東から)



6 62区13号土坑全景(南東から)



7 62区16号土坑土層(南西から)



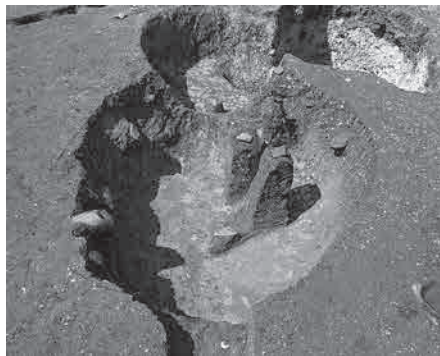
8 62区17号土坑全景(南から)



9 62区18号土坑土層(東から)



10 62区20号土坑全景(北から)



11 62区22号土坑全景(南東から)



12 62区24号土坑土層(北から)



13 62区26号土坑全景(南から)



14 62区27号土坑全景(東から)



15 62区28号土坑全景(南から)



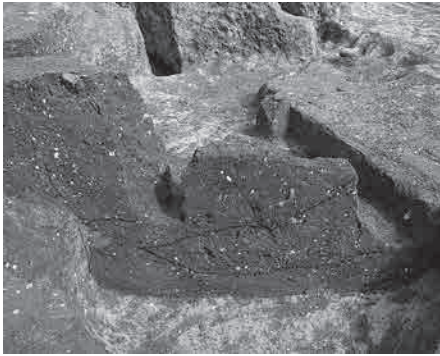
1 62区29号土坑全景(南から)



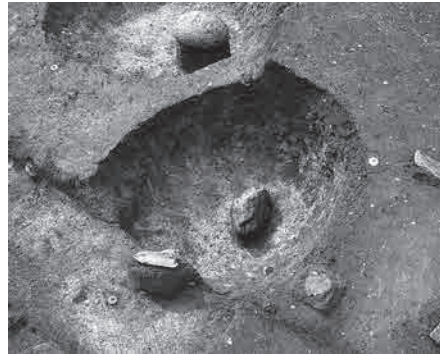
2 62区30号土坑全景(南から)



3 62区31号土坑全景(南から)



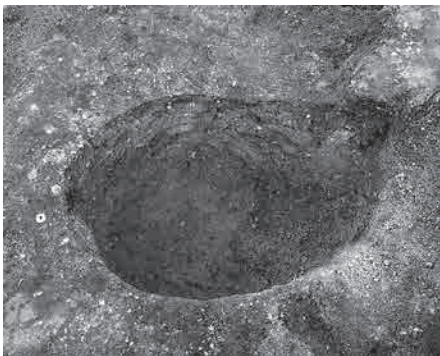
4 62区32号土坑土層(南から)



5 62区34号土坑全景(北東から)



6 62区37号土坑全景(南から)



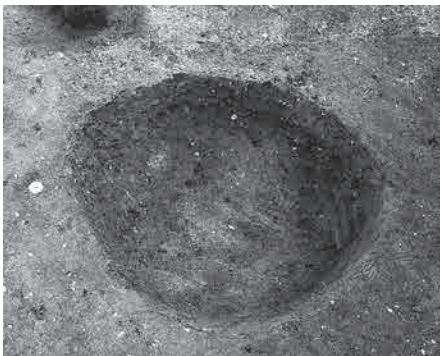
7 62区39号土坑全景(西から)



8 62区41号土坑全景(南から)



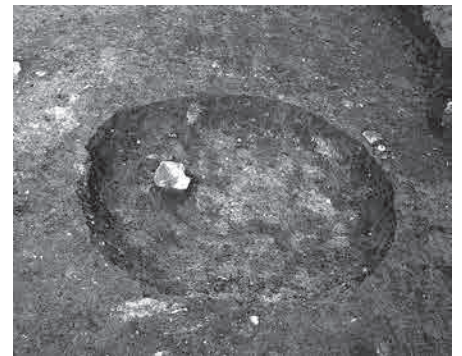
9 62区42号土坑全景(南から)



10 62区43号土坑全景(西から)



11 62区45号土坑全景(西から)



12 62区46号土坑全景(西から)



13 62区48号土坑土層(南から)



14 62区49号土坑全景(南西から)



15 62区50号土坑全景(東から)



1 61区3号竪穴状遺構全景(北西から)



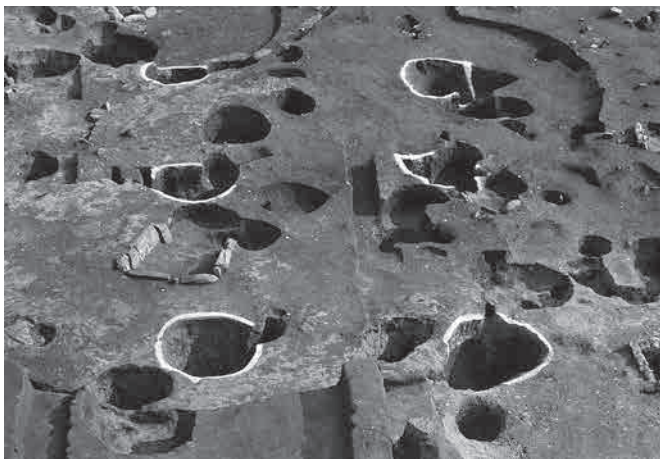
2 61区4号竪穴状遺構全景(南東から)



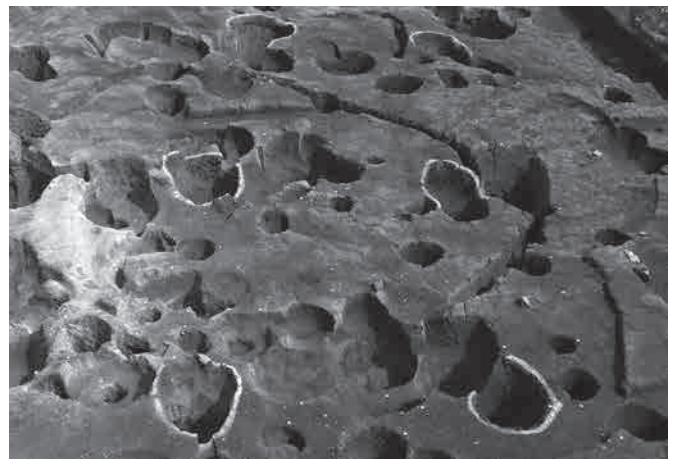
3 61区5号竪穴状遺構全景(南から)



4 61区5号竪穴状遺構遺物出土状態(南東から)



5 61区1号掘立柱建物全景(北から)



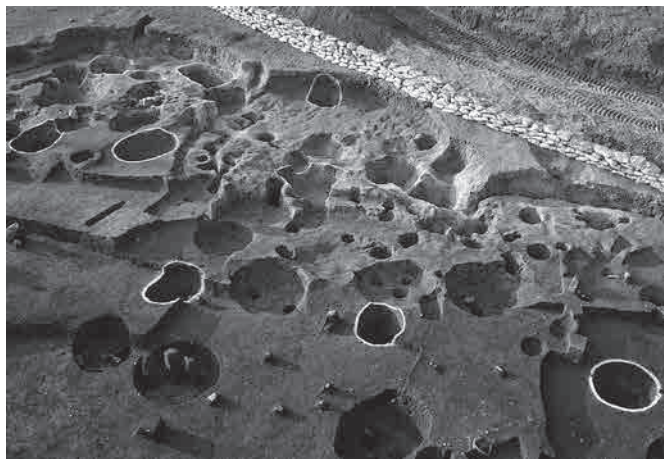
6 61区2号掘立柱建物(西から)



7 62区1号掘立柱建物全景(南東から)



8 62区1号掘立柱建物全景(南東から)



1 62区1号掘立柱建物全景(南東から)



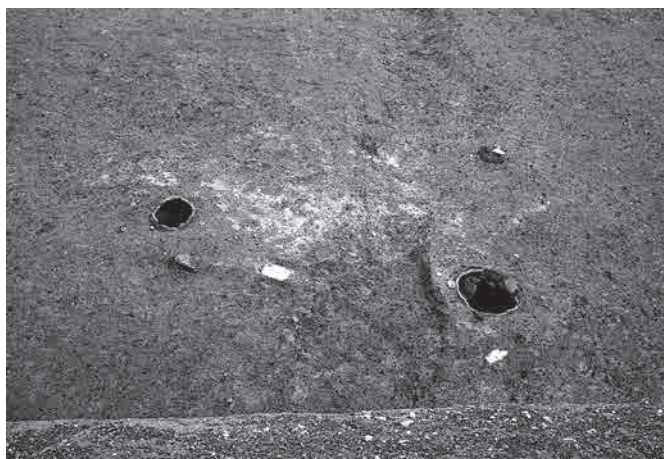
2 62区1号掘立柱建物全景(南東から)



3 62区2号掘立柱建物全景(南東から)



4 62区2号掘立柱建物全景(南東から)



5 61区1号埋設土器(左)・2号埋設土器(右) (南から)



6 61区1号埋設土器全景(北西から)



7 61区2号埋設土器全景(北から)



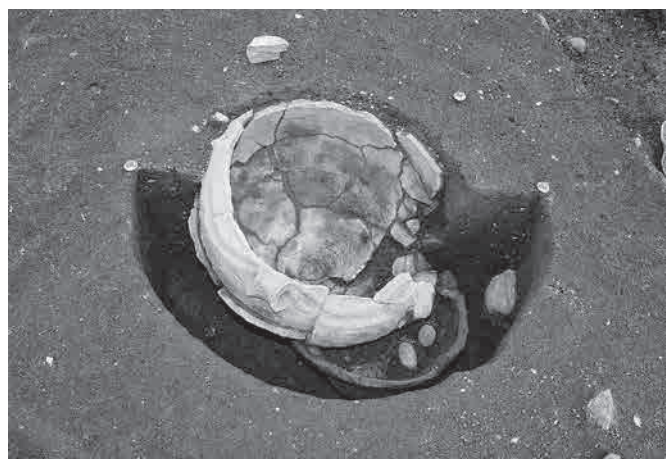
8 61区2号埋設土器全景(西から)



1 61区3号埋設土器(右)・4号埋設土器(左) (東から)



2 61区3号埋設土器全景(南から)



3 61区4号埋設土器(北西から)



4 61区4号埋設土器全景(南東から)



5 61区6号埋設土器全景(東から)



6 61区6号埋設土器土層(東から)



7 61区7号埋設土器全景(南から)



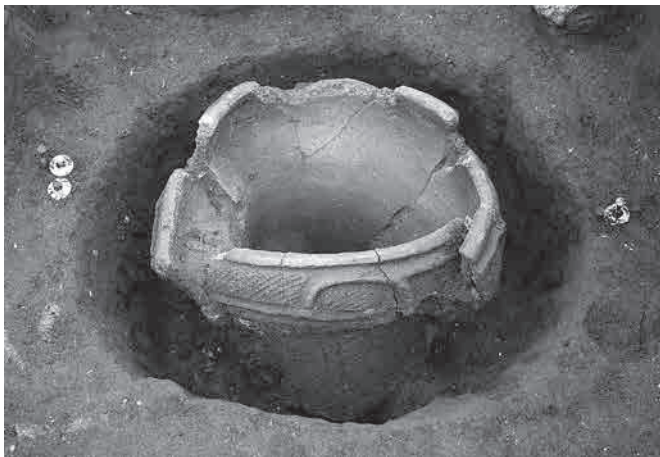
8 61区7号埋設土器土層(北から)



1 61区8号埋設土器全景(南から)



2 62区1号埋設土器全景(南から)



3 62区1号埋設土器全景(北から)



4 62区2号埋設土器(南から)



5 62区1号集石全景(北から)



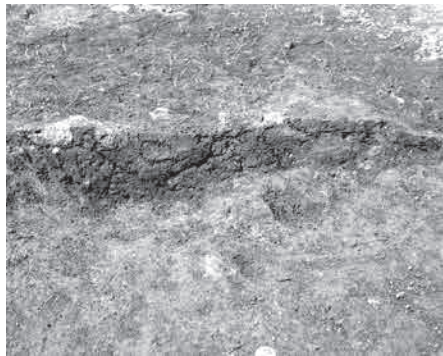
6 62区1号集石全景(南から)



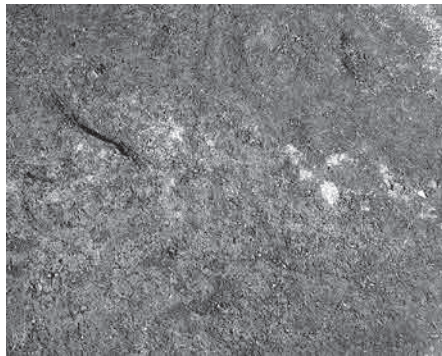
7 62区2号集石(東から)



8 62区2号集石(南東から)



1 61区3号焼土土層(東から)



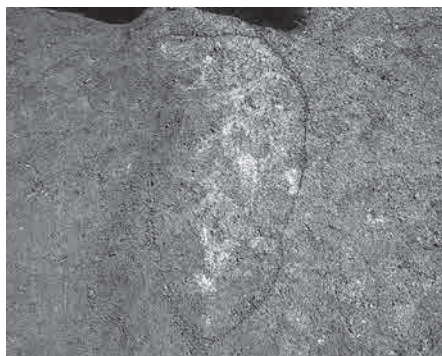
2 61区3号焼土検出面(南から)



3 61区4号焼土完掘(東から)



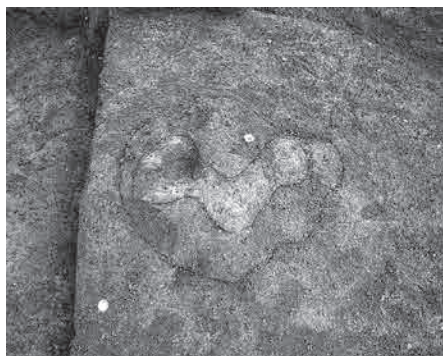
4 61区7号焼土検出面(西から)



5 61区9号焼土検出面(北から)



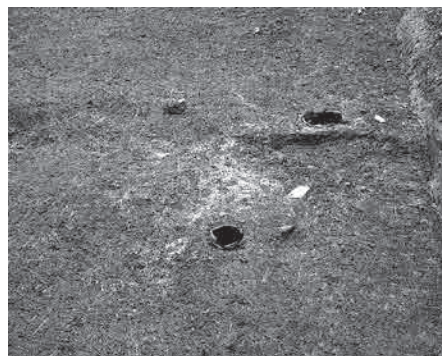
6 61区10号焼土検出面(南から)



7 61区13号焼土検出面(南から)



8 61区14号焼土検出面(西から)



9 61区15号焼土検出面(西から)



10 61区16号焼土完掘(西から)



11 61区17号焼土検出面(西から)



12 61区18号焼土土層(南東から)



13 62区1号焼土完掘(南東から)



14 62区2号焼土検出面(東から)



15 62区3号焼土検出面(東から)



1 1号列石全景(西から)



2 1号列石全景(南から)



1 1号列石全景(北東から)



2 1号列石全景(東から)



3 1号列石全景(北東から)



4 1号列石近接(北東から)



5 1号列石近接(東から)



6 1号列石近接(西から)



7 1号列石近接(東から)



8 1号列石近接(東から)



1 1号列石近接(東から)



2 1号列石近接(南から)



3 1号列石近接(東から)



4 1号列石全景(東から)



5 1号列石近接(東から)



6 1号列石全景(南から)



7 1号列石近接(南東から)



8 1号列石近接(南から)

PL.40

61区 1号住居跡



1



2



3



4



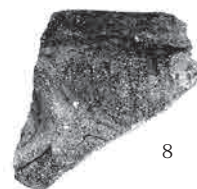
5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



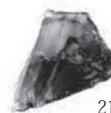
18



19



20



21



22



23

61区 2号住居跡



1



2



3



4



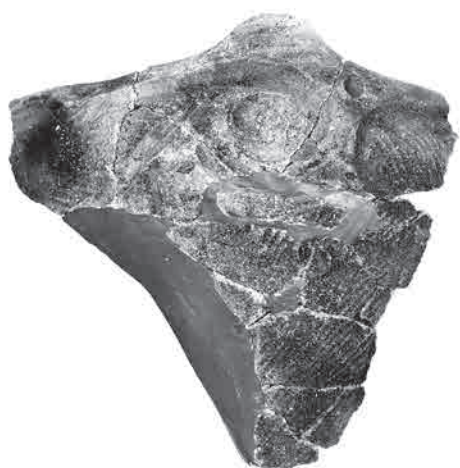
5



6



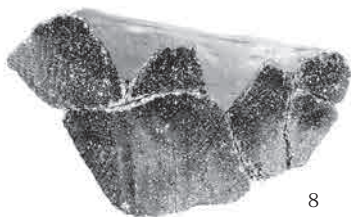
7



8



9



11



10

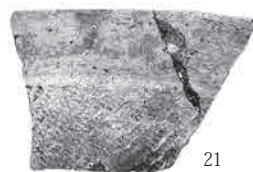
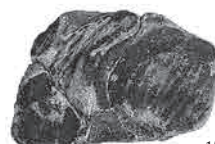
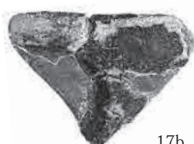


12



13

61区 2号住居跡



61区 2号住居跡出土遺物(3)

PL.44

61区 2号住居跡



61区 2号住居跡出土遺物(4)

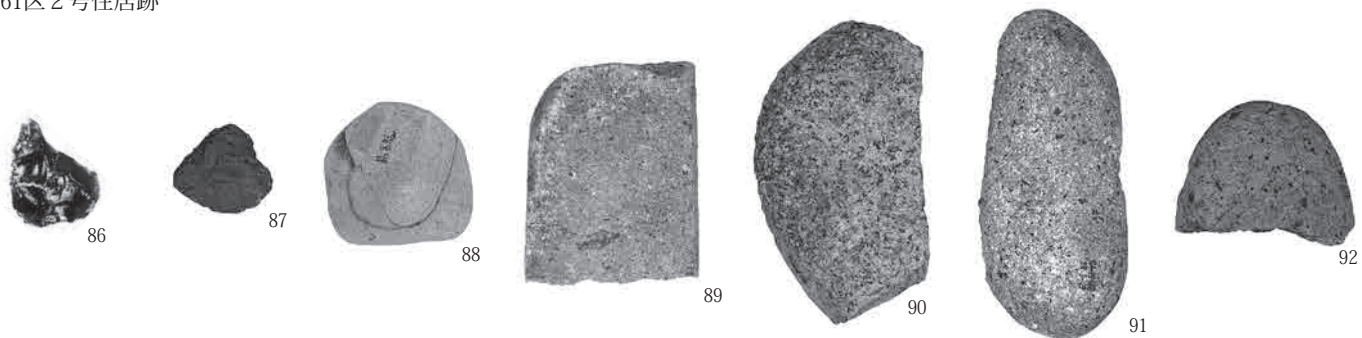
61区2号住居跡



61区2号住居跡出土遺物(5)

PL.46

61区2号住居跡



61区3・4号住居跡



61区2号住(6) 3・4号住居跡(1)出土遺物

61区3・4号住居跡



8



9



10



11



12



13

PL.48

61区3·4号住居跡



14



15



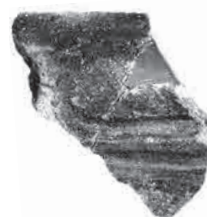
16



17



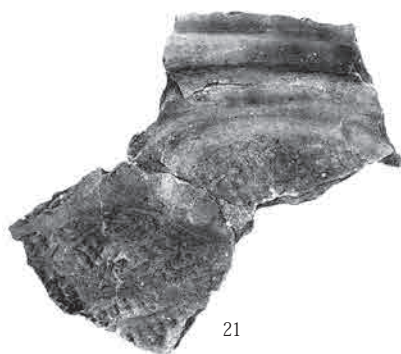
18



20



19



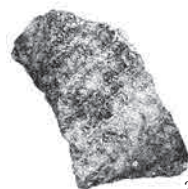
21



22



23



24



25



26



27



28

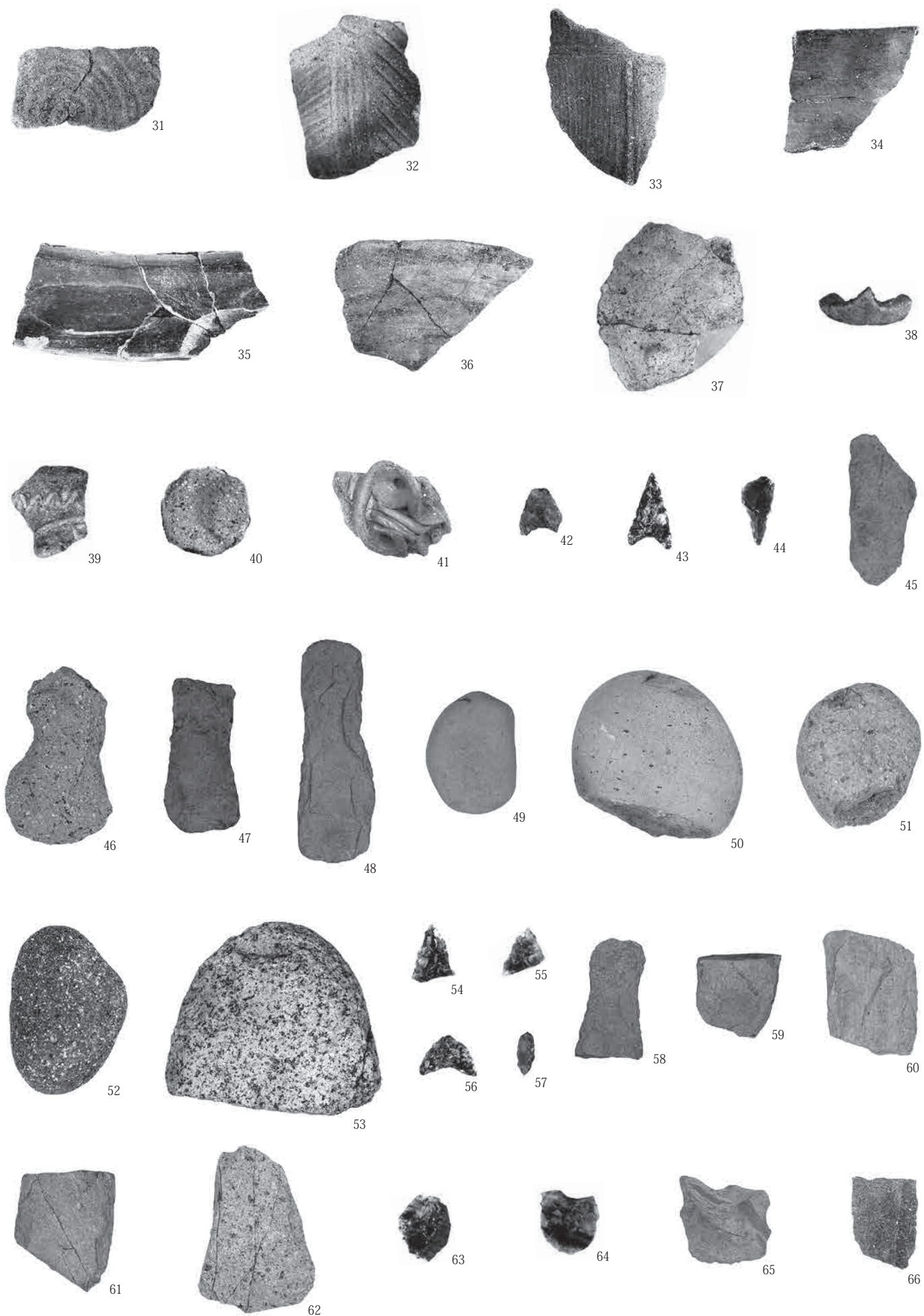


29



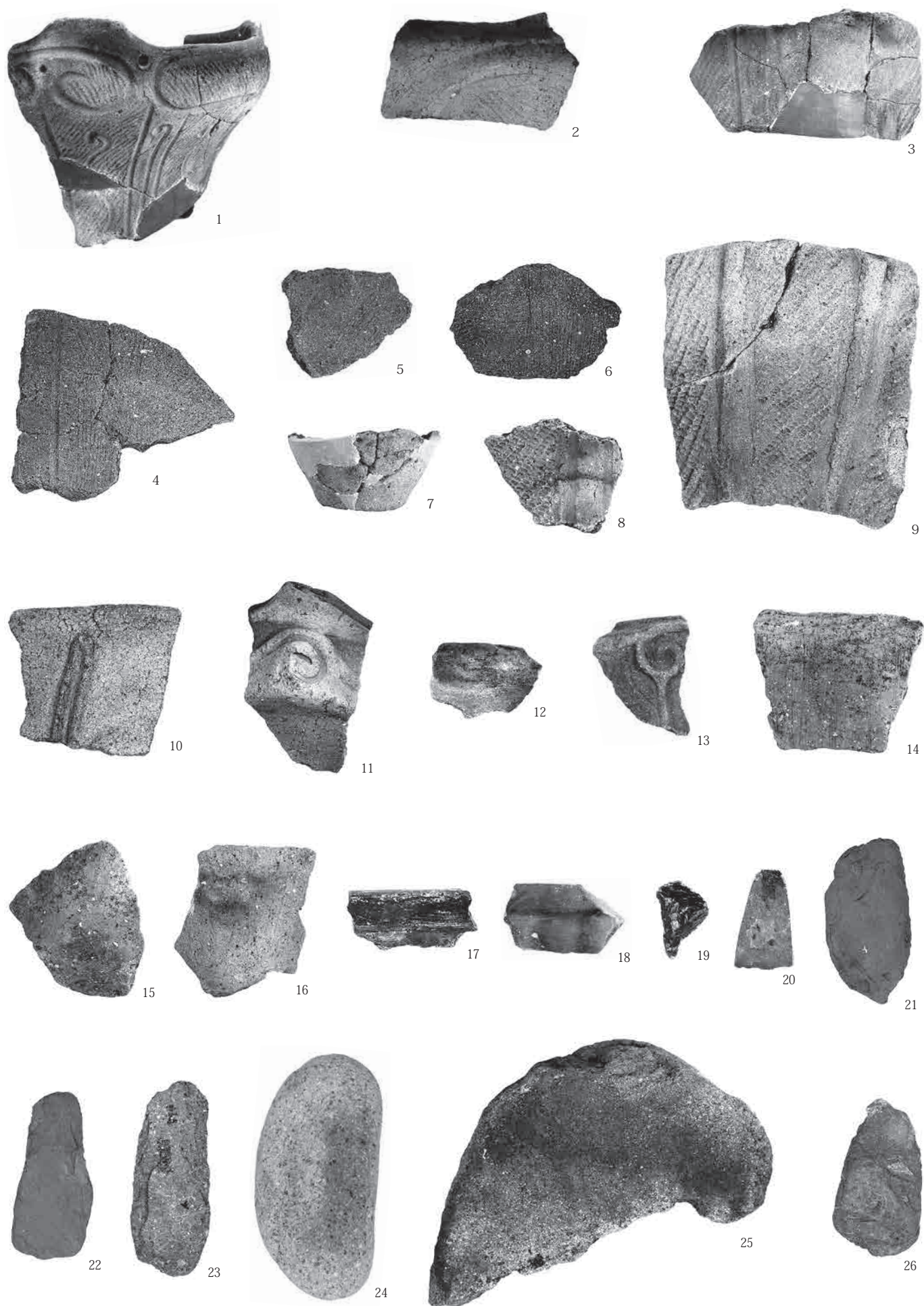
30

61区3·4号住居跡出土遺物(3)



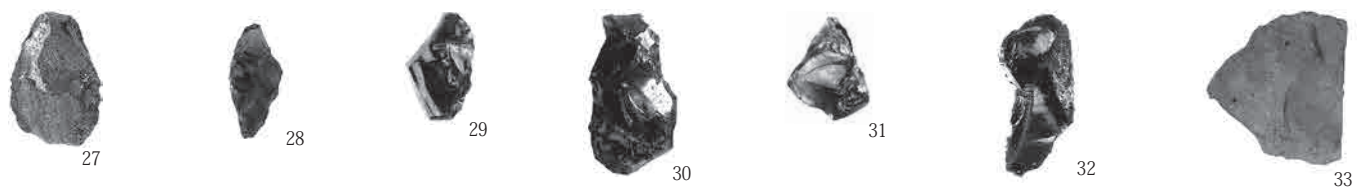
PL.50

61区7号住居跡

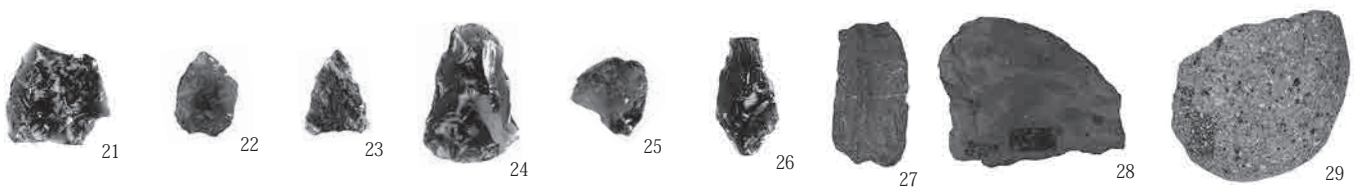
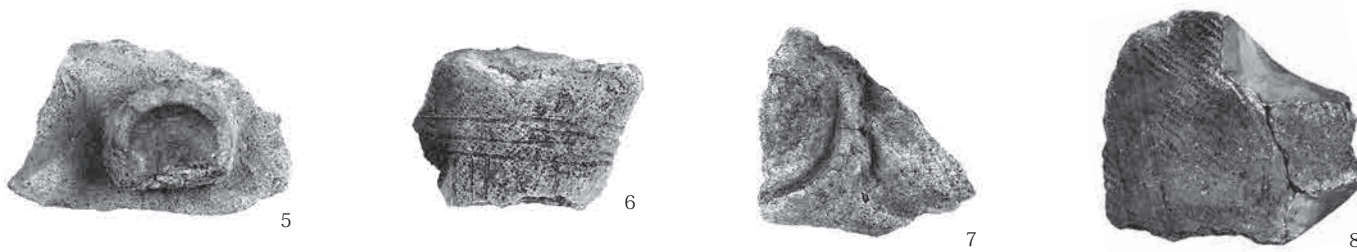
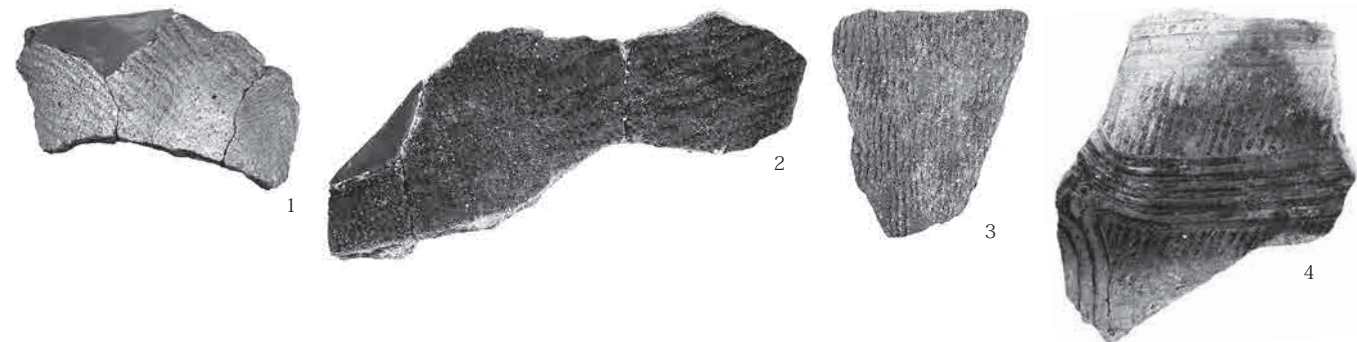


61区7号住居跡出土遺物(1)

61区7号住居跡



61区8号住居跡





61区9号住居跡



8



9



10



11



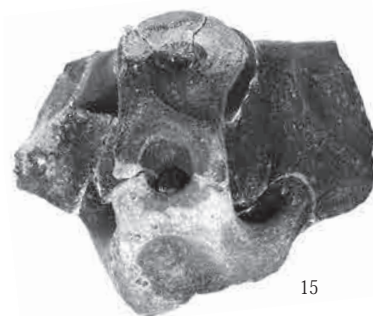
12



13



14



15



16



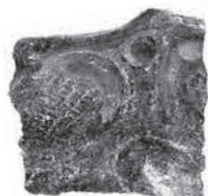
17



18



19



20



21



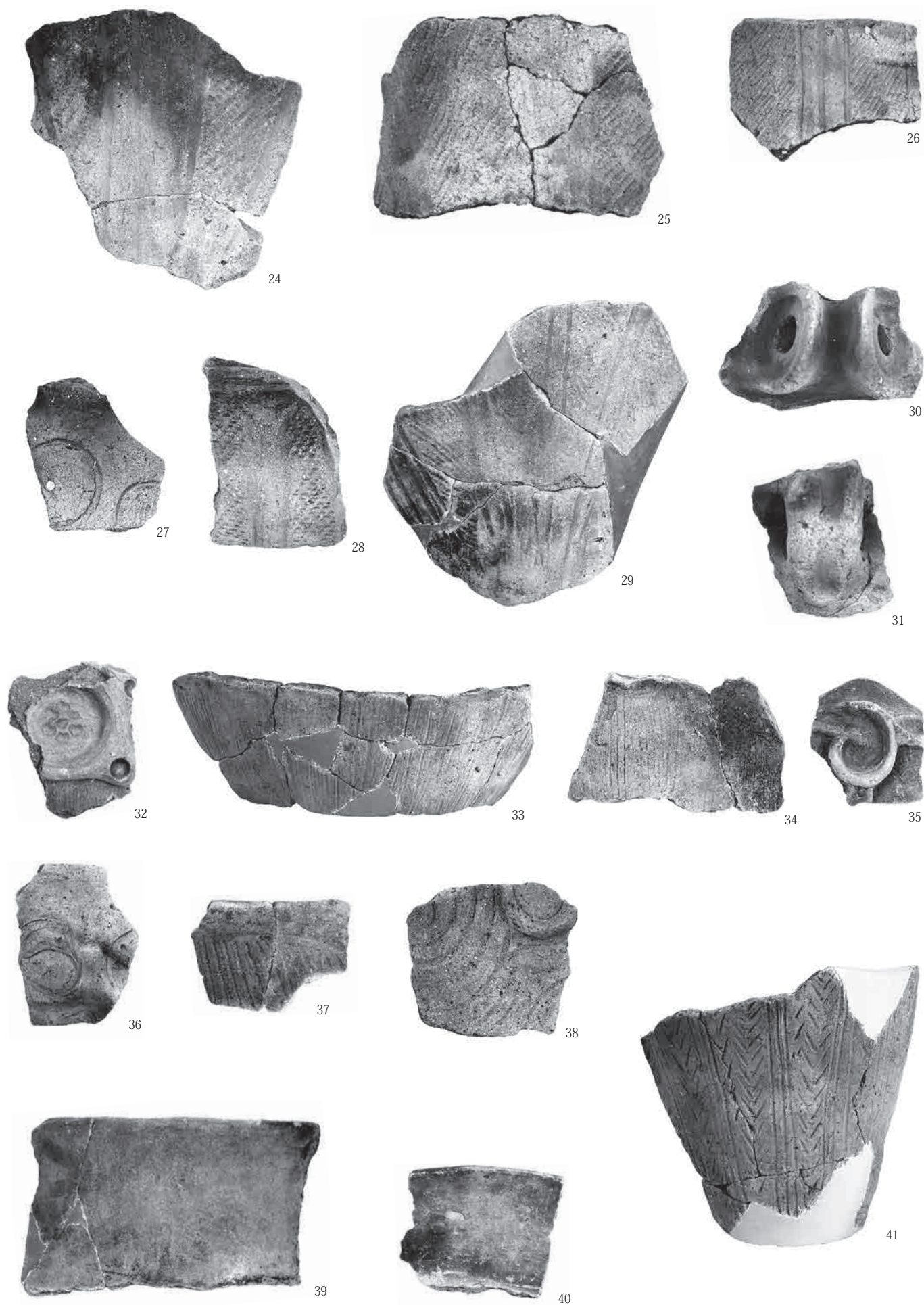
22



23

PL.54

61区9号住居跡



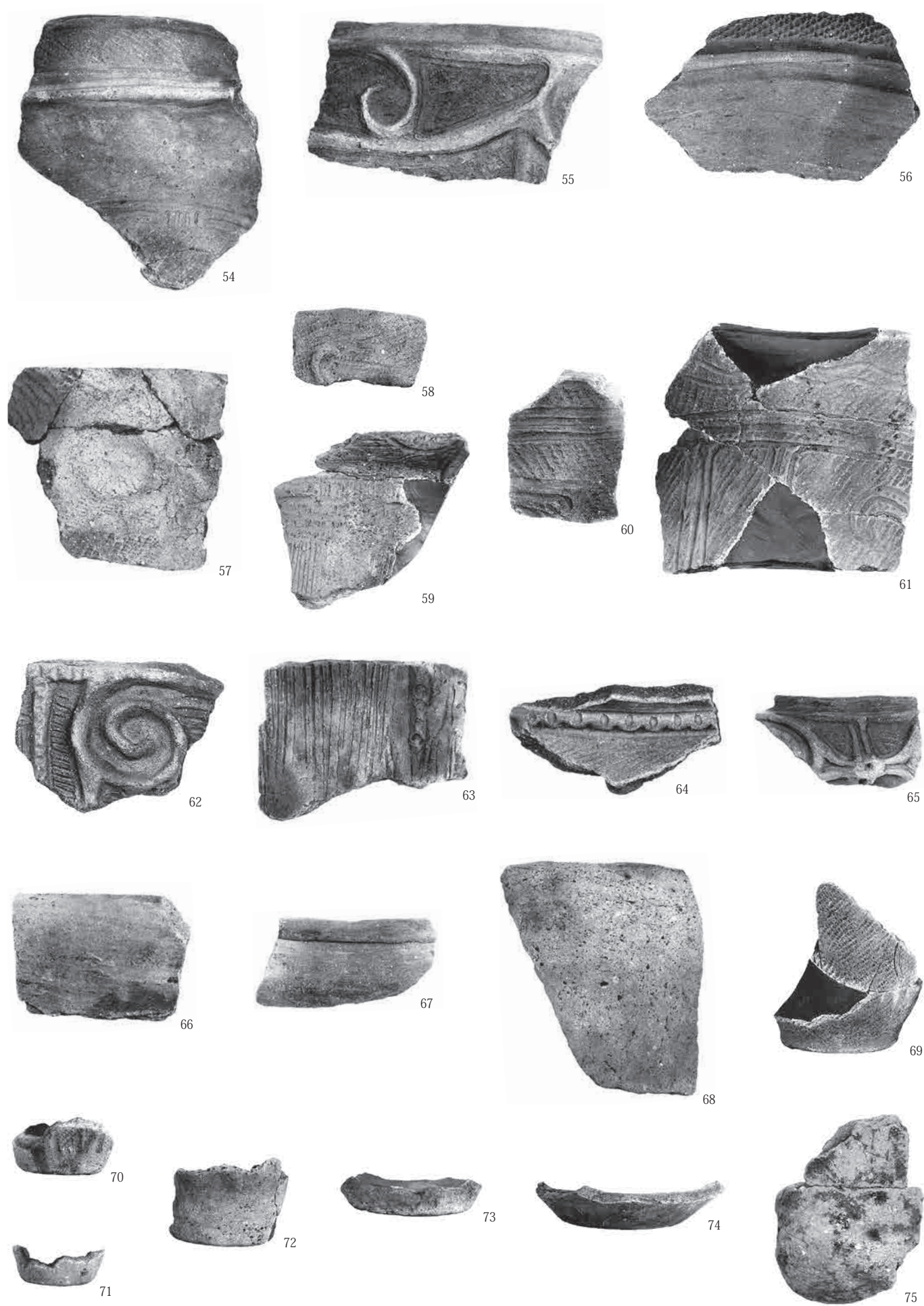
61区9号住居跡出土遺物(3)



61区9号住居跡出土遺物(4)

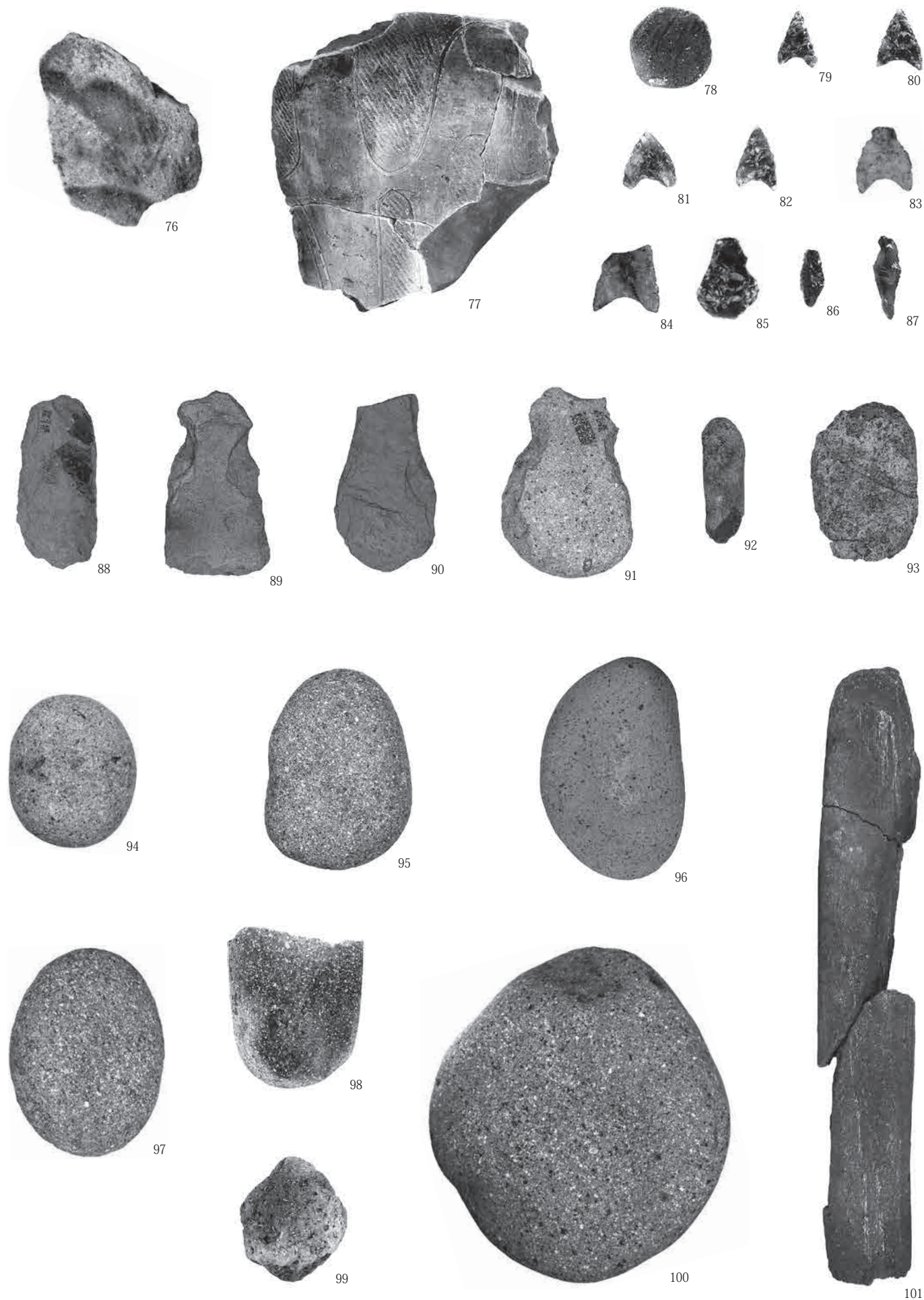
PL.56

61区9号住居跡



61区9号住居跡出土遺物(5)

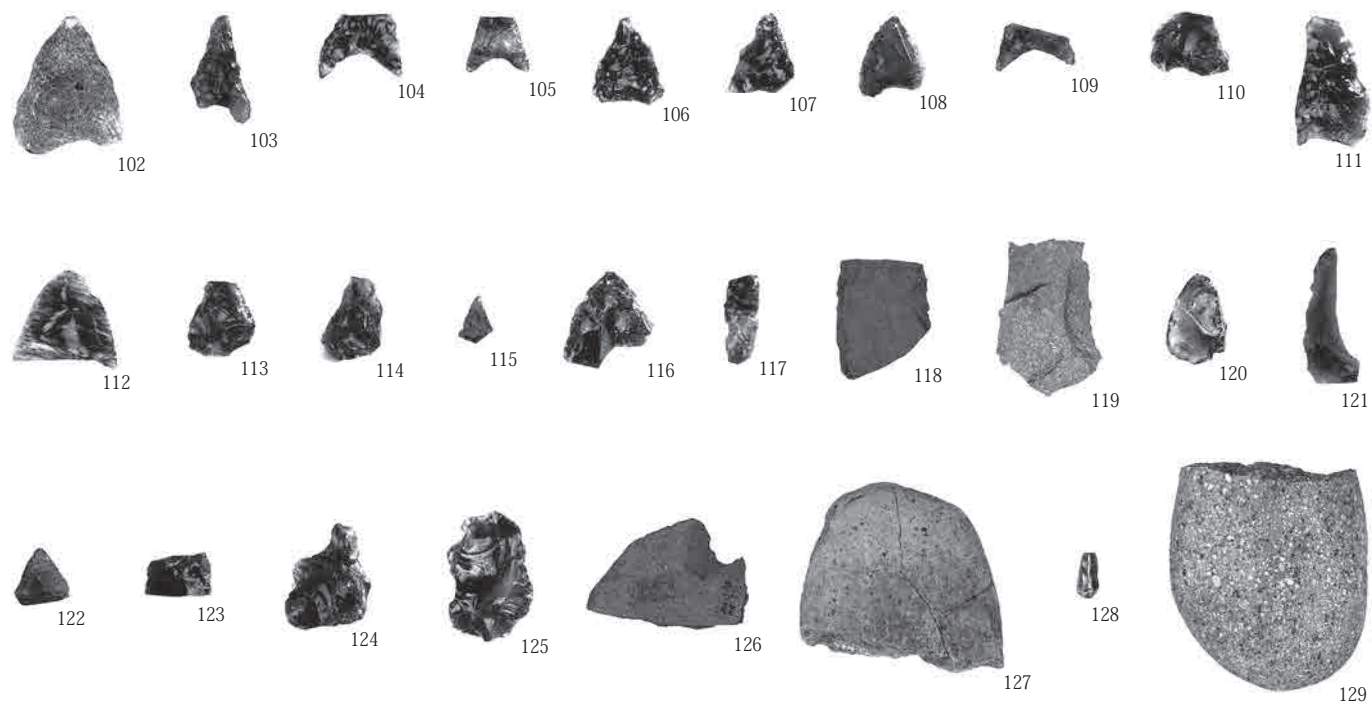
61区9号住居跡



61区9号住居跡出土遺物(6)

PL.58

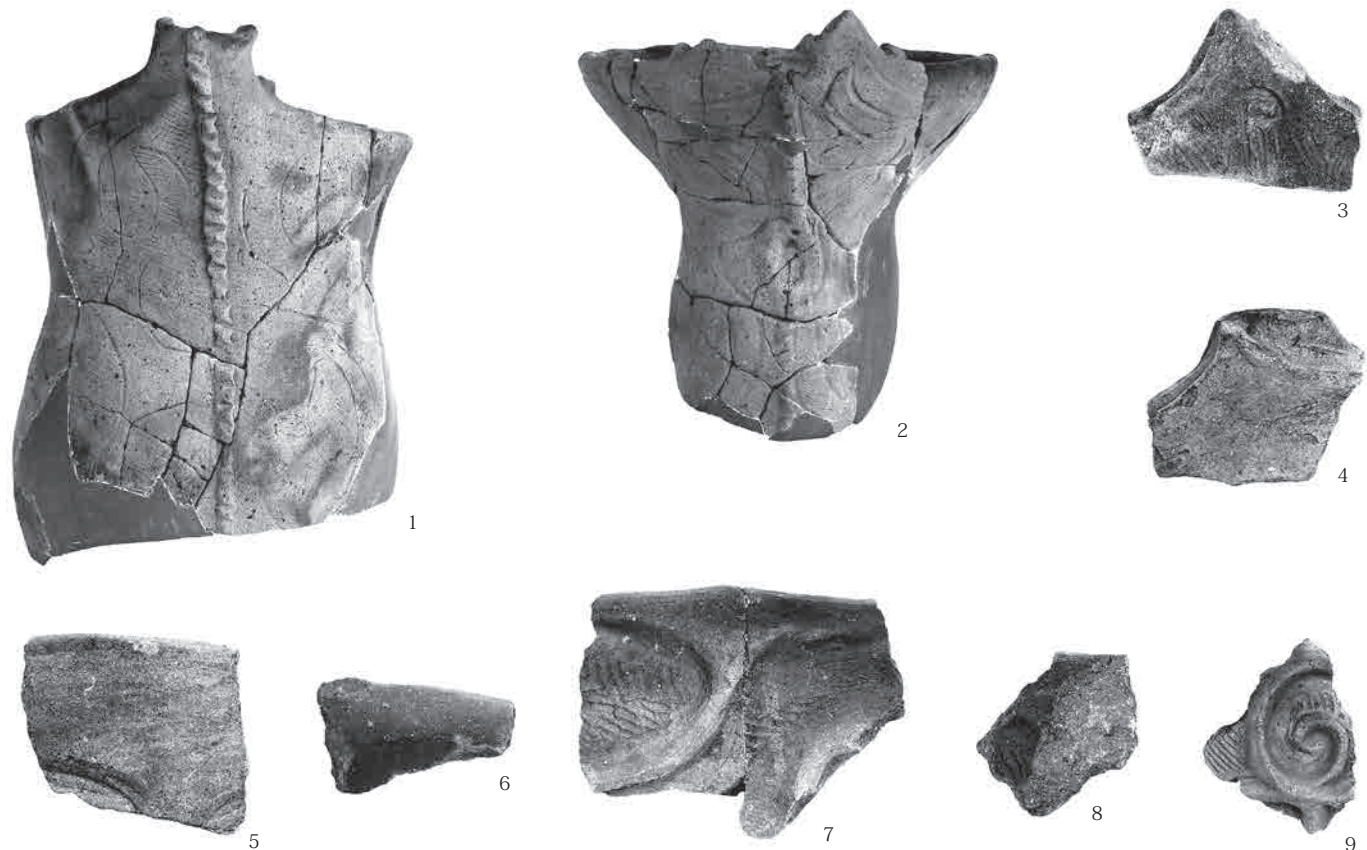
61区9号住居跡



61区10号住居跡

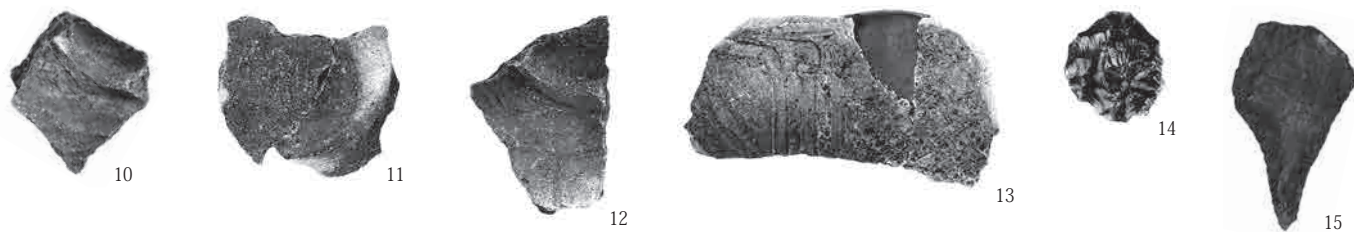


61区11号住居跡

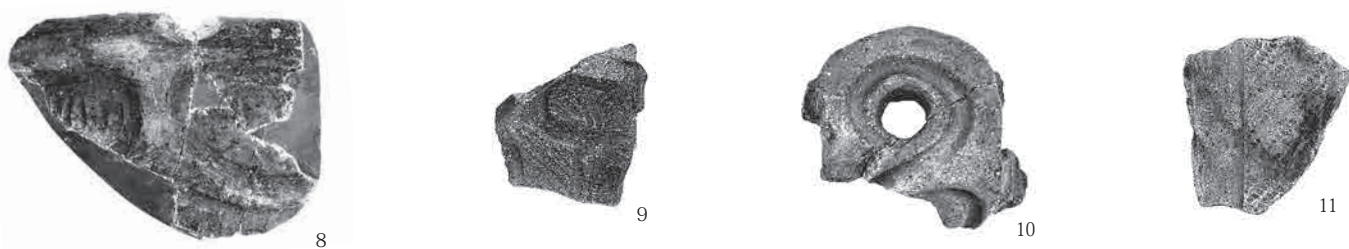


61区9号住(7) 10·11号住居跡(1)出土遺物

61区11号住居跡



61区12号住居跡



61区11号住(2) 12号住居跡(1)出土遺物

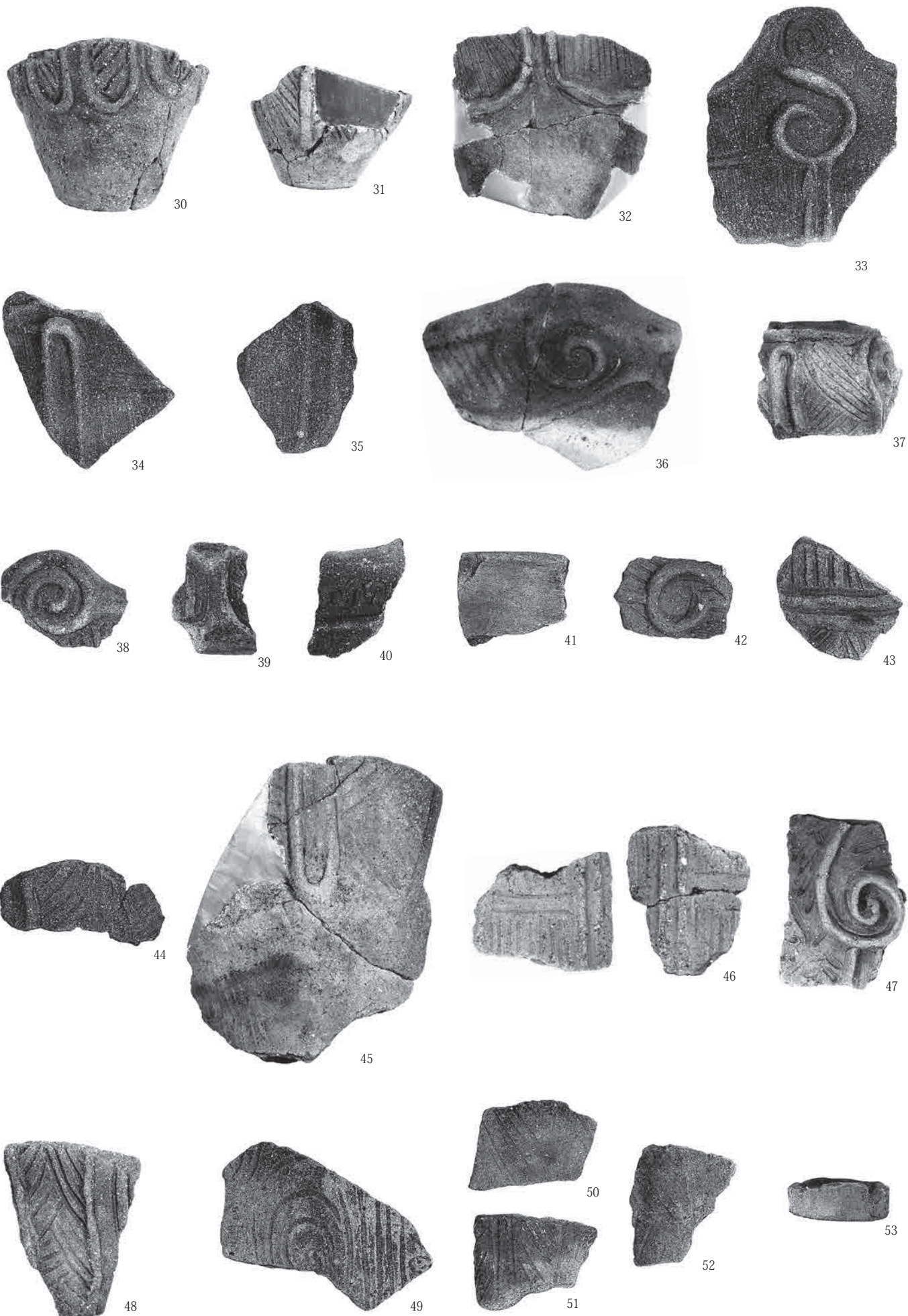
PL.60

61区12号住居跡



61区12号住居跡出土遺物(2)

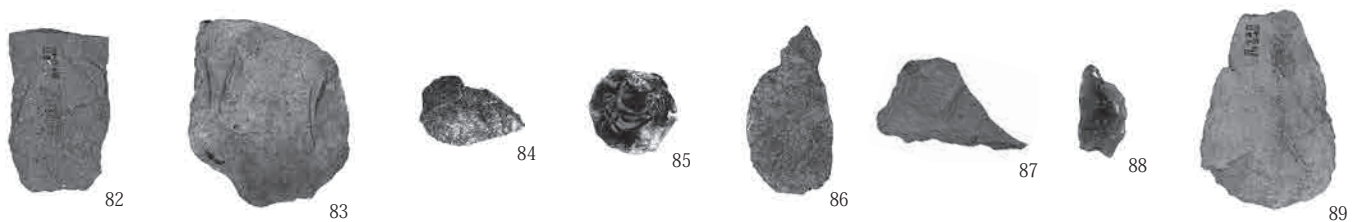
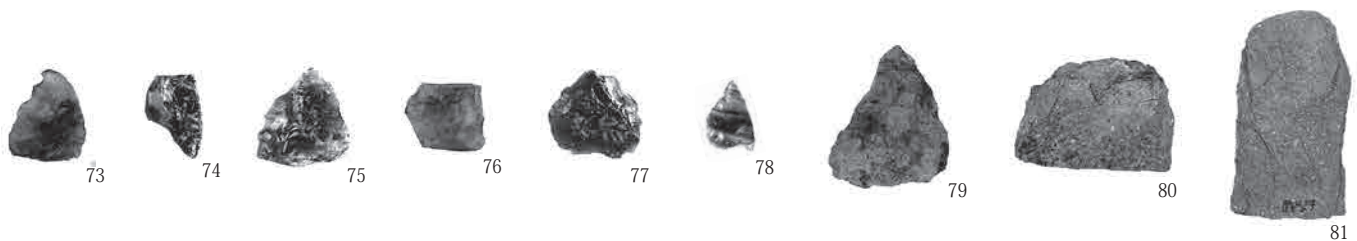
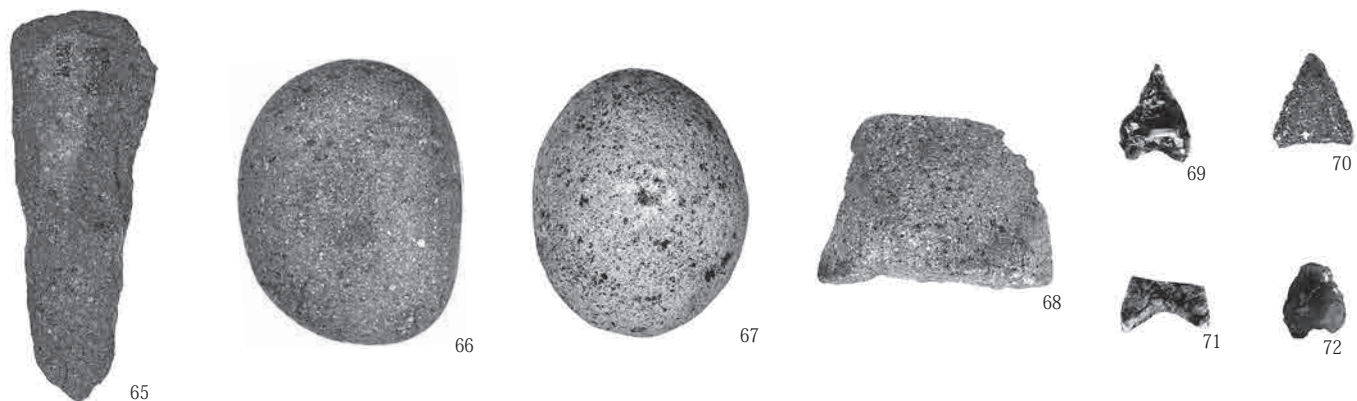
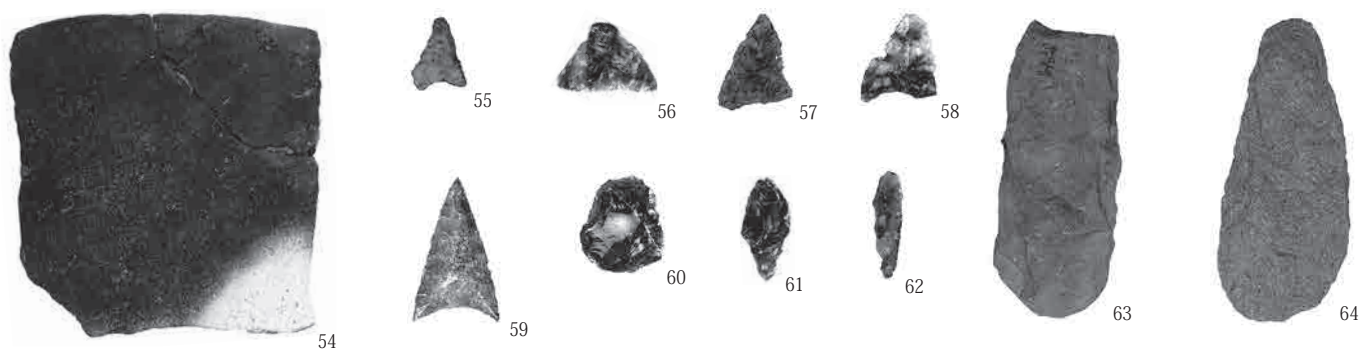
61区12号住居跡



61区12号住居跡出土遺物(3)

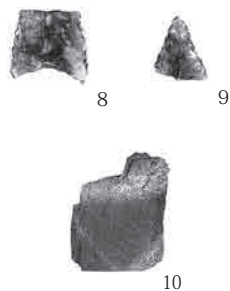
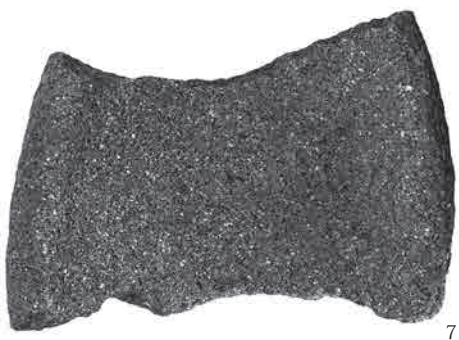
PL.62

61区12号住居跡

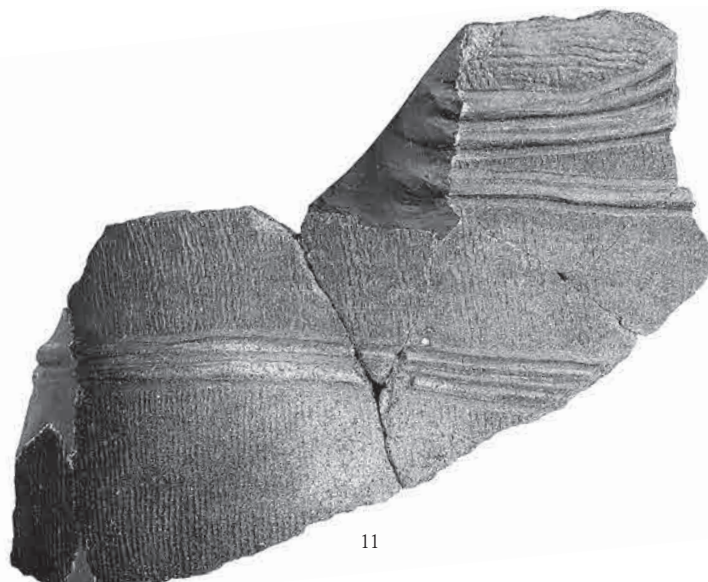
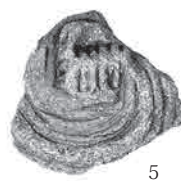
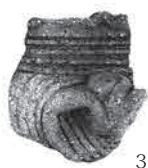


61区19号住居跡

61区16号住居跡



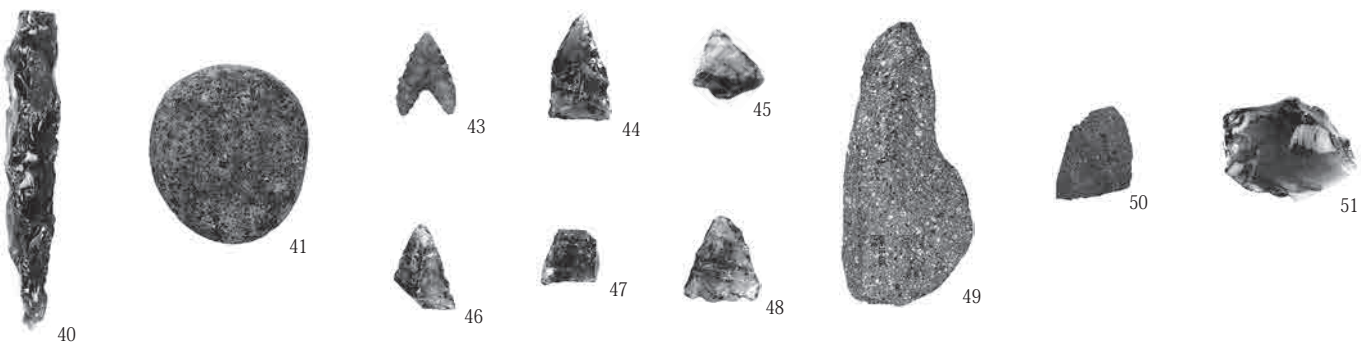
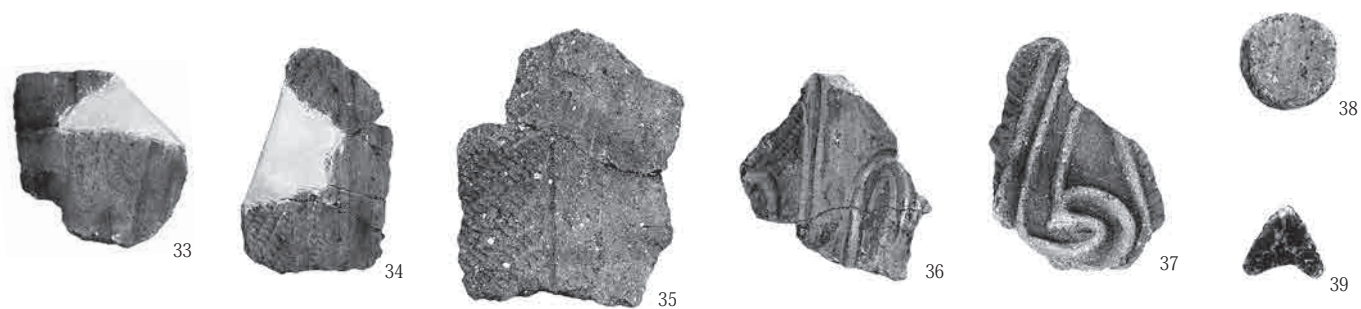
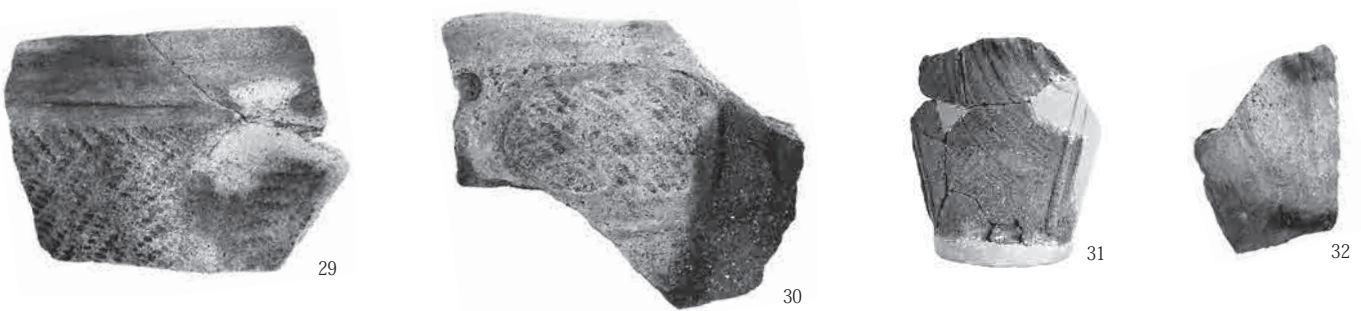
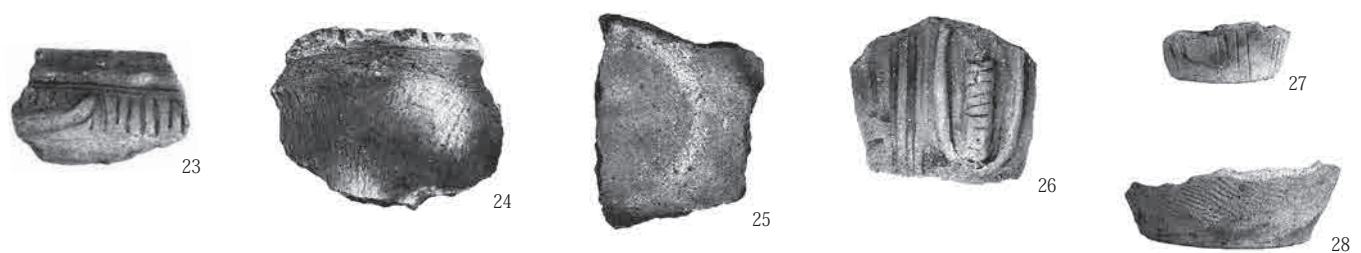
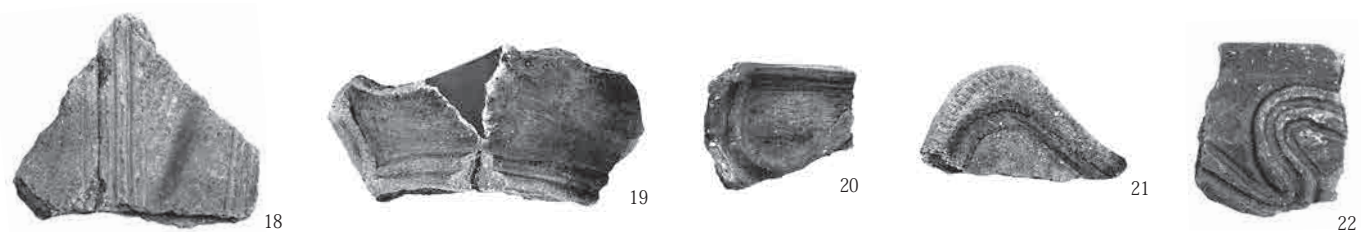
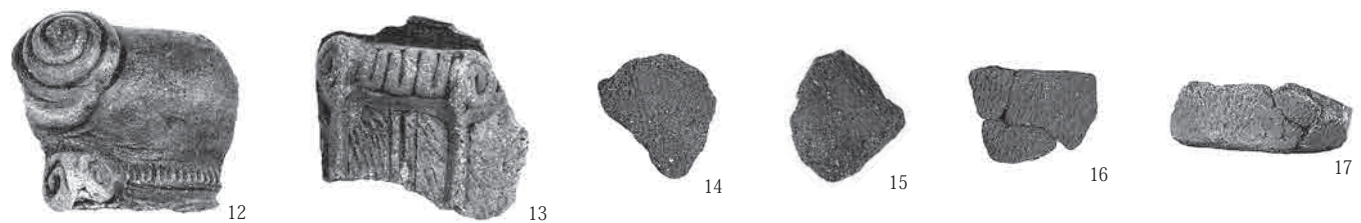
61区17号住居跡



61区16号住 17号住居跡(1)出土遺物

PL.64

61区17号住居跡

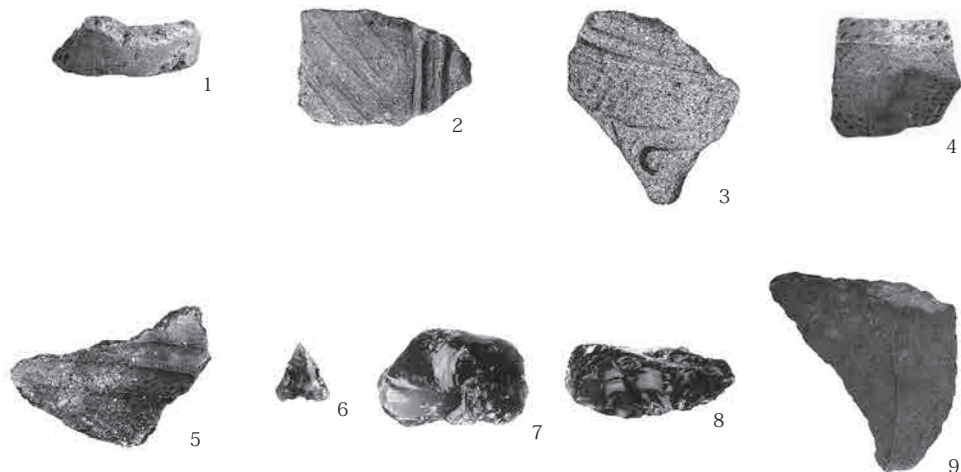


61区17号住居跡出土遺物(2)

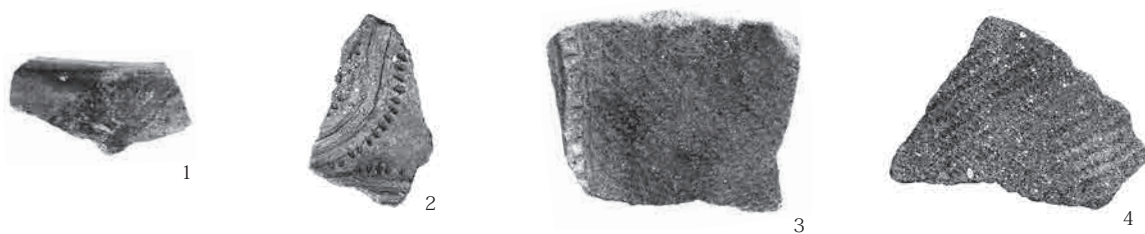
61区17号住居跡



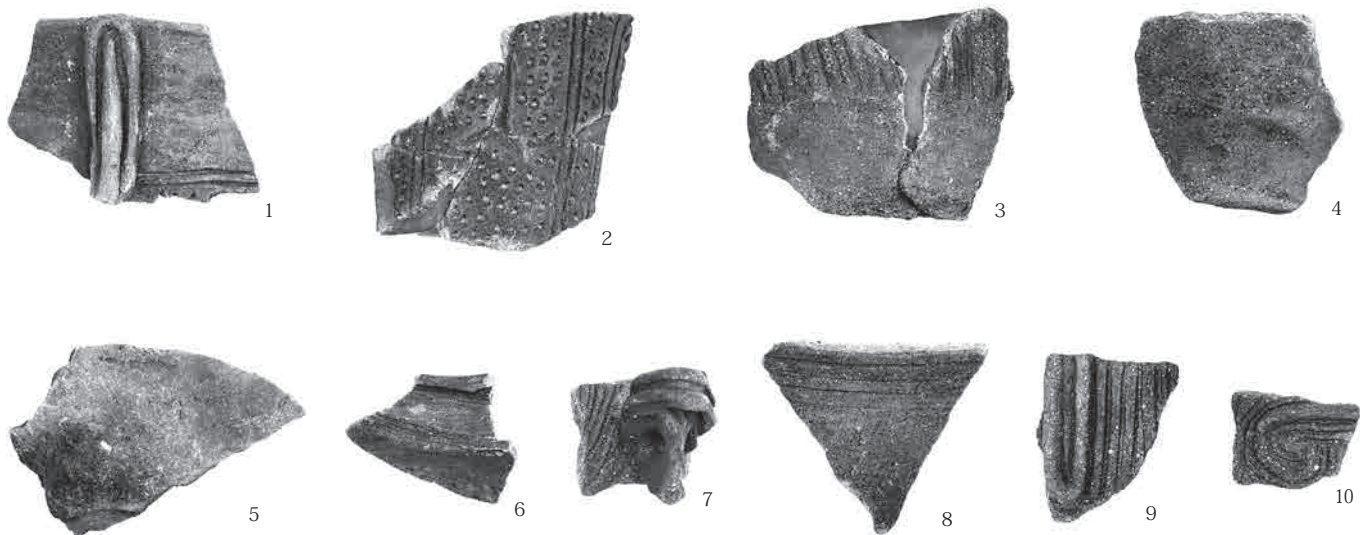
61区18号住居跡



61区20号住居跡



61区21号住居跡

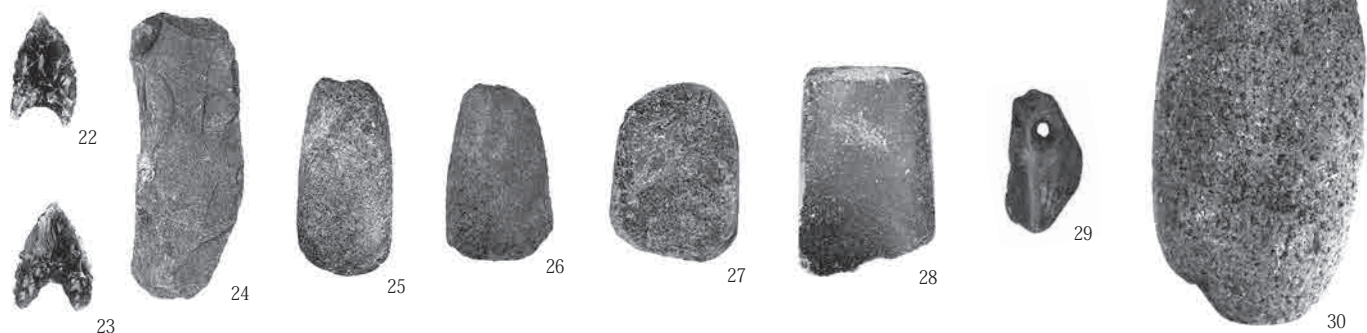
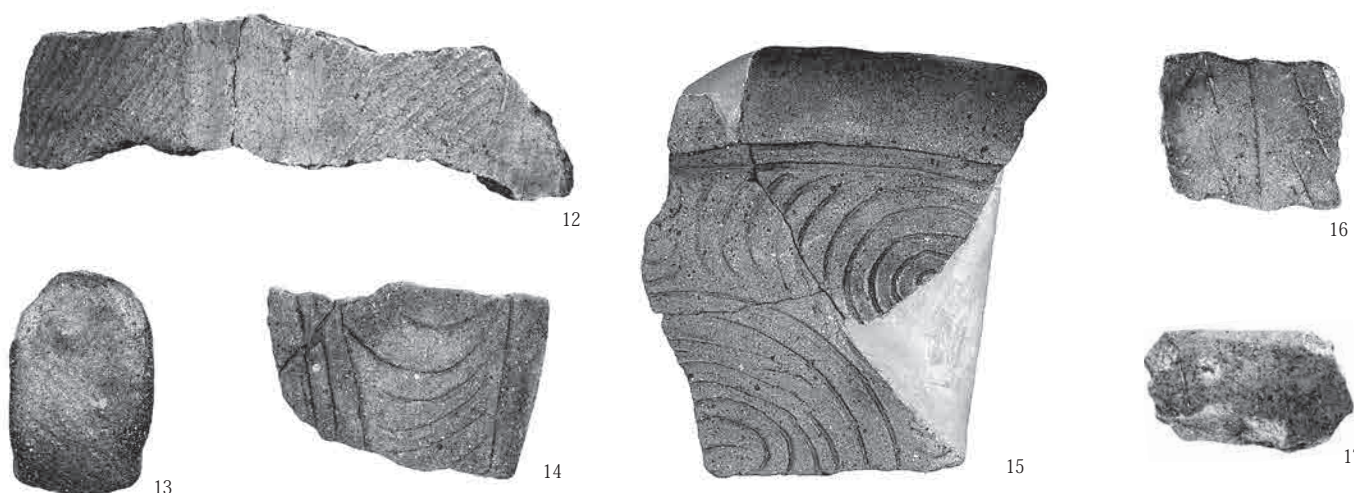
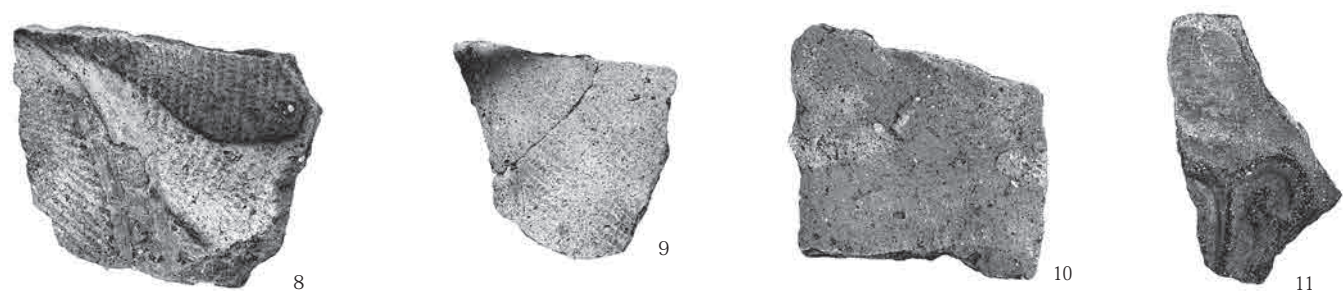


61区22号住居跡



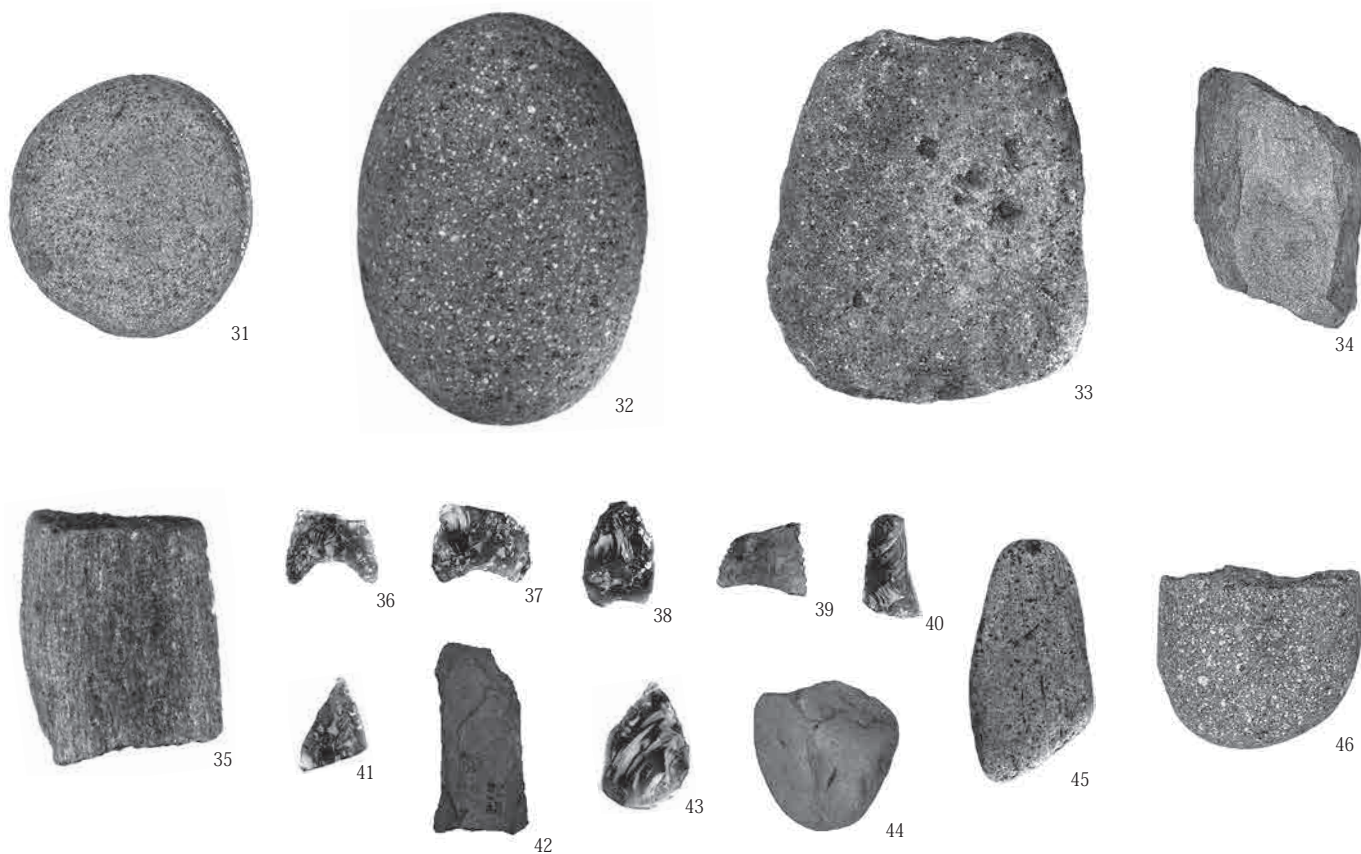
PL.66

61区22号住居跡

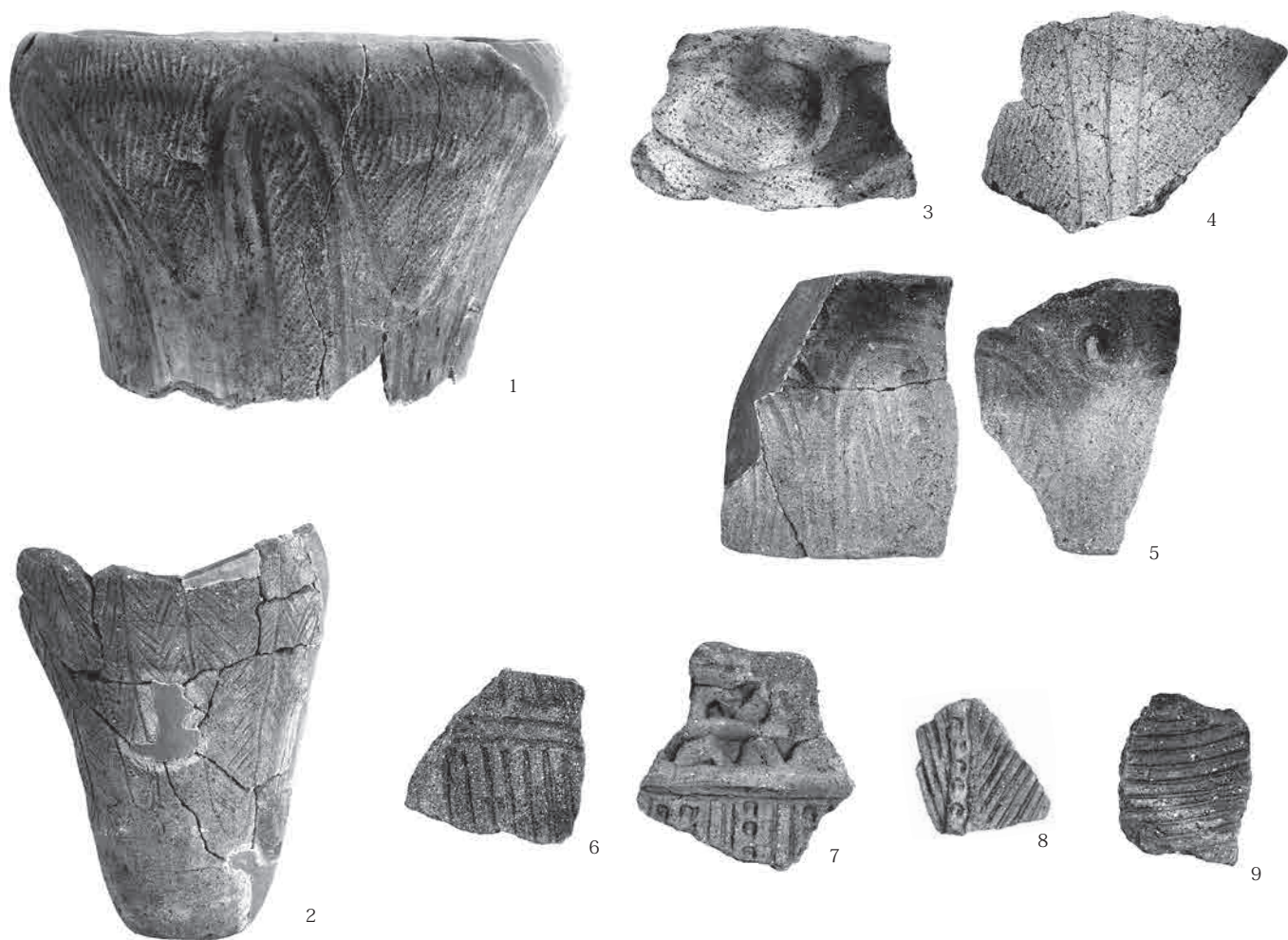


61区22号住居跡(2)出土遺物

61区22号住居跡



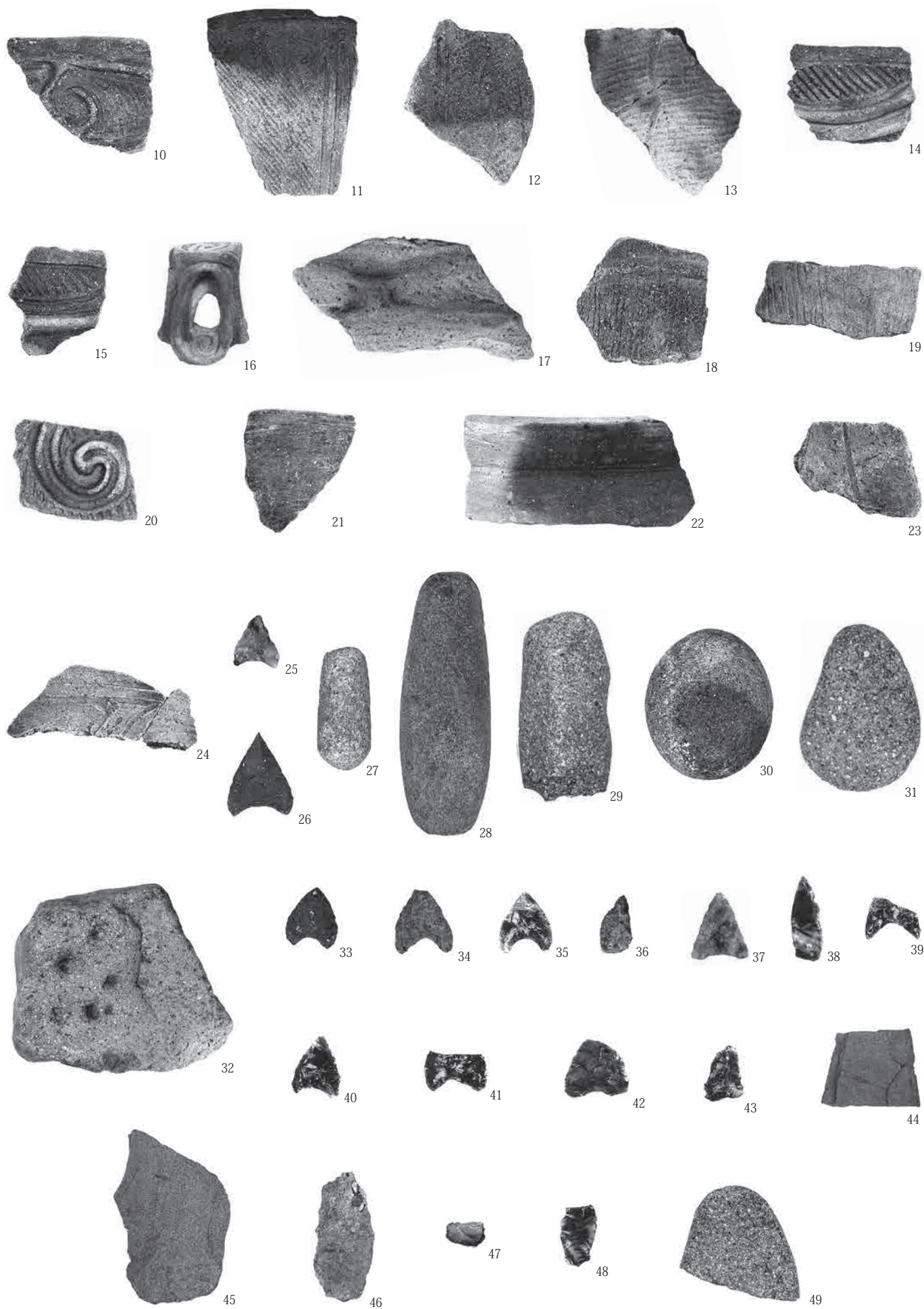
61区23号住居跡



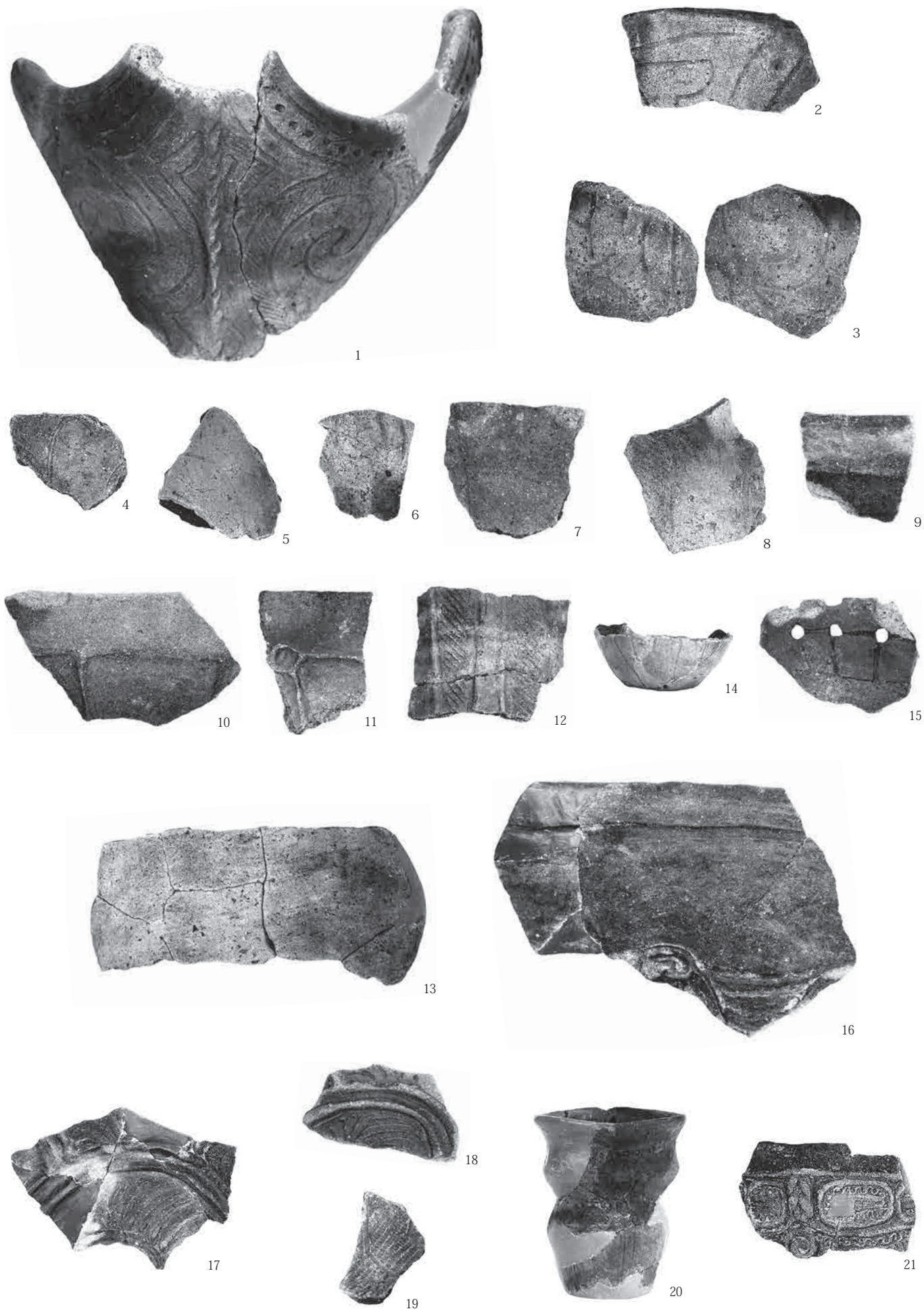
61区22号住(3) 23号住居跡(1)出土遺物

PL.68

61区23号住居跡



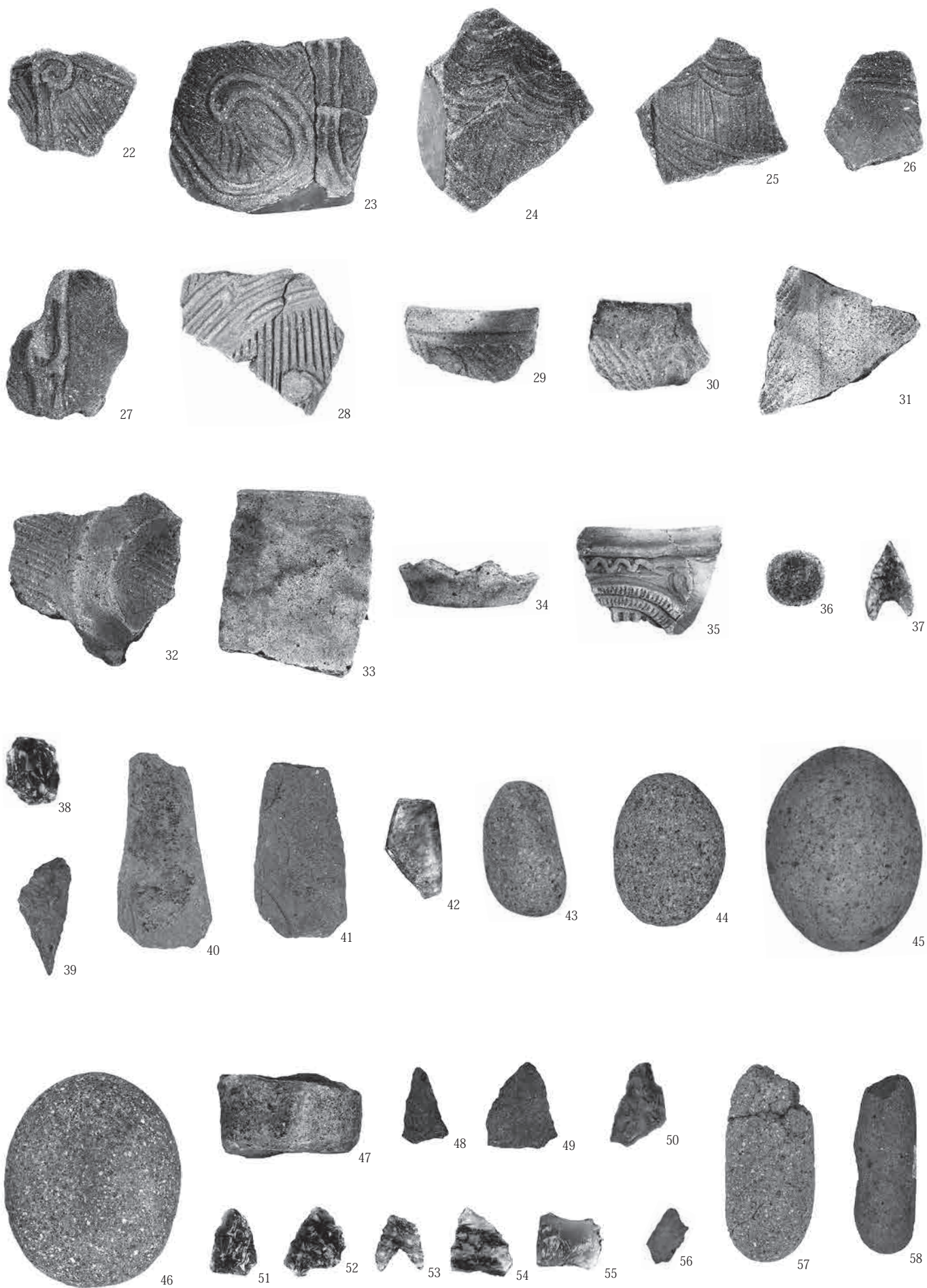
61区23号住居跡出土遺物(2)



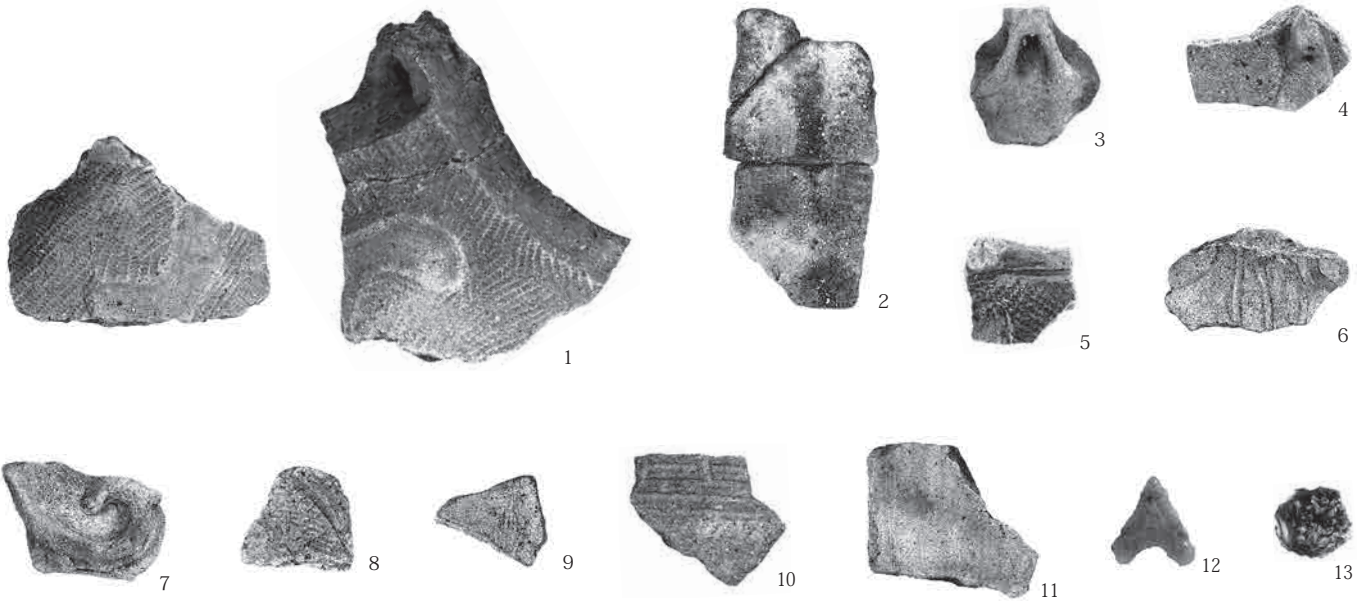
61区24号住居跡出土遺物(1)

PL.70

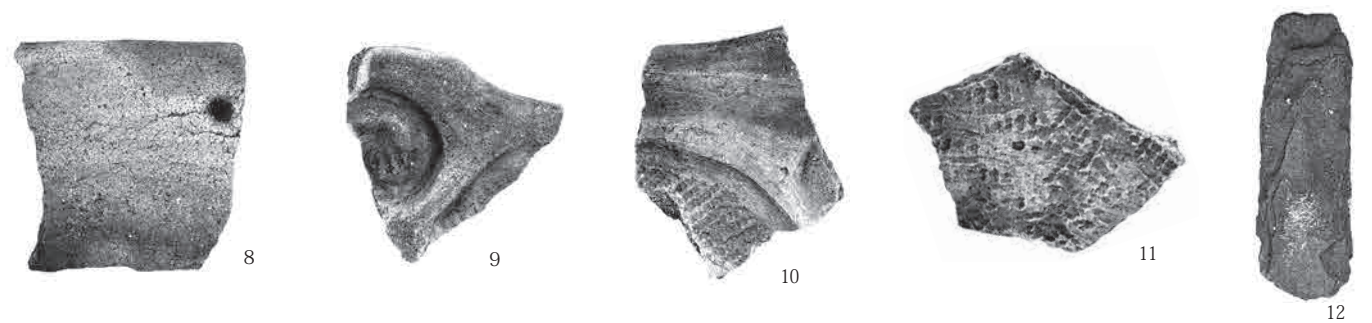
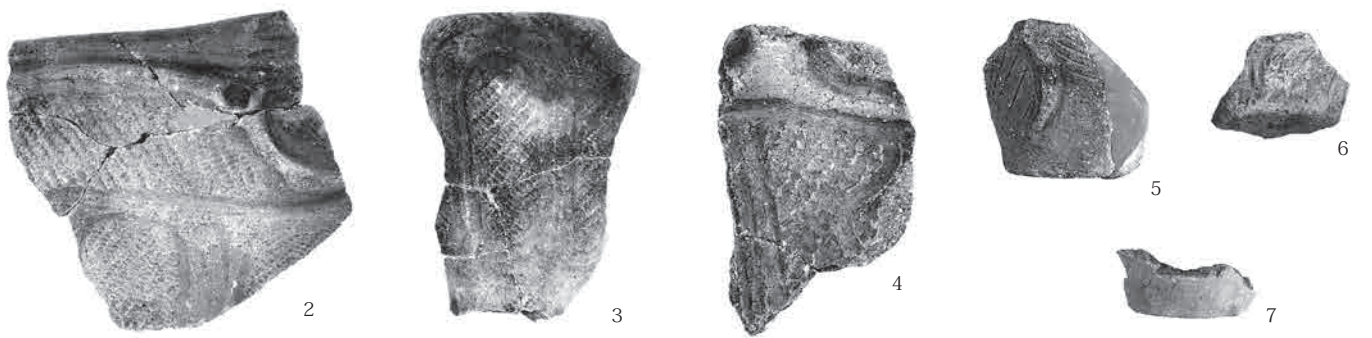
61区24号住居跡



61区26号住居跡



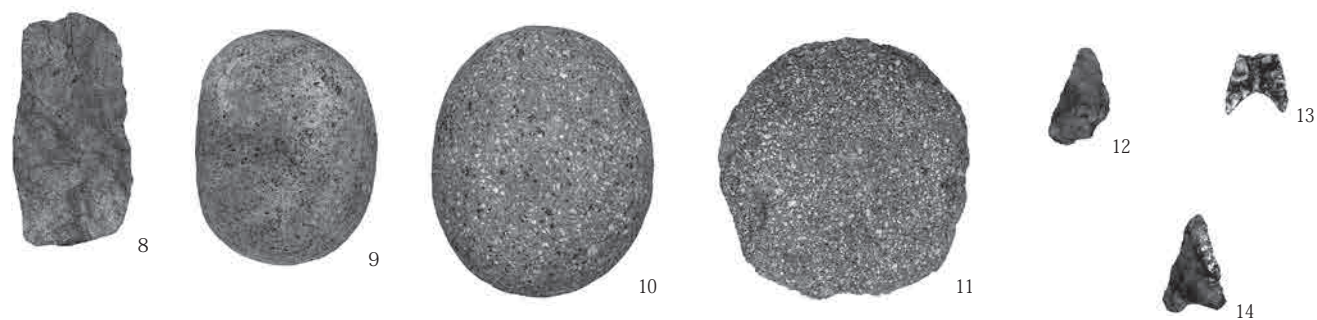
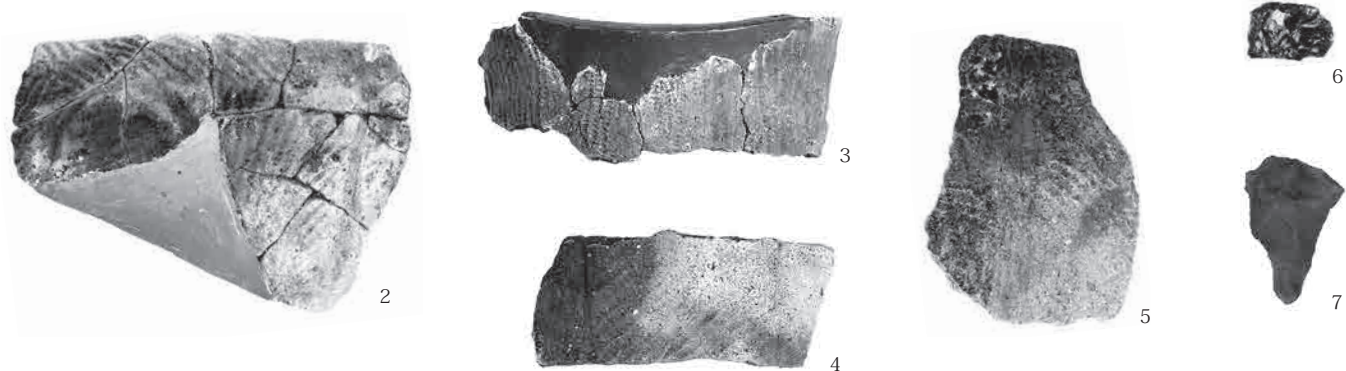
61区27号住居跡



PL.72

61区27号住居跡

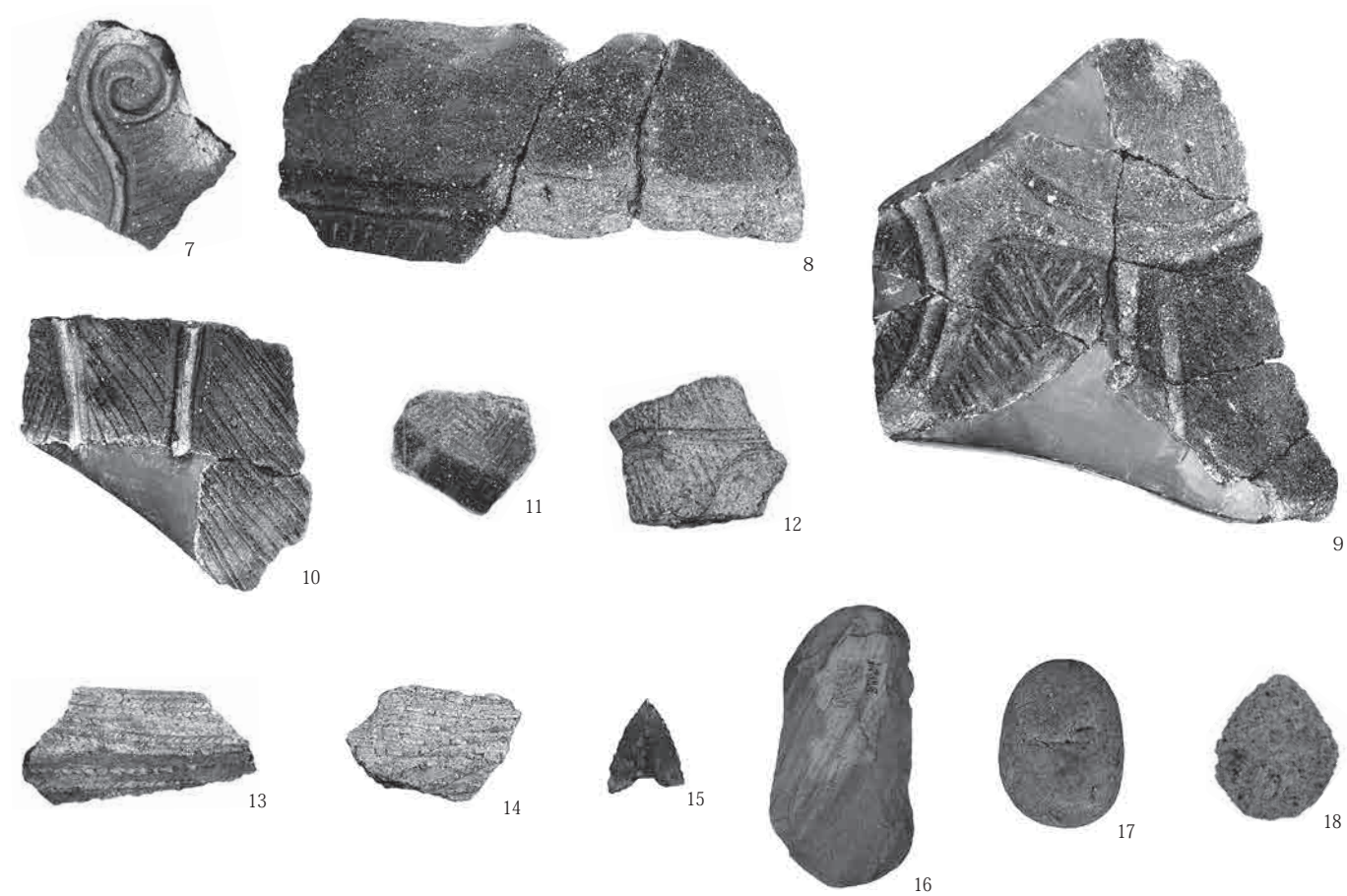
61区28号住居跡



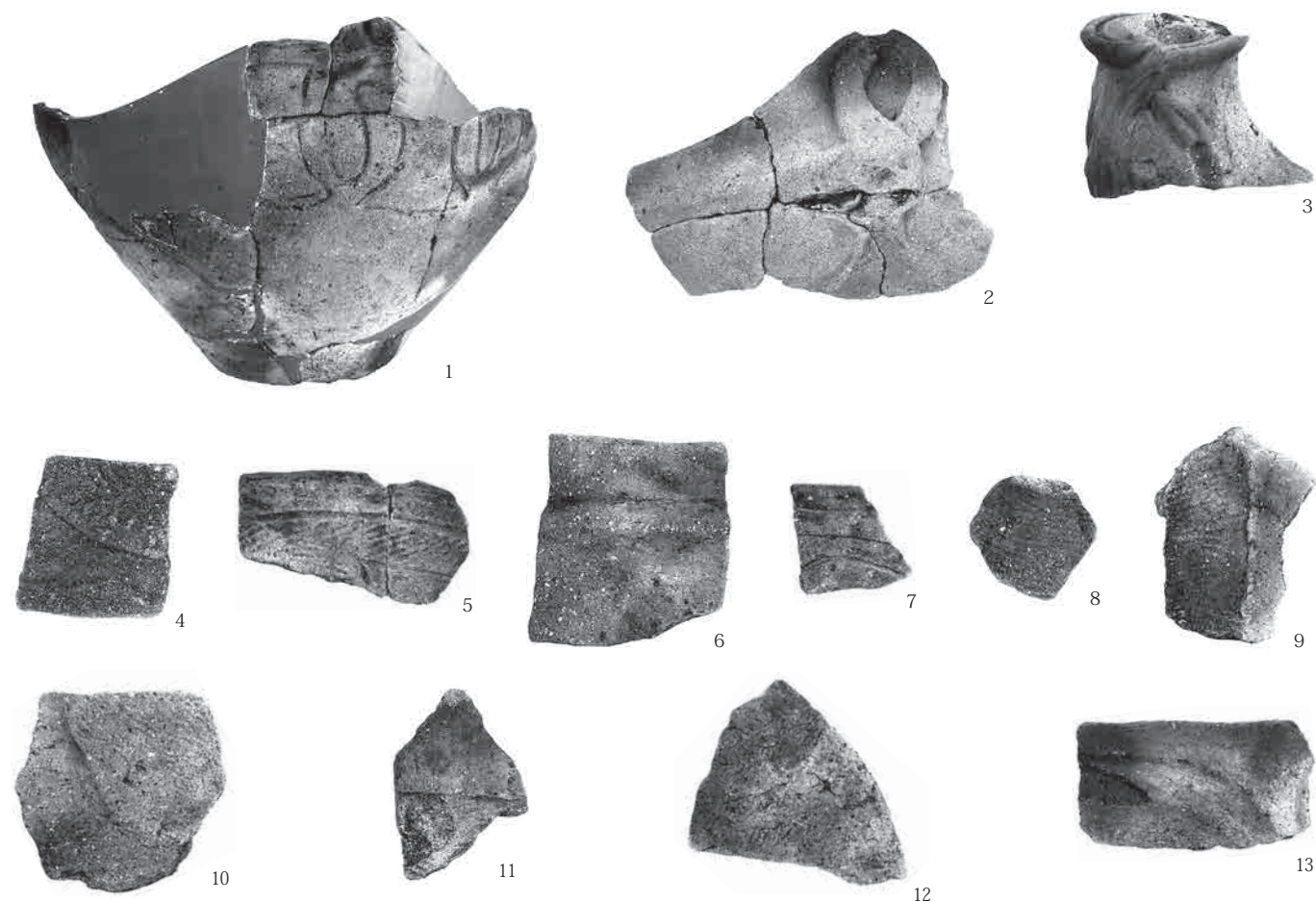
61区29号住居跡



61区29号住居跡



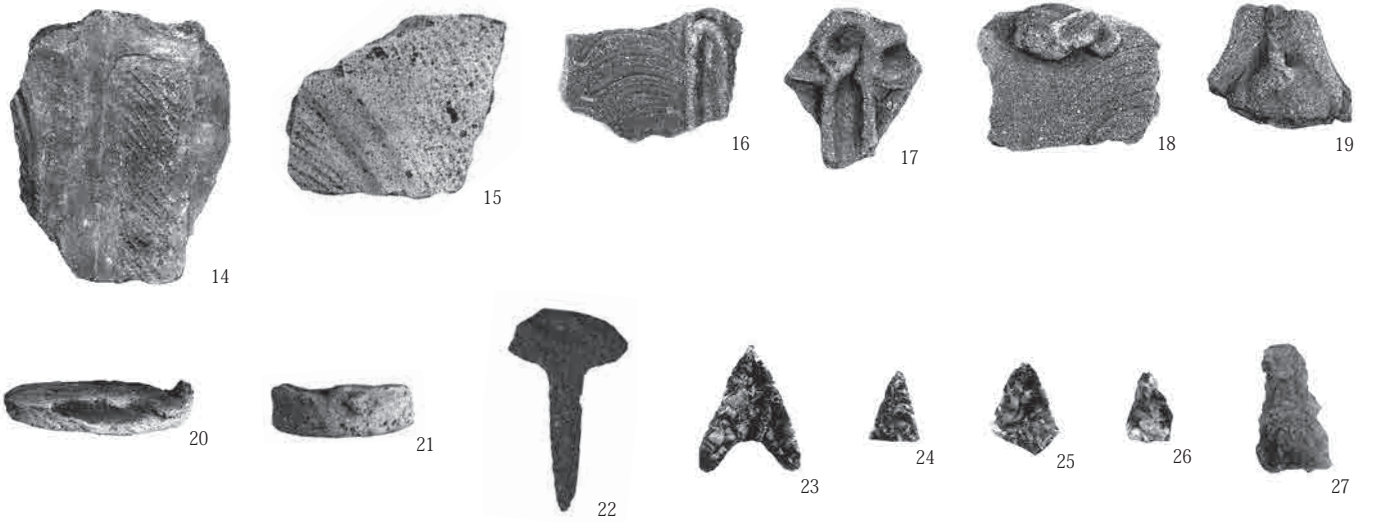
61区30号住居跡



61区29号住(2) 30号住居跡(1)出土遺物

PL.74

61区30号住居跡



61区31号住居跡



61区32号住居跡







6



13



14



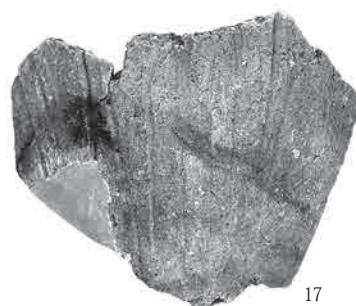
15



16

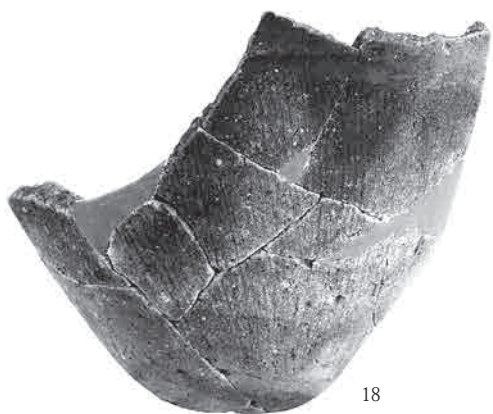


12



17

61区32号住居跡



18



19



20



21



22



23



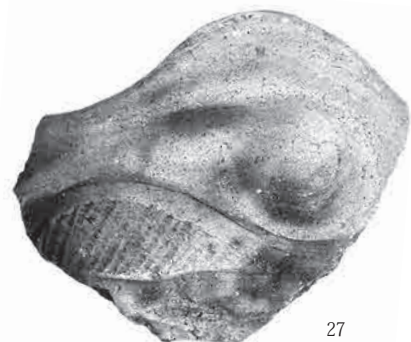
24



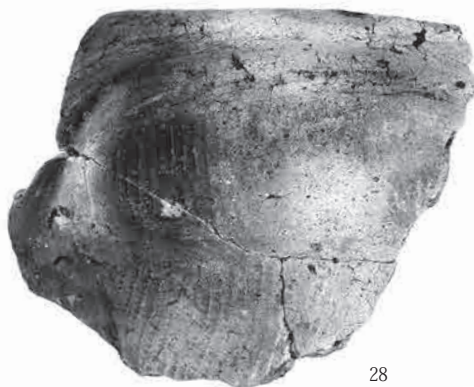
25



26



27



28



29



30



31



32

PL.78

61区32号住居跡



61区32号住居跡



52



53



54



55



56



57



58



59



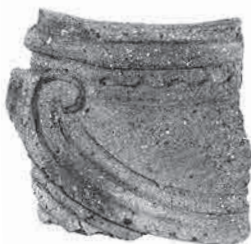
60



61



62



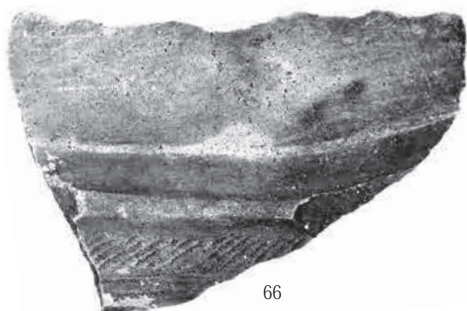
63



64



65



66



67



68



69



70



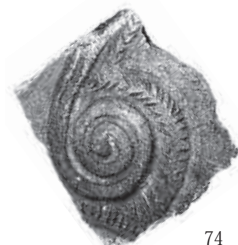
71



72



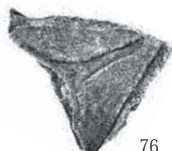
73



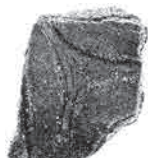
74



75



76



77



78



79



80



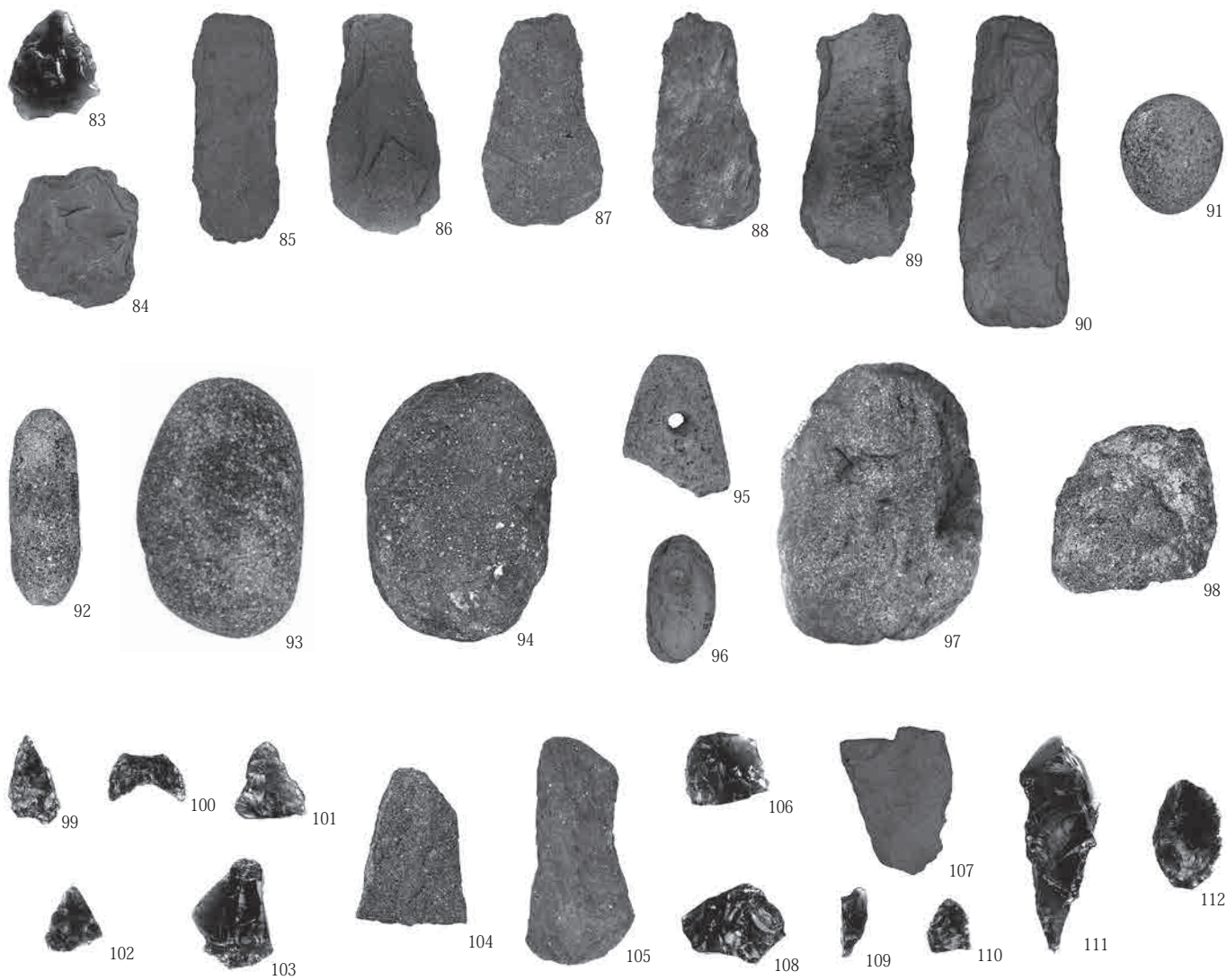
81



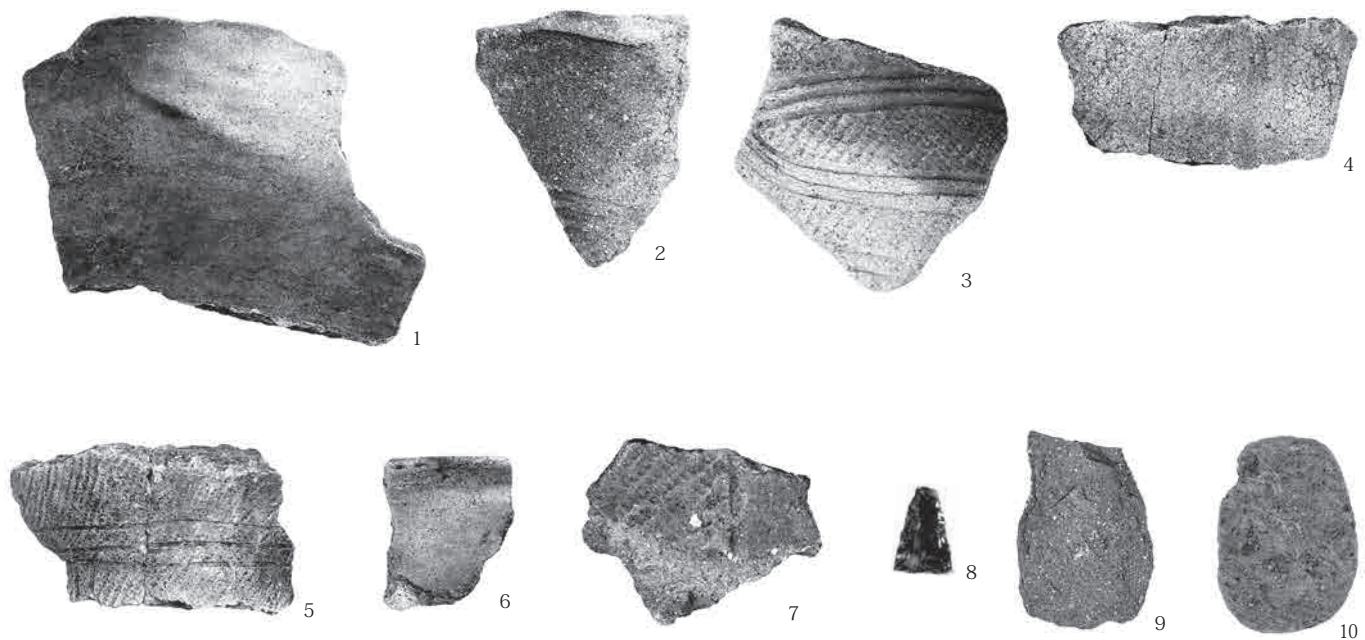
82

PL.80

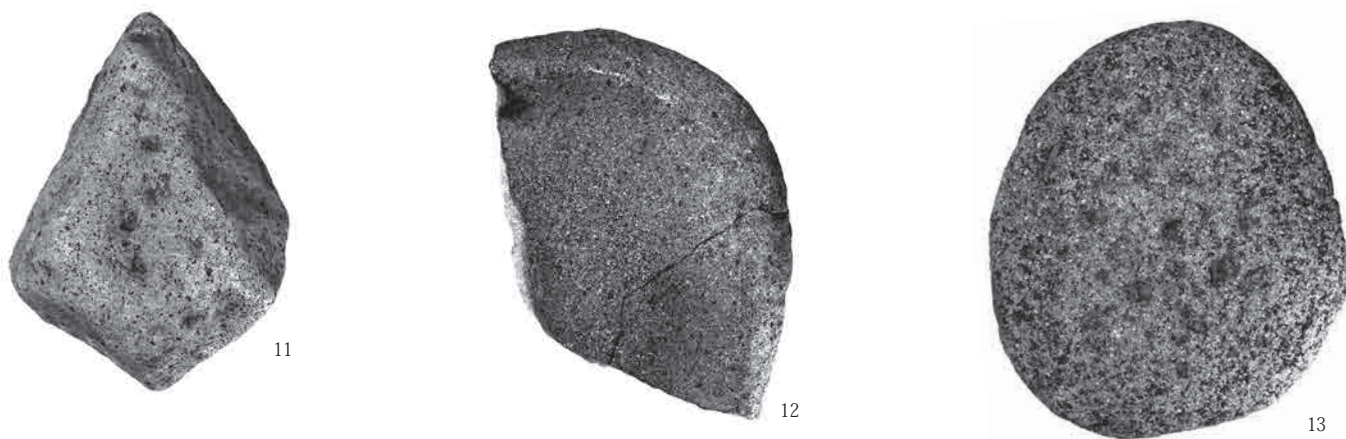
61区32号住居跡



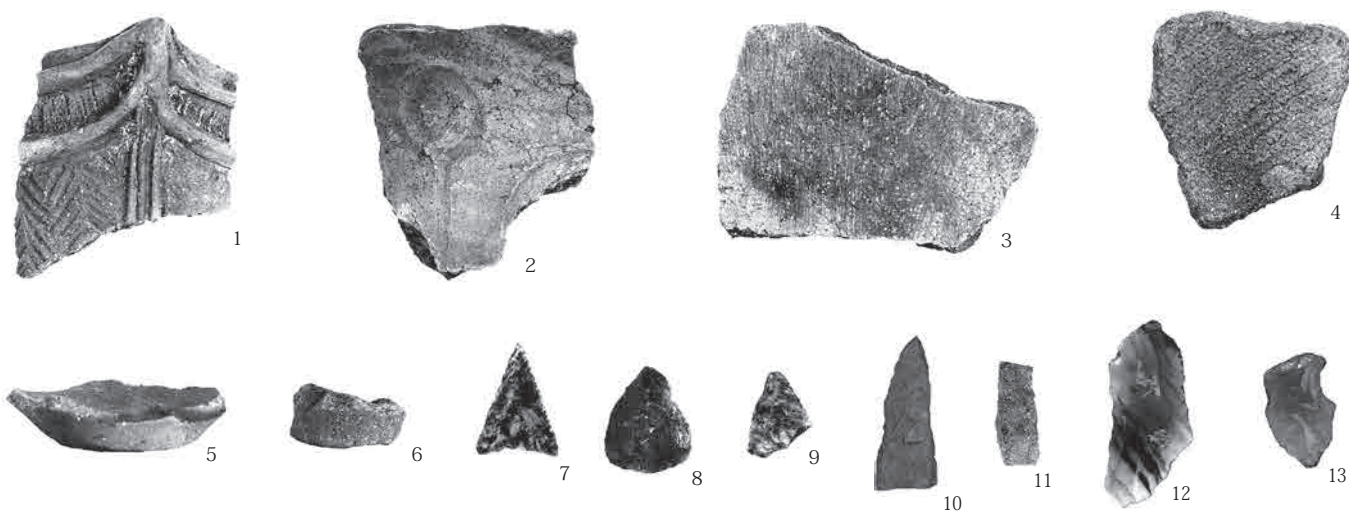
61区33号住居跡



61区33号住居跡



61区34号住居跡



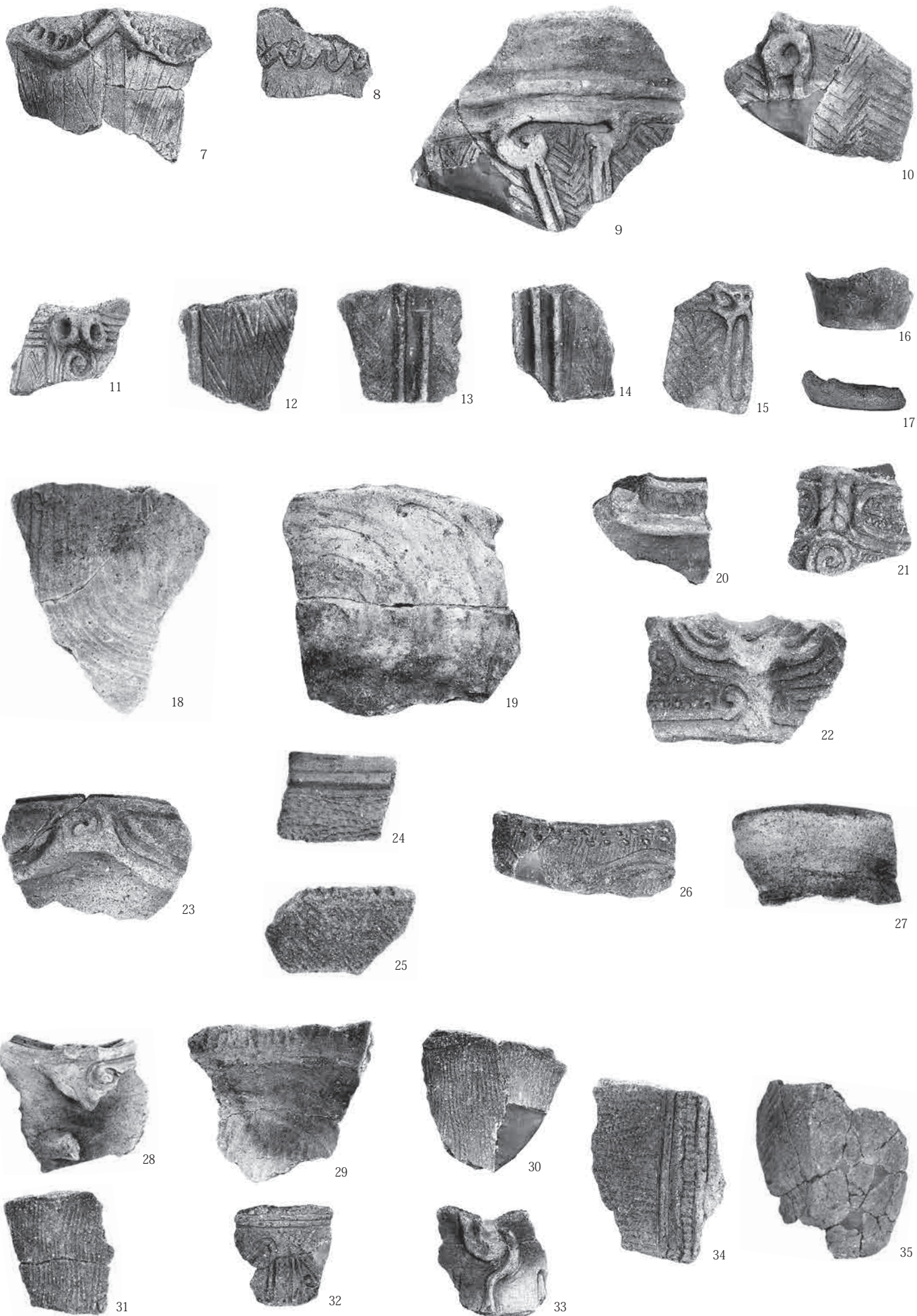
61区35号住居跡



61区33～35号住居跡(1)出土遺物

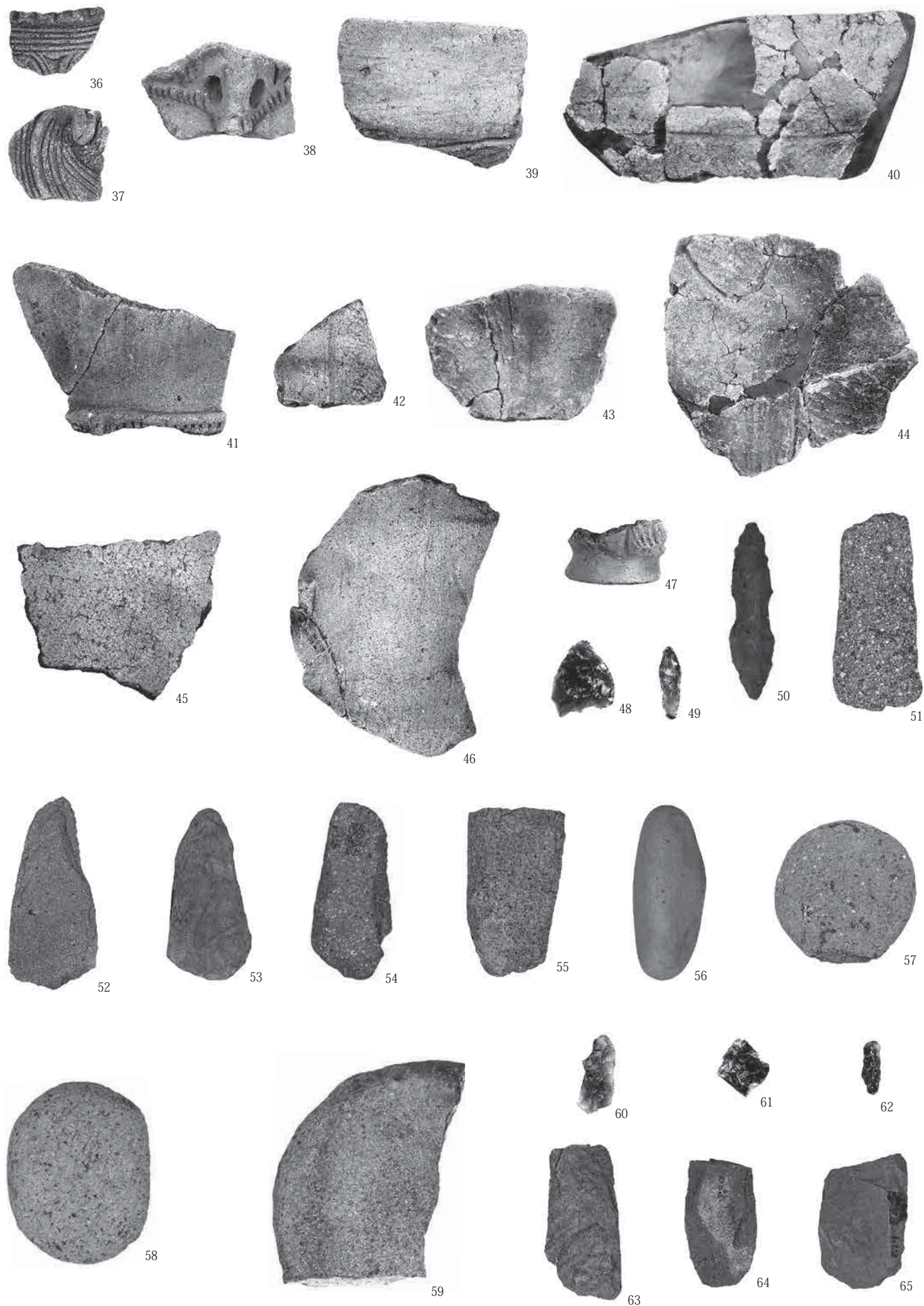
PL.82

61区35号住居跡



61区35号住居跡出土遺物(2)

61区35号住居跡



61区35号住居跡出土遺物(3)

PL.84

61区35号住居跡



66



67



68

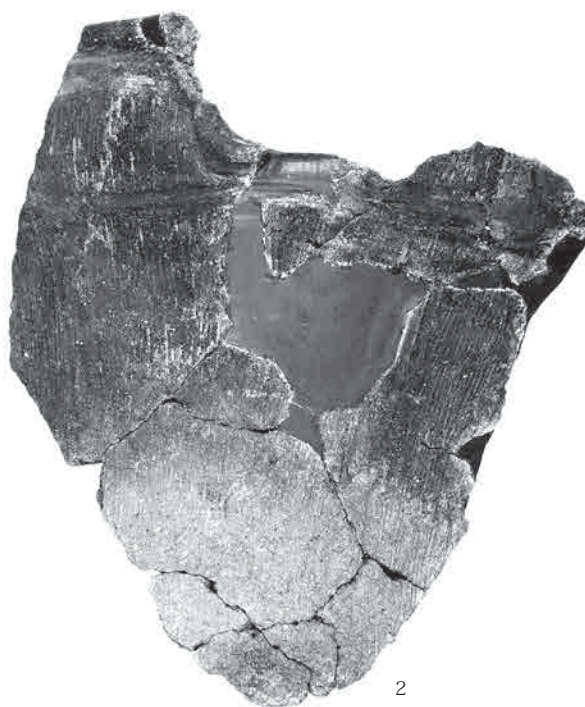


69

61区36号住居跡



1



2



3



4



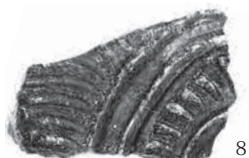
5



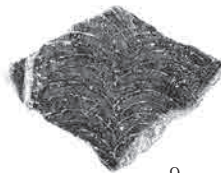
6



7



8



9



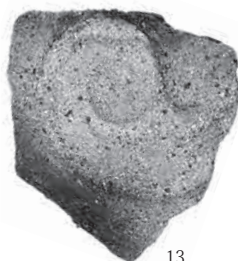
10



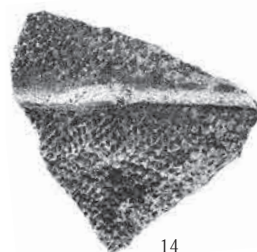
11



12



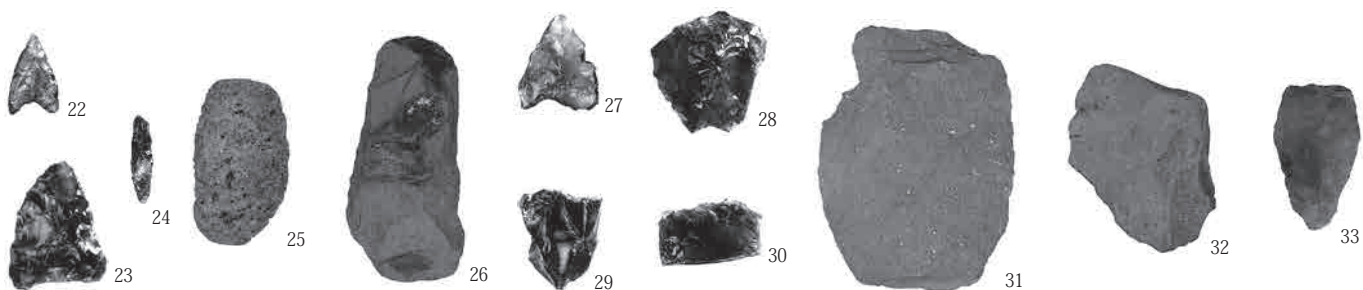
13



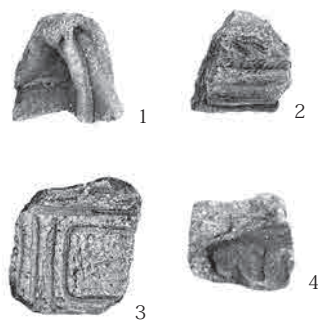
14

61区35号住(4) 36号住居跡(1)出土遺物

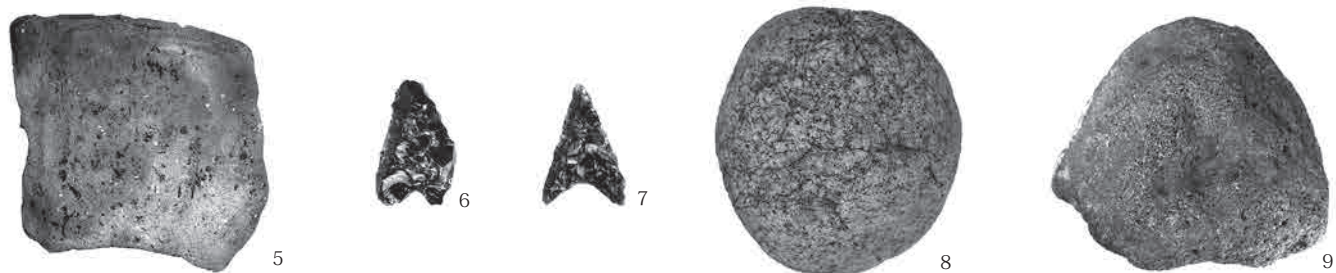
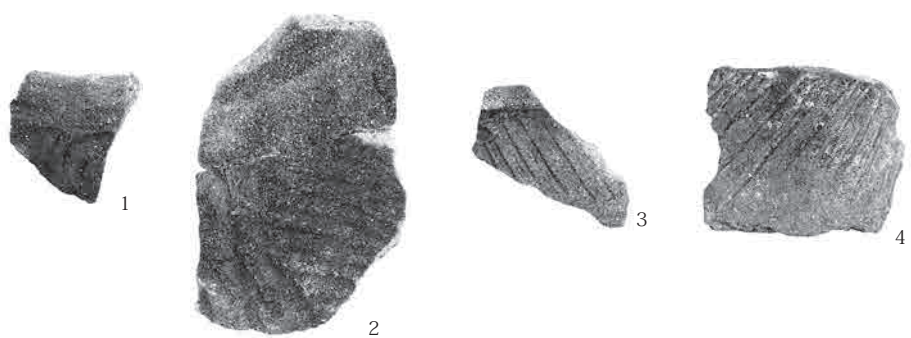
61区36号住居跡

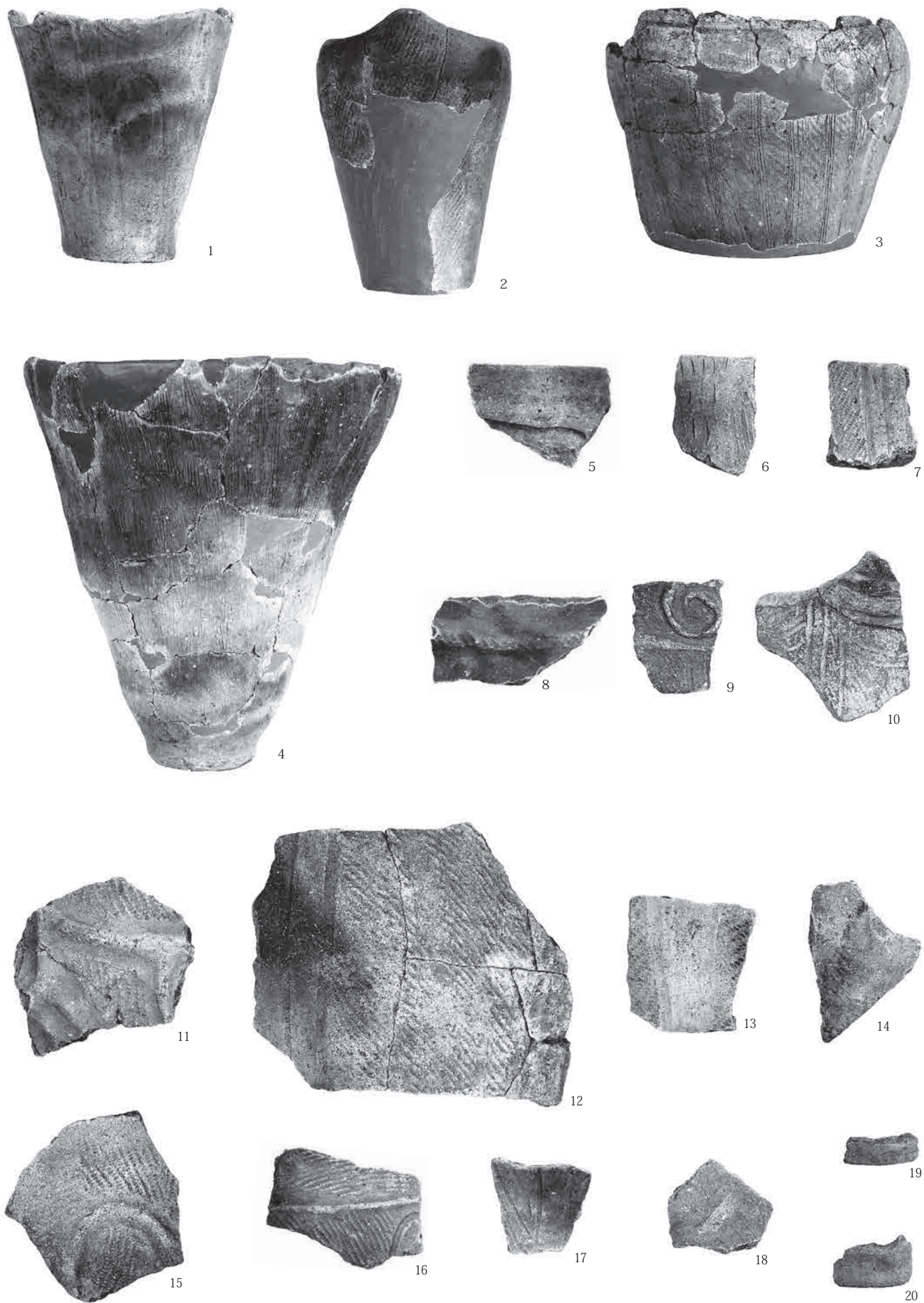


61区37号住居跡



61区38号住居跡





61区39号住居跡出土遺物(1)

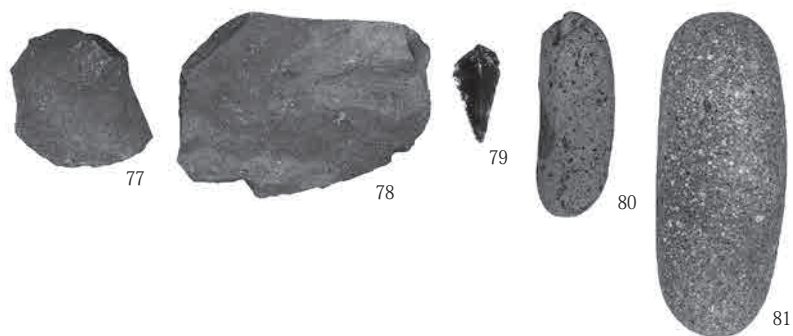
61区39号住居



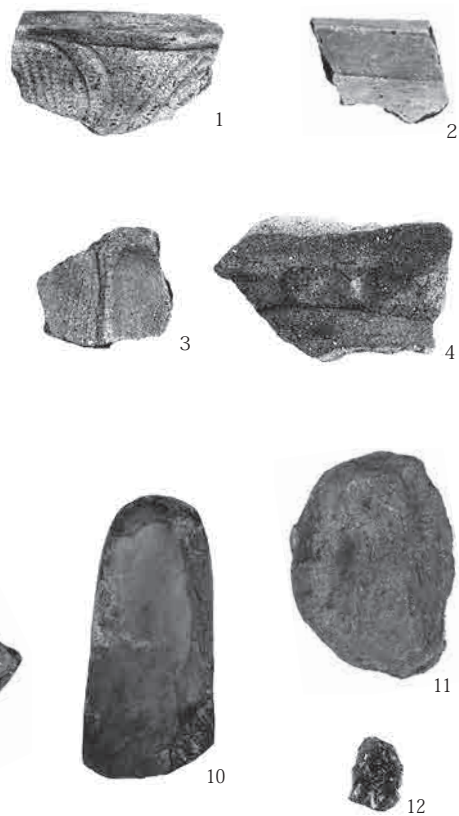
61区39号住居跡出土遺物(2)

PL.88

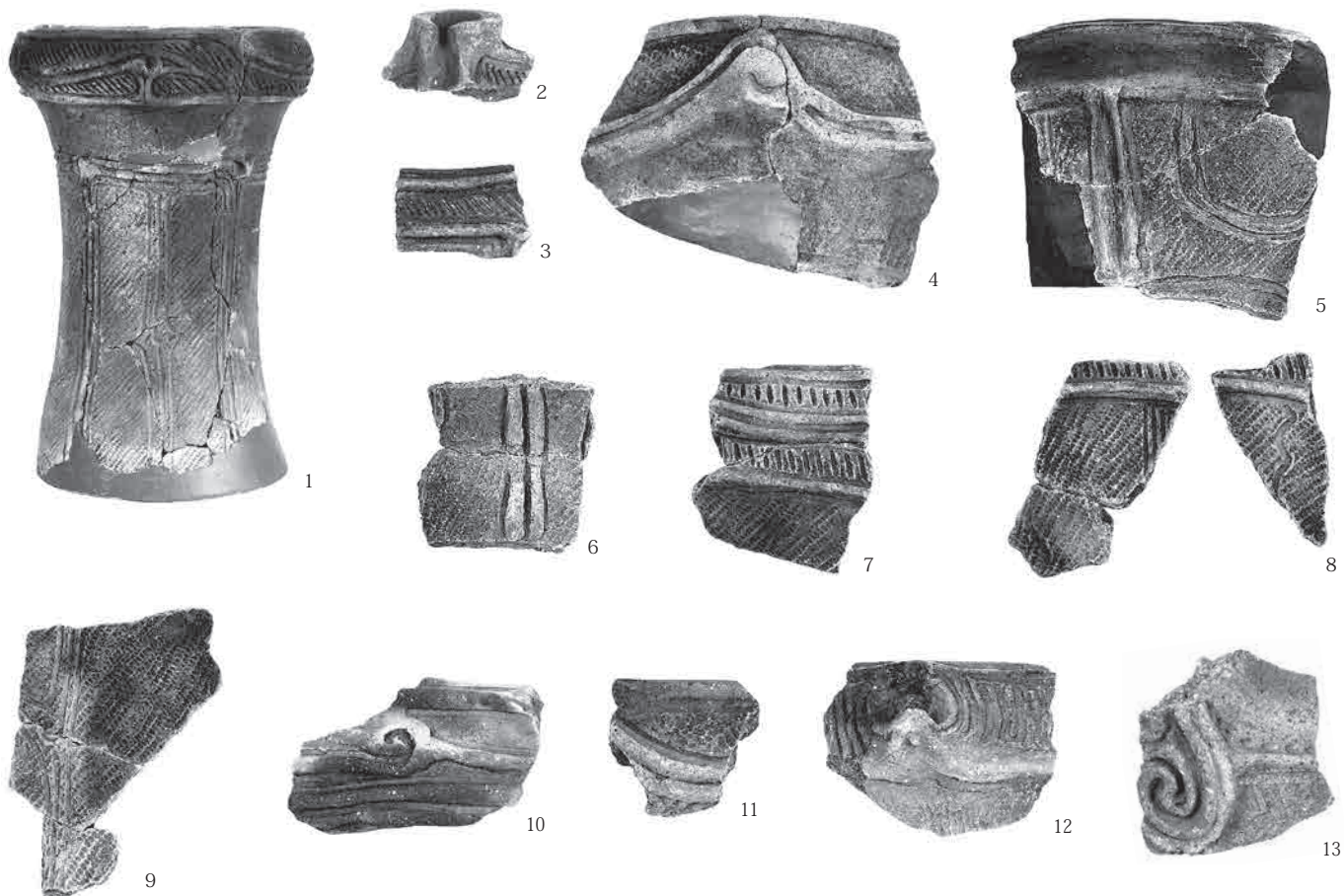
61区39号住居



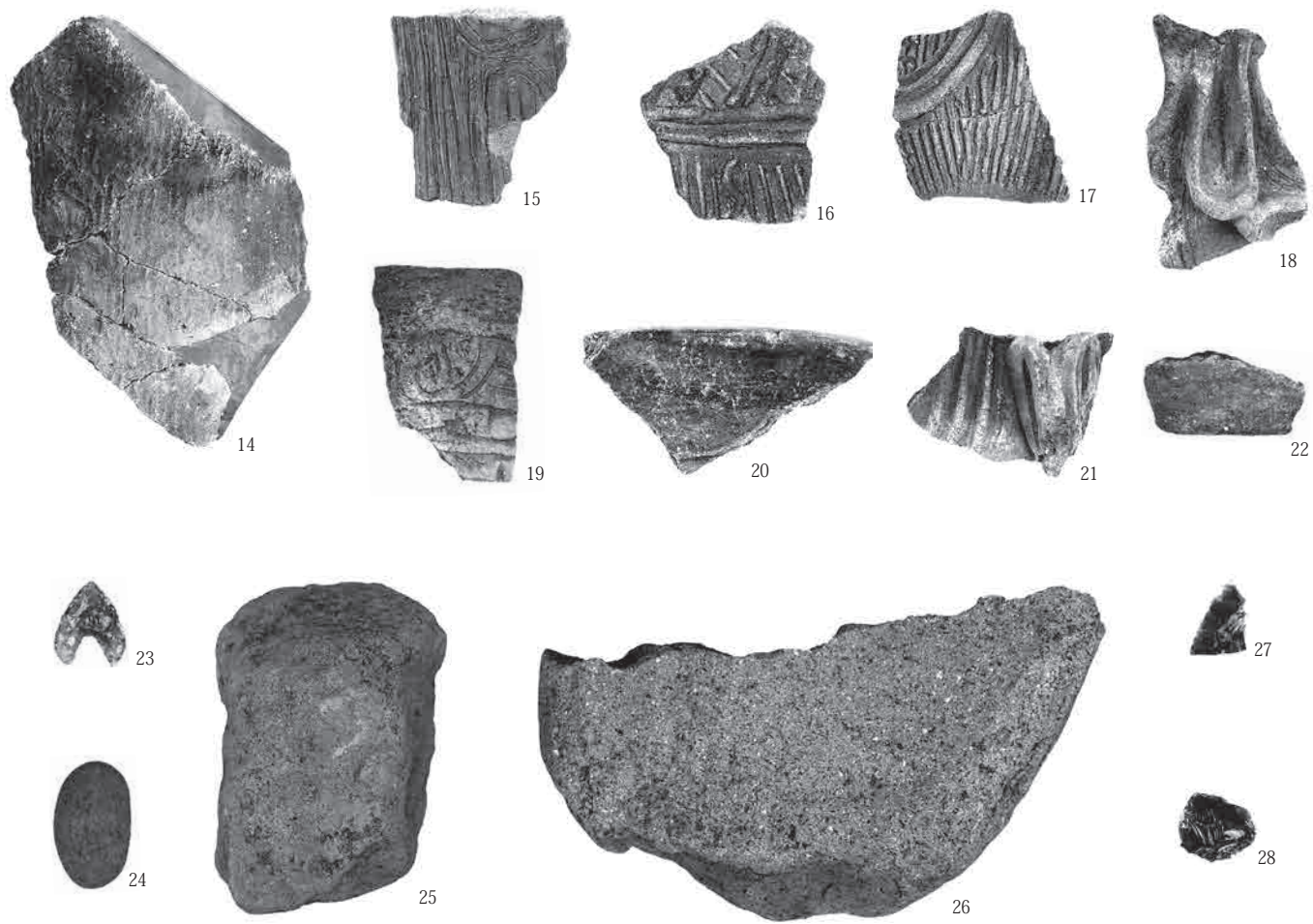
61区41号住居



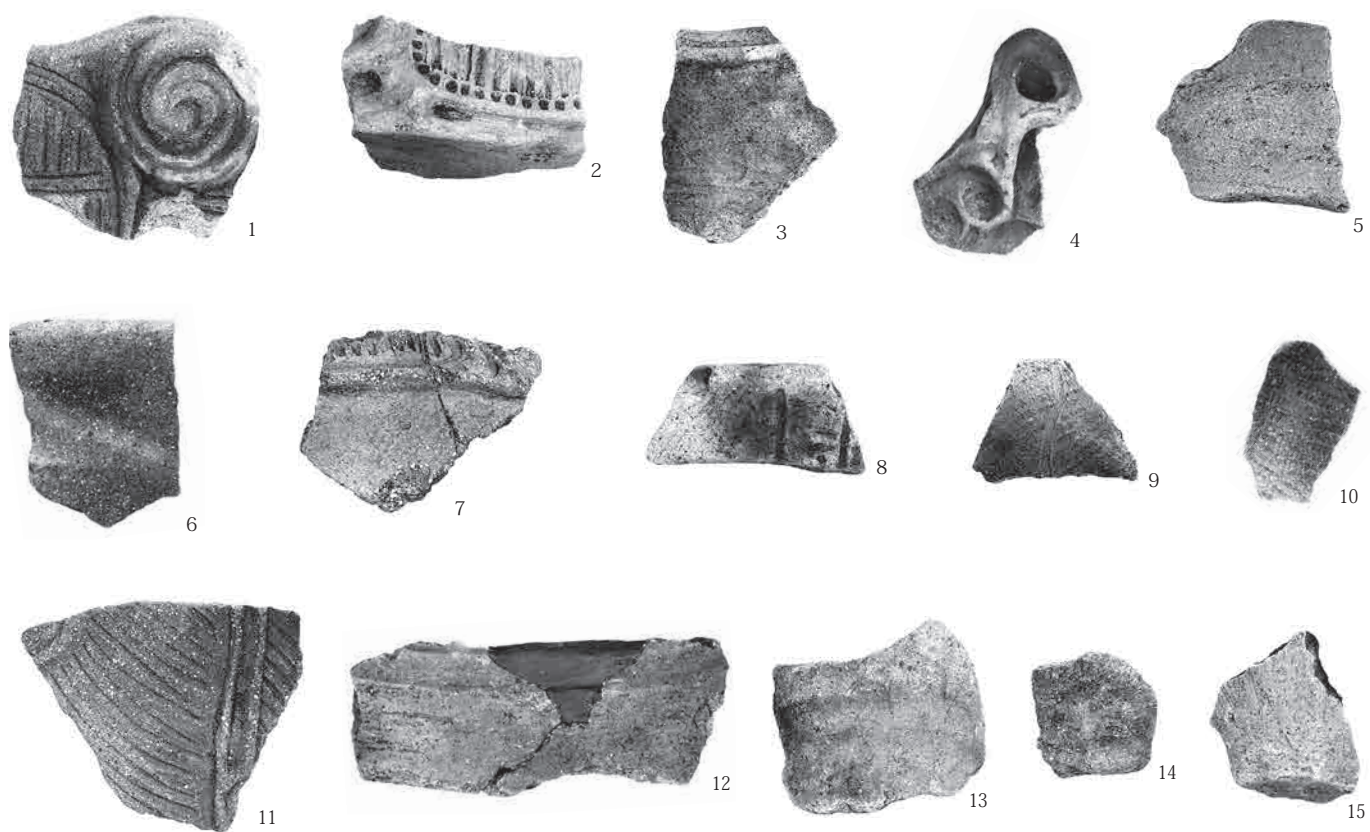
61区42号住居



61区42号住居



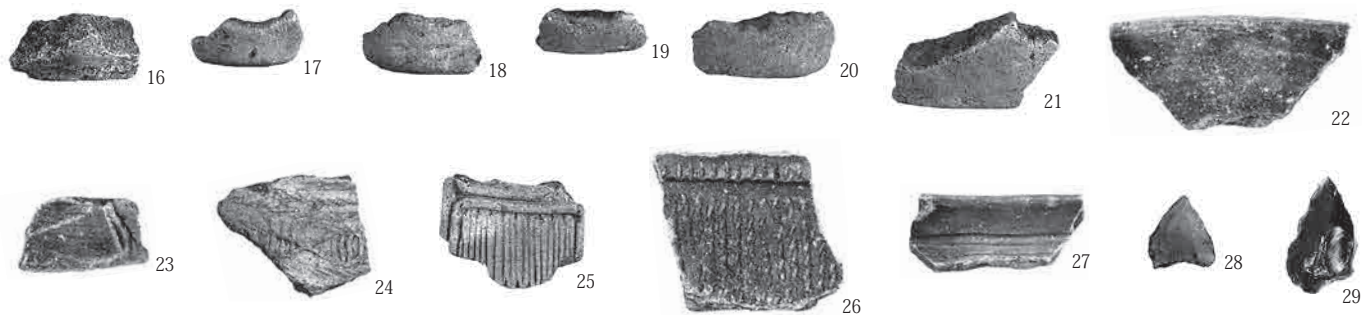
61区43号住居



61区42号住(2) 43号住居跡(1)出土遺物

PL.90

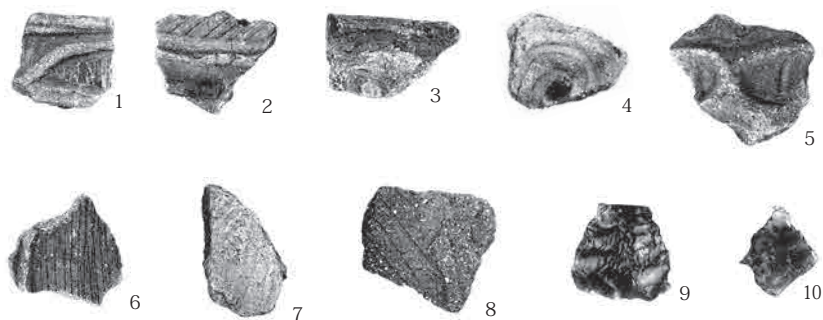
61区43号住居



61区44号住居



61区45号住居



61区46号住居

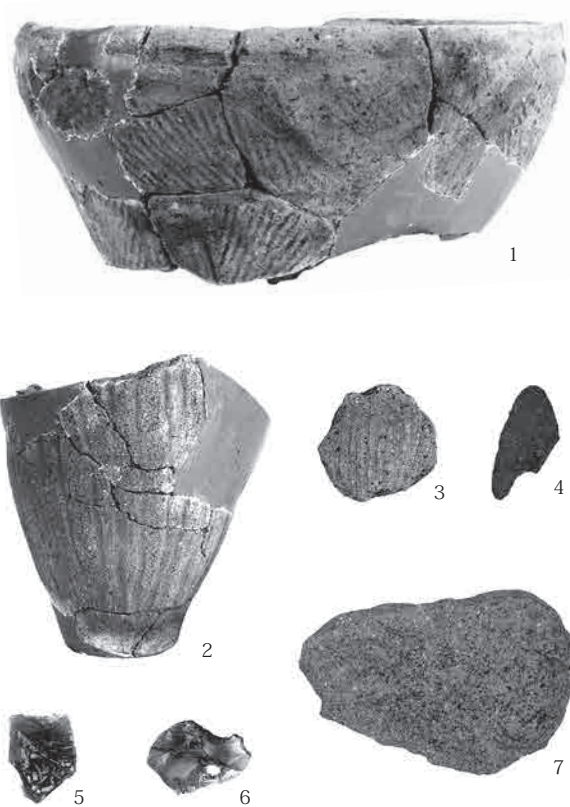


61区43号住(2) 44~46号住居迹(1)出土遺物

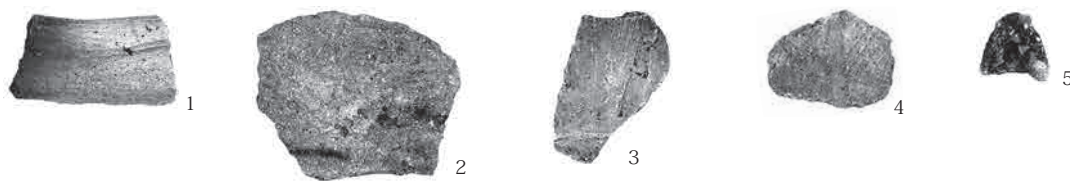
61区46号住居



61区47号住居



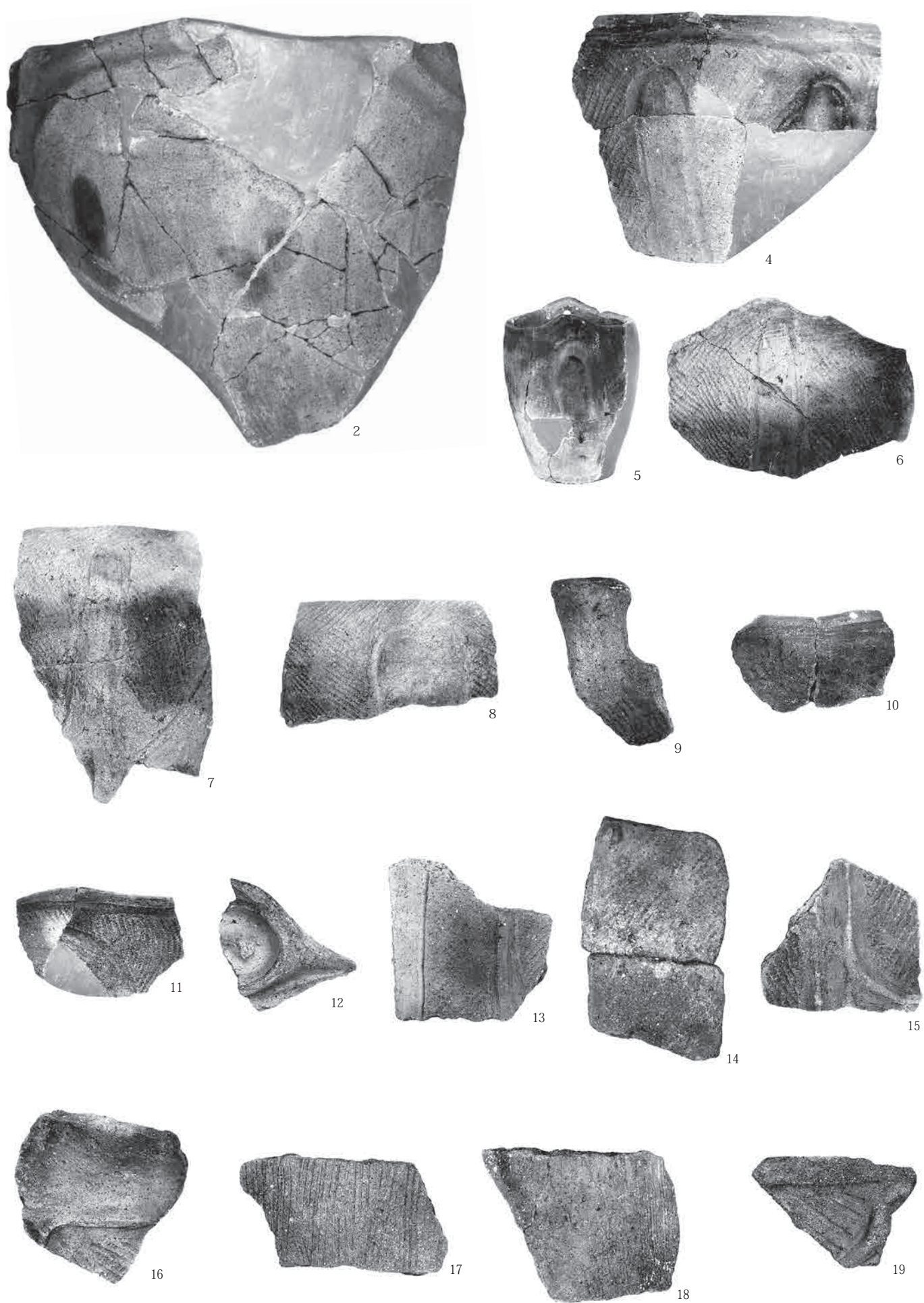
61区48号住居



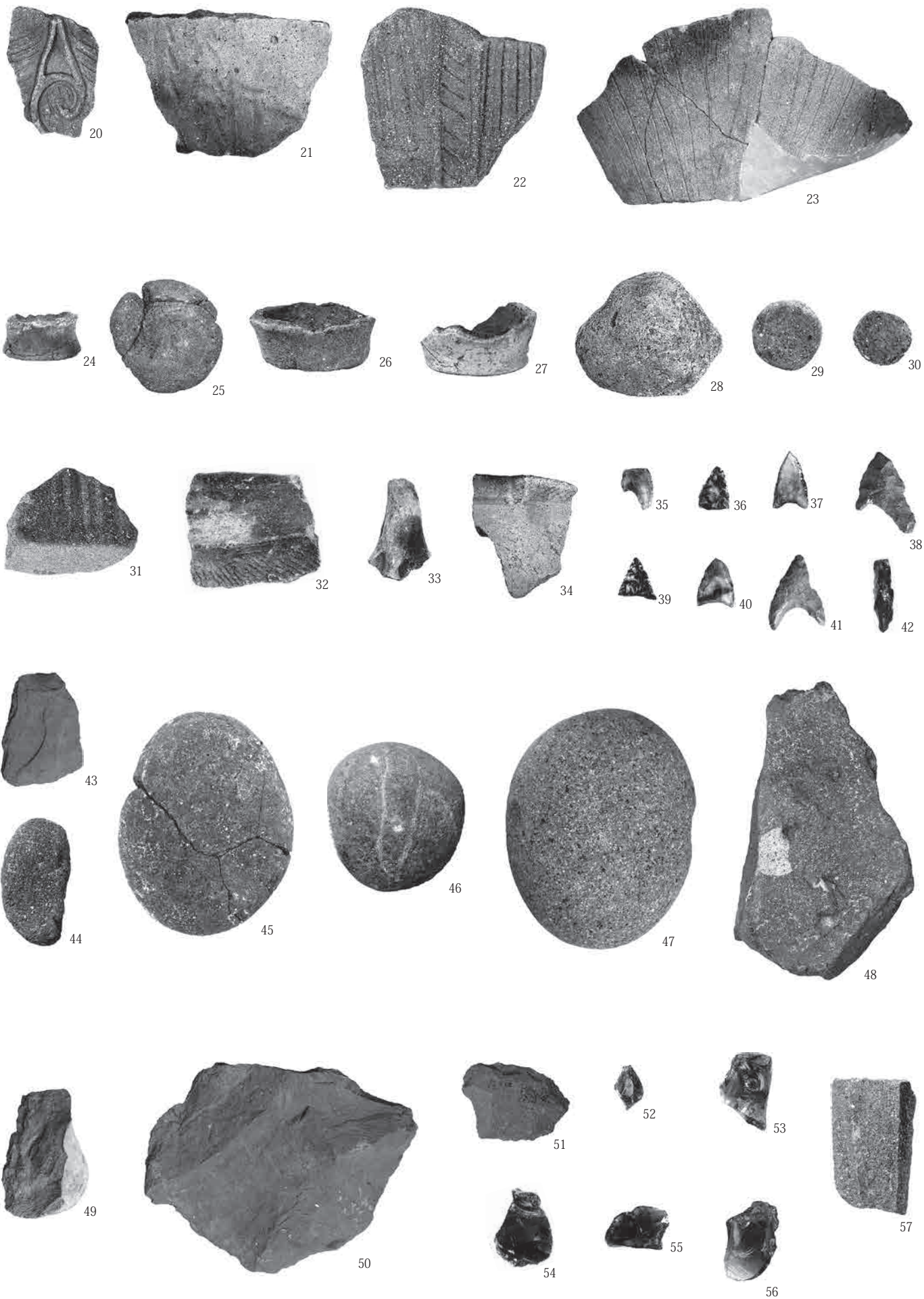
62区2号住居



61区46号住(2) 47·48号住 62区2号住居迹(1)出土遺物



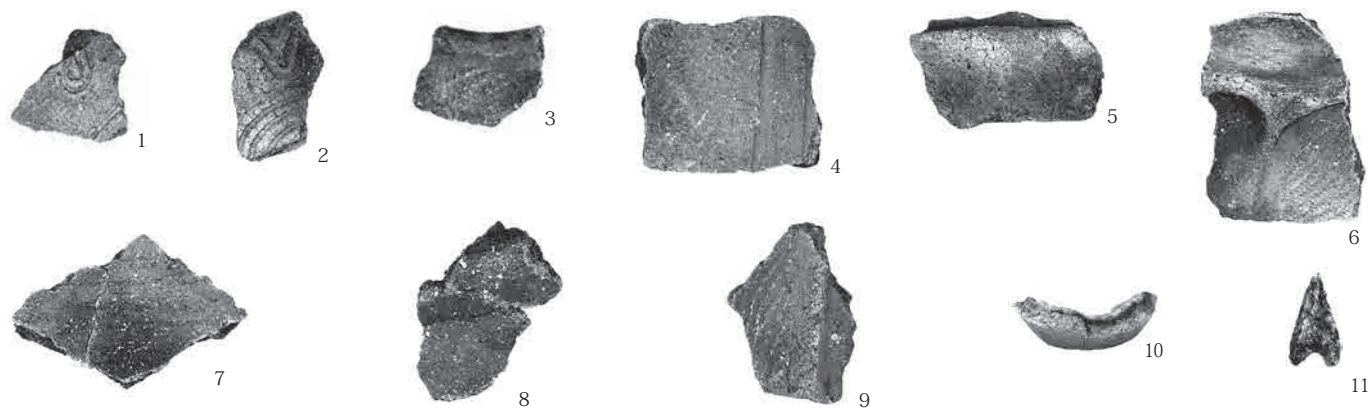
62区 2号住居



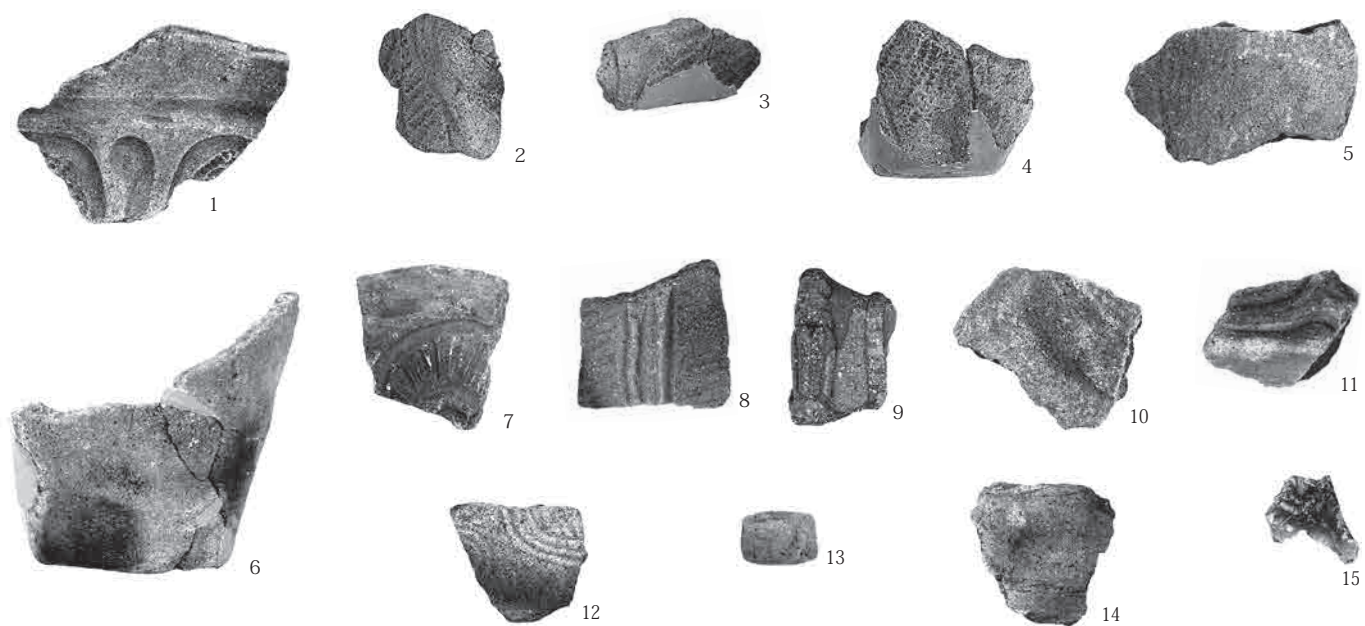
62区 2号住居跡出土遺物(3)

PL.94

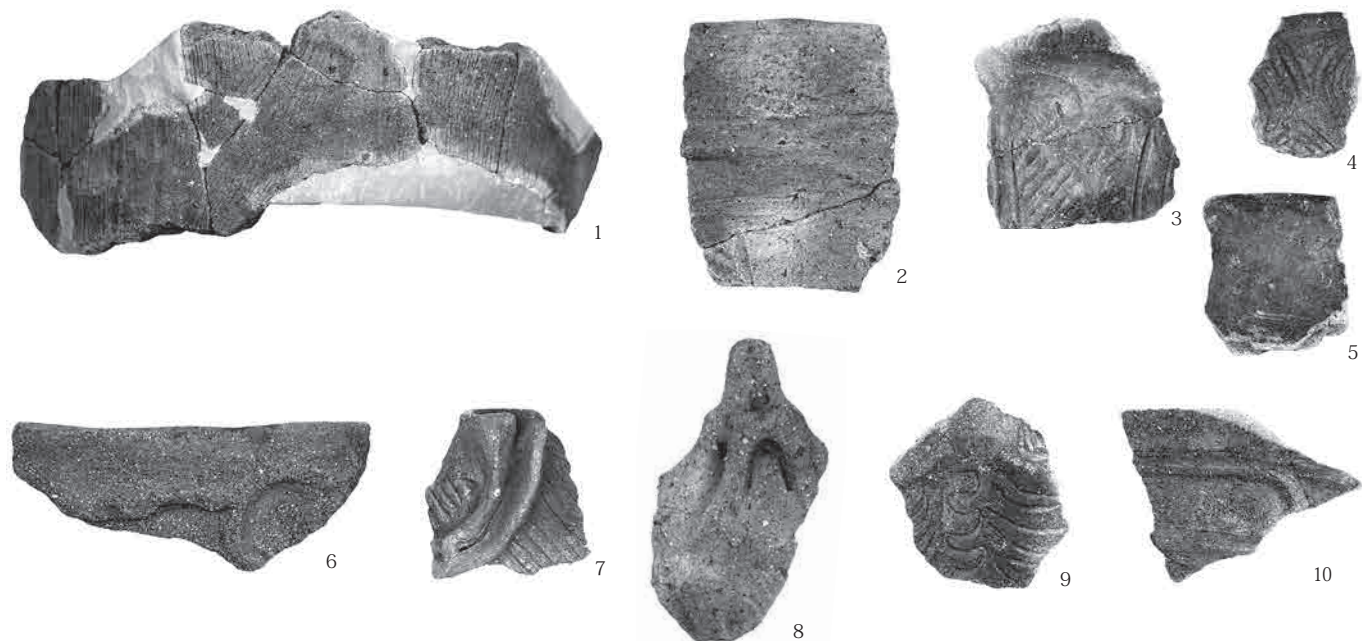
62区3号住居



62区4号住居

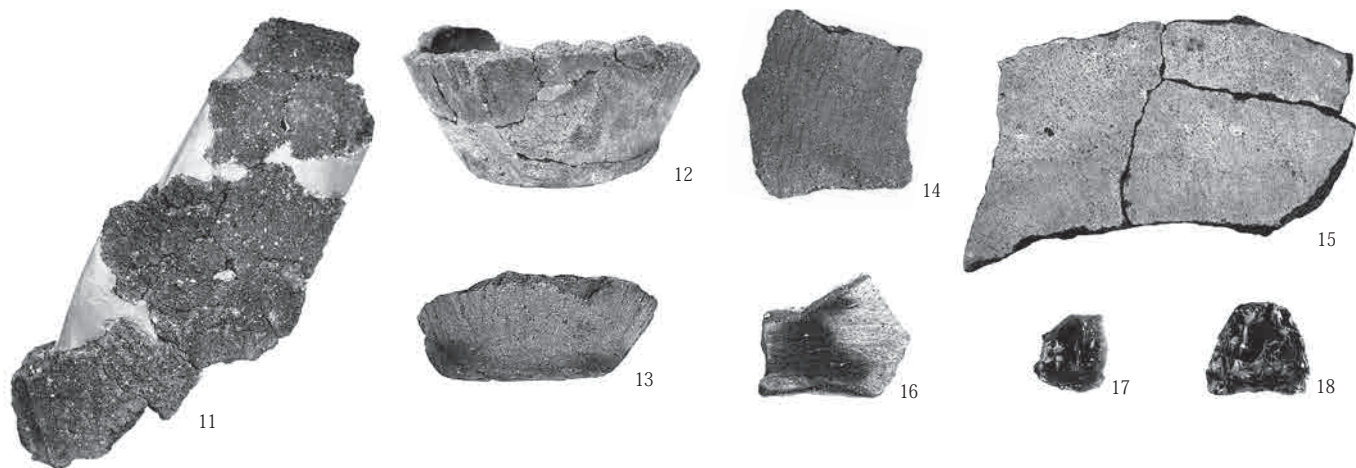


62区5号住居

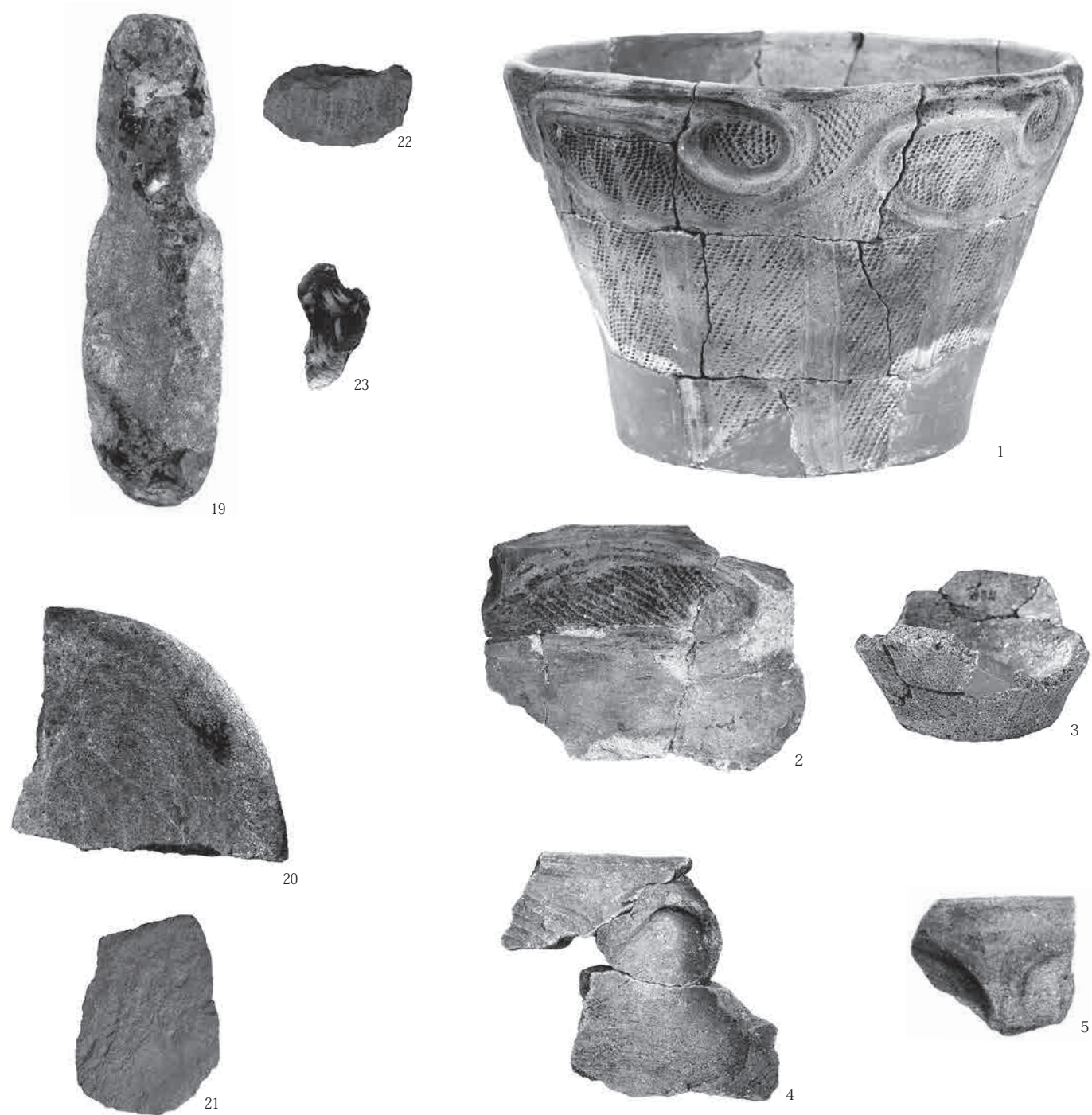


62区3~5号住居跡(1)出土遺物

62区 5号住居



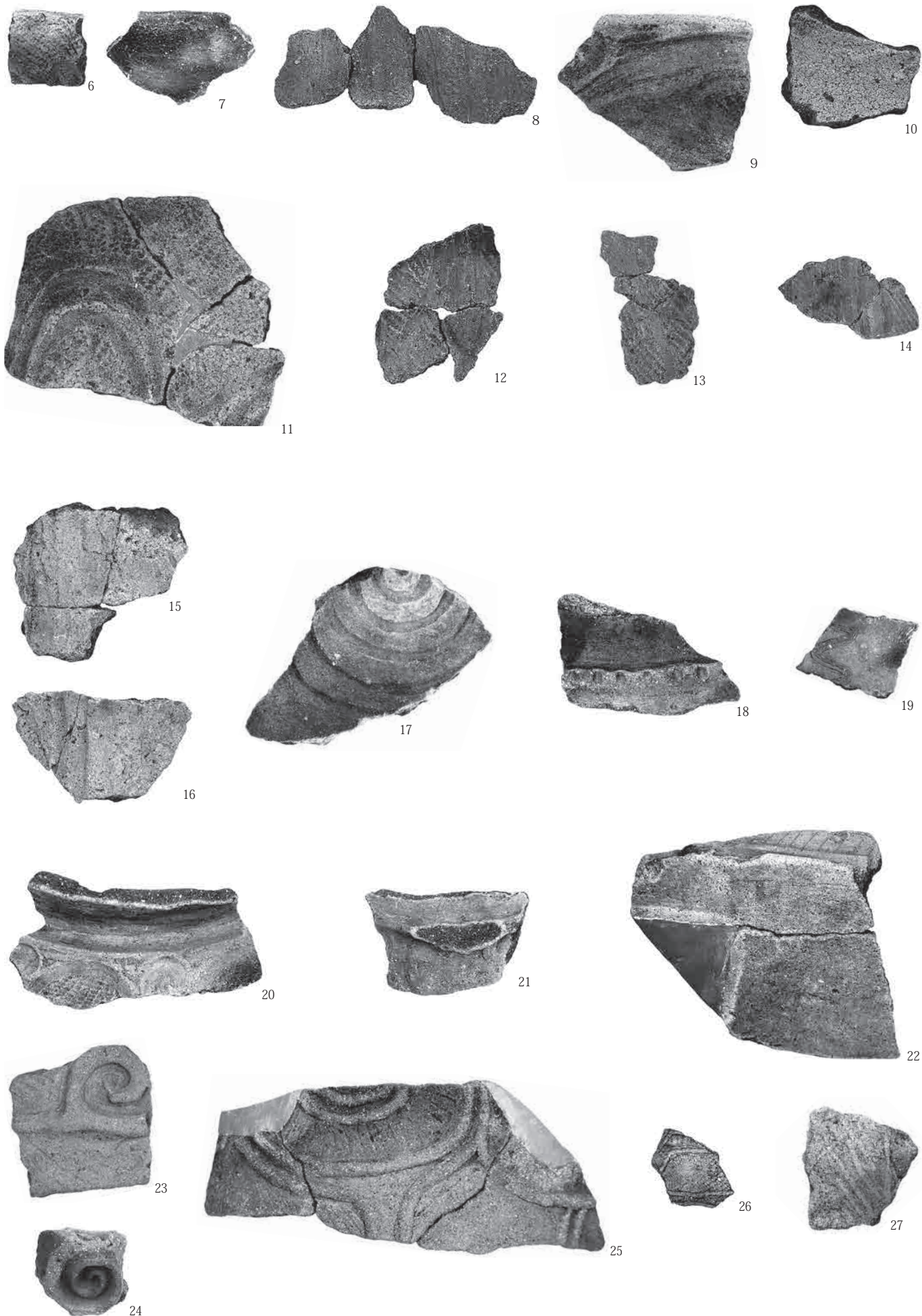
62区 6号住居



62区 5号住(2) 6号住居跡(1)出土遺物

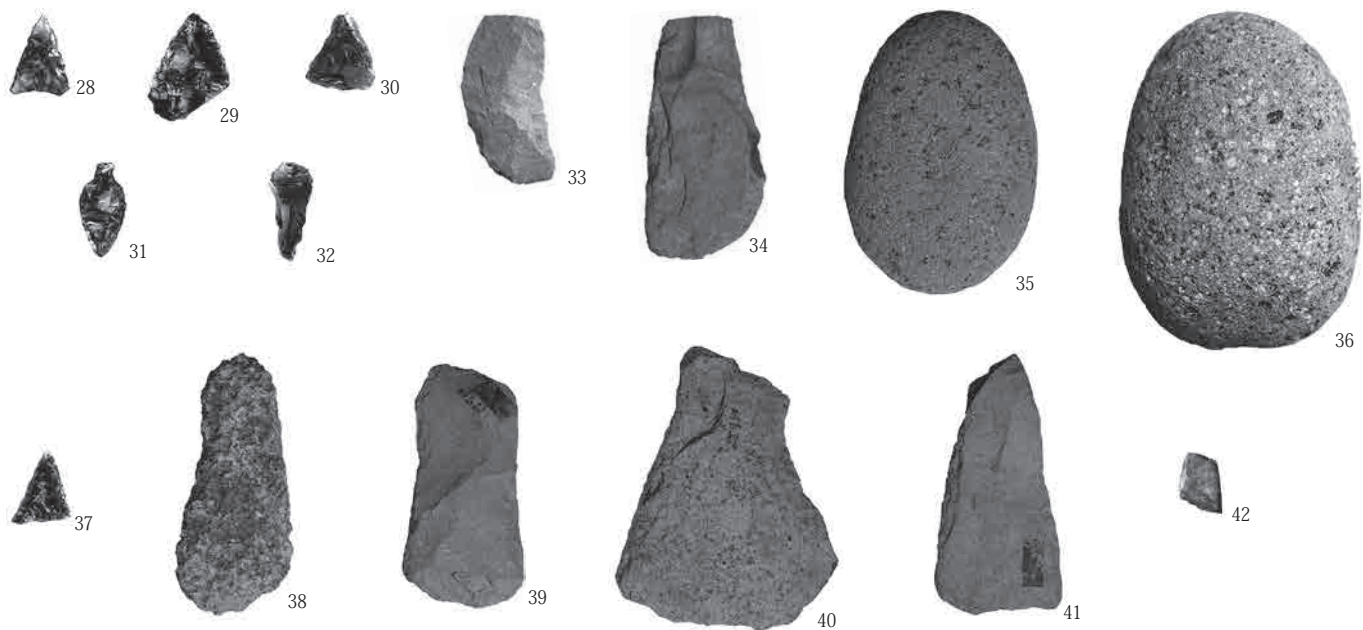
PL.96

62区6号住居



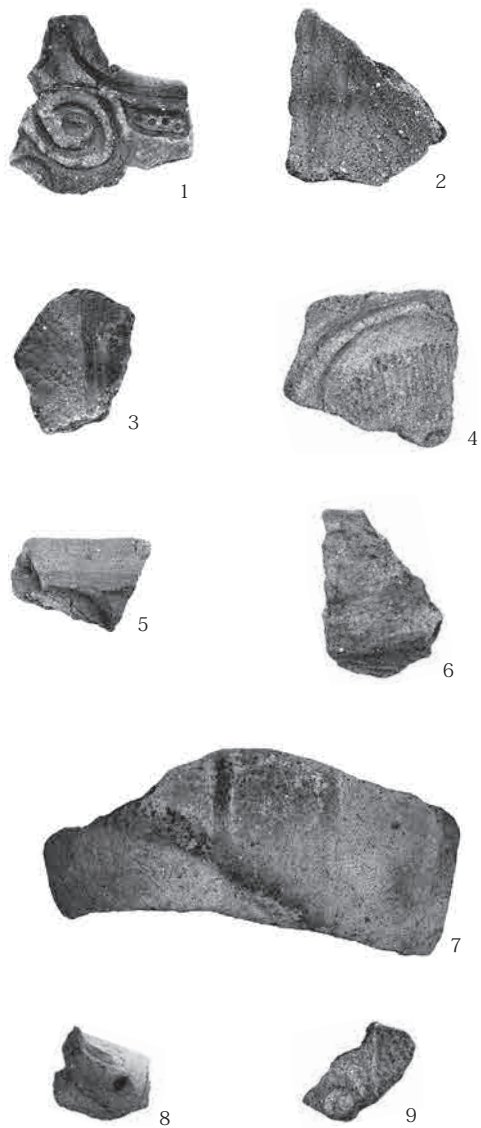
62区6号住居跡出土遺物(2)

62区6号住居

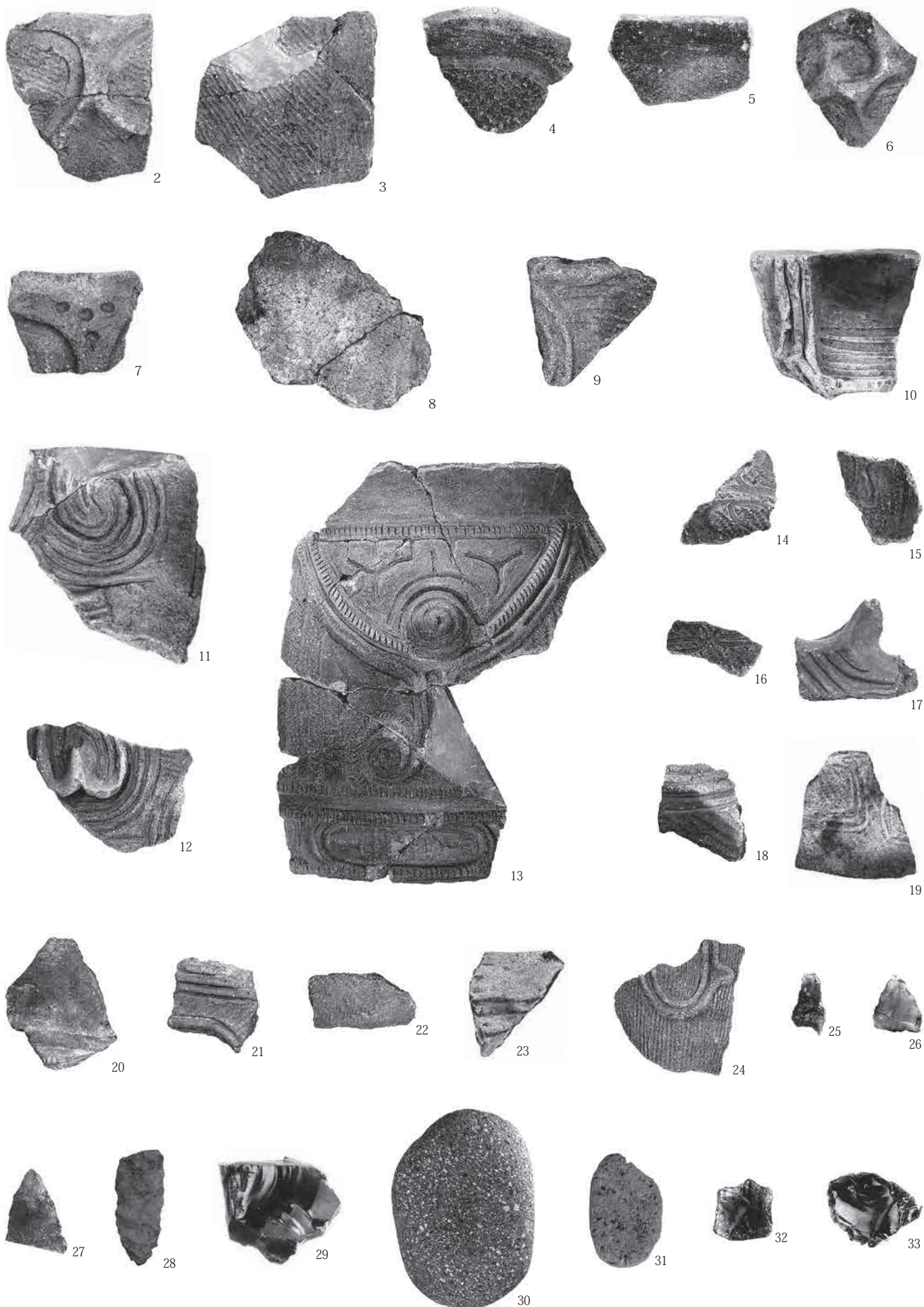


62区8号住居

62区7号住居



62区6号住(3) 7・8号住居跡(1)出土遺物

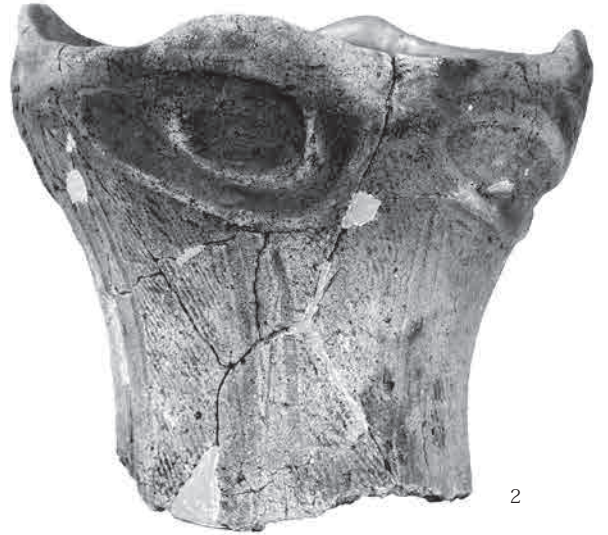


62区 8号住居跡出土遺物(2)

62区9号住居



1



2



3



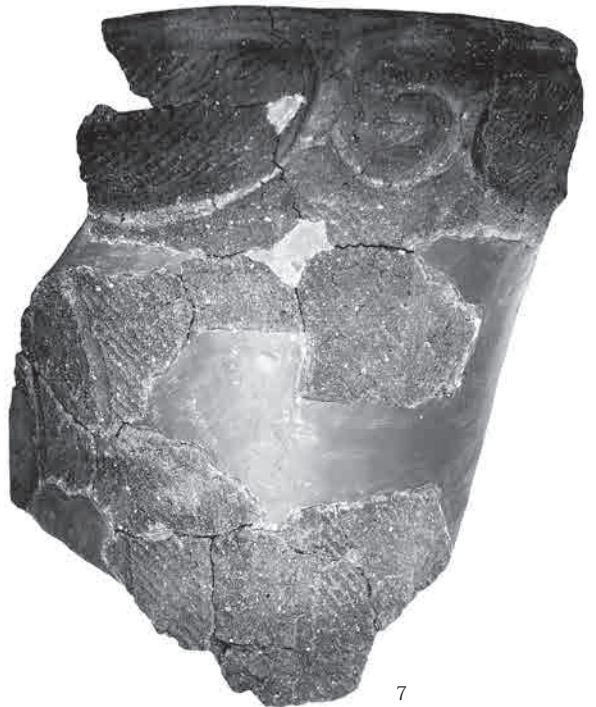
4



5



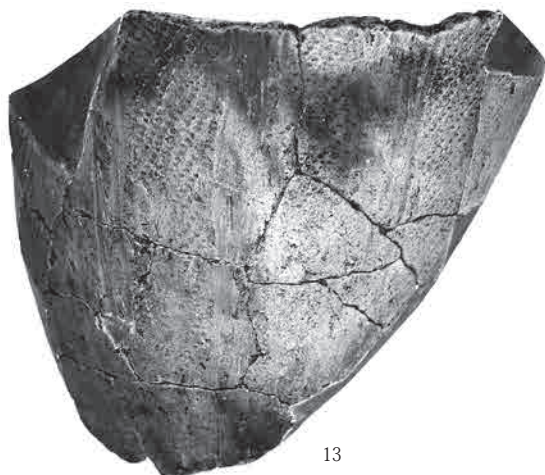
6



7



62区9号住居



13

14



15

16

17

18



19

20

21

22

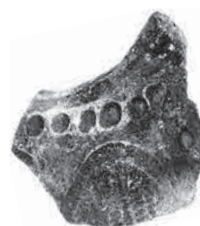
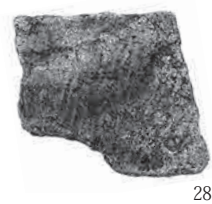
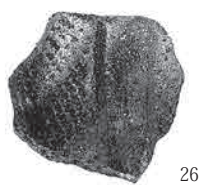
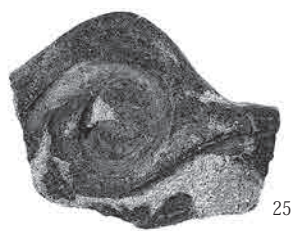


23

24

PL.102

62区9号住居



62区9号住居



40



41



42



43



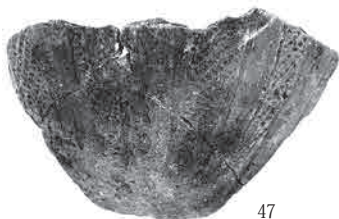
44



45



46



47



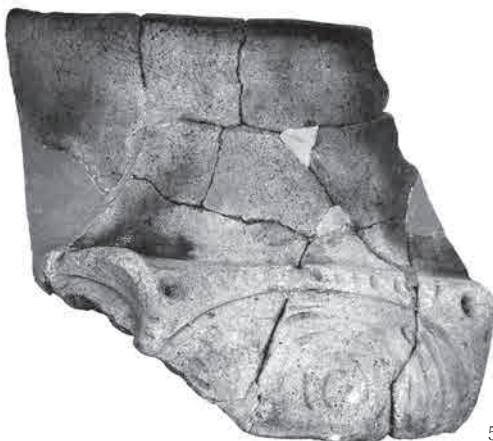
48



49



50



51



53



54



52



55

PL.104

62区9号住居



56



57



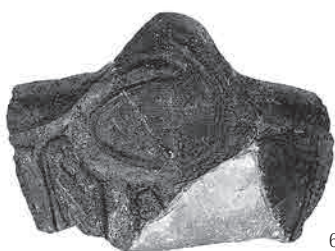
58



59



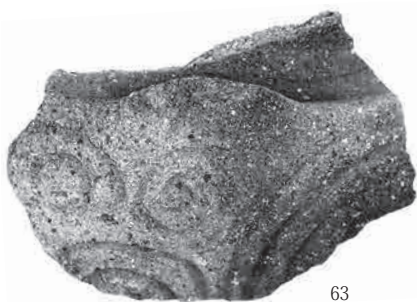
60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71



72



73



74



75



76

62区9号住居



62区9号住居跡出土遺物(7)

PL.106

62区9号住居

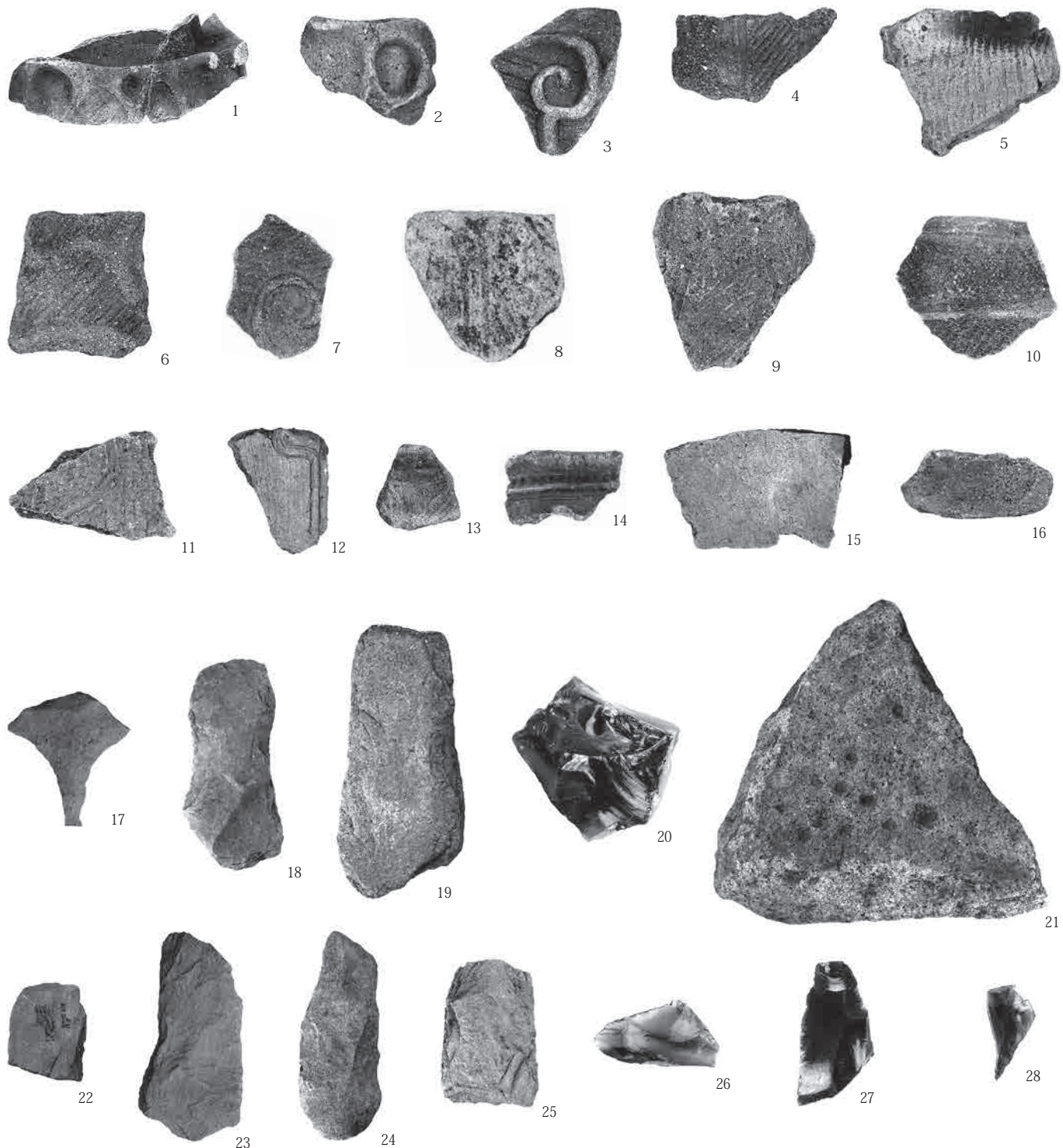


62区9号住居跡出土遺物(8)

62区9号住居



62区10号住居



PL.108

62区11号住居



1



2



3



4



5



6



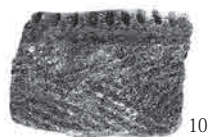
7



8



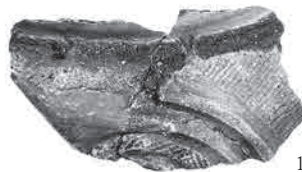
9



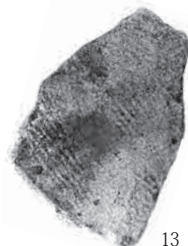
10



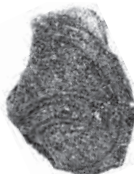
11



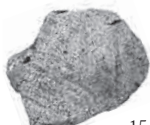
12



13



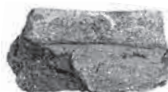
14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28

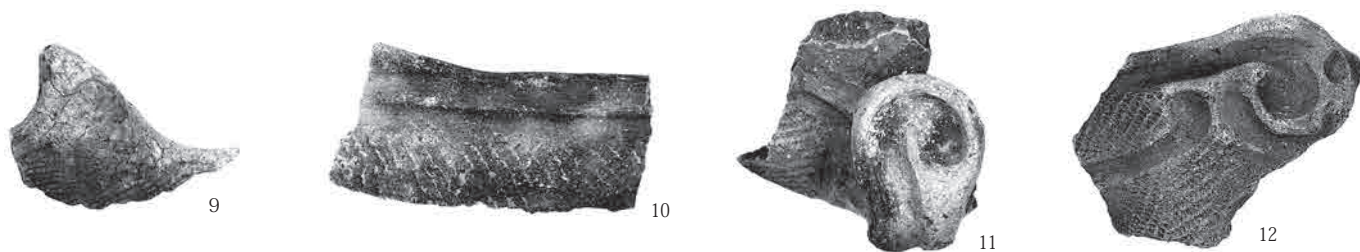


PL.110

62区12号住居



6



9

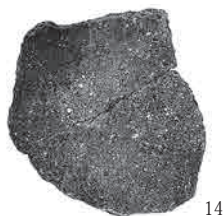
10

11

12



13



14



15

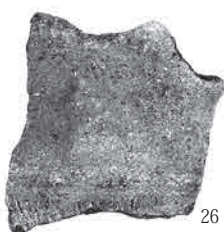


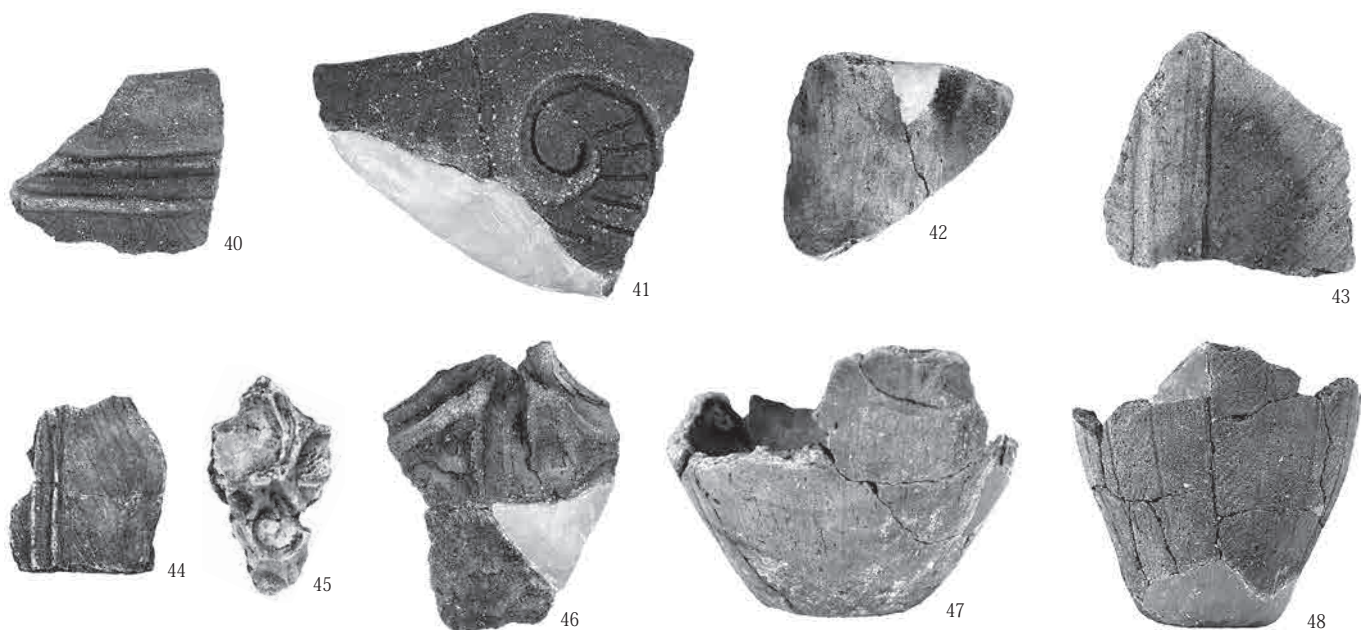
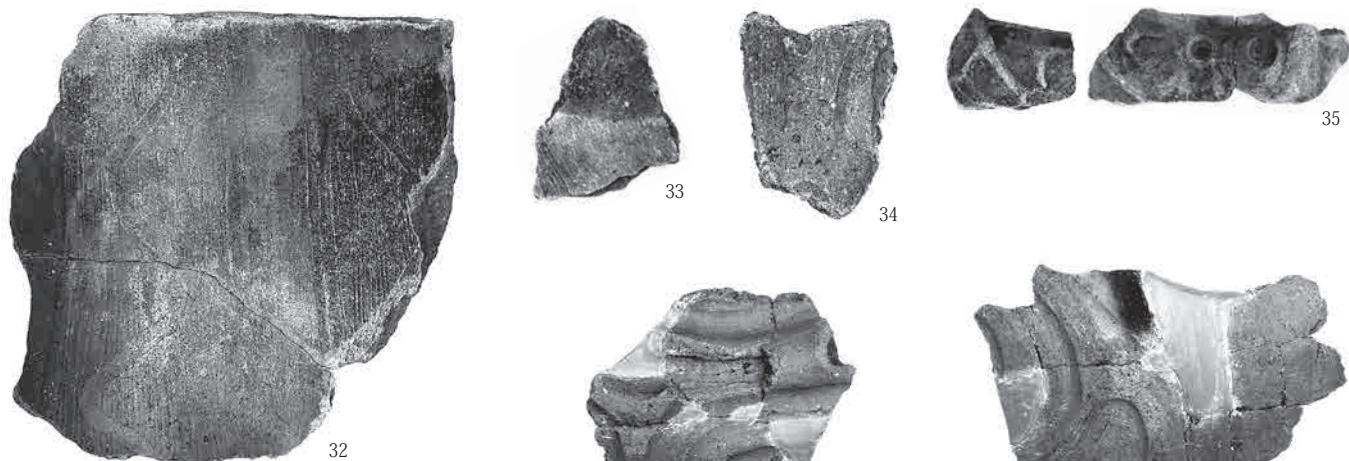
16



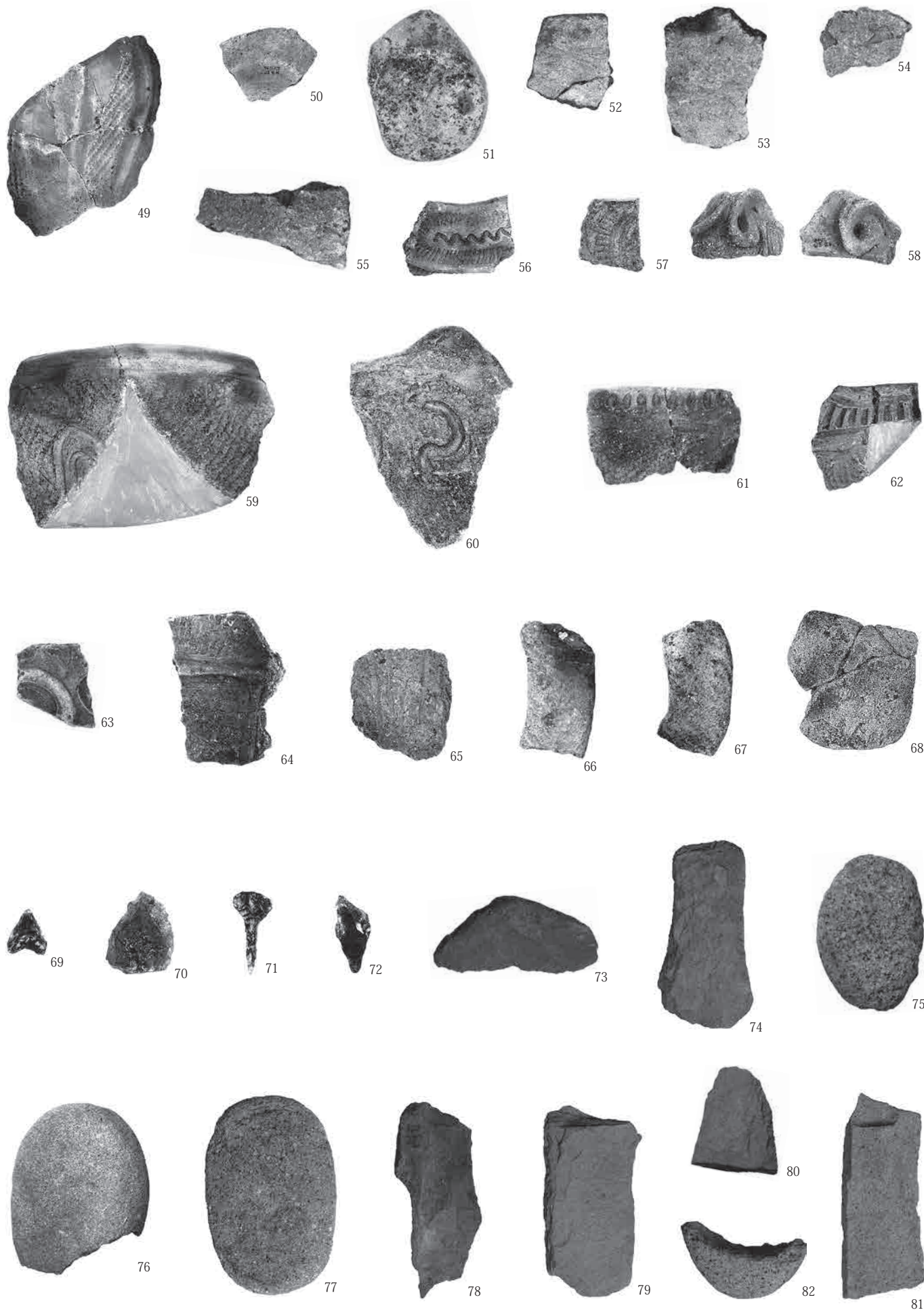
17

62区12号住居





62区12号住居



62区12号住居跡出土遺物(5)

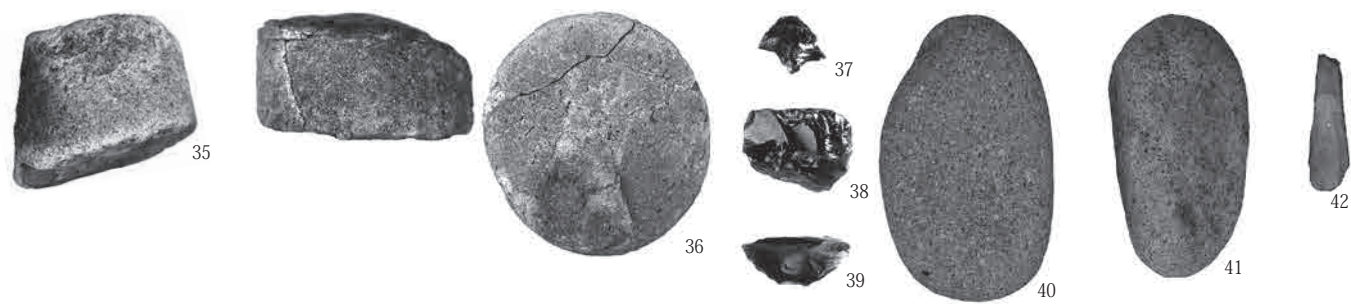
PL.114

62区13号住居



62区13号住居跡出土遺物(1)

62区13号住居



62区14号住居



62区13号住(2) 14号住居跡(1)出土遺物

PL.116

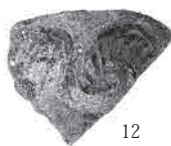
62区14号住居



10



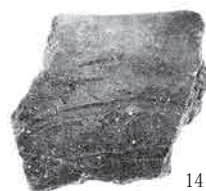
11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



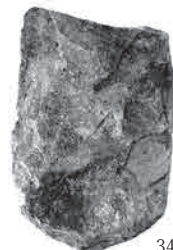
31



32



33



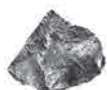
34



35

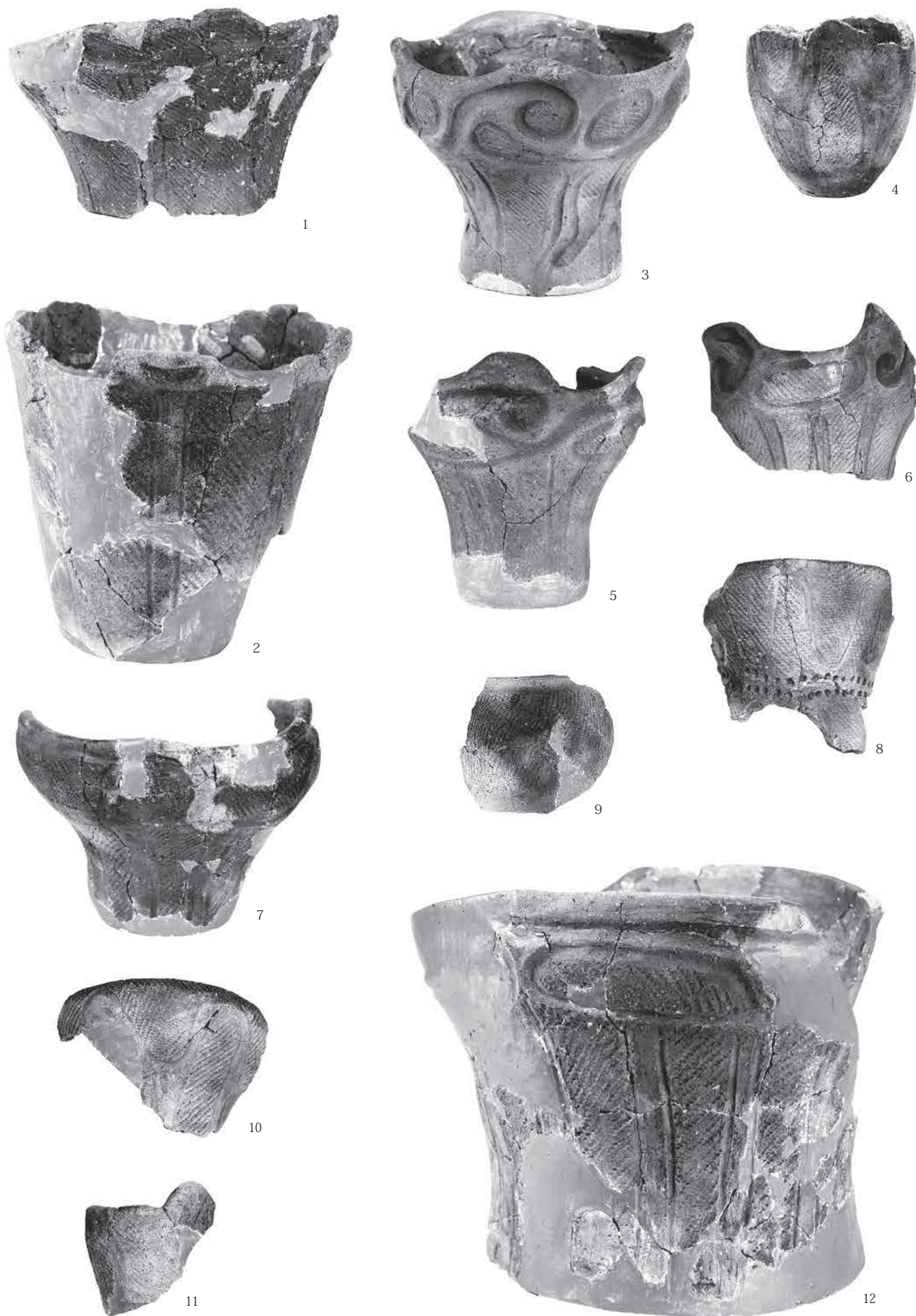


36



37

62区15号住居



62区15号住居跡出土遺物(1)

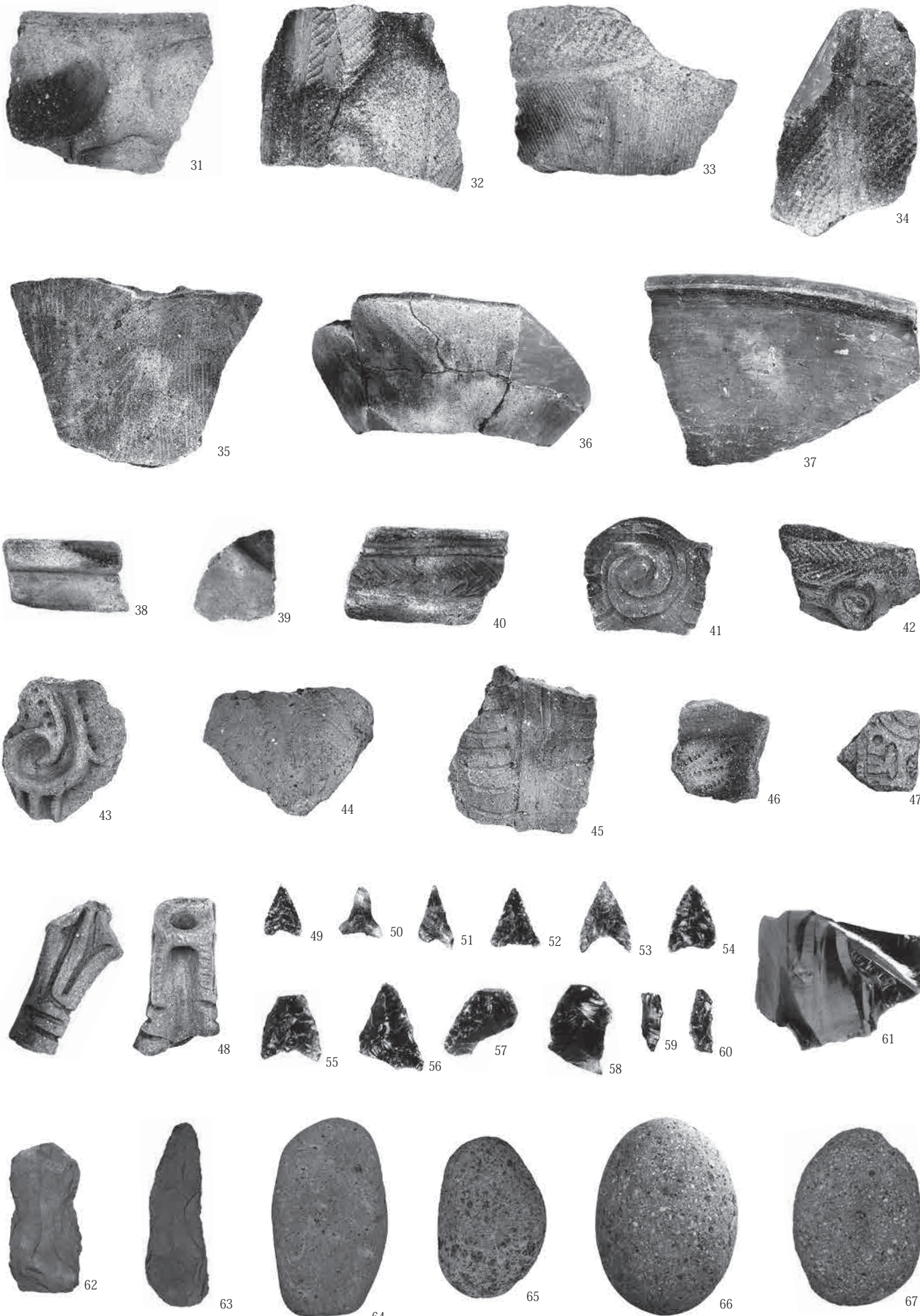
PL.118

62区15号住居



62区15号住居跡出土遺物(2)

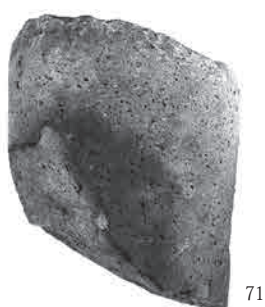
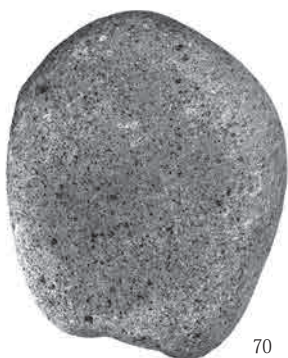
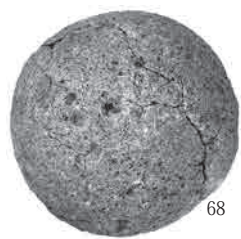
62区15号住居



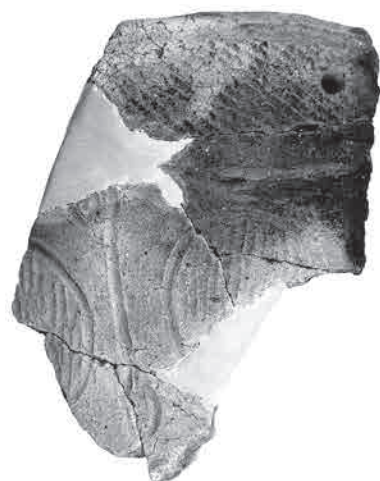
62区15号住居跡出土遺物(3)

PL.120

62区15号住居



62区16号住居





62区16号住居跡出土遺物(2)

PL.122

62区16号住居

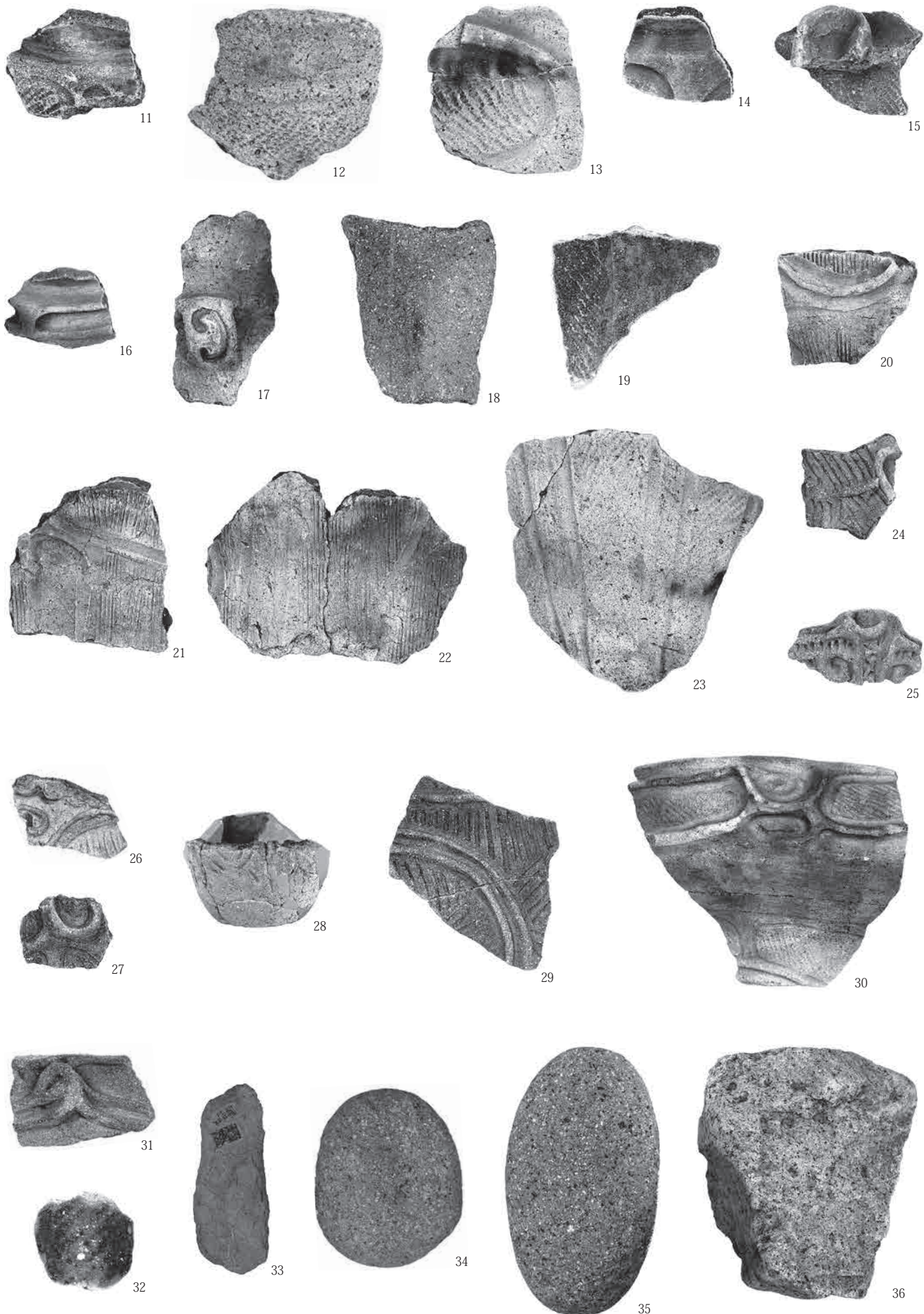


62区17号住居



62区16号住(3) 17号住居跡(1)出土遺物

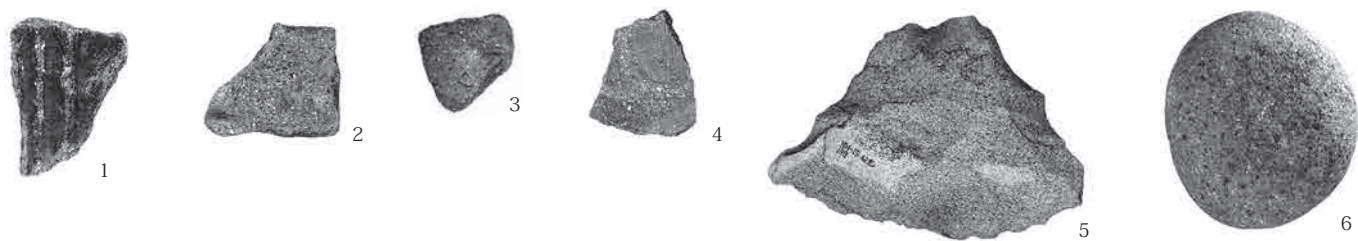
62区17号住居



62区17号住居跡出土遺物(2)

PL.124

62区18号住居

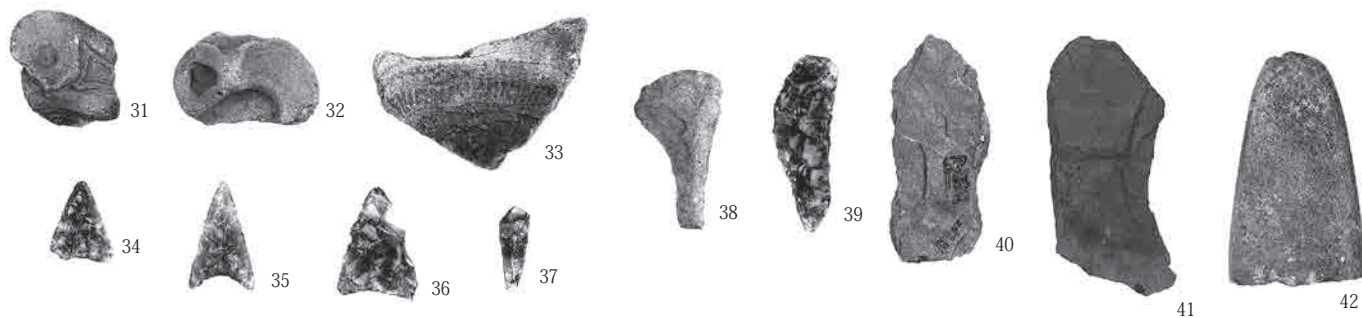
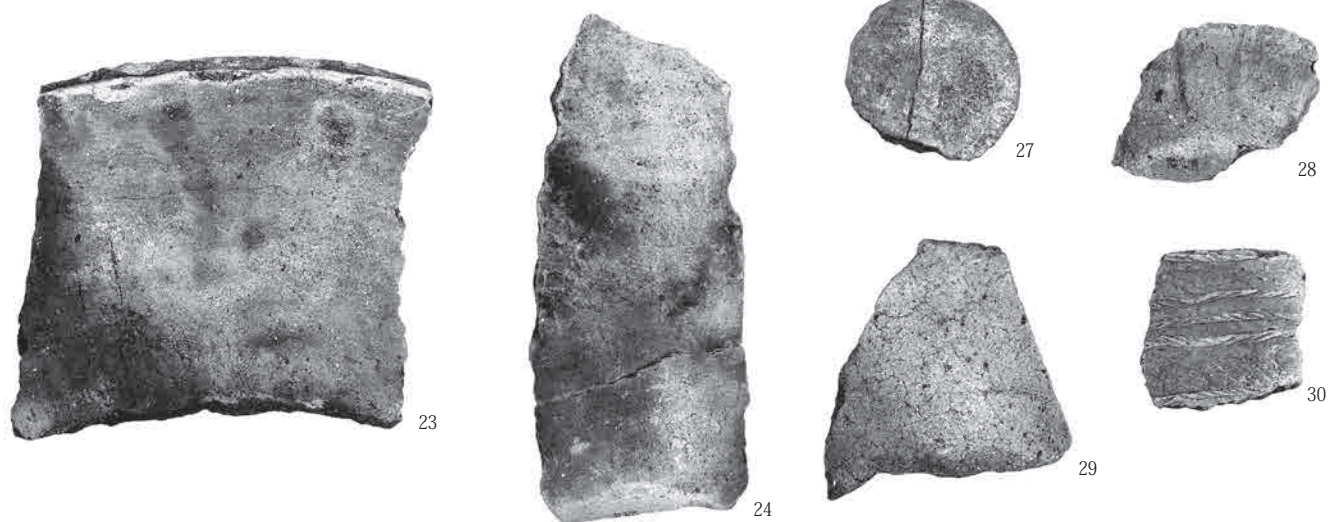
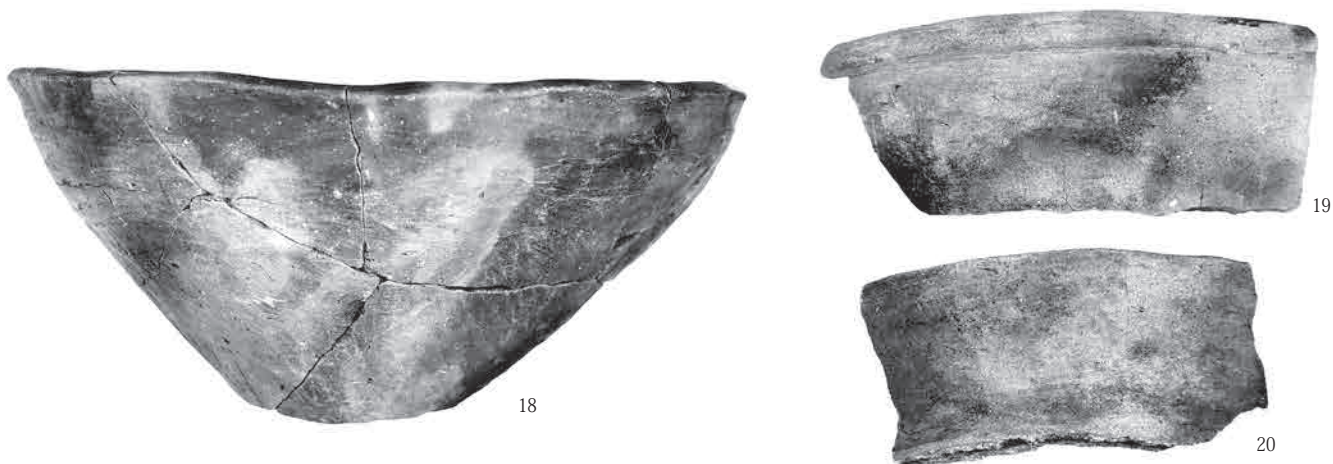
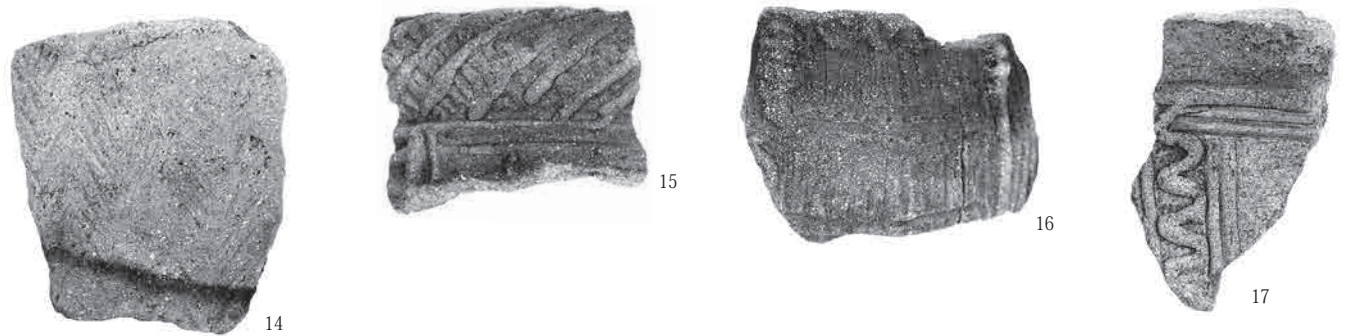


62区19号住居



62区18号住 19号住居跡(1)出土遺物

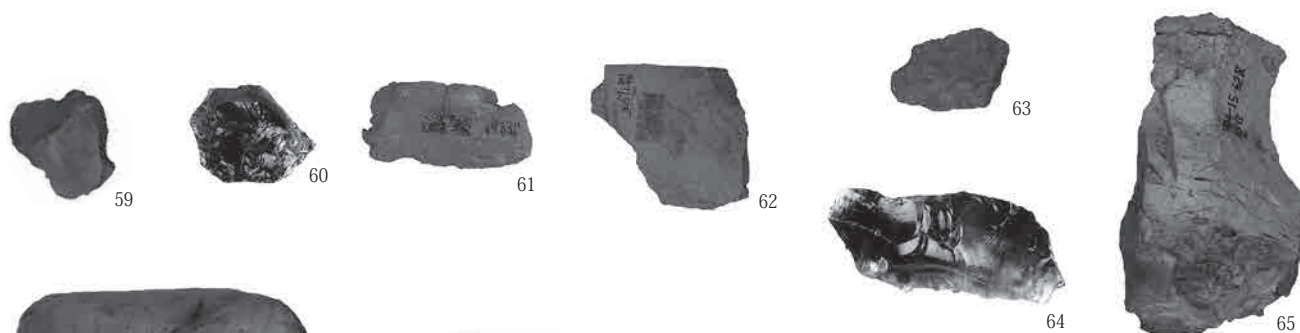
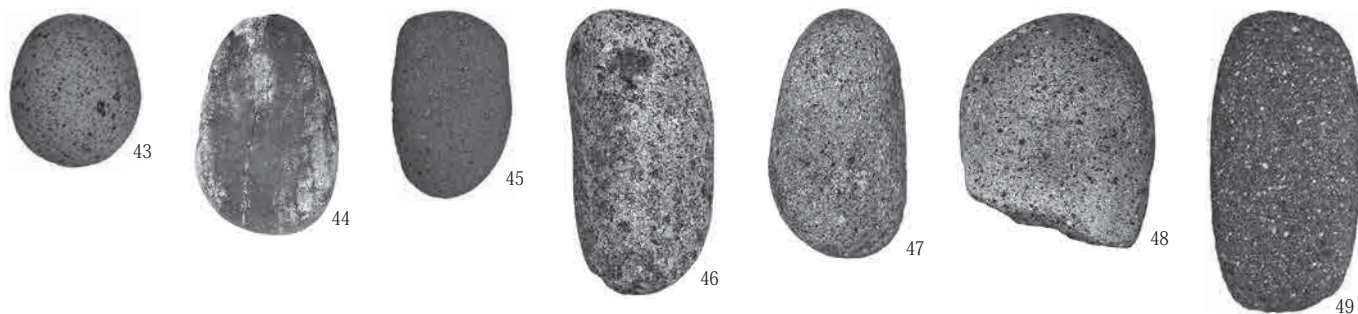
62区19号住居



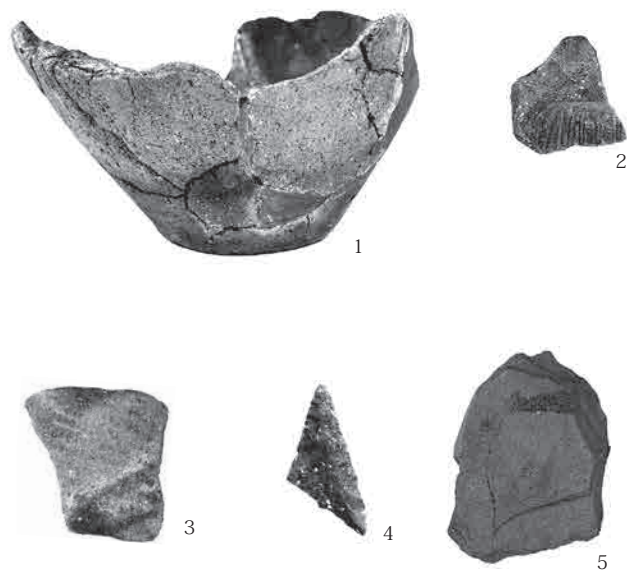
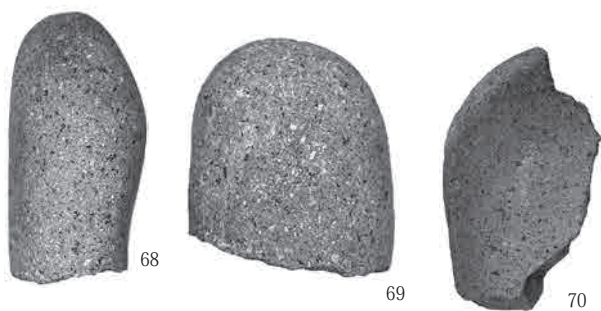
62区19号住居跡出土遺物(2)

PL.126

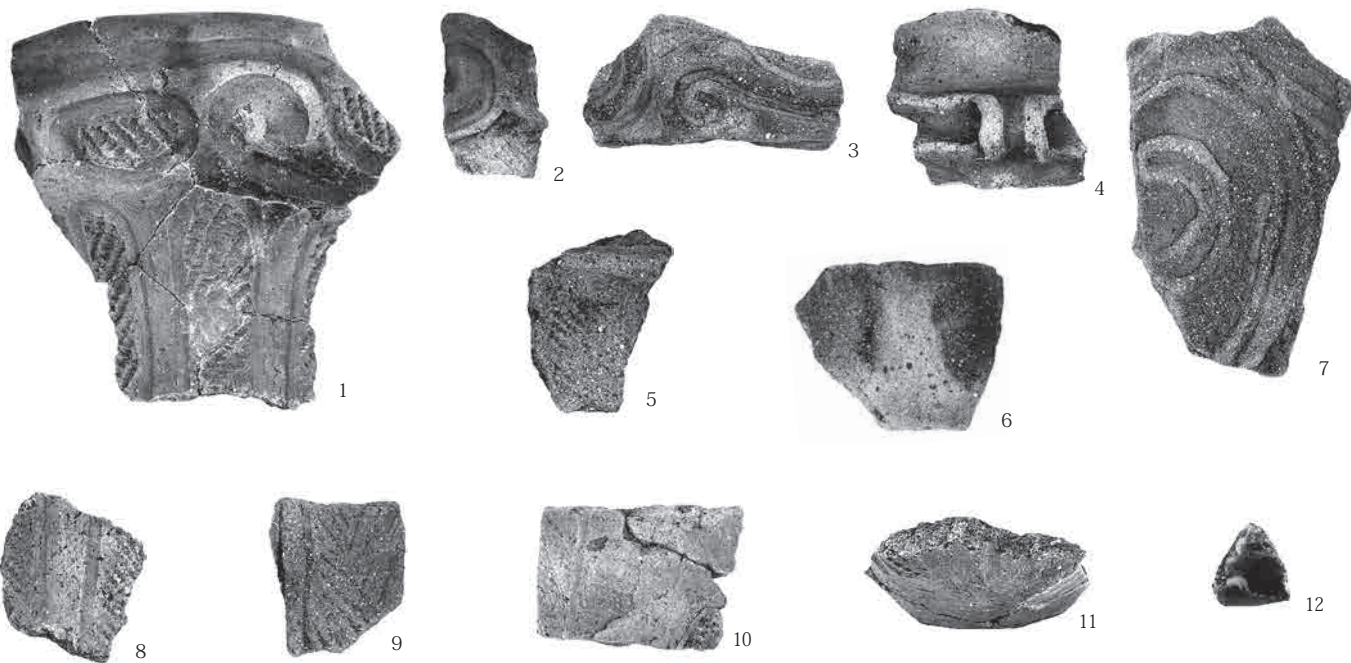
62区19号住居



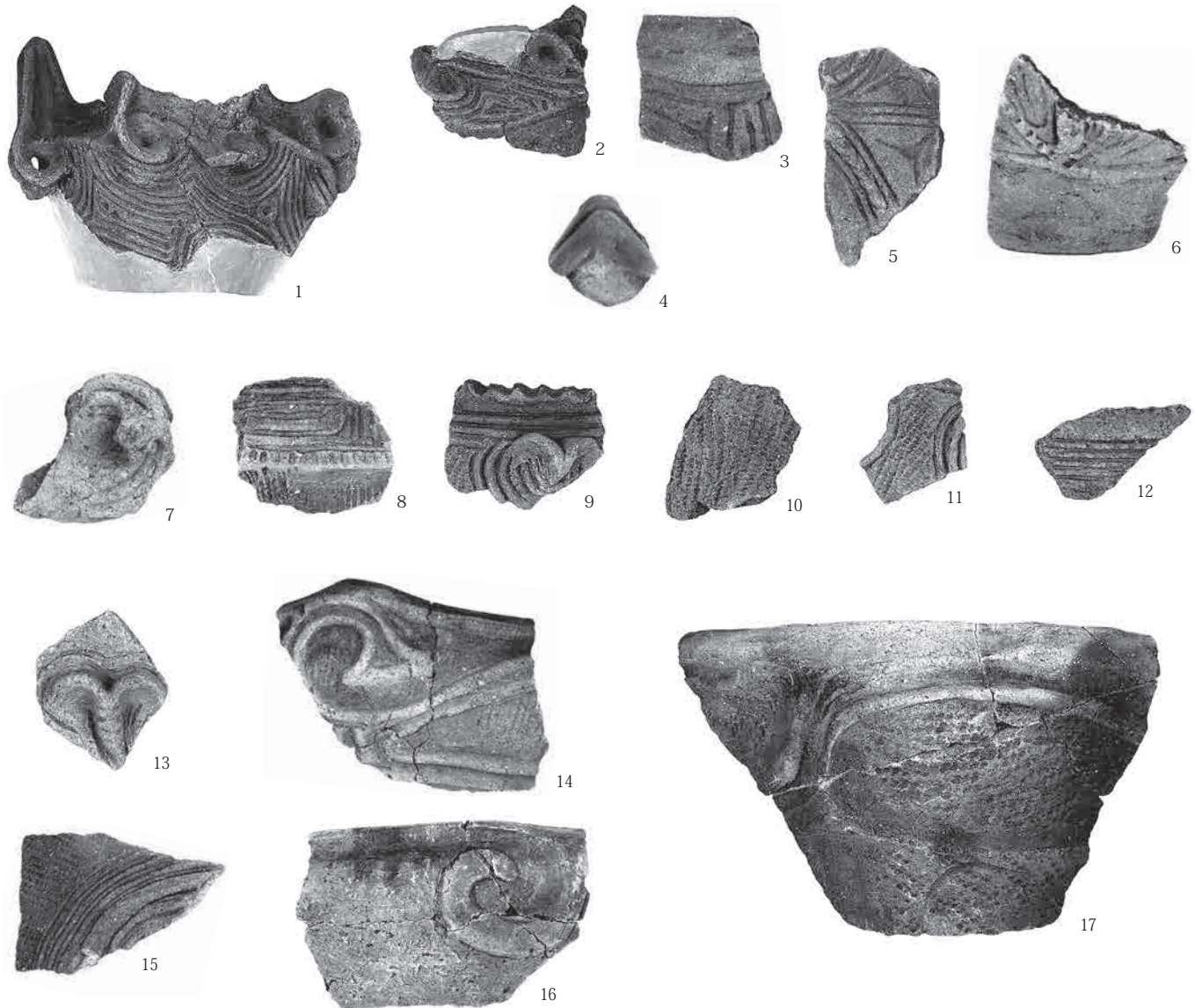
62区20号住居



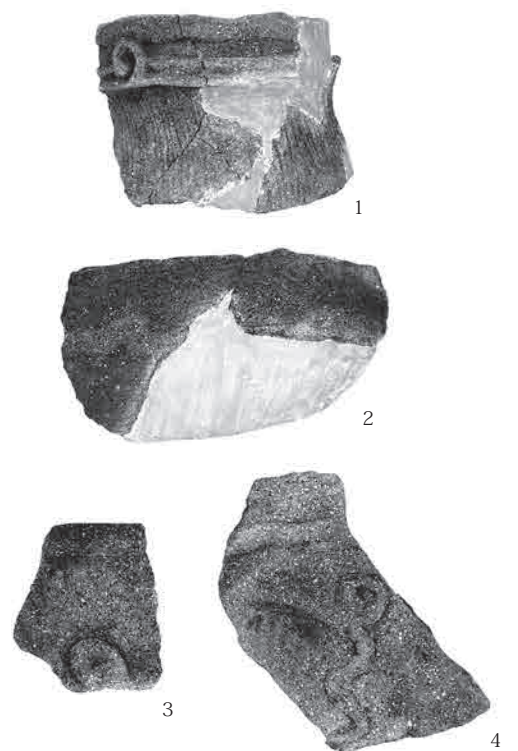
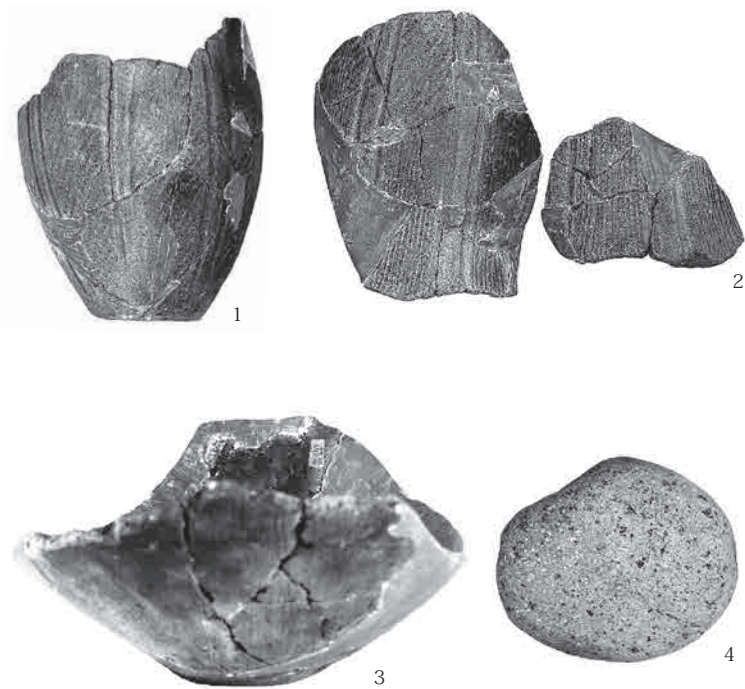
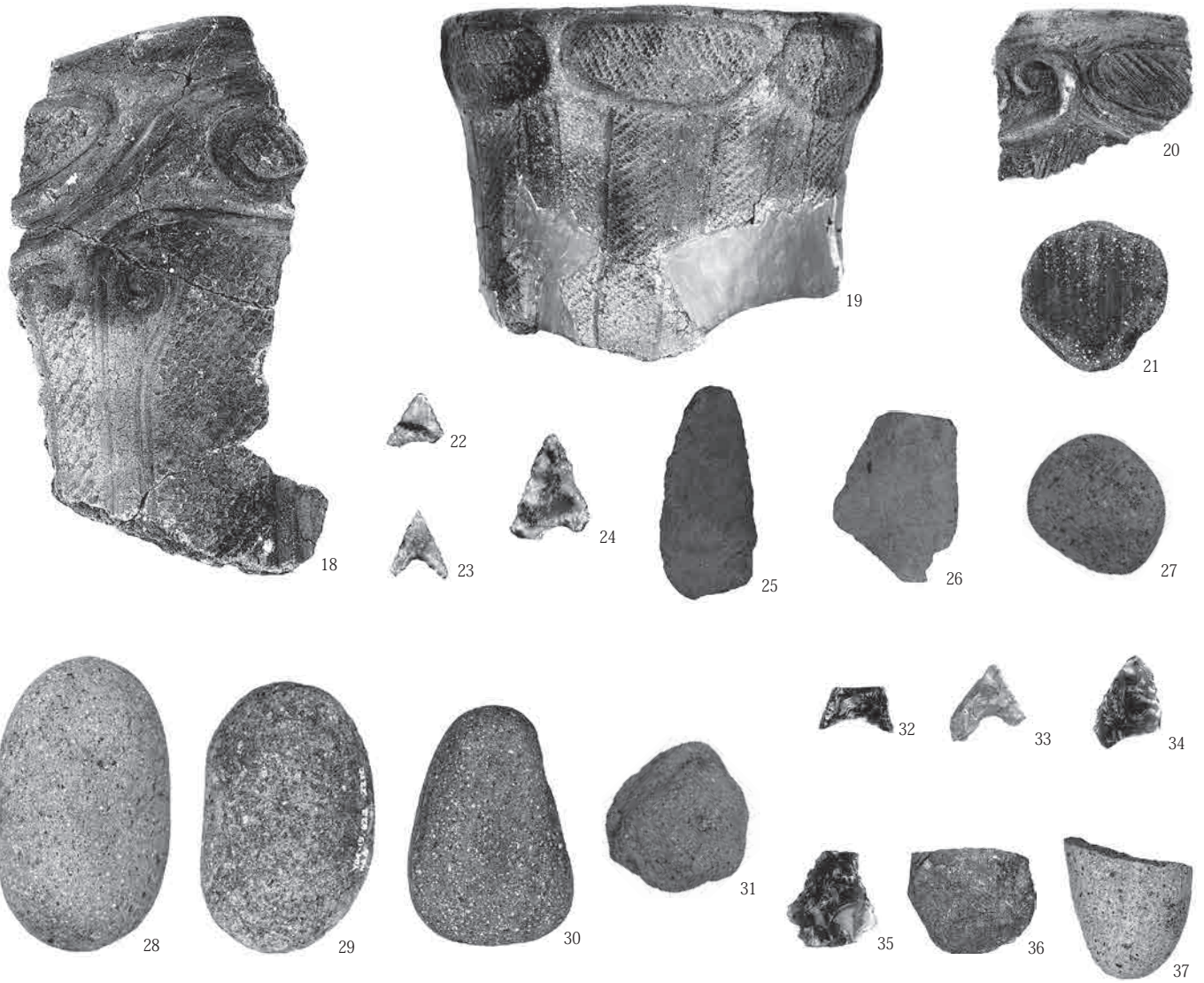
62区21号住居



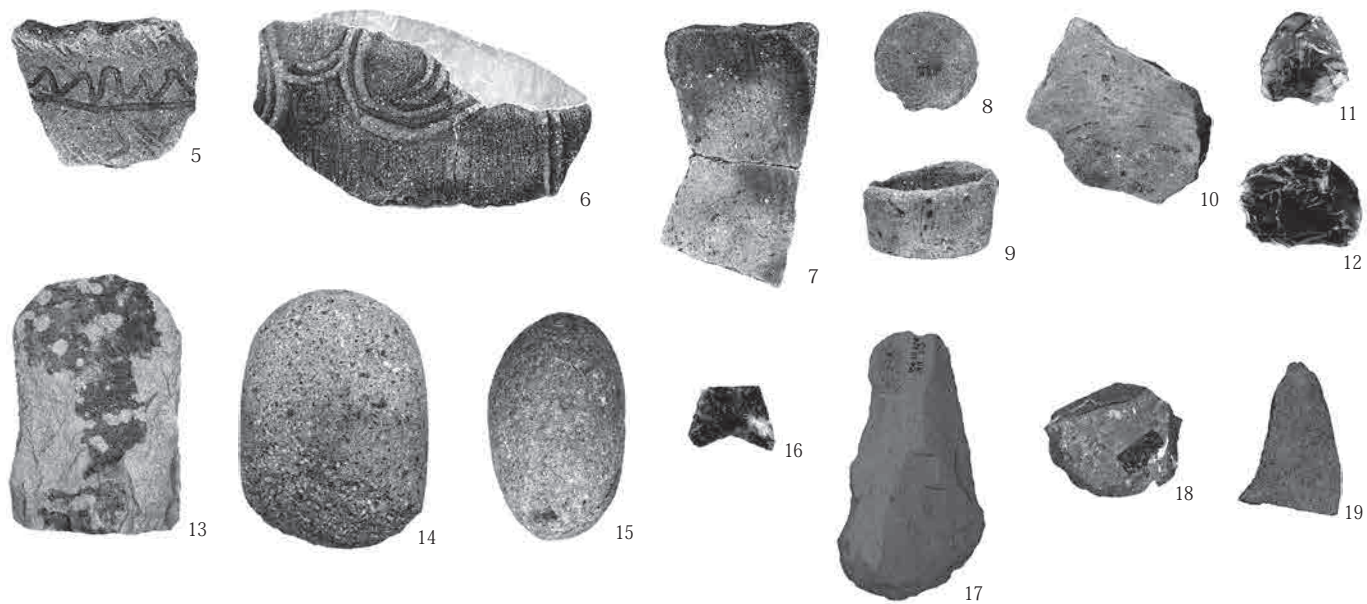
62区22号住居



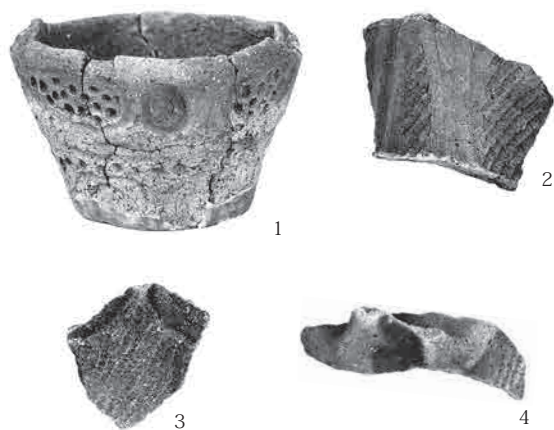
62区21号住 22号住居跡(1)出土遺物



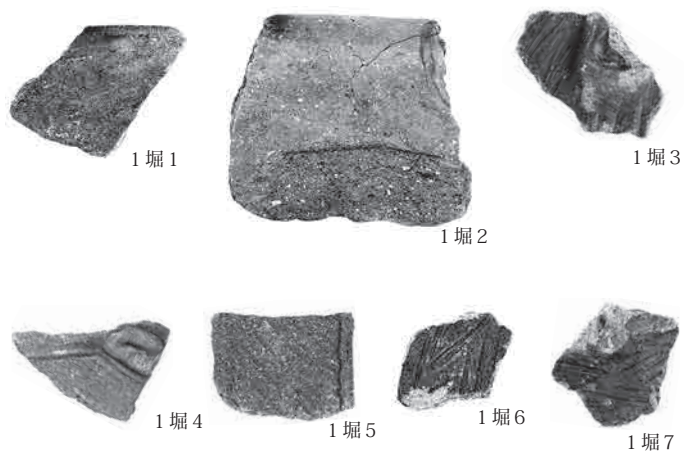
62区24号住居



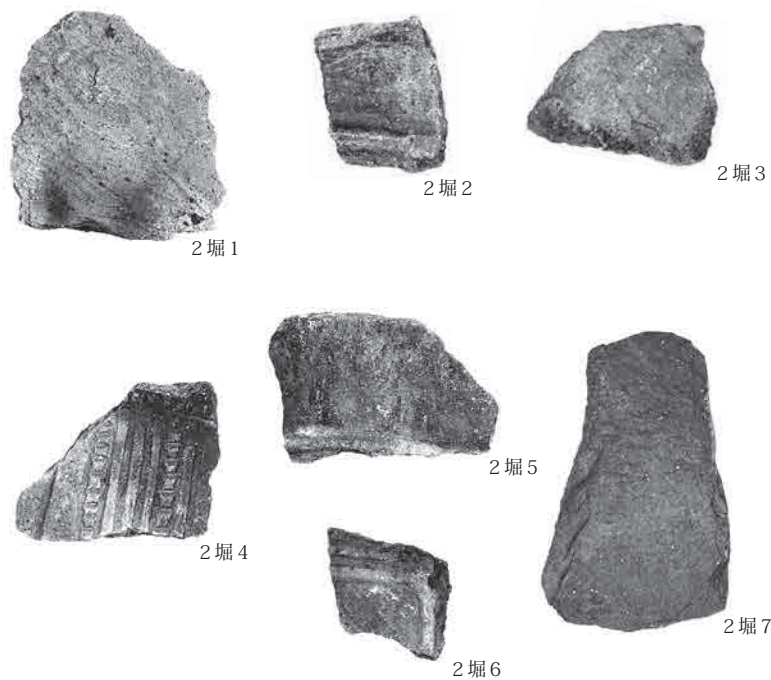
62区25号住居



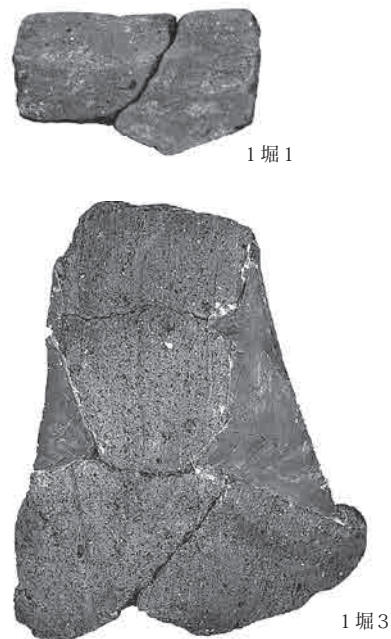
61区 1号掘立柱建物



61区 2号掘立柱建物



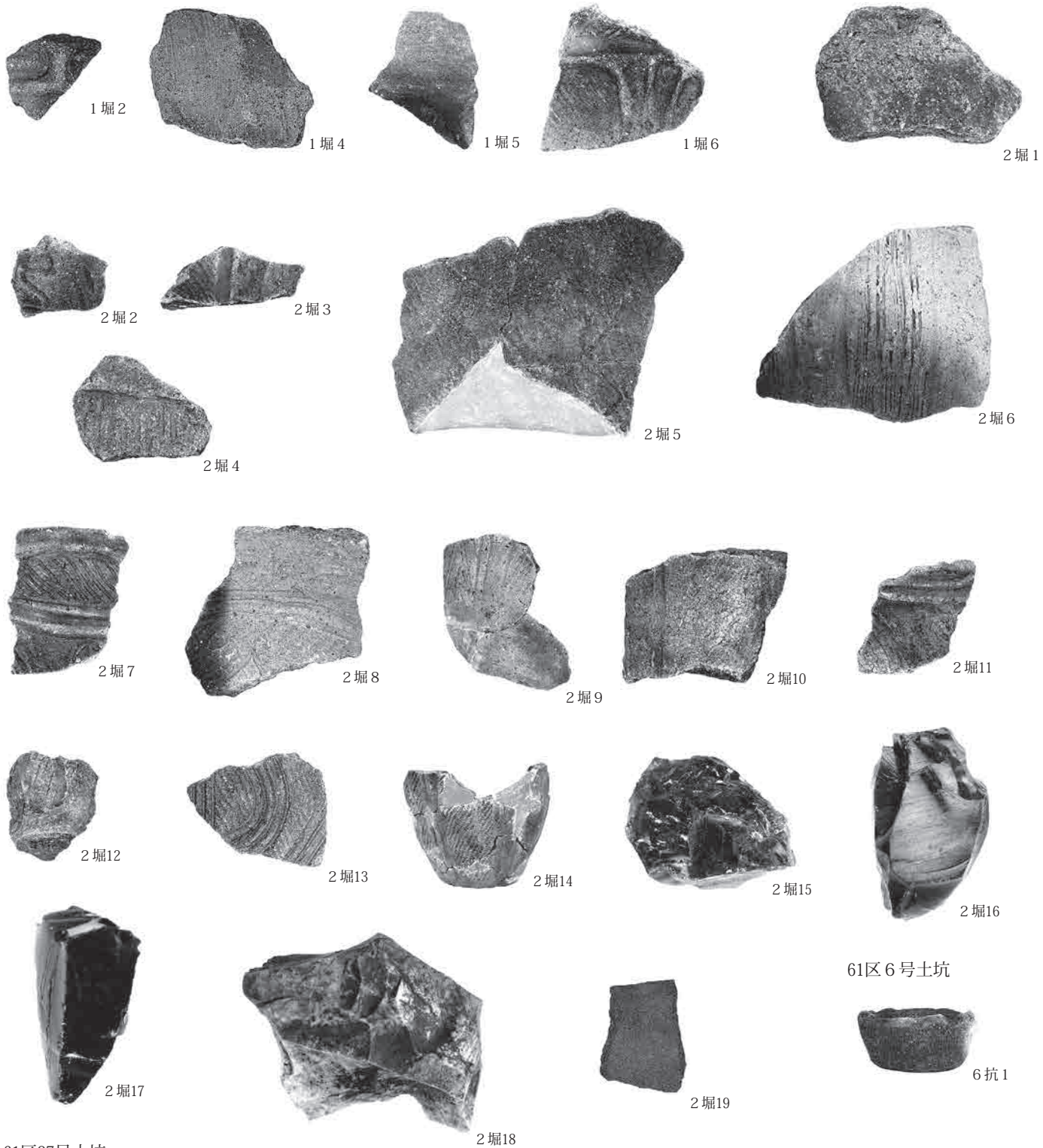
62区 1号掘立柱建物



PL.130

62区 1号掘立柱建物

62区 2号掘立柱建物



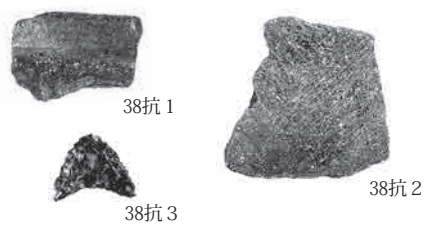
61区 6号土坑

6 抗 1

61区 37号土坑



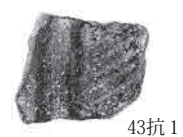
61区 38号土坑



61区 39号土坑



61区 43号土坑



61区45号土坑



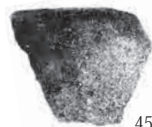
45抗1



45抗2

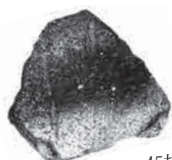


45抗3



45抗4

61区58号土坑



45抗5



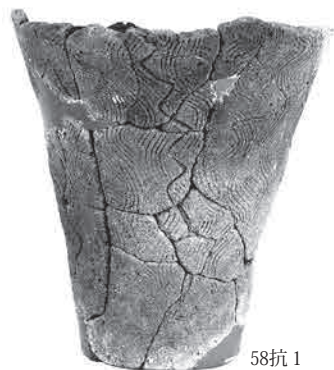
45抗6



45抗7



45抗8



58抗1



58抗2



58抗3



58抗4

61区62号土坑



58抗5



58抗6



62抗1



62抗2

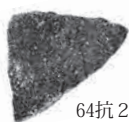


62抗3

61区64号土坑



64抗1



64抗2

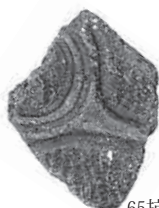


64抗3

61区65号土坑



65抗1



65抗2



62抗4



62抗5



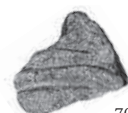
62抗6

61区69号土坑



69抗1

61区70号土坑



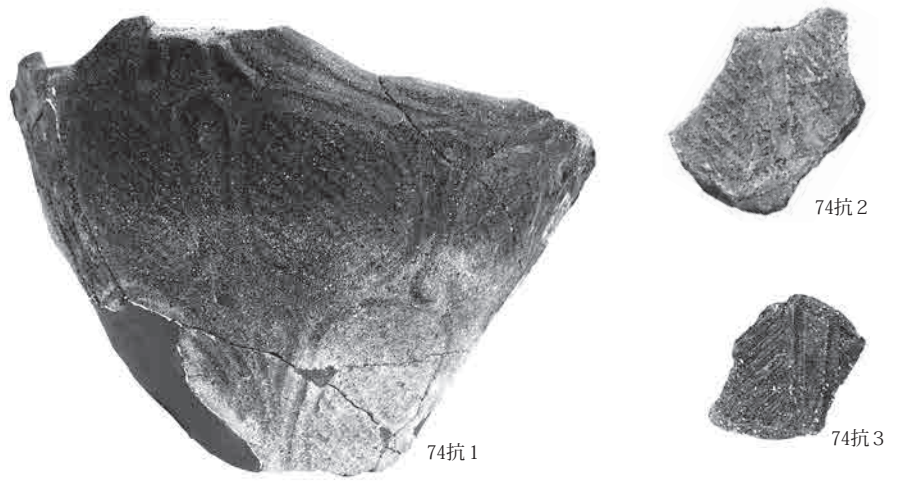
70抗1

PL.132

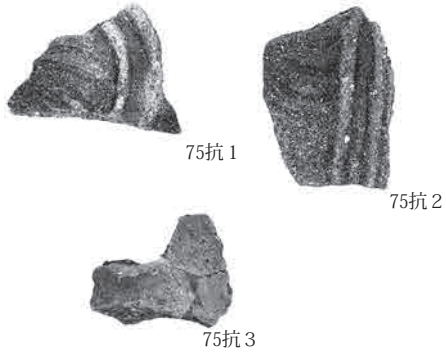
61区73号土坑



61区74号土坑



61区75号土坑



61区76号土坑



61区77号土坑



61区79号土坑



61区81号土坑



61区82号土坑



61区83号土坑



61区84号土坑



61区85号土坑



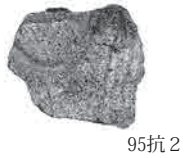
61区87号土坑



61区92号土坑



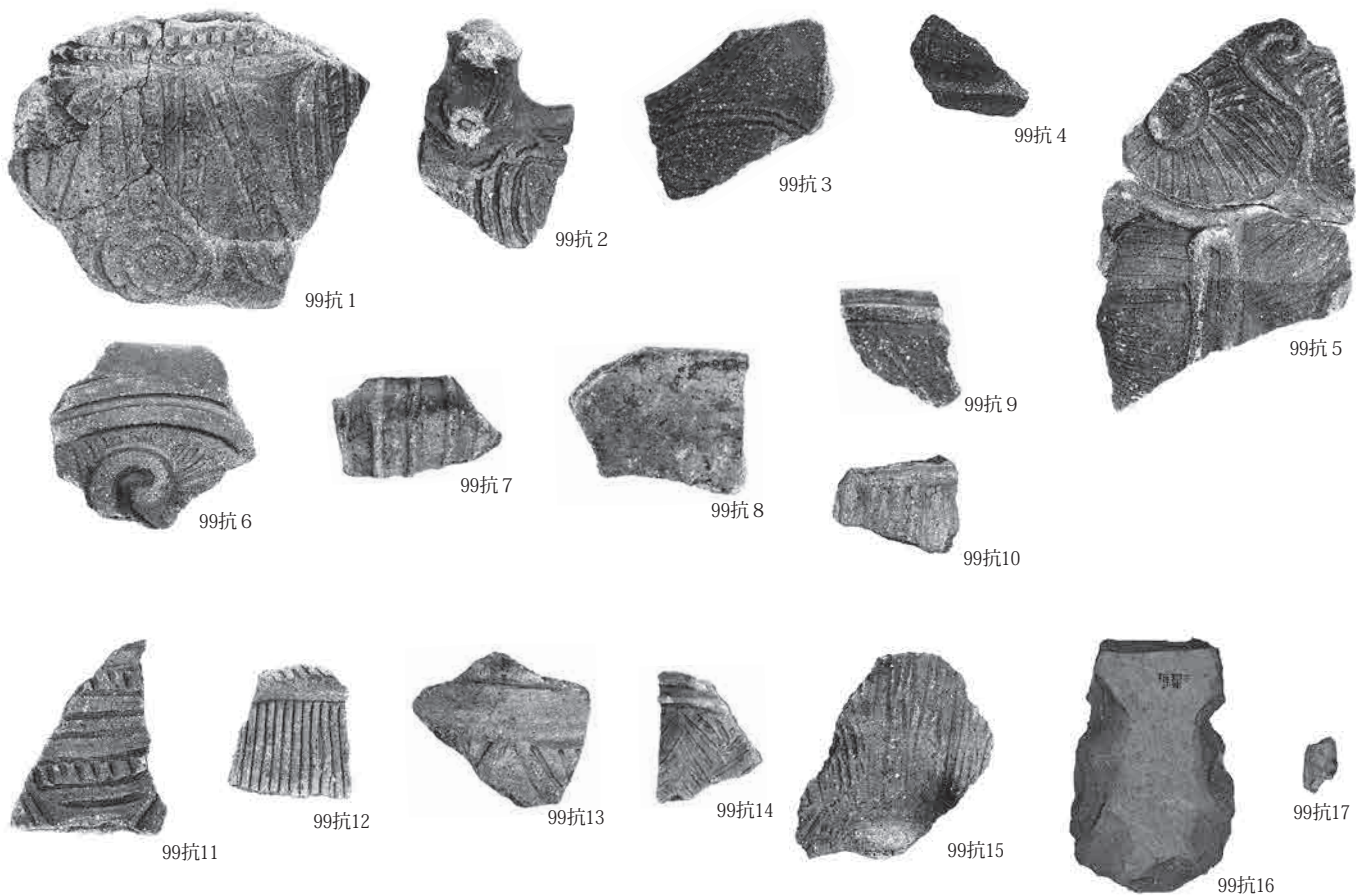
61区95号土坑



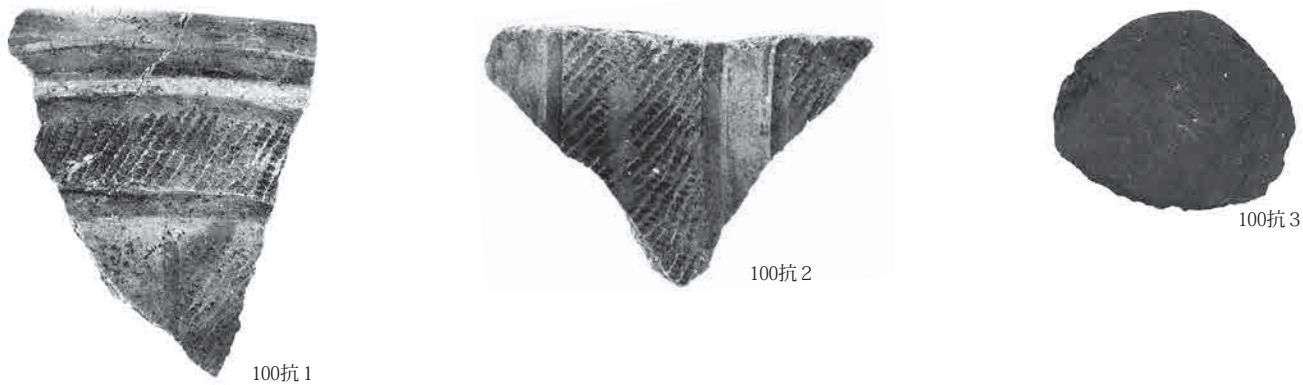
61区96号土坑



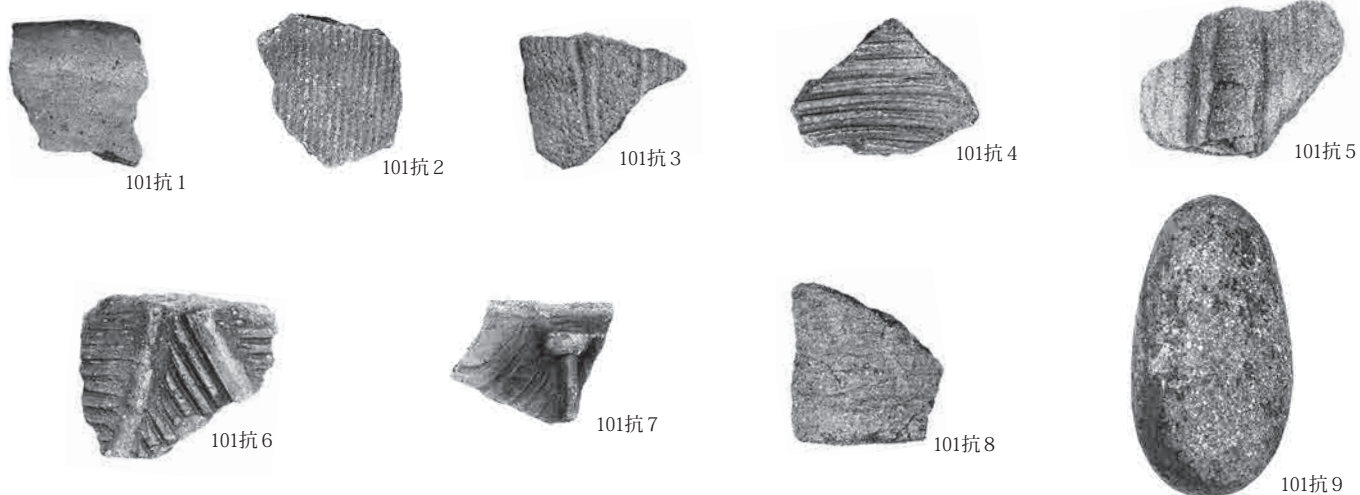
61区99号土坑



61区100号土坑

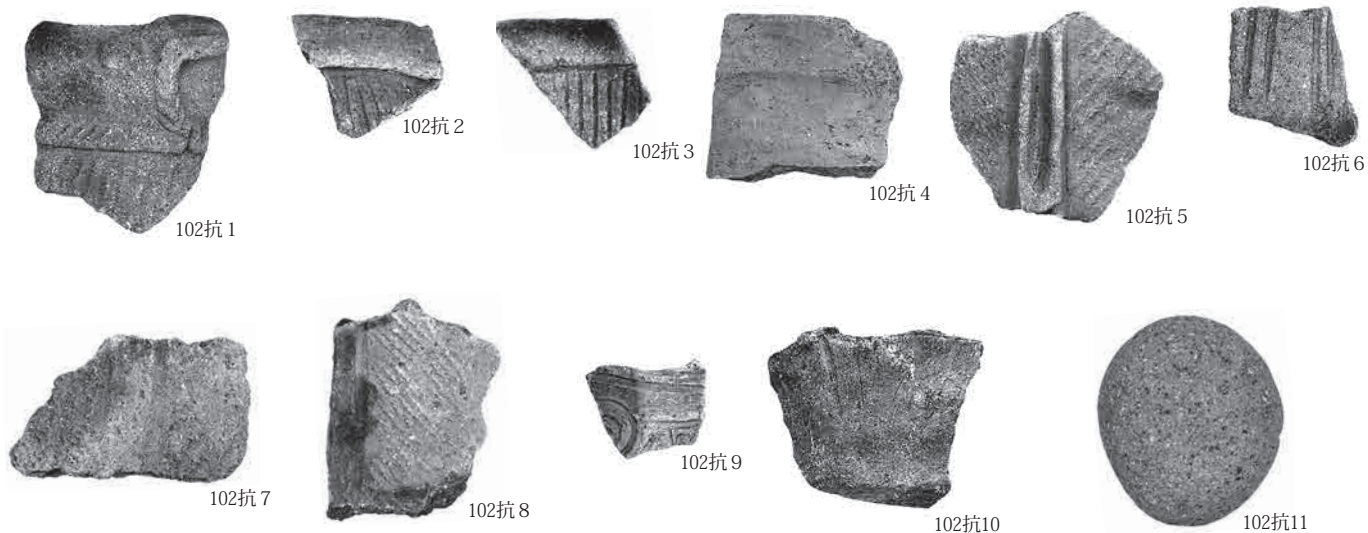


61区101号土坑

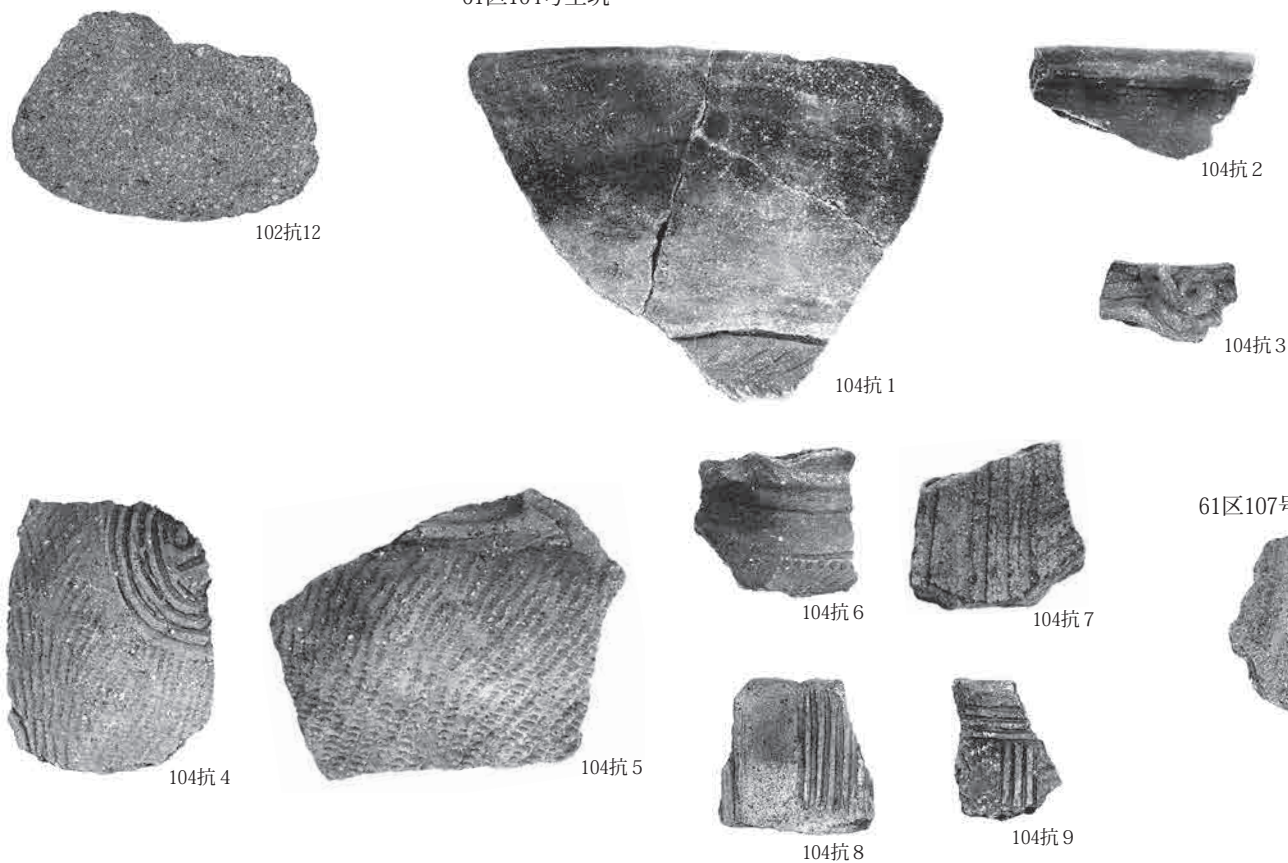


PL.134

61区102号土坑



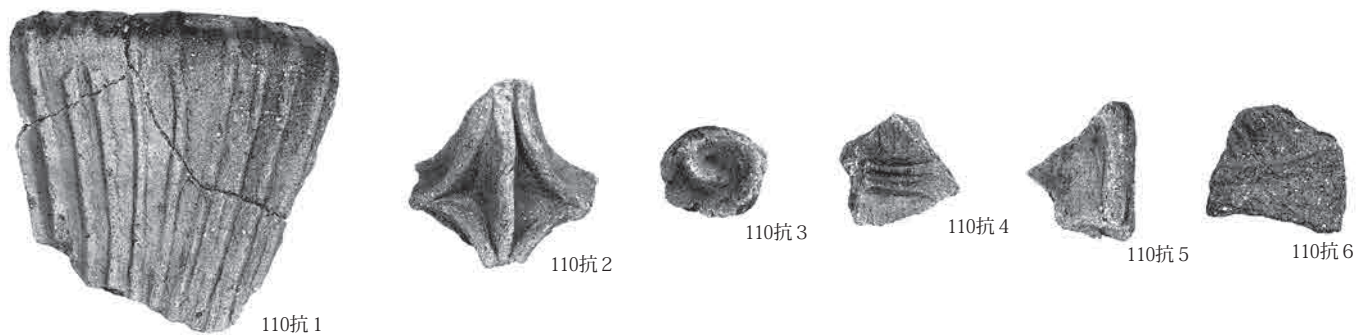
61区104号土坑



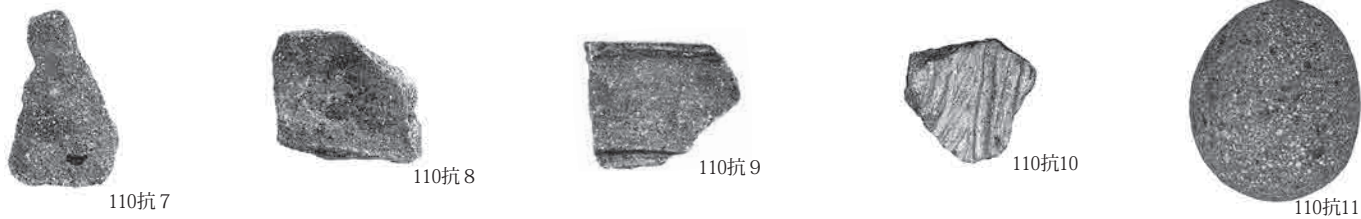
61区107号土坑



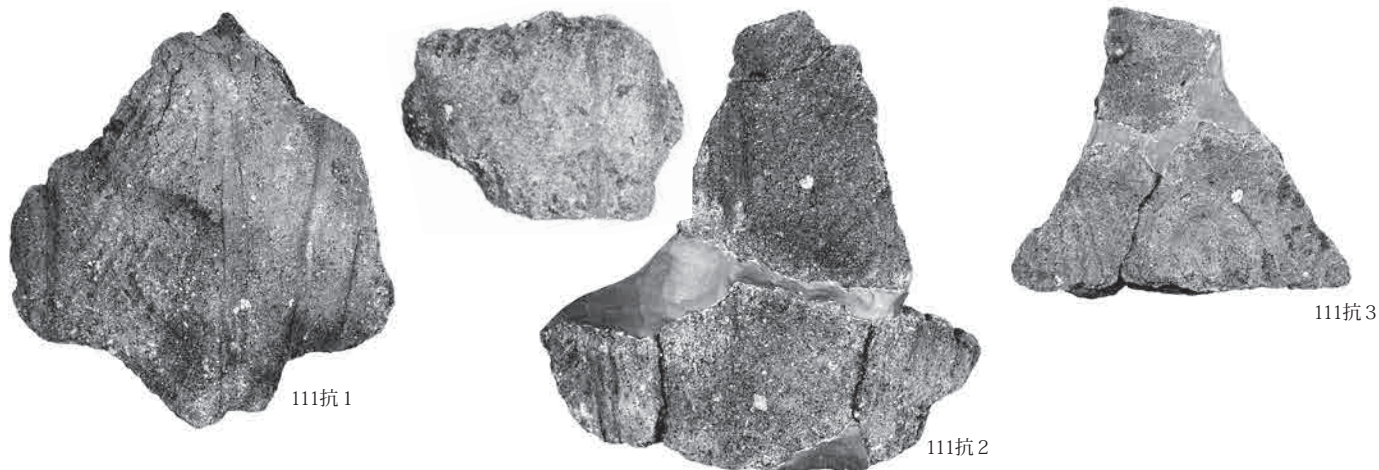
61区110号土坑



61区110号土坑



61区111号土坑



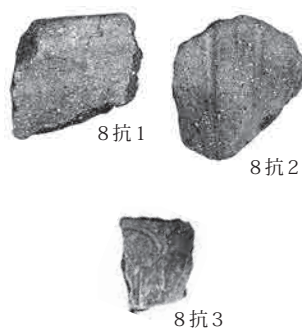
61区112号土坑



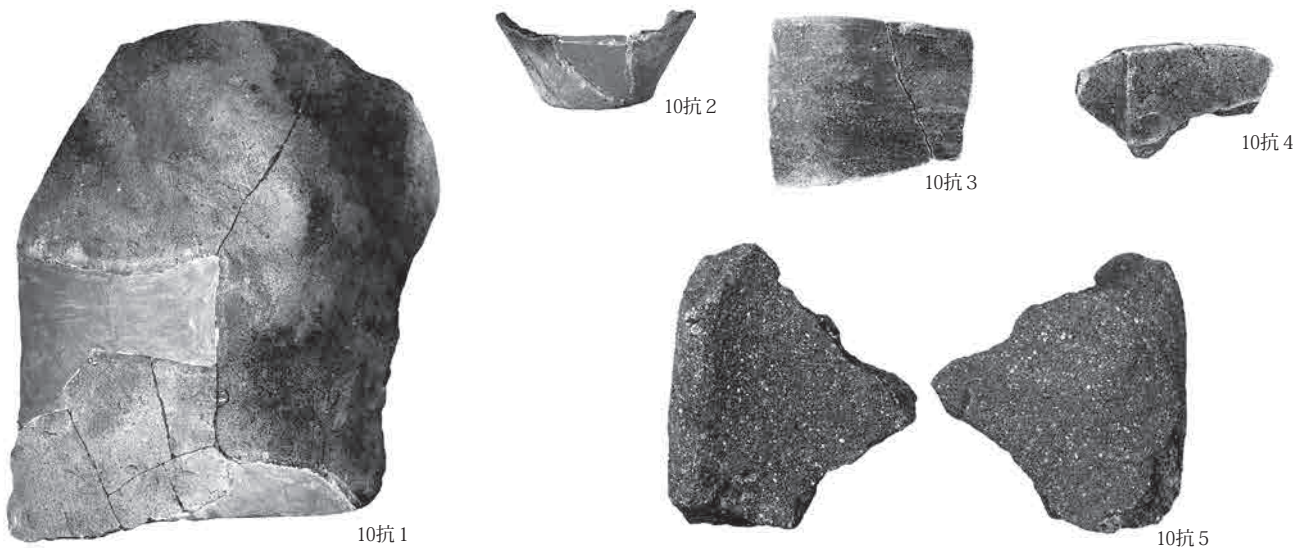
62区5号土坑



62区8号土坑



62区10号土坑

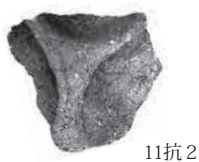


PL.136

62区11号土坑

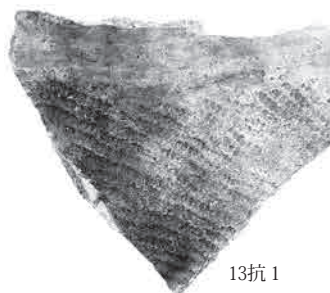


11坑1

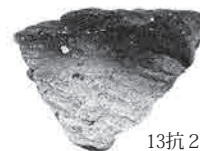


11坑2

62区13号土坑



13坑1



13坑2

62区14号土坑



14坑1



14坑2



14坑3



14坑4

62区16号土坑



16坑1



16坑2



16坑3

62区17号土坑



17坑1



17坑2



17坑3



17坑4



17坑5

62区18号土坑



18坑1



18坑2



17坑6



17坑7



17坑8

62区20号土坑



20坑1

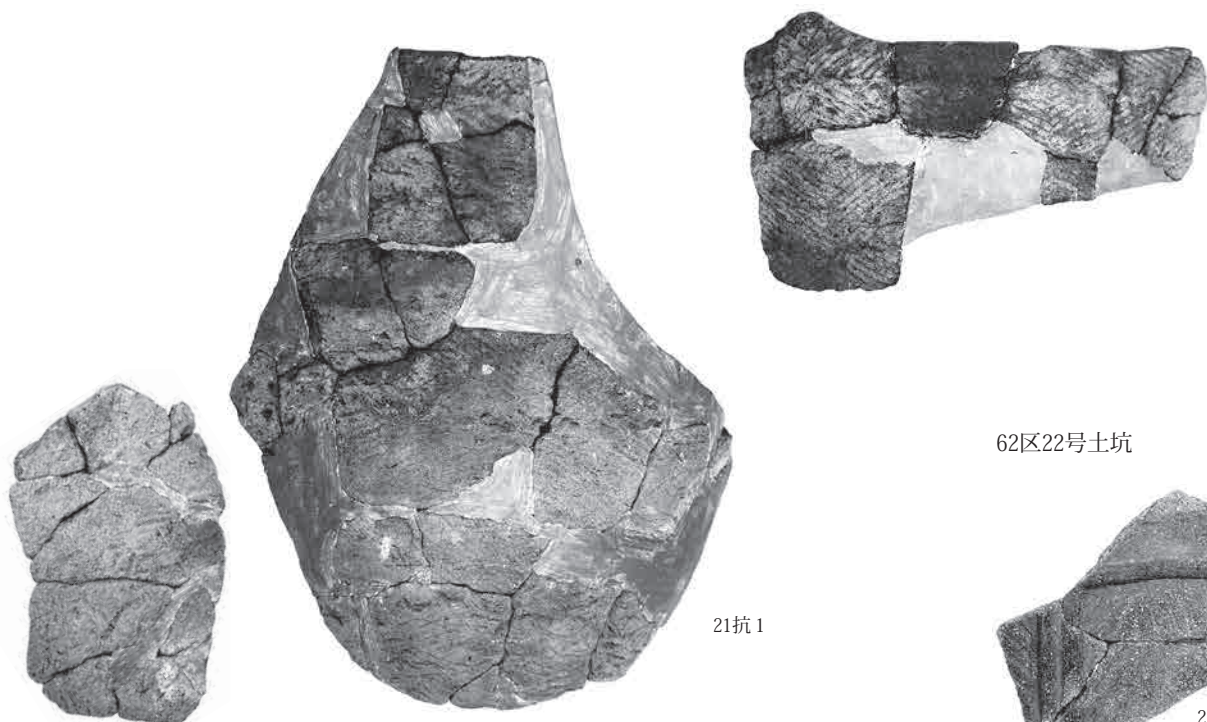


20坑2

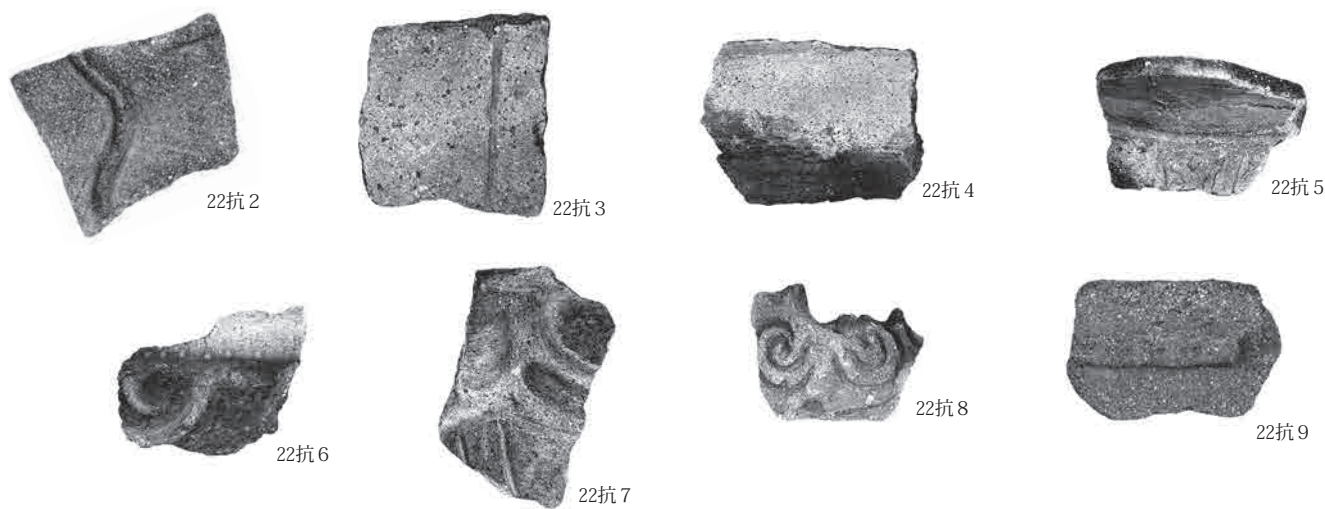


20坑3

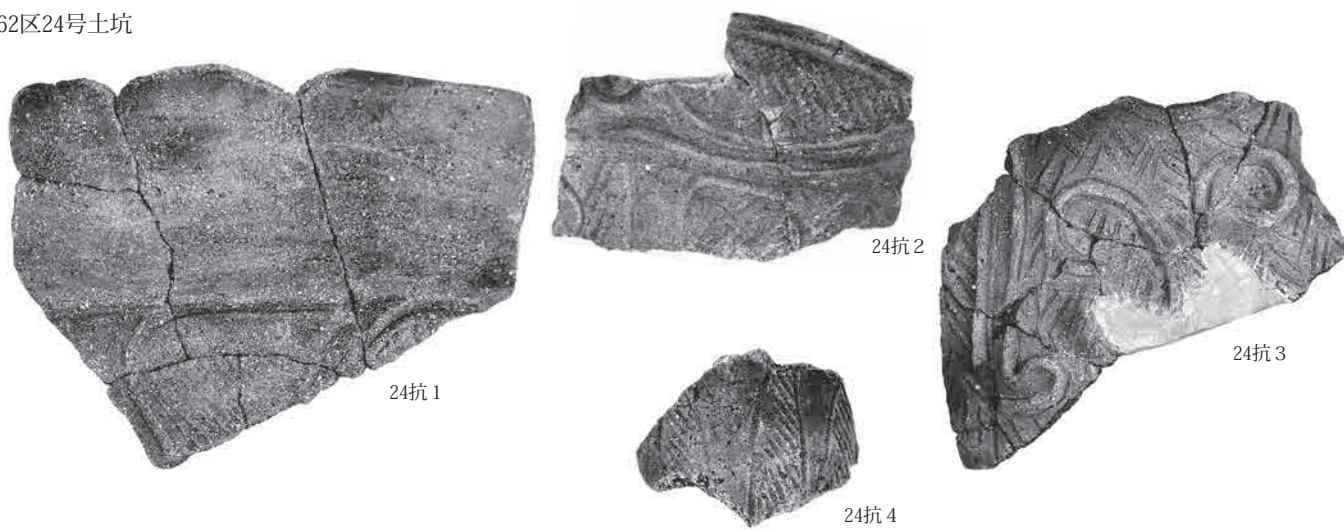
62区21号土坑



62区22号土坑

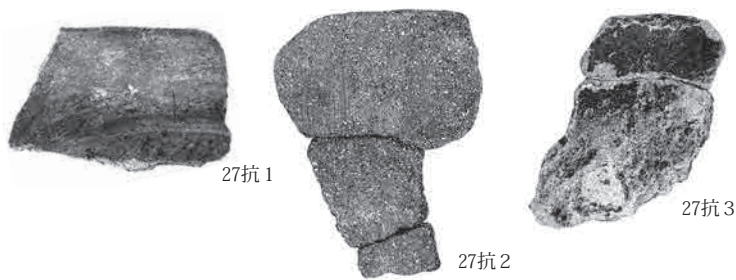


62区24号土坑



PL.138

62区27号土坑



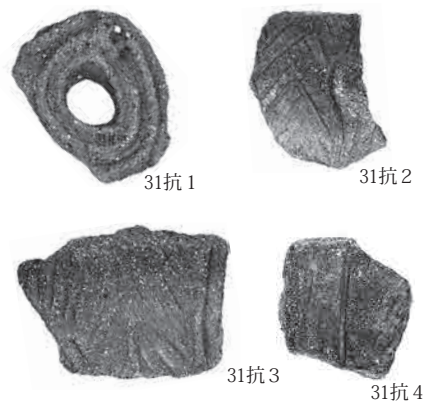
62区29号土坑



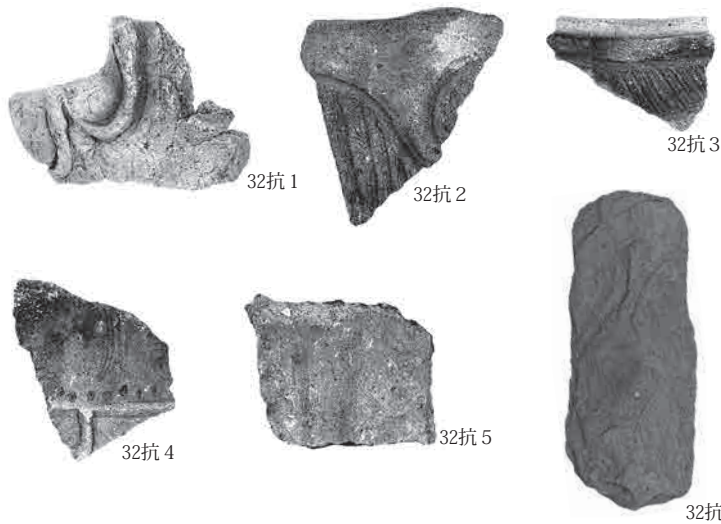
62区30号土坑



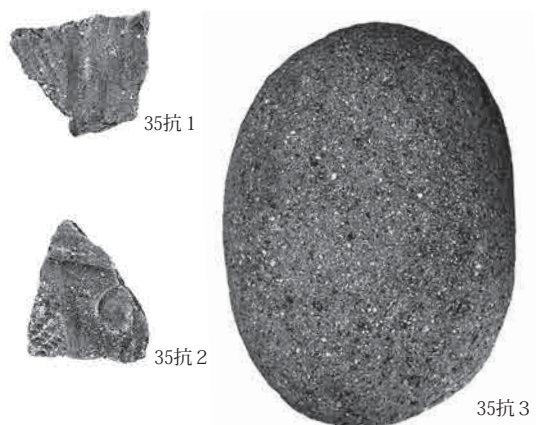
62区31号土坑



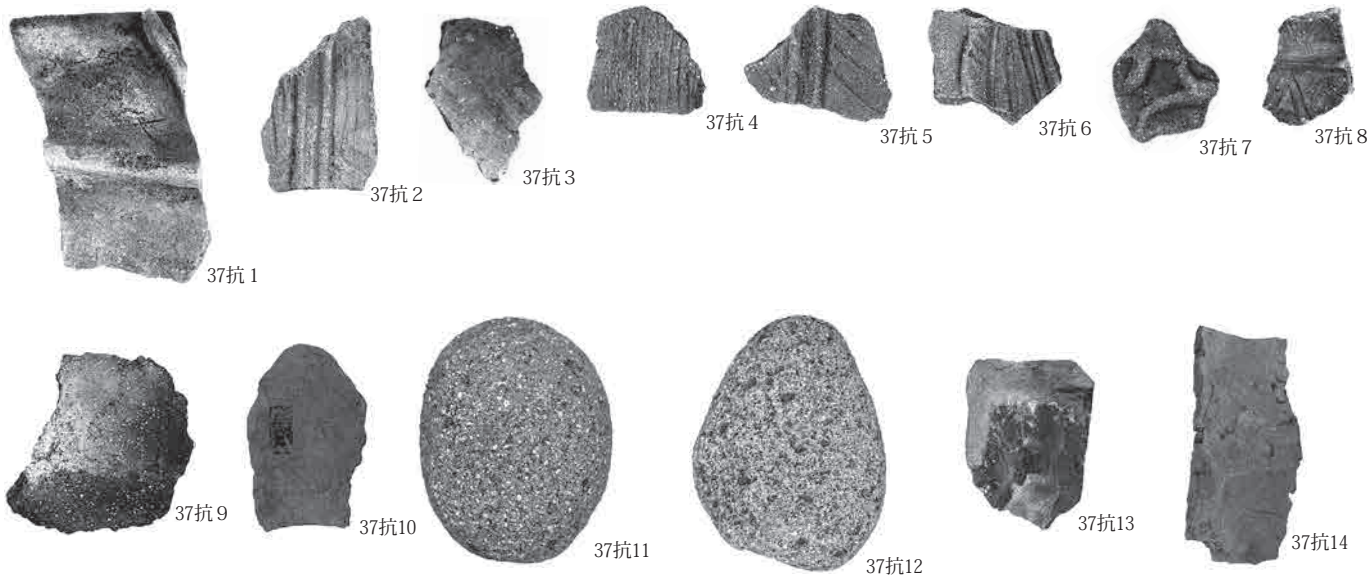
62区32号土坑



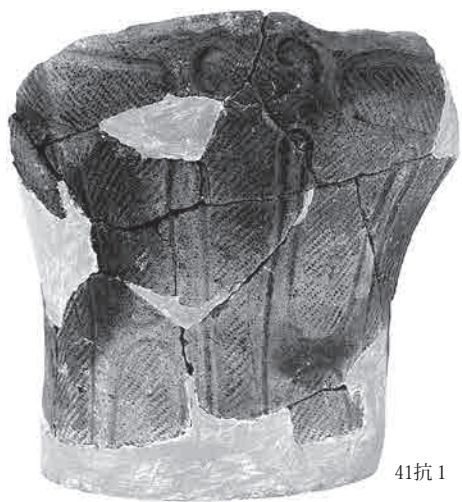
62区35号土坑



62区37号土坑



62区41号土坑



41抗1



41抗2



41抗3



41抗4

62区42号土坑



42抗3



42抗1

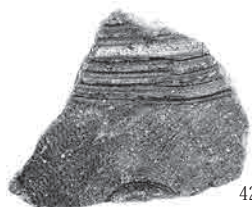


42抗2



42抗4

62区44号土坑



42抗5



42抗6



42抗7



44抗1

61区3号竖穴状遺構



3竖1



3竖2



3竖3



3竖4



3竖5



3竖6



3竖7



3竖8



3竖9



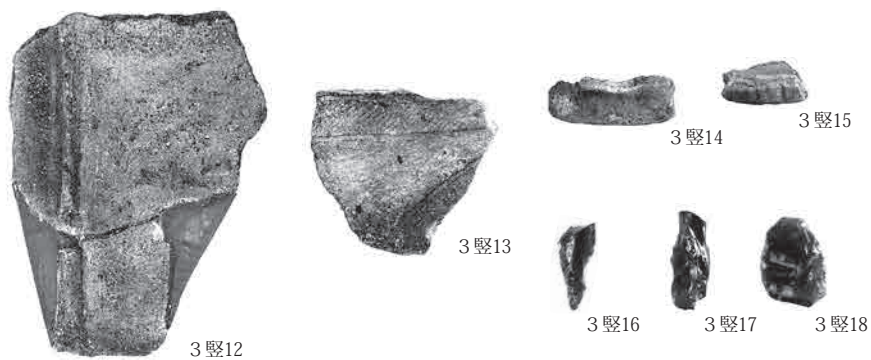
3竖10



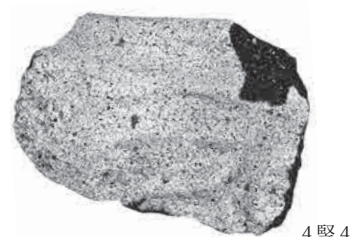
3竖11

PL.140

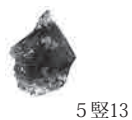
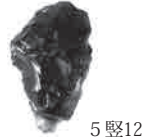
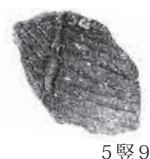
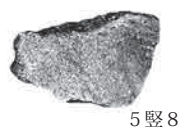
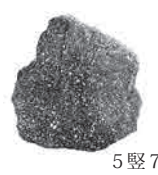
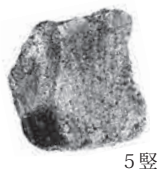
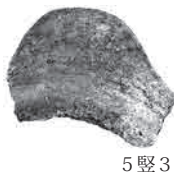
61区 3号竖穴状遺構



61区 4号竖穴状遺構



61区 5号竖穴状遺構



61区 3~5号竖穴状遺構出土遺物

61区 1号埋設土器



1埋1



1埋2



1埋3

61区 2号埋設土器



2埋1



2埋2



2埋3



2埋4



2埋5



2埋6

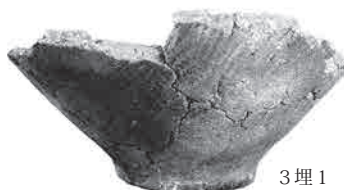


2埋7



2埋8

61区 3号埋設土器



3埋1

61区 1~3号埋設土器出土遺物

PL.142

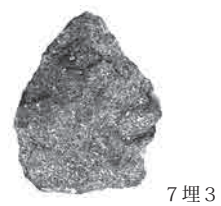
61区 4号埋設土器



61区6号埋設土器

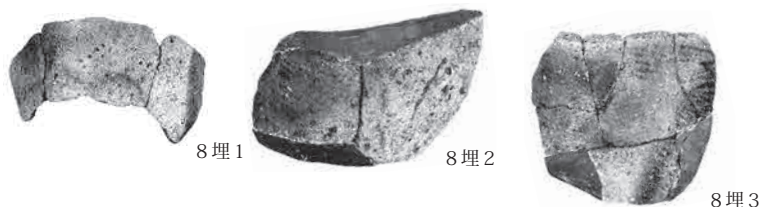


61区7号埋設土器



PL.144

61区 8号埋設土器



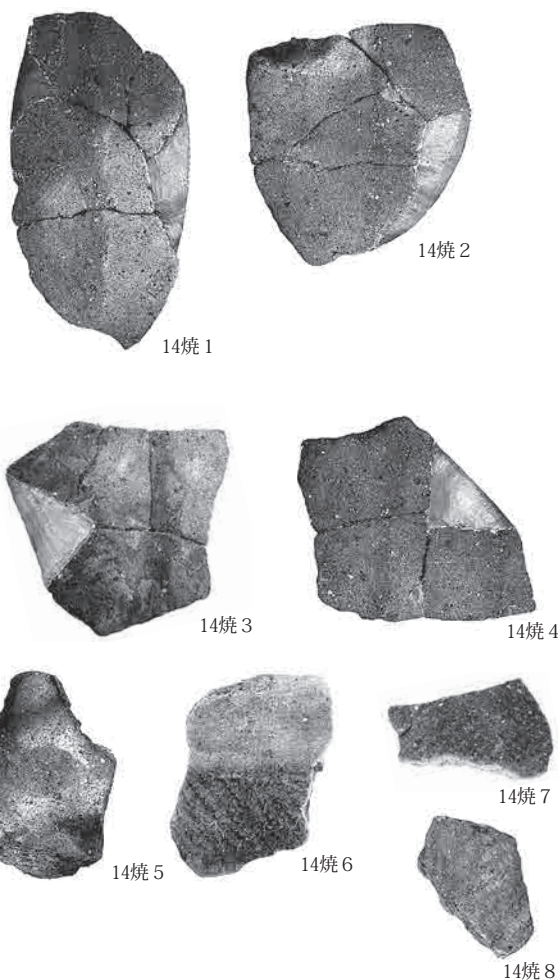
62区 1号埋設土器



62区 2号埋設土器



61区 14号焼土



61区 15号焼土



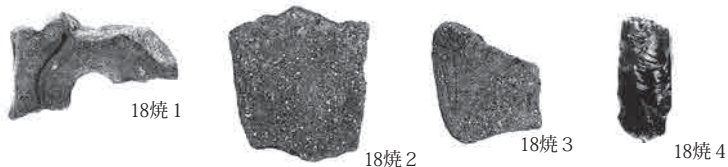
61区 16号焼土



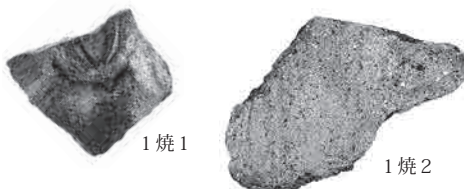
61区 17号焼土



61区18号烧土



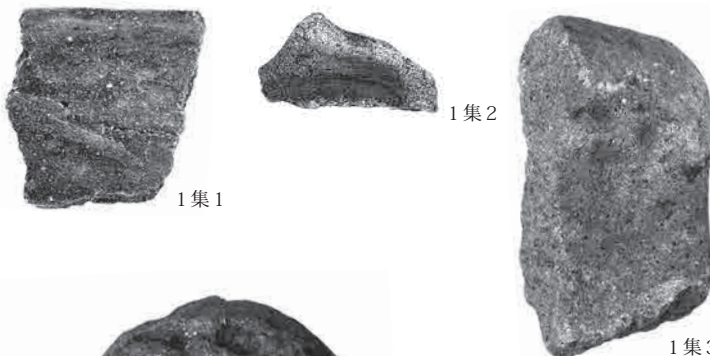
62区1号烧土



62区2号烧土



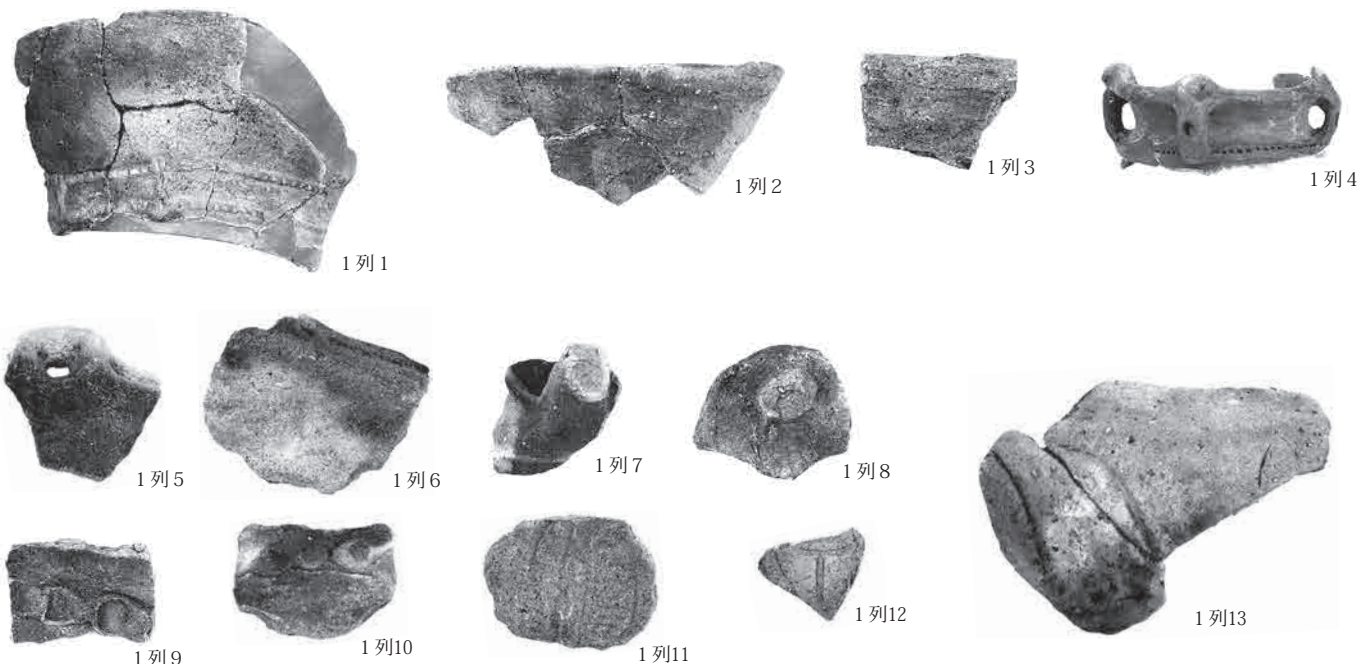
62区1号集石



62区2号集石

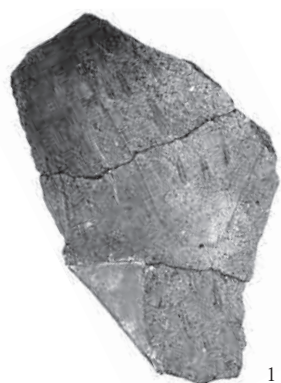


1号列石



PL.146

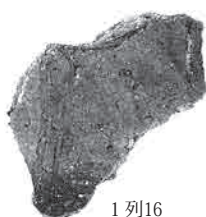
1 号列石



1 列14



1 列15



1 列16



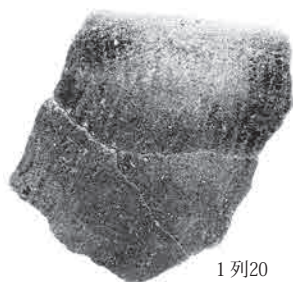
1 列19



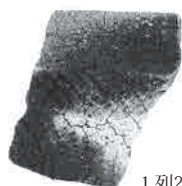
1 列17



1 列18



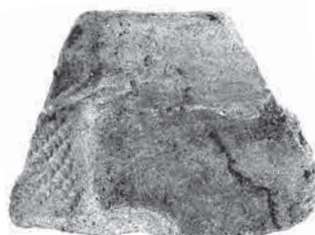
1 列20



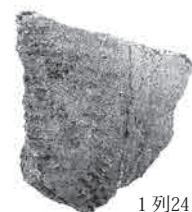
1 列21



1 列22



1 列23



1 列24



1 列25



1 列26



1 列27



1 列28



1 列29



1 列30



1 列31



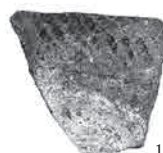
1 列32



1 列33



1 列34



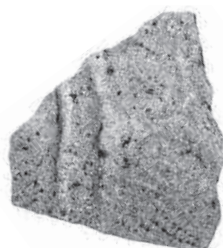
1 列35



1 列36



1 列37



1 列38



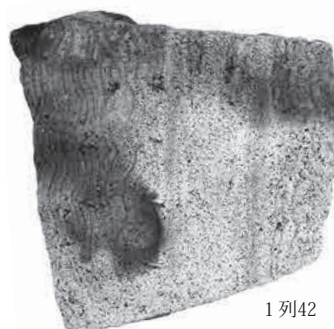
1 列39



1 列40



1 列41



1 列42



1 列43



1 列44



1 列45



1 列46

1 号列石



1 列47



1 列48



1 列49



1 列50



1 列51



1 列52



1 列53



1 列54



1 列55



1 列56



1 列57



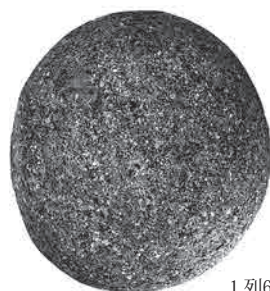
1 列58



1 列60



1 列61



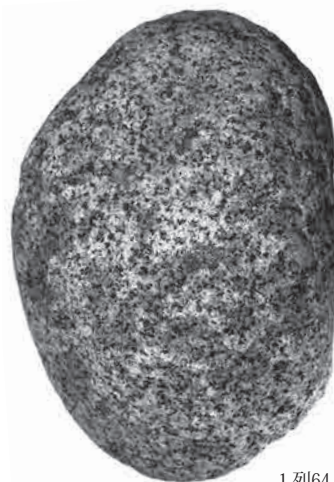
1 列62



1 列59



1 列63



1 列64



1 列65



1 列66



1 列67

PL.148

1 号列石



1 列68



1 列69



1 列70



1 列71



1 列72



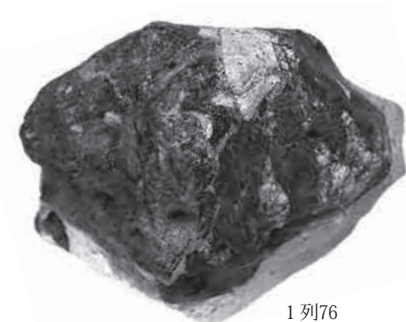
1 列73



1 列74



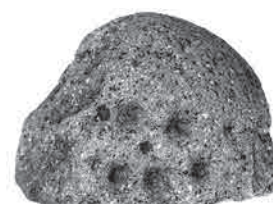
1 列75



1 列76



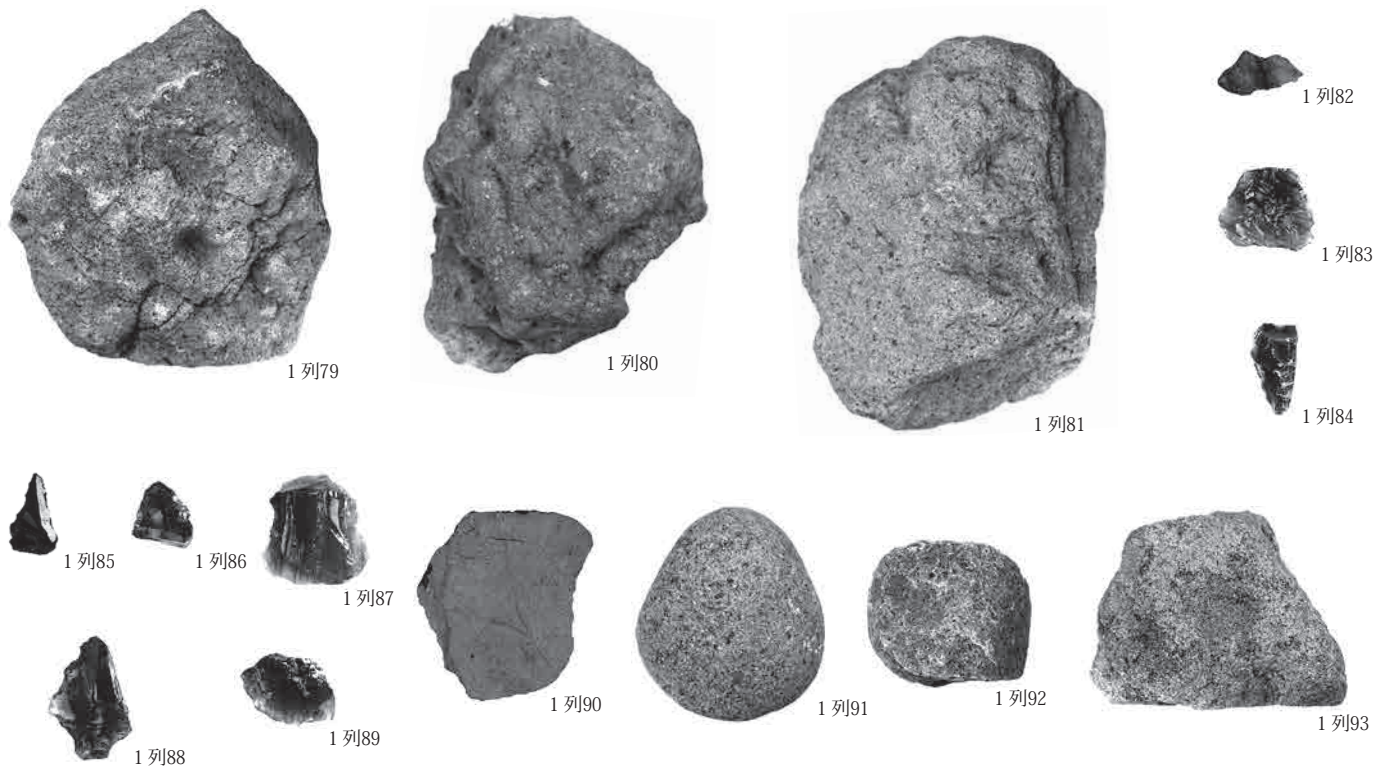
1 列77



1 列78

1 号列石出土遺物(4)

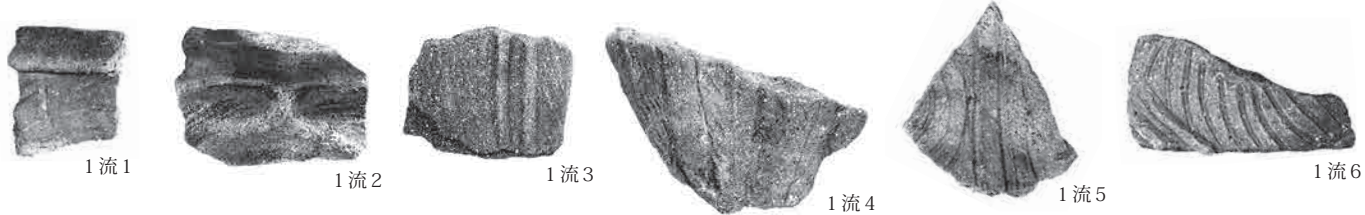
1号列石



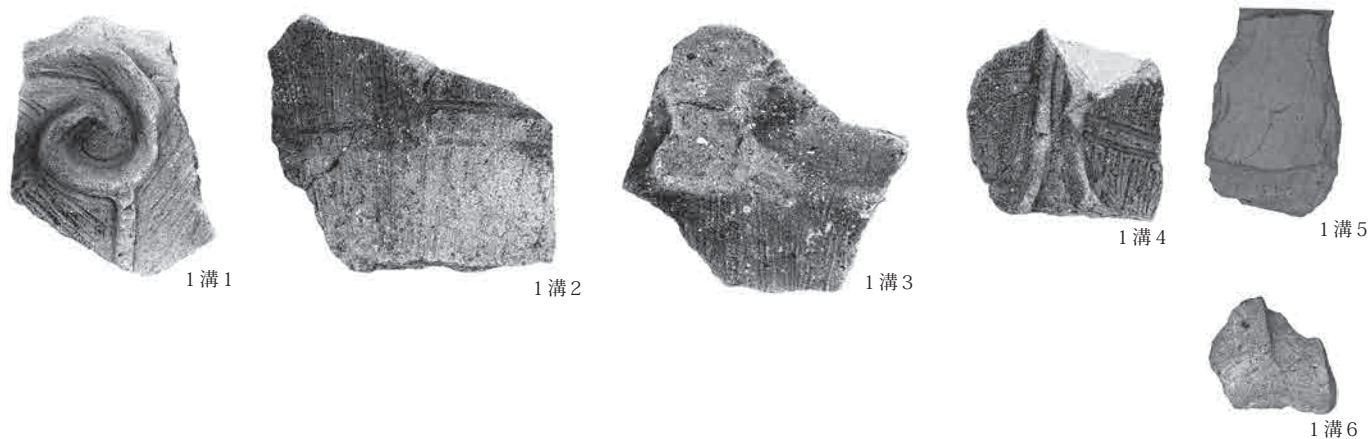
2号列石



61区1号流路

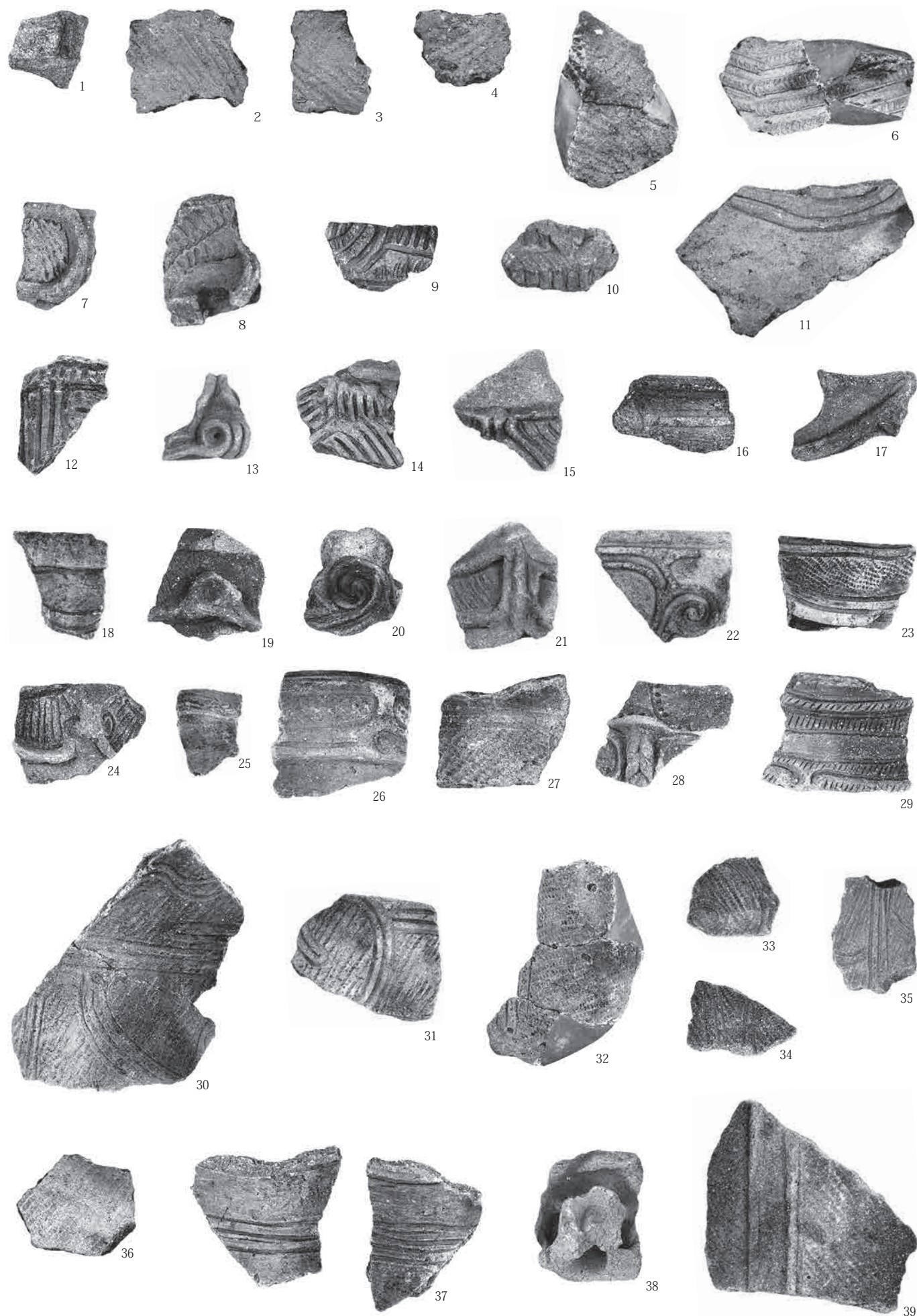


62区1号沟

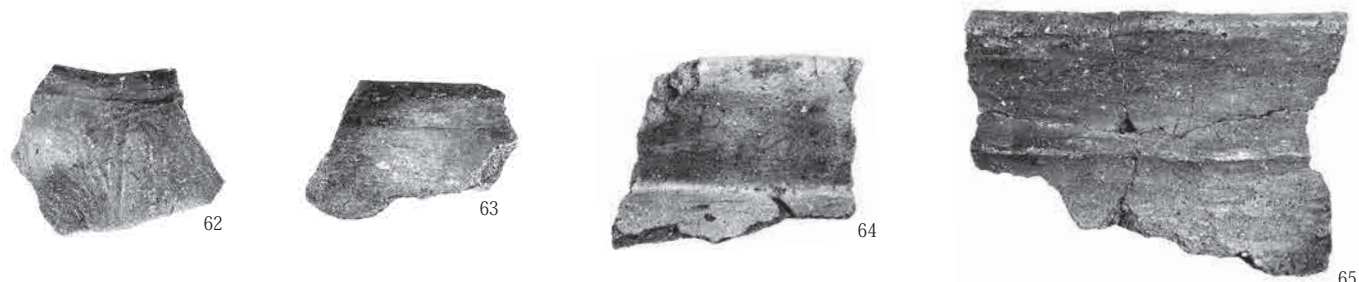
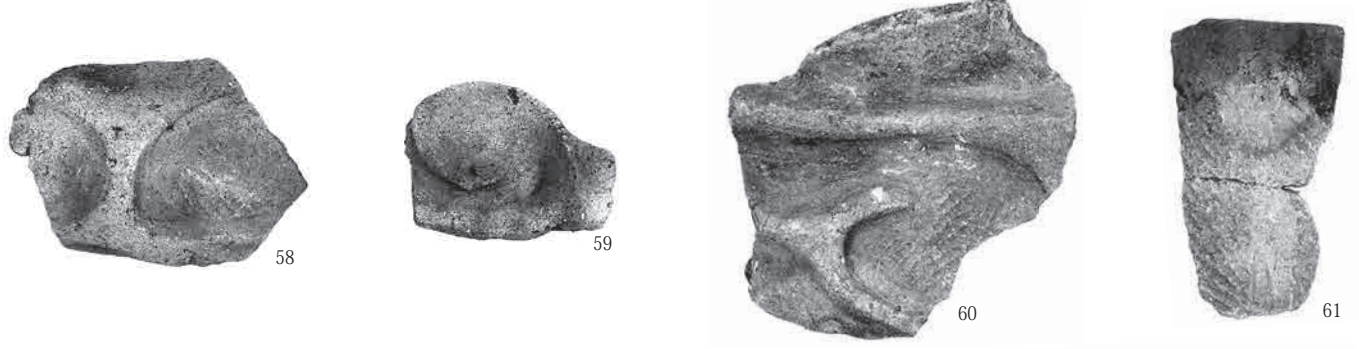
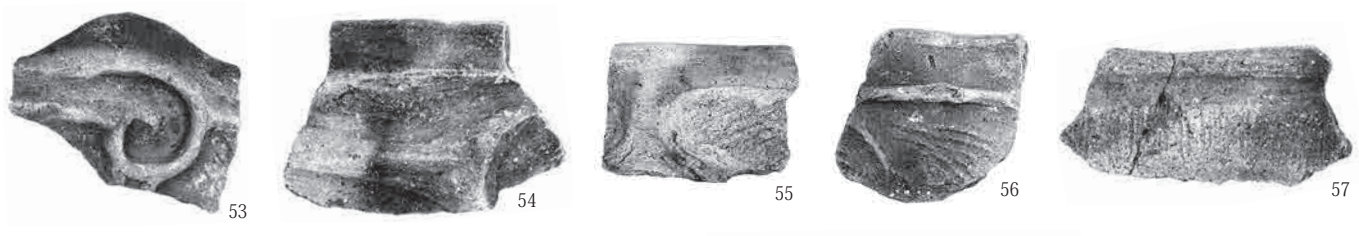
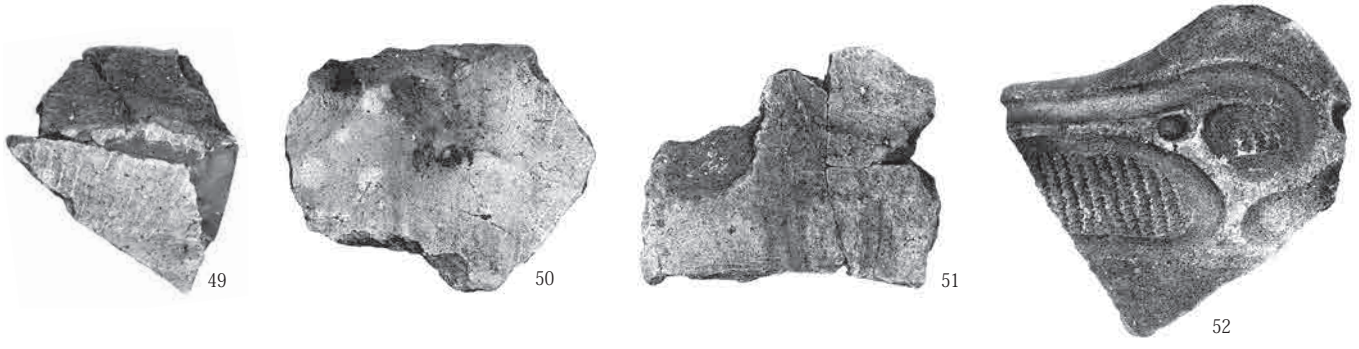
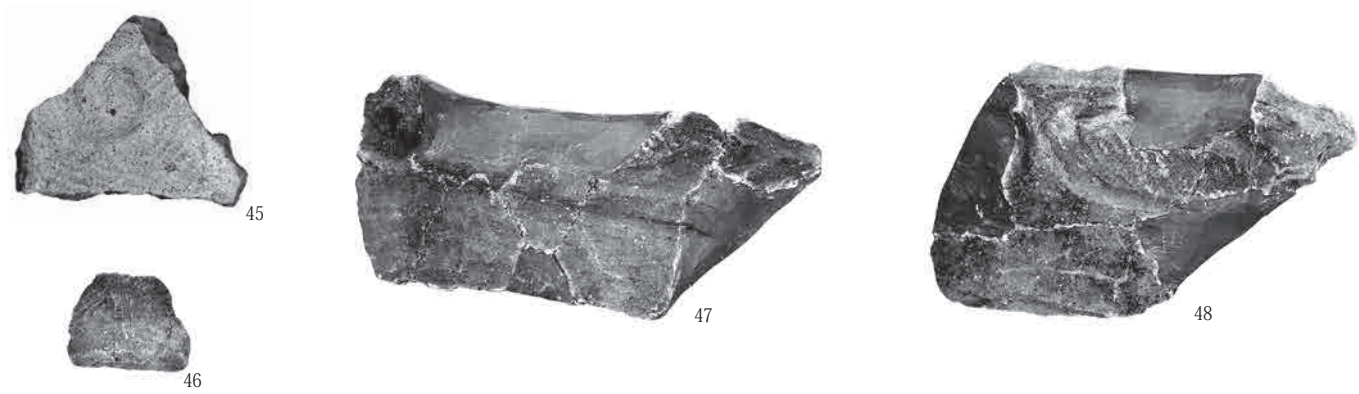
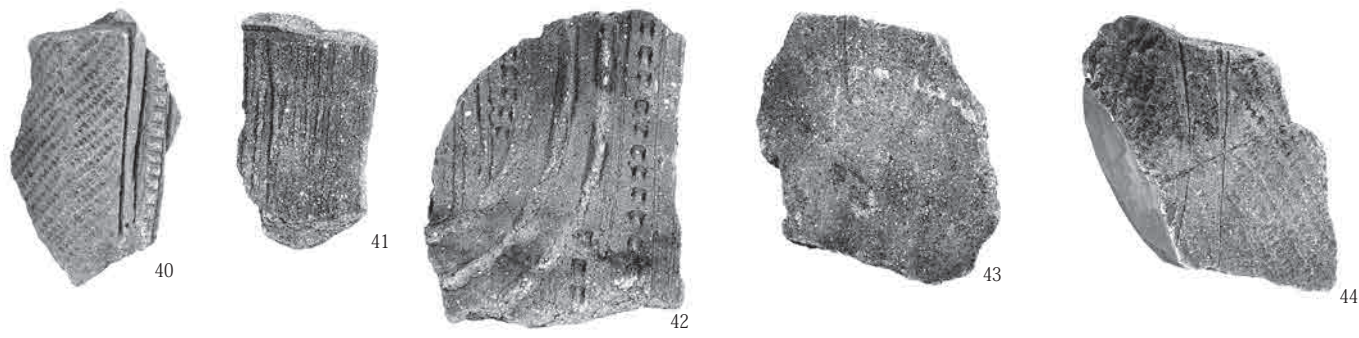


PL.150

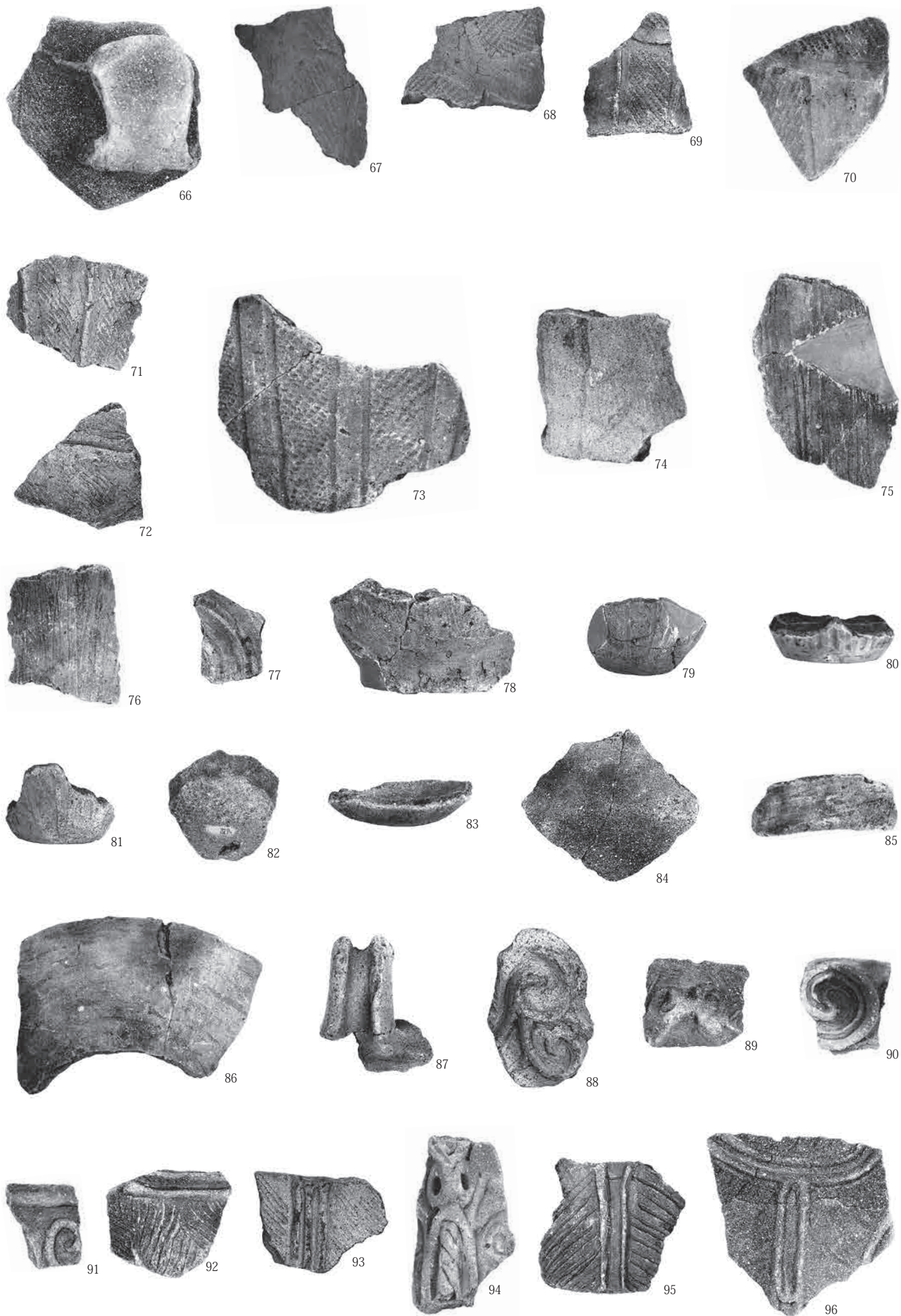
61区遺構外



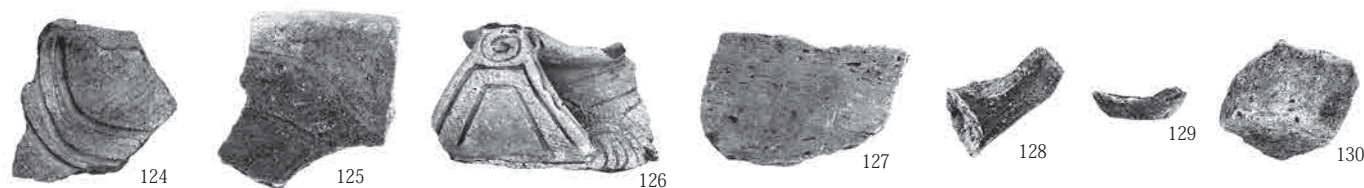
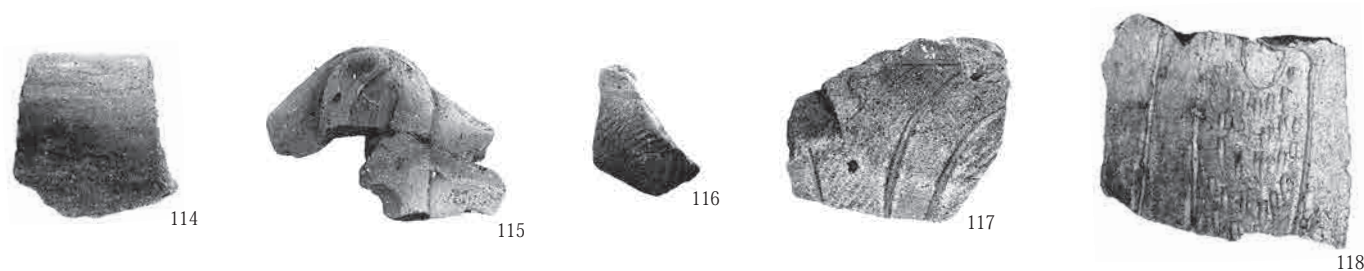
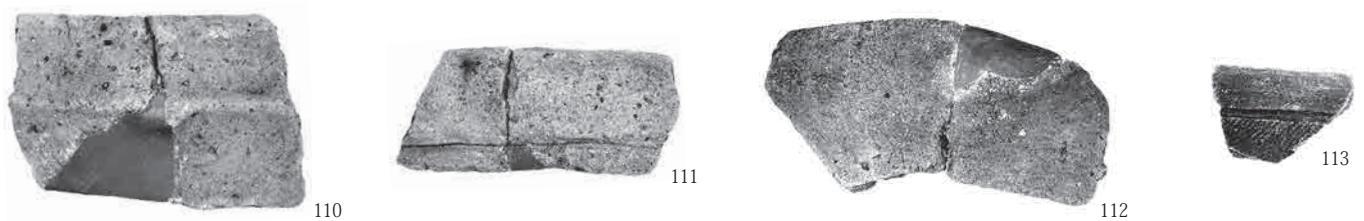
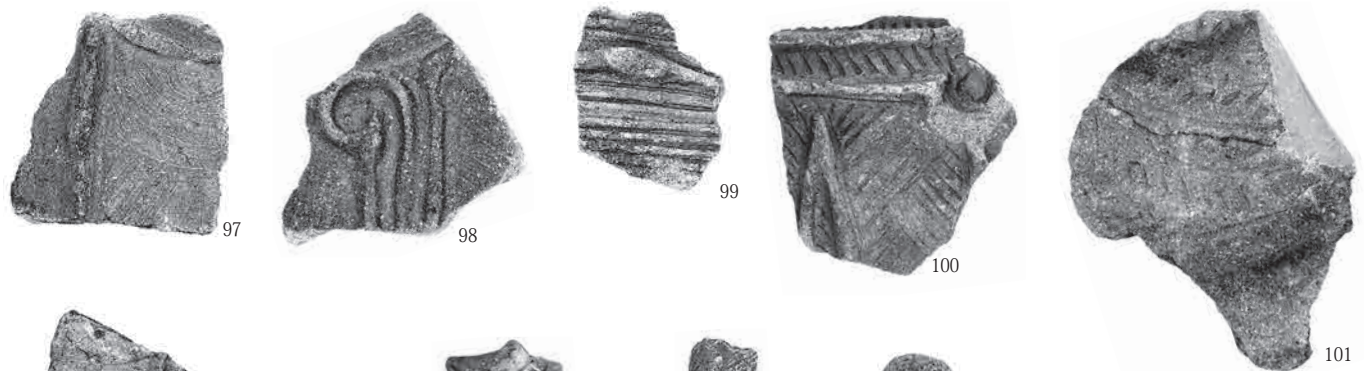
61区遺構外出土遺物(1)

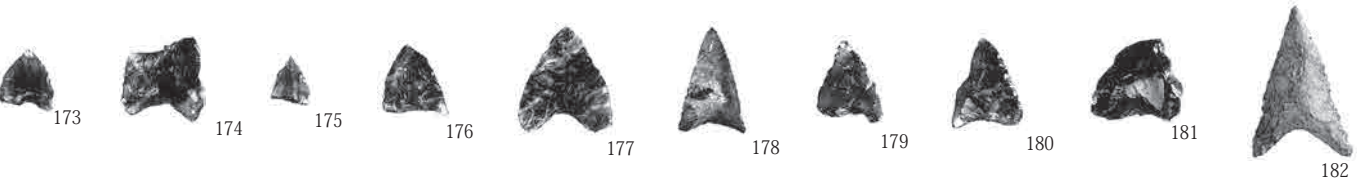
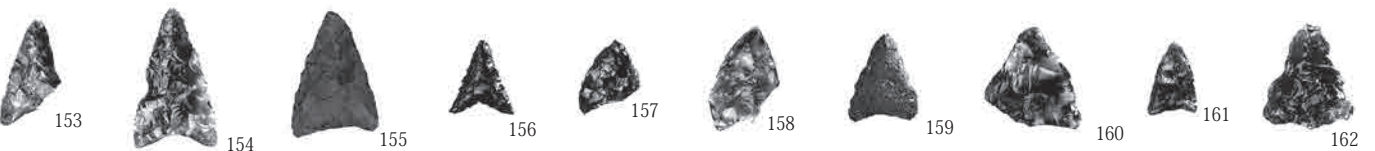
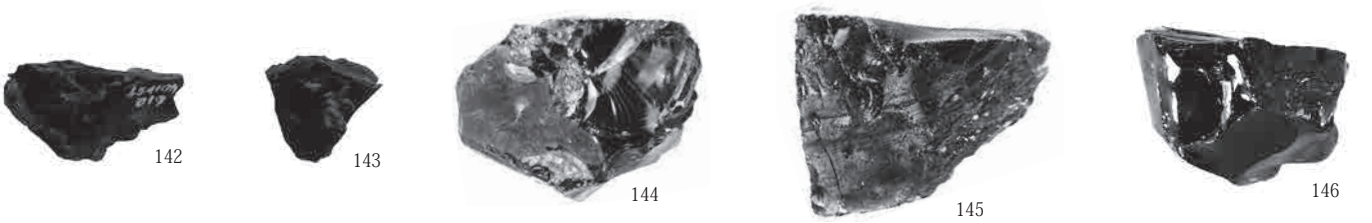
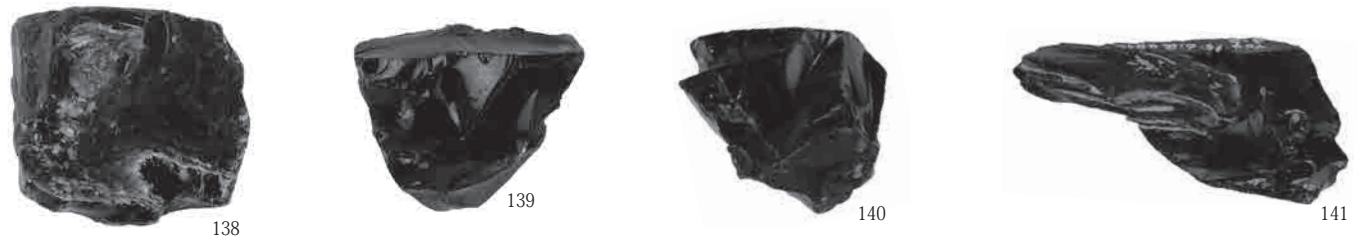
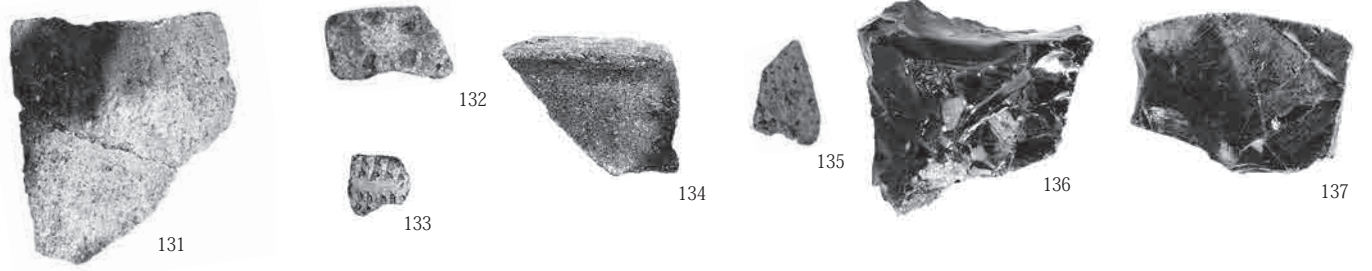


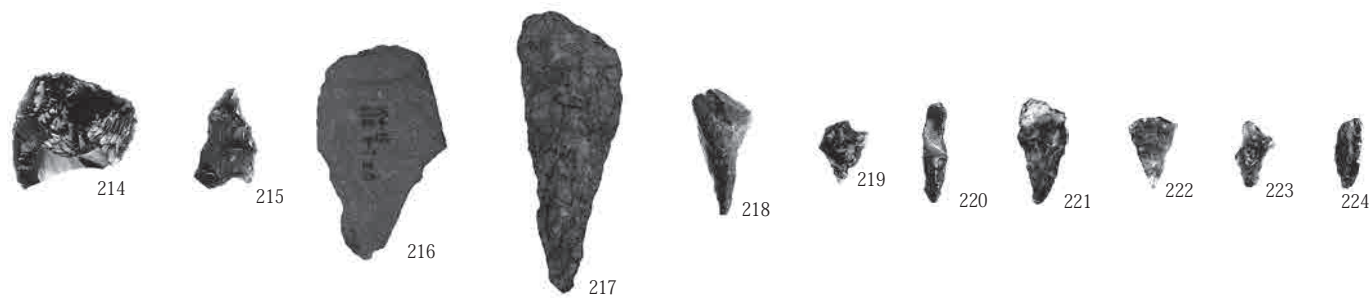
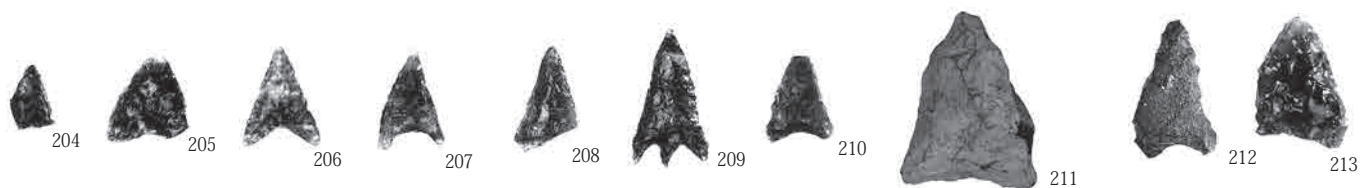
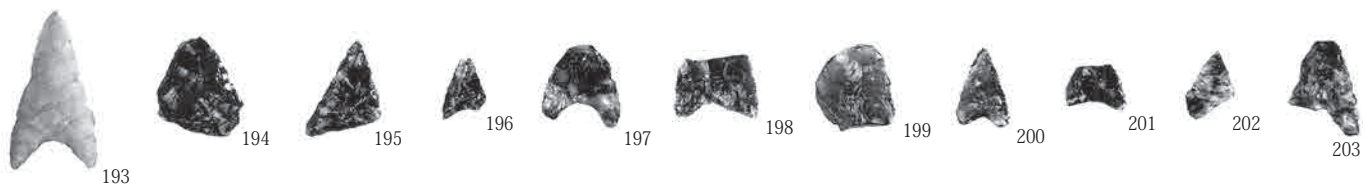
61区遺構外出土遺物(2)



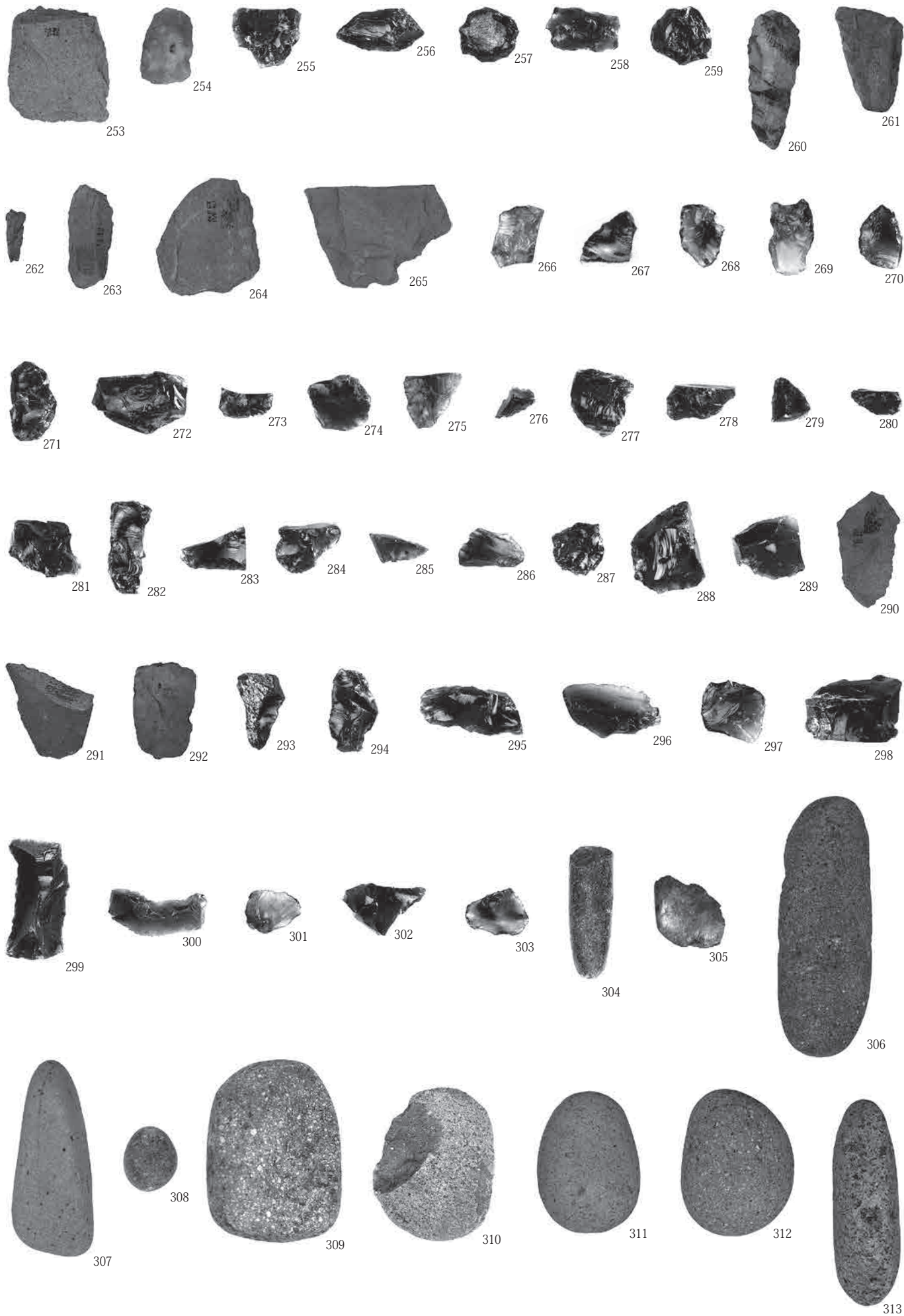
61区遺構外出土遺物(3)







PL.156



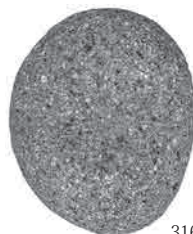
61区遺構外出土遺物(7)



314



315



316



317



318



319



320



321



322



323



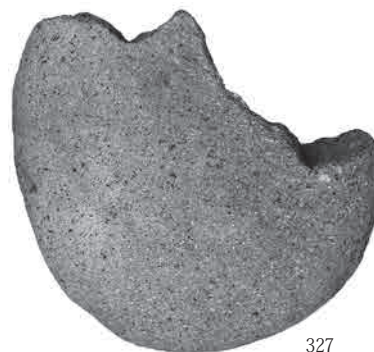
324



325



326



327

62区遺構外



1



2



3



4



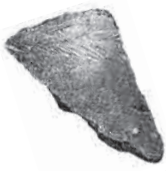
5



6



7



8



9



10



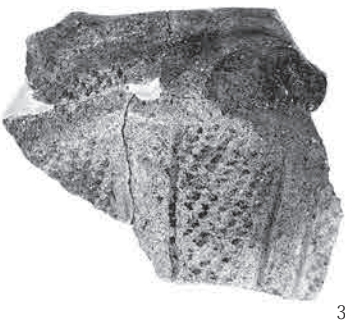
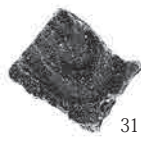
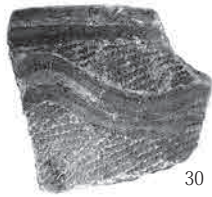
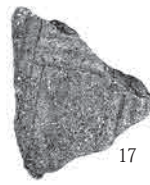
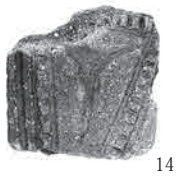
11

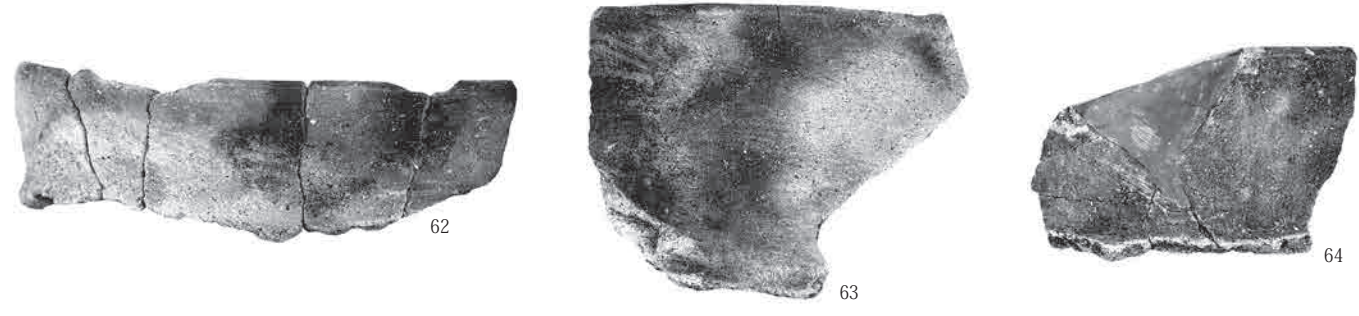
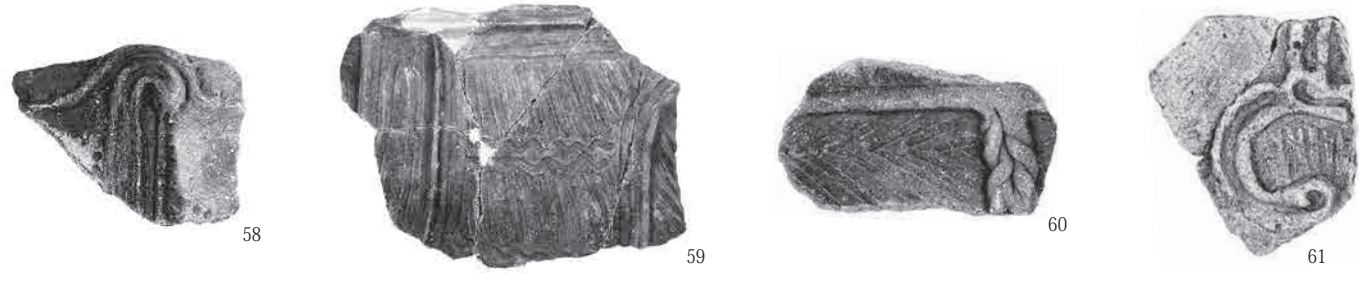
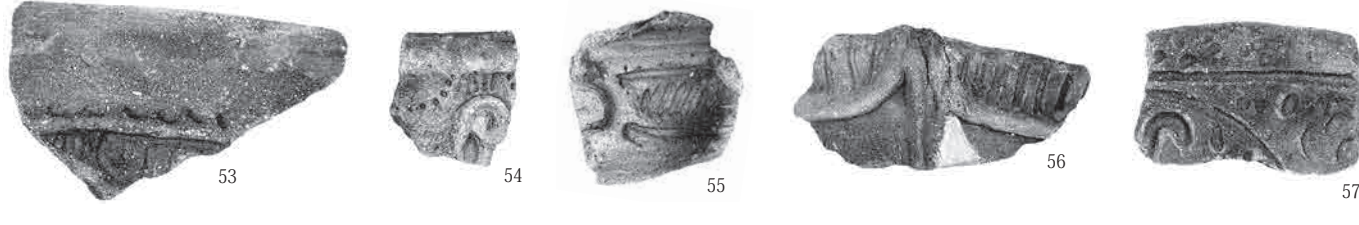
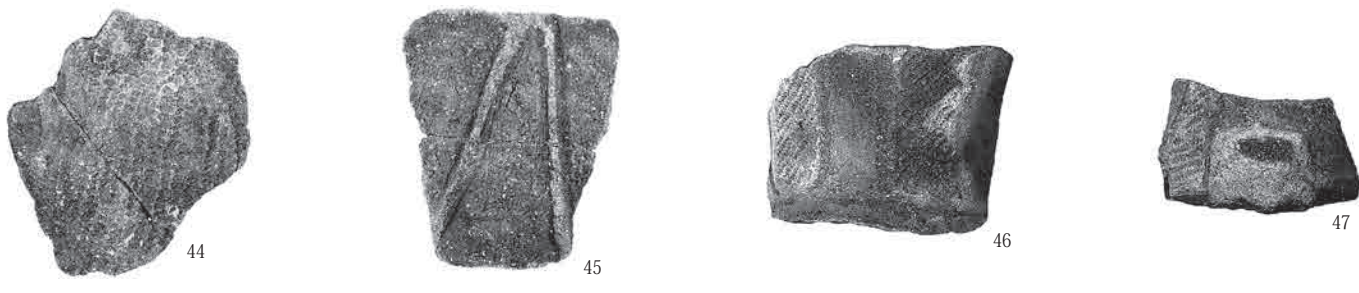
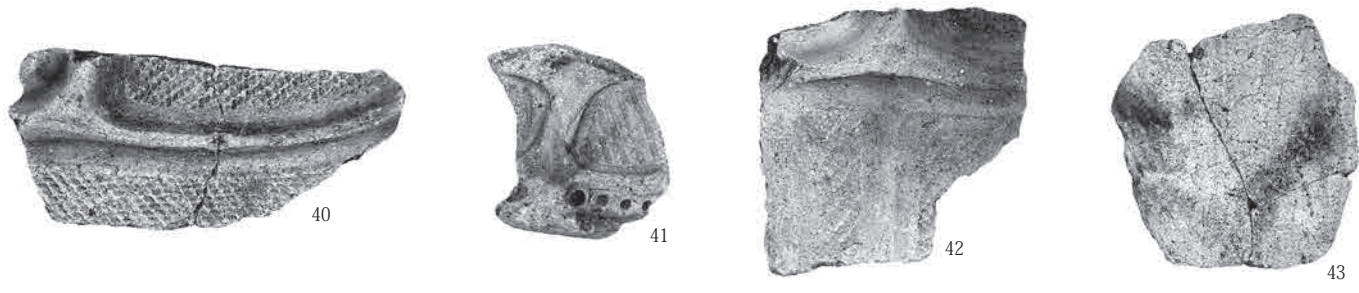


12

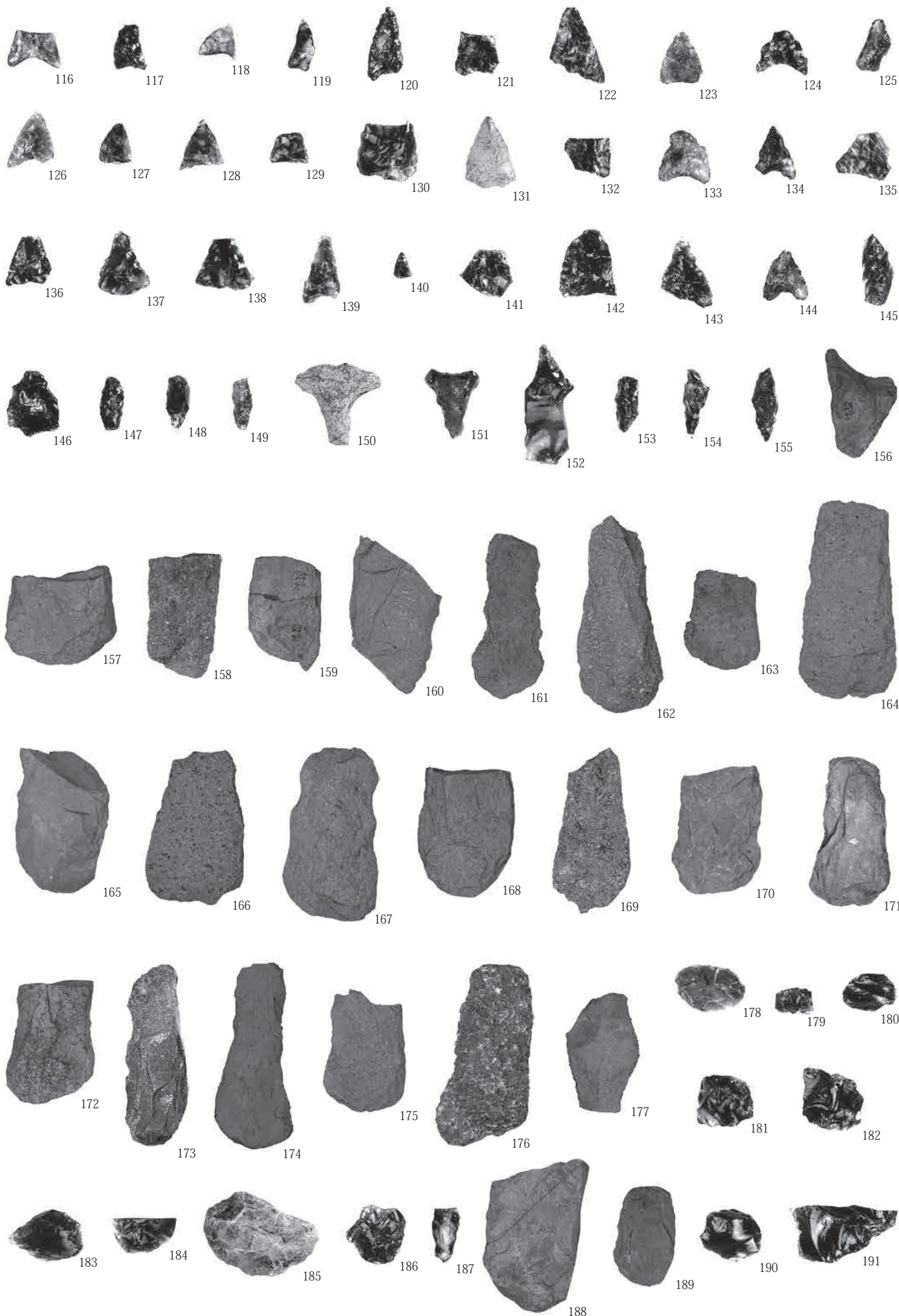


13









62区遺構外出土遺物(5)



報告書抄録

書名ふりがな	はやしなかはらにいせきかっこに
書名	林中原Ⅱ遺跡(2)
副書名	ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	60
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	643
編著者名	山口逸弘/菅頭明日香/建石徹/大工原豊/二宮修治/佐々木由香/米田恭子/バンダリ スダルシャン/榎崎修一郎
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20180315
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	はやしなかはらにいせき
遺跡名	林中原Ⅱ遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざはやしあざなかはら
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字林字中原
市町村コード	10424
遺跡番号	0046
北緯(日本測地系)	363226
東経(日本測地系)	1384053
北緯(世界測地系)	363237
東経(世界測地系)	1384042
調査期間	20081014-20081226/20090301-20091031
調査面積	8,574㎡
調査原因	ダム建設(国道/町道)
種別	集落
主な時代	縄文
遺跡概要	縄文-住居65+掘立柱建物4+土坑107+竪穴3+埋設土器9+焼土13+集石2+列石2/その他-遺構外-縄文土器+石器
特記事項	縄文時代中期～後期の大規模集落
要約	遺跡北側にあたる、町道部分で調査された縄文時代の遺構・遺物を掲載する。遺構は前期初頭の土坑1基以外は、殆どが中期中葉～後期初頭の時間幅に収まる。特に、中期後葉は竪穴住居跡と掘立柱建物跡を伴う遺構群で、大規模な集落跡となっており、先に報告した国道部分と併せると径80m以上の環状集落跡となる。中期末葉～後期初頭段階の敷石住居跡や列石遺構が設けられる。列石遺構は東西に走行を持つ35mを超える規模を呈し、敷石住居跡との接続も見られた。出土遺物も土器資料を主に豊富で、加曽利EⅡ式～加曽利EⅢ式を主体にし、「郷土式」や「唐草文系土器」などの信州系の土器群が共伴する様相を示す。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第643集

林中原Ⅱ遺跡(2)

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第60集

平成30(2018)年3月2日 印刷

平成30(2018)年3月15日 発行

編集・発行/公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/杉浦印刷株式会社
